

山中遺跡

県営経営体育城基盤整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書



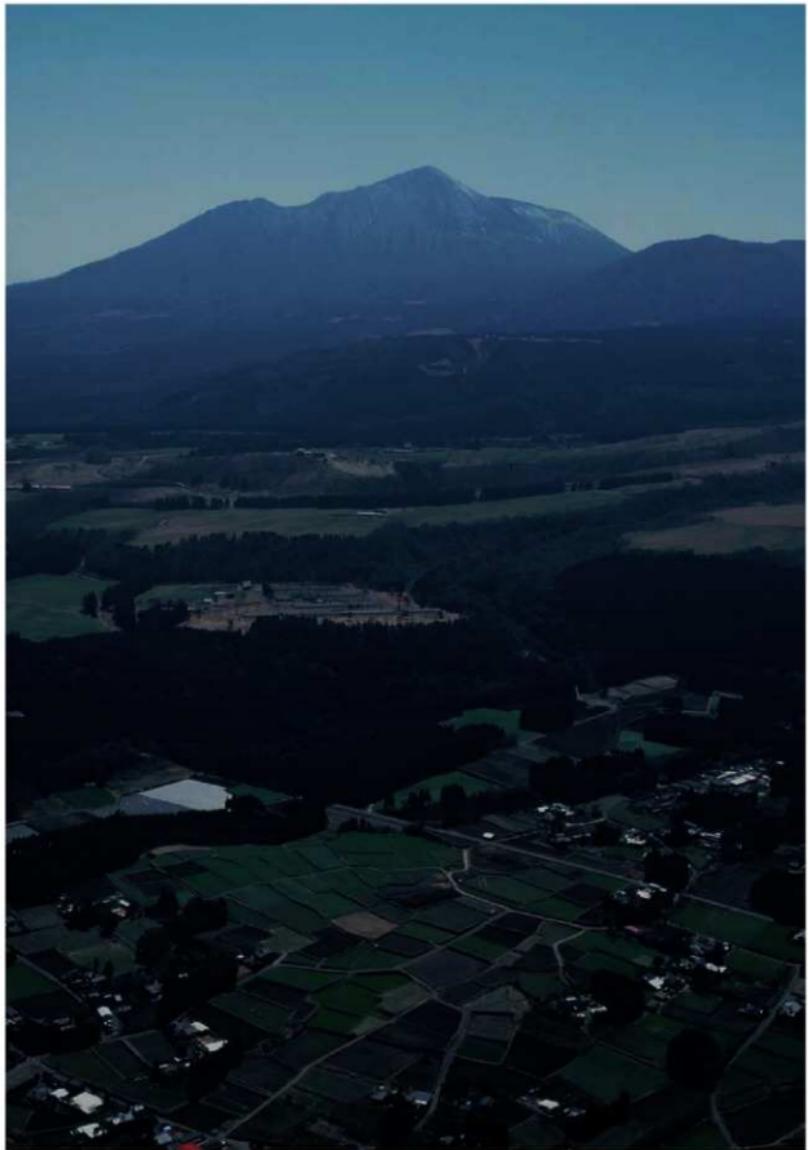
平成 22 (2010) 年 3 月
宮崎県小林市教育委員会

山 中 遺 跡

県営経営体育城基盤整備事業に伴う埋蔵文化財調査

平成22（2010）年3月

宮崎県小林市教育委員会

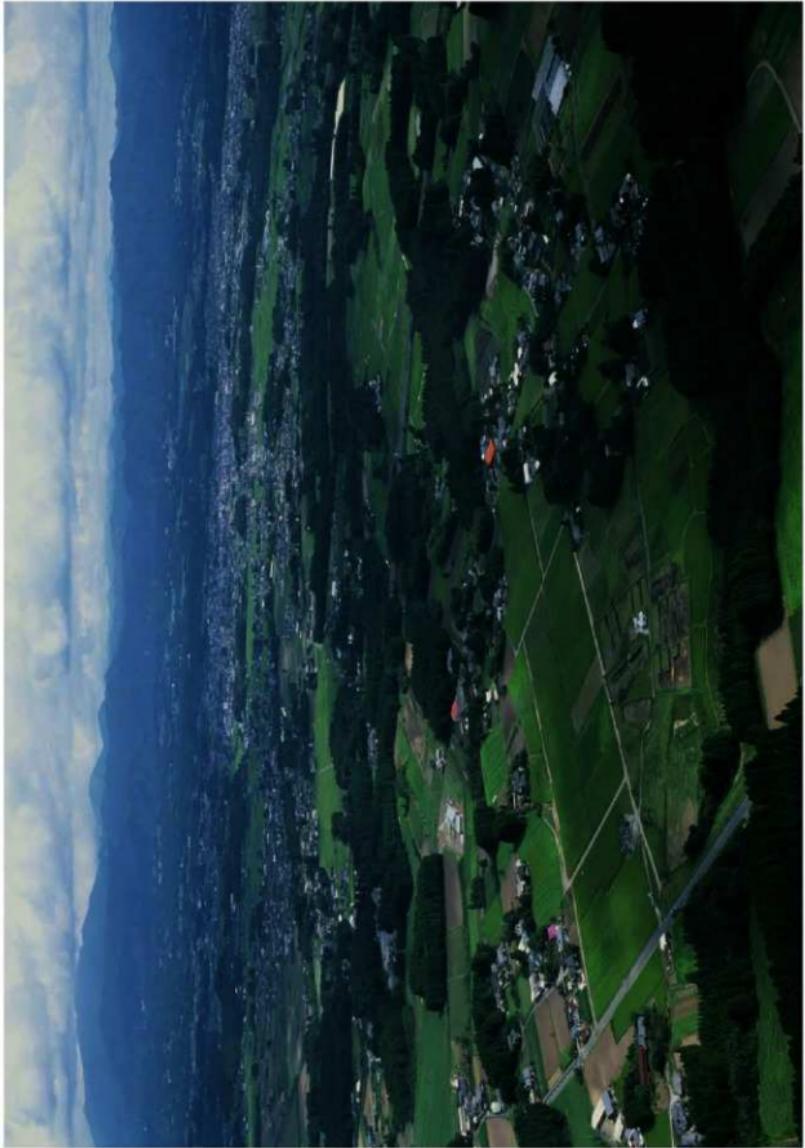


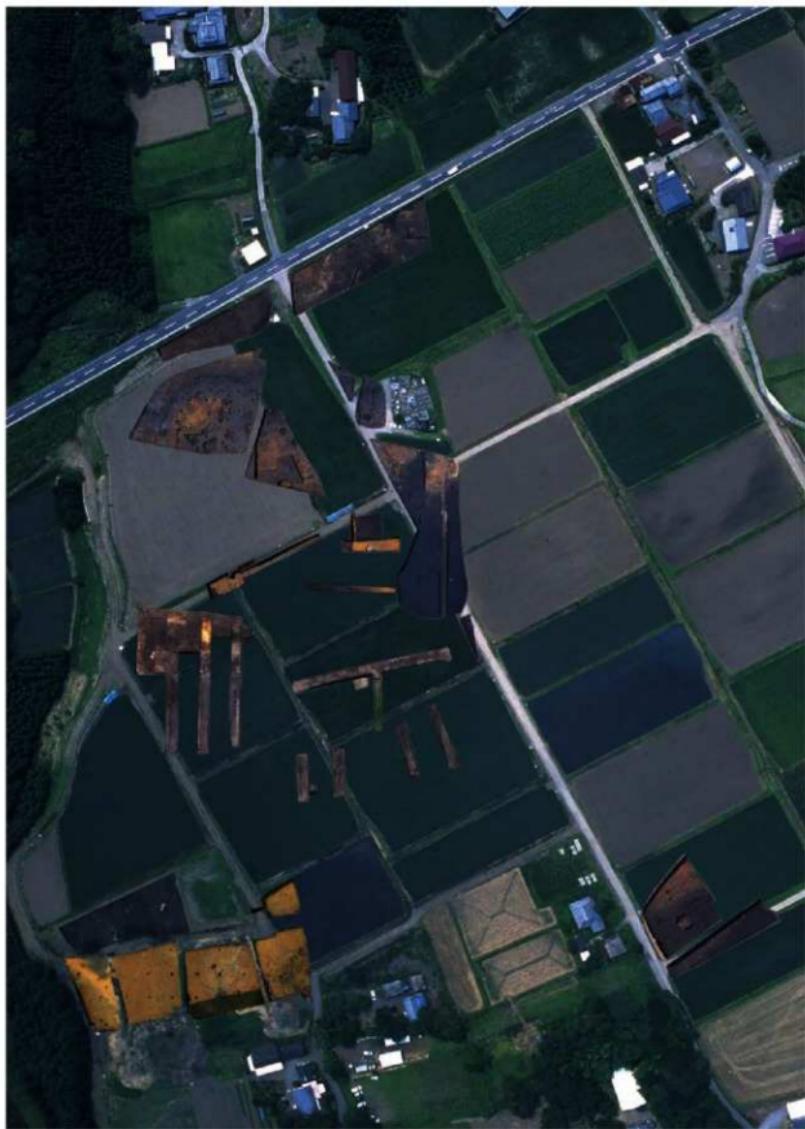
遺跡遠景（北から高千穂峰を望む）



通路遠景（東から夷守岳を望む）

通勤風景（西から小林市街地を望む）





山中道跡 1区～16区（合成写真）



縄文集落拡大（合成写真）



縄文時代後期前葉の竪穴住居（8区 SA25・26）



発掘作業風景



山中遺跡出土縄文土器



山中遺跡出土縄文時代遺物

序 文

小林市内には、古墳時代の地下式横穴墓を多数検出した東二原地下式横穴群に代表されるように、多くの貴重な遺跡の存在が知られています。

教育委員会では、文化財保護事業の一環として、市の貴重な文化遺産である遺跡を保護するとともに、失われていく遺跡の記録保存に努めています。

山中遺跡は、平成 16 年度から平成 20 年度にかけて発掘調査が行われ、縄文時代後期の竪穴住居が多数発見され、市内でも最大級の縄文時代集落跡の存在を確認することが出来ました。また、縄文時代中期後半から後期にかけて多量の土器や石器が出土し、郷土に生きた先人達の生活を考える上で貴重な資料を得ることが出来ました。

山中遺跡発掘調査の成果をまとめた本報告書が、ふるさと小林市の歴史解明の一助となり、文化財保護意識の高揚を図るとともに、学術研究、学校教育、生涯学習の場で広く活用されることを願っています。

最後になりましたが、発掘調査の実施にあたり宮崎県西諸県農林振興局および山中土地改良区、山中地区の皆様には多大なるご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

平成 22 年 3 月

小林市教育委員会
教育長 佐藤勝美

例言

- 1 本書は、県営経営体育成基盤整備事業に伴い小林市教育委員会が平成16年度から平成20年度に実施した小林市大字細野字今坊所在の山中遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、小林市教育委員会が主体となり、宮崎県西諸県農林振興局の委託を受けて実施した。
- 3 発掘調査にあたっては、宮崎県西諸県農林振興局、山中土地改良区、宮崎県教育委員会文化財課、宮崎県埋蔵文化財センター、小林市農村整備課、並びに地元各位の協力を得た。
- 4 山中遺跡の現地調査から報告書作成までの作業に従事したものは下記のとおりである。

発掘作業：

遺構実測：落合賢一 柏野勝重 秦広之

有限会社ジパングサーベイ

遺構写真撮影：落合賢一 柏野勝重 増谷理絵 秦広之

遺跡空中写真撮影及び調査区合成写真作成：九州航空株式会社

自然科学分析：株式会社古境研究所

遺物整理

遺物実測

有限会社ジパングサーベイ 株式会社埋蔵文化財サポートシステム

製図（デジタルトレース）：

有限会社ジパングサーベイ 株式会社埋蔵文化財サポートシステム

遺物写真撮影：

写真整理・編集：

5 本書の編集は秦広之が行った。執筆については下記のとおりである。

第1章：増谷理絵・秦広之

第2章：増谷理絵

第3章：秦広之

第4章：株式会社古環境研究所

第5章：秦広之

6 現地における発掘調査および報告書作成にあたっては下記の方々よりご助言・ご協力をいただいた。

石井寛（横浜市埋蔵文化財センター） 小池哲史（福岡県教育庁） 林潤也（大野城市教育委員会）

真遺彩（鹿児島大学大学院） 中村耕治・東和幸・八木澤一郎・黒川忠広（鹿児島県埋蔵文化財センター）

金丸武司・藤木晶子（宮崎市教育委員会） 菅付和樹・飯田博之・藤木聰・柳田裕三（宮崎県埋蔵文化財センター）

7 発掘調査で出土した遺物とすべての記録は小林市教育委員会で保管している。

本書の記載方法

- 1 個々の遺構名は、遺構の種別を示す英大文字2文字の分類記号（下記参照）と2桁の遺構番号の組み合わせで示す。

SA：竪穴住居 SB：掘立柱建物・掘立柱遺構 SC：土坑 SD・SE：溝状遺構 SI：集石遺構 SX：不明遺構

- 2 土器観察表で示した計測値は、復元値に「()」を付けて表現する
3 土器観察表で示した調整は、調整・文様の先後関係が明確なものは「→」、先後関係の不明確なものは「・」で示した。
4 繩文土器に関して、本文中に記述の煩雑さを避けるため「縄文時代後期前葉」などの時期区分を用いている。時期区分と土器型式との対応は下記のとおりである。
縄文時代中期後葉：春日式轟木ヶ迫・南宮島段階・中尾田Ⅲ類・大平式の各併行期
縄文時代後期初頭：岩崎式・阿高式の各併行期
縄文時代後期前葉：岩崎式の一部・指宿式・市来式の各併行期
縄文時代後期中葉：北久山根式・丸尾式・納曾式・西平式の各併行期
縄文時代後期後葉：三万田式・鳥井原式の各併行期
5 石器石材の同定については、一部を株式会社古環境研究所に委託した。それ以外の石器については、分析結果を参考にして秦が行った。
6 石器観察表の石材で、黒曜岩については自然科学分析の結果を参考に下記のように分類した。

分類	特徴	推定産地
黒曜岩 I	a 黒色を基調とし、不純物をあまり含まず、透過性が高いもの。	人吉桑ノ木津留群
	b 白灰色で、光沢があるもの。	OX群：分析200910類似
	c 黒色で不純物をほとんど含まず、透過性が極めて低いもの。	OX群：分析200934類似
	d 透かすと暗茶色を基調とし、不純物を全く含まず、透過性が極めて高いもの。	OX群：分析200938類似
黒曜岩 II	黒色で不純物を多く含むもの。	大口日東群
黒曜岩 III	漆黒で光を通さないもの。	樋脇上牛鼻群
黒曜岩 IV	黒色で不純物を全く含まないもの。	伊万里櫻岳群
黒曜岩 V	青灰色で不純物が少ないもの。	佐世保淀姫1群
黒曜岩 VI	白灰色で不純物を多量に含むもの。	姫島観音崎群
黒曜岩 VII	原産地不明なもの。	-

- 7 本書で使用した土層及び土器等の色調については、陶磁器類の一部を除いて『新版 標準土色帖 2007年版』（農林水産省農林水産技術会議事務局）の土色に準拠した。
8 調査時の記録類ならびに本書で記載した座標は、世界測地系による座標を使用し、本書で示す方位は座標北である。



分析番号：200909
推定産地：八百桑／木津留群
分類：黒曜岩Ⅰa類



分析番号：200910
推定産地：OX群
分類：黒曜岩Ⅰb類



分析番号：200908
推定産地：OX群
分類：黒曜岩Ⅰc類



分析番号：200934
推定産地：OX群
分類：黒曜岩Ⅱc類



分析番号：200938
推定産地：OX群
分類：黒曜岩Ⅰd類



分析番号：200912
推定産地：鹿児島県水群
分類：黒曜岩Ⅰd類



分析番号：200939
推定産地：大口日東群
分類：黒曜岩Ⅱ類



分析番号：200941
推定産地：大口日東群
分類：黒曜岩Ⅱ類



分析番号：200911
推定産地：種子島上牛群
分類：黒曜岩Ⅲ類



分析番号：200914
推定産地：伊万里屋岳群
分類：黒曜岩Ⅳ類



分析番号：200913
推定産地：佐世保淀姫群
分類：黒曜岩Ⅴ類



分析番号：200915
推定産地：佐世保音崎群
分類：黒曜岩Ⅵ類



無斑晶質安山岩（サスカイト）



賀岩



珪質賀岩



玉髓



チャート



チャート



碧玉



粘板岩



蛇紋岩



流紋岩



砂岩



花崗岩



多孔質安山岩



安山岩



石英斑岩



ホルンフェルス

目次

本文目次

第1章 調査の経過	1
第1節 調査の経緯	1
第2節 調査組織	1
第3節 発掘調査の経過	2
第4節 調査成果の公開	3
第2章 遺跡の立地と歴史的環境	4
第1節 遺跡の立地	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査の成果	9
第1節 発掘調査の概要	9
第2節 山中遺跡1区	11
第3節 山中遺跡2区	35
第4節 山中遺跡3・4区	57
第5節 山中遺跡5区	113
第6節 山中遺跡6区	121
第7節 山中遺跡7区	135
第8節 山中遺跡8区	173
第9節 山中遺跡9区	249
第10節 山中遺跡10区	263
第11節 山中遺跡11・12区	297
第12節 山中遺跡13区	305
第13節 山中遺跡14区	321
第14節 山中遺跡15区	337
第15節 山中遺跡16区	351
第4章 山中遺跡発掘調査に伴う自然科学分析	367
第1節 放射性炭素年代	367
第2節 樹種同定	370
第3節 種実同定	374
第4節 植物珪酸体分析（土器胎土）	376
第5節 蛍光X線分析（黒曜石の産地推定）	381
第6節 蛍光X線分析（サヌカイトの産地推定）	388
第5章 まとめ	392
第1節 縄文時代中期後葉から後期前葉の土器について	392
第2節 縄文集落の検討	396

挿図目次

図 1 山中道跡位置図 (1/1,200,000)	5	図 39 SB01 僧立柱建物 (1/50)	68
図 2 山中道跡周辺の縄文時代遺跡 (1/50,000)	6	図 40 SA10・11・12・13 出土遺物 (7・12・13・1/3・その他:1/4)	70
図 3 山中道跡基本土坑	9	図 41 SA13・14 出土遺物 (18・2/3・19・23・24・1/3・その他:1/4)	71
図 4 山中道跡調査区配置図 (1/4,000)	10	図 42 3・4区道構外出土遺物 1 (1/4)	72
図 5 山中道跡 1 区の道構分布図 (1/300)	13	図 43 3・4区道構外出土遺物 2 (1/4)	73
図 6 SA01 穴穴住居平面図 (1/40)・断面図 (1/30)	14	図 44 3・4区道構外出土遺物 3 (1/4)	74
図 7 SA01 出土遺物 (1~4:1/4・5~9:1/3)		図 45 3・4区道構外出土遺物 4 (1/4)	75
SC02 出土遺物 (1/4)・SC05・06 土坑 (1/40)	15	図 46 3・4区道構外出土遺物 5 (1/4)	76
図 8 SB01 僧立柱建物 (1/60)	16	図 47 3・4区道構外出土遺物 6 (1/4)	77
図 9 1区道構外出土遺物 1 (1/4)	19	図 48 3・4区道構外出土遺物 7 (1/4)	78
図 10 1区道構外出土遺物 2 (1/4)	20	図 49 3・4区道構外出土遺物 8 (1/4)	79
図 11 1区道構外出土遺物 3 (1/4)	21	図 50 3・4区道構外出土遺物 9 (1/4)	80
図 12 1区道構外出土遺物 4 (1/4)	22	図 51 3・4区道構外出土遺物 10 (1/4)	81
図 13 1区道構外出土遺物 5 (1/4)	23	図 52 3・4区道構外出土遺物 11 (1/4)	82
図 14 1区道構外出土遺物 6 (2/3)	24	図 53 3・4区道構外出土遺物 12 (1/4)	83
図 15 1区道構外出土遺物 7 (191~194:2/3・195~202:1/3)	25	図 54 3・4区道構外出土遺物 13 (1/4)	84
図 16 1区道構外出土遺物 8 (203~210:1/3・211~212:1/4)	26	図 55 3・4区道構外出土遺物 14 (1/4)	85
図 17 1区道構外出土遺物 9 (213:1/4・214~225:1/3)	27	図 56 3・4区道構外出土遺物 15 (382:1/3・その他:1/4)	86
図 18 山中道跡 2 区の道構配置図及び検出面 (1/200)	37	図 57 3・4区道構外出土遺物 16 (2/3)	87
図 19 SA03・04 穴穴住居 SC02・04 土坑 (1/40)	39	図 58 3・4区道構外出土遺物 17 (2/3)	88
図 20 SA06・07・08 穴穴住居 (1/40)	40	図 59 3・4区道構外出土遺物 18 (2/3)	89
図 21 SA09-1・2 穴穴住居 (1/40)	41	図 60 3・4区道構外出土遺物 19 (434~435:2/3・その他:1/3)	90
図 22 SC01・02・03 土坑 (1/40)	42	図 61 3・4区道構外出土遺物 20 (1/3)	91
図 23 SA03・04 出土遺物 (6:1/3・7:2/3・その他:1/4)	44	図 62 3・4区道構外出土遺物 21 (1/3)	92
図 24 SA07・08 出土遺物 (22・23:1/3・その他:1/4)	45	図 63 3・4区道構外出土遺物 22 (1/3)	93
図 25 SA09-1・SC01・02・03 出土遺物 (41:2/3・42:1/3・その他:1/4)	46	図 64 3・4区道構外出土遺物 23 (1/3)	94
図 26 SC04 出土遺物 (62:2/3・その他:1/4)	47	図 65 3・4区道構外出土遺物 24 (1/3)	95
図 27 2区道構外出土遺物 1 (1/4)	48	図 66 3・4区道構外出土遺物 25 (1/3)	96
図 28 2区道構外出土遺物 2 (103~113:2/3・114~122:1/3)	49	図 67 3・4区道構外出土遺物 26 (512・513:1/3・その他:1/4)	97
図 29 SE01・02 潛状道構平面図 (1/100)・断面図 (1/40)	50	図 68 山中道跡 5 区の土器出土分布図 (1/200)	115
図 30 SE01・02 出土遺物及び 2区道構外出土遺物 3 (123~126:1/4・127:2/3・128~135:1/3)	51	図 69 山中道跡 5 区の石器出土分布図 (1/200)	116
図 31 山中道跡 3・4 区の道構配置図 (1/400)	59	図 70 5区道構外出土遺物 1 (22:1/3・その他:1/4)	117
図 32 SA10 穴穴住居 (1/40)	60	図 71 5区道構外出土遺物 2 (36~41:1/3・その他:2/3)	118
図 33 SA11・12 穴穴住居 (1/40)	61	図 72 山中道跡 6 区の道構配置図 (1/400)	123
図 34 SA11・12 穴穴住居内的小穴 (1/40)	62	図 73 SC03・04・05・06 土坑 (1/40)	124
図 35 SA13 穴穴住居 (1/40)	63	図 74 SB01 僧立柱建物 (1/60)	125
図 36 SA14 穴穴住居 (1/40)	64	図 75 SB02 僧立柱建物 (1/60)	126
図 37 SC05・06・07 土坑 (1/40)	65	図 76 SB02 僧立柱建物 (1/60)	127
図 38 SB02 僧立柱道構 (1/40)	66	図 77 SB03 僧立柱建物 SB04・05 邪形 (1/60)	128
		図 78 6区道構外出土遺物 1 (1/4)	130
		図 79 6区道構外出土遺物 2 (36~41:1/3・その他:2/3)	131
		図 80 SB02-P2 出土遺物及び 6区道構外出土遺物 3 (1/3)	132

図 81 山中道路 7 区の道構配図 (1/250) ······	137	図 123 SA31 穴穴住居 (1/40) ······	197
図 82 山中道路 7 区の土堀河 (1/100) ······	138	図 124 SA32・33 穴穴住居 (1/40) ······	199
図 83 7 区道構外出土遺物 1 (1/4) ······	140	図 125 SA34 穴穴住居平面図 (1/40)・断面図 (1/60) ······	200
図 84 7 区道構外出土遺物 2 (1/4) ······	141	図 126 SA35 穴穴住居 (1/40) ······	201
図 85 7 区道構外出土遺物 3 (1/4) ······	142	図 127 SA36・37 穴穴住居 (1/40) ······	202
図 86 7 区道構外出土遺物 4 (1/4) ······	143	図 128 SA38 穴穴住居平面図 (1/40)・断面図 (1/80) ······	203
図 87 7 区道構外出土遺物 5 (1/4) ······	144	図 129 SC01～10 土坑 (1/40) ······	205
図 88 7 区道構外出土遺物 6 (1/4) ······	145	図 130 SC11～22 土坑 (1/40) ······	209
図 89 7 区道構外出土遺物 7 (1/4) ······	146	図 131 SC23～31 土坑 (1/40) ······	211
図 90 7 区道構外出土遺物 8 (1/4) ······	147	図 132 SC33～36 土坑 (1/40) ······	213
図 91 7 区道構外出土遺物 9 (1/4) ······	148	図 133 SA15・16 出土遺物 (9: 2/3 その他: 1/4) ······	214
図 92 7 区道構外出土遺物 10 (1/4) ······	149	図 134 SA16・17 出土遺物 (25: 26: 1/3 その他: 1/4) ······	215
図 93 7 区道構外出土遺物 11 (1/4) ······	150	図 135 SA18・19 出土遺物 (33: 34: 2/3: 35: 36: 1/3 その他: 1/4) ······	216
図 94 7 区道構外出土遺物 12 (1/4) ······	151	図 136 SA19・20 出土遺物 (48: 49: 50: 56: 57: 1/3 その他: 1/4) ······	217
図 95 7 区道構外出土遺物 13 (288: 1/3 その他: 1/4) ······	152	図 137 SA21・22・23・25・27 出土遺物 (73: 1/3 その他: 1/4) ······	218
図 96 7 区道構外出土遺物 14 (2/3) ······	153	図 138 SA27・28・29・30・35 出土遺物 (86: 87: 101: 1/3 その他: 1/4) ······	219
図 97 7 区道構外出土遺物 15 (2/3) ······	154	図 139 SC01～05 出土遺物 (116: 121: 130: 131: 132: 1/3 その他: 1/4) ······	220
図 98 7 区道構外出土遺物 16 (2/3) ······	155	図 140 SC06～12 出土遺物 (140: 144: 1/3 その他: 1/4) ······	221
図 99 7 区道構外出土遺物 17 (349: 1/3 その他: 2/3) ······	156	図 141 SC14・15・17・18 出土遺物 (157: 158: 1/3 その他: 1/4) ······	222
図 100 7 区道構外出土遺物 18 (2/3) ······	157	図 142 SC19・20・22・23・25・26・27・28・29・31 出土遺物 (183: 2/3 その他: 1/4) ······	223
図 101 7 区道構外出土遺物 19 (358: 2/3 その他: 1/3) ······	158	図 143 SC32 出土遺物及び 8 区道構外出土遺物 1 (1/4) ······	226
図 102 7 区道構外出土遺物 20 (1/3) ······	159	図 144 8 区道構外出土遺物 2 (1/4) ······	227
図 103 7 区道構外出土遺物 21 (403: 2/3 その他: 1/3) ······	160	図 145 8 区道構外出土遺物 3 (1/4) ······	228
図 104 山中道路 8 区の道構配図 (1/400) ······	175	図 146 8 区道構外出土遺物 4 (1/4) ······	229
図 105 山中道路 8 区の土堀河 (1/80) ······	176	図 147 8 区道構外出土遺物 5 (1/4) ······	230
図 106 SA15 穴穴住居 (1/40) ······	177	図 148 8 区道構外出土遺物 6 (1/4) ······	231
図 107 SA16 穴穴住居 (1/40) ······	178	図 149 8 区道構外出土遺物 7 (1/4) ······	232
図 108 SA17 穴穴住居 (1/40) ······	180	図 150 8 区道構外出土遺物 8 (1/4) ······	233
図 109 SA18 穴穴住居 (1/40) ······	181	図 151 8 区道構外出土遺物 9 (348: 1/2 その他: 1/3) ······	234
図 110 SA19 穴穴住居 (1/40) ······	182	図 152 8 区道構外出土遺物 10 (2/3) ······	235
図 111 SA20 穴穴住居 (1/40) ······	183	図 153 8 区道構外出土遺物 11 (2/3) ······	236
図 112 SA21 穴穴住居 (1/40) ······	185	図 154 8 区道構外出土遺物 12 (382: 1/4 その他: 1/3) ······	237
図 113 SA22 穴穴住居平面図 (1/40)・断面図 (1/80) ······	186	図 155 山中道路 9 区の道構配図 (1/300) ······	251
図 114 SA23 穴穴住居 (1/40) ······	187	図 156 山中道路 9 区の土堀河 (1/80) ······	252
図 115 SA24 穴穴住居 (1/40) ······	188	図 157 9 区道構外出土遺物 1 (1/4) ······	253
図 116 SA25 穴穴住居 (1/40) ······	189	図 158 9 区道構外出土遺物 2 (1/4) ······	254
図 117 SA26 穴穴住居 (1/40) ······	190	図 159 9 区道構外出土遺物 3 (1/4) ······	255
図 118 SA27 穴穴住居 1 (1/40) ······	192	図 160 9 区道構外出土遺物 4 (1/4) ······	256
図 119 SA27 穴穴住居 2 (1/40) ······	193	図 161 9 区道構外出土遺物 5 ······	
図 120 SA28 穴穴住居 (1/40) ······	194	94・102～105: 1/3 95～101: 2/3 その他: 1/4) ······	257
図 121 SA29 穴穴住居 (1/40) ······	195	図 162 9 区道構外出土遺物 6 (1/3) ······	258
図 122 SA30 穴穴住居 (1/40) ······	196		

図 163 山中遺跡 10 区の遺構配置図 (1/200)	265	図 203 14 区遺構外出土遺物 6 (1/4)	330
図 164 山中遺跡 10 区の土層図 (1/80)	266	図 204 14 区遺構外出土遺物 7 (1/4)	331
図 165 S01 集石遺構 (1/20)	267	図 205 14 区遺構外出土遺物 8	
図 166 10 区遺構外出土遺物 1 (1/4)	269	(115~116: 2/3 117~120: 1/3 その他: 1/4)	332
図 167 10 区遺構外出土遺物 2 (1/4)	270	図 206 山中遺跡 15 区の遺構配置図 (1/500)	339
図 168 10 区遺構外出土遺物 3 (1/4)	271	図 207 山中遺跡 15 区の土層図 (1/120)	340
図 169 10 区遺構外出土遺物 4 (1/4)	272	図 208 S001 不明遺構 (1/40・S01 集石遺構 (1/10))	341
図 170 10 区遺構外出土遺物 5 (1/4)	273	図 209 15 区遺構外出土遺物 1 (1/4)	342
図 171 10 区遺構外出土遺物 6 (1/4)	274	図 210 15 区遺構外出土遺物 2 (1/4)	343
図 172 10 区遺構外出土遺物 7 (1/4)	275	図 211 15 区遺構外出土遺物 3 (1/4)	344
図 173 10 区遺構外出土遺物 8 (1/4)	276	図 212 15 区遺構外出土遺物 4	
図 174 10 区遺構外出土遺物 9 (1/4)	277	(70~78: 2/3 79~80: 1/3 その他: 1/4)	345
図 175 10 区遺構外出土遺物 10 (1/4)	278	図 213 15 区遺構外出土遺物 5 (1/3)	346
図 176 10 区遺構外出土遺物 11 (1/4)	279	図 214 15 区遺構外出土遺物 6 (101: 1/3 その他: 1/4)	347
図 177 10 区遺構外出土遺物 12 (1/4)	280	図 215 山中遺跡 16 区 2 面井 (下層) の遺構配置図 (1/250)	353
図 178 10 区遺構外出土遺物 13 (1/4)	281	図 216 山中遺跡 16 区の土層図 (1/80)	354
図 179 10 区遺構外出土遺物 14 (1/4)	282	図 217 SC14 土坑 (1/40)・出土遺物 (1/4)	355
図 180 10 区遺構外出土遺物 15		図 218 16 区遺構外出土遺物 1 (1/4)	356
(258~259: 1/3 260: 1/2 その他: 1/4)	283	図 219 16 区遺構外出土遺物 2 (1/4)	357
図 181 10 区遺構外出土遺物 16 (2/3)	284	図 220 16 区遺構外出土遺物 3 (45~52: 2/3 54~56: 1/3)	358
図 182 10 区遺構外出土遺物 17 (1/3)	285	図 221 山中遺跡 16 区 1 面井 (上層) の遺構配置図 (1/250)	359
図 183 10 区遺構外出土遺物 18 (1/3)	286	図 222 S004 不明遺構 (1/60)	360
図 184 10 区遺構外出土遺物 19 (310: 1/4 その他: 1/3)	287	図 223 SK11 犁土・SC01・06・07・08・09 土坑 (1/40)	361
図 185 山中遺跡 11~12 区の調査区配置図 (1/500)	299	図 224 SD03 清平面井 (1/80)・新面井 (1/60)	362
図 186 11~12 区遺構外出土遺物 1 (1/4)	300	図 225 S004+11 SC01 SD03 P40+41 1 面井 (上層)	
図 187 11~12 区遺構外出土遺物 2		遺構外出土遺物 (58~65: 67: 1/3 その他: 1/4)	363
(30~32: 1/4 33~37: 2/3 その他: 1/3)	301	図 226 山中遺跡における樹根井定期測量写真 1	372
図 188 山中遺跡 13 区の遺構配置図 (1/300)	307	図 227 山中遺跡における樹根井定期測量写真 2	373
図 189 13 区遺構外出土遺物 1 (1/4)	309	図 228 山中遺跡発掘調査の発展歴史	375
図 190 13 区遺構外出土遺物 2 (1/4)	310	図 229 山中遺跡から出土した土器 (胎土) の植物組織体分析結果	379
図 191 13 区遺構外出土遺物 3 (1/4)	311	図 230 山中遺跡発掘調査における植物組織体 (プラント・オバール)	380
図 192 13 区遺構外出土遺物 4 (1/4)	312	図 231 黒曜石産地判別図 1 (200908~200916)	384
図 193 13 区遺構外出土遺物 5 (2/3)	313	図 232 黒曜石産地判別図 2 (200908~200916)	385
図 194 13 区遺構外出土遺物 6 (2/3)	314	図 233 黒曜石産地判別図 3 (200932~200941)	386
図 195 13 区遺構外出土遺物 7 (1/3)	315	図 234 黒曜石産地判別図 4 (200932~200941)	387
図 196 13 区遺構外出土遺物 8 (1/3)	316	図 235 サムカイト産地推定判別図	389
図 197 山中遺跡 14 区の調査区配置図 (1/500)	323	図 236 付: 山中遺跡熱射線年代測定試料	390
図 198 14 区遺構外出土遺物 1 (1/4)	325	図 237 付: 鎌光 X 線分析試料 (加賀野の焼野)	
図 199 14 区遺構外出土遺物 2 (1/4)	326	及び植物組織体分析試料 (土器胎土)	391
図 200 14 区遺構外出土遺物 3 (1/4)	327	図 238 山中遺跡出土縄文時代中期後葉~後期前葉の土器分類 1	393
図 201 14 区遺構外出土遺物 4 (1/4)	328	図 239 山中遺跡出土縄文時代中期後葉~後期前葉の土器分類 2	394
図 202 14 区遺構外出土遺物 5 (1/4)	329	図 240 間違資料	

表目次

表 1 1区出土遺物觀察表	28	写真図版 20 (7区遺物)	418
表 2 2区出土遺物觀察表	52	写真図版 21 (7区遺物)	419
表 3 3・4区出土遺物觀察表	98	写真図版 22 (7区遺物)	420
表 4 5区出土遺物觀察表	119	写真図版 23 (8区遺構)	421
表 5 6区出土遺物觀察表	133	写真図版 24 (8区遺構)	422
表 6 7区出土遺物觀察表	161	写真図版 25 (8区遺構)	423
表 7 8区出土遺物觀察表	238	写真図版 26 (8区遺構)	424
表 8 9区出土遺物觀察表	259	写真図版 27 (8区遺構)	425
表 9 10区出土遺物觀察表	288	写真図版 28 (8区遺構)	426
表 10 11・12区出土遺物觀察表	303	写真図版 29 (8区遺構)	427
表 11 13区出土遺物觀察表	317	写真図版 30 (8区遺構)	428
表 12 14区出土遺物觀察表	333	写真図版 31 (8区遺物)	429
表 13 15区出土遺物觀察表	348	写真図版 32 (8区遺物)	430
表 14 16区出土遺物觀察表	364	写真図版 33 (9区遺構)	431
表 15 滅亡試料及び整理	367	写真図版 34 (9区遺構)	432
表 16 放射性炭素年代測定及び歴年校正の結果	368	写真図版 35 (9区遺物)	433
表 17 山中道路における樹種同定結果	371	写真図版 36 (10区遺構)	434
表 18 山中道路発掘調査の種別同定結果	375	写真図版 37 (10区遺構)	435
表 19 山中道路発掘調査における植物往體体結果	378	写真図版 38 (10区遺物)	436
表 20 山中道路発掘調査における出土黒曜石の产地推定結果	383	写真図版 39 (10区遺物)	437
表 21 原石採取地と判別名称	388	写真図版 40 (11・12・13区遺構)	438
		写真図版 41 (11・12・13区遺物)	439
		写真図版 42 (14区遺構)	440
		写真図版 43 (14区遺物)	441
写真図版 1 (1区遺構)	399	写真図版 44 (15区遺構)	442
写真図版 2 (1区遺構)	400	写真図版 45 (15区遺物)	443
写真図版 3 (1区遺物)	401	写真図版 46 (15区遺物)	444
写真図版 4 (1区遺物)	402	写真図版 47 (16区遺構)	445
写真図版 5 (2区遺構)	403	写真図版 48 (16区遺構)	446
写真図版 6 (2区遺構)	404	写真図版 49 (16区遺構)	447
写真図版 7 (2区遺物)	405	写真図版 50 (16区遺物)	448
写真図版 8 (3区遺構)	406	写真図版 51 (公園・活用)	449
写真図版 9 (3区遺構)	407	写真図版 52 (作業風景)	450
写真図版 10 (3区遺構)	408		
写真図版 11 (3区遺物)	409		
写真図版 12 (3・4区遺物)	410		
写真図版 13 (3・4区遺構)	411		
写真図版 14 (3・4区遺物)	412		
写真図版 15 (5・6区遺構)	413		
写真図版 16 (5・6区遺物)	414		

第1章 調査の経過

第1節 調査の経緯

山中地区では宮崎県西諸県農林振興局による県営經營体育基盤整備事業が計画されていた。計画予定地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「山中遺跡群」内であり、また遺物の散布が著しいことから、開発事業と埋蔵文化財保護との調整を図るため、平成14年度に県教育委員会および市教育委員会が確認調査を行った。その結果、縄文時代後期を中心とする土器や石器、住居跡が発見され、工事を行うことによりこれらの遺跡の破壊が考えられることから、工事着手前の事前調査を行う必要が生じた。この確認調査結果を基に、工事の切り盛りを勘案した上で本調査を実施する場所を選定していき、工事対象面積18.5haのうち、20,500m²を本発掘調査対象とすることとなった。

平成16年度から小林市教育委員会を調査主体として、埋蔵文化財の記録保存を目的とする山中遺跡の発掘調査を開始した。開発側と地元の農作物作付けとの調整を図り、開発側には本発掘調査が完了した箇所、あるいは埋蔵文化財に影響のない箇所から順次工事を進めてもらうようにした。本発掘調査は平成16～20年度までの5カ年実施した。整理作業は、現場での発掘調査と並行し、調査終了分の遺物洗浄、注記、図面作成等を行い、平成21年度に報告書刊行となった。

第2節 調査組織

調査主体 小林市教育委員会

調査協力 宮崎県西諸県農林振興局
山中土地改良区
宮崎県教育委員会
宮崎県埋蔵文化財センター
小林市農村整備課
地元各位

調査組織

小林市教育委員会教育長	佐藤勝美（平成16～21年度）
社会教育課長	堀 英博（平成16～21年度）
	嶽本 強（平成21年度）
	大角良弘（平成21年度）
社会教育係長	上別府優（平成16年度）
	小園久雄（平成17年度）
文化財係長	平川幸人（平成18年度）
	天辰より子（平成18～20年度）
社会教育課主幹	芹田直茂（平成21年度）
	天辰より子（平成21年度）

調査の経過

庶務担当	主事 植木 茂（平成 16～17 年度）
	主事 柚木脇大輔（平成 18 年度）
	主事 高原百合香（平成 19～21 年度）
調査担当 社会教育課	主事 落合賢一（平成 16～19 年度）
	主事 増谷理絵（平成 16・19 年度：報告書の執筆）
	主事 柏野勝重（平成 18・19 年度）
	委託職員 秦 広之（平成 20・21 年度：報告書の執筆・編集）

調査指導・助言

宮崎県教育庁文化財課	飯田博之
宮崎県埋蔵文化財センター	岩永哲夫
	菅付和樹
	藤木 聰
	柳田裕三

第 3 節 発掘調査の経過

平成 16 年度

調査地区：山中遺跡 1 区・2 区・3 区・4 区

調査対象面積：4,000m²

調査期間：平成 16 年 12 月 7 日～平成 17 年 3 月 25 日

調査担当：増谷理絵・落合賢一



発掘調査風景（平成 18 年度）

平成 17 年度

調査地区：山中遺跡 5 区・6 区

調査対象面積：3,000m²

調査期間：平成 17 年 9 月 13 日～平成 18 年 1 月 31 日

調査担当：落合賢一



発掘調査風景（平成 20 年度）

平成 18 年度

調査地区：山中遺跡 7 区・8 区・9 区・10 区

調査対象面積：5,100m²

調査期間：平成 18 年 10 月 27 日～平成 19 年 3 月 23 日

調査担当：柏野勝重・落合賢一

平成 19 年度前期

調査地区：山中遺跡 11 区・12 区・13 区

調査対象面積：6,500m²

調査期間：平成 19 年 6 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日

調査担当：増谷理絵・落合賢一

平成 19 年度後期

調査地区：山中遺跡 14 区・15 区

調査対象面積：3,400m²

調査期間：平成 19 年 11 月 16 日～平成 20 年 3 月 28 日

調査担当：柏野勝重

平成 20 年度

調査地区：山中遺跡 16 区

調査対象面積：1,200m²

調査期間：平成 20 年 5 月 12 日～平成 20 年 7 月 31 日

調査担当：秦 広之

第4節 調査成果の公開

山中遺跡の調査成果の公開に関しては、平成 19 年 2 月 8 日に一般市民を対象とした遺跡見学会を実施し、60 名の参加があった。平成 19 年 3 月 4 日には、市内の児童・生徒を対象とした遺跡体験発掘を実施し 30 名が参加した。現地での発掘調査が終了し、出土した遺物の復元作業が進んだ平成 21 年 10 月 22 日には、山中営農研修館で地元住民を対象とした「山中遺跡発掘調査成果速報展」を開催し、山中地区の住民など 108 名が来場した。平成 21 年 10 月 25 日には、細野小学校が開催したオープンキャンパスに併せて「山中遺跡発掘調査成果速報展」を行い、地元住民や児童・保護者など 170 名が来場した。その翌日の平成 21 年 10 月 26 日には、細野小学校 4 年・5 年・6 年生を対象に、出前授業を実施した。平成 22 年 2 月 19 日～22 日には、一般市民を対象とした「山中発掘調査成果展」を小林市中央公民館で開催し 539 名が来場した。



地元中学生の体験発掘



遺跡見学会

第2章 遺跡の立地と歴史的環境

第1節 遺跡の立地

山中遺跡は宮崎県小林市大字細野字山中・今坊に所在する。

小林市は宮崎県南西部に位置する内陸盆地である。北東は西米良村、西はえびの市、東は綾町・野尻町、南は高原町と接し、また県境に所在しているため、北部は熊本県、南部は鹿児島県とも接している。現在もこのように複数の県・市町村と接するが、古代には日向16駅の一つである夷守駅も置かれ、古代においてもその立地から日向国・肥後国・大隅国・薩摩国の4国を結ぶ交通の要所であったことがうかがえる。

小林市の北は九州山地へ連なる山岳地帯、南を霧島山系に囲まれ、東から西に渡って開けている。北部山岳地帯は新生代古第三紀の四万十層群、霧島山系は新生代第四紀の霧島火山溶岩で形成されている。霧島山は北西から南東方向に合計23の火山が並ぶ複合火山群で、標高千メートル以上に及ぶ山々が連なっている。土壌は火山灰を基盤とし、ほとんどが姶良カルデラの噴出物であるが、盆地北部には加久藤火山碎屑流もみられる。低平地は大部分が河川の流れによって形成されたもので、砂礫台地・三角州低地から成る。この低地周辺を取り囲んでいるのが火山灰などの火山碎屑流が堆積して形成されたシラス台地であり、市内各地でシラスが露出している崖が見られ、非常に厚く堆積している。

また、シラス台地・沖積地とともに牛の脛火山灰・アカホヤ火山灰・黒ボクなどの土壌が見られる。黒ボクはその起源を霧島火山の噴出物とし、アカホヤ火山灰は薩摩半島南方約50キロメートル、屋久島の北部海底に位置する鬼界カルデラ噴出物である。

山中遺跡は、夷守岳東部山麓に広がる標高260m程度の扇状地に位置している。その北側には宮崎自動車道が東西を走り、周囲には水田や畑地、牧場が広がる広大な農村地帯である。山中遺跡群は霧島の山々に近いこともあって、小林の他地区では見られない土層堆積があり、他地区ではアカホヤ火山灰層上はほぼ黒ボク土一色であるに対し、山中では黒に茶褐色土層を挟む、また、通常アカホヤ火山灰層下に見られる牛ノ脛火山灰層と類似した硬質の青灰色層がアカホヤ火山灰層上にも見られる（偽牛ノ脛）など、火山灰の堆積が顯著である。

河川は小林西部の池島川等の一部の川内川水系を除き、市内を流れる河川のほとんどが大淀川の支流で、浜の瀬川・石冰川・辻之堂川などが主流としてあげられる。山中地区は少し離れた場所に小河川が流れるのみで、地元の方々の話によれば、以前から水のない土地であったようである。家庭や家畜飼育に使用する水も不足していたが、10年ほど前に市が水道タンクを設置してからは住民の生活用水は供給できるようになった。しかし、農業用水については、降雨がないと水が不足し、田植えができないようである。

第2節 歴史的環境

小林市で今までに確認されている最も古い時代の遺跡は、小林市大字北西方に所在する横峯追遺跡である。後期旧石器時代の遺跡で、黒曜石製の打製石器が採集されている。

縄文時代の遺跡は多く確認されており、石鏃や打製石斧、様々な型式の縄文土器が出土している。特に東方の本田遺跡は早期～後期の遺跡で、押型文・塞ノ神式・轟式・曾畠式などの土器や、竪穴住居跡が確認されている。県内では当初明らかでなかった押型文→轟式→曾畠式の層位関係が確認された遺跡として、昭和51年に県指定史跡とされている。近年の調査では東方地区の満永原遺跡、谷ノ木原遺跡、高津佐遺跡、北西方地区の観請原遺跡で縄文時代早期の集石遺構や遺物が確認されている。これまで、縄文中期の遺物は良好な資料は得られていない。縄文後期～晩期の遺跡には黒仁田遺跡があり、丸尾式土器や黒色磨研土器などが出土している。



図1 山中遺跡位置図 (1/1,200,000)

遺跡の立地と歴史的環境

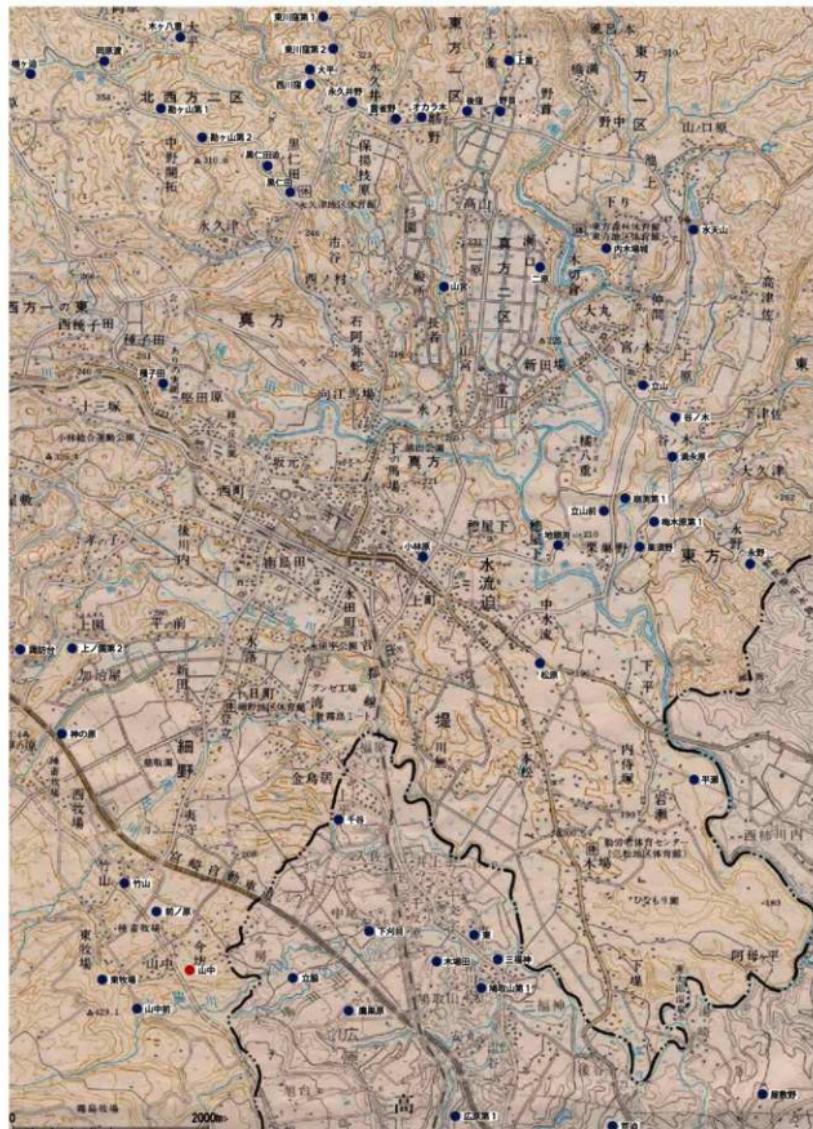


図2 山中遺跡周辺の縄文時代遺跡 (1/50,000) 国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図を複製したものを使用

小林市各地の弥生時代の遺跡内においては石庖丁が発見されており、当時市内にも稻作が普及していたことを裏付けている。また弥生後期が出現時期とされている花弁形住居跡も市内南西方に所在する広庭遺跡、北西方に所在する黒仁田遺跡の調査で発見されている。

山中地区には、その周辺にも竹山遺跡や前ノ原遺跡群、山中前遺跡などの縄文・弥生時代の遺物散布地が広がっている。以前から表土に遺物が多く散布していたため、地下に遺跡の存在が想定されていた。

古墳時代に入り小林市において見られるのは、南九州独特の墓制である地下式横穴墓である。小林古墳6基（下の平・城山・新田場）および須木村古墳は昭和14年に県指定となっている。また、現在遺跡公園として整備されている東二原地下式横穴墓群（5世紀末～6世紀前半）では地下式横穴墓16基、円墳1基が発見され、墓内より人骨21体、直刀、鐵鎌、骨鎌、鏡などが出土している。円墳は市内で唯一確認されているもので、現在まで未調査であるが、周溝をもつことが判明している。『宮崎県史』によると、鏡が出土した2号墓出土人骨はこの集団の長であり、さらに周溝をもつ円墳に葬られたのはこの地域の首長であった可能性が述べられている。近隣ではえびの市島内や高原町立切でも地下式横穴墓が確認されており、この地域一帯に有力者層が存在していたことを示唆している。

現在、細野地区の一部に小字で夷守という地名があるが、古代においては小林地域一帯が「夷守」と呼ばれていた。醍醐天皇期の『延喜式』によると、日向国駅は16駅存在し、その中の夷守駅の場所は確定はされていないが、小林市大字細野十日町に比定されている。小林市には景行天皇の熊襲親征の際、諸県君泉媛が景行天皇を歓迎して出迎えたという伝説も残っており、小林市大字細野水落（夷守駅推定地近く）には景行天皇が腰掛けた石であるという伝承のある景行天皇御腰掛石も残っている。このようなことからも、夷守駅は古くから日向国・肥後国・薩摩国・大隅国を結ぶ交通の要所として当地方の中心的役割を果たしていたと考えられる。また「夷守」には、辺境の地を守るという意味もあるため、当地は南北を山々に囲まれ東西に開けているという地理的環境から、治安守備の意味も込められ、軍事上も重要な地点であったと考えられる。

小林地域は古くから霧島信仰が盛んであった。霧島連山は人々にとって噴火を繰り返す脅威の山であると同時に、神の宿る山として崇拜され、また農業神として崇められるなど、霧島山は聖地とされ、地域の人々の生活に欠くことのできないものとして信仰対象となってきた。

山中地区の調査地の隣接地には今坊権現があり、その起源は、現在の霧島岑神社（細野小字夷守）が高千穂峯の中腹に鎮座していた際、遠くから参拝に来る者の中継の里坊として始まったものといわれる。霧島岑神社は『続日本後紀』によると、承和4年（837年）に日向国諸県郡霧島岑神社は官社となり、從五位上を授けられた。10世紀頃になると、性空上人は霧島の山で修行し、霧島山の五方に神社と梵刹を建て、高千穂峰と御鉢の中間にあった霧島岑神社を霧島山中央権現とした。霧島中央権現社は霧島山の噴火により何度も社殿が焼失し、再建、遷座している。今坊権現は以前は非常に栄えており、享保元年（1716年）の新燃岳噴火で霧島岑神社の社殿宝物類が焼失した際は、一時的に御神体が今坊権現に奉遷されたこともある。霧島岑神社が他の場所へ遷座してからは里坊の必要がなくなったため、次第に衰微していった。現在は一対の仁王像と小さな社殿が残されている。のことから、古来、山中地区は多くの人々の往来のある土地であったといえる。

中世になり、北原氏の居城であった三山城（小林市大字細野水落）が小林の中心地であった頃には当地方は三ツ山あるいは三之山と呼ばれていたが、小林城（小林市大字真方下の馬場）が政治の中心となってからは、「小林」という呼び名が定着するようになった。他に中世の山城には内木場城・野首城・岩牟礼城などがあった。中世以来、三ツ山は日下部氏や北原氏を領主としていた真幸院の五ヶ郷のうちの一つであった。その後、伊東氏が小林を支配するようになってからは伊東氏と島津氏が勢力争いを続けたが、元亀三年（1572年）の木崎原の戦いにおいて伊東軍は大敗した。その後、伊東軍は急速に衰退し、天文四年（1576年）に高原城が陥落すると、伊東氏の治めていた内木場城や岩牟礼城など7城が戦を交えず島津氏の領有となった。それ以後、小林は明治維新に至るまで島津氏の統治する薩摩藩に属することとなる。

小林市に現在も残る郷土芸能には薩摩藩の特色が色濃く残る。「輪太鼓踊」は昭和37年に県指定無形民俗文化

遺跡の立地と歴史的環境

財に指定されており、市内の東方地区・細野1区に伝承されている。太鼓踊の起源は豊臣秀吉の朝鮮出兵から始まったといわれ、士気を高めるために鐘や太鼓を打ち鳴らし、またあるいは薩摩藩では表面的には踊りと思わせて実際には武技の訓練としていたとも伝えられる。その他にも同様に市内真方1区・南西方孝の子地区に伝承される「兵兒踊」も武技訓練のために始まったといわれている。

元和元年（1615年）に一国一城令が出され小林城が廢城となると、小林地域の治所は小林城より南西方向に所在する地頭仮屋へと移った。その後、明治初めまで小林の政治の中核として機能していたが、明治10年（1877年）の西南戦争によって焼失した。

以上、小林の歴史の概略を述べてきた。各時代、まだ十分な歴史研究は行われていない。今後の発掘調査における出土資料の増加が望まれる。

【引用参考文献】

『小林市史 第一巻』 小林市 1965

『小林市史 第三巻』 小林市 2000

『三国名勝図会 下巻』 南日本出版文化協会 1966

長友郁子「東二原地下式横穴墓群」『小林市文化財調査報告書 第二集』 小林市教育委員会 1990

『宮崎県史 資料編 考古2』 宮崎県 1993

第3章 調査の成果

第1節 山中遺跡の概要

小林市教育委員会では、宮崎県西諸県農林振興局による県営經營体育成基盤整備事業に伴い平成16年度から平成20年度にかけて、小林市大字細野に所在する山中遺跡の発掘調査を実施した。調査の結果、縄文時代後期の集落跡を中心に、縄文時代早期から近世までの遺構・遺物を確認した。

縄文時代早期の遺物は、2区および8区のほぼ全面において、縄文時代早期の層位にあたる基本土層X層（牛ノ脛火山灰層下部）もしくは基本土層XI層（黒褐色土層）が露出する状況であったが、遺構は検出されておらず押型文土器が少量出土するに留まった。

縄文時代前期に関しては、1区・7区・8区・13区・16区において、曾畠式・轟D式・尾田式などが出土したが、遺構は検出されていない。

縄文時代中期に関しては、1区・3区・4区・7区・9～13区より遺物が出土しているが、明確な遺構は確認していない。遺物の出土傾向としては、深浦式や船元式など中期の前半段階の遺物は少なく、春日式の後半段階（轟木ヶ迫・南宮島段階）から出土量が徐々に多くなる。

縄文時代後期の遺構は、1～3区および8区より竪穴住居を30棟検出している。遺物を確認することが出来なかった竪穴住居7棟についてもこの時期の可能性があり、縄文時代後期の竪穴住居数は、さらに増える可能性がある。2区・8区からは、竪穴住居に近接して貯蔵穴状の土坑も確認した。3区では4基の柱穴の底面が斜め方向に傾斜する掘立柱遺構を検出しており、この時期の可能性も考えられる。7区北側部分および10区南側部分では、後期初頭～前葉段階の遺物集中部を確認し、狭い範囲ながら数万点におよぶ遺物が出土した。縄文時代後期の遺物は、後期初頭の岩崎式から後期後葉の三万田式までの遺物が出土しているが、各土器型式の出土傾向は調査区毎に若干異なる様相を示している。

縄文時代以外の遺構に関しては、1区・3区・6区より掘立柱建物を検出している。古代から中世段階のものと想定されるが、掘立柱建物の柱穴内からは遺物がほとんど出土しておらず、厳密な時期認定は困難であった。8区では弥生時代の竪穴住居を1棟確認した。16区からは、弥生時代後期後半～古墳時代初頭および中世の土坑、近世の溝状遺構を検出している。15区からは、古墳時代のものと想定される焼土群を検出した。

V	V	
基本土層I層		基本土層I層：表土・現在の耕作土
基本土層II層		基本土層II層：褐色土層（整地に伴う搅乱土層）
基本土層III層		基本土層III層：黒褐色土層
基本土層IV層		基本土層IV層：褐色土層（遺物包含層：主に弥生・古墳時代～中世の遺物が出土）
基本土層V層		基本土層V層：褐色土層（部分的に存在）
基本土層VI層		基本土層VI層：黒色土層（遺物包含層：主に縄文時代の遺物が出土）
基本土層VII層		基本土層VII層：暗褐色土層
基本土層VIII層		基本土層VIII層：牛ノ脇火山灰層上部
基本土層IX層		基本土層IX層：アカホヤ火山灰層
基本土層X層		基本土層X層：牛ノ脇火山灰層下部
基本土層XI層		基本土層XI層：黒褐色土層
基本土層XII層		基本土層XII層：褐色土に小林軽石が混入

図3 山中遺跡基本土層



図4 山中遺跡調査区配置図 (1/4000)

第3章

第2節 山中遺跡1区



第 2 節 山中遺跡 1 区

1 山中遺跡 1 区の概要

山中遺跡 1 区（以下 1 区）は、今回計画された基盤整備事業の西端に位置する。調査区は南北に細長い形状で、北側部分は擾乱を受けており遺構は確認されなかった。調査区西侧は、水田構築時に掘削を受けており、基本土層 IX 層（アカホヤ火山灰層）まで露出する状況であった。1 区から検出された遺構としては、縄文時代後期の竪穴住居や土坑、小穴を確認した。小穴に関しては、竪穴住居の周囲で多数検出され、埋土は竪穴住居と同様のものであった。その他の遺構としては、1 間 × 2 間の掘立柱建物 1 棟を検出している。柱穴より小破片の土器が少量出土したのみで、所産時期の確定は出来なかった。遺物は縄文時代前期の曾畠式・尾田式、中期の春日式、後期の岩崎式・市来式等の土器や石器、古墳時代の土師器、中世の陶磁器類が出土している。

2 遺構と遺物

竪穴住居

1 区で竪穴住居として報告するものは、調査区南側で確認した SA01 の 1 棟であるが、調査時には調査区南東隅で検出した落ち込み状のものを竪穴住居（SA02）と認識して調査を進めていた。検討の結果、壁の立ち上がりや床面が不鮮明であるなどの理由から竪穴住居と認定しなかった。

SA01（図 6）

調査区の南側 AE08・09 区画に位置し基本土層 VII 層（牛ノ脛火山灰層上部）および基本土層 IX 層（アカホヤ火山灰層）で検出した。平面は長軸 3.9m、短軸 3.4m の隅丸方形で、深さ 0.2m を測る。床面は平坦で、壁はしっかりと立ち上がる。底面には柱穴と考えられる小穴を 7 基検出し、中央には主柱穴と思われる小穴を 2 基確認した。この 2 本の小穴は、床面からの深さが 0.6 ~ 0.7m を測り、他の小穴よりも深くなる。明確な屋内炉は検出されていない。埋土中からは縄文時代後期初頭～前葉頃の土器や磨製石斧・磨石・切目石錐が出土した。

SA01 出土遺物（図 7）

1 ~ 4 は深鉢で、1 は口縁部を肥厚させ凹点を施し、口唇部には細かい刻みが観察される。2 は凹線間に凹点を配し口唇部を刻む。3 は頸部から口縁部にかけて外反する波状口縁の深鉢で、波頂部に刻みを持つ。文様は口縁付近を無文として頸部に 2 本単位の凹線を施し、上部の凹線は波頂部下で途切れ口縁部方向に跳ね上がる。4 は縦方向の短凹線と凹点を交互に施す。5 は石英斑岩を用いた磨石で、表裏両面ともに磨滅痕が認められる。6 は切目石錐、7 ~ 9 はいずれも半分以上を欠損する磨製石斧であり、8・9 の刃部には部分的な欠損が認められる。

土坑

SC02（図 5）

調査区の南側 AF08 区画に位置し、基本土層 IX 層（アカホヤ火山灰層）で検出した。平面は長軸 1.95m、短軸 1.00m の不整形な長梢円形である。深さや下部構造等の詳細は不明であるが、写真で確認する限り埋土は竪穴住居 SA01 に類似ようである。埋土中より縄文時代後期前葉の深鉢が出土した。

SC02 出土遺物（図 7）

10 は口縁部を肥厚させ、口唇部には撚り紐状の突起を持つ。文様は縦方向の短沈線や刺突で描出されている。内外面ナデ調整である。

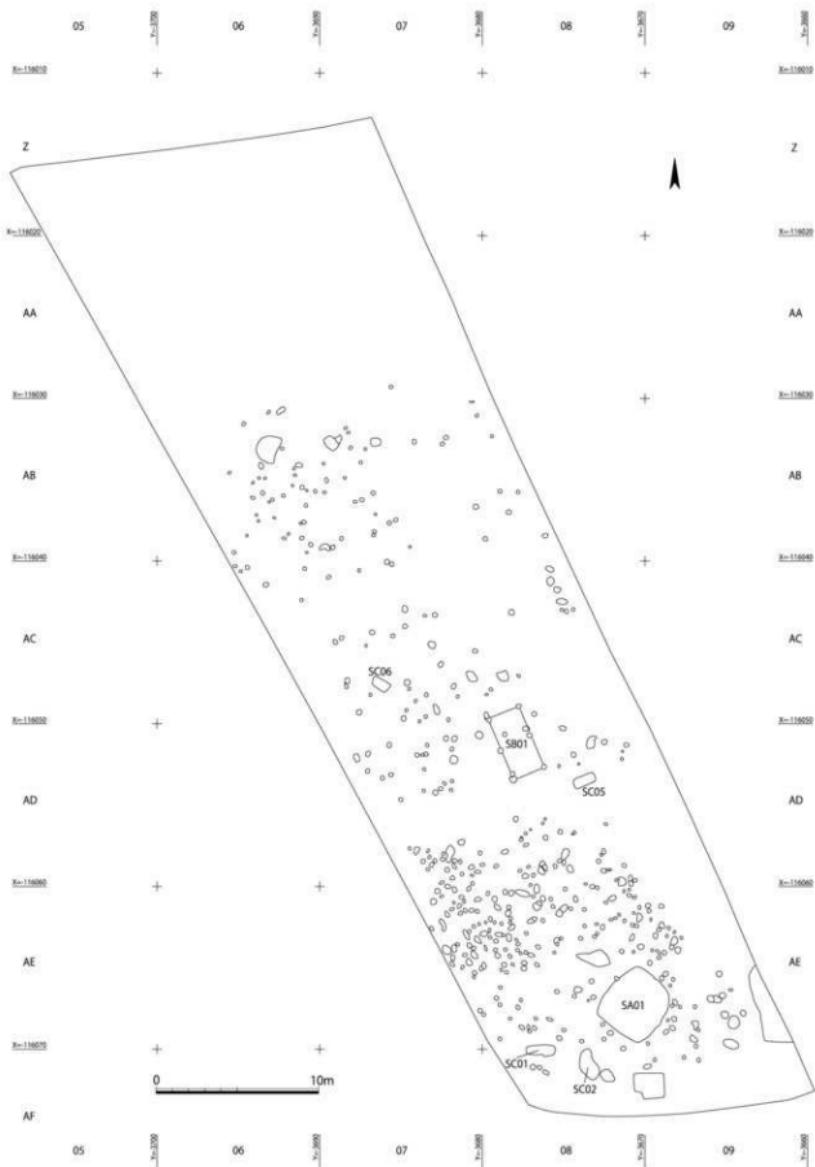


図5 山中遺跡1区の遺構分布図(1/300)

SA01

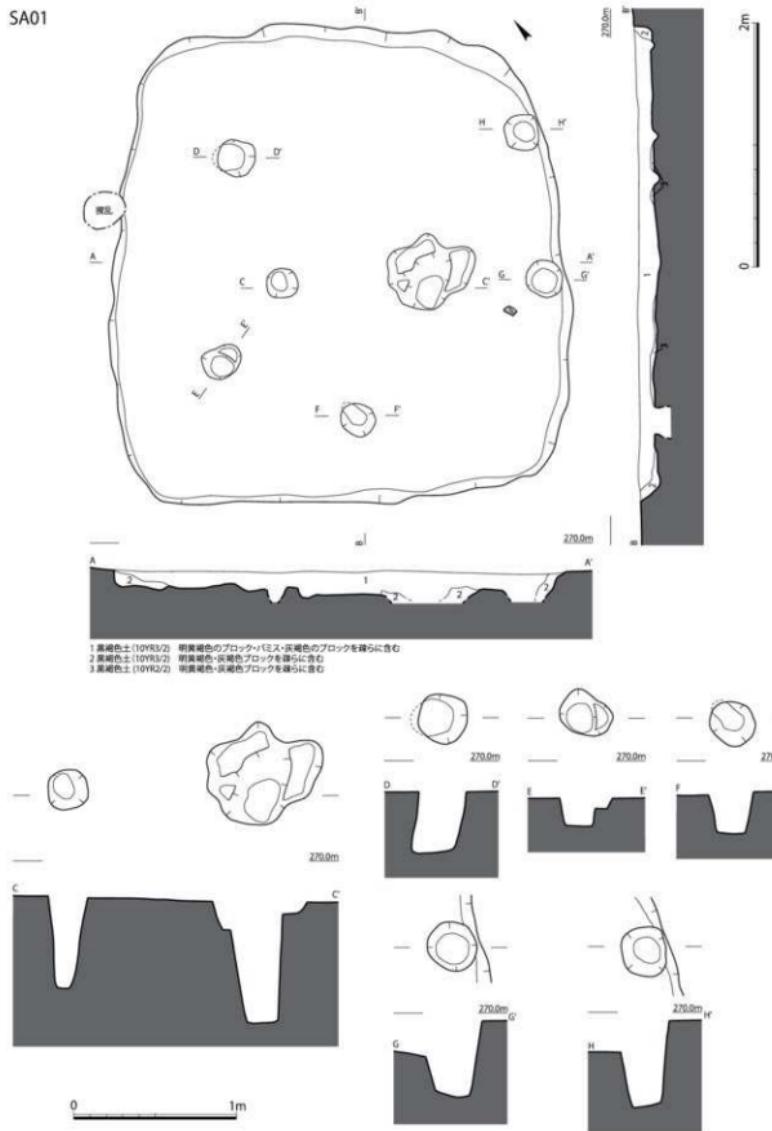
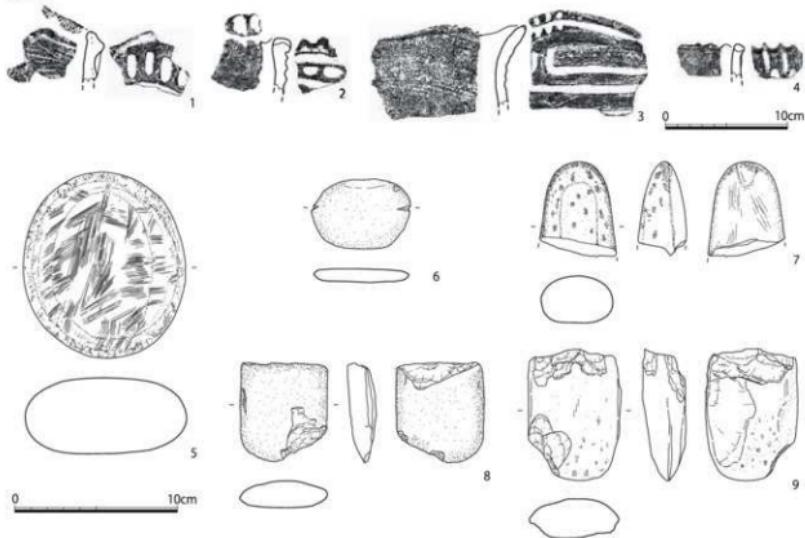
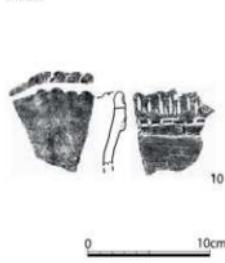


図 6 SA01 積穴住居平面図 (1/40) + 断面図 (1/30)

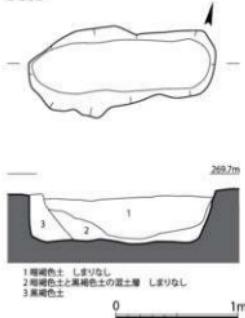
SA01



SC02



SC05



SC06



図7 SA01 出土遺物 (1~4 : 1/4 • 5~9 : 1/3) SC02 出土遺物 (1/4) • SC05・06 土坑 (1/40)

SB01

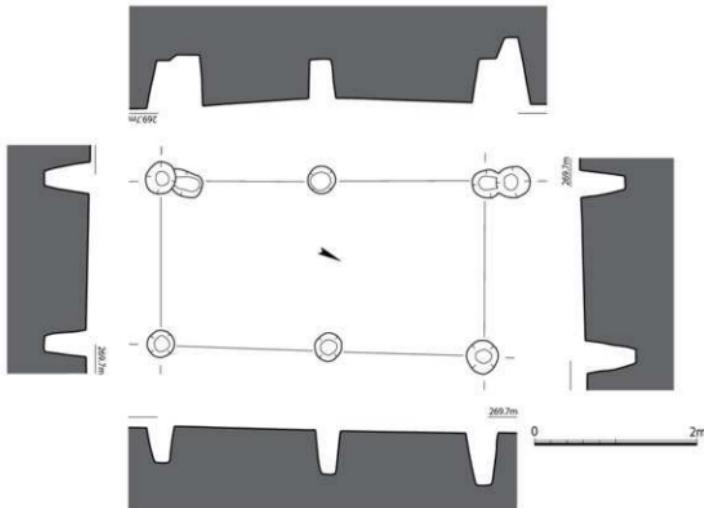


図 8 SB01 掘立柱建物 (1/60)

SC05 (図 7)

調査区中央部 AD08 区画に位置する。平面は長軸 1.55m、短軸 0.50 ~ 0.74m の不整形な長方形で、深さ 0.43m を測る。底面は平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。形状から土坑墓となる可能性がある。埋土中からは縄文時代後期頃の土器が出土しているが、小片のため図示しなかった。

SC06 (図 7)

調査区中央部 AC07 区画に位置する。平面は長軸 1.19m、短軸 0.55m の長方形で、深さ 0.40m を測る。底面にはやや凹凸があり、壁は直角気味に立ち上がる。規模や形状から土坑墓の可能性も考えられる。埋土中からは縄文時代後期と思われる土器の小片が数点出土したのみである。

掘立柱建物

SB01 (図 8)

調査区中央部 AC08・AD08 区画に位置する北西一南東棟の掘立柱建物で、梁行 1 間 (2.10m) × 桁行 2 間 (4.00m)、床面積は 8.40m² である。梁行柱間は 2.05 ~ 2.10m、桁行柱間は 1.95 ~ 2.05m で、建物を構成する柱穴は径 0.35 ~ 0.40m の円形基調である。所産時期については、埋土が縄文時代の遺構のものと異なっており、柱穴規模や柱間隔などから中世頃のものと考えられるが、柱穴埋土からは縄文時代後期前葉頃の小破片が少量出土したのみであり、時期を確定することは出来なかった。

3 遺構外出土遺物

縄文時代前期～後期の土器（図9～13）

11～27は縄文時代前期の曾畠式で、いずれも滑石を含まない。

28・29は連点文を多用する一群で、28は口唇部にも刺突を持ち、内面は無文とする。

30・31は縄文時代中期の春日式で、30は降帯状に肥厚する口縁部に貝刺突を行う。31の口唇部内面側には深い凹点を刺突し、肥厚する口縁部外面には浅い凹点が観察される。

32～42、50～81は岩崎式で、32～38は、口縁部を肥厚させ凹点を施文する。32の器壁は薄く、外面文様が内面側に凹凸として現れる。40・42の口縁部の刺突は、32などに比べて細くなり、口縁部以下の文様描線も同様に細くなる。52～59は凹線・沈線間に貝刺突を施すもので、59は2本沈線間の貝刺突が器壁全面を廻ることなく途中で止まっている。65は外反気味に立ち上がる口縁で、口縁部付近を無文とし、胴部には浅い凹線を施文する。68～75は口縁部付近を無文にして、口縁部と頸部の境に横走沈線・凹線を施文するもの。76～81は細い沈線で施文され、79は僅かに肥厚する口唇部に沈線を廻らせる。

82は沈線間に貝刺突を充填する鉢で、穿孔を持つ筒状突起が付く。筒状突起の下位には橋状把手の痕跡が観察される。

43～49は阿高式で、43は滑石を混入する。44・45には交互凹点、48には入組文が認められる。

83～99は南福寺式～出水式で、84は撚り紐状の把手を持つ。88～92・94は沈線と刺突を組み合わせるものである。

100～104は指宿式に併行するものと考えられ、103は口縁部から少し下がる部分に2本の横走沈線を施文し、その部分から丁字文を垂下させ、口唇部には斜方向の刻みを持つ。102・104は口唇部に沈線を廻らせ、口唇部を僅かに肥厚させる。

105～110は後期初頭～前葉頃のものと考えられる。105は縱方向の短沈線で菱形の文様を施文する。

111～118は肥厚する口縁部に文様を施文する市来式である。文様帶の幅は市来式の中段階以降のものに比べ狭く、市来式のなかでも古い段階のものと考えられる。

119～128は無文土器である。119は口縁部下を強くナデ調整することにより、口縁に肥厚部を形成している。124は頸部から短く外反させるもので、内面頸部付近には稜線を持つ。127は外反気味に立ち上がるもので、口縁部を僅かに肥厚させる。

129～142は底部。138の外面には凹点が施文される。139は底部付近まで文様が施文されるもので、明確ではないが縄文が観察される。

143～160は土製円盤で、149・154・158は側面の全面に磨滅痕が観察される。159・160には焼成後に穿孔された痕跡を持ち、貫通する。156にも焼成後の穿孔が認められるが、貫通はしていない。

161・162は側面に抉りを持つ土器片錐である。

打製石器（図14・15）

163～180は石鏃である。163～172は二等辺三角形のもので、基部の抉りの比較的深いものが多い。173～179は正三角形のもので、174～178は抉りの深い凹基、173は微凹基、179は平基である。180は剥片の一部を加工した剥片鏃である。

181～190は石匙で、181～185は縦型、186～190は横型である。187は表裏両面に調整加工を行い、それ以外のものについては、剥片の縁辺に調整加工を行ふものである。

191・192は石錐で、191は丁寧な調整加工が観察される。

195は扁平な円盤に調整剥離を行っており、調整加工により形成された縁辺部分に敲打痕が認められる。

磨製石器・礫石器（図 15・16）

196・197 はホルンフェルス製の磨製石斧、198～202 は多孔質安山岩を用いた磨石である。199 は側面にも磨滅痕が観察される。203 は両端に敲打痕を持つ敲石、204～210 は切目石錘である。211・212 は安山岩を用いた石皿及び台石である。

弥生時代以降の遺物（図 17）

213 は古墳時代の土師器甕であり、外面にミガキ調整が認められる。214・215 は青磁碗・皿で、214 は復元口径 14.0cm を測り、口縁部外面に雷文帯を有する。216 は中世後期の染付皿、217～225 は近世の陶磁器である。217・218 は染付碗、222～225 は薩摩焼陶器で 225 は擂鉢である。

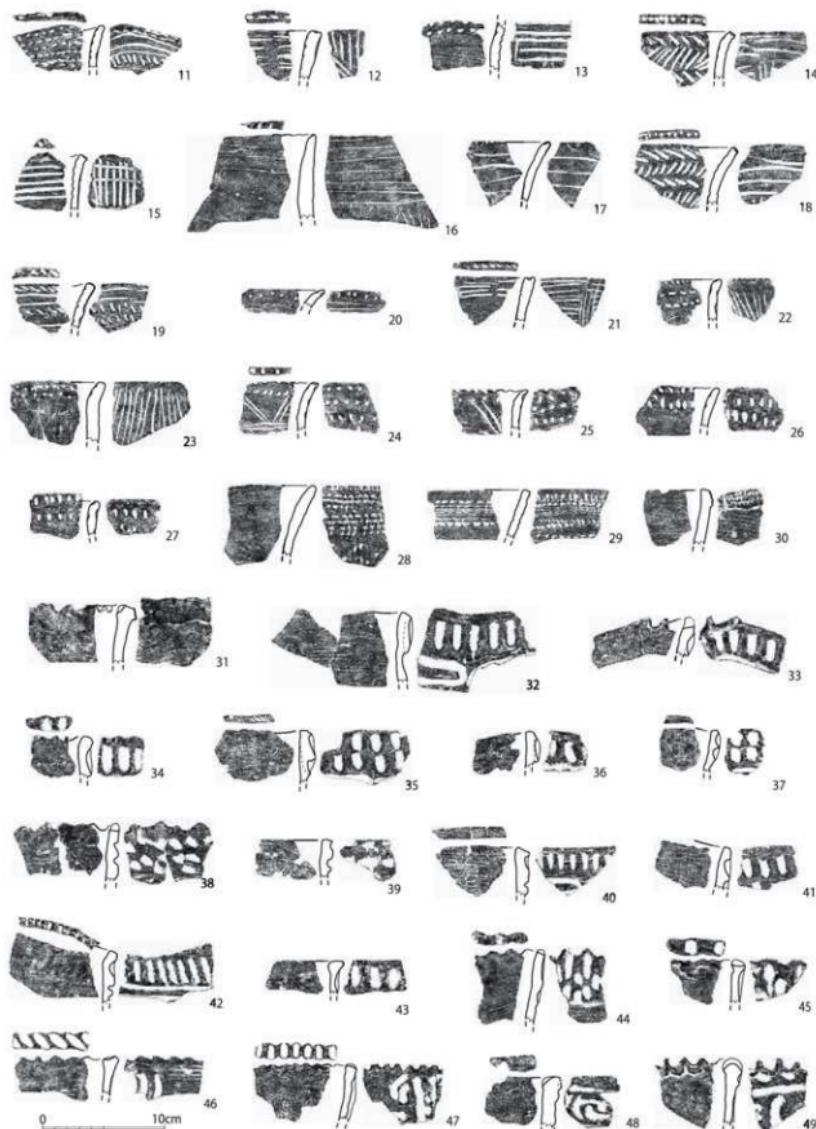


図9 1区遺構外出土遺物1 (1/4)

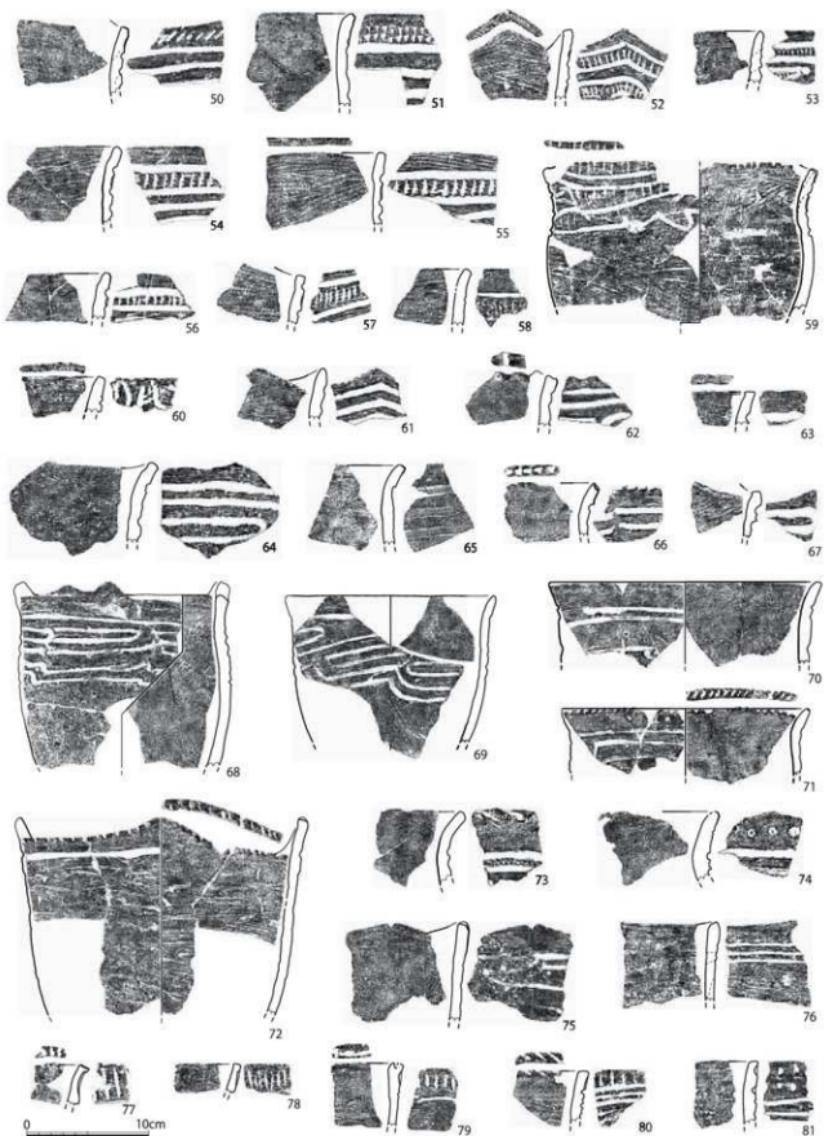


図 10 1 区遺構外出土遺物 2 (1/4)

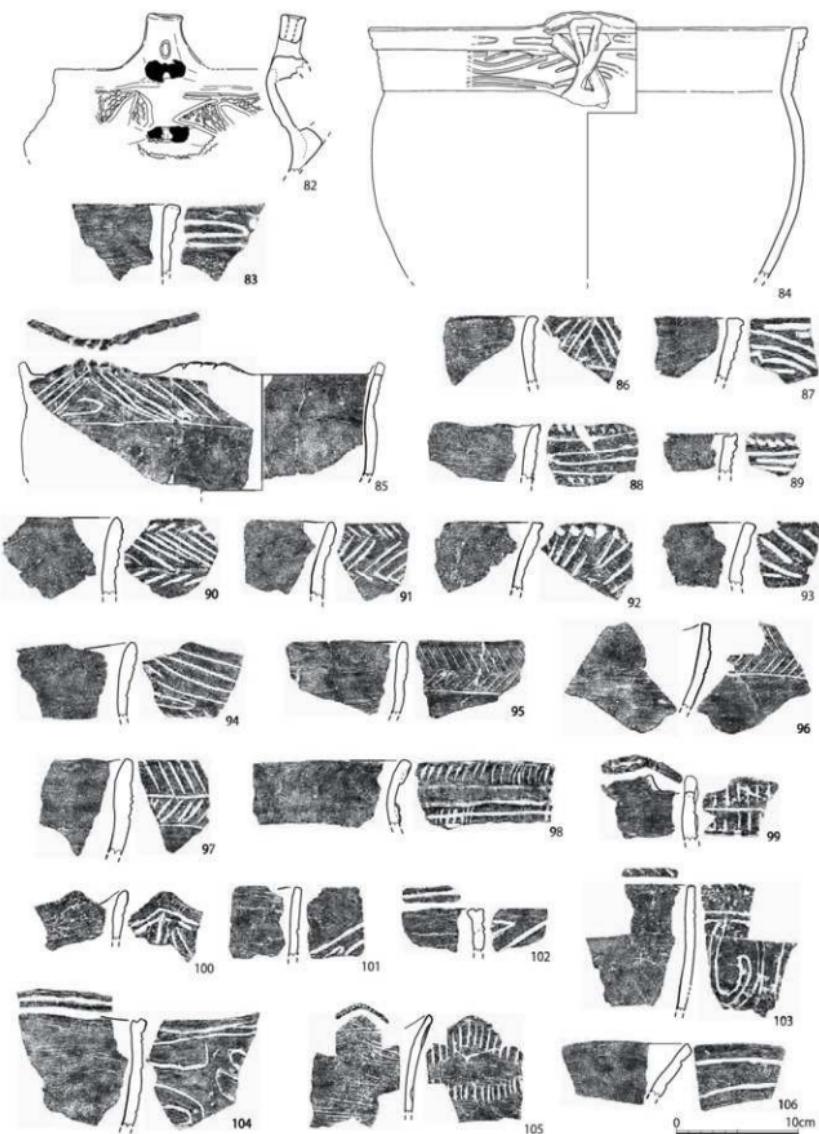


図 11 1区遺構外出土遺物 3 (1/4)

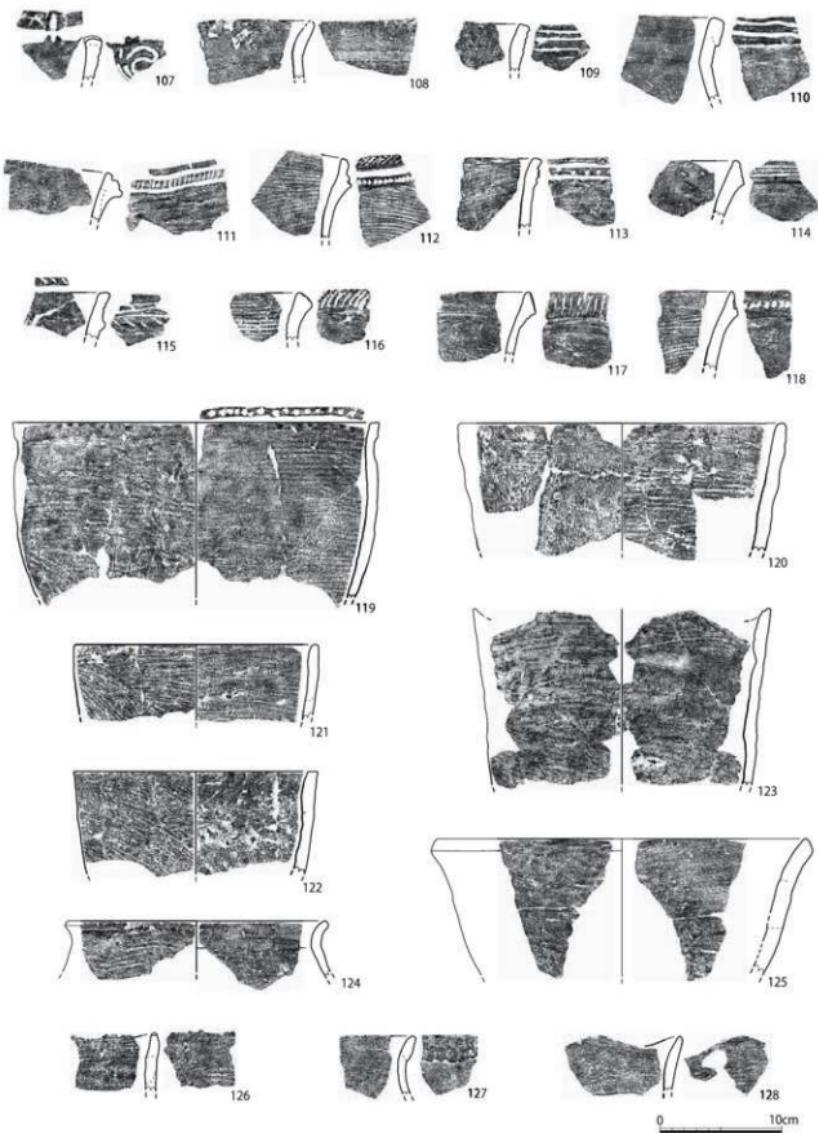


図 12 1 区遺構外出土遺物 4 (1/4)

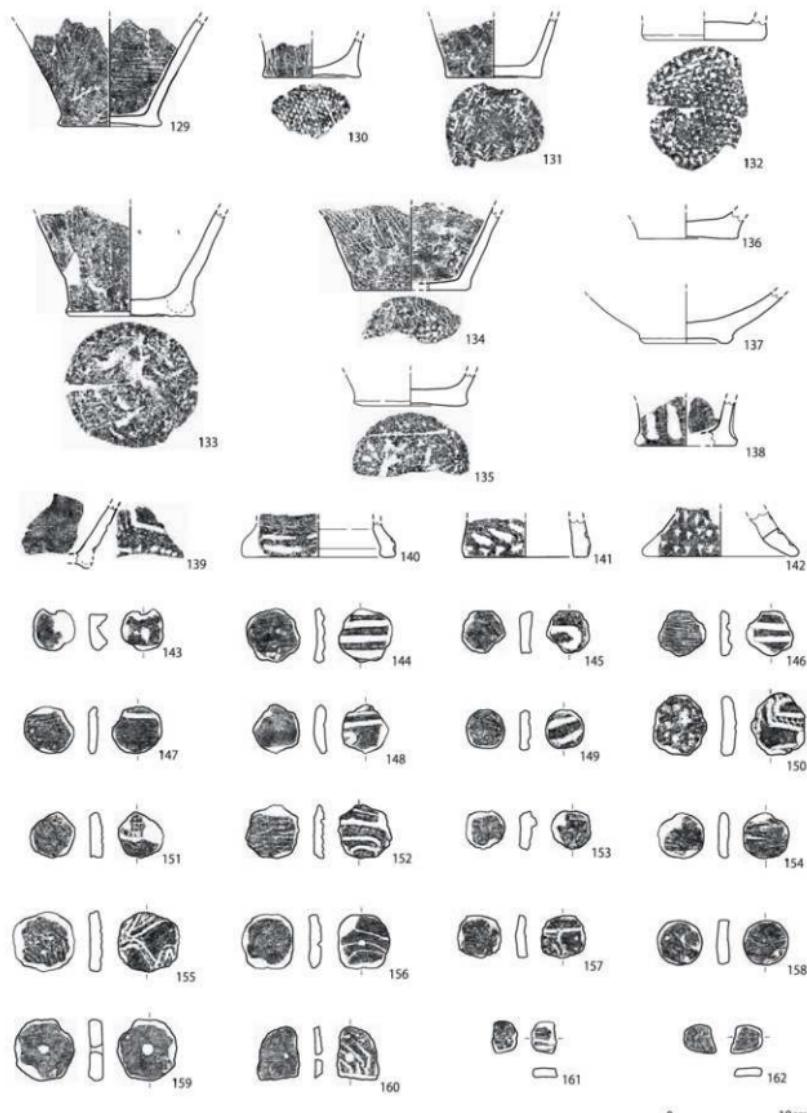


図 13 1区遺構外出土遺物 5 (1/4)

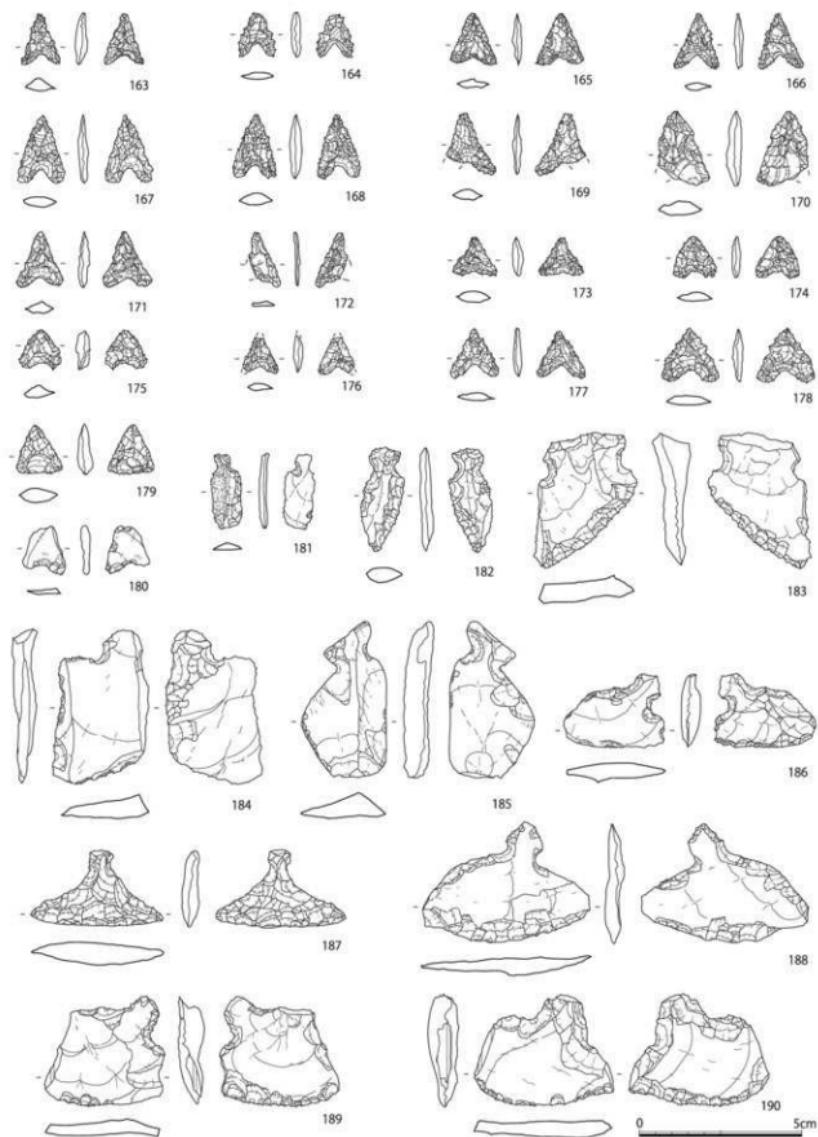


図 14 1 区遺構外出土遺物 6 (2/3)

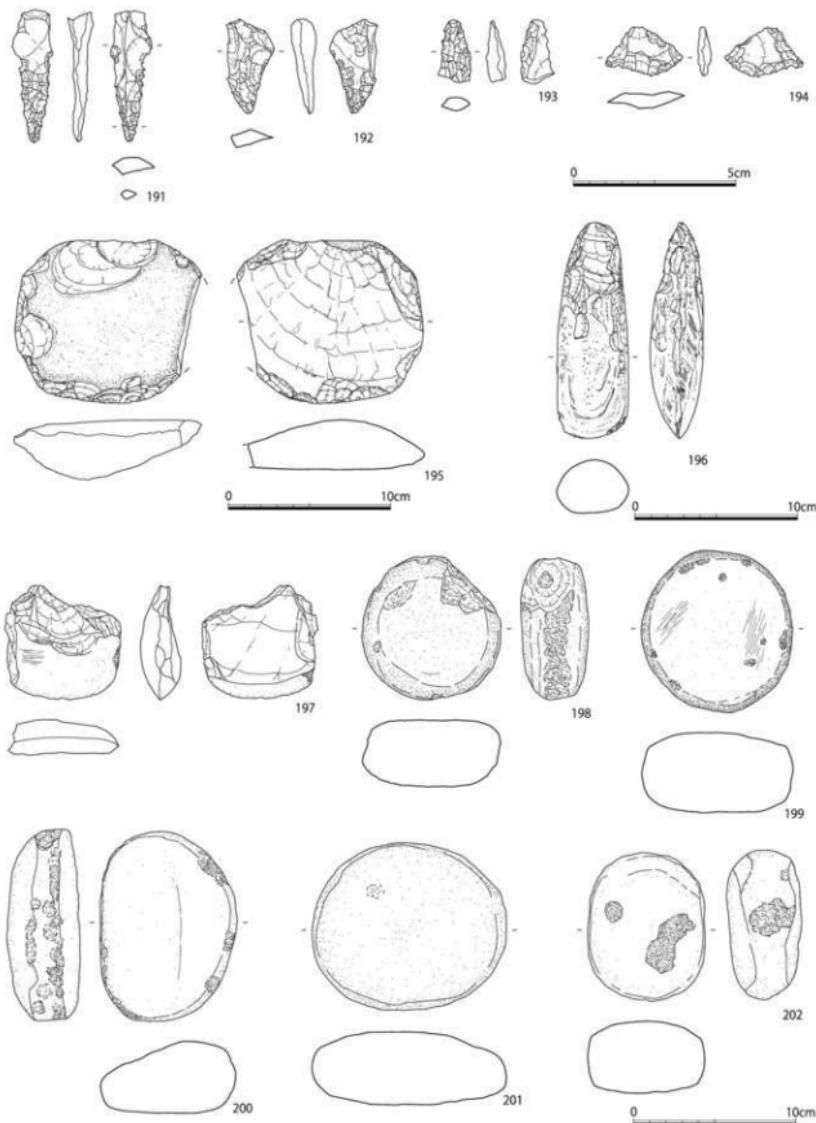


図15 1区造構外出土遺物7 (191~194:2/3 195~202:1/3)

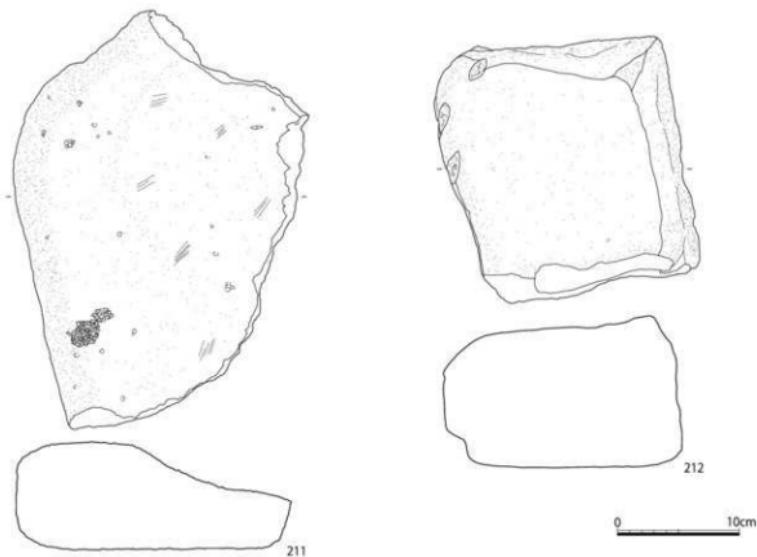
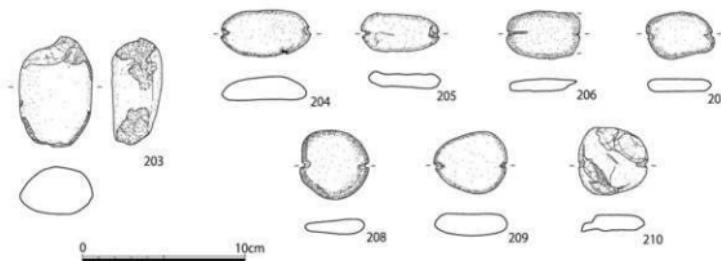


図 16 1 区遺構外出土遺物 8 (203 ~ 210 : 1/3 211・212 : 1/4)

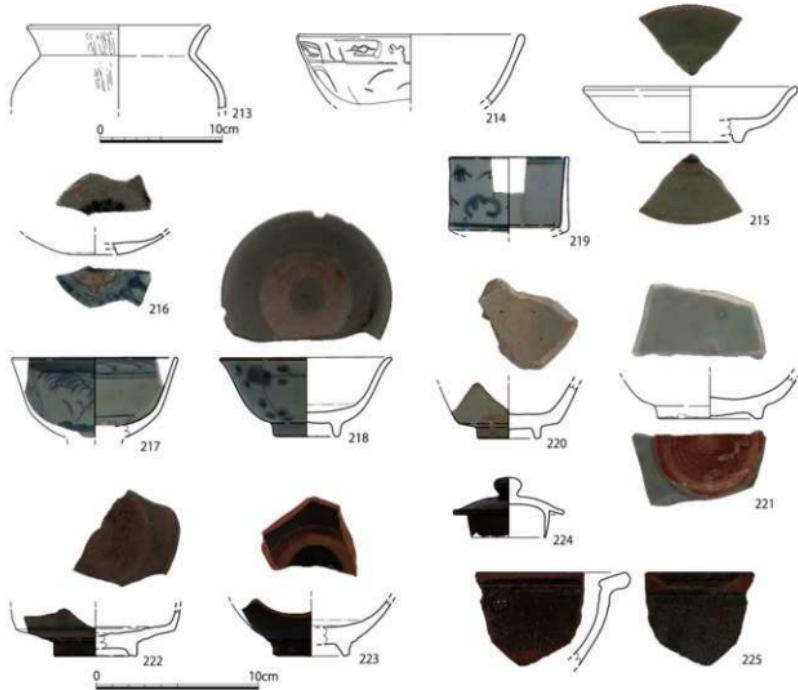


図 17 1区遺構外出土遺物 9 (213: 1/4 214~225: 1/3)

表 1 1 区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法cm			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
1	SAB1	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹点 内:ナード	外:7.5VR4/2K褐 内:10YR6/4C-5A 黄相	-
2	SAB1	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹輪・回点 内:ナード	外:7.5VR5/4C-5A 黄 内:2.5V4/2暗灰黄	外面保付着
3	SAB1	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹輪 内:ナード	外:5VR6/6 黑褐 内:2.5VR7/3黑	-
4	SAB1	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹点 内:ナード	外:10VR3/1黒褐 内:10VR3/2黒褐	-
10	SC02	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線・斜突 内:ナード	外:10VR3/1黒褐 内:2.5V4/2暗灰黄	-
11	AD09 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線・斜突 内:ナード→斜突	外:7.5VR5/4C-5A 黄 内:10YR5/4C-5A 黄褐	-
12	AC08	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード	外:10VR4/1黒褐 内:10VR6/4C-5A 黄相	-
13	AC07 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード→斜突	外:7.5VR4/4暗 内:2.5VR5/4C-5A 黄	-
14	AC08 IV層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線・斜突 内:ナード→沈線	外:2.5V4/1黄褐 内:2.5V5/2A 黄	-
15	AC07 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード→沈線	外:10VR3/1黒褐 内:2.5V4/1黄褐	-
16	AC07 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード→沈線	外:7.5VR4/3暗 内:10VR5/4C-5A 黄相	外内面保付着
17	AC07 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード→沈線	外:2.5V3/1黒褐 内:2.5V3/2黒褐	-
18	AC08 V層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード→斜突	外:2.5V4/1黄褐 内:2.5V4/4黄褐	-
19	AC08	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線・斜突 内:ナード→沈線・斜突	外:10VR5/3C-5A 黄褐 内:10VR5/3C-5A 黄褐	-
20	AC07 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード→斜突	外:2.5V3/1黒褐 内:2.5V5/3C-5A 黄	-
21	AC08 IV層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード→沈線	外:10VR5/3C-5A 黄褐 内:10VR5/3C-5A 黄相	-
22	AA05 II層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→斜突 内:ナード→斜突	外:2.5V4/3C-5A 黄 内:2.5VR6/3C-5A 黄	-
23	AC08 VI層・V層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード→斜突	外:10VR3/1黒褐 内:2.5VR4/3暗	-
24	AC08 IV層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→斜突 内:ナード→沈線・斜突	外:7.5VR6/4C-5A 黄 内:10VR5/3C-5A 黄相	-
25	AC08	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→斜突 内:ナード→沈線・斜突	外:7.5VR5/4C-5A 黄 内:10VR5/3C-5A 黄相	-
26	AC08	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→斜突・沈線 内:ナード→斜突	外:2.5V4/1黄褐 内:2.5V5/2暗黄	-
27	AC08 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→斜突 内:ナード→斜突	外:10VR6/2C 黄褐 内:10VR6/2C 黄褐	口唇部に刻み
28	AC08 IV層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→押引 内:ナード	外:7.5VR3/2C 黑褐 内:5VR4/4C-5A 黄相	-
29	-	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→斜突・押引 内:ナード→押引	外:10VR3/1黒褐 内:10VR3/3C-5A 黄相	-
30	AF06 II層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貞斜突 内:ナード→斜線・ナード	外:10VR5/3C-5A 黄褐 内:10VR5/4C-5A 黄相	-
31	AC08	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→斜線 内:ナード	外:10VR3/1 黑 内:10VR4/3C-5A 黄褐	-
32	AD08	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹点・凹輪 内:ナード→斜線・ナード	外:7.5VR5/4C-5A 黄 内:5VR6/6 黑	-
33	AB07 IV層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹点 内:ナード	外:10VR5/4C 黄褐 内:7.5VR6/4C-5A 暗	-
34	AC08 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹点 内:ナード	外:10VR7/4C-5A 黄相 内:2.5V7/4浅黄	-
35	AB09 IV層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹点→凹輪 内:ナード	外:10VR5/4C 黄褐 内:10VR6/4C-5A 黄相	-
36	-	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹点 内:ナード	外:10VR7/4C-5A 黄相 内:2.5V7/3浅黄	-
37	AB09 IV層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹点→凹輪 内:ナード	外:2.5V3/1黒褐 内:2.5V2/1黑	-
38	-	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹点 内:ナード	外:2.5V3/1黒褐 内:2.5V3/1黒褐	-
39	AC08 IV層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹点 内:ナード	外:2.5V3/1黒褐 内:2.5V4/1黄褐	-
40	AB09 VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹輪・沈線 内:ナード→ナード	外:7.5VR7/4C-5A 黄 内:2.5VR5/3C-5A 黄	-
41	AB07 IV層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹点 内:ナード	外:10VR7/4C-5A 黄相 内:2.5V7/4浅黄	-
42	AC08 IV層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線・斜突 内:ナード	外:10VR4/3C 黄褐 内:10VR6/3C-5A 黄相	-

表1 1区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法(cm)			調査	色調	備考
			口径	底径	器高			
43	AC08 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縁・凹点 内:ナード	外:10YR6/4C-5A・黄相 内:10YR6/4C-5A・黄相	滑石入
44	AD09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹点 内:ナード	外:7.5VR3/2黒褐 内:10YR5/4C-5A・黄相	-
45	AC08 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹点 内:ナード	外:10YR5/3C-5A・黄相 内:7.5VR5/4C-5A・褐	-
46	AF09 II層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝・貝殻→ナード→凹縁 内:ナード	外:7.5VR4/3黒 内:10YR4/3C-5A・黄相	-
47	AF09 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縫・凹縁 内:ナード	外:7.5VR5/4C-5A・褐 内:10YR4/3C-5A・黄相	内面傷付着
48	II層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縫	外:10YR2/1黒 内:7.5VR5/4C-5A・褐	-
49	II層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縫・凹点 内:ナード	外:10YR3/1黒褐 内:10YR4/2C 黄褐	外面傷付着
50	AB08 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード・丸縁・貝刺突 内:ナード	外:10YR3/1黒褐 内:10YR5/3C-5A・黄相	-
51	AB08 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縫・貝刺突 内:ナード	外:2.5VR4/3黒 内:7.5VR5/6黒褐	-
52	AF09 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード・丸縁→貝刺突 内:貝・貝殻→ナード	外:7.5VR4/2黒褐 内:2.5V5/3 黄褐	-
53	AA06 II層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縫・貝刺突 内:ナード	外:10YR4/2C 黄褐 内:10YR6/4C-5A・黄相	-
54	AB07 AD08	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縫・貝刺突 内:貝・貝殻→ナード	外:7.5VR5/4C-5A・褐 内:10YR6/6黒	-
55	AA07 V層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縫・貝刺突 内:貝・貝殻→ナード	外:7.5VR6/4C-5A・褐 内:10YR6/6黒	-
56	AD09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縫・貝刺突 内:ナード	外:7.5VR6/4C-5A・褐 内:10YR6/6黒	-
57	AB08 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縫・貝刺突 内:貝・貝殻→ナード	外:2.5V5/3に点・黄 内:2.5V5/2 黄灰	-
58	II層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縫・貝刺突 内:貝・貝殻→ナード	外:2.5V5/1黒褐 内:2.5V5/3に点・褐	-
59	AB08	圓文土器 深鉢	(22.5)	-	-	外:ナード→凹縫・貝刺突 内:貝・貝殻→ナード	外:10YR4/2C 黄褐 内:7.5VR5/4C-5A・褐	-
60	AC08 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縫・貝刺突 内:ナード	外:10YR3/1黒褐 内:10YR5/4C 黄褐	-
61	AB08 V層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縫 内:貝・貝殻→ナード	外:7.5VR5/3C-5A・褐 内:7.5VR6/4C-5A・褐	外面傷付着
62	AD09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縫 内:ナード	外:2.5VR4/3黒 内:2.5VR4/3黒	-
63	-	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縫 内:ナード	外:10YR6/4C-5A・黄相 内:7.5VR5/4C-5A・褐	-
64	AB08 V層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縫 内:ナード	外:7.5VR6/4C-5A・褐 内:7.5VR5/4C-5A・褐	-
65	AF09	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縫 内:ナード	外:10YR3/1黒褐 内:10YR5/3C-5A・黄相	-
66	AB09 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縫 内:ナード	外:10YR3/1黒褐 内:10YR5/4C-5A・黄相	-
67	AD09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縫 内:貝・貝殻→ナード	外:10YR6/3C-5A・黄相 内:10YR2/1黒	-
68	SC03	圓文土器 深鉢	(17.30)	-	-	外:ナード→凹縫 内:ナード	外:2V2/1黒 内:10YR4/2C 黄褐	-
69	AC08 IV層	圓文土器 深鉢	(17.2)	-	-	外:ナード→凹縫 内:ナード	外:7.5VR5/4C-5A・褐 内:7.5VR4/3黒	-
70	AC08 IV層	圓文土器 深鉢	(22.4)	-	-	外:ナード→凹縫 内:ナード	外:2.5VR2/1黒 内:7.5VR4/2黒褐	外面傷付着
71	AB08 IV層	圓文土器 深鉢	(20.4)	-	-	外:ナード→凹縫 内:ナード	外:7.5VR5/4C-5A・褐 内:10YR3/3黒	外面傷付着
72	AB08 IV層	圓文土器 深鉢	(24.0)	-	-	外:ナード→凹縫 内:ナード	外:7.5VR6/4C-5A・褐 内:10YR3/2黒褐	-
73	AB08 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縫・貝刺突 内:ナード	外:7.5VR3/2黒褐 内:10YR6/6明るい褐	-
74	II層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縫・貝刺突 内:ナード	外:2.5VR2/1黒 内:2.5VR4/3黒	-
75	AF09 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縫 内:ナード	外:7.5VR5/4C-5A・褐 内:10YR3/4C-5A・暗褐	-
76	AB08 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縫 内:ナード	外:10YR7/4C-5A・黄相 内:10YR6/2C 黄褐	外面傷付着
77	-	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縫 内:ナード	外:7.5VR6/4C-5A・褐 内:2.5V4/1 黄灰	-
78	AF09 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縫・貝刺突 内:ナード	外:2.5V6/3に点・黄 内:2.5V4/1 黄灰	-
79	AB08 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縫・貝刺突 内:ナード	外:10YR3/1黒褐 内:10YR3/1黒褐	外面傷付着

表 1 1 区出土遺物觀察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法cm			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
80	AB08 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→式縁→貝刺突 内:ナード	外:2.5V3/1黒褐 内:10V2/2.1黒	-
81	AF09 II層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈縁・刺突 内:ナード	外:7.5VR3/41.5-5.5+褐 内:10V5/21.5-5.5+黄褐	-
82	AF09 II層	圓文土器 深鉢	(18.4)	-	-	外:ナード→沈縁→貝刺突 内:ナード	外:10V5/5.5+褐 内:10V5/41.5-5.5+黄褐	偏状把手、葉状突起
83	AD08 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縁 内:ナード	外:10V3/1黒褐 内:7.5VR4/2黒	-
84	AH08 VI層・IV層	圓文土器 深鉢	(36.0)	-	-	外:ナード→式縁 内:ナード	外:7VR5/6明赤褐 内:10V6/41.5-5.5+黄褐	偏状把手
85	AF09 IV層	圓文土器 深鉢	(30.0)	-	-	外:ナード→式縁 内:ナード	外:7.5VR3/2黒褐 内:7.5VR5/41.5-5.5+褐	外面僅付着
86	AE09 V層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→式縁 内:ナード	外:2.5V1/3黒褐 内:2.5V1/3黒褐	-
87	AD07	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→式縁 内:ナード	外:7.5VR5/41.5-5.5+褐 内:7.5VR5/41.5-5.5+褐	外面僅付着
88	AF09 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→式縁→貝刺突 内:ナード	外:7.5VR4/2黒 内:10V3/1黒褐	-
89	AF09 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→式縁・刺突 内:ナード	外:10V4/1.5+黄褐 内:7.5VR5/41.5-5.5+褐	-
90	AF09 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→短沈縁 内:ナード	外:10V3/1黒褐 内:7.5VR4/2黒褐	-
91	AF09 VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→短沈縲 内:ナード	外:10V5/41.5-5.5+黄褐 内:7.5VR5/41.5-5.5+褐	-
92	-	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈縲→貝刺突 内:ナード	外:7.5VR4/3.5-5.5+褐 内:7.5VR4/3.5-5.5+褐	-
93	AC08 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→式縲 内:ナード	外:7.5VR5/41.5-5.5+褐 内:7.5VR5/41.5-5.5+褐	-
94	AF09 II層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→式縲 内:ナード	外:7.5VR3/2黒褐 内:7.5VR4/3.5-5.5+褐	-
95	AF09 II層・IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→式縲・短沈縲 内:貝条・ナード	外:10V2/3黒褐 内:10V2/3黒褐	外面僅付着
96	AF09 VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→短沈縲・深縲 内:貝条・ナード	外:10V4/1.5+黄褐 内:10V3/1黒褐	外面僅付着
97	AF09 II層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→短沈縲・式縲 内:ナード	外:10V5/3.5-5.5+黄褐 内:7.5VR5/41.5-5.5+褐	外面僅付着
98	AF09 VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→側突・沈縲 内:ナード	外:2.5V3/1黒褐 内:7.5VR5/41.5-5.5+褐	-
99	II層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→式縲・貝刺突 内:ナード	外:7.5VR3/2黒褐 内:7.5VR5/41.5-5.5+褐	外面僅付着
100	AC08 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→式縲 内:貝条・ナード	外:10V6/4.5-5.5+黄褐 内:10V6/4.5-5.5+黄褐	外面僅付着
101	AC08	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→式縲 内:貝条・ナード	外:10V6/4.5-5.5+黄褐 内:10V6/4.5+黄褐	-
102	AC08 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→式縲 内:ナード	外:10V1/1黒褐 内:7.5VR5/41.5-5.5+褐	-
103	AF07 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→式縲 内:ナード	外:7.5VR5/41.5-5.5+褐 内:10V4/1.5+黄褐	-
104	AF09 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈縲 内:ナード	外:2.5V3/1黒褐 内:10V4/1.5+黄褐	-
105	AB08 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貝刺突 内:貝条・ナード	外:7.5VR4/2黒褐 内:10V3/1黒褐	-
106	AF09 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→式縲 内:ナード	外:7.5VR4/2黒褐 内:2.5V3/1黒褐	外面僅付着
107	-	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→式縲 内:ナード	外:7.5VR3/1黒褐 内:7.5VR5/41.5-5.5+褐	-
108	AF09 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縲 内:ナード	外:7.5VR5/41.5-5.5+褐 内:7.5VR5/41.5-5.5+褐	外面僅付着
109	AA06 II層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→式縲 内:ナード	外:10V4/1.5+黄褐 内:10V4/1.5+黄褐	-
110	-	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→式縲 内:ナード	外:2.5V3/1黒褐 内:7.5VR5/41.5-5.5+褐	-
111	AF09 VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→式縲→貝刺突 内:ナード	外:2.5V3/1黒褐 内:2.5V3/1黒褐	-
112	-	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条・式縲→貝刺突 内:貝条・ナード	外:10V3/1黒褐 内:10V5/3.5-5.5+黄褐	-
113	AF09 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→式縲→貝刺突 内:ナード	外:7.5VR7/6褐 内:10V6/3.5-5.5+黄褐	-
114	AF09 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→式縲→貝刺突 内:ナード	外:7.5VR5/41.5-5.5+褐 内:7.5VR5/41.5-5.5+褐	-
115	II層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貝刺突 内:ナード	外:7.5VR5/41.5-5.5+褐 内:7.5VR5/41.5-5.5+褐	-
116	AF09 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貝刺突 内:貝条・ナード	外:7VR6/6褐 内:10V6/4.5-5.5+黄褐	-

表1 1区出土遺物觀察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法cm			調査	色調	備考
			口径	底径	器高			
117	AF09 IV層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈縁 内:ナード	外:5YR5/6明赤褐色 内:7.5YR8/6暗	-
118	AF09 II層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貝刺突 内:貝刺突→ナード	外:2.5Y3/1黒褐色 内:10YR4/2暗黃褐色	-
119	AB08 IV層	調文土器 深鉢	(30.0)	-	-	外:貝刺突→ナード 内:貝刺突→ナード	外:2.5Y3/2黒褐色 内:2.5Y3/1黒褐色	外面僅存着
120	AB08 IV層・V層	深鉢	(27.0)	-	-	外:ナード 内:貝刺突→ナード	外:2.5Y3/1黒褐色 内:10YR6/4C-5暗黃褐色	-
121	AC08 IV層	調文土器 深鉢	(20.2)	-	-	外:貝刺突→ナード 内:貝刺突→ナード	外:5YR6/6暗 内:2.5Y3/2暗黃	-
122	AB08 IV層・V層	調文土器 深鉢	(20.0)	-	-	外:ナード 内:ナード	外:10YR3/1黒褐色 内:10YR5/2暗黃褐色	-
123	AC08 IV層	調文土器 深鉢	(24.0)	-	-	外:ナード 内:ナード	外:5YR6/4C-5暗黃褐色 内:5YR6/6暗	-
124	-	調文土器 深鉢	(21.0)	-	-	外:ナード 内:ナード	外:10YR7/3C-5暗黃褐色 内:2.5Y3/2暗黃	-
125	AF09	調文土器 深鉢	(31.3)	-	-	外:ナード 内:貝刺突→ナード	外:10YR6/4C-5暗黃褐色 内:10YR6/4C-5暗黃褐色	-
126	AC08 IV層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード 内:ナード	外:5YR6/6暗 内:5YR6/6暗	外面僅存着
127	AC08 IV層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→ミガキ? 内:ナード	外:7.5YR2/1黒褐色 内:7.5YR4/3暗	-
128	AF09	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード 内:貝刺突→ナード	外:10YR4/2暗黃褐色 内:7.5YR5/4C-5暗	-
129	AF09 IV層	調文土器 深鉢	-	(8.0)	-	外:ナード 内:貝刺突→ナード	外:10YR7/3C-5暗 内:10YR5/2C-5暗黃褐色	-
130	-	調文土器 深鉢	-	(8.1)	-	外:ナード 内:ナード	外:10YR5/4浅黃褐色 内:10YR5/4黒褐色	調代底
131	AB08 V層	調文土器 深鉢	-	(7.9)	-	外:ナード 内:ナード	外:2.5YR5/4C-5暗黃褐色 内:5YR6/6暗	調代底
132	AF09	調文土器 深鉢	-	(10.2)	-	外:ナード 内:ナード	外:2.5YR5/6暗褐色 内:5YR6/4C-5暗	調代底
133	AB08 IV層	調文土器 深鉢	-	(10.6)	-	外:ナード 内:ナード	外:10YR7/4C-5暗黃褐色 内:7.5YR7/4C-5暗	底部に工具痕有り
134	AD09 VI層	調文土器 深鉢	-	(9.8)	-	外:ナード 内:貝刺突→ナード	外:10YR6/6暗黃褐色 内:10YR6/4C-5暗	調代底
135	AF09 IV層	調文土器 深鉢	-	(9.0)	-	外:ナード 内:ナード	外:10YR7/4C-5暗黃褐色 内:7.5YR7/4C-5暗	底部に複数の植物圧痕有り
136	AF09 IV層	調文土器 深鉢	-	(8.3)	-	外:ナード 内:ナード	外:5YR7/6暗 内:5YR7/6暗	-
137	AF09 II層	調文土器 深鉢	-	(7.7)	-	外:ナード 内:ナード	外:7.5YR7/6C-5暗 内:10YR6/2暗黃褐色	-
138	AD09 VI層	調文土器 深鉢	-	(8.4)	-	外:ナード→回線 内:ナード	外:7.5YR5/6暗 内:10YR6/4C-5暗黃褐色	-
139	AF09 IV層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈縁・刺突・調文? 内:ナード	外:7.5YR4/2暗褐色 内:5YR6/4C-5暗黃褐色	-
140	AF09 IV層	調文土器 台付盆形	-	(12.6)	-	外:ナード→刺突 内:ナード	外:7.5YR8/6暗黃褐色 内:7.5YR7/6暗	-
141	AF09 II層	調文土器 台付盆形	-	(10.5)	-	外:ナード→刺突 内:ナード	外:5YR6/4C-5暗 内:2.5YR5/6暗赤褐色	-
142	AF09 IV層	調文土器 台付盆形	-	(12.0)	-	外:ナード→刺突 内:ナード	外:7.5YR7/6暗 内:7.5YR7/6暗	内面に穿孔有り
143	AC08	土製品 土製円盤	版 3.3	横 3.5 厚 1.5	-	外:ナード→回点 内:ナード	外:7.5YR7/6暗 内:7.5YR7/6暗	重量 14.5g, 侧面磨滅痕有り(部分)
144	AC08	土製品 土製円盤	版 4.1	横 4.4 厚 0.7	-	外:ナード→回線 内:ナード	外:10YR3/3 暗褐色 内:5YR6/6明褐色	重量 16.4g
145	AC08	土製品 土製円盤	版 3.4	横 3.5 厚 1.0	-	外:ナード→回線 内:ナード	外:7.5YR3/2暗褐色 内:5YR4/4C-5暗黃褐色	重量 11.5g
146	AF09 IV層	土製品 土製円盤	版 3.7	横 3.9 厚 0.8	-	外:ナード→回線 内:ナード	外:7.5YR7/6暗 内:10YR7/4C-5暗黃褐色	重量 11.4g
147	AF09 IV層	土製品 土製円盤	版 3.9	横 4.1 厚 0.7	-	外:ナード→回線 内:ナード	外:5YR6/6明褐色 内:2.5YR5/8暗赤褐色	重量 13.2g
148	AF09 VI層	土製品 土製円盤	版 4.0	横 3.7 厚 0.85	-	外:ナード→回線 内:ナード	外:7.5YR4/3暗 内:5YR4/3C-5暗黃褐色	重量 12.8g
149	AC08 IV層	土製品 土製円盤	版 3.1	横 3.1 厚 0.8	-	外:ナード→回線 内:ナード	外:7.5YR2/2暗褐色 内:5YR4/6暗	重量 9.5g, 側面磨減痕有り(全面)
150	AF09 II層	土製品 土製円盤	版 4.9	横 4.3 厚 1.1	-	外:ナード→刺突→貝刺突 内:ナード	外:5YR4/4C-5暗 内:2.5YR5/8暗赤褐色	重量 28.3g
151	AF09 IV層	土製品 土製円盤	版 3.8	横 3.7 厚 1.0	-	外:ナード→回線→貝刺突 内:ナード	外:5YR2/1暗褐色 内:5YR4/4C-5暗黃褐色	重量 15.0g
152	AC08	土製品 土製円盤	版 4.3	横 4.4 厚 0.8	-	外:ナード→沈縁 内:ナード	外:7.5YR5/3C-5暗 内:7.5YR7/4C-5暗	重量 16.4g
153	AB08 IV層	土製品 土製円盤	版 3.1	横 3.1 厚 1.3	-	外:ナード→沈縁 内:ナード	外:5YR6/6暗 内:5YR5/6明赤褐色	重量 11.8g

表 1 1 区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法(cm)			調整	色調	備考
			口径	底径	高さ			
154	AB09	土製品 土製円盤	縦 3.8	横 3.7	厚 0.8	外: ナガリ-沈線 内: ナダ	外: 7.5VR3/2黒褐 内: 7.5VR5/4C-5S-9褐	重量 11.4g. 側面磨滅有(全面)
155	AC08 IV層	土製品 土製円盤	縦 4.9	横 5.1	厚 0.9	外: ナガリ-沈線 内: ナダ	外: 7.5VR4/4褐 内: 7.5VR5/3C-2S-9褐	重量 26.4g
156	AC08 IV層	土製品 土製円盤	縦 4.4	横 4.2	厚 1.0	外: ナガリ-沈線 内: ナダ	外: 7.5VR3/2黒褐 内: 7.5VR5/4C-2S-9褐	重量 20.4g. 地成抜穿孔有
157	AF09 II層	土製品 土製円盤	縦 3.5	横 3.6	厚 0.7	外: ナガリ-沈線 内: ナダ	外: 7.5VR6/6褐 内: 7.5VR6/6褐	重量 12.6g
158	AC09 VI層	土製品 土製円盤	縦 2.6	横 3.7	厚 1.8	外: ナダ 内: ナダ	外: 7.5VR3/2黒褐 内: 7.5VR4/4褐	重量 14.2g. 側面磨滅有(全面)
159	AF09 II層	土製品 土製円盤	縦 5.0	横 4.8	厚 1.1	外: ナダ 内: ナダ	外: 7.5VR4/6赤褐 内: 7.5VR5/8明赤褐	重量 27.4g. 側面磨滅有(部分) 穿孔有
160	AC08	土製品 土製円盤	縦 4.2	横 3.3	厚 0.8	外: ナガリ-沈線 内: ナダ	外: 7.5VR3/8明赤褐 内: 7.5VR4/4C-5S-9褐	重量 10.0g. 穿孔有
161	AF09 II層	土製品 土製片鱗	縦 2.0	横 2.1	厚 0.7	外: ナダ 内: ナダ	外: 7.5VR4/3C-5S-9赤褐 内: 7.5VR5/8明赤褐	重量 4.7g
162	AB08 VI層	土製品 土製片鱗	縦 2.3	横 2.6	厚 0.6	外: ナダ 内: ナダ	外: 7.5VR6/6褐 内: 7.5VR6/6褐	重量 4.1g
213	AC08 IV層	土製品 盤	15.0	-	-	外: ミガキ 内: ナダ	外: 7.5VR6/6褐 内: 7.5VR6/6褐	-
214	AA06 II層	青磁 碗	(14.0)	-	-	-	胎: N8/灰白 釉: SGV7/1明オーブフ	-
215	AB08	青磁 碗	(13.2)	6.0	3.2	-	胎: N2/灰白 釉: SGV7/1明オーブフ	-
216	AA05 II層	染付 皿	-	(2.8)	-	-	胎: N8/灰白 釉: 10BG7/1明青灰 文: 5H5/1青灰	-
217	205 II層	染付 碗	(10.2)	-	-	-	胎: N8/灰白 釉: 3GV8/1灰白 文: 5H5/1青灰	-
218	205 II層	染付 碗	10.6	4.1	4.9	-	胎: N8/灰白 釉: 10BG7/1 文: 5H4/1青灰	-
219	II層	染付 碗	(7.4)	-	-	-	胎: N8/灰白 釉: 10BG7/1明青灰 文: 5H6/1青灰	-
220	-	白磁 碗	-	3.9	-	-	胎: N2/灰白 釉: 10V8/1灰白	-
221	AA06 II層	青磁 碗	-	6.5	-	-	胎: N2/灰白 釉: 7.5GV7/1明青灰	-
222	205 II層	陶器 碗	-	(5.1)	-	-	胎: SVR4/2赤褐 釉: 10V6/2オーブフ	-
223	-	陶器 碗	-	(4.2)	-	-	胎: SVR6/6褐 釉: 10V2/2黒褐	-
224	205 II層	陶器 釜	(4.5)	-	-	-	胎: 5VR2/1黒褐 釉: 5VR2/3赤褐赤褐	-
225	AA06 II層	陶器 釜	-	-	-	-	胎: 2.5VR4/6赤褐 釉: 7.5VR3/2オーブフ	-

表1 1区出土遺物観察表（石器）

報告番号	出土地名	層位	器種	石材	寸法 (mm)			重量 (g)	備考
					長さ	幅	厚さ		
5	SA01	-	磨石	石英岩	113.5	98.4	45.1	812.7	-
6	SA01	-	石鏟	頁岩	60.1	43.2	9.3	40.0	切口石鏟
7	SA01	-	磨製石斧	ホルシフエルス	55.1	47.4	30.0	182.7	-
8	SA01	-	磨製石斧	ホルシフエルス	61.4	54.2	16.5	84.8	-
9	SA01	-	磨製石斧	ホルシフエルス	79.6	56.1	24.5	159.3	-
163	AA05	II層	石鏟	黒曜岩V	15.3	11.7	4.0	0.4	-
164	AA06	II層	石鏟	玉髓	13.5	11.3	2.2	0.3	-
165	AB09	VI層	石鏟	黒曜岩Ic	15.8	14.1	2.7	0.4	-
166	AD08	VI層	石鏟	チャート	16.8	13.7	2.5	0.4	-
167	AB08	ピット	石鏟	チャート	21.4	14.8	3.0	0.7	-
168	AC08	IV層	石鏟	玉髓	19.7	13.1	3.6	0.7	-
169	AD07	VI層	石鏟	黒曜岩Ic	19.4	15.0	2.7	0.4	-
170	AC08	VI層	石鏟	黒曜岩Ia	22.5	15.5	4.5	1.2	-
171	SA02	-	石鏟	黒曜岩Ic	17.0	15.2	3.6	0.5	-
172	SA02	-	石鏟	黒曜岩Id	19.6	10.0	5.0	0.9	-
173	AD07	VI層	石鏟	黒曜岩Ic	11.0	14.0	3.0	0.3	-
174	AC08	VI層	石鏟	黒曜岩Ia	12.8	13.0	2.4	0.3	-
175	AC07	VI層	石鏟	チャート?	12.0	12.9	4.3	0.6	-
176	AB09	IV層	石鏟	黒曜岩IV	11.0	11.3	2.6	0.2	-
177	AD09	VI層	石鏟	チャート	14.3	18.6	2.0	0.4	-
178	AC07	VI層	石鏟	チャート	16.5	17.2	2.9	0.6	-
179	AC08	IV層	石鏟	黒曜岩IV	15.5	13.9	4.5	0.6	-
180	AC08	VI層	石鏟	チャート	14.0	13.4	1.8	0.3	剥片鏟
181	AB09	IV層	石鏟	玉髓	22.8	9.1	2.2	0.5	-
182	AB09	IV層	石鏟	チャート	32.0	12.2	3.9	2.0	-
183	AD08	VI層	石鏟	チャート	30.0	46.6	10.0	10.7	-
184	AC07	VI層	石鏟	チャート	50.7	27.0	7.1	9.2	-
185	AC07	IV層	石鏟	チャート	47.7	26.1	7.0	8.8	-
186	AC08	IV層	石忍	無徳品賀安山岩	22.3	31.0	6.3	3.7	-
187	AD08	VI層	石忍	チャート	23.1	39.8	5.7	3.1	-
188	AB08	IV層	石忍	無徳品賀安山岩	36.2	51.7	4.5	7.7	-
189	AC08	VI層	石忍	チャート	32.8	36.7	6.5	8.2	-
190	AC08	VI層	石忍	チャート	34.3	42.0	7.6	10.4	-
191	AD08	VI層	石鏟	チャート	40.3	13.3	7.0	2.6	-
192	AC07	VI層	石鏟+削器	黒曜岩Ic	29.0	14.5	5.3	1.7	-
193	SA02	-	石鏟+削器	チャート	17.1	8.9	1.5	0.2	-
194	AC07	VI層	削器	黒曜岩Ic	19.3	16.7	4.2	1.2	-

山中遺跡 I 区の調査

表 1 1 区出土遺物観察表 (石器)

報告番号	出土地区	層位	器種	石材	寸法 (mm)			重量 (g)	備考
					長さ	幅	厚さ		
195	—	I 層	削器	砂岩	106.7	101.5	32.5	467.0	—
196	—	—	磨製石斧	ホルシフエルス	130.3	43.6	32.6	264.4	—
197	—	II 層	磨製石斧	ホルシフエルス	67.6	70.4	29.4	137.5	—
198	AF099	VII 層	磨石	多孔質安山岩	96.5	84.7	41.4	402.4	側面に縫痕有
199	—	II 層	磨石	多孔質安山岩	100.0	92.9	48.7	744.6	側面にも縫痕有
200	AF099	IV 層	磨石	多孔質安山岩	115.0	83.8	43.8	525.5	—
201	AF099	IV 層	磨石	多孔質安山岩	118.3	101.6	43.9	772.5	側面にも縫痕有
202	AA06	II 層	磨石	多孔質安山岩	89.1	71.6	44.5	394.8	敲打痕有
203	—	II 層	敲石	砂岩	67.0	44.0	29.0	108.9	—
204	AA06	II 層	石鍬	頁岩	53.6	28.3	14.0	29.2	切目石鍬
205	AF099	VII 層	石鍬	頁岩	46.4	21.9	8.7	12.8	切目石鍬
206	AD099	VII 層	石鍬	頁岩	45.2	28.7	7.0	14.3	切目石鍬
207	AD099	VII 層	石鍬	頁岩	40.0	28.0	7.5	15.4	切目石鍬
208	AC07	VII 層	石鍬	砂岩	82.0	41.6	9.8	23.9	切目石鍬、被熱痕
209	AF098	II 層	石鍬	砂岩	44.4	37.7	13.3	28.6	切目石鍬
210	AF099	IV 層	石鍬	粘板岩	42.4	41.6	9.9	23.0	切目石鍬
211	AA06	—	石皿	安山岩	237.0	344.0	88.0	8490.0	—
212	AD099	VII 層	合石	安山岩	219.0	213.0	144.0	10000.0	—

第3章

第3節 山中遺跡2区



第3節 山中遺跡2区の調査

1 山中遺跡2区の概要

山中遺跡2区（以下2区）は、平成16年度に発掘調査が行われ、同時期に調査を行っていた3区の西側に位置する。調査区は、調査当時使用されていた水路を境に2分割し、南側を2-1区、北側を2-2区として調査を行った。遺構は縄文時代後期の竪穴住居7棟、土坑4基、近世の溝2条を検出した。調査区周辺は西から東方向に緩やかに傾斜しており、調査区西側半分は、水田面構築のために掘削を受けており、基本土層XII層（黒褐色土）及び基本土層XIII層（褐色土と小林軽石との混土層）まで露出する状態であった。竪穴住居は調査区東側で確認され、基本土層X層（牛ノ脛火山灰下部）を掘り込む状態で検出した。また、水田面の構築のため掘削を受けていた西側部分においても貯蔵穴状の土坑を検出しており、竪穴住居が調査区西側部分まで伸びていた可能性もある。

遺物は縄文時代中期および後期初頭頃の遺物は少なく、縄文時代後期前葉の指宿式・出水式・市来式、後期中葉の北久根山式・西平式、近世の陶磁器類が出土している。

2 山中遺跡2区の遺構と遺物

竪穴住居

2区で検出した竪穴住居は調査区東側で確認した7棟であり、いずれも他の竪穴住居や土坑と重複関係にある。

SA03（図19）

調査区中央部AC13区画に位置する。平面は長軸3.70m、短軸2.36m+αの不整円形で、深さ0.44mを測る。SA04と重複し、SA04より新しい。縦断面は、平坦な床面から緩やかに立ち上がり、上位で段をなす二段掘り状となる。埋土は黒褐色土層を基調として、灰褐色のブロックをまだらに含む。遺物は、縄文時代後期前葉の出水式や後期後葉の三万田式、石皿や磨石などが出土した。

SA03出土遺物（図23）

1は肥厚する口縁部に短斜線を施すもので、外面にはミガキ調整が観察される。2・3は外側面にミガキによる調整を行うもので、2の口縁端部はわずかに内折する。4は深鉢の底部、5は土製円盤で、側面に部分的な磨滅痕が観察される。6は流紋岩を用いた磨石、7は先端部を欠損した石鏃、8は安山岩を用いた石皿である。

SA04（図19）

調査区中央部AC13・14区画に位置する。平面は長軸2.50m、短軸2.14m+α、深さ0.18mである。SA03およびSC02と重複し、SA03・SC02より古い。床面は平坦で、壁はしっかりと立ち上がる。床面より柱穴や柱跡などは検出されなかった。遺物はいずれも小破片であるが、縄文時代後期前葉の岩崎式・市来式、後期中葉の西平式などが出土した。

SA04出土遺物（図23）

9は3本単位の沈線を持つ福田K2式の底部である。10～12は土製円盤で、側面全体に磨滅痕が観察される。

SA06（図20）

調査区東側AC14区画に位置する。平面は長軸3.12m、短軸2.38mの方形で、深さ0.20mを測る。SA07とSC04と重複し、SA07・SC04より古い。床面は概ね平坦で中央に径0.60～0.74m、深さ0.12mの土坑を持つが、柱穴等は確認できない。埋土中からは縄文時代後期前葉頃と考えられる深鉢が少量出土したが、小片のため図示しなかった。

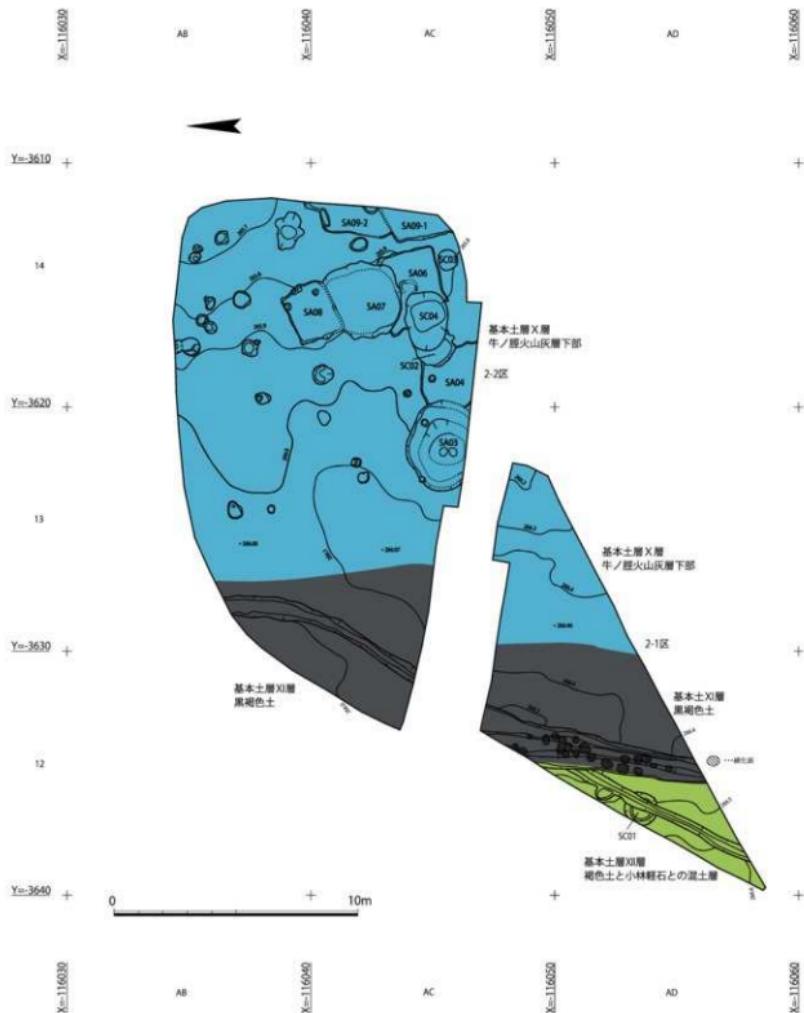


図18 山中通跡2区の透構配置図及び検出面 (1/200)

SA07 (図 20)

調査区東側 AC14 区画に位置する。平面は長軸 3.20m、短軸 3.09m の不整円形で、深さ 0.68m を測る。SA06・SA08 と重複し、SA06 より新しく、SA08 より古い。埋土は黒褐色土層を基調として、明黄褐色バミス・灰褐色ブロックを含む。埋土中からは、縄文時代後期前葉の指宿式・出水式・磨製石斧・磨石・石皿が出土した。

SA07 出土遺物 (図 24)

13 は口縁部をわずかに肥厚させ、肥厚部に沈線を 2 条施す。口縁部上端と下端に刻みを施し、頸部では入組文を横方向に展開させる。口縁部頂部下の胴部には、縱方向に垂下させる文様を施す。14 も 13 に類似し口縁部を肥厚させ、2 条の横走沈線を施し口縁部上端と下端に刻みを施す。口唇部には沈線を 1 条廻らせる。15・16、19～21 は深鉢で、いずれも縄文時代後期前葉頃のものと考えられる。17・18 は土製円盤である。22 は砂岩を用いた磨石で、側面に敲打痕を持つ。23 は中位や刃部より欠損し接合した磨製石斧で、欠損部の表面にはわずかな窪みが観察される。24・25 は安山岩を用いた石皿である。

SA08 (図 20)

調査区東側 AB・AC14 区画に位置する。平面は長軸 2.44m、短軸 1.91m の方形で、深さ 0.11m を測る。SA07 と重複し、SA07 より新しい。床面は平坦で、2 本の柱穴と思われる小穴がある。壁は概ねしっかりと立ち上がるが、東側は緩やかに立ち上がる。埋土中からは縄文時代後期頃と思われる無文深鉢、土製円盤、石皿が出土した。

SA08 出土遺物 (図 24)

26 は無文の深鉢で、外反に立ち上がる口縁部である。27 は土製円盤、28 は安山岩を用いた石皿である。

SA09-1 (図 21)

調査区東側 AC14 区画に位置する。平面の東側と南側は調査区外へと扯がり不明であるが、長軸 2.49m+ α、短軸 1.20m+ α で、方形となる可能性がある。北側は SA09-2 と重複し、SA09-2 より新しい。深さは 0.54m を測り、埋土は暗褐色土を基調として明黄褐色・褐灰色・黒褐色ブロックを含む。床面は平坦で柱穴等は検出されなかった。埋土中からは縄文時代後期頃と思われる無文深鉢が少量出土した。

SA09-1 出土遺物 (図 25)

29 は底部で、底面には網代痕が認められる。

SA09-2 (図 21)

調査区東側 AC14 区画に位置する。平面は東側が調査区外へと扯がり不明確である。規模は長軸 2.59m+ α、短軸 1.16m+ α、深さ 0.29m を測る。床面は平坦で柱穴は検出していないが、土坑を 2 基検出している。SA09-1 と重複しこれより古い。埋土中からは、縄文時代後期頃と思われる深鉢が出土したが、小片のため図示しなかった。

土坑

2 区で検出した土坑は 4 基である。このうち SC01 は調査区南西隅で検出され、その他の土坑に関しては、調査区東側で確認した。いずれの土坑も形状から、貯蔵穴となる可能性も考えられる。

SC01 (図 22)

調査区南西端 AD12 区画に位置する。平面は径 1.35m の円形で、深さ 0.92m を測る。近世の溝状遺構と重複し、これより古い。遺物は縄文時代後期前葉の指宿式・市来式が出土した。

SC01 出土遺物 (図 25)

30 は肥厚した口縁部の上下端に刻みを持つ。口縁部には 3 条の沈線を施し、口唇部には 1 条の沈線を廻らす。

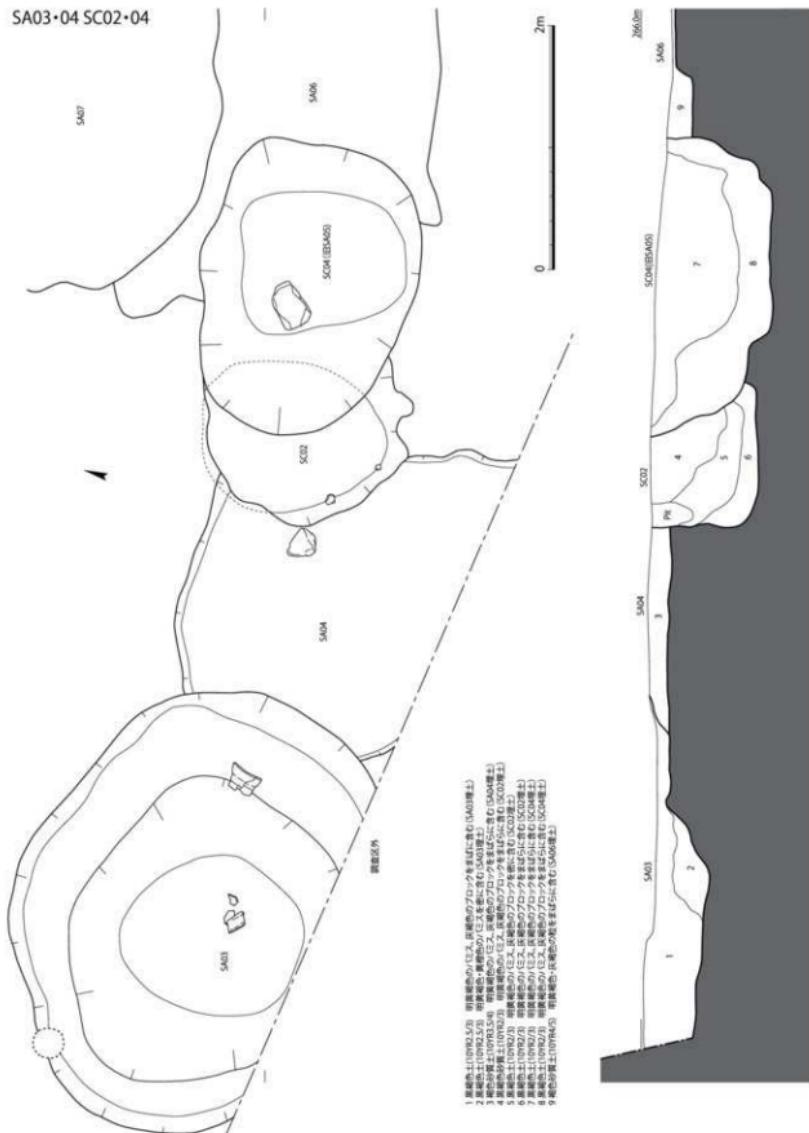


図 19 SA03・04 竪穴住居 SC02・04 土坑 (1/40)

SA06・07・08

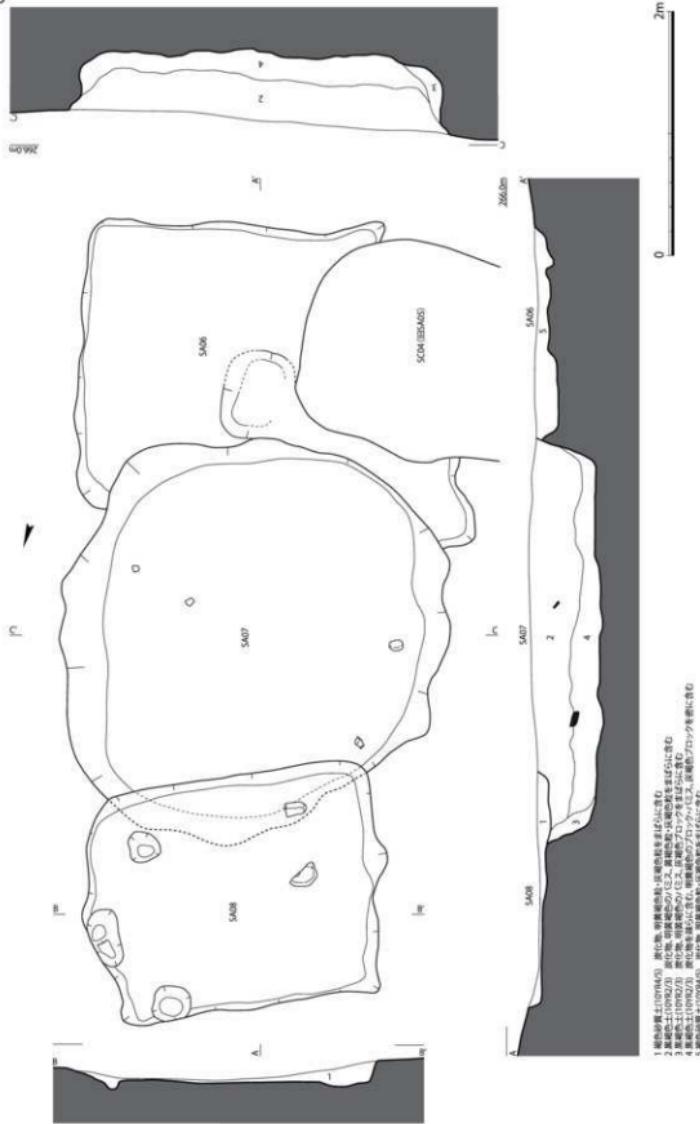


図 20 SA06・07・08 竪穴住居 (1/40)

- 1 地面段階上 (0/0/4/3) 洗化地、雨露被り地、沃地、雨露被り地をばらばらに積む
2 黒褐色土 (0/0/2/3) 洗化地、雨露被り地、雨露被り地をばらばらに積む
3 黑褐色土 (1/0/0/2) 洗化地、雨露被り地、雨露被り地をばらばらに積む
4 黑褐色土 (0/0/4/3) 洗化地、雨露被り地、沃地をばらばらに積む
5 黑褐色段階上 (0/0/4/3) 洗化地、雨露被り地、沃地をばらばらに積む

SA09-1・2

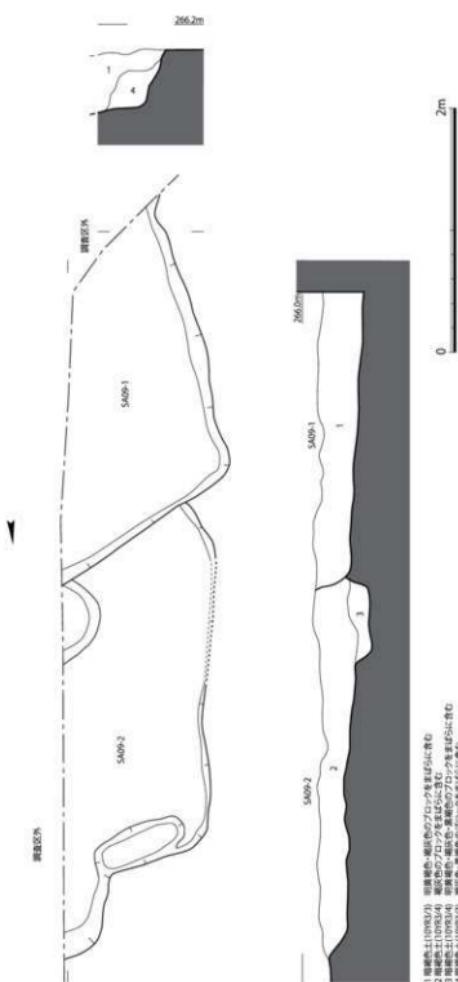


図21 SA09-1・2 整穴住居 (1/40)

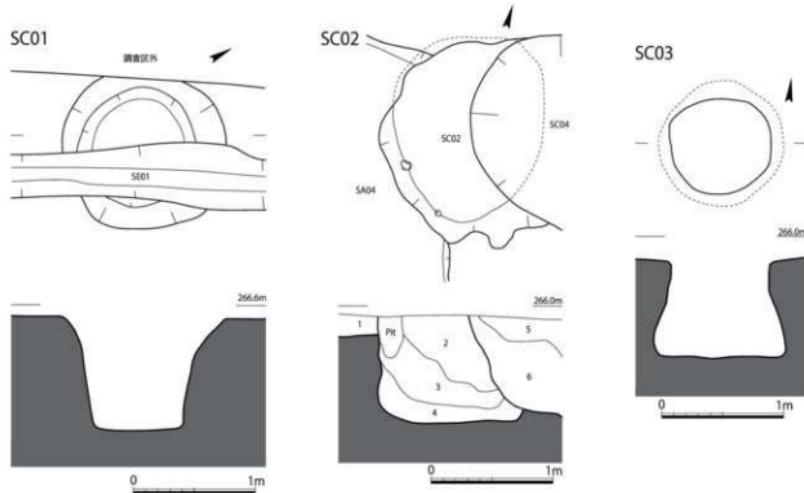


図 22 SC01・02・03 土坑 (1/40)

31 の口縁部は断面三角形状になり、斜斜沈線を施文する。33 は口唇部に刺突を行う。34 は口縁部に向って内傾し、口縁付近でわずかに外反する。

SC02 (図 22)

調査区東側 AC14 区画に位置する。平面は径 1.55m の不整円形で、深さ 0.88m を測る。SA04・SC04 と重複し、SA04 より新しく、SC04 より古い。縦断面は平坦な床面から直角に立ち上がる。埋土中より縄文時代後期初頭の岩崎式、後期前葉の指宿式、磨製石斧が出土した。

SC02 出土遺物 (図 25)

35・36 は台付皿形土器の底部で、35 には焼成前の穿孔が観察される。37・38 は深鉢の底部である。39・40 は土製円盤で、とともに側面に磨滅痕が認められる。41 は黒曜岩の剥片であるが、縁辺の稜が磨滅し丸くなっている。42 は磨製石斧で、欠損後敲石として再利用されたと考えられる敲打痕が観察される。

SC03 (図 22)

調査区東側 AC14 区画に位置する。平面は径 0.76 ~ 0.83m の円形で、深さ 0.79m を測る。縦断面は床面の径が 1.05m と上位よりも広くなるフラスコ状となり、平坦な床面から内湾気味に立ち上がる。埋土中より縄文時代後期前葉の松山式・市来式が出土した。

SC03 出土遺物 (図 25)

43・44 は断面が三角形状に肥厚した口縁部に沈線や貝刺突などで施文する。45 は台付皿形土器の底部である。

SC04（図19）[旧SA05]

調査区東側AC14区画に位置する。調査時は竪穴住居として調査していたが、規模や形状等を検討した結果、土坑として報告する。平面は長軸2.40m、短軸1.77mの不整橢円形で、深さ0.92mを測る。縱断面は底面から上位に向けて緩やかに立ち上がる。SA06・SC02と重複し、SA06・SC02より新しい。遺物は縄文時代後期前葉の岩崎式・出水式・松山式・市来式、垂飾、石皿が出土した。埋土中より炭化材が出土し、樹種同定分析を行った結果、ヤマガワと同定された。

SC04出土遺物（図26）

46は頸部から口縁部にかけて直立気味に立ち上がる器形であるが、頸部付近でわずかに括れ、文様はこの部分より始まる。文様は浅く細い沈線で描かれ、岩崎式の系統にあると思われるが、文様の規格性が失われている。47は口縁部に直線的な沈線を施文する深鉢で、内面は屈曲し稜線を有する。48～52は三角形状に肥厚した口縁部に沈線・凹線・貝刺突などの文様を施文する。53～55は、直線的に立ち上がる口縁部に、貝刺突もしくは爪形状の工具で刺突する。56はやや外反する深鉢で、頸部と胴部の境に刻目突帯を持つ。57～59は底部で、57は台付皿形土器の底部である。60・61は土製円盤である。62は頁岩製の垂飾で、色調は淡灰色である。左右の側面は面取りが行われ、上下の側面は丸く仕上げられている。63・64は安山岩を用いた石皿である。

溝状遺構

2区の調査では、2条の溝状遺構を検出した。いずれも調査区西側で確認され、2-1区において両者は重複する。

SE01（図29）

調査区西側に位置する溝状遺構で、南西一北東方向に直線的に延び、2-2区北側において、北一南方向に向きを変える。幅0.4～0.9m、深さ0.2～0.5mを測る。2-1区においてSC01・SE02と重複し、SC01より新しく、SE02より古い。遺物は、縄文時代早期の押型文、後期前葉の市来式、後期中葉の西平式、近世の陶磁器が出土している。

SE02（図29）

調査区西側に位置する溝状遺構で、南南西一北北東方向に直線的に延び、延長部分は2-2区では検出されていない。幅1.0～1.7m、深さ0.3mを測る。SE01と重複し、これより新しい。底面に硬化面が認められ、道路状遺構の可能性もある。遺物は、縄文時代後期前葉の市来式、後期中葉の西平式、近世の陶磁器が出土している。

SE01・02出土遺物（図30）

123は縄文時代早期の押型文、124～126は縄文時代後期前葉のものである。127は無斑品質安山岩製の石鎌で基部は平坦である。128は頁岩製の切目石鎌である。129は磨製石斧で、欠損後敲石として利用した敲打痕が認められる。130は磨石で、側面には敲打痕が認められる。131・132は近世の陶器で、132は薩摩焼土瓶である。

遺構外出土遺物（図27～28・30）

65は2本沈線間に貝刺突を行う土器である。68は口唇部に貝刺突を行い、頸部に沈線が認められる。69は僅かに肥厚する口縁部に刺突を行い、波頂部には弧状の文様を施文する。70は口縁部内外面に施文する。71はわずかに肥厚する口縁部に沈線で文様を施文し、波頂部下の口縁部には羽状文を施す。72～74はわずかに肥厚する口縁部に貝刺突を施文する。75～88は縄文時代後期前葉の市来式で、75は口縁部上面に沈線・貝刺突を施し、波頂部には大きめの刺突の周囲に小さい刺突を施文する。76～88は口縁部を三角形状に肥厚させるもので、

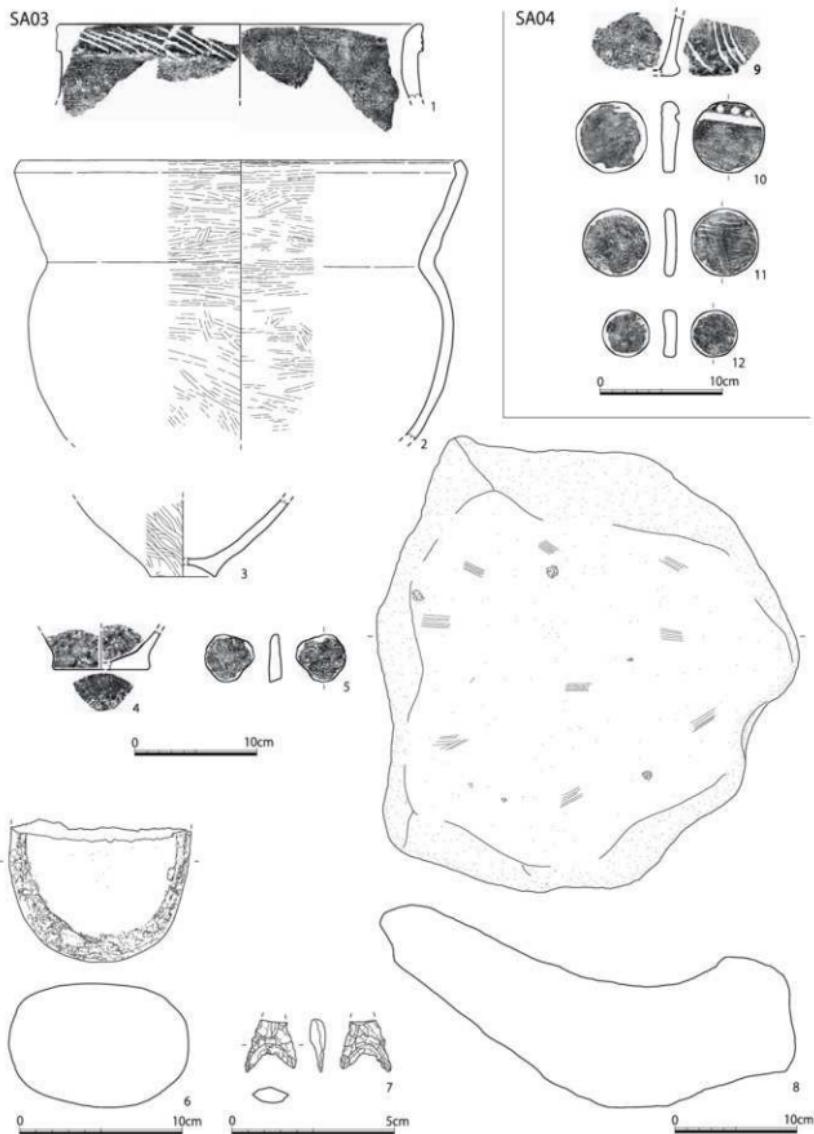


図 23 SA03・04 出土遺物 (6:1/3 7:2/3 その他:1/4)

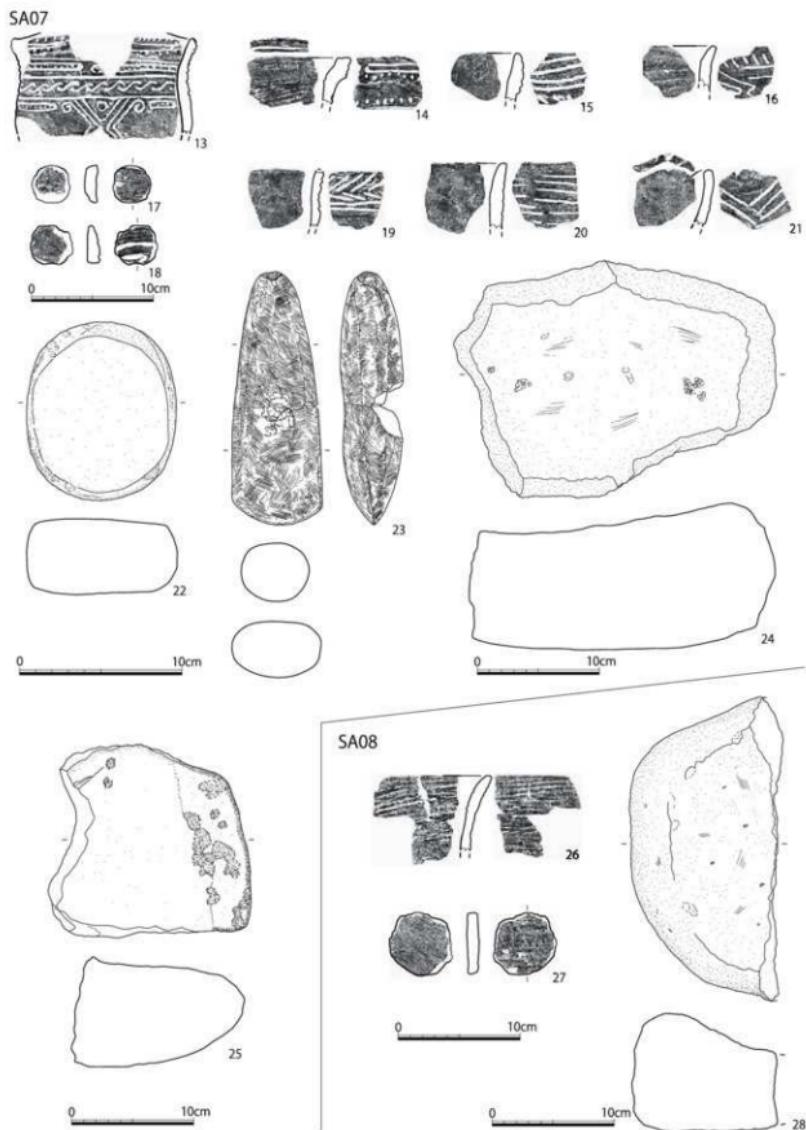


図24 SA07・08 出土遺物 (22・23:1/3 その他:1/4)

SA09-1



0 10cm

SC01



30



31



32



33



0 10cm

SC02



35



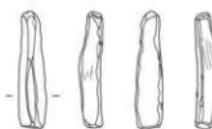
37



36



38



41



39



40

0 10cm



0

5cm

SC03



43

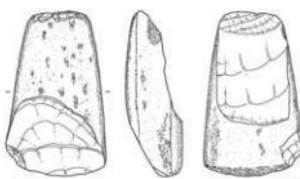


44



45

0 10cm



42



0

10cm

図 25 SA09-1 SC01・02・03 出土遺物 (41:2/3 42:1/3 その他:1/4)

SC04

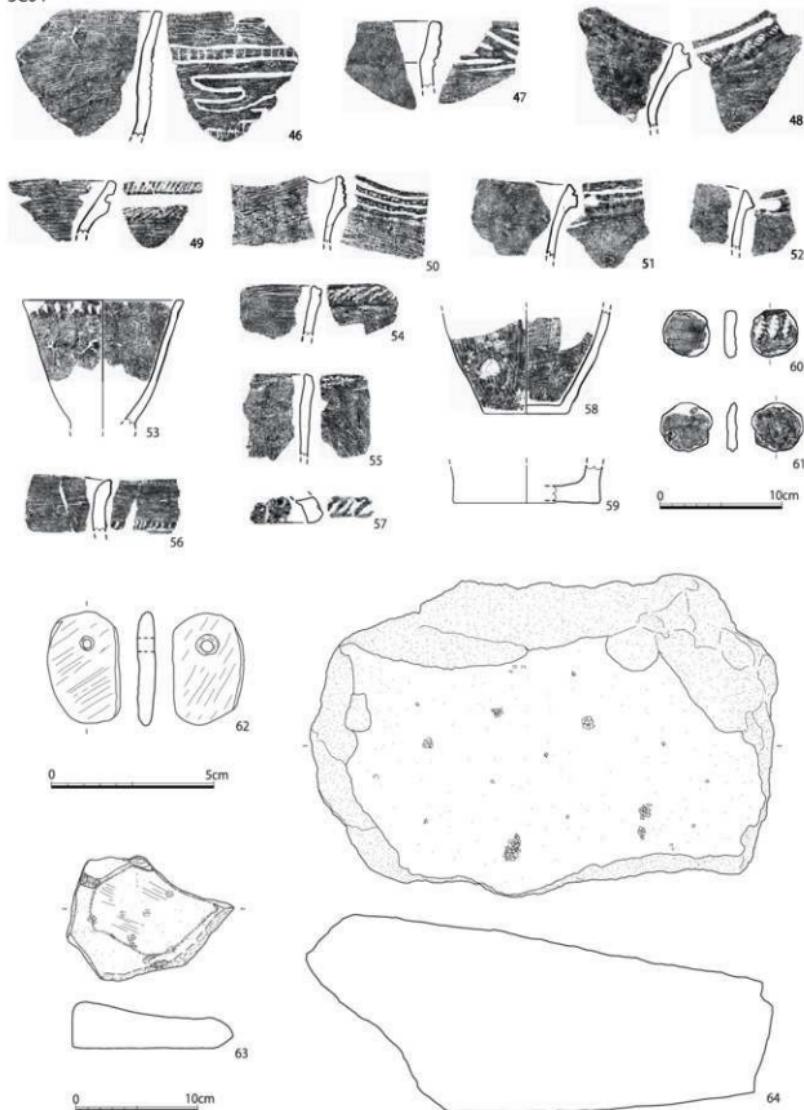


図 26 SC04 出土遺物 (62 : 2/3 その他 : 1/4)

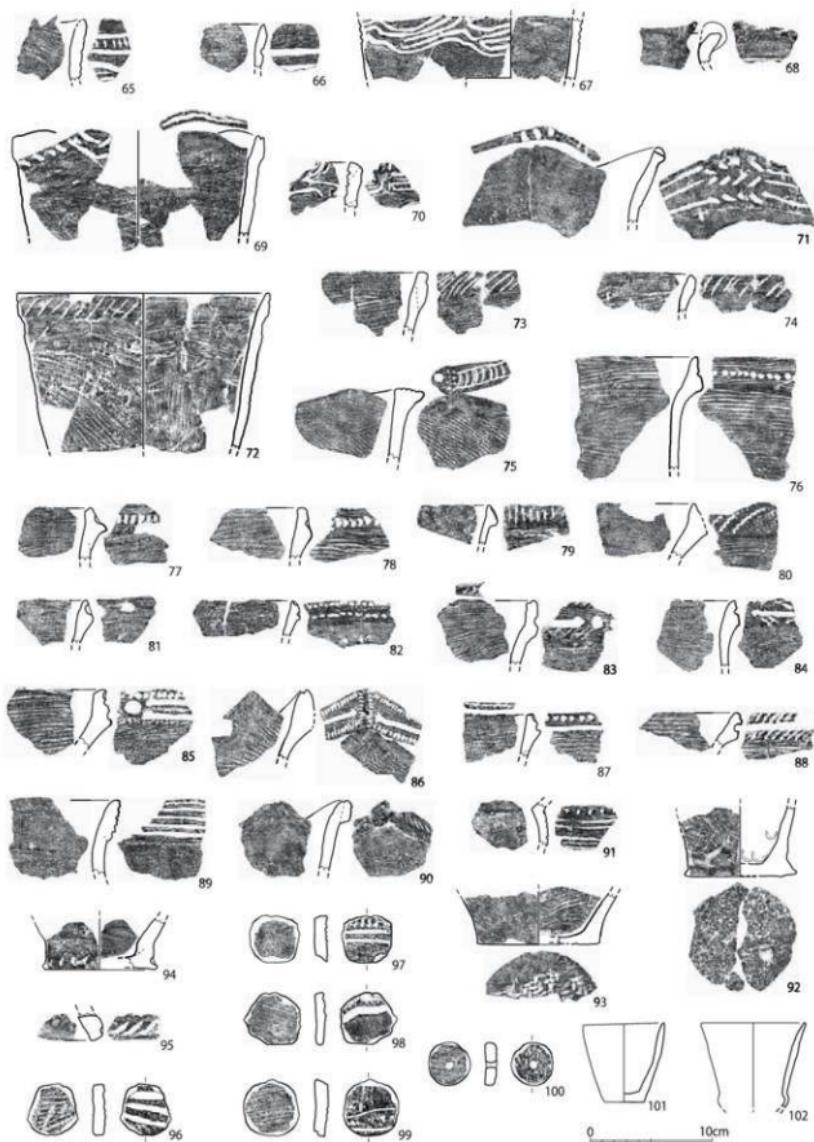


図27 2区造横外出土物1 (1/4)

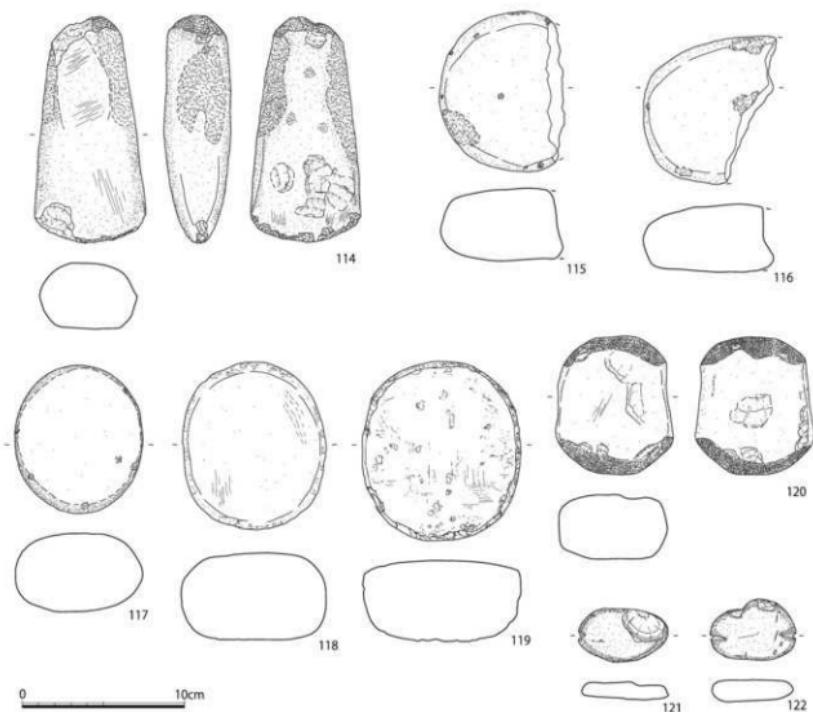
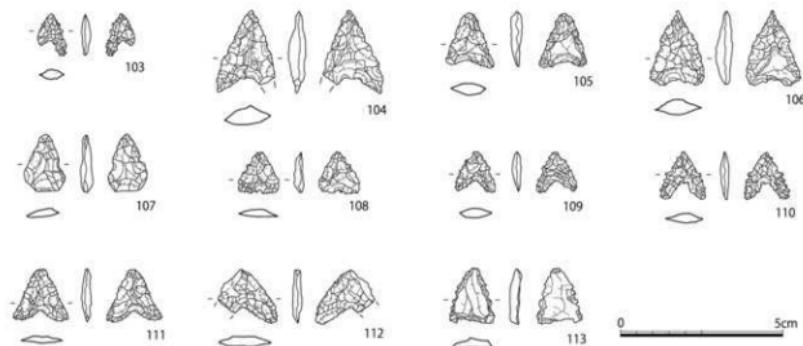


図 28 2区遺構外出土遺物 2 (103~113:2/3 114~122:1/3)

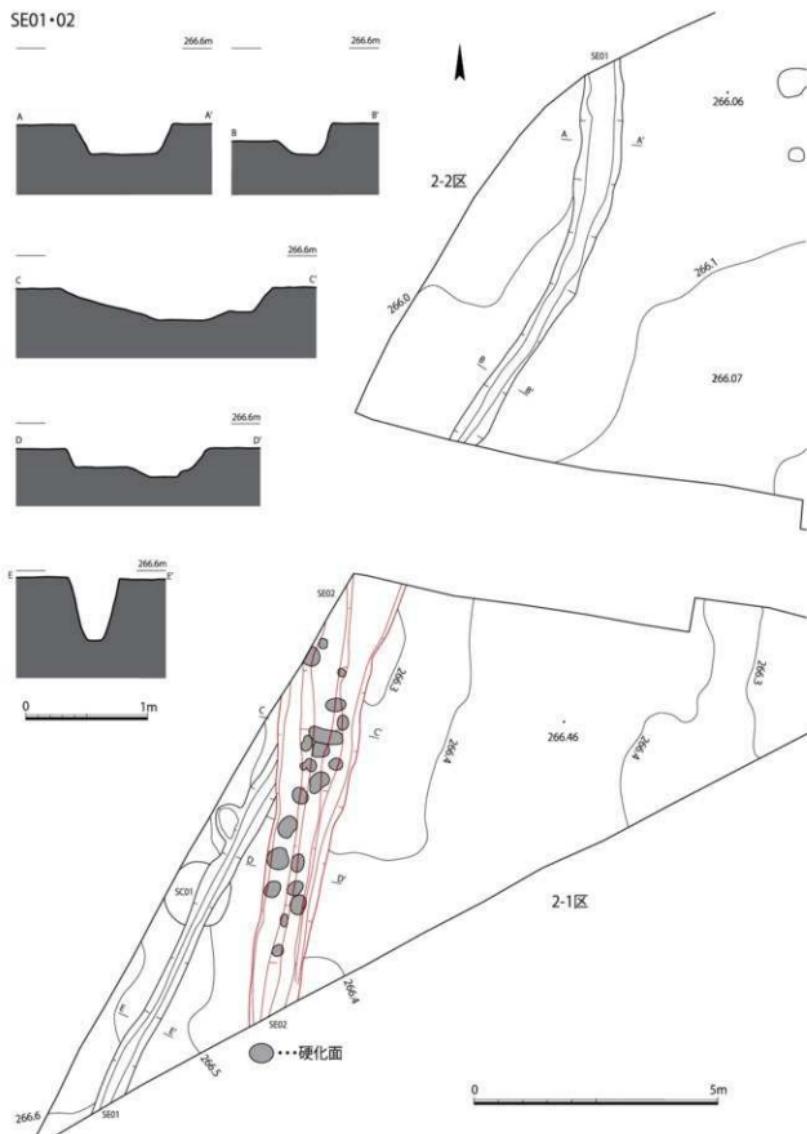


図29 SE01・02溝状遺構平面図(1/100)・断面図(1/40)

SE01・02

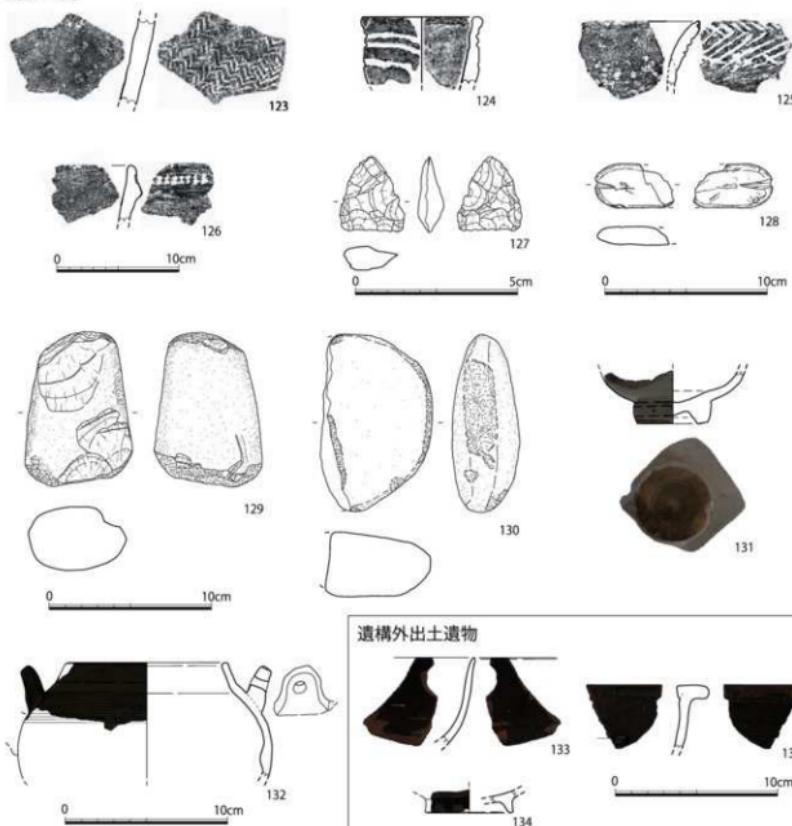


図 30 SE01・02 出土遺物及びF2区遺構外出土遺物 3 (123～126 : 1/4 127 : 2/3 128～135 : 1/3)

凹線及び貝刺突・刺突などを組み合わせて文様を構成している。90は口縁部を肥厚させ浅い刻みを施文するもので、縄文時代後期中葉の北久山根式併行のものと考えられる。91は西平式期のもので、縄文の施文は無い。92～95は底部であり、94の底部は外側に張り出し、張り出した部分に刻みが認められる。96～100は土製円盤で、100は側面に磨滅痕があり、中心部には焼成後の穿孔が認められる。101はミニチュア土器、102は弥生時代の小型壺である。133～135は薩摩焼陶器である。

打製石器（図28）

103～113は石鏃で、103～107は二等辺三角形の石鏃、105・106は微凹基、107は平基である。

108～112は正三角形の石鏃で、108は平基であり、他は凹基となる。

113は頁岩の剥片を素材とした剥片鏃であり、剥片の縁辺に調整剥離を行い形成している。

磨製石器・礫石器（図28）

114は磨製石斧であり、刃部には細かな剥離が認められる。

115～119は磨石で、118には両面の他に側面にも磨滅痕が認められる。

120は両端に敲打痕が観察できる敲石であるが、敲打痕の他に、磨滅痕や窪みなどが認められることから、多機能な用途が考えられる。

121・122は切目石鍤である。

表2 2区出土遺物觀察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法cm			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
1	SA03 I層	調文土器 深鉢	(0.0,1)	-	-	外:ナデ→短沈縫 内:ナデ	外:7.5VR5/1黒褐 内:7.5VR5/4C-5A-4相	-
2	SA03+SA04	調文土器 深鉢	36.0	-	-	外:七字牛 内:ミガ牛	外:7.5VR2/4C-5A-4相 内:7.5VR6/4C-5A-4相	-
3	SA03	調文土器 深鉢	-	(5.4)	-	外:ミガ牛 内:ナデ	外:7.5VR5/4C-5A-4相 内:7.5VR5/3C-5A-4相	-
4	SA03	調文土器 深鉢	-	(8.0)	-	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5VR6/1黒灰 内:7.5VR6/6相	-
5	SA03	土製品 土製円盤	縦 3.9	横 4.9	厚 1.0	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5VR6/6相 内:7.5VR5/6相	重量 16.4g, 側面磨滅痕有(部分)
9	SA04	調文土器 深鉢	-	-	-	外:調文→沈縫→ミガ牛 内:ナデ	外:7.5VR5/4C-5A-4相 内:10VR5/3C-5A-4相	-
10	SA04	土製品 土製円盤	縦 5.8	横 5.8	厚 1.0	外:ナデ→沈縫→側突 内:ナデ	外:7.5VR2/1黒相 内:7.5VR4/4C-5A-4相	重量 54.5g, 側面磨滅痕有(全面)
11	SA04	土製品 土製円盤	縦 5.5	横 5.5	厚 1.0	外:貝条瓶→ナデ 内:ナデ	外:7.5VR6/6相 内:7.5VR6/6相	重量 29.6g, 側面磨滅痕有(全面)
12	SA04	土製品 土製円盤	縦 3.8	横 3.8	厚 1.0	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5VR5/4C-5A-4相 内:7.5VR6/6相	重量 17.9g, 側面磨滅痕有(全面)
13	AC14 II層+SA07	調文土器 深鉢	(15.2)	-	-	外:ナデ→沈縫→側突 内:ナデ牛	外:10VR5/4C-5A-4相 内:10VR3/1黒相	-
14	SA07	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縫→側突 内:ナデ→沈縫	外:10VR3/1黒相 内:10VR4/2B 黃褐	-
15	SA07	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縫 内:ナデ	外:7.5VR3/1黒相 内:10VR5/3C-5A-4相	-
16	SA07	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縫 内:ナデ	外:7.5VR6/1黒 内:7.5VR6/2灰相	外面環行着
17	SA07	土製品 土製円盤	縦 3.1	横 3.2	厚 1.0	外:貝条瓶→ナデ 内:ナデ	外:7.5VR6/6相 内:7.5VR5/4C-5A-4相	重量 19.3g
18	SA07	土製品 土製円盤	縦 3.2	横 3.4	厚 1.0	外:ナデ→沈縫 内:貝条瓶→ナデ	外:7.5VR6/6相 内:7.5VR5/4C-5A-4相	重量 11.8g, 側面磨滅痕有(部分)
19	SA07	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→短沈縫 内:ナデ	外:10VR4/2B 黃褐 内:10VR3/2灰相	-
20	SA07	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縫 内:ナデ	外:10VR3/1黒相 内:10VR4/3C-5A-4相	外面環行着
21	SA07	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縫 内:ナデ	外:10VR3/1黒相 内:12.5VR2/1黒	外面環行着
26	SA08	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条瓶→ナデ 内:貝条瓶→ナデ	外:7.5VR6/3C-5A-4相 内:7.5VR6/2灰相	-
27	SA08	土製品 土製円盤	-	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10VR5/4C-5A-4相 内:7.5VR2/1黒相	重量 26.4g
29	SA09	調文土器 深鉢	-	10.1	-	外:ナデ 内:貝条瓶→ナデ	外:10VR7/4C-5A-4相 内:10VR7/4C-5A-4相	網代底
30	SC01	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縫→側突 内:ナデ	外:7.5VR5/3C-5A-4相 内:7.5VR5/4C-5A-4相	-
31	SC01	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→短斜沈縫 内:ナデ	外:10VR4/2B 黃褐 内:10VR5/2B 黃褐	-
32	SC01	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→貝刺突 内:ナデ	外:7.5VR6/4C-5A-4相 内:10VR6/4C-5A-4相	-
33	SC01	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条瓶→ナデ→側突 内:ナデ	外:7.5VR5/4C-5A-4相 内:7.5VR5/2B 黃褐	-
34	SC01	調文土器 深鉢	(16.2)	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10VR7/4C-5A-4相 内:10VR7/4C-5A-4相	-
35	SC02	調文土器 台付瓶形	-	(8.8)	-	外:ナデ→貝刺突 内:ナデ	外:7.5VR5/4C-5A-4相 内:7.5VR6/6相	焼成前穿孔有
36	SC02	調文土器 台付瓶形	-	-	-	外:ナデ→貝刺突 内:ナデ	外:10VR8/2B 黃褐 内:10VR6/3C-5A-4相	-
37	SC02	調文土器 深鉢	-	(7.0)	-	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5VR4/2B相 内:7.5VR4/2B相	-
38	SC02	調文土器 深鉢	-	(8.0)	-	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5VR7/1明側突 内:7.5VR7/4C-5A-4相	-
39	SC02	土製品 土製円盤	縦 4.6	横 4.6	厚 1.1	外:ナデ→沈縫 内:貝条瓶→ナデ	外:7.5VR2/2黒相 内:7.5VR5/6相	重量 29.6g, 側面磨滅痕有(全面)
40	SC02	土製品 土製円盤	縦 4.1	横 3.9	厚 0.9	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5VR5/9B相 内:7.5VR6/6相	重量 19.7g, 側面磨滅痕有(全面)
43	SC03	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→短沈縫→貝刺突 内:ナデ	外:10VR3/1黒相 内:7.5VR4/1黒灰	-
44	SC03	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縫→貝刺突 内:ナデ	外:7.5VR4/3相 内:7.5VR5/2B 黃褐	-
45	SC03	調文土器 台付瓶形	-	-	-	外:ナデ→貝刺突 内:ナデ	外:7.5VR8/4C-5A-4相 内:7.5VR7/4C-5A-4相	-
46	SC04	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縫 内:ナデ	外:7.5VR4/1黒相 内:7.5VR4/1黒灰	-
47	SC04	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縫 内:ナデ	外:7.5VR4/1黒相 内:7.5VR4/1黒灰	-

表2 2区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 部種	寸法cm			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
48	SC04	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板→沈縁・貝刺突 内:貝条板→ナメ	外:10VRS/42.5cm・黄褐色 内:2.5V4/1 黄灰	-
49	SC04	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板→沈縁・貝刺突 内:貝条板→ナメ	外:10VRS/32.5cm・黄褐色 内:10VRZ/42.5cm・黄褐色	-
50	SC04	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナメ→沈縁・貝刺突 内:ナメ	外:2.5VR/4 黄褐色 内:10VRS/42.5cm・黄褐色	-
51	SC04	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナメ→沈縁・貝刺突 内:ナメ	外:2.5VR/32.5cm・黄褐色 内:10VRZ/42.5cm・黄褐色	-
52	SC04	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナメ→沈縁 内:ナメ	外:10VRZ/2 黑 内:2.5V2/1 黑	-
53	SC04	調文土器 深鉢	(3.0)	-	-	外:ナメ→貝刺突 内:ナメ	外:2.5VR/32.5cm・黄褐色 内:10VRZ/2 黄褐色	-
54	SC04	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナメ→貝刺突 内:ナメ	外:10VRS/32.5cm・黄褐色 内:2.5V4/1 黄灰	-
55	SC04	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板→ナメ→貝刺突 内:貝条板→ナメ	外:10VRS/42.5cm・黄褐色 内:2.5V3/1 黄褐色	外面環行着
56	SC04	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナメ→貝刺突 内:ナメ	外:10VRS/32.5cm・黄褐色 内:10VRZ/42.5cm・黄褐色	-
57	SC04	調文土器 台付盤形	-	-	-	外:ナメ→貝刺突 内:ナメ	外:2.5VR/42.5cm・黄褐色 内:2.5VR/42.5cm・黄褐色	-
58	SC04	調文土器 深鉢	-	(7.1)	-	外:ミギテ 内:貝条板→ナメ	外:2.5VR/32.5cm・黄褐色 内:2.5VR/32.5cm・赤褐色	-
59	SC04	調文土器 深鉢	-	(12.0)	-	外:ナメ 内:ナメ	外:3VR/42.5cm・黄褐色 内:10VRS/32.5cm・黄褐色	-
60	SC04	土製品 土製円盤	縦3.8	横3.8	厚0.9	外:ナメ→沈縁・貝刺突 内:貝条板→ナメ	外:2.5VRZ/2 黑褐色 内:2.5VR/3 黑	重量 18.2g
61	SC04	土製品 土製円盤	縦4.0	横4.2	厚0.8	外:ナメ 内:ナメ	外:10VRS/32.5cm・黄褐色 内:10VRZ/3 黑	重量 14.6g
65	AC14 II層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナメ→沈縁・貝刺突 内:貝条板→ナメ	外:10VRS/42.5cm・黄褐色 内:2.5VR/4 黄褐色	-
66	AC14 II層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナメ→沈縁 内:貝条板→ナメ	外:10VRZ/42 黄褐色 内:2.5VR/42 黄褐色	-
67	AC13	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナメ→沈縁 内:ナメ	外:10VRS/32.5cm・黄褐色 内:2.5V6/32.5cm・黄	-
68	I層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナメ→沈縁・貝刺突 内:ナメ	外:10VRZ/2 黑褐色 内:2.5VR/42.5cm・黄褐色	-
69	AB14 II層	調文土器 深鉢	(20.0)	-	-	外:貝条板→ナメ→沈縁・貝刺突 内:貝条板→ナメ	外:10VRS/42.5cm・黄褐色 内:10VRZ/42 黑	-
70	AC14 II層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナメ→沈縁 内:ナメ→沈縁	外:10VRS/32.5cm・黄褐色 内:10VRZ/32.5cm・黄褐色	-
71	AC13 II層-IV層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナメ→沈縁 内:ナメ	外:10VRS/42.5cm・黄褐色 内:10VRZ/32.5cm・黄褐色	-
72	AD13 II層	調文土器 深鉢	(20.7)	-	-	外:貝条板→ナメ→貝刺突 内:貝条板→ナメ	外:10VRS/42.5cm・黄褐色 内:2.5VR/32.5cm・黄褐色	-
73	AD13 II層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板→ナメ→貝刺突 内:貝条板→ナメ	外:10VRS/32.5cm・黄褐色 内:10VRZ/42.5cm・黄褐色	-
74	AD13 II層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナメ→貝刺突 内:貝条板→ナメ	外:10VRZ/1 黑 内:2.5V4/1 黄灰	-
75	AC13 II層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板→ナメ→沈縁・貝刺突 内:貝条板→ナメ	外:10VRZ/1 黑 内:2.5V3/2 黑	-
76	AD13 II層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板→ナメ→貝刺突 内:貝条板→ナメ	外:2.5VR/2 黑褐色 内:2.5VR/42.5cm・赤褐色	-
77	AB14	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナメ→貝刺突 内:貝条板→ナメ	外:2.5VR/42.5cm・赤褐色 内:2.5VR/42 黑	外面環行着
78	AC13 II層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板→ナメ→貝刺突 内:貝条板→ナメ	外:10VRZ/1 黑 内:2.5V4/2 黑灰	-
79	AC14 II層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナメ→沈縁 内:ナメ	外:2.5VR/4 黑 内:2.5VR/4 黑	-
80	AB14 II層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板→ナメ→貝刺突 内:ナメ	外:2.5VR/42.5cm・赤褐色 内:2.5VR/42 黑	-
81	AB14 II層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナメ→貝刺突 内:ナメ	外:10VRZ/2 黑 内:2.5VR/32.5cm・黄	-
82	AB13 II層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナメ→貝刺突 内:ナメ	外:2.5VR/42.5cm・黄褐色 内:2.5VRZ/2 黑	外面環行着
83	AC13 II層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板→ナメ→貝刺突 内:貝条板→ナメ	外:10VRZ/2 黑 内:2.5VR/32.5cm・赤褐色	外面環行着
84	AC13 II層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナメ→沈縁・貝刺突 内:貝条板→ナメ	外:2.5V3/1 黑 内:2.5V4/1 黄灰	-
85	AC14 II層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板→ナメ→沈縁・貝刺突 内:貝条板→ナメ	外:10VRZ/1 黑 内:2.5VR/42.5cm・赤褐色	-
86	AC13 II層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナメ→沈縁・貝刺突 内:貝条板→ナメ	外:10VRS/42.5cm・黄褐色 内:10VRZ/42.5cm・黄褐色	-
87	AC14 II層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナメ→沈縁・貝刺突 内:貝条板→ナメ	外:10VRZ/32.5cm・黄褐色 内:10VRZ/2 黑	-

表2 2区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法cm			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
88	AD12 II層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条痕→ナデ→沈縫→貝刺突 内:貝条痕→ナデ	外:10.9H7/31.2-5.5、黄褐色 内:10.9H8/32.5-5.5、黄褐色	-
89	AC13 II層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縫	外:10.9H3/11.8cm 内:5.9H5/41.2-5.5、黄褐色	-
90	AC13 IV層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→黏付→貝刺突 内:ナデ	外:7.5V8/3cm 内:10.9H3/11.8cm	内外面糊付着
91	AB13	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縫→貝刺突 内:ナデ	外:10.9H4/2cm黄褐色 内:10.9H5/32.5-5.5、黄褐色	-
92	AC12 II層	調文土器 深鉢	-	9.2	-	外:貝条痕→ナデ 内:ナデ	外:10.9H7/41.2-5.5、黄褐色 内:10.9H8/32.5-5.5、黄褐色	-
93	AC13	調文土器 深鉢	-	10.0	-	外:ナデ 内:貝条痕→ナデ	外:5.9V3/11.9cm 内:5.9V3/11.9cm	糊付底
94	AB14 II層	調文土器 深鉢	-	(9.0)	-	外:ナデ→貝刺突 内:ナデ	外:7.5V8/41.2-5.5、相 内:10.9H4/2cm黄褐色	-
95	AC14 II層	調文土器 台付鉢形	-	-	-	外:ナデ→貝刺突 内:ナデ	外:7.5V8/41.2-5.5、相 内:7.5V8/31.2-5.5、相	焼成後穿孔有
96	AC14 II層	土製品 土製円盤	直 4.2	横 4.2	厚 1.0	外:ナデ→沈縫 内:貝条痕→ナデ	外:7.5V8/11.8cm 内:7.5V8/3cm	重量 18.2g、側面糊痕有(部分)
97	2-2IK	土製品 土製円盤	直 3.9	横 4.1	厚 1.0	外:ナデ→沈縫→貝刺突 内:ナデ	外:5.9V3/11.8cm 内:7.5V8/6cm	重量 17.7g、側面糊痕有(部分)
98	AC14 II層	土製品 土製円盤	直 4.3	横 4.7	厚 0.8	外:ナデ→沈縫 内:ナデ	外:7.5V8/6cm 内:7.5V8/4cm	重量 18.8g
99	AC14 II層	土製品 土製円盤	直 4.6	横 4.5	厚 1.3	外:ナデ→沈縫→貝刺突 内:ナデ→ナデ	外:7.5V8/2cm 内:7.5V8/3cm	重量 24.4g、側面糊痕有(部分)
100	AB14 II層	土製品 土製円盤	直 3.5	横 3.4	厚 0.9	外:ナデ 内:貝条痕→ナデ	外:7.5V8/41.2-5.5、相 内:7.5V8/31.2-5.5、相	重量 11.6g、側面糊痕有(全面) 焼成後穿孔有
101	-	調文土器 ミニチュア	6.6	3.2	6.4	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5V8/41.2-5.5、相 内:5.9V8/6cm	-
102.	AD13 II層	弥生土器 小型壺	(8.6)	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10.9H8/4cm黄褐色 内:10.9H7/41.2-5.5、黄褐色	-
123	2-2IK SE	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→押型文 内:ナデ	外:10.9H6/41.2-5.5、黄褐色 内:10.9H7/41.2-5.5、黄褐色	-
124	2-2IK SE	調文土器 鉢	(10.0)	-	-	外:ナデ→沈縫 内:ナデ	外:7.5V8/4/1.1cm 内:7.5V4/2cm灰黄色	外面糊付着
125	2-2IK SE	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→粗沈縫 内:ナデ	外:10.9H7/41.2-5.5、黄褐色 内:7.5V8/6cm	-
126	2-2IK SE	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→貝刺突 内:ナデ	外:7.5V8/41.2-5.5、相 内:10.9H5/41.2-5.5、黄褐色	-
131	SE	陶器 瓶	-	4.3	-	-	瓶:2.5V8/1cm 瓶:2.5V8/1.1cm	-
132	SE	陶器 土瓶	10.0	-	-	-	瓶:2.5V8/8cm明赤褐 瓶:10.9/2cmリーブル	-
133	AB13	陶器 瓶	-	-	-	-	瓶:7.5V8/41.2-5.5、水褐色 瓶:7.5V2/2cm	-
134	AB13	陶器 瓶	-	(5.4)	-	-	瓶:2.5V8/41.2-5.5、赤褐色 瓶:5.2/1.5cm	-
135	2-2IK	陶器 瓶	-	-	-	-	瓶:2.5V5/2cm灰黄色 瓶:5.9V3/1cmリーブル	-

山中遺跡2区の調査

表2 2区出土遺物観察表(石器)

報告番号	出土地区	層位	器種	石材	寸法(mm)			重量(g)	備考
					長さ	幅	厚さ		
6	SA03	-	磨石	泥灰岩	87.0	111.0	75.0	95.7	-
7	SA03	-	石鏟	頁岩?	15.7	16.0	4.7	0.8	-
8	SA03	-	石皿	安山岩	346.0	374.0	166.0	10000.0	-
22	SA07	-	磨石	砂岩	108.5	91.6	45.0	820.0	側面に毛削減痕有
23	AC14	II層	磨製石斧	砂岩	155.5	34.2	36.8	425.0	-
24	SA07	-	石皿	安山岩	194.0	266.0	120.0	7700.0	-
25	SA07	-	石皿	安山岩	165.5	155.5	89.7	3100.0	-
26	SA08	-	石皿	安山岩	247.5	129.8	96.5	4350.0	-
41	SC02	-	不明	黒曜岩 I d	35.8	8.5	6.6	2.4	縁辺磨滅
42	SC02	-	磨製石斧	ホルシフエルス	101.0	62.0	26.0	256.6	-
62	SC04	-	魚鉤	頁岩	33.9	21.6	4.3	4.7	孔径6.0mm
63	SC04	-	石皿	安山岩	99.0	133.0	39.0	641.6	-
64	SC04	-	台石	安山岩	264.0	382.0	162.0	21130.0	-
103	廃土	-	石鏟	黒曜岩 I d	13.0	9.0	3.0	0.2	-
104	AD12	II層	石鏟	黒曜岩 II	25.9	18.5	5.1	1.6	-
105	-	-	石鏟	頁岩	17.0	14.5	3.5	0.7	-
106	AC13	-	石鏟	帶玉	23.0	17.0	4.5	1.4	-
107	-	-	石鏟	無從品質安山岩	17.0	12.0	2.0	0.5	-
108	廃土	-	石鏟	黒曜岩 III-V	12.9	12.5	2.7	0.4	-
109	-	-	石鏟	玉髓	12.5	12.0	3.0	0.3	-
110	-	ピット	石鏟	チャート	14.4	13.5	2.8	0.3	-
111	廃土	-	石鏟	黒曜岩 I c	15.9	16.7	2.5	0.4	-
112	AB14	II層	石鏟	チャート	18.4	17.6	2.9	0.6	片側基部欠損
113	AB14	II層	石鏟	頁岩	17.0	15.0	3.0	0.7	-
114	AB14	II層	磨製石斧	砂岩	139.0	68.0	40.0	551.7	刀部に敲打痕有、敲石として使用か?
115	AC13	II層	磨石	安山岩	97.0	75.0	44.0	540.8	-
116	AB14	II層	磨石	多孔質安山岩	80.5	87.7	41.8	375.0	-
117	AB14	II層	磨石	石英斑岩	91.0	78.0	48.0	531.7	-
118	AB14	II層	磨石	安山岩	100.7	85.2	52.3	821.6	-
119	AC14	II層	磨石	多孔質安山岩	110.1	96.4	48.8	785.0	-
120	AB14	II層	磨石	ホルシフエルス	85.0	66.0	40.0	405.9	-
121	-	ピット	石鏟	頁岩	55.0	33.0	10.0	24.9	切口石鏟
122	AC13	II層	石鏟	ホルシフエルス	52.0	38.0	12.5	36.7	切口石鏟
127	SE	-	石鏟	無從品質安山岩	23.0	20.0	7.5	3.1	-
128	SE	-	石鏟	頁岩	48.0	27.0	11.0	21.0	-
129	SE	-	磨製石斧	ホルシフエルス	97.4	65.9	40.4	360.4	敲打痕有
130	SE	-	磨石・敲石	砂岩	109.0	68.0	39.0	400.3	敲打痕有、被熱痕有

第3章

第4節 山中遺跡3・4区



第4節 山中遺跡3・4区の調査

1 山中遺跡3・4区の概要

山中遺跡3区（以下3区）は、平成16年度に本発掘調査を実施し、同時期に調査を行っていた2区の東側隣接地に位置する。山中遺跡4区（以下4区）も同時期に調査を行っており、調査範囲も狭く、3区東側に隣接し一連のものであることから併せて報告する。調査区周辺は、西から東に向けて緩やかに傾斜しており、地形的に高い部分にあたる調査区西側は、基本土層IX層（アカホヤ火山灰層）の下位まで掘削を受けており、基本土層X層（牛ノ脛火山灰層下部）が露出する状態であった。遺物の出土は、調査区西側から中央部にかけて多く認められ、東側は少量であったため、一部基本土層VI層（黒色土層）の掘削を行わなかった所がある。遺構は縄文時代後期の竪穴住居5棟や土坑が確認された他、同時期のものと考えられる掘立柱遺構、調査区東側では基本土層VI層上面で検出した掘立柱建物を検出している。遺物は縄文時代中期の船元式・春日式、中期後葉の中尾田III類・大平式、後期初頭の岩崎式・阿高式・南福寺式・中津式・福田K2式、後期前葉の指宿式・市来式、後期中葉の西平式、後期後葉の三万田式・鳥井原式、晩期の古闇式、古墳時代の土師器、近世陶磁器等が出土している。

2 遺構と遺物

竪穴住居

SA10（図32）

調査区南西部AB16に位置し、基本土層IX層（アカホヤ火山灰層）で検出した。平面は径2.75～3.55mの不整形で、深さ0.25mを測る。床面には小穴を8基検出し、径0.28～0.70mの円形基調であり、床面からの深さ0.10～0.76mを測る。中央に浅い小穴を挟んで、床面からの深さが0.75m前後と同一規格を持つ2本の深い小穴があり主柱穴と考えられる（C-C'）。また南西部分壁際の2本の小穴（D-D'、F-F'）も床面からの深さ0.30m前後と同一の規格であり、竪穴住居内の小穴の配置や間隔を考慮すると、入口部分となる可能性がある。出土遺物は少ないが、縄文時代後期後葉頃の深鉢底部が出土している。

SA10出土遺物（図40）

1は上げ底状の底部から丸く内湾気味に立ち上がる深鉢。外面の器面調整はミガキ調整、内面はナデ調整である。縄文時代後期後葉の三万田式頃のものと考えられる。

SA11（図33・34）

調査区南西部AA・AB16区画に位置し、基本土層VII層（暗褐色土層）上面で検出した。平面は長軸3.10m、短軸2.85mの方形で、深さ0.30mを測る。床面には6基の小穴があり、床面は平坦で、壁はしっかりと立ち上がる。SA12と重複し、SA12より古い。遺物は縄文時代後期初頭の岩崎式が出土した。

SA11出土遺物（図40）

2は肥厚する口縁部に凹点を施し、器面調整は内外面ともにナデ調整である。3～6は土製円盤であり、いずれも無文土器である。4・5の側面には部分的に磨滅痕が認められる。7はホルンフェルス製の磨製石斧であり、欠損後敲石として利用されたと思われる敲打痕が認められる。

SA12（図33・34）

調査区南西部AA・AB16区画に位置し、基本土層VII層（暗褐色土層）で検出した。長軸2.91m、短軸2.67mの不整形で東側は方形に近くなる。中央ならびに壁際に柱穴と考えられる小穴が4基あり、床面は平坦で、壁は直角気味に立ち上がる。深さは0.32mを測る。SA11と重複し、これより新しい。遺物は縄文時代後期初頭～前葉

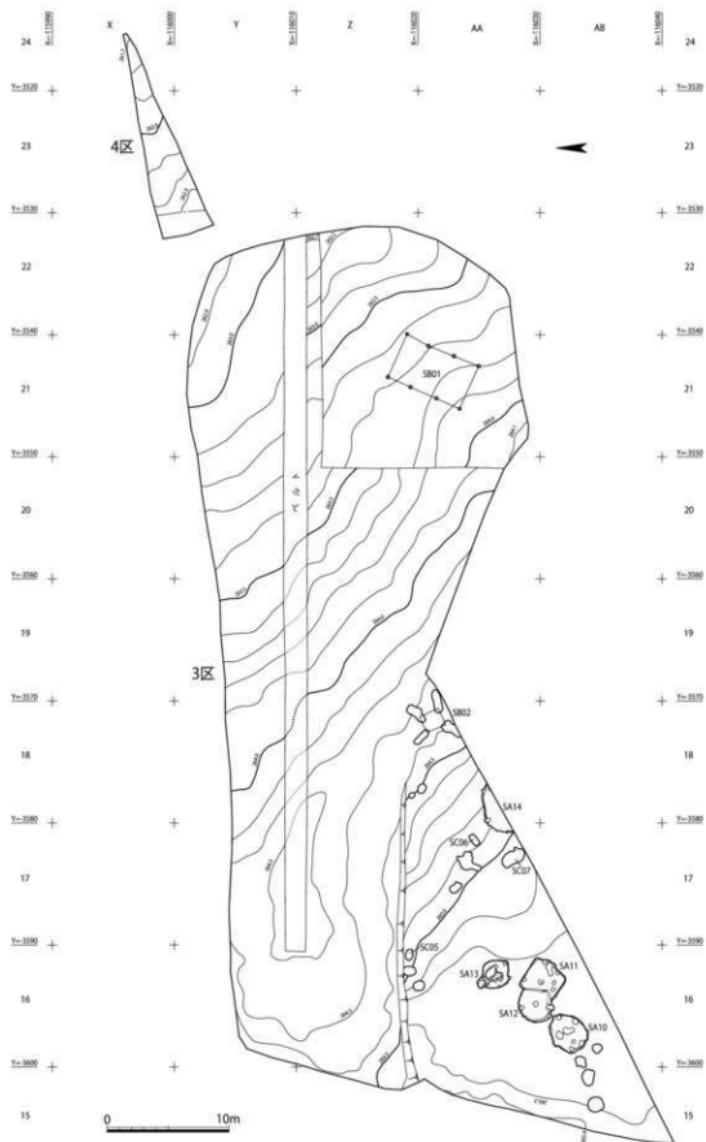


図 31 山中通路 3・4 区の遺構配置図 (1/400)

SA10

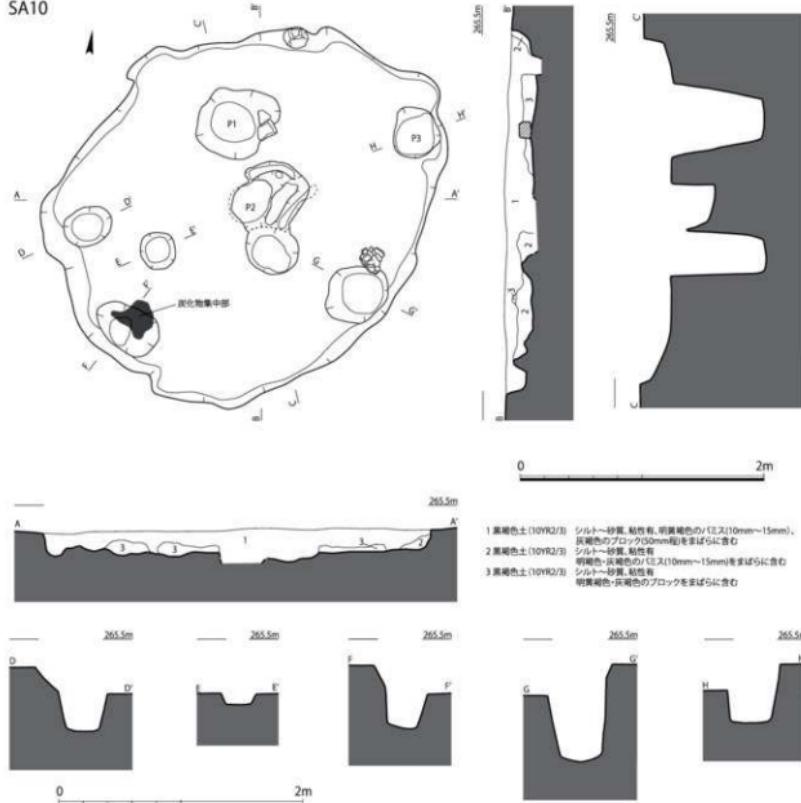


図32 SA10 整穴住居 (1/40)

の岩崎式、後期中葉の西平式、磨製石斧が出土した。

SA12 出土遺物 (図40)

8は口唇部外面に二枚貝で刺突を行い、胸部は沈線によって施文する。9は頭部から胸部にかけて緩やかに括れ、胸部には繩文が施文され、器面調整は外面ミガキ、内面ナデである。10・11は無文深鉢で、器面調整は内外面とともにナデである。12・13はホルンフェルス製の磨製石斧である。13は刃部欠損後、磨石として利用されたと考えられる磨滅痕が認められる。また表面には薄く削れたような不定形の欠損が認められる。

SA13 (図35)

調査区南西部 AA16 区画に位置し、基本土層VII層（暗褐色土層）で検出した。長軸 3.16m、短軸 2.30m の不整円形で、深さ 0.25m を測る。床面には柱穴と考えられる小穴を 6 基検出した。床面中央と北西部に土坑を確認し

SA11・12

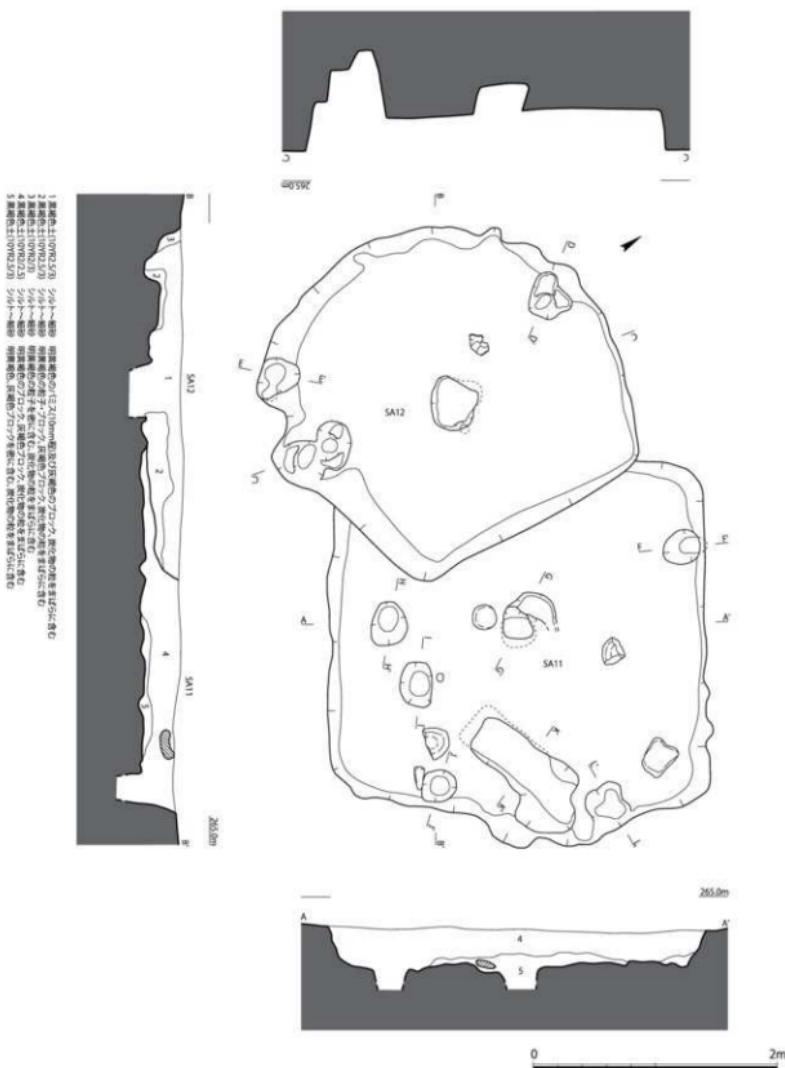


図 33 SA11・12 竪穴住居 (1/40)

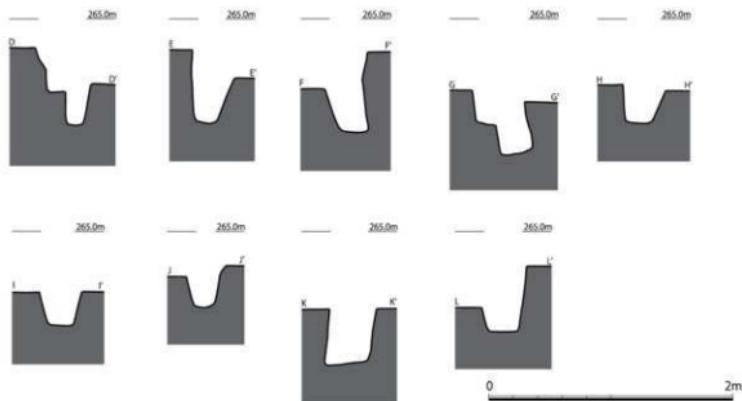


図34 SA11・12竪穴住居の小穴（1/40）

ている。遺物は縄文時代後期初頭の阿高式、後期前葉の岩崎式、後期後葉の三万田式、石鏃、磨製石斧が出土した。
SA13 出土遺物（図40・41）

14は丸い脣部から頸部で強く括れ、外反しながら立ち上がり、口唇部には縦文を施す。内外面ともに丁寧なミガキ調整である。15は口縁部に凹点を2列配し、脣部は沈線により縱方向の文様を描く。器面調整は内外面ナデであるが、内面には貝条痕の痕跡が残る。16・17は底部で、16の外表面はミガキ調整である。18はチャート製の石鏃、19はホルンフェルス製の磨製石斧である。

SA14（図36）

調査区南側 AA17・18区画に位置し、基本土層VII層（暗褐色土層）上面で検出した。平面は径4.53m+ α の不整円形で、深さ0.30mを測る。床面は平坦で、壁はしっかりと立ち上がる。小穴を2基検出した。遺物は縄文時代後期初頭の岩崎式、後期前葉の指宿式、磨石が出土した。

SA14 出土遺物（図41）

20は口唇部と外表面に竹管状の工具で刺突する。21・22は無文深鉢の底部。24は多孔質安山岩製の磨石で表面に門石として利用された痕跡が残る。

土坑

SC05（図37）

調査区西部 Z16区画に位置し、基本土層VII層（暗褐色土層）上面で検出した。平面は長軸0.92m、短軸0.60mの不整梢円形で、深さ0.56mを測る。底面は平坦で、小穴が3箇所認められる。

SC06（図37）

調査区南西部 AA17区画に位置し、基本土層VII層（暗褐色土層）上面で検出した。平面は長軸1.02m、短軸0.52mの長方形で、深さ0.97mを測る。底面は平坦で小穴が2箇所認められる。遺物は、縄文時代後期頃の無文深鉢が

SA13

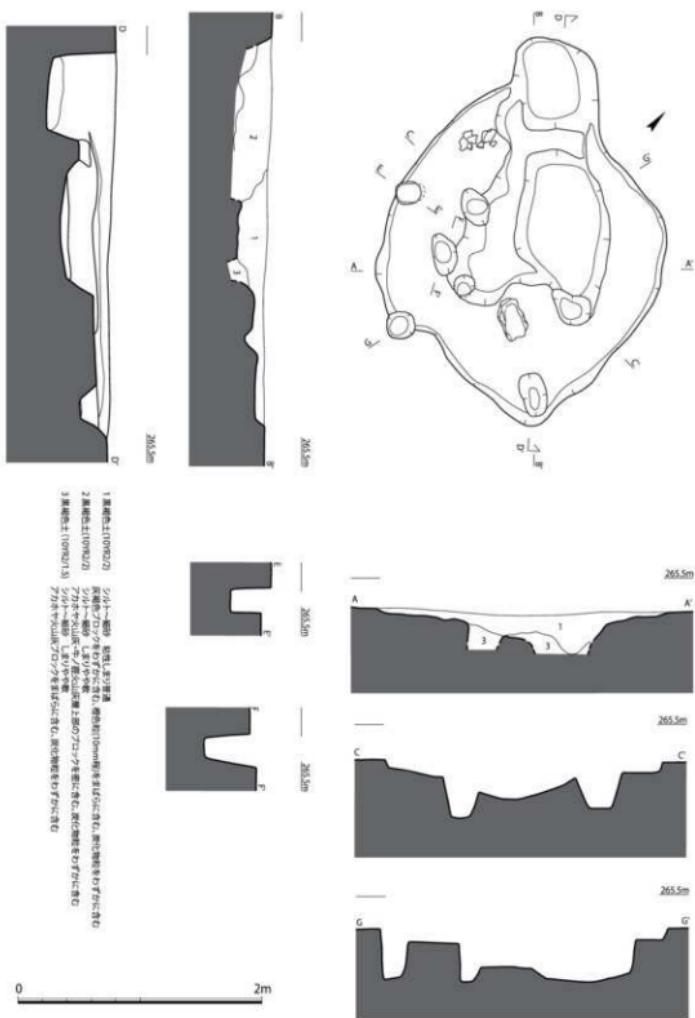


図35 SA13 竪穴住居 (1/40)

SA14

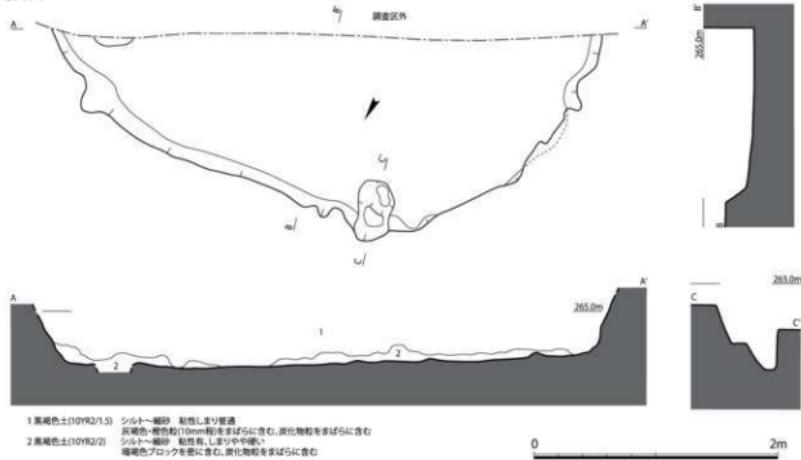


図36 SA14 穹穴住居 (1/40)

少量出土したが小片のため図示しなかった。

SC07 (図37)

調査区南西部 AA17 区画に位置し、基本土層VII層（暗褐色土層）上面で検出した。平面は長軸 2.10m、短軸 1.02m の不整橢円形で、深さ 0.19m を測る。底面は平坦で、小穴が認められる。底面に接するように 0.20m 程の礫が認められた。遺物は縄文時代後期初頭の岩崎式が少量出土したが、小片のため図示しなかった。

掘立柱遺構

SB02 (図38)

調査区南側 Z18・19、AA18・19 に位置し、基本土層VII層（暗褐色土層）上面で検出した。発掘調査時には、検出面ならびに埋土が他の縄文時代の遺構埋土と同様のものであったことから、同時期の土坑墓と想定して調査を行った。整理作業時に検討を行った結果、傾斜が認められる各土坑の最深部に根固めと考えられる礫が存在し、その配列に規格性が認められることから、4基の土坑は有機的に結びつくものと判断し掘立柱遺構として報告する。4基の柱穴にはそれぞれ SC01・02・03・04 と遺構名がついていたが、上記の理由から SB02 に変更し、各柱穴には PA・PB・PC・PD と略号を付けた。

PA の平面は長軸 1.80m、短軸 0.78m の不整橢円形で、最深部の深さは 1.02m を測る。縦断面は 2段掘り状となるが、中位の段も最深部方向に向って緩やかに傾斜する。最深部には柱を固定するためのものと考えられる礫を確認した。

PB の平面は長軸 1.54m、短軸 0.49m の楕円形で、最深部の深さは 1.14m を測る。最深部側は垂直に立ち上がり、反対側は緩やかにいくつかの段を形成しながら立ち上がる。最深部側に礫を確認した。

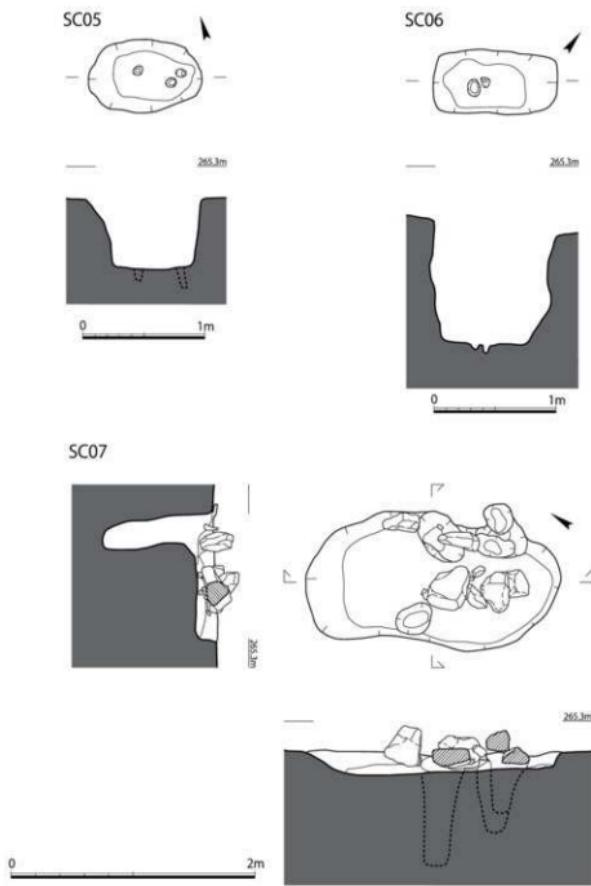


図37 SC05・06・07 土坑 (1/40)

SB02

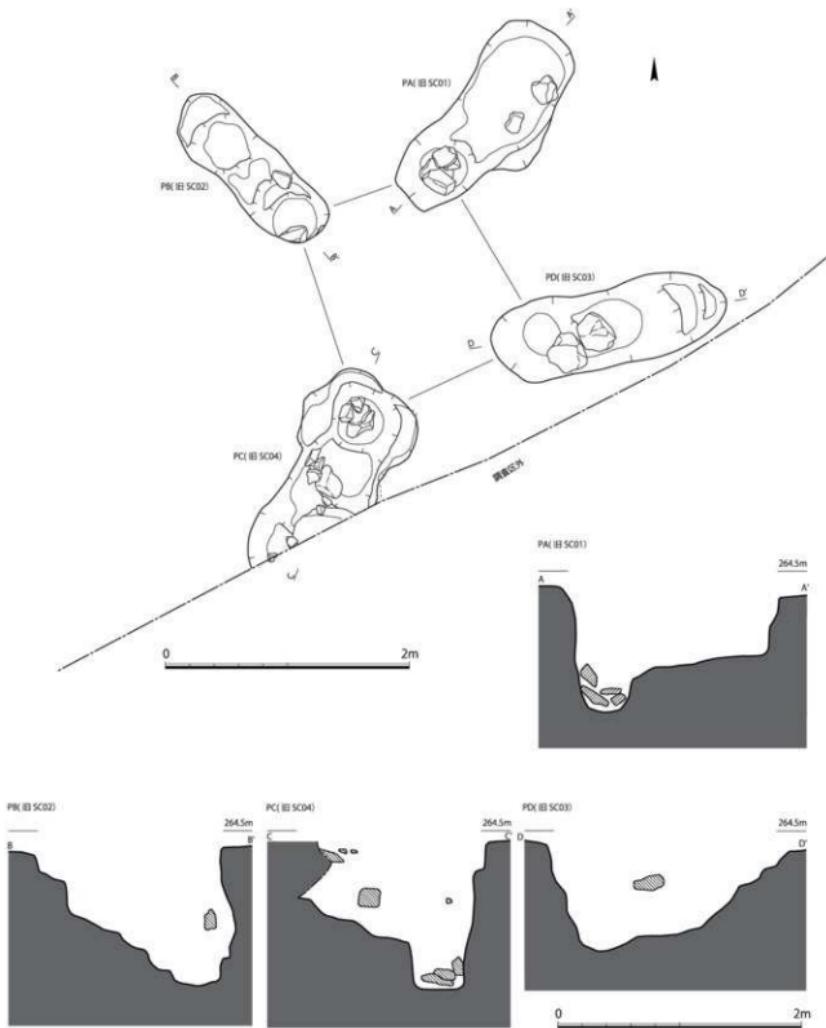


図 38 SB02 掘立柱遺構 (1/40)

PCは南側が調査区外へ延び、平面は長軸 1.45m+ α 、短軸 0.70m の不整梢円形、最深部の深さ 1.20m を測る。縱断面は、最深部にあたる北側は垂直に立ち上がり、南側へはいくつかの段を形成しながら緩やかに立ち上がる。

PDの平面は長軸 1.95m、短軸 0.63m の梢円形で、最深部の深さ 0.86m を測る。縱断面の最深部側はほぼ垂直に立ち上がり、反対側は上位でいくつかの小さな段を形成しながら緩やかに立ち上がる。

遺物は各柱穴において、縄文時代後期初頭～前葉頃の無文深鉢が少量出土したが、小片であり図示しなかった。所産時期については SBO2 が位置する区画からは、基本土層 I 層（表土）より中世の陶器が出土しているが、検出面直上の基本土層 VI 層（黒色土層）からは、縄文時代後期初頭～前葉頃の遺物が多く出土した。小破片も含めて弥生時代及び古墳時代の遺物は出土しなかった。調査時の所見等も考慮すると縄文時代後期初頭～前葉頃の遺構の可能性が考えられる。

掘立柱建物

SBO1 (図 39)

調査区南東 Z21・22、AA21 区画に位置し、基本土層 VI 層（黒色土層）上面で検出した。北東～南西棟の掘立柱建物で、梁行 1 間（3.87m）×桁行 3 間（6.45m）で、床面積は 24.51m² である。梁行柱間は 3.85 ~ 3.87m で、梁行柱間は 2.02 ~ 2.35m で、建物を構成する柱穴は径 0.26 ~ 0.30m の円形基調である。3 区では、基本土層 I 層（表土）より中世から近世の遺物が小破片であるが出土しており、これらの時期のものと考えられるが、柱穴内より遺物が出土しなかったため時期不詳である。

3 遺構外出土遺物

縄文時代中期～後期の土器（図 42 ~ 55）

25 ~ 29 は縄文と隆線で施文するもので、25 は直線気味に立ち上がる口縁に 2 条の隆線を貼り付ける。27 は撫糸文地に 2 条の隆線が観察される。

30・31 は貝条痕を丁寧にナデ消した器面に W 字状の隆線で施文する。

32・33 は内湾気味に立ち上がる口縁で、刺突や連弧状の沈線で文様を構成する。

34 はやや外反気味に立ち上がる波状口縁の土器で、丁寧にナデ調整された口縁部には 2 条の沈線が巡り、波頂部下には W 字状の沈線を施文する。

35・36 は口縁端部に W 字状の貼付を行い、貼付上に沈線や刺突を行う。

37 は頸部に W 字状の連続する隆線を貼り付け、隆線上に貝刺突を行う。38 の内面には∞状の貼付が認められる。

39 ~ 52 は口縁部付近に隆線を貼り付けるもので、隆線上に貝刺突などを行う。39・46 はやや幅広の隆線を貼り付ける。51・52 は口唇部上に W 字状の隆線を貼り付ける。

54 ~ 57 は幅の狭い肥厚帯上に貝刺突などで施文する。

58 ~ 86 は、やや幅広な肥厚部を形成するもので、59 ~ 63 は肥厚する口縁部下端に刻みを持つ。62 は竹管状の工具で蛇行文を描き、口唇部に小さな W 字状の貼付がある。64 ~ 67 は肥厚した口縁部に貝刺突を伴う W 字状の貼付を行う。69 は幅広の肥厚部に、W 字状の貼付が痕跡的に残るもので、放射性炭素年代測定の結果、4100 ± 40 年 BP (1 σ の曆年代で BC2850 ~ 2810, 2740 ~ 2730, 2690 ~ 2580 年) の年代値が得られている。70・71 は波頂部下のみに沈線により文様を施文するもので、70 の突起は貼付気味に付される。77 は肥厚する口縁部に貝刺突を連続させる文様構成である。78 は波頂部下に W 字状の文様を施文するが、口縁部には無文部も存在する。79 は肥厚する口縁部に台形と菱形を組み合わせた文様構成を持つもので、放射性炭素年代測定の結果、4160 ± 40 年 BP (1 σ の曆年代で BC2870 ~ 2840, 2820 ~ 2670 年) の年代が得られている。80・81 も台形状の文様を組み合わせた構成になる可能性がある。

SB01

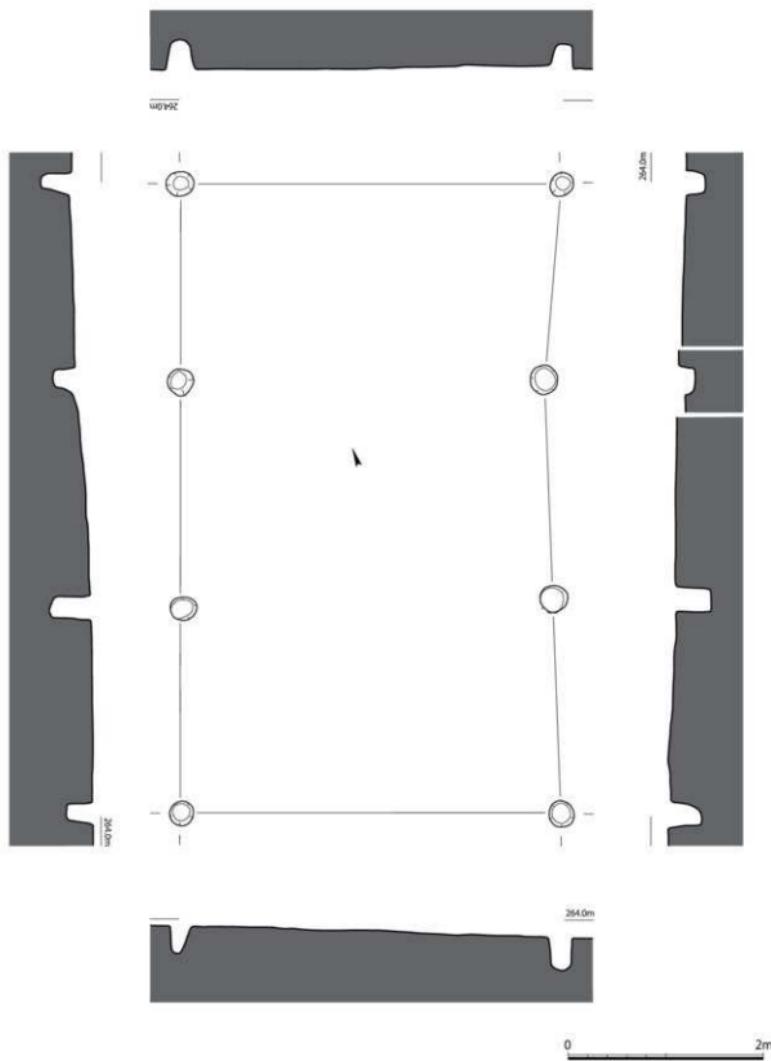


図39 SB01 挖立柱建物 (1/50)

82～86は、肥厚する口縁部にW字状の文様を横方向に連続して施文するものである。

88～102は、文様帯が広がり明瞭な段が失われる一群で、88は横方向と縱方向のW字状の文様を展開し、部分的に縱位直線の区画を持つ。口縁部の突起は小さい。89は底部を欠損するものの、ほぼ完形の深鉢で、口縁部文様帯は肥厚気味に屈曲させることにより形成する。文様はW字状文様を上下の横走沈線で区画するもので、口縁部の突起は小さい。93は内済する口縁部に、竹管状の工具で蛇行文を施文するものである。器形は異なるが描出方法は62に類似し、これと同様に口縁部に小さなW字状の貼付を持つ。94は広い文様帯に縱方向の文様を施文し、刻みを作りう小さな突起を持つ。98は丁寧なナデ調整を行う波状口縁の深鉢で、口縁部文様帯には細線状の文様で幾何学的な文様を描く。

103は肥厚する口縁部に、弧文を上下対になるように配置し、対弧文間には4ないし5箇所の刺突を行う。

104は肥厚する口縁部に円文や蛇行文を施文し、貝刺突を充填する。

105は口縁端部に幅の狭い肥厚帯を形成し、三角形を組み合わせた文様を施文する。口唇部には2～3列の刺突を廻らす。

106～112は肥厚する口縁部に、幅広の凹点を施文するものである。106は波状する口縁部に幅広の肥厚帯に凹点を廻らすもので、胸部中位まで文様を展開する。107は口縁部にやや幅狭な肥厚帯を廻らすもの。113は横方向にやや長い凹点を施文する。

114～119・121～127は、口縁部に短沈線や貝刺突を行う一群である。

128～139は、凹線・沈線間に貝刺突や円形の刺突を行うもので、134・136・137・139には文様の粗雑化が認められる。

140～146は凹線もしくは沈線によって施文されるもの、141のように凹線で胸部中位まで施文域を持つものから143・144・146のように沈線化して、文様帯が圧縮されるものも存在する。

147～163は口縁部に一定の無文帶を形成し、頸部屈曲部に凹線・沈線を施文し胸部に文様を展開するものである。この類には、胸部中位まで文様を施文するものや横長のJ字文を繰り返すものが多い。154・155・160・163の口縁端部には、貝刺突が認められ、154には巻具と思われる刺突が観察される。

164～183は阿高式もしくは後続する阿高式系土器である。164は幅広の文様帯に、阿高式通有の入組文が認められる。170～175・177～179は、文様帯が幅狭く僅かに肥厚するものもある。180は笠削文が観察される。

187～201は磨消繩文土器で、187～193は中津式、194～201は福田K2式もしくは宿毛式と考えられる。194は福田K2式の筒状突起である。

203は隆線上に貝刺突を伴う浮線文を配する。

204・205は、J字文を主文様とするもので、2本沈線間に貝刺突を行う。204は欠損しているが、J字文の先端が入組状となる。

207～212は指宿式もしくは、これに併行する土器群である。

213～217は市来式と考えられる。

218～233は、縄文時代後期初頭～前葉に含まれそうな土器群を纏めた。

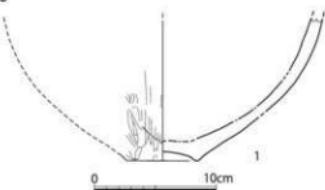
234～243は、縄文時代後期中葉の西平式で、242・243の頸部屈曲部には貝刺突が認められる。

245～247は、縄文時代後期後葉～晩期の土器を纏めた。

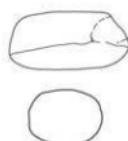
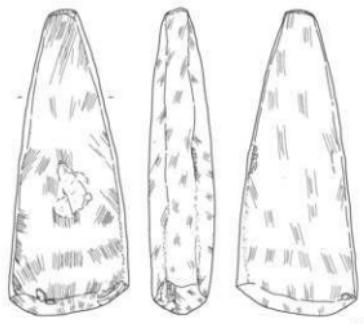
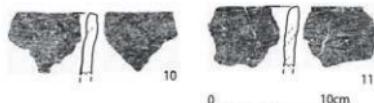
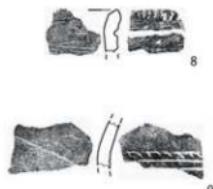
248～261は無文土器である。262～281は底部で、262は尖底である。その他の底部に関しては、縄文時代中期後葉から後期後葉頃のものと考えられる。

282～371は土器片を加工した土製円盤である。372～377は土器片を加工した土器片錘である。378～382は弥生時代以降の遺物を纏めた。

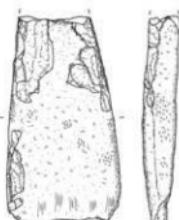
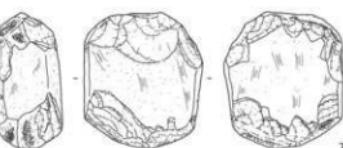
SA10



SA12



SA11



SA13

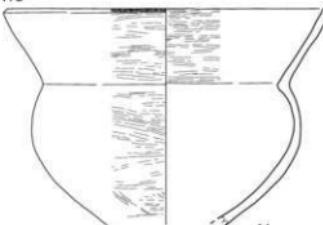
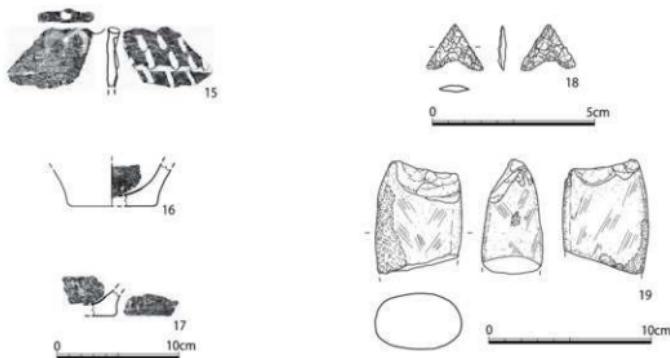


図40 SA10・11・12・13出土物 (7・12・13: 1/3 その他: 1/4)

SA13



SA14

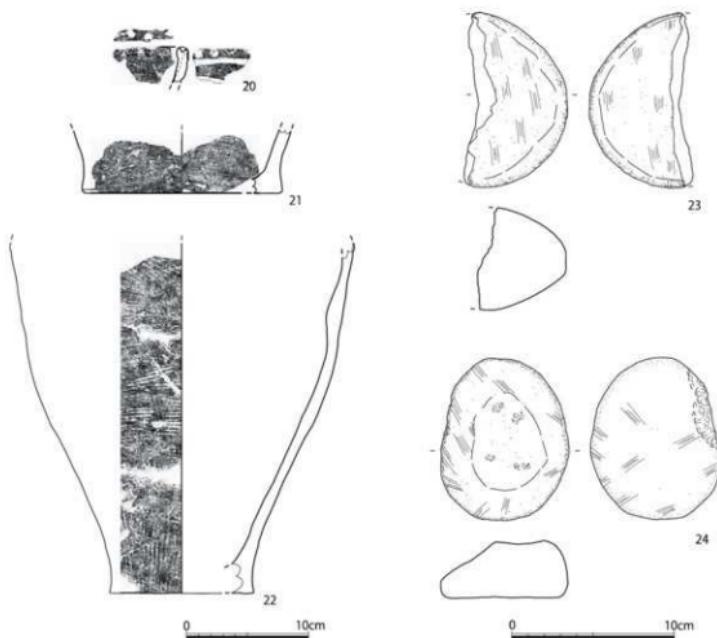


図 41 SA13・14 出土遺物 (18:2/3 19・23・24:1/3 その他:1/4)

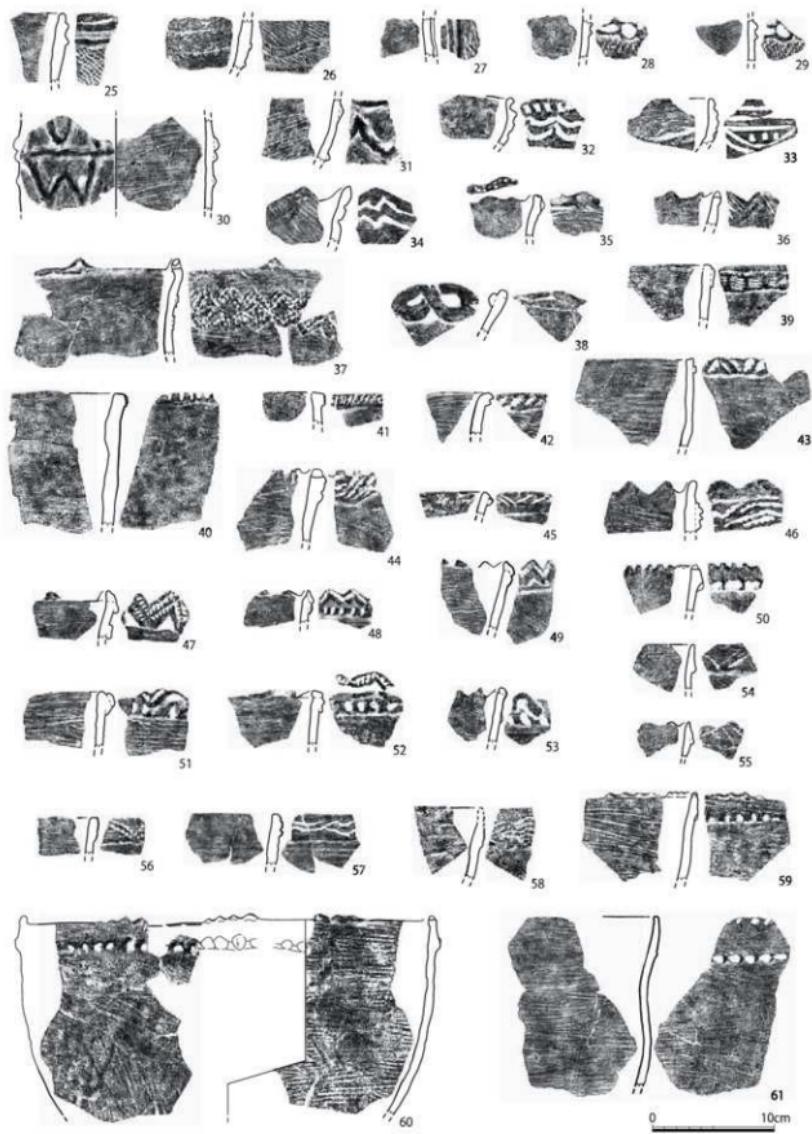


図42 3・4区遺構外出土遺物1 (1/4)

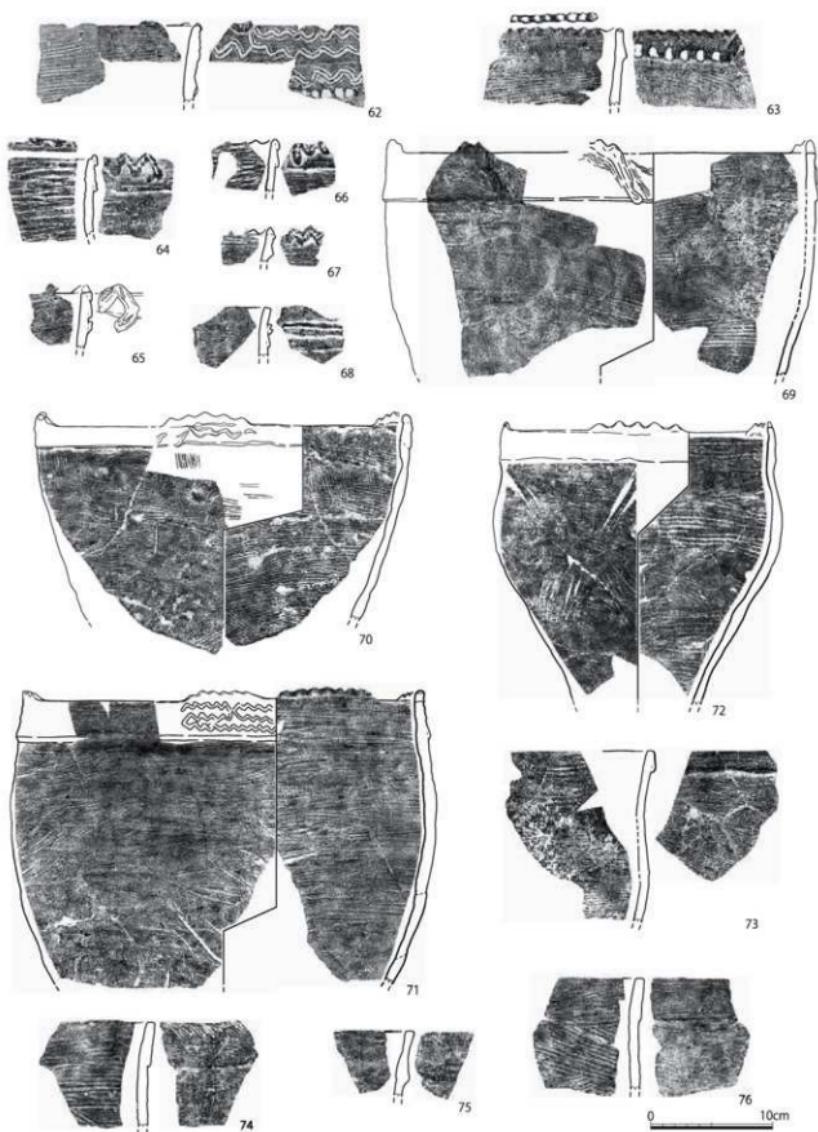


図43 3・4区遺構外出土遺物2 (1/4)

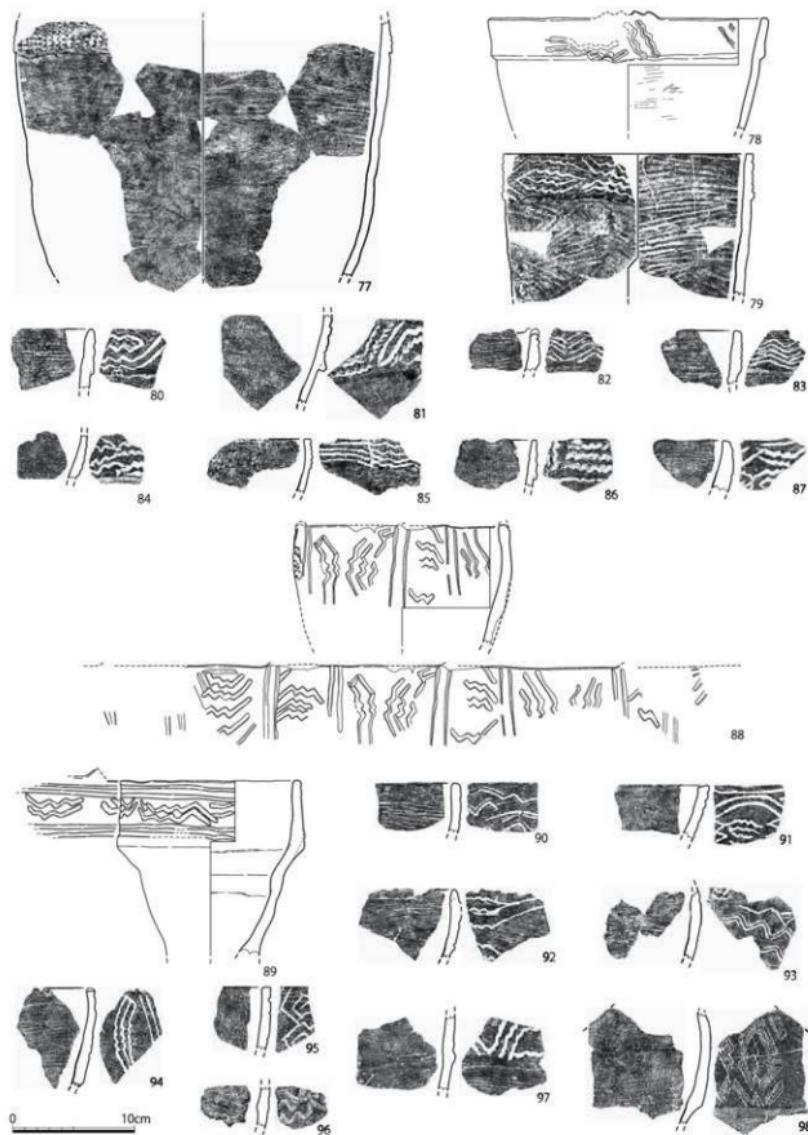


図44 3・4区遺構外出土遺物3 (1/4)

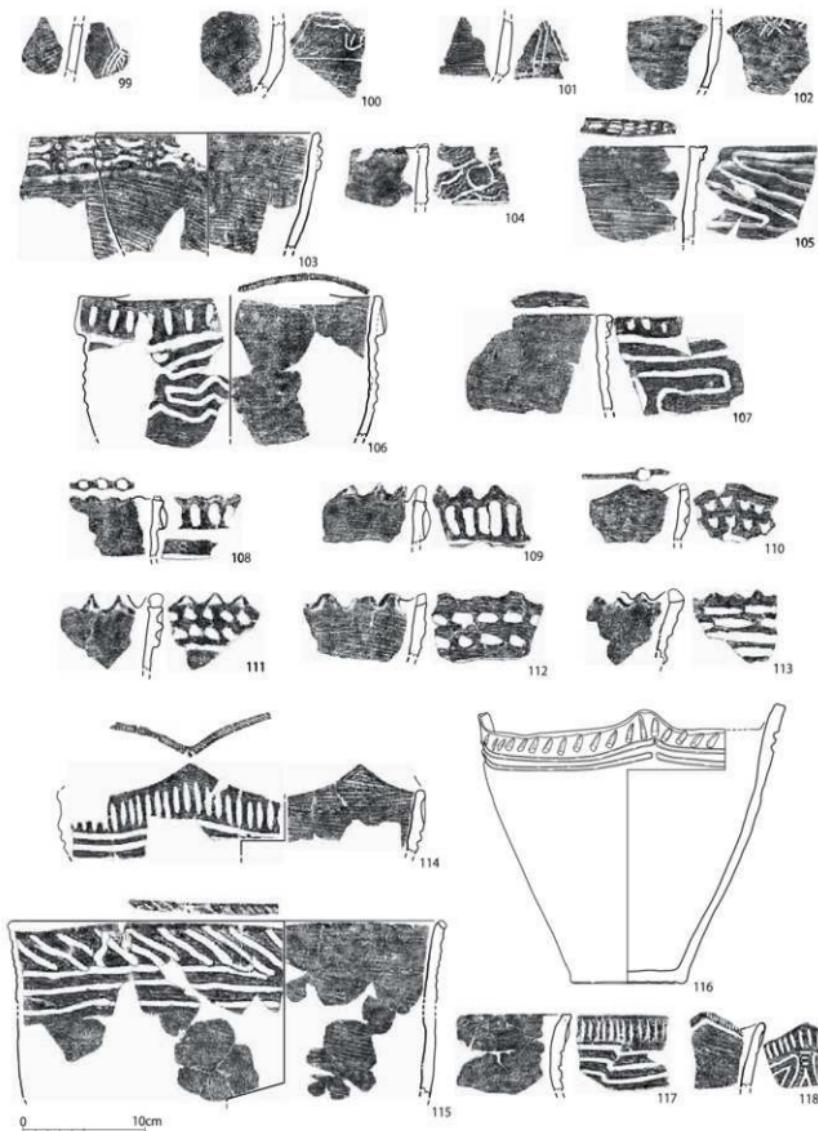


図45 3・4区遺構外出土遺物4 (1/4)

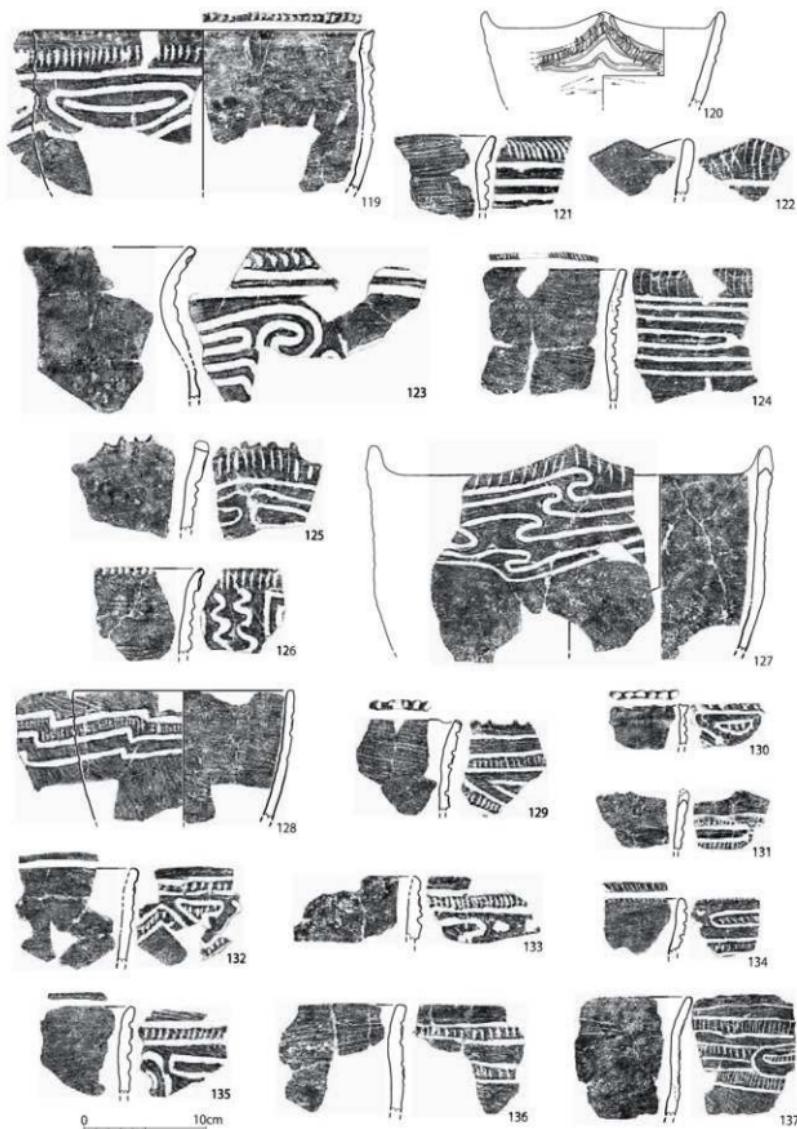


図46 3・4区遺構外出土遺物5 (1/4)

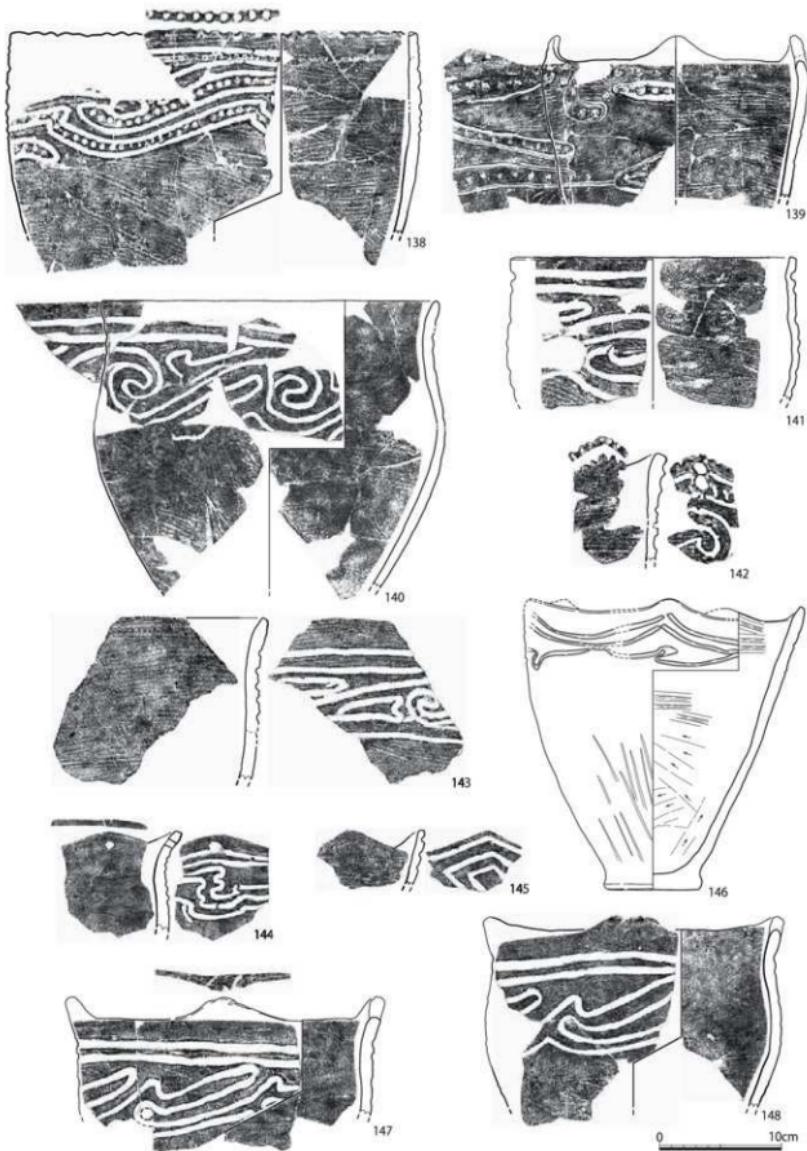


図47 3・4区遺構外出土遺物6 (1/4)

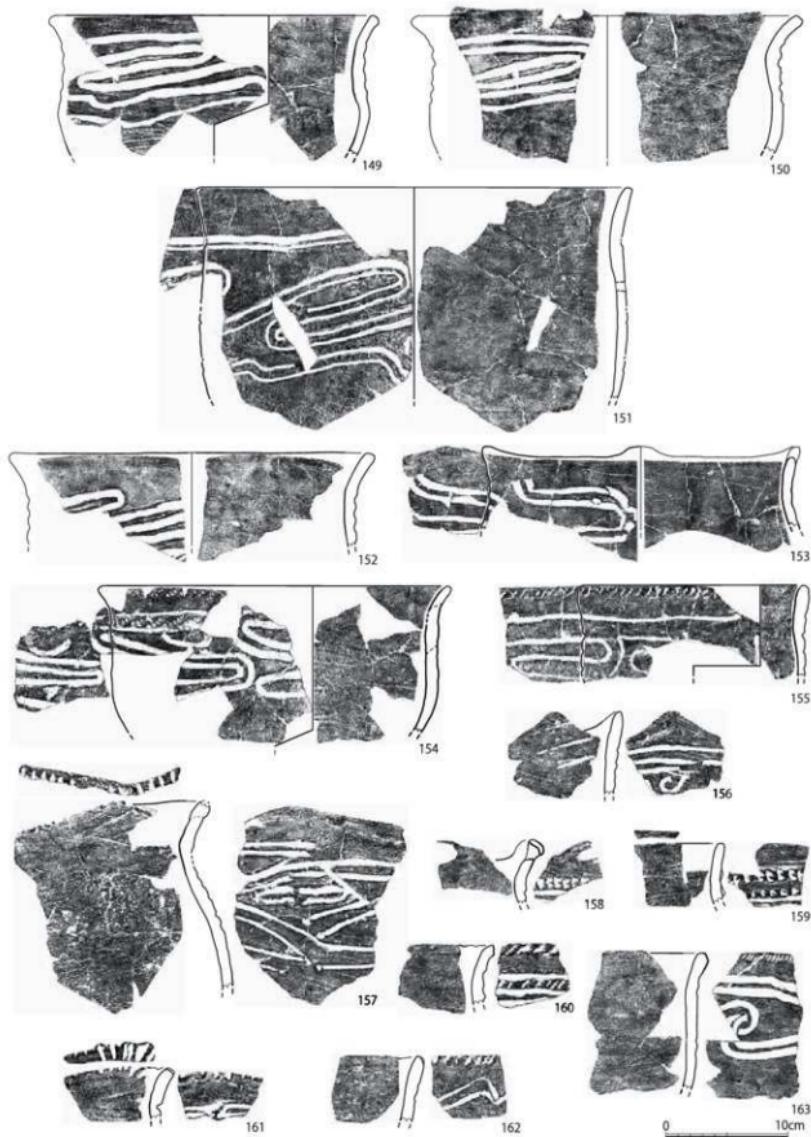


図48 3・4区遺構外出土遺物7 (1/4)

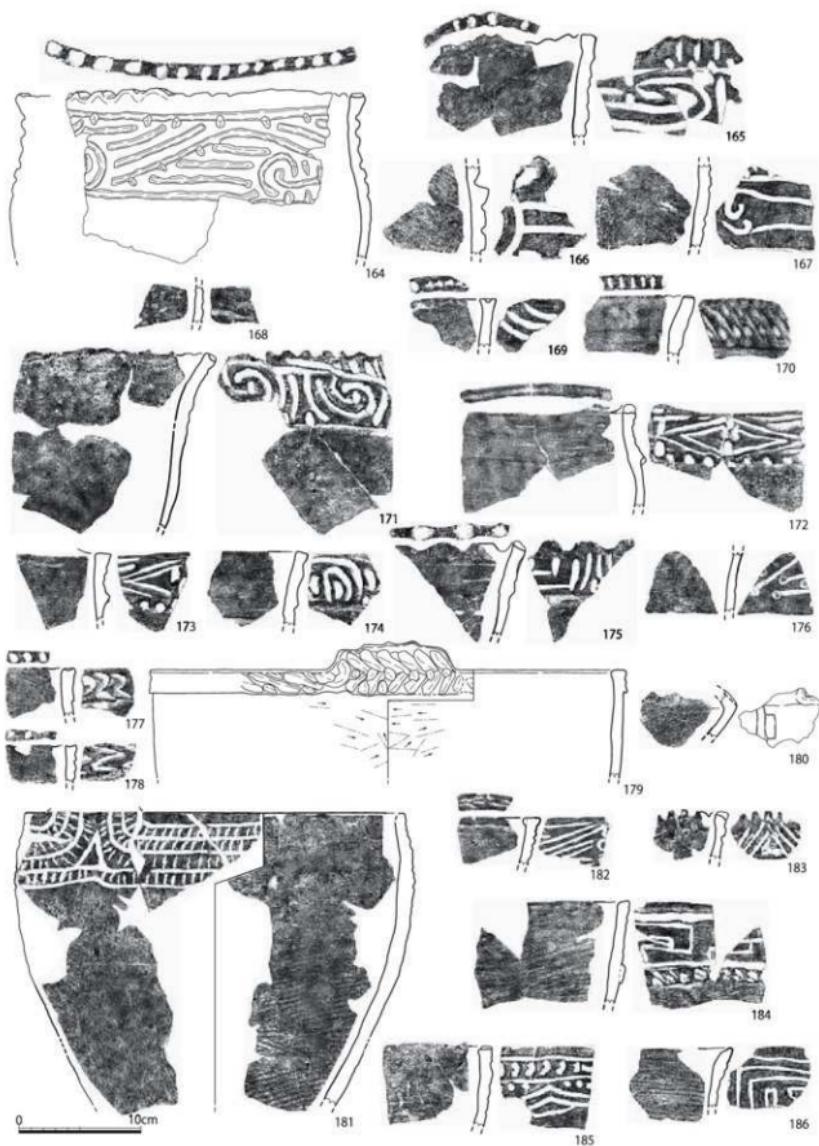


図49 3・4区遺構外出土遺物8 (1/4)

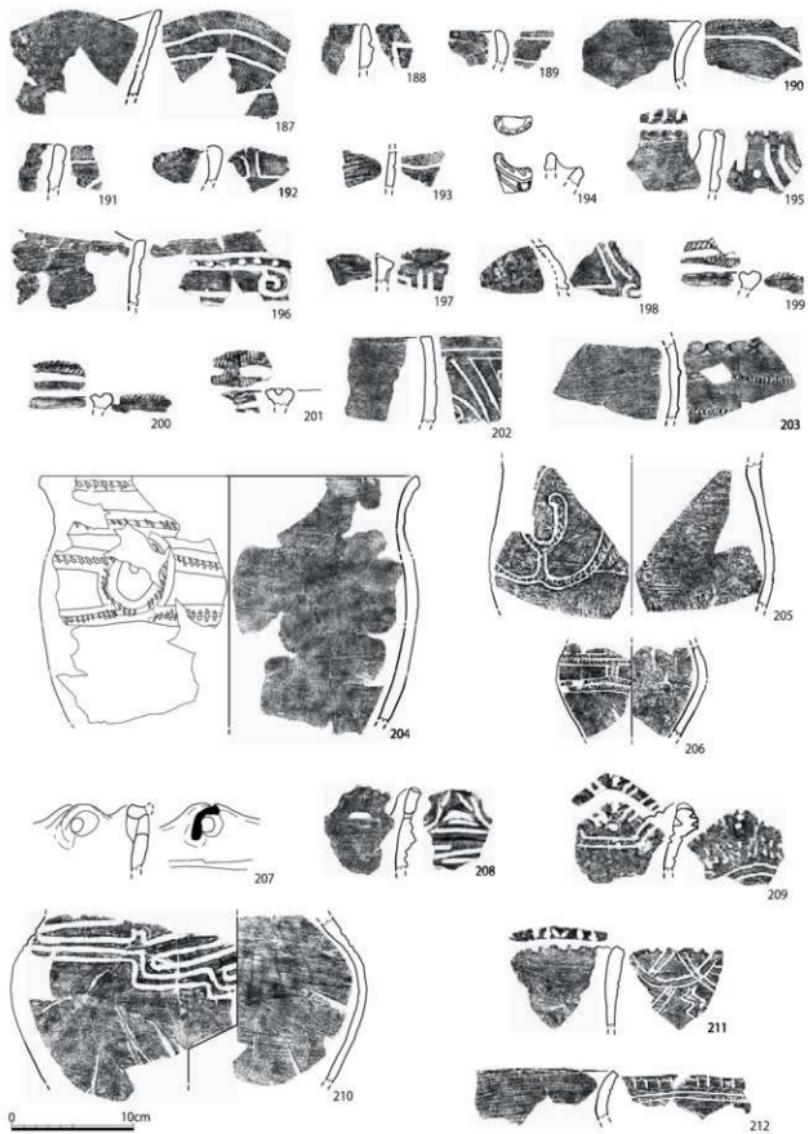


図50 3・4区遺構外出土物9 (1/4)

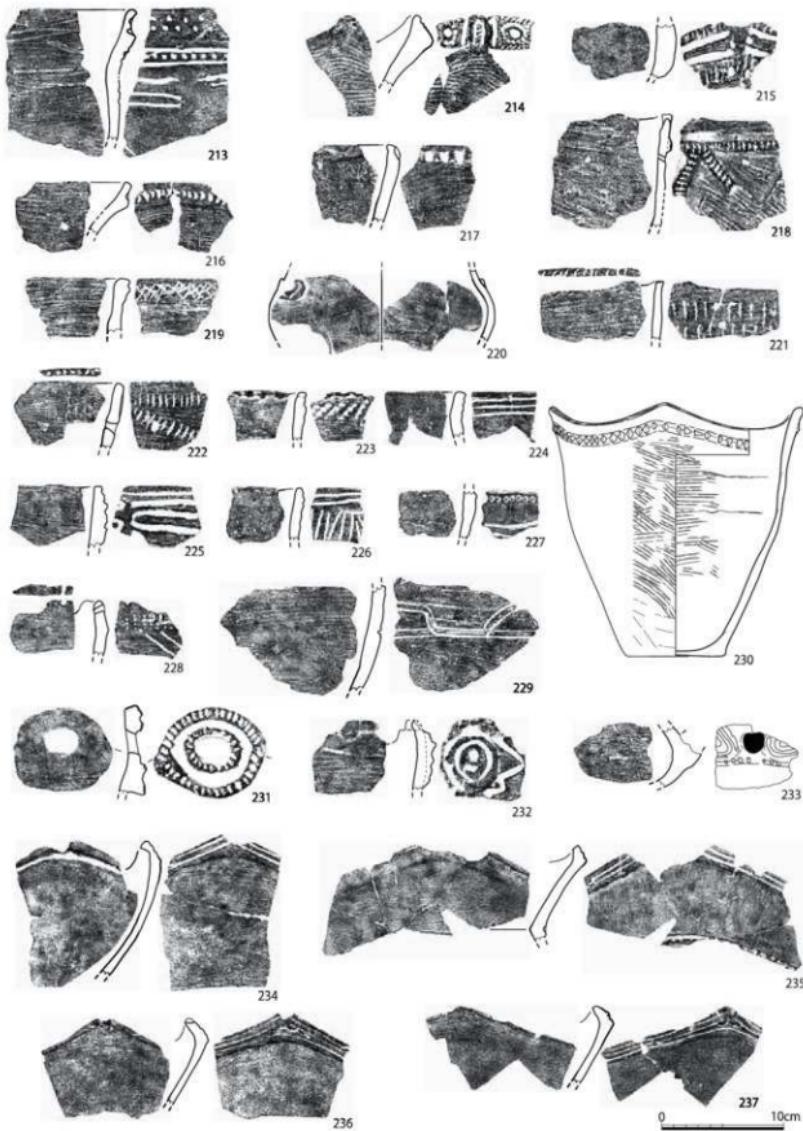


図51 3・4区遺構外出土遺物 10 (1/4)

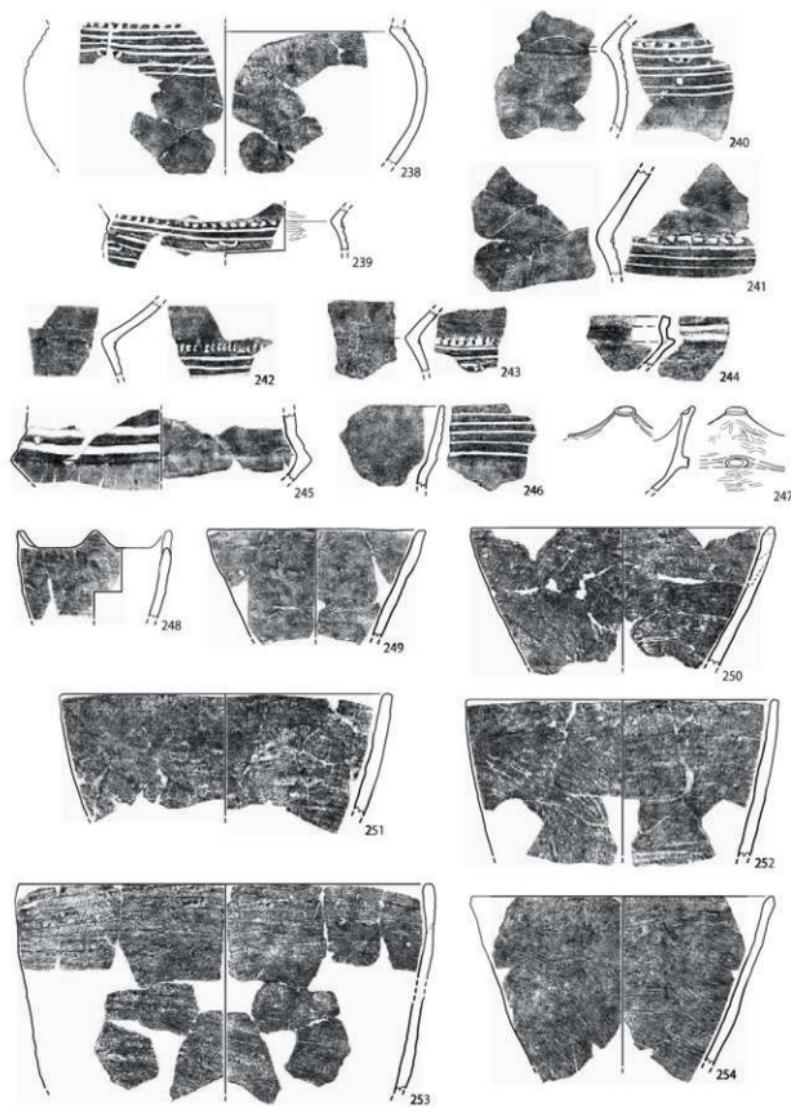


図52 3・4区遺構外出土遺物 11 (1/4)

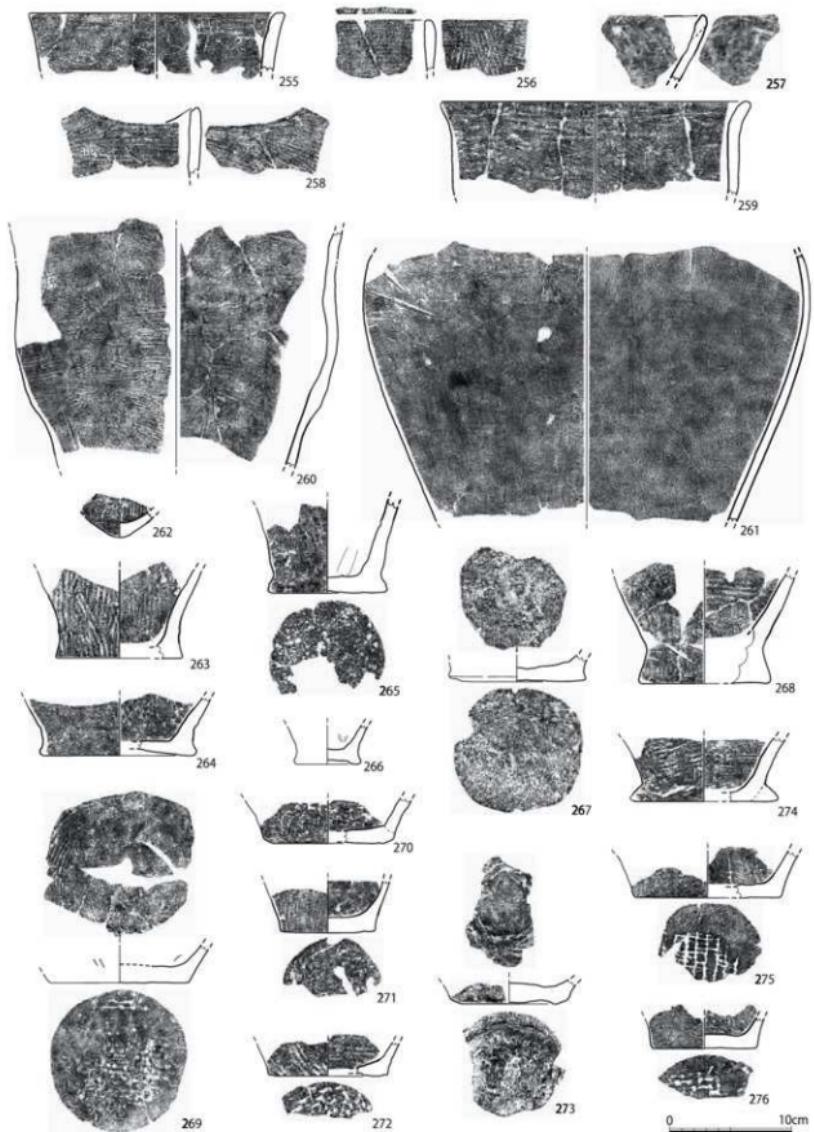


図53 3・4区遺構外出土遺物 12 (1/4)

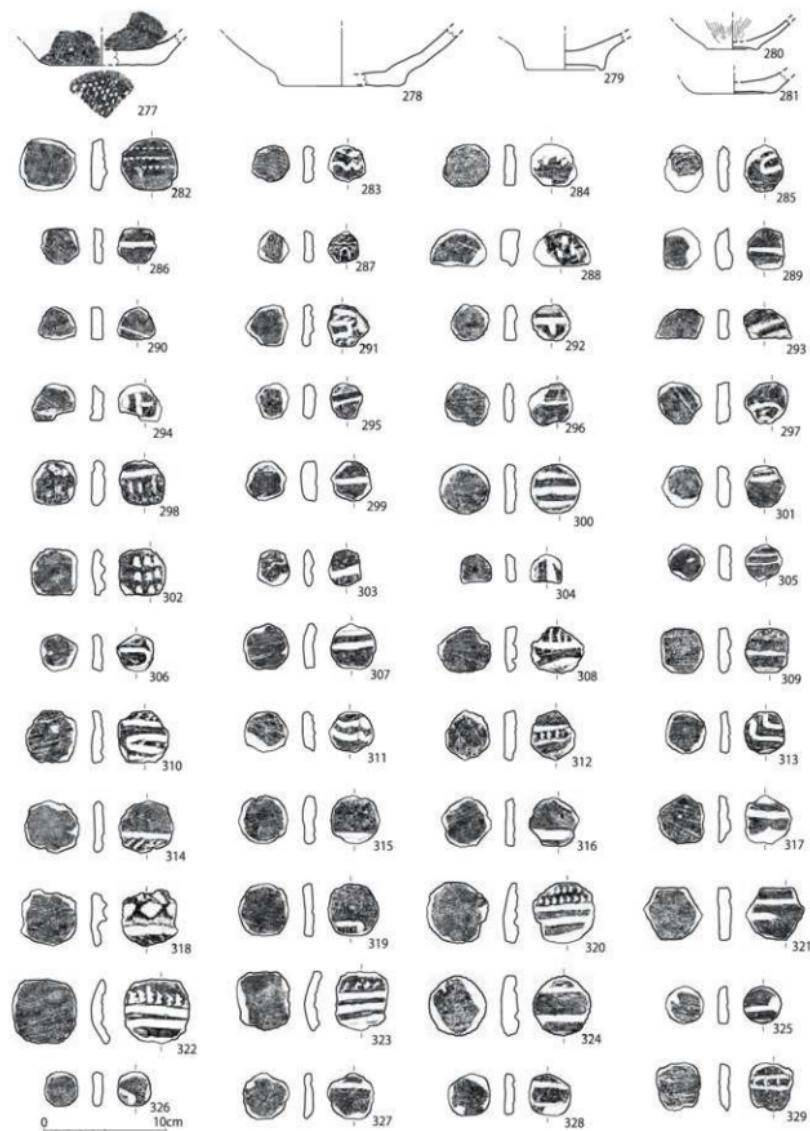


図54 3・4区遺構外出土遺物13 (1/4)

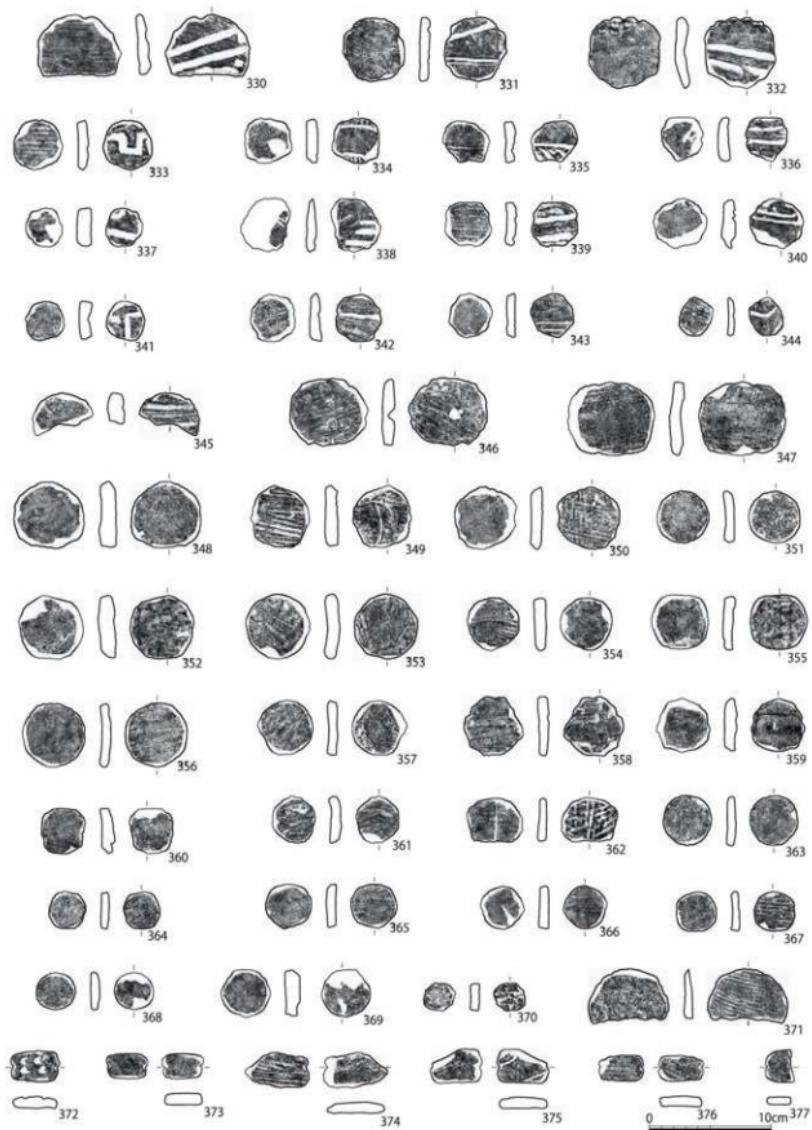


図55 3・4区遺構外出土遺物 14 (1/4)

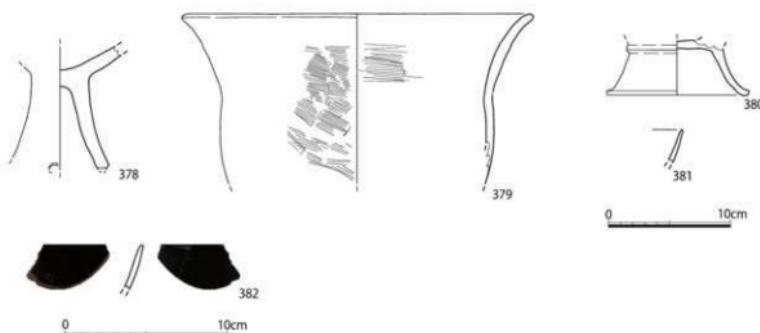


図56 3・4区遺構外出土遺物 15 (382:1/3 その他:1/4)

打製石器 (図57~61)

383~418は石鎚で、383~409は二等辺三角形の石鎚である。383~400は抉りの比較的深い凹基、401~405は抉りの浅い微凹基、406~409は平基となる。410~418は正三角形のもので、417は抉りの浅い微凹基となる。

419は黒曜岩製の石錐である。

420~422は石匙である。

423~433は削器で、423~427は石匙の可能性がある。428は黒曜岩製で腰岳産のものと考えられ、縦長剥片の縁辺に調整加工を施したものである。

434・435は石核である。

436~438は円盤状に形成する石器で、436・437の縁辺断面は平坦になり刃部を形成するものではない。いずれも安山岩製である。

439~444は扁平な安山岩もしくは砂岩を素材として、縁辺に調整加工を持つもので、打製石斧と考えられる。

441は多孔質で、都城市周辺の遺跡で出土する両輝石安山岩に類似する。

磨製石器・礫石器 (図61~67)

445~463は磨製石斧である。447・450は蛇紋岩製で、447は細長く中位の横断面は円形に近い、刃部には細かな欠損が認められる。463は使用によるためか、刃部の稜線は磨滅し、刃部の断面は丸くなっている。

464~479は磨石である。467は全面に赤色顔料が認められる。465の側面には、敲打痕が認められ敲石としても利用された可能性がある。474の両表面中央には窪みが認められ、凹石として利用されたものと考えられる。

482・512・513は砥石の可能性のあるもの。

480・481・483~490は敲石と考えられ、側面などに敲打痕が認められる。489・490は凹石となる可能性もある。

491~511は切目石錘で、504は短軸側に切目を入れる。

514・515は安山岩を用いた石皿である。

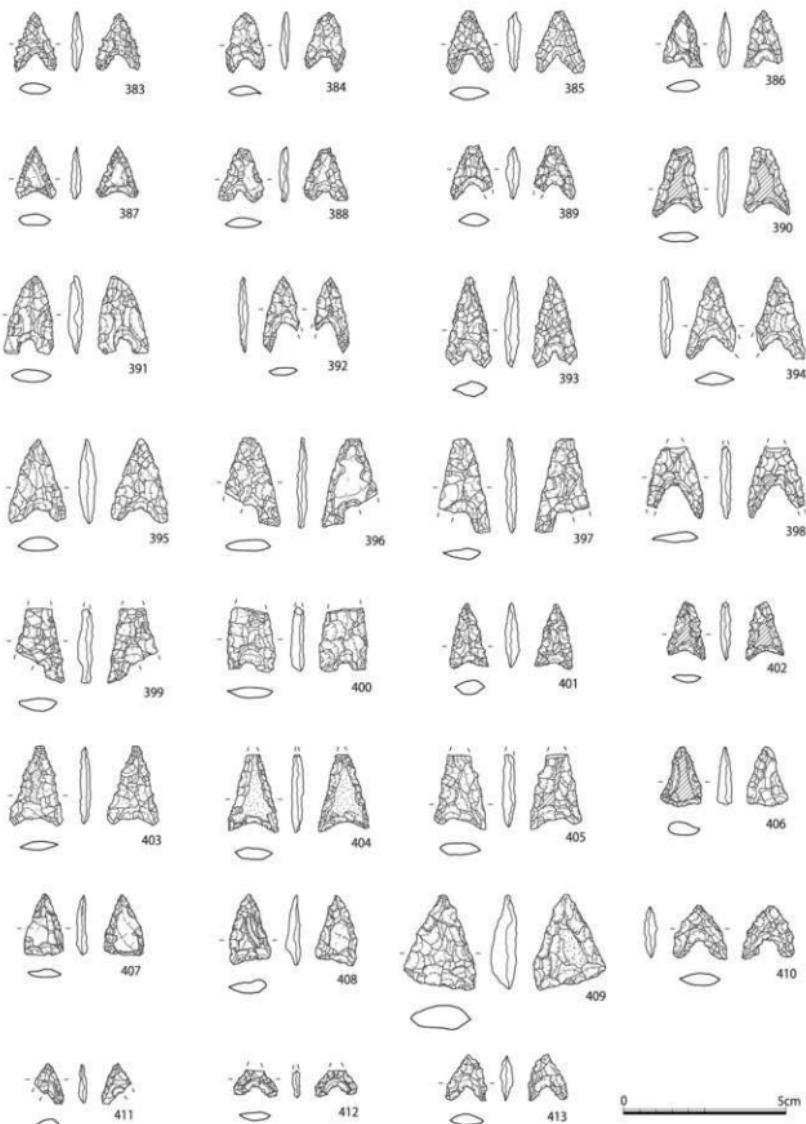


図 57 3・4区遺構外出土遺物 16 (2/3)

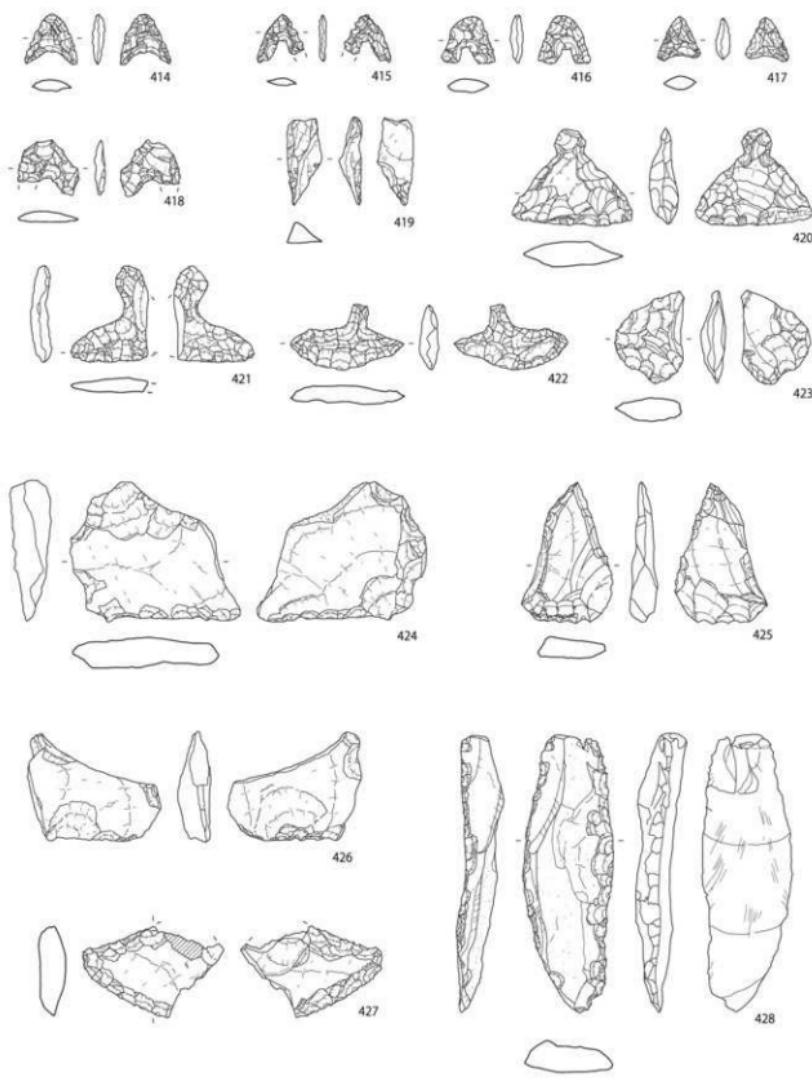
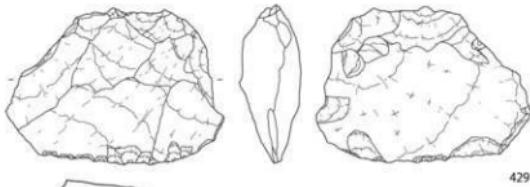
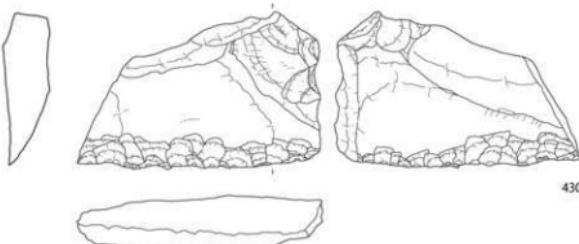


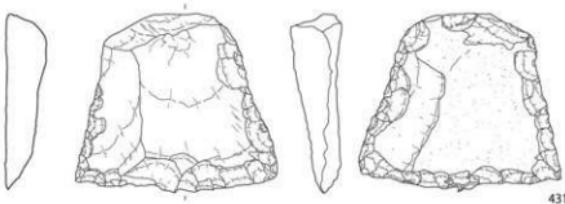
図58 3・4区遺構外出土物17 (2/3)



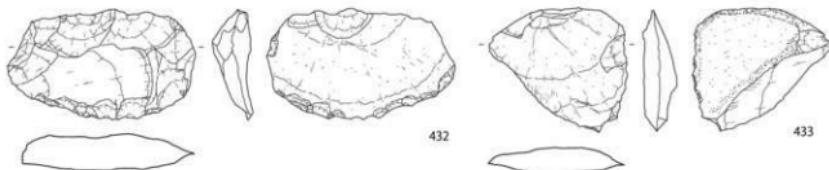
429



430



431



432

433

0 5cm

図 59 3・4区遺構外出土遺物 18 (2/3)

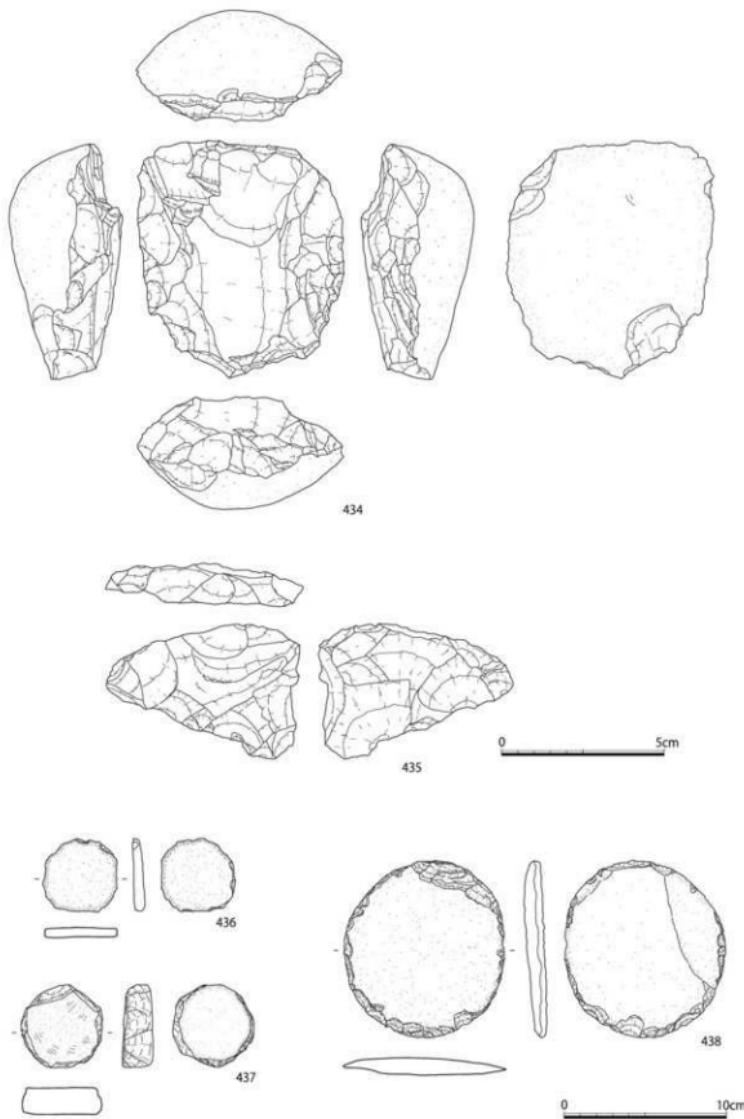


図60 3・4区遺構外出土遺物 19 (434・435:2/3 その他:1/3)

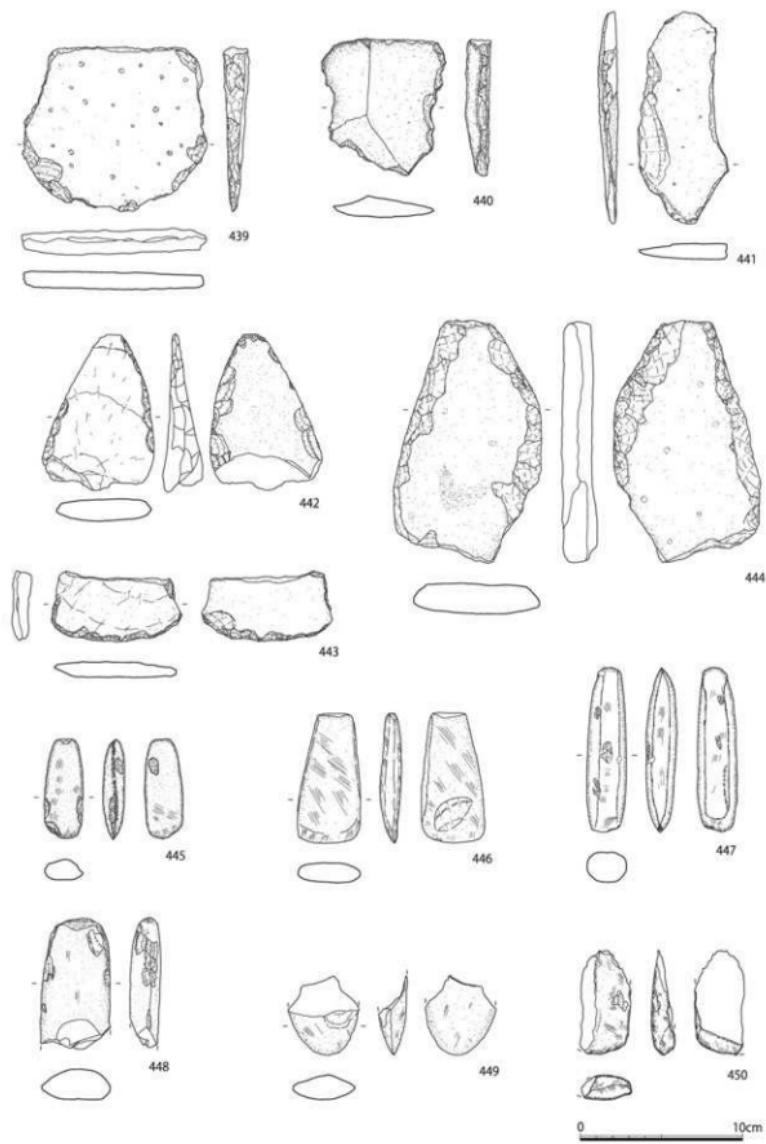


図 61 3・4区遺構外出土遺物 20 (1/3)

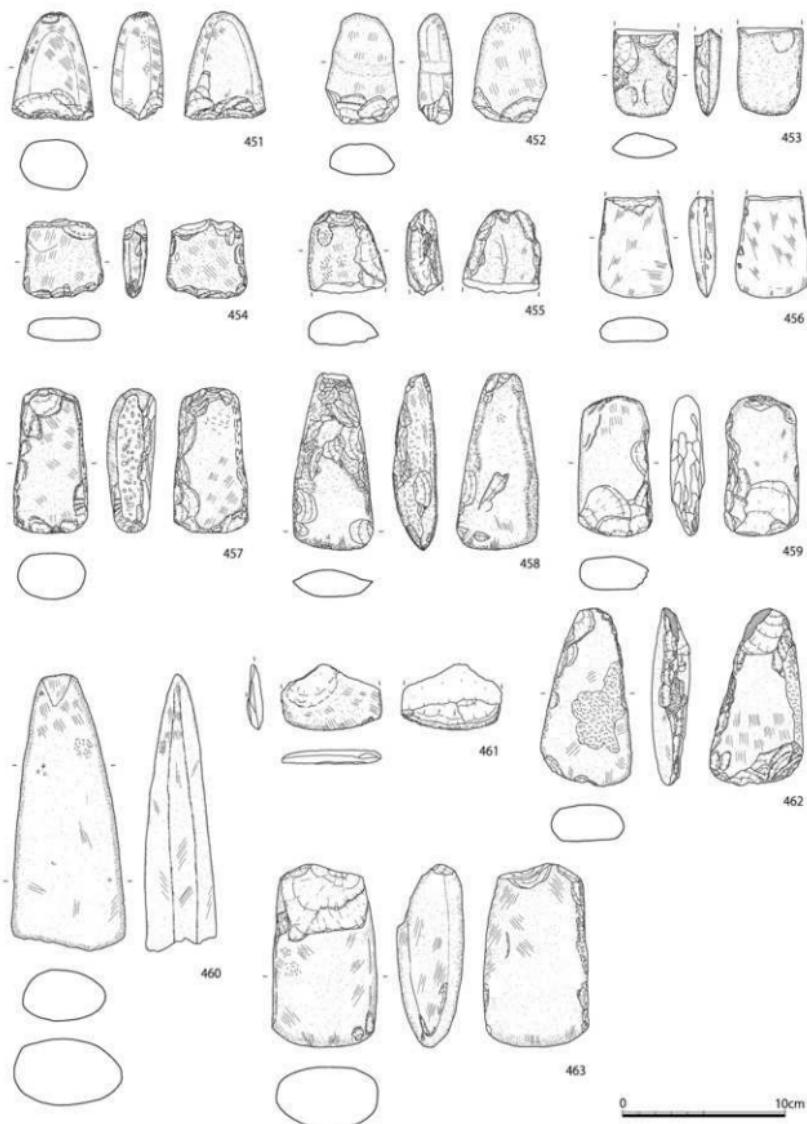


図62 3・4区遺構外出土遺物21 (1/3)

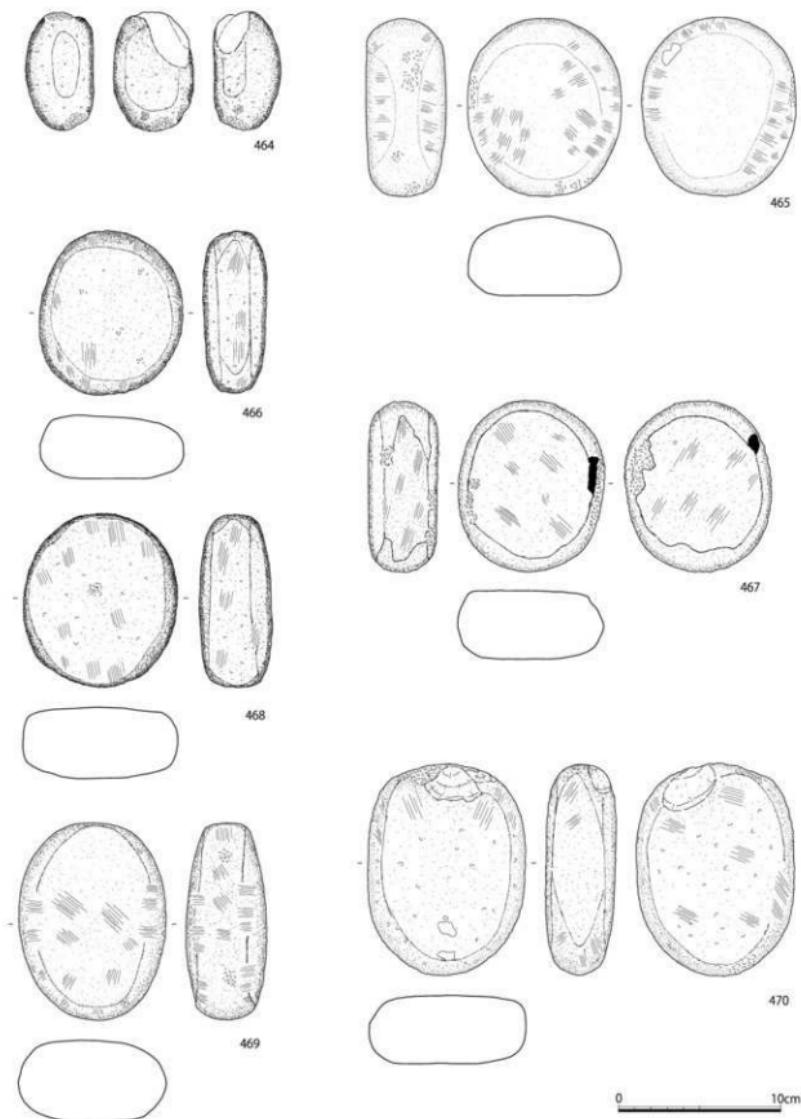
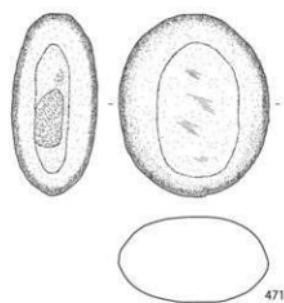
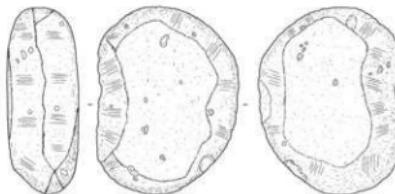


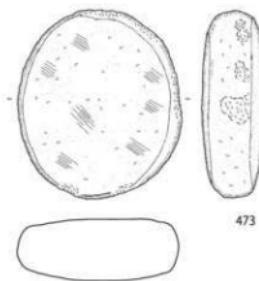
図 63 3・4区遺構外出土遺物 22 (1/3)



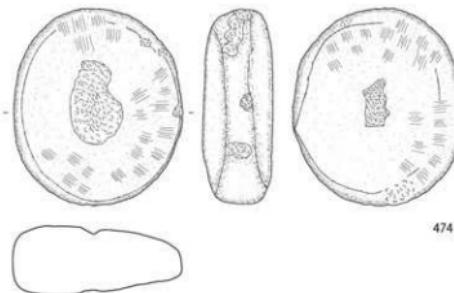
471



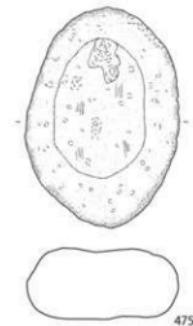
472



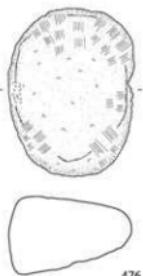
473



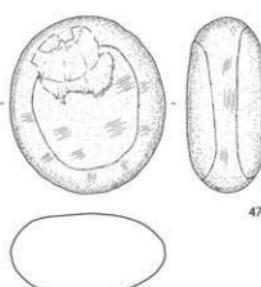
474



475



476



477

0 10cm

図 64 3・4区遺構外出土遺物 23 (1/3)



図 65 3・4区遺構外出土遺物 24 (1/3)

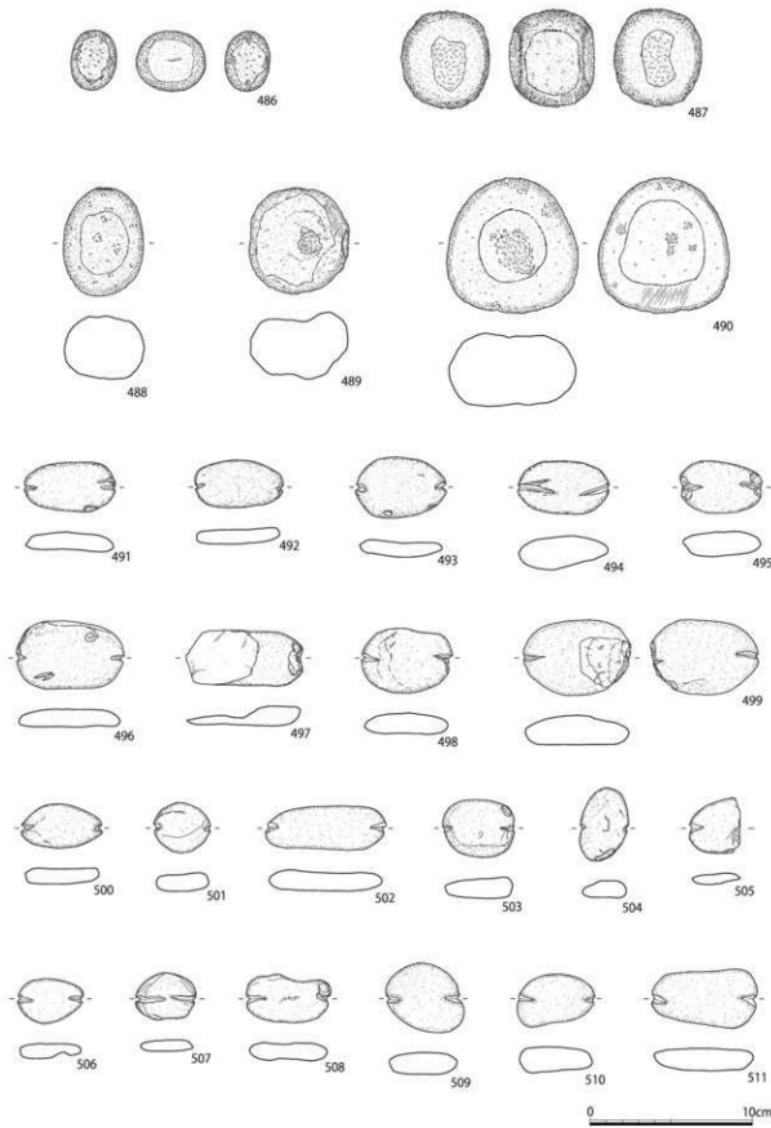


図66 3・4区遺構外出土遺物 25 (1/3)

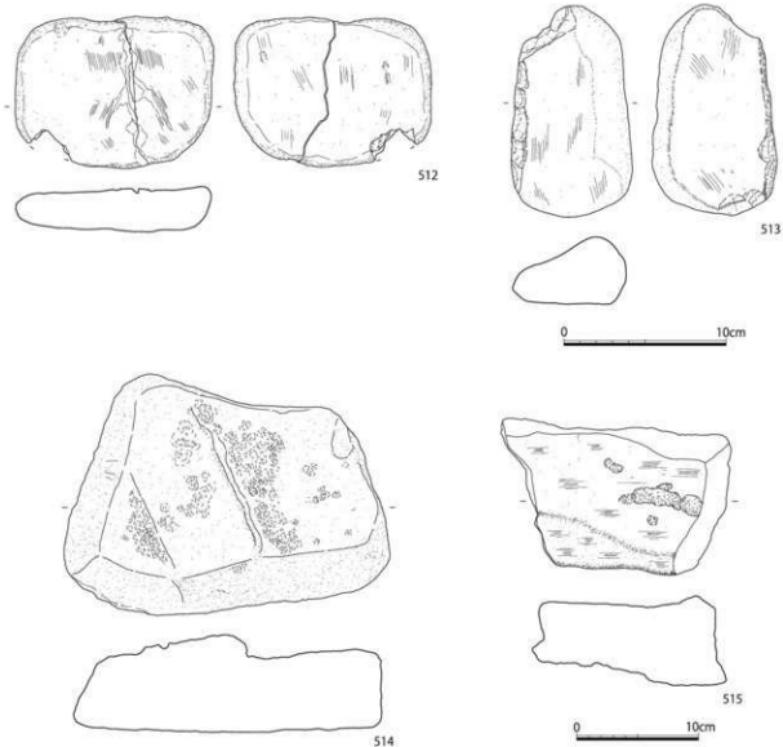


図67 3・4区遺構外出土遺物 26 (512・513:1/3 その他:1/4)

表3 3・4区出土遺物観察表(土器)

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法(cm)			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
1	SA10	圓文土器 深鉢	-	(5.9)	-	外:ミガキ 内:ナダ	外:2.5V2/1黒 内:10YR3/2黒褐	-
2	SA11	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→圓点 内:ナダ	外:10YR8/4C黄褐 内:10YR8/4C黄褐	-
3	SA11	土製品 土製円盤	幅 4.0	横 4.0	厚 0.9	外:ナダ 内:ナダ	外:5VR3/1黒褐 内:5VR6/8黒	重量 13.8g
4	SA11	土製品 土製円盤	幅 3.6	横 3.8	厚 1.1	外:ナダ 内:ナダ	外:7.5VR7/4C-5S-4褐 内:7.5VR8/4C-5S-4褐	重量 17.4g, 陶面磨痕有(部分)
5	SA11	土製品 土製円盤	幅 2.4	横 3.3	厚 0.7	外:ナダ 内:ナダ	外:7.5VR3/2黒褐 内:7.5VR5/4C-5S-4褐	重量 9.9g, 陶面磨痕有(部分)
6	SA11	土製品 土製円盤	幅 5.7	横 5.6	厚 0.9	外:ナダ 内:ナダ	外:7.5VR7/6黒 内:7.5VR7/4C-5S-4褐	重量 36.4g
8	SA12	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ミガキ・洗練・貝刺突 内:貝条板・ナダ	外:7.5VR4/2黒褐 内:7.5VR4/2黒褐	-
9	SA12	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ミガキ・沈線・一側突・圓文	外:7.5VR3/2黒褐 内:7.5VR5/4C-5S-4褐	-
10	SA12	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ	外:10YR4/2C黄褐 内:10YR6/3C-5S-4黄褐	-
11	SA12	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ	外:10YR6/3C-5S-4黒褐 内:10YR6/3C-5S-4黄褐	-
14	SA13-AA16 VI層	圓文土器 深鉢	(26.6)	-	-	外:ミガキ・圓文 内:ナダ	外:7.5VR6/6黒 内:10YR7/4C-5S-4黄褐	-
15	SA13	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→圓線→四桿 内:ナダ	外:7.5VR4/2黒褐 内:7.5VR6/6黒	-
16	SA13	圓文土器 深鉢	-	(7.3)	-	外:ミガキ 内:ナダ	外:5VR3/3C-5S-4黒褐 内:2.5V3/1黒褐	-
17	SA13	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ	外:2.5VR5/6黒褐 内:5VR6/1黒褐	-
20	SA14	圓文土器 盆	-	-	-	外:ナダ→沈線・一側突 内:ナダ	外:10YR3/2C黄褐 内:10YR5/3C-5S-4黄褐	-
21	SA14	圓文土器 深鉢	-	(16.4)	-	外:ナダ 内:ナダ	外:5VR6/6黒 内:5VR5/4C-5S-4黒褐	-
22	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	(11.0)	-	外:ナダ 内:ナダ	外:10YR3/3C-5S-4黄褐 内:10YR6/3C-5S-4黄褐	-
25	AA17 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→隕線・圓文 内:ナダ	外:10YR3/1黒褐 内:10YR6/3C-5S-4黄褐	-
26	-	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→隕線・圓文 内:ナダ	外:2.5V4/2黒火炎 内:2.5V4/2黒火炎	-
27	AA17	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→撲布→隕線 内:ナダ	外:10YR3/1黒褐 内:10YR6/4C-5S-4黄褐	-
28	AA17 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→隕線・圓文 内:ナダ	外:2.5V7/4C黄 内:2.5VR6/4C-5S-4褐	-
29	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→隕線・圓文 内:ナダ	外:10YR6/3C-5S-4黄褐 内:10YR5/3C-5S-4黒褐	外面煤付着
30	AA20	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→隕線 内:貝条板・ナダ	外:10YR4/1黒火炎 内:2.5V3/1黒褐	外面に赤色顔料有り
31	I層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→隕線 内:貝条板・ナダ	外:10YR4/2C黄褐 内:2.5V3/1黒褐	外面に赤色顔料有り
32	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→隕線・斜突 内:ナダ	外:2.5V3/1黒褐 内:7.5VR3/3C-5S-4褐	-
33	Y20 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→沈線・一側突 内:ナダ	外:10YR6/3C-5S-4黄褐 内:10YR6/4C-5S-4黄褐	-
34	AA17	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→沈線 内:貝条板・ナダ	外:10YR5/3C-5S-4黄褐 内:10YR5/3C-5S-4黒褐	内外面煤付着
35	Y20 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板・ナダ→斜突 内:ナダ	外:10YR6/4C-5S-4黄褐 内:10YR5/4C-5S-4黒褐	-
36	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→沈線 内:ナダ	外:10YR4/2C黄褐 内:2.5VR5/3C-5S-4褐	-
37	AA21 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板・ナダ→斜付→貝刺突 内:ナダ	外:10YR4/2C黄褐 内:10YR3/1黒褐	外面煤付着
38	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→斜付 内:ナダ	外:10YR4/2C黄褐 内:10YR3/1黒褐	外面煤付着
39	AA22 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→貝条板 内:ナダ	外:10YR3/1黒褐 内:10YR4/2C黄褐	-
40	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→貝刺突 内:ナダ	外:10YR4/2C黄褐 内:2.5V3/2黒褐	外面煤付着
41	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→貝刺突 内:ナダ	外:10YR4/2C黄褐 内:10YR5/3C-5S-4黄褐	-
42	Z17 II層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板・ナダ→貝刺突 内:ナダ	外:10YR4/2C黄褐 内:2.5VR4/3褐	外面煤付着
43	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→貝刺突 内:貝条板・ナダ	外:10YR1/3黒褐 内:10YR5/3C-5S-4黄褐	内外面煤付着
44	AA17 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→貝刺突 内:貝条板・ナダ	外:10YR5/3C-5S-4黄褐 内:10YR6/4C-5S-4黄褐	内外面煤付着

表3 3・4区出土遺物観察表(土器)

遺物番号	出土位置	種別 式種	寸法			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
45	Z22 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貝刺突 内:ナード	外:59R5/42-55-1黒褐 内:59R6/42-54-1褐	外面塗付着
46	AA17 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貝刺突 内:貝条板・ナード	外:2.5VR4/6黒褐 内:59R4/1-55-1赤褐	-
47	AA20 I層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→點付→貝刺突 内:ナード	外:7.5VR4/2黒褐 内:10VR4/2-52-1黄褐	外面塗付着
48	Z17 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→點付→貝刺突 内:ナード	外:7.5VR3/1黒褐 内:10VR4/2-52-1黄褐	外面塗付着
49	Y19 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板・ナード 内:貝条板・ナード	外:7.5VR4/2黒褐 内:10VR4/2-52-1黄褐	外面塗付着
50	AA21 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→点点 内:ナード	外:7.5VR6/42-55-1褐 内:7.5VR3/1黒褐	-
51	AA17 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板・ナード→點付→貝刺突 内:貝条板・ナード	外:7.5VR6/42-55-1褐 内:7.5VR6/42-55-1黄褐	-
52	Z20 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→點付→貝刺突 内:ナード	外:7.5VR5/42-55-1褐 内:7.5VR5/42-55-1褐	外面塗付着
53	AA17 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→點付→貝刺突 内:ナード	外:7.5VR4/6黒褐 内:7.5VR4/6黒褐	外面塗付着
54	Z20 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貝刺突 内:貝条板・ナード	外:7.5VR4/2黒褐 内:10VR4/2-55-1黄褐	外面塗付着
55	AA17 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貝刺突 内:ナード	外:10VR6/42-55-1黄褐 内:10VR6/42-55-1黄褐	-
56	AA17 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貝刺突 内:ナード	外:7.5VR4/2黒褐 内:7.5VR5/42-55-1褐	外面塗付着
57	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板・ナード→沈縫 内:貝条板・ナード	外:10VR2/1黒 内:2.5VR3/2黒褐	-
58	Z20 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈縫 内:ナード	外:10VR4/1黒褐 内:10VR4/2-52-1黄褐	-
59	Z20 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板・ナード→刺突 内:貝条板・ナード	外:10VR4/1黒褐 内:10VR4/1黒褐	-
60	Z17 VI層	圓文土器 深鉢	(34.2)	-	-	外:貝条板・ナード→刺突 内:貝条板・ナード	外:2.5VR5/6黒褐 内:5VR5/6黒褐	-
61	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板・ナード→刺突 内:貝条板・ナード	外:7.5VR4/2黒褐 内:7.5VR5/3-55-1褐	外面塗付着
62	X22 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→刺突→沈縫→點付 内:貝条板・ナード	外:7.5VR2/1黒 内:10VR5/3-55-1黄褐	-
63	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板・ナード→點付→刺突 内:貝条板・ナード	外:10VR3/2黒褐 内:10VR4/2-52-1黄褐	外面塗付着
64	AA21 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板・ナード→點付→貝刺突 内:貝条板・ナード	外:10VR4/1黒褐 内:2.5VR3/1黒褐	-
65	Y20 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→點付→貝刺突 内:ナード	外:7.5VR6/6褐 内:2.5VR5/42-55-1褐	外面塗付着
66	AA17 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板・ナード→點付→貝刺突 内:貝条板・ナード	外:7.5VR4/2黒褐 内:10VR4/2-52-1黄褐	-
67	Z20 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→點付→貝刺突 内:貝条板・ナード	外:7.5VR4/2黒褐 内:7.5VR4/3褐	-
68	Z17 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→點付→沈縫 内:ナード	外:7.5VR3/2黒褐 内:7.5VR4/3褐	-
69	Z20 VI層	圓文土器 深鉢	(35.0)	-	-	外:貝条板・ナード→點付 内:貝条板・ナード	外:2.5VR3/2黒褐 内:2.5VR5/42-55-1褐	外面塗付着、14C年代測定資料No.2 200902
70	Z17 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板・ナード→沈縫 内:貝条板・ナード	外:7.5VR5/42-55-1褐 内:7.5VR5/42-55-1褐	外面塗付着
71	AA17 VI層	圓文土器 深鉢	(32.0)	-	-	外:ナード→沈縫 内:貝条板・ナード	外:7.5VR4/2黒褐 内:10VR4/3-55-1黄褐	外面塗付着
72	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	(22.1)	-	-	外:ナード 内:貝条板・ナード	外:7.5VR5/42-55-1褐 内:7.5VR5/42-55-1褐	-
73	Y21 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板・ナード 内:貝条板・ナード	外:10VR2/1黒褐 内:10VR4/2-52-1黄褐	外面塗付着
74	Y21 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板・ナード 内:貝条板・ナード	外:7.5VR5/42-55-1褐 内:10VR4/1黒褐	-
75	P18 I層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード 内:ナード	外:7.5VR6/6黒褐 内:7.5VR5/6黒褐	-
76	Z22 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード 内:貝条板・ナード	外:7.5VR5/42-55-1褐 内:10VR5/42-55-1黄褐	-
77	Z18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貝刺突 内:ナード	外:10VR2/1黒 内:10VR3/1黒褐	-
78	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	(23.0)	-	-	外:ナード→沈縫 内:ナード	外:10VR4/2黒褐 内:7.5VR5/42-55-1褐	-
79	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	(20.4)	-	-	外:貝条板・ナード→沈縫 内:貝条板・ナード	外:10VR3/1黒褐 内:7.5VR5/42-55-1褐	内外面塗付着、14C年代測定資料No.3 200903
80	Y20 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈縫・押引 内:ナード	外:7.5VR5/42-55-1褐 内:7.5VR5/42-55-1褐	-
81	Z20 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈縫・押引 内:ナード	外:10VR3/1黒褐 内:10VR4/3-55-1黄褐	外面塗付着

表3 3・4区出土遺物観察表(土器)

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法cm			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
82	AA17 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縁 内:貝条板→ナデ	外:10YR3/2黒褐 内:10YR4/2C黄褐	-
83	Z20 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板→ナデ→沈縲	外:10YR3/2黒褐 内:10YR4/2C黄褐	外面塗付着
84	Z19 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縲 内:ナデ	外:7.5YR6/6褐 内:2.5Y5/2暗灰黄	-
85	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縲 内:ナデ	外:2.5Y5/1黄灰 内:10YR3/2黒褐	-
86	Z19 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縲 内:ナデ	外:7.5YR4/3褐 内:5YR5/6暗褐	-
87	Z20 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縲 内:ナデ	外:2.5Y3/1黒褐 内:5Y3/1タープ灰	-
88	AA17 VI層	圓文土器 深鉢	17.5	-	-	外:ナデ→沈縲	外:10YR4/4褐灰 内:10YR4/2C黄褐	-
89	AA17 VI層	圓文土器 深鉢	14.8	-	-	外:ナデ→沈縲	外:2.5Y7/3浅黄 内:2.5Y6/2C黄	-
90	Z18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縲 内:貝条板→ナデ	外:10YR3/2黒褐 内:2.5Y5/4C5.5-6褐	-
91	Z21 I 層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縲 内:ナデ	外:10YR5/4C5.5-6褐 内:2.5Y5/4C5.5-6褐	-
92	Y20 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板→ナデ→沈縲 内:貝条板→ナデ	外:2.5YR3/3褐 内:7.5YR4/2C黒褐	-
93	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縲・鉢足 内:貝条板→ナデ	外:10YR3/2黒褐 内:10YR4/2C黄褐	-
94	Z19 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縲 内:貝条板→ナデ	外:10YR3/1黒褐 内:10YR4/1褐灰	-
95	-	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板→ナデ→沈縲 内:ナデ	外:10YR5/2C黄褐 内:10YR4/2C黄褐	-
96	AA17	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縲 内:ナデ	外:10YR3/1黒褐 内:7.5YR6/4C5.5-6相	外面塗付着
97	Z20 I 層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縲 内:ナデ	外:10YR5/4C5.5-6褐 内:10YR6/4C5.5-6褐	-
98	AA20	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縲 内:貝条板→ナデ	外:2.5YR5/4H褐 内:7.5YR6/6褐	-
99	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縲 内:ナデ	外:10YR5/3C5.5-6褐 内:10YR5/2C黄褐	-
100	AA22 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縲 内:ナデ	外:10YR4/2C黄褐 内:7.5YR6/4C5.5-6褐	外面塗付着
101	Z19 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縲 内:貝条板→ナデ	外:10YR4/2C黄褐 内:10YR4/1褐灰	-
102	Y20 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縲 内:ナデ	外:10YR3/2黒褐 内:2.5Y4/2暗灰黄	-
103	AA18 VI層 AA17 VI層	圓文土器 深鉢	(18.5)	-	-	外:貝条板→ナデ→鉢突 内:貝条板→ナデ	外:10YR4/2C黄褐 内:10YR3/1黒褐	-
104	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縲→鉢突 内:ナデ	外:2.5YR6/6褐 内:10YR4/2C黄褐	-
105	AA21 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→鉢突 内:貝条板→ナデ	外:7.5YR5/4C5.5-6褐 内:10YR4/2C5.5-6褐	外面塗付着、口部部に剥落
106	AA17 VI層	圓文土器 深鉢	(24.0)	-	-	外:ナデ→回点・回縲 内:ナデ	外:7.5YR5/3C5.5-6褐 内:7.5YR7/4C5.5-6相	外面塗付着
107	Z17 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→回縲・回点 内:ナデ	外:7.5YR5/2H褐 内:7.5YR7/4C5.5-6相	-
108	-	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→回縲・回点 内:ナデ	外:2.5Y3/1黒褐 内:2.5Y3/1黒褐	-
109	AA17 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→回縲・回点 内:貝条板→ナデ	外:2.5Y6/2C5.5-6黄 内:2.5Y5/2暗灰黄	-
110	AA17 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板→ナデ→凹点 内:ナデ	外:10YR6/4C5.5-6褐 内:2.5Y6/3C5.5-6黄	-
111	AA17 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→凹点 内:ナデ	外:10YR6/4H褐 内:10YR6/3C5.5-6黄	-
112	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板→ナデ→凹縲・凹点 内:貝条板→ナデ	外:10YR5/2C黄褐 内:10YR4/1褐灰	-
113	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→凹縲・凹点 内:ナデ	外:10YR6/4H褐 内:10YR7/4C5.5-6黄	-
114	AA18 Y19+Y22+Z20 VI層	圓文土器 深鉢	(29.0)	-	-	外:ナデ→凹縲・凹点 内:貝条板→ナデ	外:10YR7/4C5.5-6褐 内:7.5YR6/4C5.5-6相	-
115	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	(30.0)	-	-	外:ナデ→凹縲・凹点 内:貝条板→ナデ	外:10YR6/4C5.5-6褐 内:10YR6/4C5.5-6黄	-
116	Z17 VI層	圓文土器 深鉢	25.2	9.5	22.9	外:ナデ→沈縲・具脚突 内:貝条板→ナデ	外:10YR5/4C5.5-6褐 内:10YR7/4C5.5-6黄	-
117	AA17 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縲・具脚突 内:ナデ	外:10YR7/4C5.5-6黄 内:10YR7/4C5.5-6黄	外面塗付着
118	Z20 I 層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縲・凹縲 内:ナデ	外:10YR6/4C5.5-6黄 内:10YR7/4C5.5-6黄	-

表3 3・4区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法		調整	色調	備考	
			口径	底径				
119	Z17 VI層	圓文土器 深鉢	(28.0)	-	外:ナデー・凹線→貝網突 内:貝条痕・ナデ	外:5YR6/6暗 内:5YR6/3C-5A-4暗	内外面保有看	
120	Z17 II層・VI層	圓文土器 深鉢	(20.0)	-	外:ナデー・沈線→貝網突 内:ナデ	外:10YR8/4C黃褐 内:10YR8/4C黃褐	-	
121	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・凹線→貝網突 内:貝条痕・ナデ	外:7.5YR4/2C暗 内:7.5YR5/4C-5A-4暗	-	
122	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・沈線・貝網突 内:ナデ	外:2.5Y7/3C黃 内:2.5Y5/2C暗灰黃	外面煤付着	
123	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・凹線・貝網突 内:ナデ	外:10YR1/3黒褐 内:7.5YR4/3褐	-	
124	AA17・AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・沈線・貝網突 内:貝条痕・ナデ	外:10YR5/2C黃褐 内:10YR6/3C-5A-4黃褐	-	
125	AA29 I層	圓文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・沈線・貝網突 内:ナデ	外:10YR7/4C-5A-4黃褐 内:10YR7/4C-5A-4黃褐	外面煤付着	
126	AA17 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・沈線・貝網突 内:ナデ	外:5YR6/6暗 内:5YR6/6暗	-	
127	Z17 VI層	圓文土器 深鉢	(32.0)	-	外:ナデー・凹線・贝网突 内:貝条痕・ナデ	外:10YR5/3C-5A-4黃褐 内:10YR6/4C-5A-4黃褐	外面煤付着	
128	AA17 VI層	圓文土器 深鉢	(18.0)	-	外:貝条痕・ナデー・凹線→貝網突 内:貝条痕・ナデ	外:10YR6/4C-5A-4黃褐 内:10YR5/3C-5A-4黃褐	外面煤付着	
129	Z17・AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・沈線・貝網突 内:貝条痕・ナデ	外:7.5YR5/4C-5A-4暗 内:7.5YR6/6暗	-	
130	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・沈線・貝網突 内:ナデ	外:2.5Y7/3C黃灰黃 内:2.5Y7/3黃	-	
131	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・沈線・貝網突 内:貝条痕・ナデ	外:7.5YR5/3C-5A-4暗 内:10YR4/2C黃褐	外面煤付着	
132	-	圓文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・沈線・貝網突 内:貝条痕・ナデ	外:7.5YR5/4C-5A-4暗 内:10YR5/4C-5A-4黃褐	-	
133	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・沈線・貝網突 内:ナデ	外:7.5YR5/4C-5A-4暗 内:7.5YR5/4C-5A-4黃褐	-	
134	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・沈線・貝網突 内:ナデ	外:10YR6/3C-5A-4黃褐 内:2.5Y7/3C黃	外面煤付着	
135	AA17 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・凹線・貝網突 内:貝条痕・ナデ	外:10YR6/4C-5A-4黃褐 内:7.5YR6/4C-5A-4暗	-	
136	Z29 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・沈線・貝網突 内:貝条痕・ナデ	外:7.5YR5/4C-5A-4暗 内:7.5YR5/4C-5A-4黃褐	外面煤付着	
137	-	圓文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・沈線・貝網突 内:ナデ	外:10YR4/2C黃褐 内:10YR1/3黒褐	内外面保有看	
138	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	(33.0)	-	外:貝条痕・ナデー・沈線・貝網突 内:貝条痕・ナデ	外:5YR6/6暗 内:7.5Y5/6暗黒褐	-	
139	AA18 IV層	圓文土器 深鉢	(29.4)	-	外:ナデー・沈線・貝網突 内:貝条痕・ナデ	外:10YR6/4C-5A-4黃褐 内:10YR6/3C-5A-4黃褐	-	
140	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	(27.8)	-	外:貝条痕・ナデー・凹線 内:貝条痕・ナデ	外:7.5YR4/2C暗 内:10YR6/3C-5A-4黃褐	-	
141	AA17 VI層	圓文土器 深鉢	(23.4)	-	外:貝条痕・ナデー・凹線 内:貝条痕・ナデ	外:5YR5/4C-5A-4暗 内:10YR6/4C-5A-4黃褐	-	
142	Z29 I層	圓文土器 深鉢	-	-	外:貝条痕・ナデー・沈線・貝網突 内:貝条痕・ナデ	外:10YR6/3C-5A-4黃褐 内:2.5Y7/3黃灰	-	
143	AA17 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	外:貝条痕・ナデー・凹線 内:貝条痕・ナデ	外:5YR5/4C-5A-4暗 内:7.5YR6/4C-5A-4暗	-	
144	-	圓文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・沈線 内:ナデ	外:10YR4/2C黃褐 内:10YR5/3C-5A-4黃褐	穿孔有、外面煤付着	
145	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・凹線 内:ナデ	外:10YR7/4C-5A-4黃褐 内:2.5Y6/3C-5A-4黃	-	
146	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	24.8	9.0	24.8	外:ナデー・沈線 内:貝条痕・ナデ	外:7.5YR6/6暗 内:5YR6/6暗	-
147	AA18 V層	圓文土器 深鉢	(26.2)	-	外:ナデー・凹線 内:ナデ・ナデ	外:7.5YR4/2C暗 内:10YR4/2C黃褐	外面煤付着	
148	AA18	圓文土器 深鉢	(24.6)	-	外:ナデー・凹線 内:ナデ	外:2.5Y3/3黒褐 内:10YR4/3C-5A-4黃褐	外面煤付着	
149	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	(27.1)	-	外:ナデー・凹線 内:ナデ	外:10YR3/2黒褐 内:7.5YR4/3褐	外面煤付着	
150	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	(32.1)	-	外:ナデー・凹線 内:ナデ	外:10YR1/3黒褐 内:10YR4/2C黃褐	外面煤付着	
151	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	(35.3)	-	外:ナデー・沈線 内:ナデ	外:2.5Y3/3黒褐 内:7.5YR5/4C-5A-4暗	内面煤付着、穿孔有	
152	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	(30.0)	-	外:ナデー・凹線 内:ナデ	外:10YR1/3黒褐 内:10YR4/2C黃褐	外面煤付着	
153	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	(26.1)	-	外:ナデー・凹線 内:ナデ	外:2.5Y7/3黒褐 内:7.5YR5/4C-5A-4暗	-	
154	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	(29.0)	-	外:ナデー・凹線・貝網突 内:ナデ	外:7.5YR6/4C-5A-4黃褐 内:10YR6/3C-5A-4黃褐	卷貝押圧痕、外面煤付着	
155	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	(18.0)	-	外:ナデー・凹線・貝網突 内:ナデ	外:10YR4/2C黃褐 内:7.5YR5/4C-5A-4暗	外面煤付着	

表3 3・4区出土遺物観察表(土器)

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法cm			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
156	Z29 I層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縁 内:ナデ	外:7.5V16.6相 内:7.5V16.6相	-
157	AA20+22+Y20-VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縁 内:ナデ	外:2.5V7.4-浅黄 内:2.5V7.7-浅黄	外面塗付着
158	Z17	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縁・貝網突 内:ナデ	外:10V14.2-青黄褐 内:10V15.4-2.5-黄褐	外面塗付着
159	AA16 VI層・II層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→貝網突 内:貝条瓶・ナデ	外:7.5V15.4-2.5-相 内:7.5V16.6相	外面塗付着
160	Z18 VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縁・貝網突 内:ナデ	外:10V13.1-黑褐 内:10V14.2-青黄褐	外面塗付着
161	Z20 VIII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縁 内:ナデ	外:10V16.4-2.5-黄相 内:2.5V5.2-暗黄	外面塗付着
162	Y18 I層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縁・貝網突 内:ナデ	外:2.5V15.2-2.5-褐 内:10V14.2-青黄褐	-
163	AA18 V層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ミガキ→沈縁・貝網突 内:ミガキ	外:10V14.2-青黄褐 内:10V14.2-青黄褐	外面塗付着
164	AA21 VI層	圓文土器 深鉢	(26.7)	-	-	外:ナデ→沈縁・貝突 内:ナデ	外:7.5V14.3-相 内:7.5V15.4-2.5-相	外面塗付着
165	AA17VI層・Z16VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→貝網・貝突 内:ナデ	外:2.5V13.1-相 内:2.5V13.4-2.5-相	外面塗付着
166	AA21	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縁 内:貝条瓶・ナデ	外:7.5V14.2-黑褐 内:7.5V14.4-相	-
167	Z17 VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縁 内:ナデ	外:7.5V14.2-2相 内:7.5V14.2-黑褐	滑石深入
168	AA19 VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縁 内:ナデ	外:2.5V15.4-2.5-相 内:2.5V15.4-2.5-相	滑石深入
169	Y19 I層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→回縁 内:ナデ	外:10V14.2-青黄褐 内:10V15.4-2.5-黄相	-
170	Z19 I層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→回点・回縁 内:ナデ	外:10V13.1-黑褐 内:7.5V14.6相	内外面塗付着
171	Z17 VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ミガキ→回縁 内:ナデ	外:10V13.1-黑褐 内:7.5V14.3相	-
172	AA18 V層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→回縁・貝突 内:ナデ	外:7.5V15.4-2.5-相 内:7.5V15.4-2.5-相	外面塗付着
173	Y20 VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→回縁・病突 内:ナデ	外:2.5V15.4-2.5-相 内:2.5V15.4-明赤褐	-
174	AA17 VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→回縁 内:貝条瓶・ナデ	外:2.5V15.4-明赤褐 内:2.5V15.4-明赤褐	-
175	AA16 VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→回縁 内:ナデ	外:7.5V15.4-2.5-相 内:2.5V15.4-明赤褐	-
176	Z21 VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→回縁・病突 内:ナデ	外:2.5V15.4-2.5-相 内:2.5V16.4-2.5-相	-
177	AA17	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→回縁 内:ナデ	外:2.5V15.4-2.5-相 内:2.5V15.4-明赤褐	-
178	AA17 VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縁 内:ナデ	外:10V13.2-2相 内:10V14.2-青黄褐	-
179	AA21 IV層	圓文土器 深鉢	(29.0)	-	-	外:ナデ→回点・回縁 内:ナデ	外:7.5V17.4-2.5-相 内:7.5V17.6相	-
180	AA17	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ミガキ→薺附 内:ナデ	外:2.5V14.6相 内:2.5V15.6相	-
181	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	(31.0)	-	-	外:ナデ→沈縁・貝網突 内:貝条瓶・ナデ	外:2.5V5.4-黄褐 内:10V17.4-2.5-黄相	-
182	AA18 VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縁 内:ナデ	外:10V13.2-2相 内:7.5V15.4-2.5-相	外面塗付着
183	Z29 VIII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縁 内:ナデ	外:7.5V14.2-2相 内:7.5V14.3相	-
184	Z19 I層・AA19 I層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縁・貝網突 内:貝条瓶・ナデ	外:10V14.2-2相黄褐 内:7.5V15.4-2.5-相	外面塗付着
185	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縁・病突 内:ナデ	外:10V14.2-2相黄褐 内:10V16.3-2.5-黄相	外面塗付着
186	AA18 VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縁・ナデ	外:2.5V15.4-2.5-相 内:10V14.2-2相	-
187	Z20	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縁・病突 内:ミガキ	外:10V15.4-2.5-相 内:10V15.4-2.5-黄褐	-
188	AA18 II層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縁・澗文 内:ナデ	外:10V15.4-黄褐 内:10V15.4-黄褐	-
189	Y19 VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縁・澗文 内:ナデ	外:7.5V15.4-2.5-相 内:2.5V14.6-相	-
190	I層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縁・澗文 内:ミガキ	外:7.5V15.4-2.5-相 内:10V15.4-2.5-黄褐	外面塗付着
191	Y22 VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ミガキ→澗文・沈縁 内:ナデ	外:10V16.4-2.5-相 内:2.5V17.6相	-
192	Z20 VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ミガキ→澗文・沈縁 内:ミガキ	外:10V15.4-2相黄褐 内:10V16.4-2.5-黄相	-

表3 3・4区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 式様	寸法			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
193	Z19 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線→圓文 内:貝条板+ナード	外:7.5VR5/4C-5A-1黒 内:10VR4/2C黒黄相	-
194	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線+ナード	外:10VR6/4C-5A-1黄相 内:7.5VR7/6黒	筒状突起
195	AA19 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→圓線+病突 内:ナード	外:7.5VR6/4C-5A-1黒 内:7.5VR6/4C-5A-1黒	外面煤付着
196	AA19 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線→病突 内:貝条板+ナード	外:7.5VR3/4黒相 内:7.5VR4/6黒	-
197	Z19 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線→圓文 内:ミガキ	外:5VR5/1C赤相 内:7.5VR5/4C-5A-1黒	赤色顔料塗料
198	AA21 II層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線→圓文 内:ナード	外:10VR4/2C黒黄相 内:5VR1/1ナリーブ	-
199	AA18 V層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→圓文	外:10VR4/2C黒黄相 内:10VR4/2C黒黄相	-
200	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→圓文 内:ナード	外:7.5VR4/2C黒相 内:7.5VR5/6黒相	-
201	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→圓文 内:ナード	外:5VR6/6黒 内:10VR6/4C-5A-1黄相	-
202	AA16 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード	外:10VR2/2黒相 内:2.5VR3/1黒相	-
203	AA17	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→隆縁+貝刺突 内:貝条板+ナード	外:10VR3/2黒相 内:10VR4/3C-5A-1黄相	-
204	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	(31.2)	-	-	外:ナード→沈線+貝刺突 内:貝条板+ナード	外:10VR3/2黒相 内:7.5VR4/3黒	-
205	AA17	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→北縁+貝刺突 内:貝条板+ナード	外:7.5VR5/4C-5A-1黒 内:7.5VR5/4C-5A-1黒	-
206	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線+貝刺突 内:ナード	外:2.5VR3/1黒相 内:2.5VR4/1灰黒	-
207	AA18 V層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード	外:7.5VR5/4C-5A-1黒 内:10VR1/1黒相	-
208	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード	外:7.5VR5/4C-5A-1黒 内:10VR5/3C-5A-1黄相	-
209	Z20 I層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→北縁+病突 内:ナード→沈線+病突	外:10VR6/4C黒黄相 内:10VR8/4C黒黄相	-
210	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:ミガキ	外:10VR4/3C-5A-1黄相 内:2.5VR3/1黒相	-
211	Z20 I層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード	外:7.5VR5/4C-5A-1黒 内:7.5VR5/4C-5A-1黒	-
212	I層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線+貝刺突 内:貝条板+ナード	外:2.5VR4/2暗灰黒 内:10VR5/2C黒黄相	-
213	AA18 V層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線+病突 内:貝条板+ナード	外:10VR7/4C-5A-1黒 内:10VR7/3C-5A-1黒	-
214	Z20 T	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板→隆縁+貝刺突 内:貝条板+ナード	外:7.5VR5/4C-5A-1黒 内:7.5VR5/4C-5A-1黒	-
215	AA17 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線+貝刺突 内:ナード	外:5VR6/6黒 内:7.5VR5/4C-5A-1黒	-
216	AB16 II層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板+ナード→病突 内:貝条板+ナード	外:5VR6/6黒 内:7.5VR6/6黒	-
217	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→病突 内:ナード	外:5VR5/4C-5A-1赤褐 内:5VR5/4C-5A-1貝褐	-
218	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板→隆縁+貝刺突 内:ナード	外:7.5VR4/2暗黒 内:5VR6/6黒	-
219	Z19 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貝刺突 内:貝条板+ナード	外:5VR6/6黒 内:10VR6/4C-5A-1黄相	-
220	Y18 VI層	圓文土器 鉢	-	-	-	外:ナード→點付+貝刺突 内:ナード	外:2.5VR6/6黒 内:10VR4/2C黒黄相	春日式の可能性有
221	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貝刺突 内:貝条板+ナード	外:10VR5/2C黒黄相 内:2.5VR3/1黒相	-
222	AA18 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板+ナード→貝刺突 内:貝条板+ナード	外:7.5VR6/6黒 内:7.5VR6/6黒	-
223	Z20 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貝刺突 内:ナード	外:10VR3/1黒相 内:10VR4/2C黒黄相	-
224	AA17-AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード	外:2.5VR3/2黒相 内:7.5VR4/3黒	-
225	AA17 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:貝条板+ナード	外:5VR3/1ナリーブ 内:2.5VR3/1貝相	-
226	AA18 V層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード	外:7.5VR5/4C-5A-1黒 内:10VR5/4C-5A-1黄相	-
227	南T	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線+病突 内:ナード	外:10VR4/2黒相 内:10VR4/2C黒黄相	外面煤付着
228	AA17 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線+病突 内:ナード	外:10VR3/2黒相 内:10VR4/2C黒黄相	外面煤付着
229	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:貝条板+ナード	外:10VR6/4C-5A-1黄相 内:2.5VR6/2黒	外面煤付着、竹管状の工具で施文

表3 3・4区出土遺物観察表(土器)

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法(cm)			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
230	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	29.8	8.2	29.8	外:貝条痕→則日彌帶 内:貝条痕	外:10YR7/41-25-1黄相 内:10YR8/6-25-1	-
231	AA16	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→凹縫→貝刺突	外:7.5YR4/21黒 内:10YR5/32-25-1黄相	外面保付着
232	AA17 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→監附→凹縫	外:7.5Y/31黒相 内:2.5YR6/8黒	-
233	AA16 VI層	圓文土器 鉢	-	-	-	外:ミガキ→沈縫・網突 内:ナデ	外:10YR6/41-25-1黄相 内:7YR4/41-25-1赤褐	横状把手欠損
234	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ミガキ・沈縫・圓文 内:ミガキ・沈縫	外:2.5VR3/1黒相 内:2.5Y/31黒相	外面保付着
235	Z17 VI層 AZ17 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ミガキ・沈縫・圓文 内:ナデ・ミガキ	外:7.5VR3/1黒相 内:7.5YR5/41-25-1褐	-
236	AA16 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ミガキ・沈縫 内:ミガキ・沈縫	外:10YR6/41-25-1黄相 内:10YR5/32-25-1黄相	外面保付着、237と同一個体
237	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ミガキ・沈縫	外:7.5YR6/41-25-1相 内:7.5YR5/32-25-1褐	236と同一個体
238	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ミガキ・沈縫・圓文・網突 内:ミガキ	外:10YR3/1黒相 内:7.5YR5/41-25-1相	-
239	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ミガキ・沈縫・網突・網突 内:ミガキ	外:10YR3/1黒相 内:7.5YR5/41-25-1相	外面保付着
240	AZ17 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:沈縫・圓文・ミガキ・網突 内:ミガキ	外:7.5VR3/1黒相 内:10YR5/32-25-1黄相	外面保付着
241	AA18 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ミガキ・沈縫・網突 内:ミガキ	外:7.5VR3/1黒相 内:7.5YR4/3相	-
242	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ミガキ・沈縫・貝刺突 内:ナデ	外:2.5Y/31黒相 内:10YR6/41-25-1黄相	-
243	Y19 I層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ミガキ・沈縫・貝刺突 内:ナデ	外:7.5VR5/41-25-1相 内:7.5YR6/41-25-1相	-
244	AA18 VI層	圓文土器 浅鉢	-	-	-	外:ナデ・凹縫 内:ナデ	外:7YR5/6明黄相 内:7.5YR5/41-25-1相	赤色顔料濃布
245	Y21 VI層・IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ミガキ・凹縫 内:ナデ・ミガキ	外:7.5VR5/41-25-1相 内:10YR5/32-25-1黄相	-
246	Y21 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ・凹縫 内:ナデ	外:10YR4/31黒相 内:2.5Y/41黄	-
247	AA17	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ミガキ・脂付 内:ナデ	外:10YR7/41-25-1黄相 内:2.5Y/74-25-1	赤色顔料濃布
248	AA18 I・II層	圓文土器 深鉢	(12.5)	-	-	外:ナデ 内:貝条痕・ナデ	外:7.5VR5/41-25-1相 内:10YR4/32-25-1黄相	外面保付着
249	AA18 V層	圓文土器 深鉢	(18.0)	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10YR5/32-25-1黄相 内:2.5V/21黒	外面保付着
250	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	(24.0)	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10YR6/32-25-1黄相 内:10YR5/24-25-1黄相	-
251	AA17 VI層	圓文土器 深鉢	(27.0)	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10YR3/1黒相 内:10YR5/32-25-1黄相	-
252	AA17 VI層	圓文土器 深鉢	(25.7)	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10YR5/32-25-1黄相 内:2.5V/41-25-1相	-
253	AA18 VI層 Z18 VI層	圓文土器 深鉢	(34.0)	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10YR5/32-25-1黄相 内:10YR6/32-25-1黄相	-
254	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	(24.0)	-	-	外:貝条痕・ナデ 内:貝条痕・ナデ	外:10YR6/41-25-1黄相 内:10YR6/41-25-1黄相	-
255	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	(21.0)	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:2.5V/41黄 内:2.5V/51黄	-
256	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条痕・ナデ 内:貝条痕・ナデ	外:2.5Y/31黒相 内:2.5V/51暗灰	外面保付着
257	AA17 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5VR4/21黒相 内:7.5YR4/21黒相	-
258	Z21	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条痕・ナデ 内:貝条痕・ナデ	外:7.5YR4/21黒相 内:7YR6/6相	外面保付着
259	AA18 VI層・V層	圓文土器 深鉢	(25.5)	-	-	外:貝条痕・ナデ 内:貝条痕・ナデ	外:7.5YR6/6相 内:10YR6/41-25-1黄相	外面保付着
260	AA18 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条痕・ナデ 内:貝条痕・ナデ	外:10YR7/41-25-1黄相 内:10YR5/24-25-1黄相	外面保付着
261	AA17 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:7YR4/31黒 内:10YR3/21黒	-
262	Z16 VI層	圓文土器 底鉢	-	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10YR6/41-25-1黄相 内:10YR6/41-25-1黄相	実底
263	Y22 VI層・Z20 VI層	圓文土器 底鉢	(10.4)	-	-	外:貝条痕・ナデ 内:貝条痕・ナデ	外:7.5YR5/41-25-1相 内:7.5YR6/41-25-1相	-
264	AA21 VI層	圓文土器 底鉢	(12.0)	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10YR6/41-25-1黄相 内:10YR6/41-25-1黄相	底面に圧痕有
265	AA18 VI層	圓文土器 底鉢	-	9.7	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10YR6/41-25-1黄相 内:10YR5/32-25-1黄相	底面に種差压痕
266	Z21	圓文土器 底鉢	-	5.4	-	外:ナデ 内:ナデ	外:7YR4/31黒相 内:7.5VR3/1黒相	-

表3 3・4区出土遺物観察表(土器)

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
267	AA22 IV層	圓文土器 底盤	-	11.2	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10YR7/4C-5a・黄褐 内:2.5Y6/4c・灰黃	-
268	AA18 VI層	圓文土器 底盤	-	(10.5)	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10YR6/4C-5a・黄褐 内:2.5Y6/4C-5a・黄	-
269	南T VI層	圓文土器 底盤	-	11.4	-	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5YR5/4C-5a・褐 内:10YR6/4C-5a・灰	時代灰
270	AA17 VII層	圓文土器 底盤	-	(10.7)	-	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5YR5/4C-5a・褐 内:2.5Y5/4C-5a・褐	時代灰
271	-	圓文土器 底盤	-	(7.8)	-	外:貝条板・ナデ 内:ナデ	外:2.5Y7/4c・淡黄 内:2.5Y5/4c・暗灰黃	時代灰
272	-	圓文土器 底盤	-	(9.0)	-	外:貝条板・ナデ 内:貝条板・ナデ	外:10YR6/4C-5a・黄褐 内:2.5Y6/4C-5a・黄	時代灰
273	Y29 VI層	圓文土器 底盤	-	(9.5)	-	外:ナデ 内:ナデ	外:2.5Y5/4c・赤褐 内:2.5Y6/8	-
274	AA20 I層 AA21 VI層	圓文土器 底盤	-	(12.1)	-	外:貝条板・ナデ 内:貝条板・ナデ	外:7.5YR6/4C-5a・暗 内:2.5Y5/4C-5a・黄	-
275	Z18 VI層	圓文土器 底盤	-	12.0	-	外:ナデ 内:ナデ	外:2.5YR4/2c・黄褐 内:2.5Y4/4c・暗灰黃	時代灰
276	Z17 VI層	圓文土器 底盤	-	8.6	-	外:ナデ 内:ナデ・貝条板	外:10YR4/2c・黄褐 内:2.5YR5/4C-5a・褐	時代灰
277	Z20 VI層	圓文土器 底盤	-	(10.0)	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10YR6/4C-5a・黄褐 内:2.5Y4/4c・暗灰黃	時代灰
278	Z18 VI層	圓文土器 底盤	-	(10.6)	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10YR5/3C-5a・黄褐 内:10YR6/4C-5a・黄褐	-
279	AA18 V層	圓文土器 底盤	-	6.8	-	外:ニガキ 内:ナデ	外:7.5YR5/4C-5a・褐 内:10YR4/1c・黑褐	内部煤付着
280	X23 VI層	圓文土器 底盤	-	4.3	-	外:ニガキ 内:ニガキ	外:10YR4/1c・黑褐 内:2.5Y4/4c・赤褐	-
281	AA18 V層・VI層	圓文土器 底盤	-	6.0	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10YR7/4C-5a・黄褐 内:2.5Y7/4c・淡黄	-
282	AA19 VI層	土製品 土製円盤	縦 4.3	横 4.6	厚 1.3	外:ナデ・貝刺突 内:ナデ	外:5YR3/3c・赤褐 内:5YR6/6暗	重量 26.8g、側面磨滅痕有(全面)
283	AA18 IV層	土製品 土製円盤	縦 3.0	横 3.0	厚 0.8	外:ナデ・底線 内:貝条板・ナデ	外:5YR6/6暗 内:5YR1/1黒褐	重量 8.7g
284	Z18 I層	土製品 土製円盤	縦 3.4	横 3.7	厚 0.9	外:ナデ・貝刺突 内:ナデ	外:2.5YR5/4C-5a・褐 内:2.5YR5/4C-5a・褐	重量 14.1g、側面磨滅痕有(部分)
285	Y19	土製品 土製円盤	縦 3.8	横 3.2	厚 0.9	外:ナデ・凹線 内:ナデ	外:5YR3/3c・赤褐 内:2.5YR6/8暗	重量 11.6g、側面磨滅痕有(部分)
286	AA18 VI層	土製品 土製円盤	縦 3.9	横 3.2	厚 0.7	外:ナデ・凹線 内:ナデ	外:10YR6/4C-5a・黄褐 内:2.5YR6/6暗	重量 7.8g
287	AA17	土製品 土製円盤	縦 2.6	横 2.1	厚 0.8	外:ナデ・底線・貝刺突 内:ナデ	外:2.5Y2/2暗褐 内:2.5Y6/6暗	重量 4.9g
288	Z20 I層	土製品 土製円盤	縦 2.9	横 4.6	厚 1.5	外:ナデ 内:ナデ	外:5YR7/6暗 内:7.5YR6/6浅黄褐	重量 18.9g、側面磨滅痕有(全面)
289	AA18 VI層	土製品 土製円盤	縦 3.4	横 3.0	厚 0.8	外:ナデ・凹線 内:ナデ	外:5YR4/4C-5a・赤褐 内:2.5YR6/8暗	重量 12.1g
290	AA19 VI層	土製品 土製円盤	縦 2.7	横 3.2	厚 0.9	外:ニガキ・沈線 内:ニガキ	外:2.5YR2/1赤褐 内:2.5YR4/6暗褐	重量 9.2g
291	AA18 VI層	土製品 土製円盤	縦 3.4	横 3.4	厚 0.8	外:ナデ・凹線・貝刺突 内:ナデ	外:5YR3/3c・赤褐 内:2.5YR3/2暗褐	重量 9.6g
292	AA18 VI層	土製品 土製円盤	縦 3.0	横 3.1	厚 1.0	外:ナデ・凹線・貝刺突 内:ナデ	外:5YR4/4C-5a・赤褐 内:2.5YR5/6暗赤褐	重量 10.5g、側面磨滅痕有(部分)
293	Z18 I層	土製品 土製円盤	縦 2.4	横 4.0	厚 0.9	外:ナデ・凹線 内:ナデ	外:2.5YR3/3暗褐 内:5YR6/6暗	重量 9.3g、側面磨滅痕有(部分)
294	AA17 VI層	土製品 土製円盤	縦 3.9	横 3.5	厚 1.0	外:ナデ・底線 内:貝条板・ナデ	外:2.5YR4/6暗褐 内:2.5YR6/8暗	重量 9.4g
295	Z17 I層	土製品 土製円盤	縦 2.9	横 2.7	厚 0.9	外:ナデ・凹線 内:ナデ	外:5YR6/6暗 内:2.5YR6/6暗	重量 8.4g
296	AA18 VI層	土製品 土製円盤	縦 3.2	横 3.7	厚 0.8	外:ナデ・底線 内:ナデ	外:2.5YR5/2暗褐 内:2.5YR7/4C-5a・暗	重量 10.4g
297	Y17 I層	土製品 土製円盤	縦 3.4	横 3.5	厚 0.9	外:ナデ・凹線 内:ナデ	外:5YR3/3c・赤褐 内:5YR6/6暗	重量 13.0g
298	Z20 II層	土製品 土製円盤	縦 3.6	横 3.7	厚 1.1	外:ナデ・凹線・貝刺突 内:ナデ	外:2.5YR4/2暗褐 内:2.5YR6/6暗	重量 16.8g、側面磨滅痕有(部分)
299	AA17	土製品 土製円盤	縦 3.3	横 3.1	厚 1.3	外:ナデ・凹線 内:ナデ	外:2.5YR2/2暗褐 内:10YR4/2c・黄褐	重量 15.9g、側面磨滅痕有(部分)
300	AA20 I層	土製品 土製円盤	縦 4.0	横 4.1	厚 0.9	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5YR6/6暗 内:2.5YR7/6暗	重量 17.8g、側面磨滅痕有(全面)
301	Z19 I層	土製品 土製円盤	縦 3.4	横 3.3	厚 1.0	外:ナデ・凹線 内:ナデ	外:7.5YR6/6暗 内:2.5YR6/6暗	重量 13.3g、側面磨滅痕有(部分)
302	Z17 VI層	土製品 土製円盤	縦 3.8	横 3.8	厚 0.9	外:ナデ・凹線 内:ナデ	外:2.5YR5/4C-5a・褐 内:2.5YR6/6暗	重量 16.0g
303	Z18 I層	土製品 土製円盤	縦 2.9	横 2.6	厚 0.8	外:ナデ・凹線 内:ナデ	外:2.5YR5/4C-5a・褐 内:2.5YR7/6暗	重量 5.7g

表3 3・4区出土遺物観察表(土器)

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法cm		調整	色調	備考	
			口径	底径				
304	AA18 VI層	土製品 土製円盤	縦 2.4	横 2.5	厚 0.7	外:ナデー回線 内:ナデー	外:7.5VR6/31-51-1相 内:7.5VR5/2相	重量 5.6g
305	AA16 VI層	土製品 土製円盤	縦 3.1	横 2.9	厚 0.9	外:ナデー沈線	外:2.5VR3/4相 内:2.5VR5/8相	重量 8.5g
306	AA18 VI層	土製品 土製円盤	縦 3.0	横 3.1	厚 0.8	外:ナデー回線	外:7VR4/11-51-1相 内:ナデー	重量 7.6g, 側面磨滅痕有(全面)
307	AA18 VI層	土製品 土製円盤	縦 3.6	横 3.7	厚 0.9	外:ナデー回線	外:7.5VR3/2相 内:7VR6/6相	重量 13.4g, 側面磨滅痕有(部分)
308	AA20 VI層	土製品 土製円盤	縦 2.8	横 4.5	厚 0.9	外:ナデー回線→貝刺突 内:ナデー	外:7VR4/41-51-1相 内:2.5VR6/8相	重量 14.0g
309	AA17 VI層	土製品 土製円盤	縦 3.7	横 3.5	厚 1.0	外:ナデー沈線	外:7.5VR4/2相 内:7.5VR6/41-51-1相 内:ナデー	重量 14.0g, 側面磨滅痕有(部分)
310	Z21 I層	土製品 土製円盤	縦 4.2	横 4.2	厚 0.9	外:ナデー回線 内:貝条瓶+ナデー	外:7VR3/暗赤相 内:7VR6/1相	重量 19.9g
311	AA19 VI層	土製品 土製円盤	縦 3.3	横 3.6	厚 0.9	外:ナデー回線	外:7.5VR3/2相 内:2.5VR6/8相	重量 11.3g, 側面磨滅痕有(部分)
312	AA18 VI層	土製品 土製円盤	縦 4.7	横 3.6	厚 0.9	外:ナデー回線→貝刺突 内:ナデー	外:7VR4/11-51-1相 内:2.5VR6/8相	重量 15.0g
313	-	土製品 土製円盤	縦 3.4	横 3.2	厚 0.7	外:ナデー回線 内:貝条瓶+ナデー	外:7.5VR5/41-51-1相 内:10VR5/31-51-1相 黄褐色	重量 10.4g, 側面磨滅痕有(部分)
314	-	土製品 土製円盤	縦 4.2	横 4.5	厚 0.9	外:ナデー回線→貝刺突	外:7.5VR4/3相 内:10VR5/41-51-1相 黄褐色	重量 15.1g
315	V18 VI層	土製品 土製円盤	縦 3.9	横 4.0	厚 0.9	外:ナデー沈線	外:7.5VR5/41-51-1相 内:7.5VR6/6相	重量 17.4g, 側面磨滅痕有(全面)
316	AA18 VI層	土製品 土製円盤	縦 4.1	横 4.0	厚 0.7	外:ナデー回線 内:ナデー	外:7VR2/暗赤相 内:7VR6/6相	重量 11.7g
317	Z21 I層	土製品 土製円盤	縦 4.0	横 3.8	厚 0.9	外:ナデー回線 内:貝条瓶+ナデー	外:7.5VR3/3相 内:7.5VR5/41-51-1相	重量 15.5g
318	AA17	土製品 土製円盤	縦 4.6	横 4.7	厚 1.2	外:ナデー回線→貝刺突 内:ナデー	外:7.5VR6/41-51-1相 内:7.5VR7/41-51-1相	重量 25.0g
319	AA18 VI層	土製品 土製円盤	縦 4.2	横 4.1	厚 0.7	外:ナデー回線→貝刺突	外:7VR7/6相 内:7.5VR6/6相	重量 14.2g, 側面磨滅痕有(全面)
320	V20 VI層	土製品 土製円盤	縦 4.9	横 5.0	厚 1.1	外:ナデー回線→貝刺突 内:ナデー	外:7.5VR3/2相 内:7.5VR4/3相	重量 29.0g
321	AZ17 VI層	土製品 土製円盤	縦 4.3	横 4.6	厚 1.1	外:ナデー回線	外:7VR5/4明赤相 内:7.5VR5/41-51-1相	重量 24.1g
322	AA18 V層	土製品 土製円盤	縦 5.3	横 5.2	厚 0.9	外:ナデー回線→貝刺突 内:貝条瓶+ナデー	外:2.5VR2/4相 内:7VR4/11-51-1相 黄褐色	重量 30.1g
323	Z22 IV層	土製品 土製円盤	縦 4.9	横 4.3	厚 0.9	外:ナデー回線→貝刺突	外:7VR4/41-51-1相 内:7.5VR6/6相	重量 24.1g
324	AA18 V層	土製品 土製円盤	縦 4.9	横 4.7	厚 1.3	外:ナデー回線	外:7VR3/2相 内:7.5VR6/6相	重量 30.3g, 側面磨滅痕有(部分)
325	AB17	土製品 土製円盤	縦 2.5	横 3.1	厚 0.8	外:ナデー回線	外:7VR5/41-51-1相 内:7VR5/6明赤相	重量 8.5g, 側面磨滅痕有(全面)
326	AA18 VI層	土製品 土製円盤	縦 2.8	横 2.7	厚 0.8	外:ナデー回線→貝刺突 内:ナデー	外:7VR5/6明赤相 内:7VR5/6明赤相	重量 8.8g, 側面磨滅痕有(全面)
327	AA18 VI層	土製品 土製円盤	縦 3.8	横 3.8	厚 0.7	外:ナデー回線→貝刺突 内:ナデー	外:7.5VR3/1相 内:7.5VR7/41-51-1相	重量 11.7g
328	AA18 VI層	土製品 土製円盤	縦 3.4	横 3.1	厚 0.7	外:ナデー回線	外:7.5VR7/6相 内:7.5VR7/6相	重量 9.8g, 側面磨滅痕有(全面)
329	AA18 VI層	土製品 土製円盤	縦 4.0	横 3.6	厚 0.8	外:ナデー回線→貝刺突 内:ナデー	外:7.5VR7/6相 内:7.5VR7/41-51-1相	重量 13.1g
330	Z22	土製品 土製円盤	縦 4.9	横 6.3	厚 0.9	外:ナデー回線	外:7.5VR6/6相 内:2.5VR5/9相	重量 37.5g, 側面磨滅痕有(部分)
331	I層	土製品 土製円盤	縦 5.2	横 5.0	厚 0.7	外:ナデー沈線	外:7.5VR3/3相 内:7.5VR6/6相	重量 27.2g
332	V13 I層	土製品 土製円盤	縦 5.8	横 5.7	厚 0.8	外:ナデー回線 内:ナデー沈突	外:7VR4/41-51-1相 内:7VR2/暗赤相	重量 40.9g
333	AA18 VI層	土製品 土製円盤	縦 4.1	横 4.0	厚 0.8	外:ナデー回線 内:貝条瓶+ナデー	外:7.5VR6/6相 内:7.5VR6/6相	重量 13.7g, 側面磨滅痕有(全面)
334	Z19 I層	土製品 土製円盤	縦 3.6	横 3.9	厚 0.9	外:ナデー沈線→貝刺突 内:ナデー	外:7VR5/41-51-1相 内:7.5VR4/2相	重量 16.2g
335	AA18 VI層	土製品 土製円盤	縦 3.4	横 3.8	厚 0.8	外:ナデー沈線	外:7VR3/2相 内:2.5VR6/6相	重量 12.5g, 側面磨滅痕有(部分)
336	Z19 I層	土製品 土製円盤	縦 3.7	横 3.9	厚 0.9	外:ミガキ→回線 内:貝条瓶+ナデー	外:10VR3/2相 内:7.5VR7/41-51-1相	重量 10.0g, 側面磨滅痕有(部分)
337	AA17	土製品 土製円盤	縦 3.1	横 3.0	厚 1.2	外:ナデー回線	外:7.5VR2/3相 内:7.5VR4/3相	重量 13.8g
338	AA18 VI層	土製品 土製円盤	縦 4.2	横 3.7	厚 0.7	外:ナデー沈線	外:7VR5/6相 内:7.5VR4/3相	重量 12.8g
339	Z19 I層	土製品 土製円盤	縦 3.6	横 3.8	厚 0.8	外:ナデー回線	外:7VR6/6相 内:7VR3/1相	重量 13.3g
340	AA17 VI層	土製品 土製円盤	縦 4.1	横 4.3	厚 1.1	外:ナデー沈線	外:7VR5/6明赤相 内:7VR3/2相	重量 16.0g

表3 3・4区出土遺物観察表(土器)

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法cm		調整	色調	備考	
			口径	底径				
341	AA18 VI層	土製品 土製円盤	縦3.1	横3.2	厚1.0	外:ナード→凹線 内:ナード	外:2.5V5/6明赤褐色 内:3V5/6明赤褐色	重量11.8g,側面壓縮痕有(部分)
342	Z19 VI層	土製品 土製円盤	縦3.9	横3.7	厚1.0	外:ナード→凹線 内:ナード	外:5V3/2暗赤褐色 内:3V5/6明赤褐色	重量12.8g,側面壓縮痕有(部分)
343	AA18 VI層	土製品 土製円盤	縦3.6	横3.3	厚0.7	外:ナード→沈線 内:ナード	外:5V3/2暗赤褐色 内:3V4/4に5.5°赤褐色	重量9.0g
344	AA18 VI層	土製品 土製円盤	縦3.1	横2.7	厚0.5	外:ナード→沈線 内:良条痕+ナード	外:2.5V4/3暗 内:2.5V6/4に5.5°赤褐色	重量5.4g
345	AA18 VI層	土製品 土製円盤	縦2.5	横4.8	厚1.3	外:ナード→凹線 内:ナード	外:3V4/4に5.5°赤褐色 内:2.5V5/6明赤褐色	重量19.2g,側面壓縮痕有(全面)
346	AA19 VI層	土製品 土製円盤	縦5.5	横6.3	厚1.0	外:ナード 内:良条痕+ナード	外:2.5V6/4に5.5°暗 内:2.5V6/4に5.5°褐	重量35.2g
347	AA18 VI層	土製品 土製円盤	縦6.0	横6.9	厚1.0	外:ナード 内:ナード	外:2.5V6/4に5.5°暗 内:2.5V5/6明赤褐色	重量50.5g
348	Z16 VI層	土製品 土製円盤	縦5.4	横5.2	厚1.4	外:ナード 内:ナード	外:2.5V3/2暗 内:2.5V6/6暗褐色	重量49.8g
349	AA18 VI層	土製品 土製円盤	縦5.1	横4.8	厚1.0	外:ナード→沈線 内:良条痕+ナード	外:2.5V6/4に5.5°暗 内:2.5V6/4に5.5°黄褐色	重量25.6g
350	Z16 VI層	土製品 土製円盤	縦5.1	横5.1	厚0.9	外:ナード 内:ナード	外:2.5V6/6暗 内:2.5V6/6暗	重量26.3g
351	Y19 VI層	土製品 土製円盤	縦4.2	横4.2	厚0.7	外:ナード 内:ナード	外:2.5V6/4に5.5°暗 内:2.5V6/4に5.5°暗	重量13.0g,側面壓縮痕有(全面)
352	AA18 V層	土製品 土製円盤	縦5.2	横5.2	厚1.3	外:ナード 内:ナード	外:2.5V6/4に5.5°暗 内:2.5V6/4に5.5°黃褐色	重量41.7g,側面壓縮痕有(部分)
353	AA18 VI層	土製品 土製円盤	縦5.3	横5.2	厚1.8	外:ナード 内:ナード	外:2.5V5/6明赤褐色 内:2.5V5/6明赤褐色	重量31.8g,側面壓縮痕有(全面)
354	AA17 VI層	土製品 土製円盤	縦4.3	横4.2	厚0.9	外:ナード 内:ナード	外:2.5V6/6暗 内:2.5V5/6に5.5°暗	重量18.6g,側面壓縮痕有(全面)
355	AB15 II層	土製品 土製円盤	縦4.4	横4.7	厚0.8	外:ナード 内:ナード	外:2.5V5/6明赤褐色 内:2.5V5/6明赤褐色	重量25.8g,側面壓縮痕有(全面)
356	Y29 VI層	土製品 土製円盤	縦5.2	横5.0	厚0.7	外:ナード 内:ナード	外:2.5V4/4に5.5°赤褐色 内:2.5V4/4に5.5°赤褐色	重量25.5g,側面壓縮痕有(全面)
357	Y23 VI層	土製品 土製円盤	縦4.1	横4.4	厚0.8	外:ナード 内:ナード	外:2.5V6/6暗 内:2.5V7/8暗	重量16.4g,側面壓縮痕有(部分)
358	AA21 IV層	土製品 土製円盤	縦4.9	横4.9	厚0.8	外:ナード 内:ナード	外:2.5V5/3暗 内:2.5V3/3暗	重量20.9g
359	AA17	土製品 土製円盤	縦4.2	横4.4	厚1.0	外:ナード→凹線 内:ナード	外:2.5V6/3暗 内:2.5V6/3暗	重量18.0g
360	AA18 VI層	土製品 土製円盤	縦4.3	横3.5	厚0.9	外:ナード 内:ナード	外:2.5V5/6暗 内:2.5V5/6暗	重量17.3g
361	-	土製品 土製円盤	縦3.7	横3.4	厚0.9	外:良条痕+ナード 内:ナード	外:2.5V4/4に5.5°赤褐色 内:2.5V4/4に5.5°赤褐色	重量13.9g
362	AA18 VI層	土製品 土製円盤	縦3.7	横4.3	厚0.7	外:ナード→沈線 内:ナード	外:2.5V5/6明赤褐色 内:2.5V6/6暗	重量11.9g
363	AA22	土製品 土製円盤	縦4.0	横3.9	厚0.7	外:ナード 内:ナード	外:5V6/6暗 内:2.5V7/6暗	重量14.5g,側面壓縮痕有(全面)
364	AA17 VI層	土製品 土製円盤	縦3.6	横2.9	厚0.7	外:ナード 内:ナード	外:10V4/4に5.5°黃褐色 内:ナード	重量7.6g,側面壓縮痕有(部分)
365	AA17 VI層	土製品 土製円盤	縦3.6	横3.7	厚0.8	外:ナード 内:ナード	外:5V5/6に5.5°赤褐色 内:2.5V6/6暗	重量13.5g,側面壓縮痕有(全面)
366	Y19 I層	土製品 土製円盤	縦3.5	横3.6	厚0.8	外:良条痕+ナード 内:ナード	外:2.5V6/6暗 内:2.5V5/6明赤褐色	重量12.7g,側面壓縮痕有(部分)
367	Y18 VI層	土製品 土製円盤	縦3.3	横3.3	厚0.6	外:良条痕+ナード 内:ナード	外:2.5V6/6暗 内:2.5V5/3暗	重量8.3g,側面壓縮痕有(部分)
368	AA18 VI層	土製品 土製円盤	縦3.1	横3.2	厚0.7	外:ナード 内:ナード	外:2.5V5/9明赤褐色 内:2.5V6/2階段赤褐色	重量7.5g,側面壓縮痕有(全面)
369	AA18 V層	土製品 土製円盤	縦3.9	横4.0	厚1.2	外:ナード 内:ナード	外:2.5V6/6暗 内:2.5V6/6暗	重量22.8g,側面壓縮痕有(全面)
370	AA18 V層	土製品 土製円盤	縦2.3	横2.5	厚0.7	外:ナード 内:ナード	外:2.5V5/6明赤褐色 内:2.5V6/6暗	重量4.6g
371	AA18 VI層	土製品 土製円盤	縦4.1	横6.6	厚0.7	外:良条痕+ナード 内:ナード	外:2.5V4/4に5.5°赤褐色 内:2.5V4/4に5.5°赤褐色	重量24.7g
372	AA18 VI層	土製品 土製片鉢	縦2.6	横3.0	厚1.0	外:ナード→斜突 内:ナード	外:10V7/4に5.5°黃褐色 内:2.5V6/3に5.5°黃褐色	重量12.1g
373	AA18 VI層	土製品 土製片鉢	縦2.6	横3.4	厚0.9	外:ナード 内:ナード	外:2.5V3/2暗赤褐色 内:2.5V4/4明赤褐色	重量9.3g
374	Z20 VI層	土製品 土製片鉢	縦3.8	横3.2	厚0.9	外:ナード 内:良条痕+ナード	外:2.5V9/6暗黃褐色 内:2.5V7/6暗	重量13.1g
375	Z20 VI層	土製品 土製片鉢	縦3.8	横4.3	厚0.9	外:ナード→沈線 内:ナード	外:2.5V9/2暗 内:2.5V5/6に5.5°赤褐色	重量12.4g
376	AA17 VI層	土製品 土製片鉢	縦2.1	横3.7	厚0.8	外:ナード 内:ナード	外:2.5V6/4に5.5°暗 内:2.5V4/2暗	重量8.2g
377	AA17 VI層	土製品 土製片鉢	縦2.7	横2.4	厚0.8	外:ナード 内:ナード	外:2.5V5/6に5.5°暗 内:2.5V5/6に5.5°暗	重量4.6g

山中遺跡3・4区の調査

表3 3・4区出土遺物観察表(土器)

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法(cm)			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
378	Y22 IV層	陶生土器 壺	-	-	-	外:ナゲ 内:ナゲ	外:7.5V186/412.554.48 内:10V17/412.554.48	-
379	X23 IV層	土師器 壺	(28.8)	-	-	外:ナゲ 内:ナゲ	外:5V17/88 内:5V14/31.554.48	-
380	AB17	土師器 台付壺	-	11.5	-	外:ナゲ 内:ミガキ	外:10V186/412.554.48 内:2.5V5/2黄	-
381	X23 IV層	土師器 壺	-	-	-	-	外:5V15/412.554.48 内:5V12/88	-
382	AA13 I層	陶器 壺	-	-	-	-	外:2.5V7/2西黄 内:2.5V3/1黒	-

表3 3・4区出土遺物観察表(石器)

報告番号	出土地区	層位	器種	石材	寸法 (mm)			重量 (g)	備考
					長さ	幅	厚さ		
7	SA11	-	磨製石斧・鎌石	ホルシフルス	85.0	71.0	41.0	425.1	-
12	SA12	-	磨製石斧	ホルシフルス	129.0	70.0	19.0	269.7	-
13	SA12	-	磨製石斧	ホルシフルス	189.0	74.0	35.0	808.3	刀部磨滅
18	SA13	-	石鏃	チャート	14.0	17.3	2.0	0.3	-
19	SA13	-	磨製石斧	ホルシフルス	67.0	53.0	34.0	193.2	-
23	SA14	-	磨石	デーヴィド	197.0	52.0	62.0	473.3	-
24	SA14	-	磨石	多孔質安山岩	94.0	66.0	35.0	288.4	-
383	Z17	I層	石鏃	黒曜岩V	17.8	13.1	3.3	0.5	-
384	AA21	IV層	石鏃	チャート	17.8	12.1	2.5	0.5	-
385	AA19	VI層	石鏃	黒曜岩Ⅱ?	18.8	14.1	3.9	0.7	-
386	AA18	VI層	石鏃	黒曜岩Ⅲ	16.7	12.3	3.6	0.6	両基部欠損
387	Y17	VI層	石鏃	黒曜岩Ia	15.3	12.2	2.5	0.4	-
388	Y18	VI層	石鏃	黒曜岩V	16.2	13.7	3.2	0.5	-
389	AA18	IV層 VI層	石鏃	三鈷	16.0	13.0	4.0	0.6	-
390	-	-	石鏃	黒曜岩VI	21.8	14.8	2.9	0.9	両面磨滅有
391	Y20	IV層	石鏃	チャート	23.8	14.9	4.0	1.3	-
392	Y22	IV層	石鏃	三鈷	23.0	11.0	2.5	0.6	-
393	Y18	VI層	石鏃	黒曜岩V	27.6	13.9	4.6	1.1	-
394	Y21	IV層	石鏃	頁岩	25.0	13.0	3.5	0.9	-
395	-	VI層	石鏃	黒曜岩VI	25.3	17.1	4.9	1.6	-
396	Z20	I層	石鏃	頁岩	27.4	15.9	2.8	1.0	鋸片鏃
397	Y18	I層	石鏃	頁岩	28.2	16.3	3.2	1.1	-
398	AB15	II層	石鏃	頁岩	22.0	18.0	3.0	0.8	-
399	Y20	VI層	石鏃	黒曜岩Id	22.0	15.3	4.2	1.0	-

表3 3・4区出土遺物観察表(石器)

報告番号	出土地区	層位	器種	石材	寸法 (mm)			重量 (g)	備考
					長さ	幅	厚さ		
400	AA23	VI層	石器	玉類?	29.1	14.3	3.6	0.9	-
401	AA18	VI層	石器	黒曜岩IV	19.6	11.7	3.7	0.6	-
402	AA18	IV層	石器	黒曜岩VI	16.7	11.6	2.5	0.4	-
403	AA17	VI層	石器	無斑品質安山岩	24.0	16.0	2.5	0.9	-
404	AA18	II層	石器	碧玉	24.5	15.0	3.0	1.2	両面磨滅痕有
405	Z17	VI層	石器	無斑品質安山岩	22.8	15.6	3.3	1.2	-
406	AB15	II層	石器	黒曜岩I d	17.4	12.5	4.5	0.7	-
407	Y19	VI層	石器	玉類?	18.6	12.0	2.6	0.6	-
408	AA17	VI層	石器	黒曜岩V	19.7	12.2	4.2	0.8	-
409	Z16	-	石器	チャード	28.0	22.0	7.0	3.9	-
410	-	-	石器	黒曜岩I d	16.2	16.5	3.3	0.6	-
411	Z18	I層	石器	黒曜岩VI	12.8	9.2	1.9	0.2	-
412	AA17	VI層	石器	黒曜岩I d	8.2	13.3	2.0	0.2	-
413	AA18	VI層	石器	黒曜岩I d	13.8	12.2	3.3	0.4	-
414	AA15	II層	石器	チャード	15.9	15.8	3.6	0.7	-
415	Z18	VI層	石器	黒曜岩I d	14.4	14.5	2.5	0.3	-
416	AA18	VI層	石器	黒曜岩I d	13.9	15.7	3.7	0.7	-
417	AA17	VI層	石器	頁岩	15.2	14.5	2.4	0.6	-
418	Z20	VI層	石器	黒曜岩I d	16.3	18.4	3.2	0.8	-
419	V22	IV層	石器	黒曜岩IV	26.3	10.5	6.7	1.4	-
420	AA17	IV層	石器	玉類	28.3	36.9	7.9	5.6	-
421	AA16	II層	石器	チャード	29.5	23.6	5.2	2.7	-
422	Z17	II層	石器	玉類	20.0	35.0	6.0	2.5	-
423	AA20	VI層	削器・石器	チャード	28.9	22.2	6.9	4.3	-
424	Z21	IV層	削器・石器	頁岩	41.0	42.0	9.0	23.3	-
425	AA22	VI層	削器・石器	チャード	43.0	26.0	7.0	6.8	-
426	AA17	VI層	削器・石器	無斑品質安山岩	29.0	39.0	12.0	11.7	-
427	Z19	VI層	削器・石器	頁岩	29.0	44.0	8.5	8.5	-
428	AA18	II層	削器	黒曜岩IV	85.2	26.1	12.1	23.8	-
429	Y21	IV層	削器	チャード	47.5	67.0	15.0	51.7	-
430	AA18	VI層	削器	頁岩	46.0	73.0	12.0	59.2	-
431	AA17	-	削器	頁岩	54.0	62.0	12.0	47.0	-
432	AA23	IV層	削器	頁岩	34.0	57.0	11.0	20.1	-
433	Z21	-	削器	頁岩	38.0	42.0	8.0	13.1	-
434	AA19・AA21	VI層	石核	頁岩	73.0	64.0	35.0	185.9	-
435	AA17	VI層	円盤形石製品	安山岩	45.0	46.0	5.5	21.6	-
436	AA18	VI層	円盤形石製品	安山岩	45.0	46.0	5.5	21.6	-

表3 3・4区出土遺物観察表(石器)

報告番号	出土地区	層位	器種	石材	寸法 (mm)			重量 (g)	備考
					長さ	幅	厚さ		
437	AA29	VI層	円盤形石製品	安山岩	50.0	50.0	16.0	74.4	-
438	Y22	IV層	円盤状石器	安山岩	108.0	100.0	11.0	155.0	-
439	AA18	V層	打製石斧	安山岩	101.0	113.0	11.0	219.9	両側石安山岩類似
440	AA17	VI層	打製石斧	安山岩	84.0	62.0	13.0	100.7	-
441	Z21	VI層	打製石斧	安山岩	129.0	54.0	8.0	91.2	両側石安山岩類似、先端部磨滅
442	-	I層	打製石斧	砂岩	95.0	69.0	13.0	121.4	-
443	AA17	I層	打製石斧	砂岩	32.0	28.0	9.0	43.2	-
444	AA18	VI層	打製石斧	安山岩	147.0	87.0	19.0	384.2	両側石安山岩類似
445	AA16	II層	磨製石斧	ホルンフェルス	60.6	23.4	13.0	28.7	-
446	-	-	磨製石斧	頁岩	79.0	38.0	12.0	58.8	-
447	AA17	I層	磨製石斧	蛇紋岩	101.0	24.0	18.0	67.2	-
448	AA17	VI層	磨製石斧	頁岩	75.0	42.0	18.0	93.4	-
449	Y19	VI層	磨製石斧	ホルンフェルス	49.0	43.0	15.0	26.9	-
450	AB15	II層	磨製石斧	蛇紋岩	62.0	30.2	14.4	29.3	-
451	Y22	VI層	磨製石斧	ホルンフェルス	64.4	49.7	31.7	144.9	-
452	AA18	V層	磨製石斧	ホルンフェルス	66.4	44.5	21.1	92.5	-
453	AA18	VI層	磨製石斧	頁岩	52.0	39.0	15.0	47.8	-
454	AA18	VI層	磨製石斧	頁岩	47.0	46.0	14.0	51.5	-
455	AA16	VI層	磨製石斧	ホルンフェルス	50.0	47.0	20.6	71.2	-
456	AA17	VI層	磨製石斧	ホルンフェルス	62.0	43.0	15.0	67.6	-
457	Y20	VI層	磨製石斧	ホルンフェルス	89.0	45.0	28.0	183.6	-
458	AA16	II層	磨製石斧	頁岩	107.1	48.3	106.8	188.2	-
459	AA18	VI層	磨製石斧	ホルンフェルス	85.0	44.2	19.5	121.4	-
460	AA16	II層	磨製石斧	ホルンフェルス	170.5	69.9	41.9	465.2	-
461	AA17	VI層	磨製石斧	ホルンフェルス	80.0	61.0	9.0	24.9	-
462	AB15	II層	磨製石斧	ホルンフェルス	109.0	96.0	22.0	180.7	-
463	AA15	II層	磨製石斧	ホルンフェルス	111.9	62.3	41.5	445.1	-
464	AA18	VI層	磨石(磨石)	多孔質安山岩	72.5	49.3	40.7	177.6	-
465	Y19	-	磨石	砂岩	109.7	94.9	47.4	790.6	波熱吸有
466	AB16	II層	磨石	多孔質安山岩	100.5	86.3	39.1	490.7	-
467	AA17	VI層	磨石	砂岩?	104.3	89.5	43.3	576.2	赤色顔料付着
468	AB15	-	磨石	安山岩	106.4	93.8	43.5	643.2	-
469	AA16	-	磨石	砂岩	121.9	90.7	49.6	878.8	-
470	AA17	-	磨石	安山岩	128.9	96.2	41.2	924.2	-
471	AA17	-	磨石	石英斑岩	111.1	92.4	52.7	803.7	-
472	AA17	VI層	磨石	多孔質安山岩	114.1	84.7	42.7	549.7	-
473	Z16	VI層	磨石	多孔質安山岩	115.7	99.8	38.0	637.2	-

表3 3・4区出土遺物観察表（石器）

報告番号	出土地区	層位	器種	石材	寸法 (mm)			重量 (g)	備考
					長さ	幅	厚さ		
474	Z29	I層	磨石	安山岩	129.2	103.6	41.6	711.5	-
475	AA18	VI層	磨石	多孔質安山岩	134.3	91.0	44.2	658.6	-
476	Z21	I層	磨石	多孔質安山岩	102.3	77.1	48.7	524.0	-
477	AA18	-	磨石	石英斑岩	107.5	95.7	49.1	781.0	-
478	Z29	VI層	磨石	多孔質安山岩	124.2	103.7	41.0	762.3	-
479	AA18	V層	磨石	砂岩	104.2	82.1	46.4	376.8	-
480	AA17	VI層	敲石	砂岩	110.9	57.9	28.8	262.9	敲打痕有
481	AA17	-	敲石	砂岩?	66.7	53.9	19.2	126.9	敲打痕有
482	AA18	II層	敲石	安山岩	142.3	91.5	83.3	1700.0	各側面に擦痕有
483	Z29	VI層	敲石	砂岩	99.2	56.1	32.3	289.1	-
484	AA17	VI層	敲石	多孔質安山岩	111.1	58.6	38.0	336.1	-
485	AA17	VI層	敲石	砂岩	77.3	56.5	37.5	276.3	-
486	AA17	VI層	磨石・敲石	砂岩?	42.1	36.2	26.7	65.4	敲打痕有
487	Z29	I層	敲石	多孔質安山岩	58.8	52.2	53.7	189.4	-
488	AA19	VI層	敲石	多孔質安山岩	66.4	48.9	39.5	166.7	-
489	AA20	I層	敲石・圓石	多孔質安山岩	64.4	60.1	37.7	152.9	-
490	AA17	VI層	敲石・圓石	安山岩	81.1	79.9	44.9	333.1	-
491	AA18	VI層	石鍬	頁岩	55.9	30.5	9.7	27.8	切目石鍬
492	AA17	VI層	石鍬	頁岩	54.0	30.0	7.0	19.2	切目石鍬
493	AA19	VI層	石鍬	粘板岩?	55.0	37.0	9.1	28.1	切目石鍬
494	AA17	-	石鍬	頁岩	56.0	32.0	20.0	48.0	切目石鍬
495	AA18	VI層	石鍬	頁岩	50.5	31.7	16.5	36.5	切目石鍬
496	AA18	VI層	石鍬	頁岩	66.0	41.0	11.0	57.3	切目石鍬
497	Z18	VI層	石鍬	頁岩	72.0	32.6	11.2	34.8	打欠石鍬
498	AA18	VI層	石鍬	粘板岩	39.0	55.5	12.0	37.3	切目石鍬
499	AA17	VI層	石鍬	粘板岩	66.3	45.5	18.6	81.5	切目石鍬
500	AA17	VI層	石鍬	粘板岩?	50.0	27.0	9.0	16.7	切目石鍬
501	AA19	VI層	石鍬	粘板岩	34.9	30.2	10.7	15.5	切目石鍬
502	AA17	VI層	石鍬	頁岩	74.3	26.2	11.8	36.8	切目石鍬
503	AA18	VI層	石鍬	粘板岩	44.1	35.4	11.8	30.3	切目石鍬
504	Z29	VI層	石鍬	粘板岩	28.9	45.9	10.1	18.2	切目石鍬
505	AA18	VI層	石鍬	粘板岩	34.0	31.0	6.0	7.1	切目石鍬
506	AA17	VI層	石鍬	頁岩	40.0	28.0	9.0	13.7	切目石鍬
507	AA16	II層	石鍬	粘板岩	37.0	29.0	7.0	10.3	切目石鍬
508	Y18	-	石鍬	頁岩	52.0	30.0	11.0	21.4	切目石鍬
509	-	I層	石鍬	頁岩	44.2	41.0	12.3	37.0	切目石鍬
510	AA19	VI層	石鍬	粘板岩	47.7	30.0	15.2	35.5	切目石鍬

山中遺跡3・4区の調査

表3 3・4区出土遺物観察表(石器)

報告番号	出土地区	層位	器種	石材	寸法 (mm)			重量 (g)	備考
					長さ	幅	厚さ		
S11	Z19	VI層	石錐	砂岩	64.0	37.0	12.0	41.4	切目石錐
S12	AA17	I層	砾石?	安山岩	92.0	121.0	25.0	397.9	-
S13	AA17	IV層	砾石?	安山岩	150.0	74.0	41.0	503.0	-
S14	Z18	VI層	石錐	安山岩	197.0	265.0	80.0	4950.0	-
S15	Z20	-	石錐	安山岩	119.0	184.0	73.0	1990.0	-

第3章

第5節 山中遺跡5区



第 5 節 山中遺跡 5 区

1 山中遺跡 5 区の概要

山中遺跡 5 区（以下 5 区）は、平成 17 年度に発掘調査を行った。5 区からは明確な遺構は検出されていないが、調査区の東側から縄文時代後期後葉の三万田式が他の時期の土器を含まず、ほぼ単純に近い状況で出土した。

2 遺物

縄文時代後期後葉の土器（図 70）

- 1 は波状口縁の深鉢で、内外面ミガキ調整、口縁部内面に 1 条沈線を施す。
- 2 ~ 4 は平縁の深鉢で、内外面ミガキ調整、口縁部内面に沈線を 1 条廻らせる。3 のミガキ調整の方向は、口縁部から胸部上半までは横方向のミガキ調整、胸部下半以下は縱方向のミガキ調整が観察される。
- 5 ~ 7・9・10 は平縁の深鉢で、内外面ミガキ調整を行い、口縁部内面に沈線は持たない。8 は頸部が屈曲する深鉢で、内外面ナデ調整である。
- 11 は外反する深鉢で、波頂部の器壁を瘤状に厚く形成している。
- 12・13 は波状口縁の内湾気味に立ち上がる深鉢であり、13 は鉢もしくは浅鉢の可能性もある。
- 15・17 ~ 21 は底部で、底部付近までミガキ調整が認められ、底径は小さく、深い上げ底となる。

近世の陶器（図 70）

- 22 は近世薩摩焼の土瓶注口である。

打製石器（図 71）

23 ~ 34 は二等辺三角形状の石鏃で、23 ~ 30 は基部の抉りが深い凹基、31 ~ 34 は抉りの浅い微凹基となる。33 は姫島産黒曜岩を素材とする。35 は正三角形状の石鏃で、基部から先端にかけて縁辺が弧状になるように調整加工が成されている。

36・37 は扁平な石材に、調整剥離を加えて刃部を形成しており、調整剥離によって形成された稜は、使用によるためか磨滅し丸みを帯びている。共に安山岩製で、37 は都城市周辺の遺跡で確認されている両輝石安山岩に類似する。

磨製石器・礫石器（図 71）

- 38 は安山岩を用いた磨石。
- 39 ~ 41 は石錘で、39 は短軸方向に切目を入れる切目石錘、40・41 は打欠石錘である。

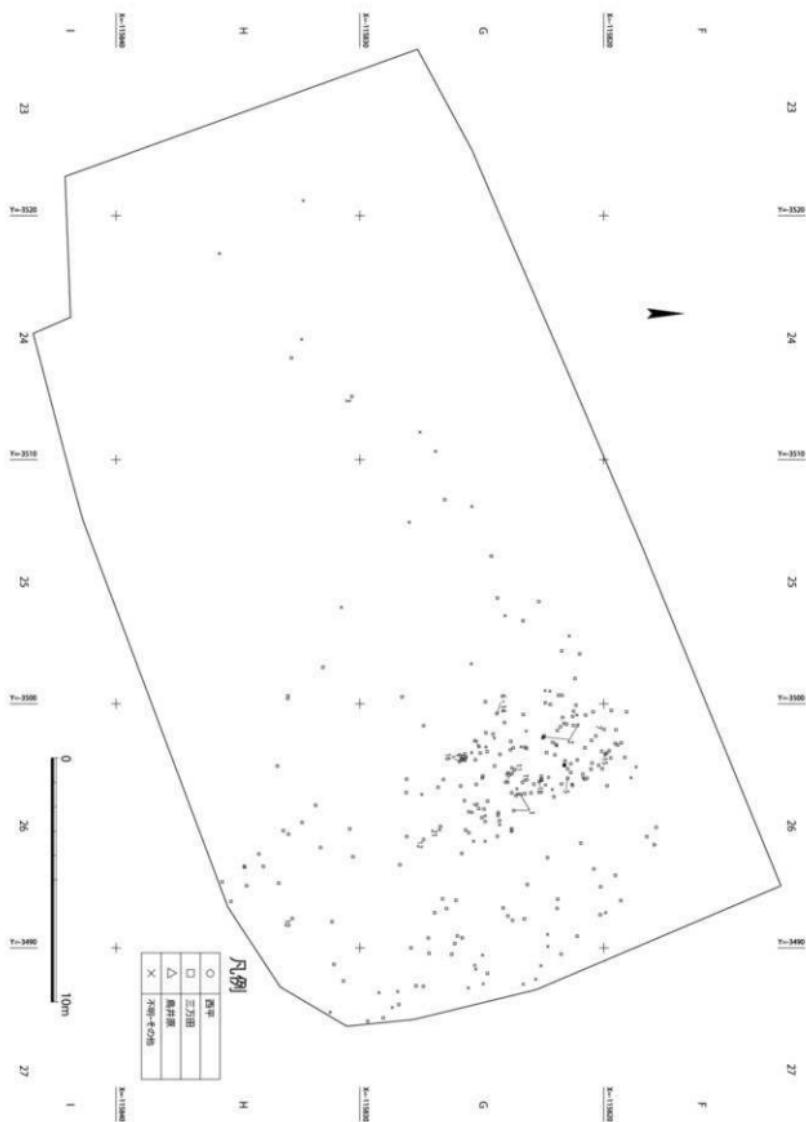


図 68 山中遺跡 5 区の土器出土分布図 (1/200)

山中遺跡 5区の調査

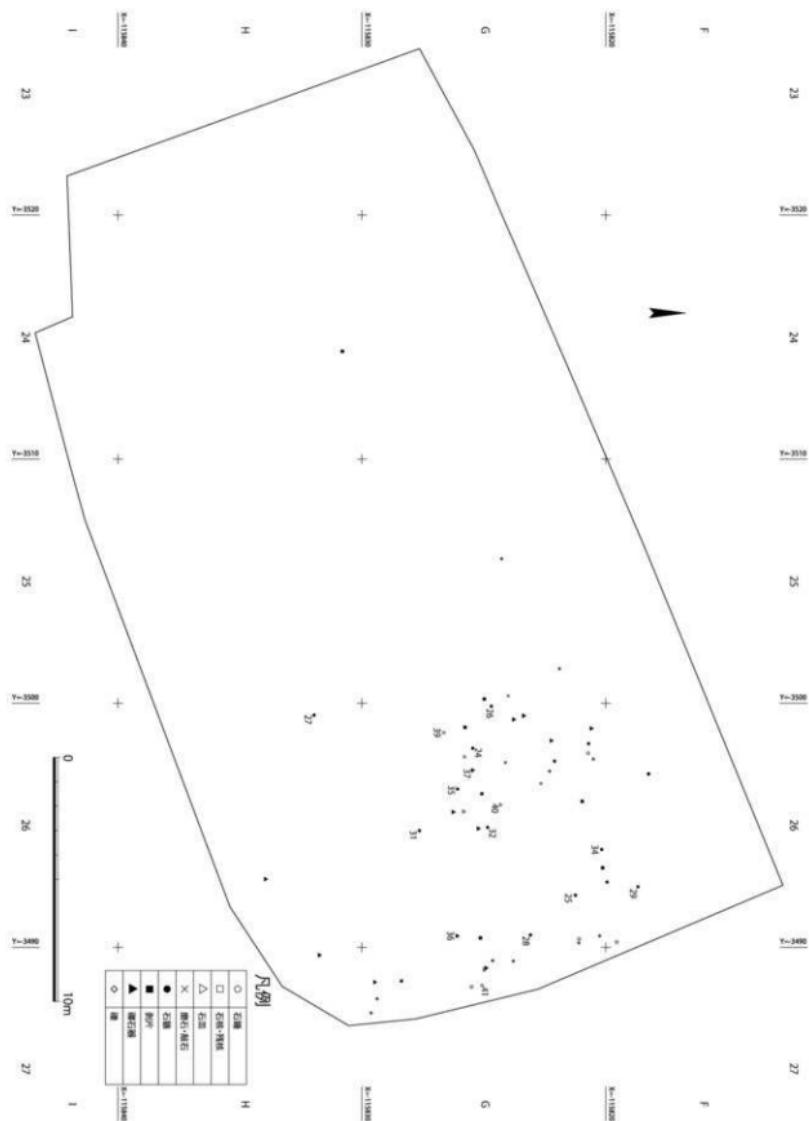


図 69 山中遺跡 5区の石器出土分布図 (1/200)

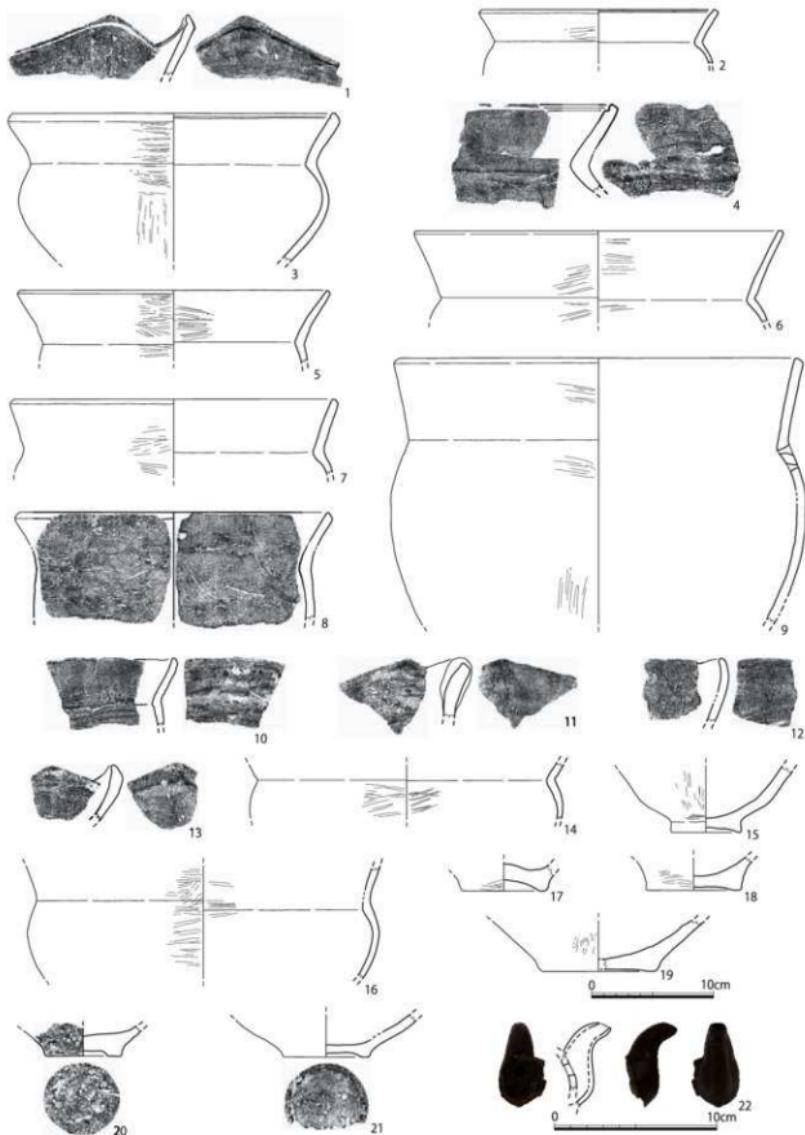


図 70 5区遺構外出土遺物 1 (22:1/3 その他:1/4)

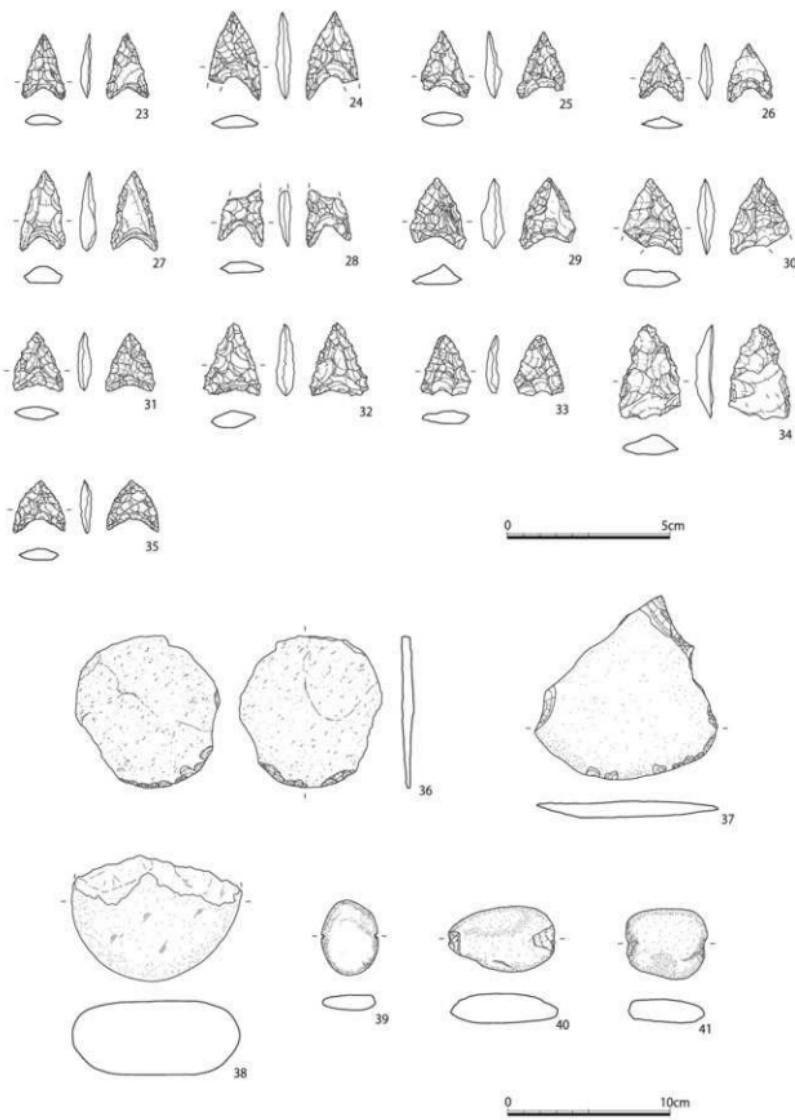


図 71 5区遺構外出土遺物 2 (36~41: 1/3 その他: 2/3)

表4 5区出土遺物觀察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法cm			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
1	No.268・271	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:えが牛 内:七牛	外:10VR3/2黒褐 内:10VR4/20黒褐	口縁部内面に沈線有
2	G26 IV層 No.53・64・241	圓文土器 深鉢	(19.6)	-	-	外:ナデ→えが牛 内:ナデ→えが牛	外:10VR4/20黒褐 内:10VR4/1黒褐	口縁部内面に沈線有
3	No.205	圓文土器 深鉢	(27.2)	-	-	外:ナデ→えが牛 内:ナデ	外:7.5VR2/2黒褐 内:7.5VR2/3黒褐	口縁部内面に沈線有
4	G26 I層・No.31	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ 内:ナデ→えが牛・北緯	外:10VR3/2黒褐 内:10VR3/3黒褐	口縁部内面に沈線有
5	No.82	圓文土器 深鉢	(25.6)	-	-	外:えが牛 内:ナデ→えが牛	外:7.5VR3/1黒褐 内:7.5VR3/1黒褐	-
6	G26 I層・IV層・No.2	圓文土器 深鉢	(30.3)	-	-	外:えが牛 内:えが牛	外:7.5VR5/32・53・54・55・56 内:7.5VR4/2黒褐	-
7	No.66	圓文土器 深鉢	(26.9)	-	-	外:ナデ→えが牛 内:ナデ→えが牛	外:7.5VR4/3黒 内:10VR4/20黒褐	-
8	No.96	圓文土器 深鉢	(26.0)	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10VR5/42・53・54・55・56 内:10VR5/42・53・54・55・56	-
9	No.1	圓文土器 深鉢	(33.5)	-	-	外:ナデ→えが牛 内:ナデ→えが牛	外:7.5VR4/21・22・23・24 内:7.5VR4/3黒	-
10	No.108	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→えが牛 内:ナデ→えが牛	外:10VR4/2黒褐 内:10VR4/2黒褐	外面糊付着
11	No.95	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:えが牛 内:えが牛	外:10VR4/32・43・44・45・46 内:7.5VR5/42・53・54	-
12	No.102	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:えが牛 内:ナデ	外:2.5VR3/1黒褐 内:10VR5/32・33・34・35・36	-
13	No.275	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:えが牛 内:ナデ→えが牛	外:10VR5/2黒褐 内:10VR5/2黒褐	-
14	No.42	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:えが牛 内:えが牛	外:7.5VR4/2黒褐 内:7.5VR5/42・53・54	-
15	No.72	圓文土器 底部	-	5.8	-	外:えが牛 内:ナデ	外:7.5VR5/32・33・34 内:10VR4/2黒褐	-
16	No.249・No.263	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:えが牛 内:ナデ	外:7.5VR3/2黒褐 内:7.5VR5/42・53・54・55・56	外面糊付着
17	No.274	圓文土器 底部	-	6.7	-	外:えが牛 内:ナデ	外:7.5VR4/3黒 内:10VR4/1黒褐	外面糊付着
18	No.91	圓文土器 底部	-	7.8	-	外:えが牛 内:ナデ	外:7.5VR5/42・53・54 内:7.5VR5/42・53・54	-
19	No.94	圓文土器 底部	-	(9.3)	-	外:えが牛 内:ナデ	外:7.5VR5/32・33・34 内:10VR5/2黒褐	-
20	G25 VI層	圓文土器 底部	-	6.3	-	外:ナデ 内:ナデ	外:2.5VR5/9黒褐 内:2.5VR5/8黒褐	外面糊付着
21	No.6・No.13	圓文土器 底部	-	7.2	-	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5VR6/42・43・44 内:10VR5/25黒褐	外面糊付着
22	G26 I層	陶器 土瓶(注口)	-	-	-	-	外:7.5VR6/6黒 内:7.5VR6/2黒褐	-

表4 5区出土遺物観察表（石器）

報告番号	出土地区	層位	器種	石材	寸法 (mm)			重量 (g)	備考
					長さ	幅	厚さ		
23	G26	VI層	石鏃	頁岩	19.8	13.1	2.8	0.6	-
24	-	-	石鏃	チャート	26.8	16.3	3.6	1.1	No.27
25	-	-	石鏃	チャート	20.0	15.0	4.5	0.8	No.141
26	-	-	石鏃	チャート	17.0	13.7	3.0	0.4	No.188
27	-	-	石鏃	頁岩	23.5	14.5	5.0	1.3	No.124
28	-	-	石鏃	黒耀岩 II	16.7	13.9	3.6	0.7	No.138
29	-	-	石鏃	チャート	21.4	16.1	6.0	1.4	No.147
30	G26	IV層	石鏃	チャート	22.9	17.4	5.3	1.7	-
31	-	-	石鏃	チャート	18.0	15.1	4.0	0.9	No.103
32	-	-	石鏃	チャート	23.0	18.0	5.0	1.6	No.258
33	G26	-	石鏃	黒耀岩 VI	18.6	15.1	3.6	0.8	-
34	-	-	石鏃	ガラス質安山岩	27.2	18.5	6.0	2.6	No.144
35	-	-	石鏃	チャート	15.5	16.1	3.2	0.6	No.250
36	-	-	円盤状石器	安山岩	93.5	87.0	7.1	66.2	No.131
37	-	-	打製石斧	安山岩	312.0	112.0	10.0	135.2	No.21 両刃石安山岩類似
38	G26	VI層	磨石	安山岩	302.5	73.0	44.2	513.3	-
39	-	-	石錐	頁岩	34.9	45.6	8.9	29.9	No.28 切目石錐
40	-	-	石錐	粘板岩	65.4	40.9	17.9	60.6	No.9 打欠石錐
41	-	-	石錐	頁岩	49.9	43.4	14.8	49.9	No.155 打欠石錐

第3章

第6節 山中遺跡6区



第6節 山中遺跡6区

1 山中遺跡6区の概要

山中遺跡6区（以下6区）は、平成17年度に発掘調査を行い、遺構は土坑4基、掘立柱建物4棟、不明遺構1基を検出した。遺物は縄文時代後期中葉の北久根山式・丸尾式・西平式、後期後葉の御領式等の縄文土器や石鏃・打製石斧・石錘等の石器、近世～近代の陶磁器が出土している。

2 遺構と遺物

不明遺構

SX01（図73）

調査区南側O36・P36区画周辺に位置する。遺構の北東半分については不明瞭であるが、平面は推定で径6.47m前後の不整円形、深さ0.69～0.83mを測る。縦断面は、平坦な底面から立ち上がり、中位で段を形成する2段掘り状になる。埋土内より遺物が出土しなかったため、所産時期は不明である。

土坑

SC03（図74）

調査区南側O35・O36区画に位置する。平面は径1.30mの不整円形、深さ0.15～0.20mを測る。SB03と重複し先後関係は不明である。遺物は出土しなかった。

SC04（図74）

調査区南側P35区画に位置する。平面は径1.39～1.45mの不整椭円形、深さ0.45mを測る。遺物は出土しなかった。

SC05（図74）

調査区南側P36・Q36区画に位置する。平面は径1.54～1.73mの不整円形、深さ0.23mを測る。遺物は出土しなかった。

SC06（図74）

調査区南西部O37・P37区画に位置する。平面は径1.00～1.15mの不整円形、深さ0.18mを測る。埋土中より、縄文時代後期中葉の西平式が出土しているが、小片のため図示しなかった。

掘立柱建物

3棟の掘立柱建物を報告するが、SB01・02は現場段階で認定し、SB03は整理作業の段階で認定した。

SB01（図75）

調査区東側M37区画周辺に位置する北西一南東棟の掘立柱建物で、梁行1間（3.04m）×桁行4間（8.14m）、床面積は24.74m²である。梁行柱間は3.04～3.10m、桁行柱間は1.69～2.42mで、建物を構成する柱穴は径0.31～0.50mの円形基調である。遺物は出土しなかった。

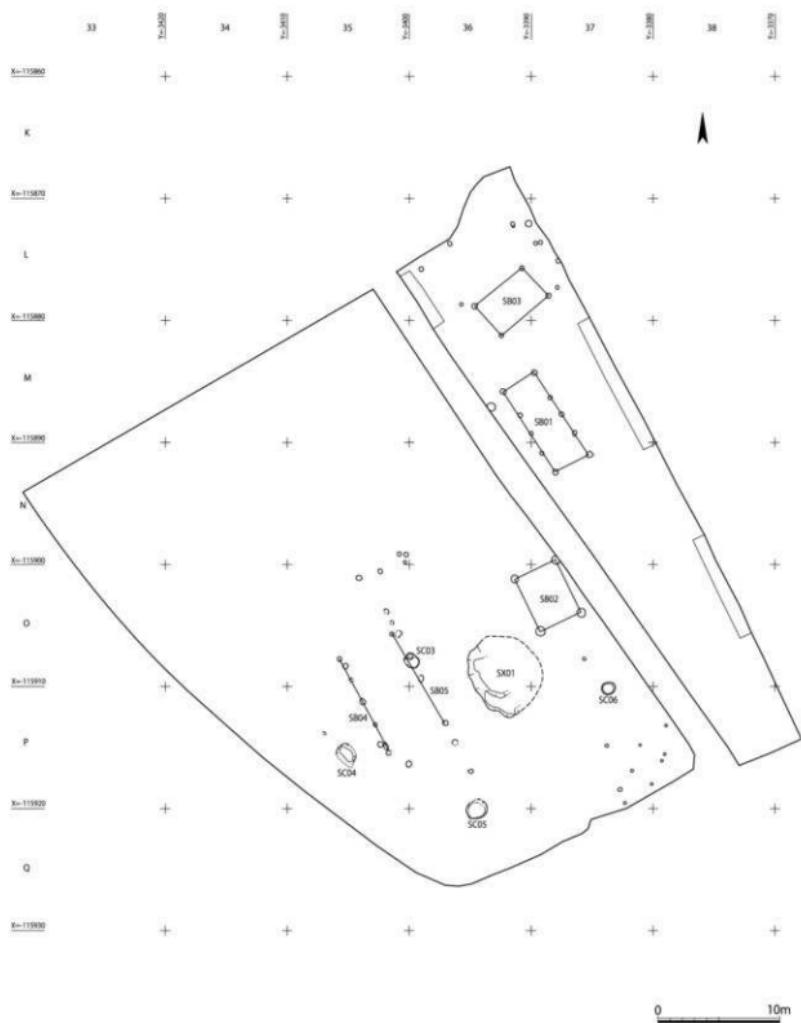


図 72 山中遺跡 6 区の遺構配図 (1/400)

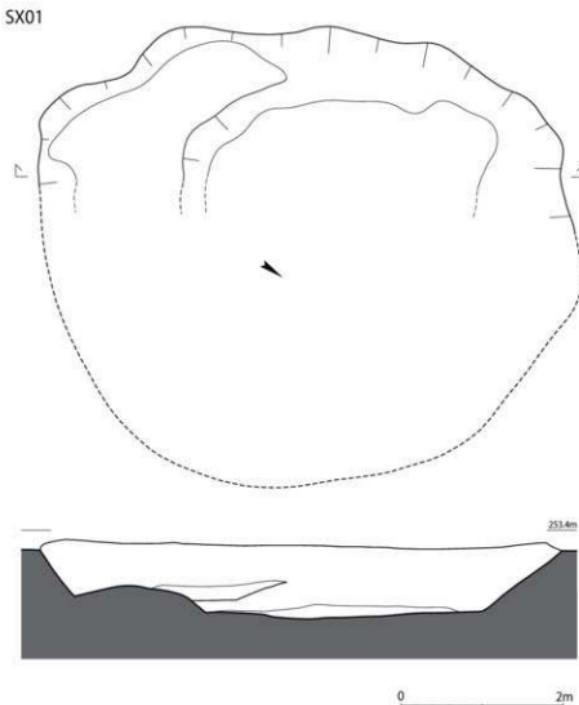


図73 SX01 不明遺構 (1/60)

SB02 (図76)

調査区東側O37区画周辺に位置する北西—南東棟の掘立柱建物で、梁行1間（3.70m）×桁行1間（4.72m）、床面積は17.48m²である。梁行柱間は3.70～3.75m、桁行柱間は4.70～4.72mで、建物を構成する柱穴は径0.65～0.80mの円形基調である。遺物はP2から、白磁紅皿と近代以降の染付碗が出土した。

SB02出土遺物 (図80)

42は型紙摺の近代以降の染付碗。43は白磁の紅皿。

SB03 (図77)

調査区南部L36区画周辺に位置する北東—南西棟の掘立柱建物で、梁行1間（3.15m）×桁行1間（4.97m）、床面積は15.65m²である。梁行柱間は3.15～3.30m、桁行柱間は4.96～5.04mで、建物を構成する柱穴は0.35～0.46mの円形基調である。遺物は出土しなかった。

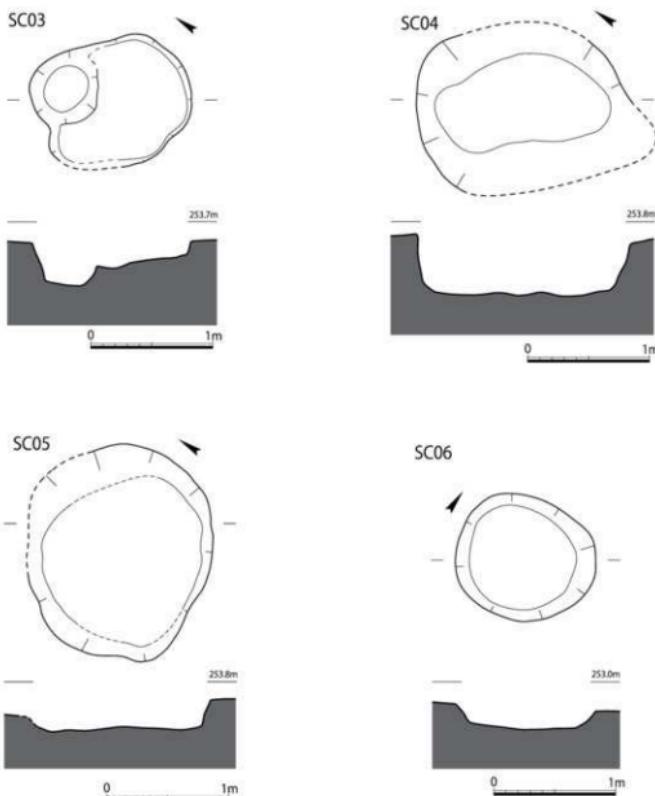


図 74 SC03・04・05・06 土坑 (1/40)

柵列

柵列として報告するのは2条で、全て整理作業の段階で認定したもののである。柵列として報告するSBO4・05を組み合わせて掘立柱建物となる可能性も検討したが、両者の間隔が若干広く、柱配置も不揃いであるため柵列として報告する。

SB04 (図 77)

調査区南側P35区画周辺に位置する柵列で、北西—南西方向に列をなす。柱間は2.0～2.59m、柱穴は径0.3～0.5mの円形基調である。遺物は出土しなかった。

SB01

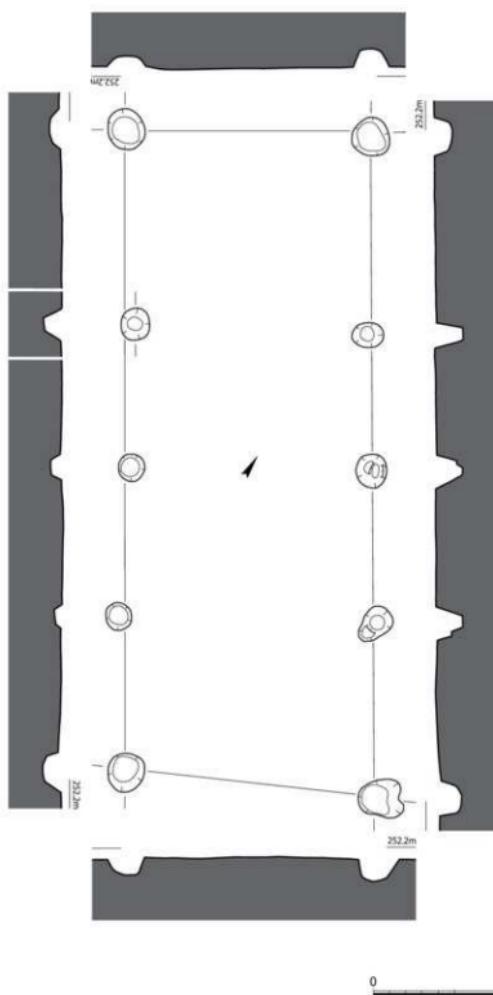


図 75 SB01 挖立柱建物 (1/60)

SB02

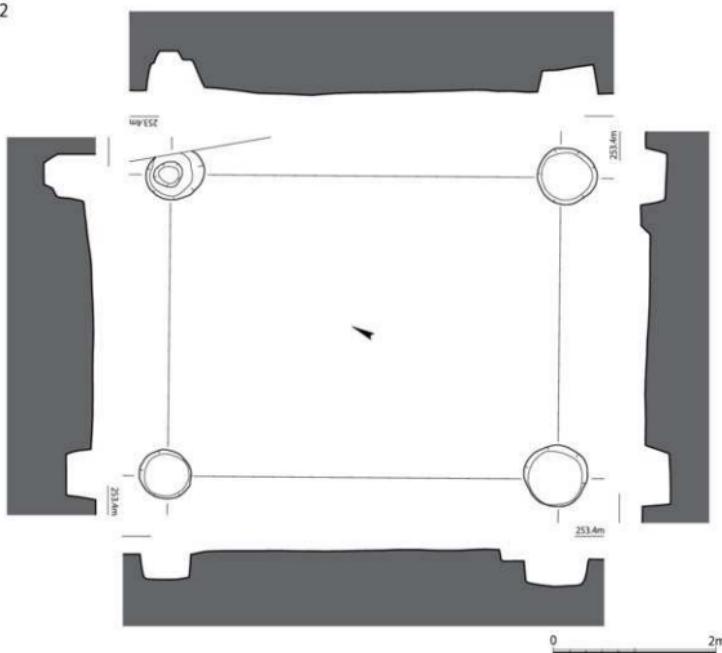


図 76 SB02 堀立柱建物 (1/60)

SB05 (図 77)

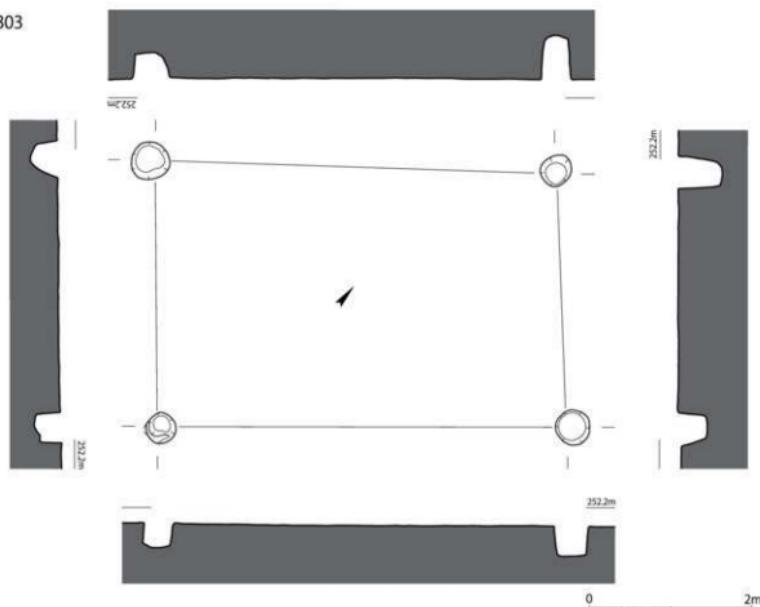
調査区南側 P36 区画周辺に位置する柵例で、北西—南西方向に列をなす。柱間は不揃いで、柱穴は径 0.3 ~ 0.6m の円形基調である。SB05 の南東側延長線上に 2 基の小穴が認められ、さらに延びる可能性もある。埋土中より遺物は出土しなかった。

3 遺構外出土遺物

縄文時代後期中葉～後葉の土器 (図 78)

- 1 は口縁部断面が三角形になる無文土器。
- 2 は台付皿形土器で上面には、蛇行状の貼付と刺突列が認められる。
- 3 ~ 5 は丸尾式の口縁部。
- 6 ~ 9 は、内湾気味の口縁部に沈線や刺突を施文するものである。
- 10 ~ 12 はミガキ調整後、縄文や沈線で施文する。
- 13 は「く」の字に屈曲する口縁部に凹線を施文する。
- 14 ~ 19 は、「く」の字に屈曲する口縁部に沈線で施文する。
- 20 ~ 23 は縄文時代後期中葉～後葉頃の無文土器と考えられる。
- 24 ~ 25 は底部で僅かに上げ底になる。

SB03



打製石器（図 79）

26～33は石鎚で、28は基部から先端部にかけて縁辺を弧状に調整加工を行っている。32は無斑晶質安山岩を素材とし、基部に抉りを持たない平基である。34は両面調整を施した黒曜岩製の石錐。35は頁岩製の削器である。36・37は打製石斧で、扁平な安山岩の縁辺を調整加工し形成している。両者共に体部上位～中位の両縁辺に抉りを有する。また、両者共に側面縁辺部の稜線に比べ、刃部の稜線は丸く磨滅しており、使用痕の可能性がある。

磨製石器・礫石器（図 79）

38・39は切目石錐で、38の縁辺には数箇所の切目が認められる。40は磨石。41は磨製石斧で、刃部を一部欠損する。

近世の遺物（図 80）

44は白磁碗で、内面見込に釉剥ぎが認められる。

45・46は江戸後期の染付蓋付碗で、文様が類似することからセットになるものと思われる。

47は唐津焼の陶器碗、48は薩摩焼の土瓶注口である。

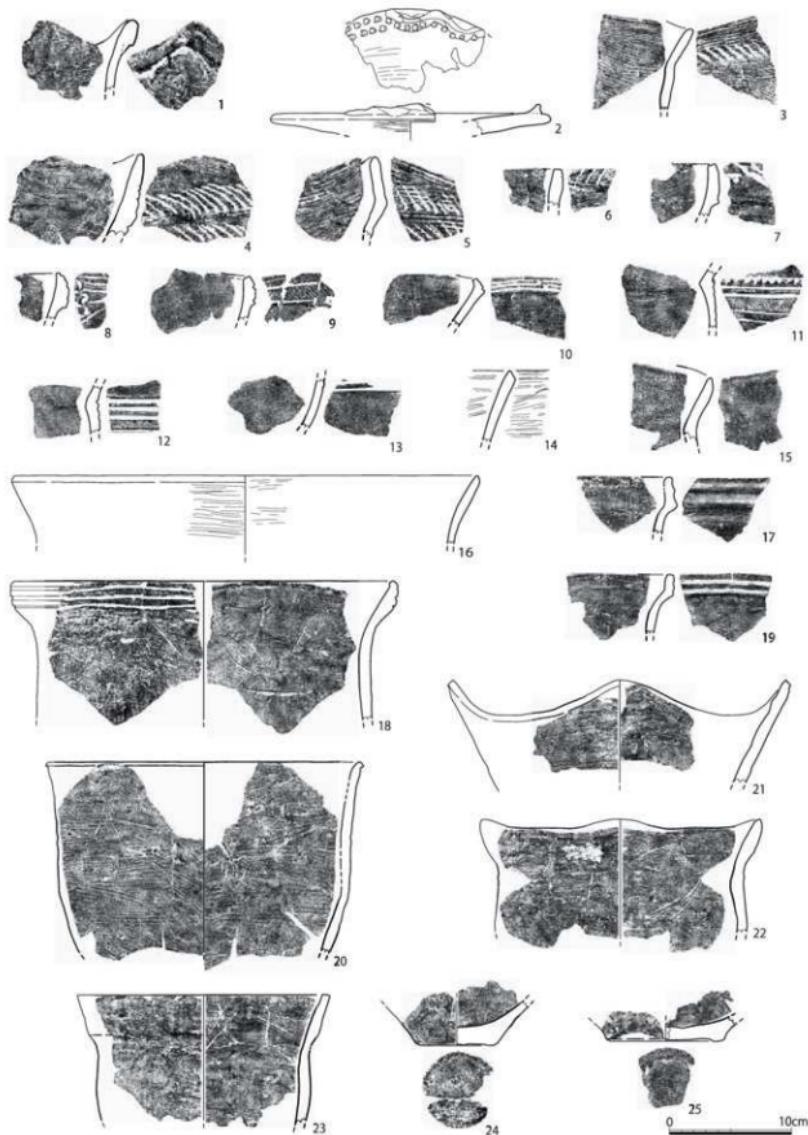


図 78 6区遺構外出土遺物 1 (1/4)

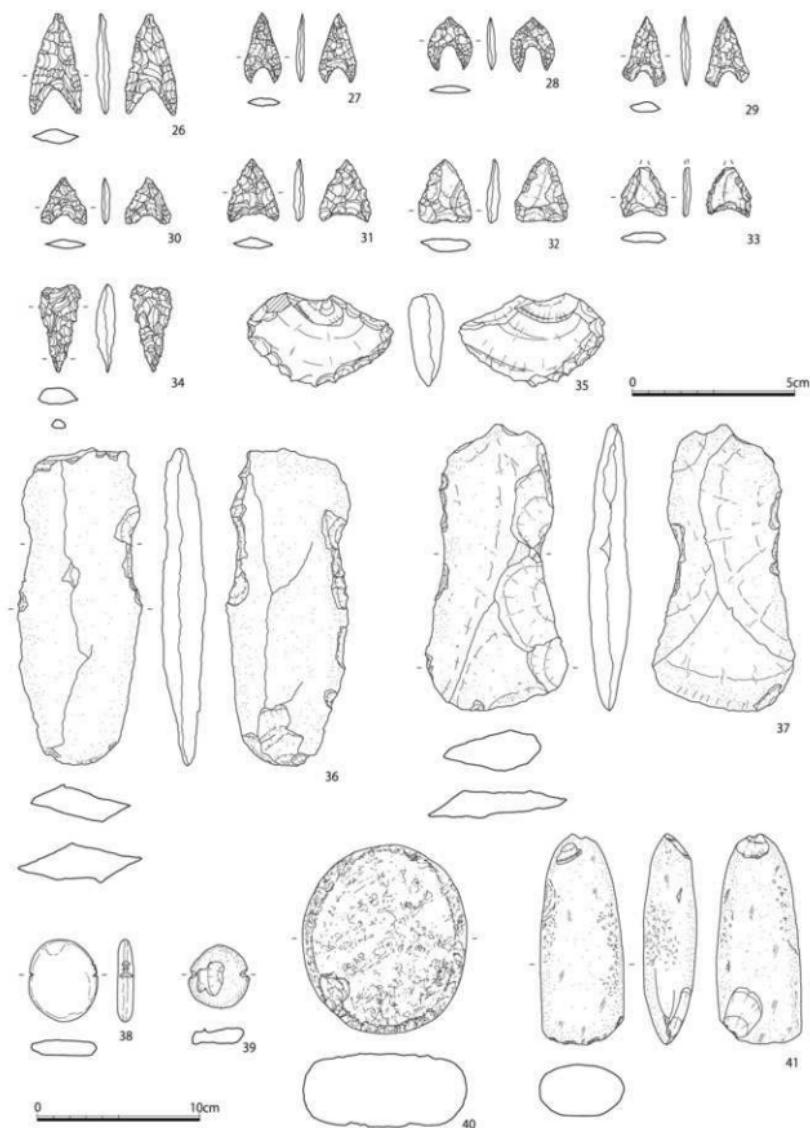
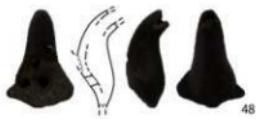


図79 6区構外出土遺物2 (36~41:1/3 その他:2/3)

SB02 P2



0 10cm

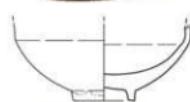


図 80 SB02-P2 出土遺物及び6区遺構外出土遺物 3 (1/3)

表5 6区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法cm			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
1	No.421	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナグ 内:ナグ	外:10VR3/2黒褐 内:10VR3/2黒褐	外面保付着、種差庄底有
2	No.498	圓文土器 台形直鉢	(23.0)	-	-	外:ナグ 内:ナグ・鉄突	外:10VR6/31.5cm 黄褐 内:10VR6/31.5cm 黄褐	-
3	No.386	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝多板・ナグ・貝側突 内:貝多板・ナグ	外:2.5VR6/6黒 内:5VR2/1黒褐	-
4	No.501	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝多板・ナグ・貝側突 内:ナグ	外:10VR6/6明赤褐 内:5VR5/8明赤褐	-
5	No.224	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝多板・ナグ・貝側突 内:貝多板・ナグ	外:10VR6/8褐 内:10VR5/8明赤褐	-
6	No.535	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナグ・貝側突 内:ナグ	外:2.5VR5/41.5cm 黑 内:2.5VR11/7.1	-
7	No.593	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナグ・鉄突 内:ナグ	外:10VR5/6明赤褐 内:10VR5/6明赤褐	-
8	No.472	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナグキ・沈縫・鉄突 内:ナグキ	外:2.5VR2/2黒褐 内:2.5VR2/1黒	-
9	No.389・544	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナグ・丈縫・圓文 内:ナグキ	外:10VR6/24黒黄 内:2.5VR5/28暗灰黄	-
10	No.646	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナグキ・圓文・沈縫 内:ナグキ	外:2.5VR6/41.5cm 黄褐 内:10VR6/41.5cm 黄褐	-
11	No.299	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナグ・圓文・沈縫・鉄突 内:ナグ・ナグキ	外:2.5VR5/1黒褐 内:2.5VR5/2黒褐	-
12	No.651	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:沈縫・鉄突・圓文 内:ナグ	外:10VR1/7.1 内:10VR5/41.5cm 黄褐	-
13	No.665	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナグキ・圓文・沈縫 内:ナグ	外:10VR4/4灰黄 内:2.5VR5/32.5cm 褐	-
14	No.422	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナグ・ナグキ 内:ナグ・ナグキ	外:2.5VR3/1黒褐 内:2.5VR4/2黒褐	-
15	No.280	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナグ・ナグキ 内:ナグ	外:2.5VR4/2黒褐 内:10VR5/32.5cm 黄褐	-
16	No.167・No.253	圓文土器 深鉢	38.4	-	-	外:貝多板・ナグキ 内:貝多板・ナグキ	外:10VR1/31.5cm 黑褐 内:10VR5/41.5cm 黑褐	-
17	No.162	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナグキ・鉄縫 内:ナグ・ナグキ	外:10VR1/31.5cm 黑褐 内:10VR1/31.5cm 黑褐	-
18	No.321	圓文土器 深鉢	(31.8)	-	-	外:ナグ・尤縫 内:ナグ	外:2.5VR3/脚ナグ・ナグ 内:2.5VR2/3鉄縫	-
19	No.418	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナグ・ナグキ・沈縫 内:ナグ・ナグキ	外:10VR6/32.5cm 黄褐 内:2.5VR1/1黒褐	外面保付着
20	No.515	圓文土器 深鉢	(26.0)	-	-	外:貝多板・ナグ 内:貝多板・ナグ	外:10VR6/41.5cm 黑 内:10VR4/4灰	-
21	No.319・509	圓文土器 深鉢	(28.1)	-	-	外:ナグ 内:ナグ	外:10VR6/41.5cm 黄褐 内:10VR6/41.5cm 黄褐	-
22	No.378・454・455	圓文土器 深鉢	(23.1)	-	-	外:ナグ・ナグキ 内:ナグ	外:10VR3/2暗赤褐 内:2.5VR3/脚赤褐	-
23	No.37 IV層・No.465	圓文土器 深鉢	(20.7)	-	-	外:ナグ 内:ナグ	外:10VR3/2暗赤褐 内:10VR3/脚赤褐	-
24	No.212・213	圓文土器 浅鉢	-	6.7	-	外:ナグ・ナグキ 内:ナグ	外:2.5VR4/4褐 内:10VR3/1黒褐	-
25	No.679	圓文土器 底鉢	-	(9.7)	-	外:ナグ 内:ナグ	外:10VR7/41.5cm 黄褐 内:2.5VR1/1黄褐	-
42	SB2 P2	染付 底鉢	(8.0)	-	-	-	削:NR/灰白 織:NR/灰白 支:6PR2.0/5.0褐	-
43	SB2 P2	白綿 紅里	4.6	1.4	1.4	-	削:NR/灰白 織:NR/灰白	-
44	No.592	白綿 綿	(11.0)	-	-	-	削:NR/灰白 織:NR/灰白	-
45	II層	染付 底鉢	(9.4)	3.4	3.0	-	削:NR/灰白 織:10BG7/1脚青灰 支:3PR3.5/5.5褐	-
46	-	染付 底鉢	(10.7)	3.9	3.9	-	削:NR/灰白 織:10BG7/1脚青灰 支:6PR2.5/9.5脚青	-
47	-	陶器 瓶	-	3.8	-	-	削:2.5VR7/1浅黄 織:2.5VR1/1灰白	-
48	-	土瓶(注口)	-	-	-	-	削:2.5VR6/6褐 織:10VR3/1黒褐	-
49	-	圓錐 瓶	-	-	-	-	削:2.5VR6/2灰黄 織:10VR2/2黒褐	-

表5 6区出土遺物観察表(石器)

報告番号	出土地区	層位	器種	石材	寸法 (mm)			重級 (g)	備考
					長さ	幅	厚さ		
26	-	-	石鏃	チヤート	30.8	15.7	4.0	1.3	No.510
27	-	-	石鏃	チヤート	21.0	11.0	2.0	0.4	No.294
28	N36	II層	石鏃	チヤート	16.3	13.2	2.2	0.4	-
29	M37	VI層	石鏃	チヤート	21.2	13.4	2.6	0.6	-
30	-	-	石鏃	チヤート	14.0	14.2	2.6	0.4	No.805
31	-	-	石鏃	黒曜岩 I d	19.2	15.9	3.1	0.8	No.70
32	-	-	石鏃	無斑品質安山岩	19.9	15.7	3.1	0.9	No.805
33	-	-	石鏃	頁岩	15.2	14.1	2.5	0.6	No.337
34	-	-	石鏃	黒曜岩 I d	27.1	12.4	5.8	1.5	No.336
35	-	-	削器・石匙	頁岩	29.0	44.0	10.0	13.1	No.24
36	-	-	打製石斧	安山岩	19.4	7.5	2.5	362.7	No.560 先端鋸歯滅 両側石安山岩類似
37	-	-	打製石斧	安山岩	177.0	86.6	25.3	337.6	No.259 先端鋸歯滅 両側石安山岩類似
38	-	-	石鏃	頁岩	50.0	43.0	10.0	35.2	No.366 切目石鏃
39	-	-	石鏃	枯板岩?	36.3	38.1	9.7	18.0	No.487 切目石鏃
40	-	-	磨石	安山岩	116.5	99.5	43.7	726.2	-
41	-	-	磨製石斧	頁岩?ホルシブルース?	129.0	50.3	31.9	330.5	No.246 万葉磨滅

第3章

第7節 山中遺跡7区



第 7 節 山中遺跡 7 区の調査

1 山中遺跡 7 区調査の概要

山中遺跡 7 区（以下 7 区）は、平成 18 年度に発掘調査を実施し、同時期に調査を行っていた 8 区の西側、平成 16 年度に調査を行った 1 区の南側隣接地に位置する。調査区周辺は、水田構築時の掘削を受けており、耕作土を取り除くと基本土層 VI 層（黒色土層）が露出する状況であった。重機による表土（耕作土）除去後、縄文時代の遺物包含層である基本土層 VI 層（黒色土層）の掘削を行い、基本土層 VII 層（暗褐色土層）上面で遺構検出を行った。

調査の結果、小規模な範囲調査でありながら大量の遺物が出土し、ほぼ完形に復元できる縄文土器も多数出土した。遺構は、基本土層 VII 層（暗褐色土層）上面で、掘り込みの浅い土坑を数基検出しているが、明確な遺構として認識できなかつたため、個別遺構の図示はしなかつた。

2 遺構外出土遺物

縄文時代前期～後期の土器（図 83～95）

1・4 は 2 本単位の施文具で施文され、4 は地文に縦方向のハケ目状の条線を持つ。5 は縦方向の隆線を貼り付け後、内外面に 2 単位の施文具で沈線・押引を施文する。6・7 は胸部片で、2 本単位の縦方向の文様を施文する。8～10 には内外面に刺突と貝刺突（相交弧文）が認められる。

11～16・18～43 は押引や刺突を多用する土器群である。23 は胸部から外反気味に立ち上がる深鉢で、器壁は薄く、丁寧にナデ調整がなされ、文様は押引・貝刺突を組み合わせて構成している。30～43 は隆線を貼付ける一群である。39 は隆線を貼り付け、帯状の刺突を伴うもので、放射性炭素年代測定の結果、 4760 ± 40 年 BP（1 σ の曆年代で BC3630～3520 年）の年代値が得られている。40 は胸部から外反しながら立ち上がり、ゆるやかな波状口縁の頂部に貼付を行う。文様は貝刺突による幾何学的なものと帶状の刺突が施文される。41・42 は同一個体と考えられ、断面や調整、色調などは 23 にも類似しており、これらと同一個体となる可能性もある。44 は内湾気味に立ち上がる口縁部付近に微隆線により施文を行う。

46 は直立気味に立ち上がり、口縁部付近に連弧文状の刻目隆線を持つ。

49 は胸部から内湾気味に立ち上がる口縁部に、沈線による施文を行った後、沈線内刺突を行う。沈線内刺突は沈線の外側にはみ出るものも多く認められ、放射性炭素年代測定の結果、 4220 ± 40 年 BP（1 σ の曆年代で BC2890～2870、2800～2780 年）の年代値が得られている。

53・54 は口縁部の肥厚帯に文様を施文するもので、54 はやや幅広くなり、凹線間に貝刺突を行う。

55 は山形の口縁部頂部から垂下降帶を貼付け、凹線で施文される。56 は口縁部の肥厚部分に凹点を施し、胸部には凹線で幅広な文様を施文する。口縁部は山形に波状し、波頂部には縦長の焼成前穿孔が 2 箇所認められる。

61～89 は沈線間に刺突や貝刺突を行う一群である。

90～100 は凹線もしくは太目の沈線で施文する。

101・103～110・114 は口縁部周辺の無文帯を比較的幅広くとり、101・103～105・107・109・110 には、頸部屈曲部に 1 本ないしは 2 本単位の沈線を引いて、文様帯を分帯する。

115・119～131 は阿高式もしくは南福寺式である。

132～161 は南福寺式もしくは出水式で、139 の内面には稜線が認められる。152 は沈線施文後に縄文を施す。

162～187 は磨消縄文土器で、162～164・166～169 は中津式、165・175～187 は、宿毛式もしくは福田 K2 式である。162・171・174・180 は擬縄文で、171 は巻貝によるものである。

193～224 は指宿式で、193 は波頂部下にある渦巻状を 2 本沈線で結ぶ。198 は外面に 2 本単位の沈線を施文し、口唇部端に貝刺突を行う。201 は頸部に 2 本単位の沈線を施し、胸部文様は渦文状の単位文間を斜方向の沈線で

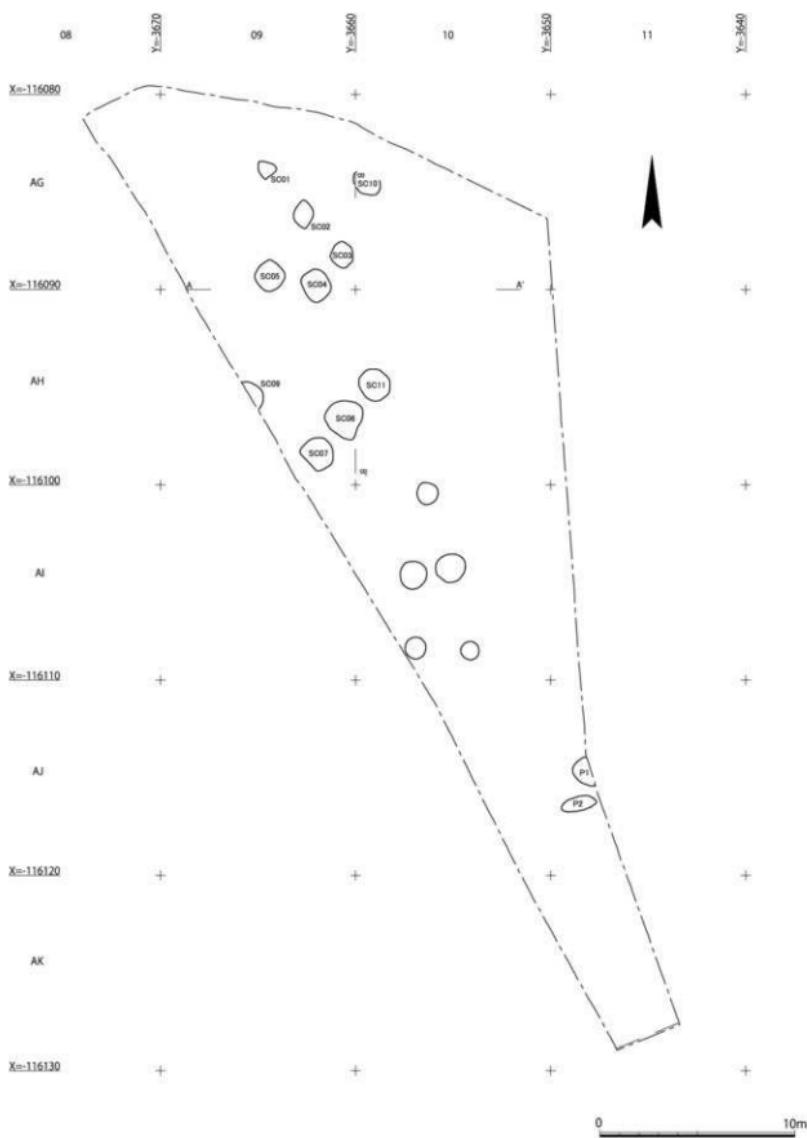
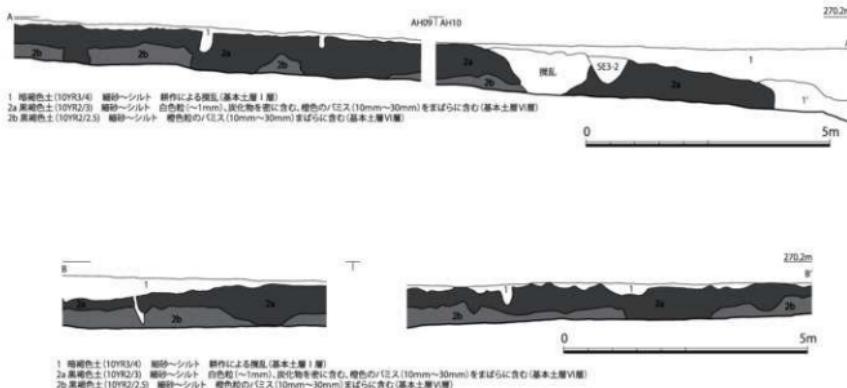


図 81 山中遺跡 7区の遺構配置図 (1/250)

山中遺跡 7 区の調査



結ぶ。202 も頸部に 2 本単位の沈線を施し、そこから派生する J 字文間を斜方向の沈線で結ぶ。202 は放射線炭素年代測定の結果、 3820 ± 40 年 BP (1σ の歴年代で BC2300 ~ 2200 年) の年代値が得られている。205・206 は頸部屈曲部に 2 本単位の沈線を施し、口縁端部に刺突を持つ。208 は頸部屈曲部に 2 本単位の沈線が廻り、波頂部下で途切れで口縁部方向に上昇する。209 は肥厚する口縁部に沈線と貝刺突を行い、内面には大小の刺突文が観察される。210 は小型の深鉢で、肥厚する口縁に沈線と刺突を廻らす。胴部には欠損するが円形の貼付が認められる。211 は口縁部に入組文を短く連続させ、口唇部には沈線を 1 条廻らす。212 は肥厚する口縁部に沈線と刺突を施し、口唇部に沈線を 1 条廻らす。213 は頸部屈曲部に貝刺突を伴う隆線を廻らす。214 は胴部から直線気味に立ち上がる器形で、胴部には貝刺突を作う隆線で文様を描出し、口縁端部には貝刺突が観察される。215 は、鉢もしくは浅鉢となる器形で、把手が欠損し、口縁端部に貝刺突を施文する。

225 ~ 230 は縄文時代後期初頭～前葉に位置づけられると考えられるが、型式不明なものを謙めた。229 は口縁部から胴部上半にかけて刺突により文様を描出し、胴部下半は無文となるが、底部付近には刺突が認められる。

231 ~ 255 は口縁部を三角形状に肥厚させる市来式である。238 は放射線炭素年代測定の結果、 3710 ± 40 年 BP (1σ の歴年代で BC2190 ~ 2180、2140 ~ 2030 年) の年代値が得られている。

256 ~ 263 は口縁部に刺突を持つ土器を謙めた。

265 は注口土器で、胴部には凹線もしくは段が認められる。

266 ~ 281 は無文土器を謙めた。

282 ~ 287 は底部で、286 は上げ底となり、287 には底部付近まで沈線が認められる。

近世の陶磁器 (図 95)

288 は薩摩焼甕である。

打製石器（図 96～101）

289～327・330は石鎚である。289～300は二等辺三角形のもので、289～294は抉りの深い凹基、295～297は抉りの浅い微凹基、298～300は平基となる。296・297は、いずれも両面に磨滅痕が認められる。301～306は正三角形のもので、306は基部から先端部の縁辺を丸くなるように調整加工を行う。307～326は五角形のもので、307～317は二等辺三角形状に長くなるもの、318～326は正三角形状になるものである。327は先端部付近の調整加工の稜線や先端部が丸く磨滅している。330は薄く剥れた粘板岩の縁辺を加工したものである。

328・329・331～342は石匙である。328・329・331～335は縦長、336～342は横長となる。

343～349は削器で、349は薄く剥れた粘板岩の縁辺に微細な剥離が観察される。

350～353は石錐で、351は無斑昌賀安山岩製のもので、刃部のみ調整加工を施している。

354～358は石核で、354～356は玉髄、357～358はチャートを素材としている。

368～370は安山岩や砂岩の縁辺を調整加工したもので、打製石斧となる可能性がある。

磨製石器・礫石器（図 101～103）

359～367は磨製石斧で、363は蛇紋岩製で刃部を欠損している。364には敲打整形が認められ、刃部付近のみ研磨整形を行っている。刃部には一部欠損が認められる。

371～375は磨石であり、374・375の表面には窪みが認められ、凹石として利用された可能性もある。

376～378は敲石。379は凹石。

380～402は石錐で、380～400は切目石錐、401・402は打欠石錐である。

装飾品（図 103）

403は頁岩製の垂飾で、表面には研磨痕の他に線刻状の刻みも認められ、側面にも 2 条の刻みが認められる。

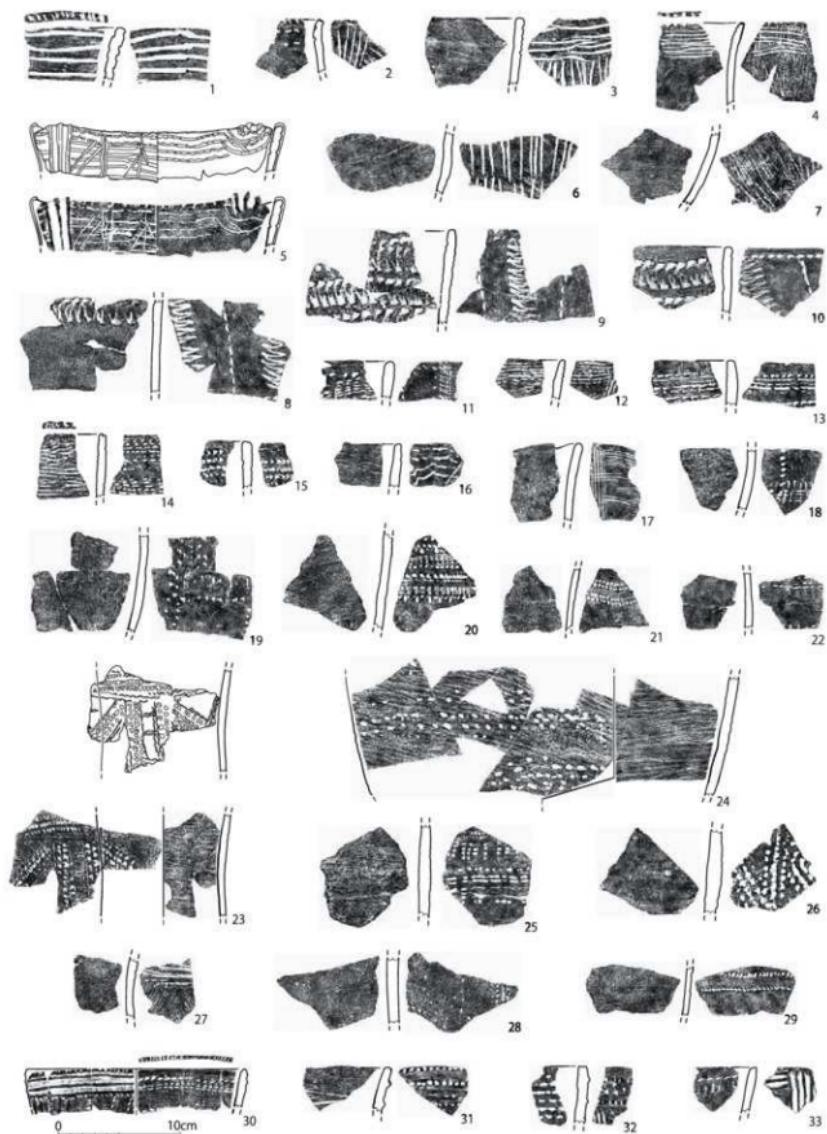


図 83 7区遺構外出土遺物 1 (1/4)

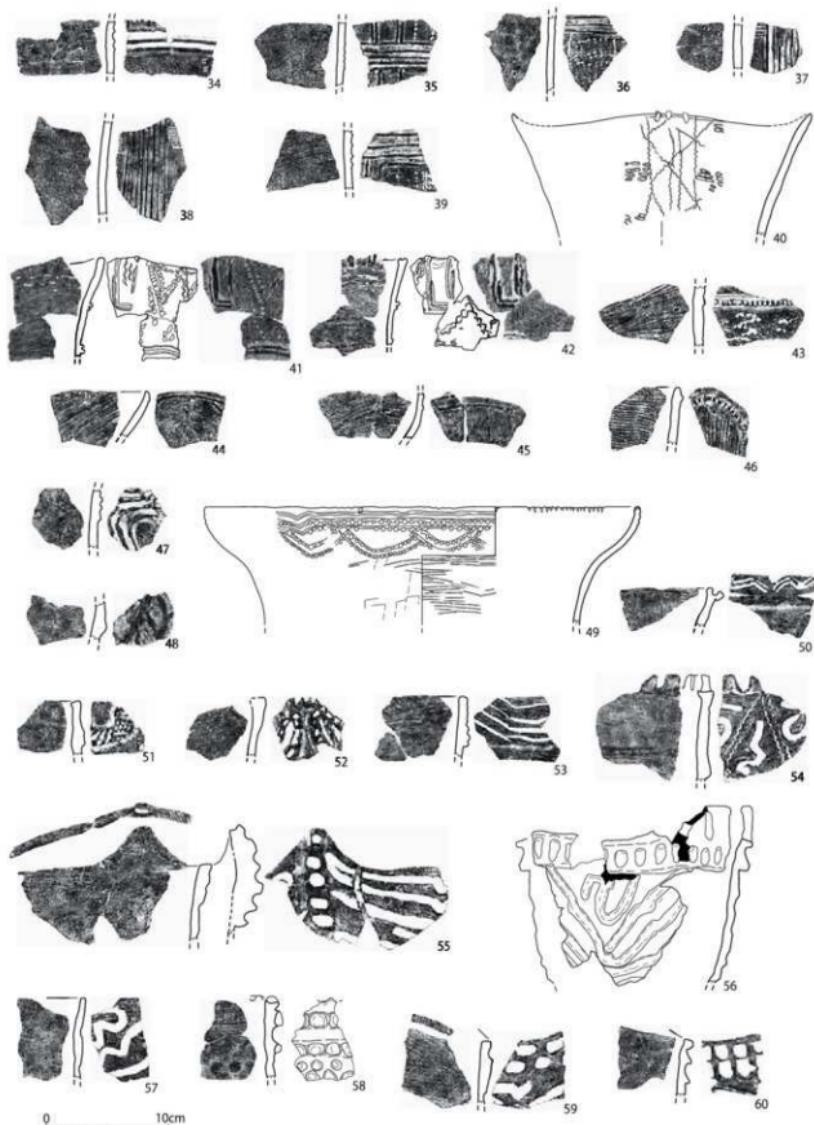


図 84 7区遺構外出土遺物 2 (1/4)

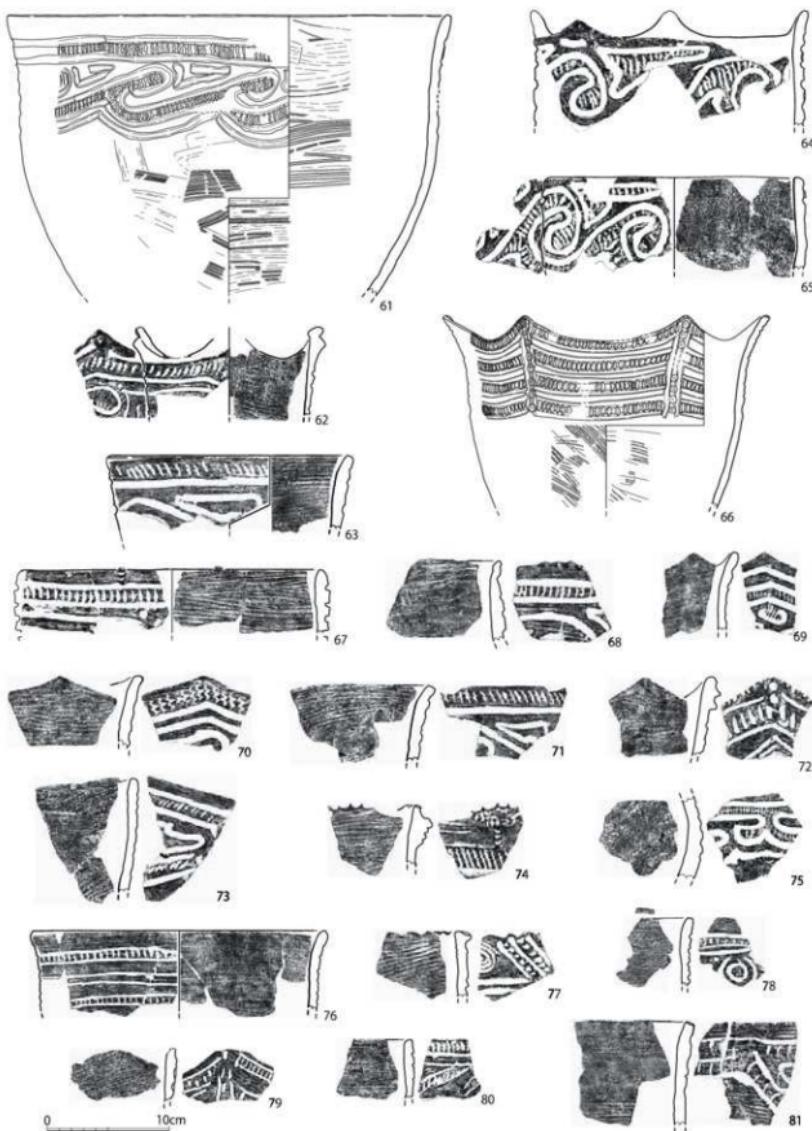


図 85 7区遺構外出土遺物 3 (1/4)

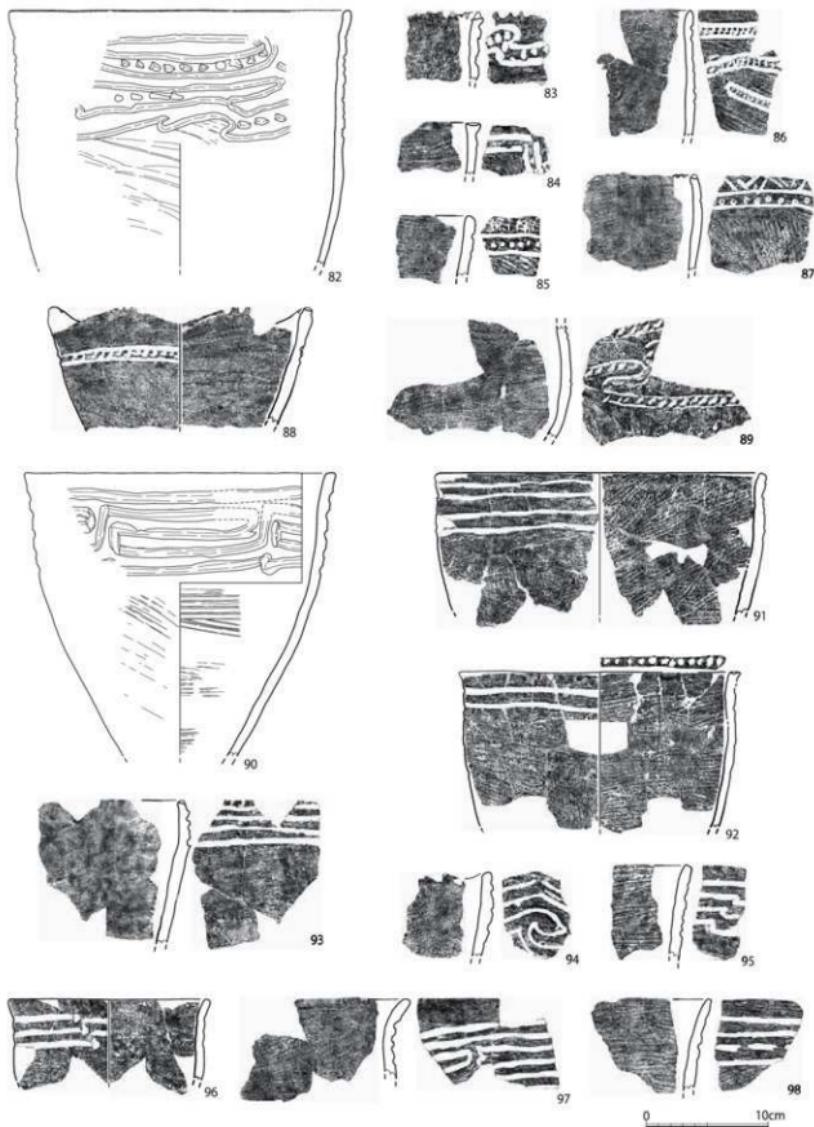


図 86 7区遺構外出土遺物 4 (1/4)

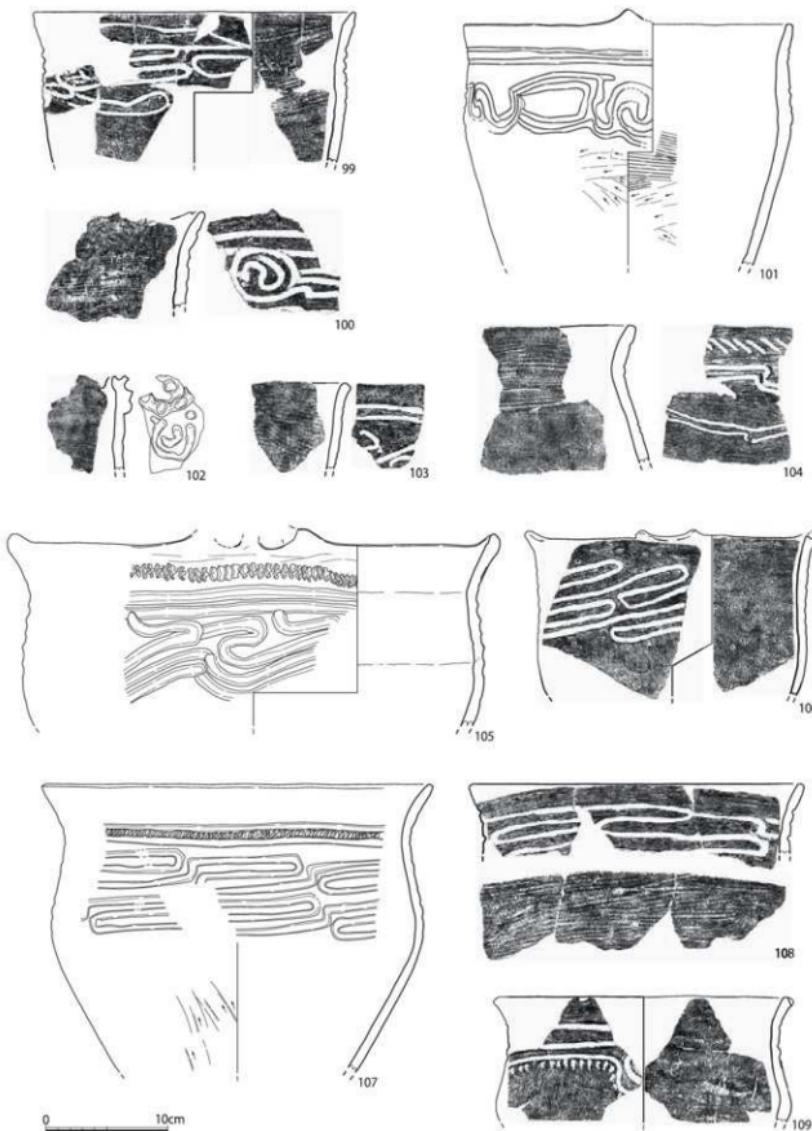


図 87 7区遺構外出土遺物 5 (1/4)

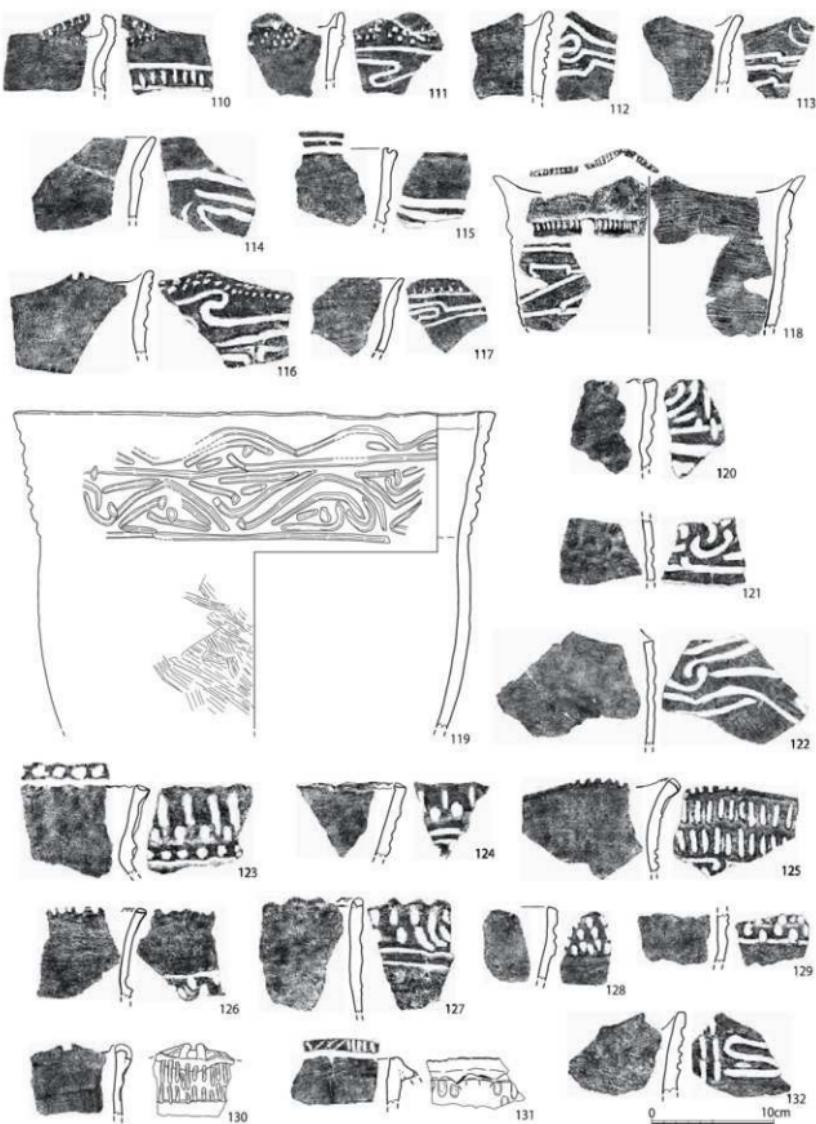


図 88 7区遺構外出土遺物 6 (1/4)

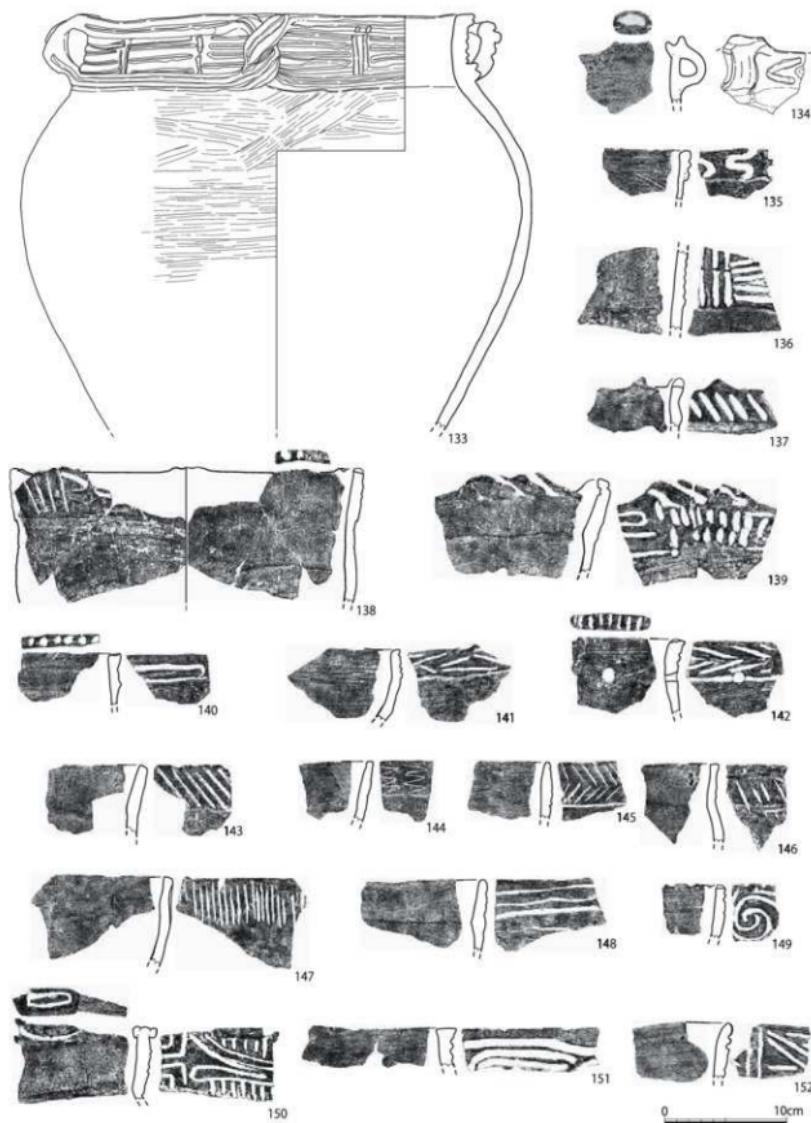


図89 7区遺構外出土遺物7 (1/4)

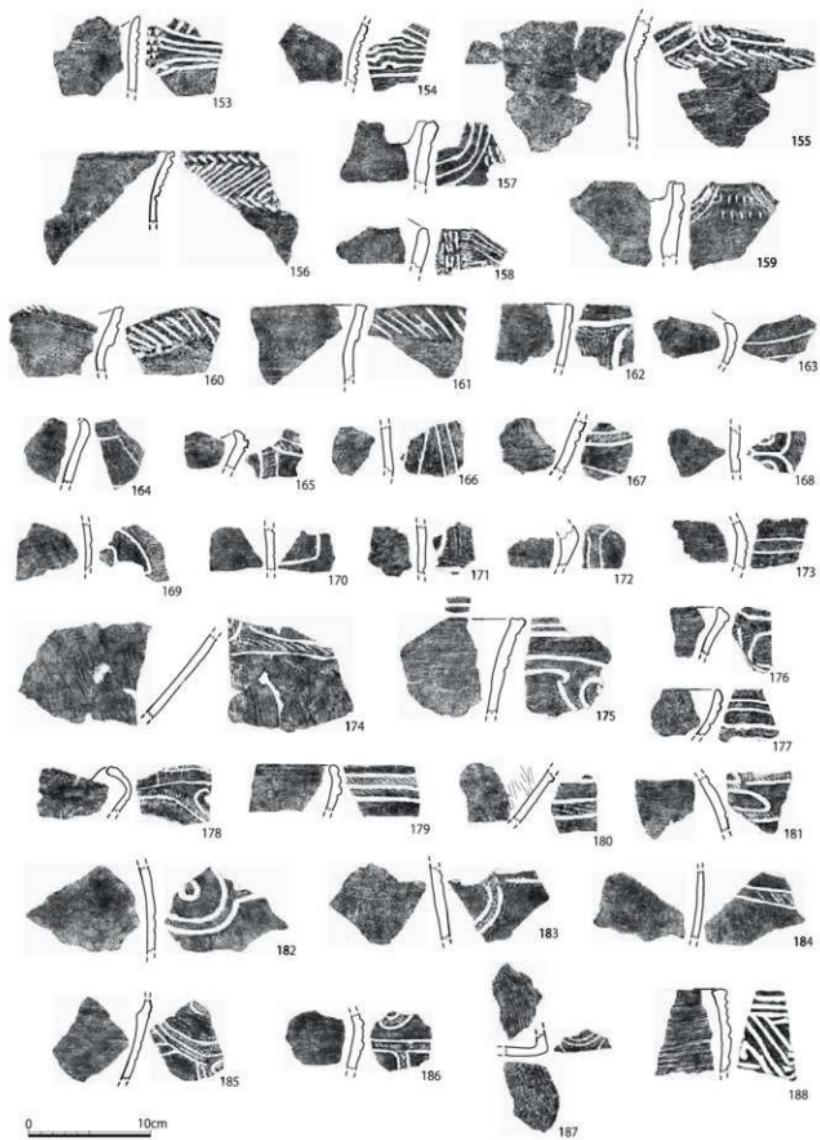


図90 7区遺構外出土遺物8 (1/4)

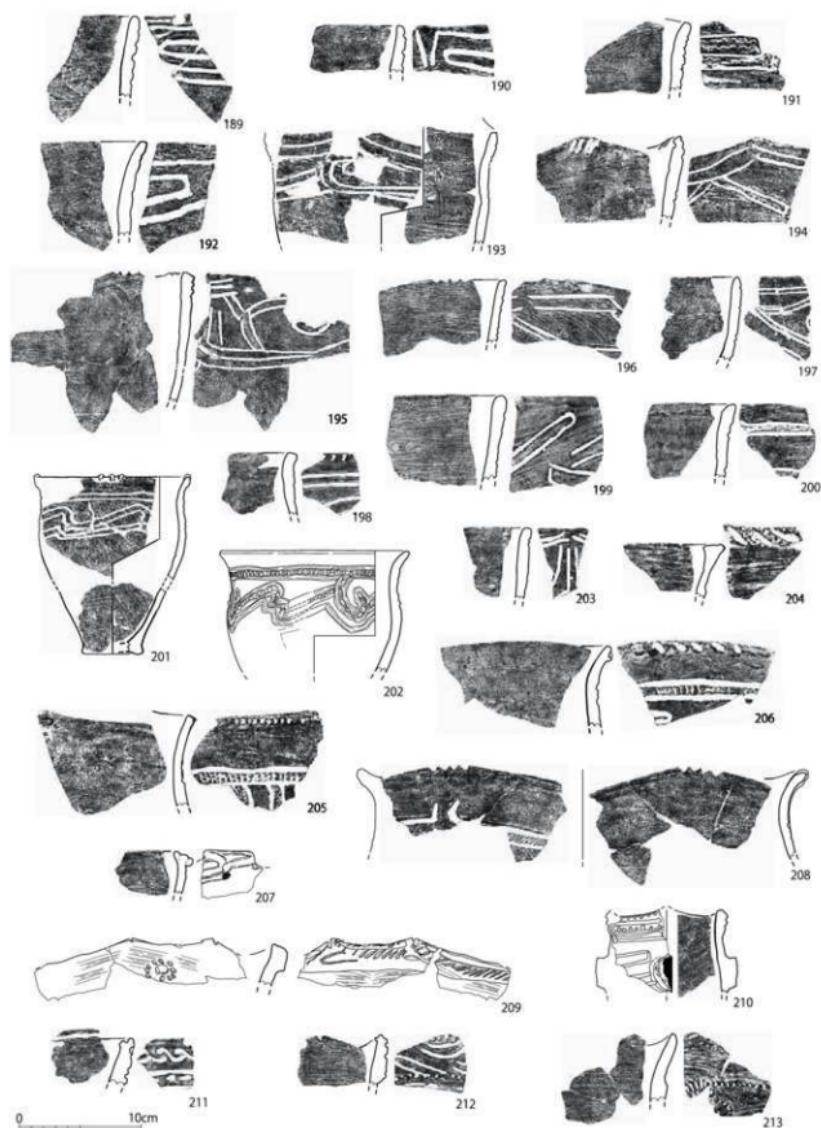


図 91 7区遺構外出土遺物 9 (1/4)

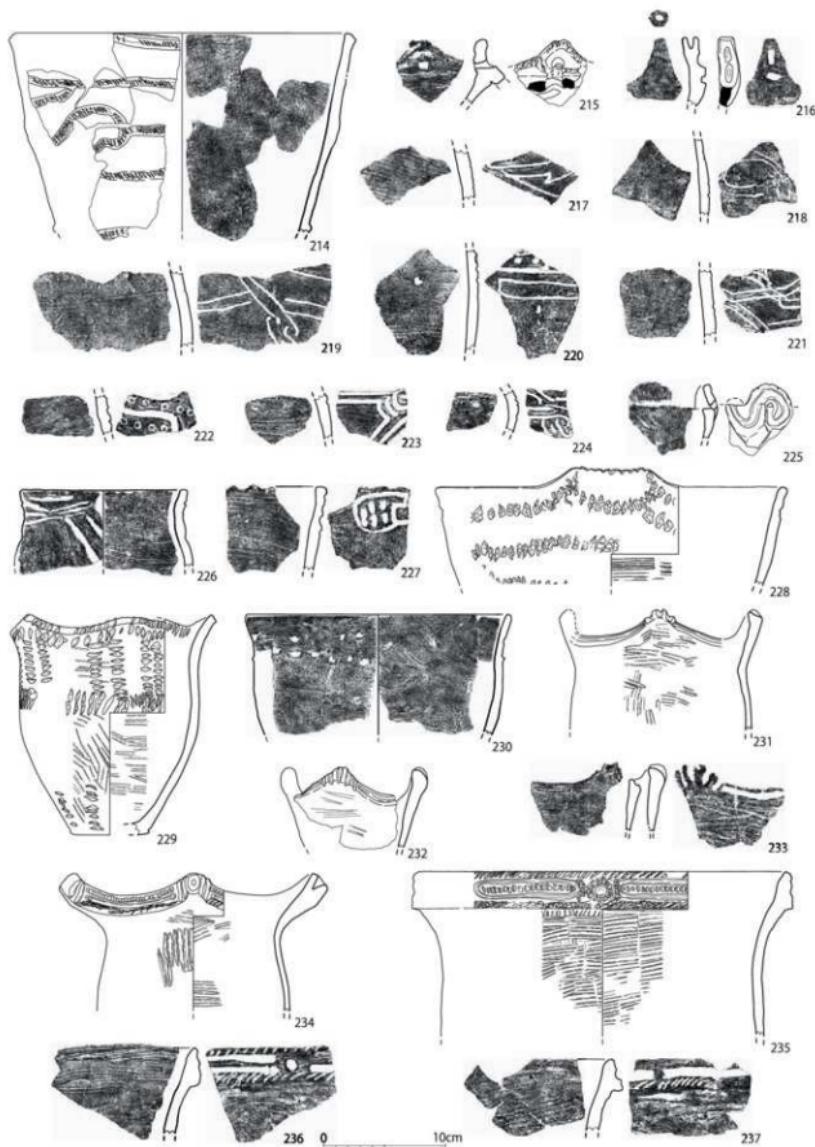


図 92 7区遺構外出土遺物 10 (1/4)

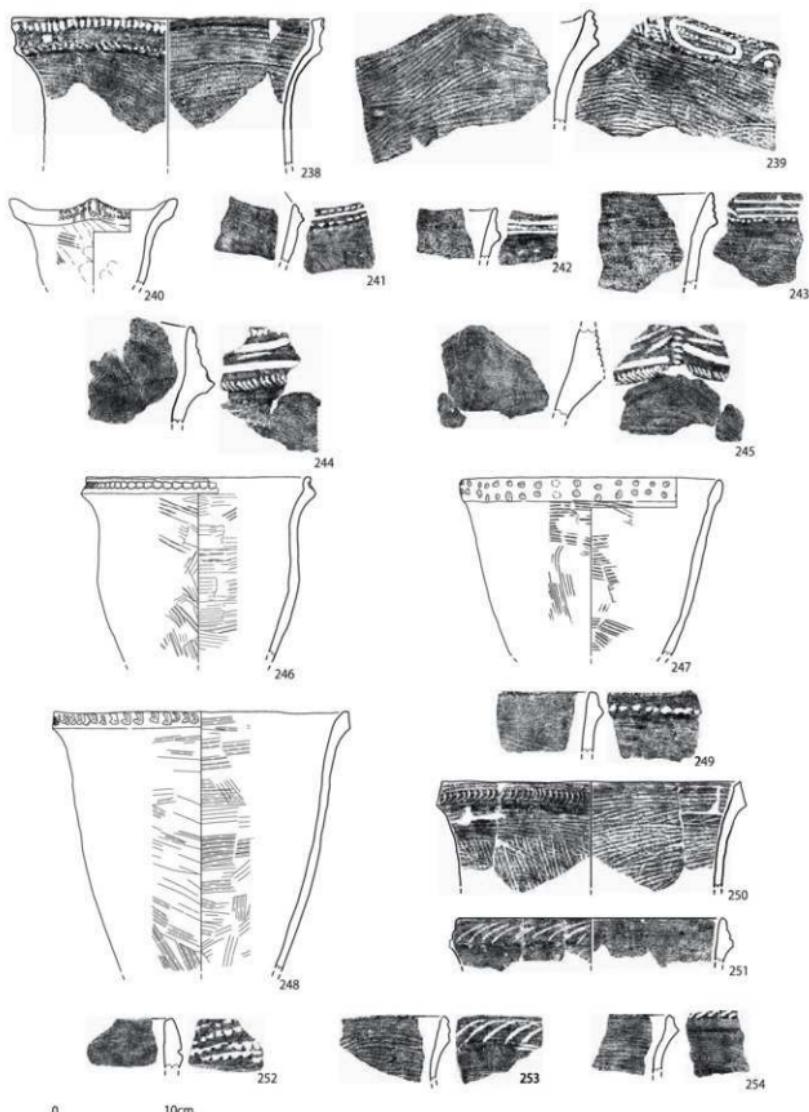


図 93 7区遺構外出土遺物 11 (1/4)

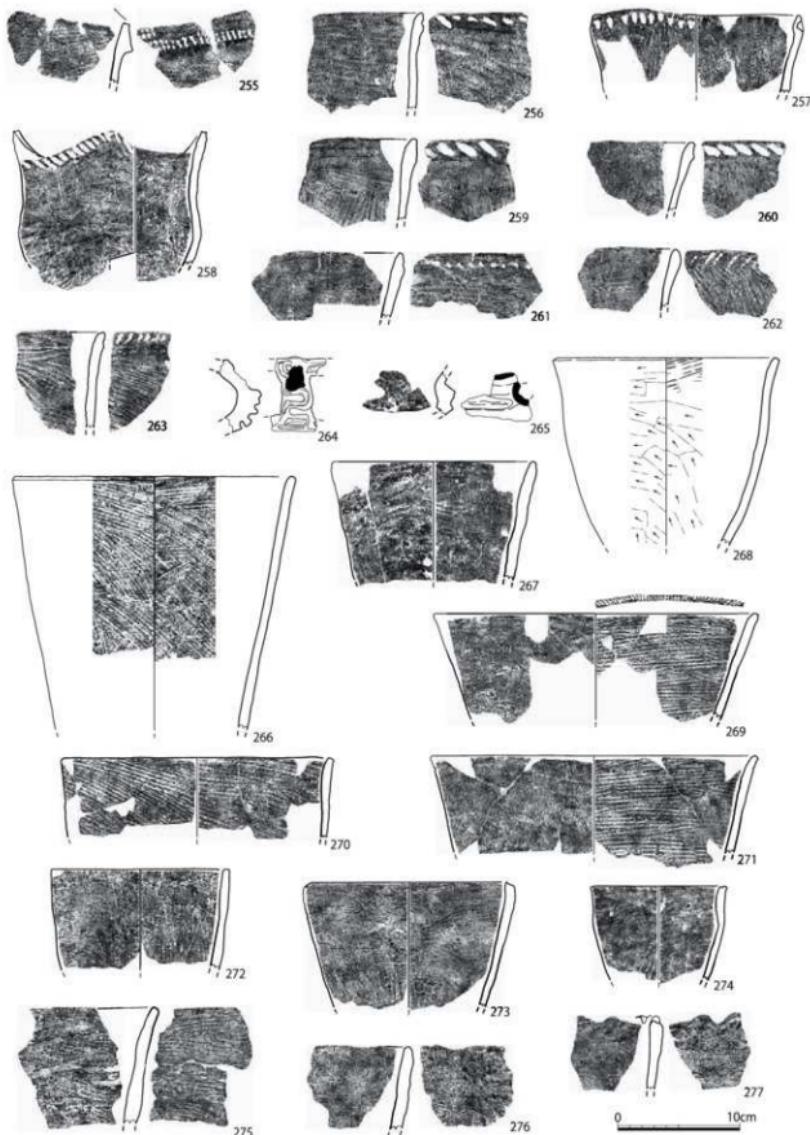


図 94 7区遺構外出土遺物 12 (1/4)

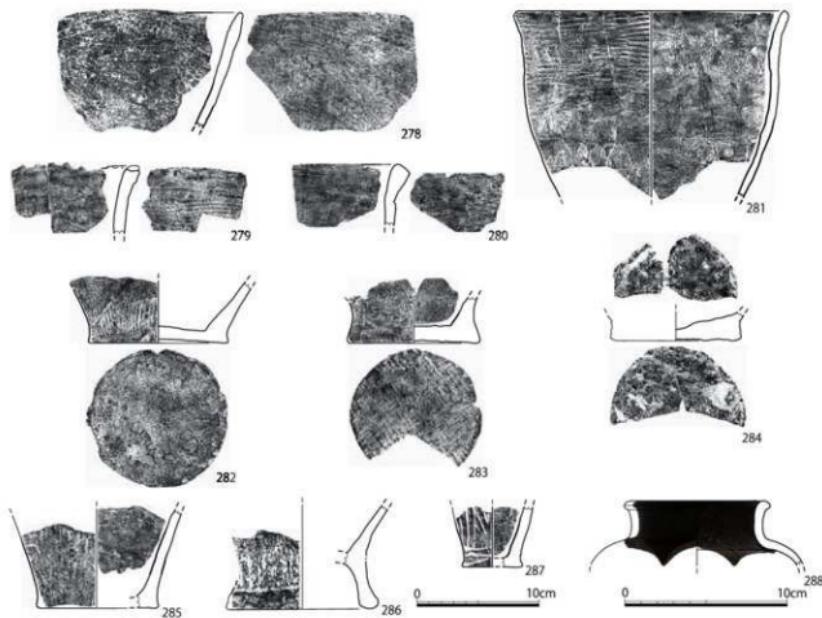


図 95 7区遺構外出土遺物 13 (288:1/3 その他:1/4)

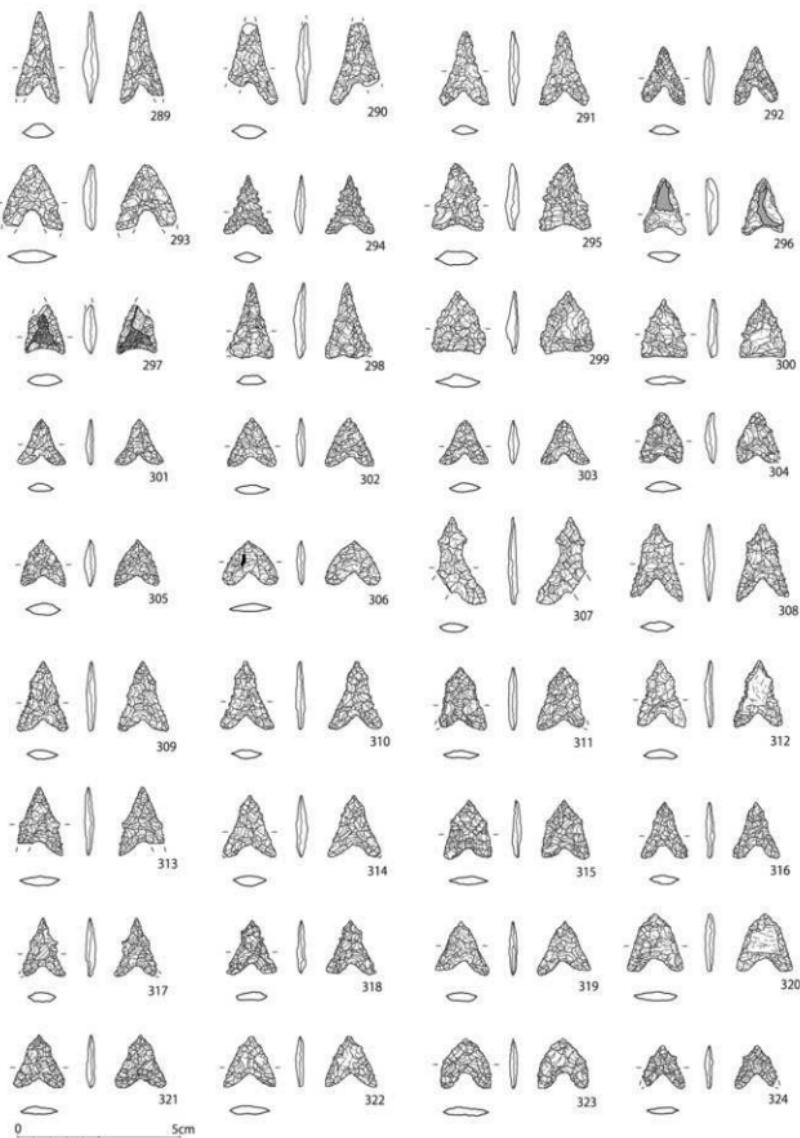


図96 7区遺構外出土遺物14 (2/3)

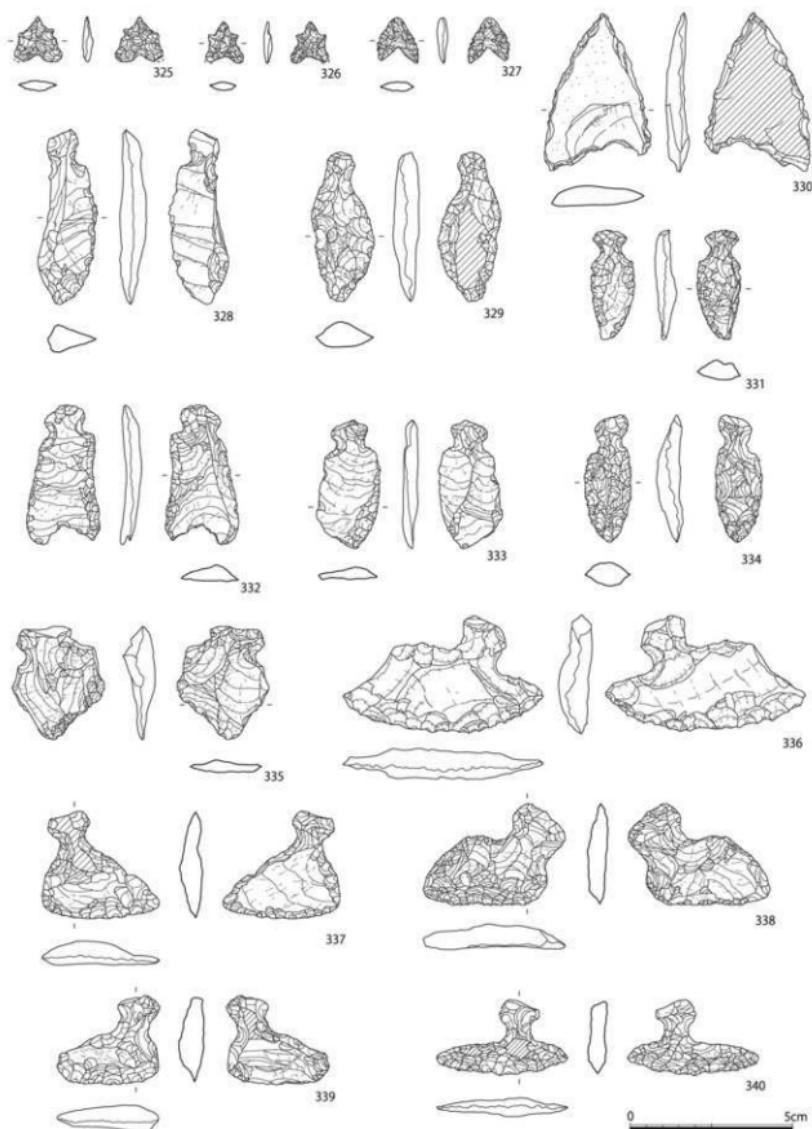


図 97 7区遺構外出土遺物 15 (2/3)

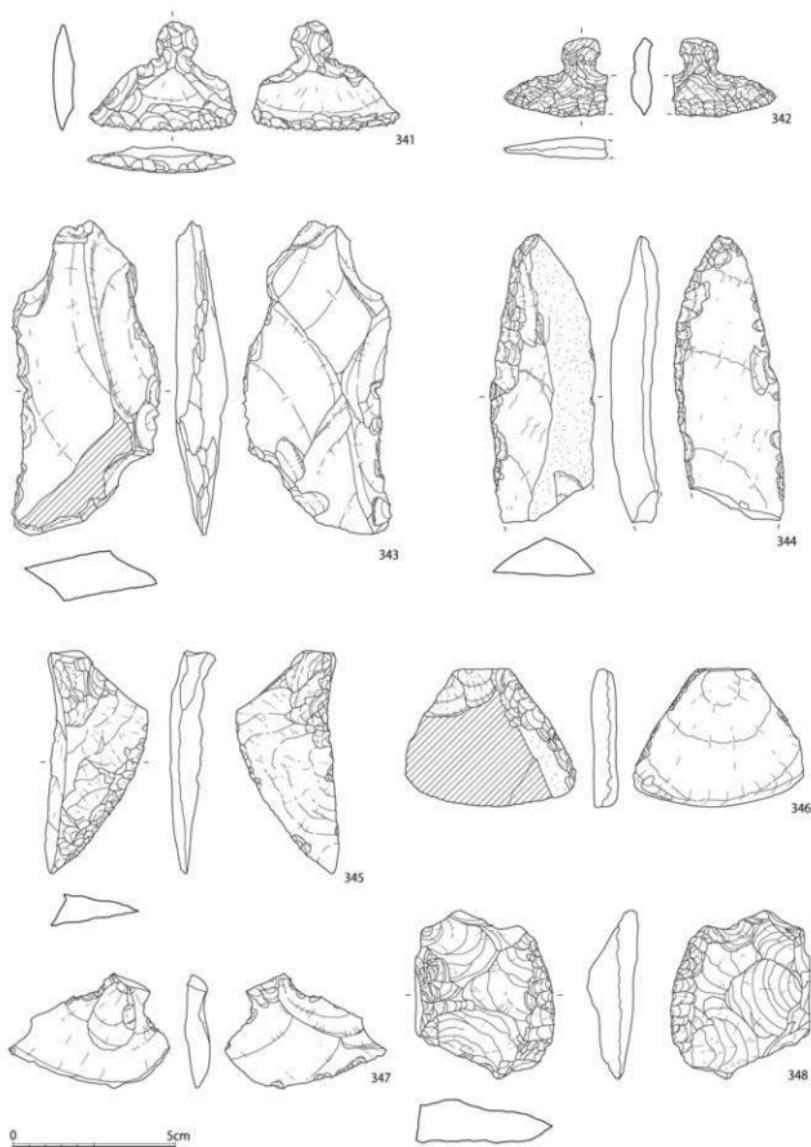


図 98 7区遺構外出土遺物 16 (2/3)

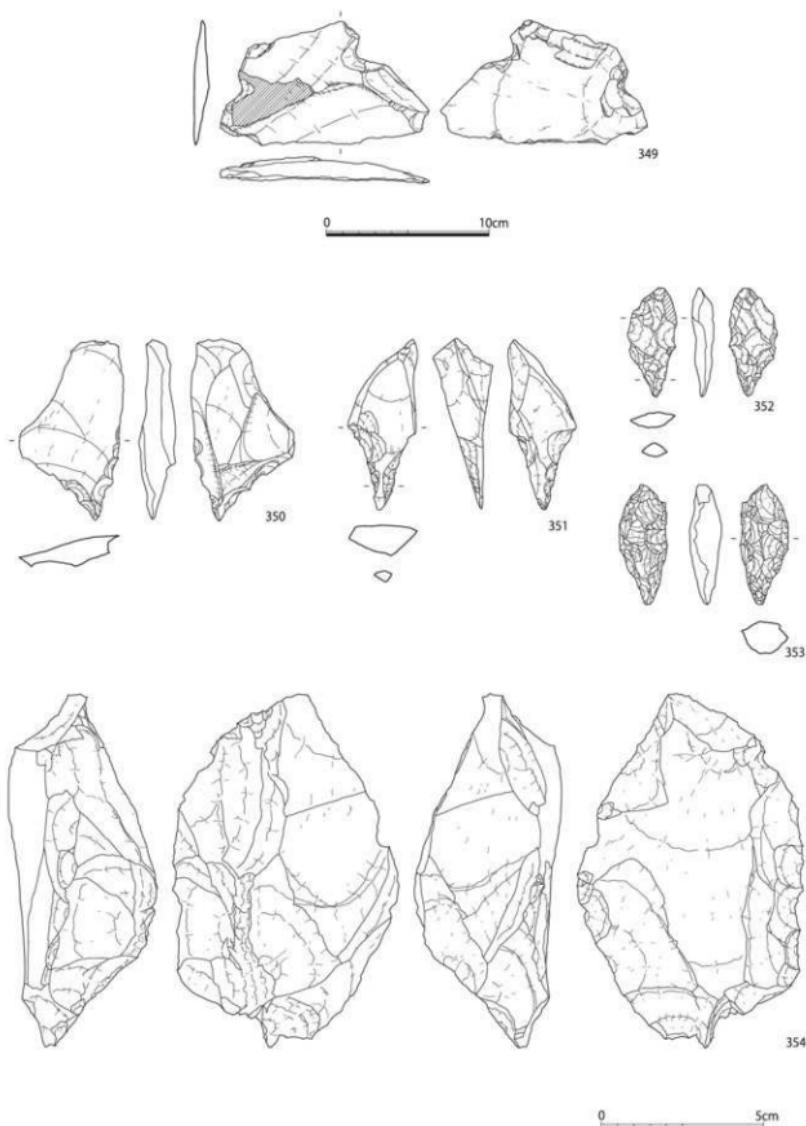
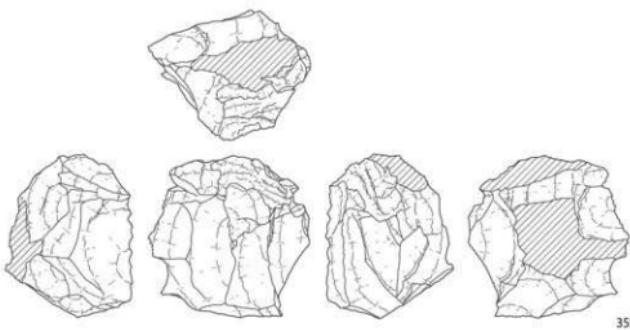
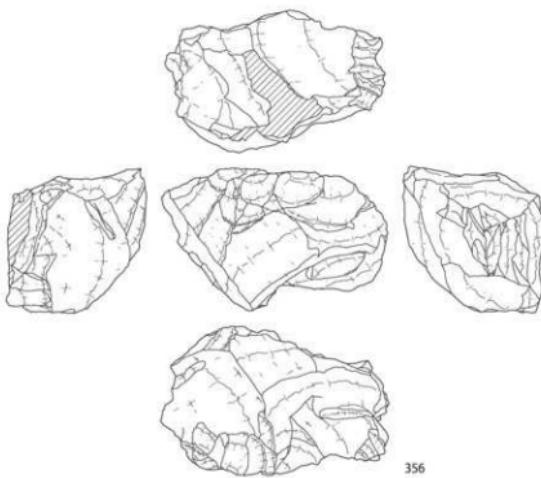


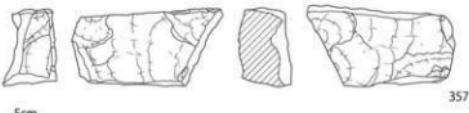
図 99 7区遺構外出土遺物 17 (349: 1/3 その他: 2/3)



355



356



357

0 5cm

図 100 7区遺構外出土遺物 18 (2/3)

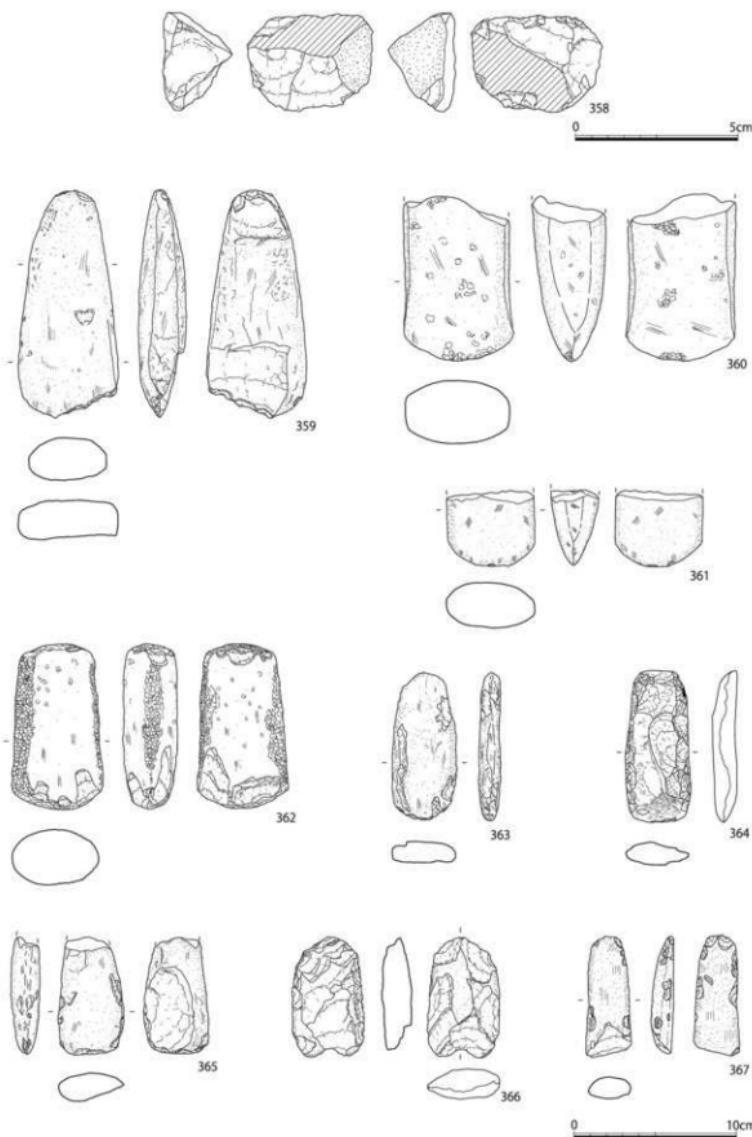


図 101 7区遺跡出土物 19 (358 : 2/3 その他 : 1/3)

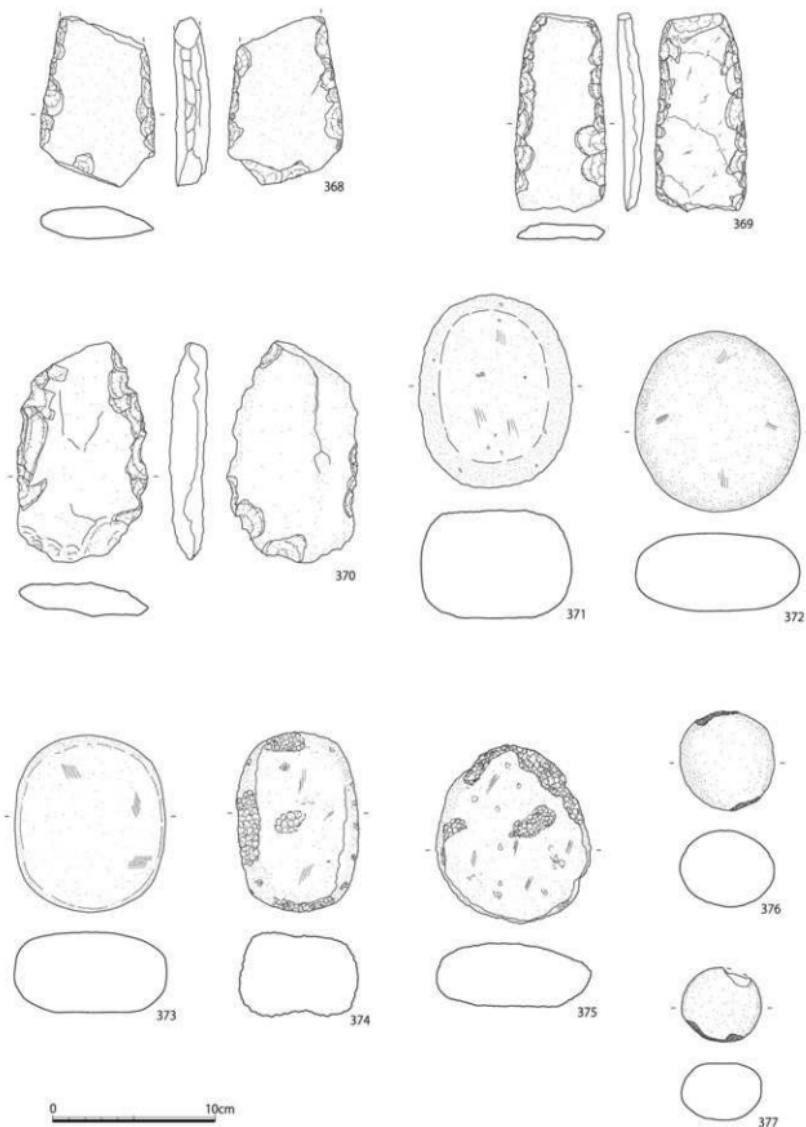


図 102 7区遺構外出土遺物 20 (1/3)

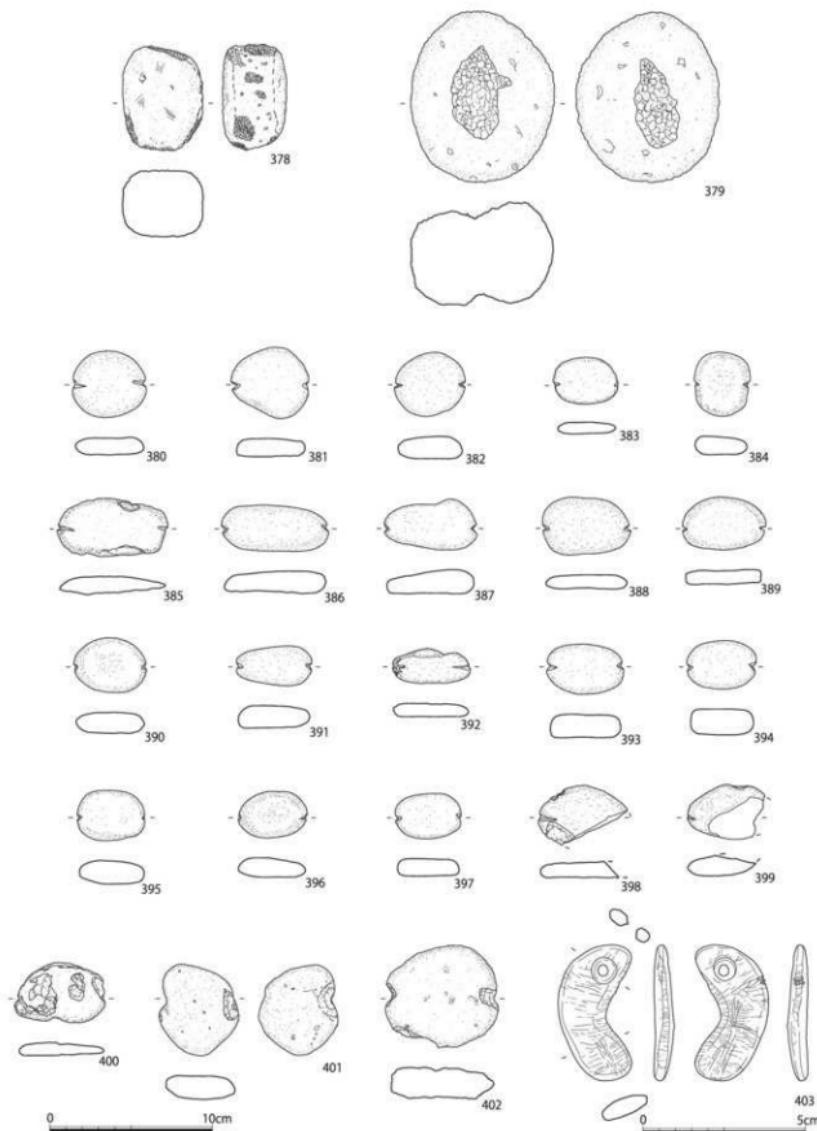


図 103 7区遺構外出土物 21 (403 : 2/3 その他 : 1/3)

表6 7区出土遺物觀察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法cm			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
1	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・芯縁 内:ナードー・芯縁	外:SVR3/3暗褐色 内:10VR4/2灰褐色	-
2	AG09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・芯縁 内:ナードー・鉢突	外:2,SV5/3黃褐色 内:2,SV5/3黃褐色	-
3	AG09 I層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・芯縁 内:ナードー	外:10VR3/1黒褐色 内:7,SV5/4暗褐色	-
4	AG09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・芯縁 内:ナードー	外:SVR3/3暗褐色 内:10VR4/2灰褐色	外面に縱方向へケ目状の条縦
5	AG09 VI層	圓文土器 深鉢	(21.0)	-	-	外:ナードー・縫縫・押引・芯縁 内:ナードー	外:2,SV3/3暗褐色 内:SVR4/3-5灰褐色	-
6	AG09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・芯縫 内:ナードー	外:10VR4/3-5灰褐色 内:10VR5/4C-5灰褐色	-
7	AG09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・芯縫	外:2,SV5/5暗褐色 内:SVR3/4暗褐色	-
8	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・鉢突(斜交弦文) 内:ナードー・鉢突(斜交弦文)	外:SVR4/3-5灰褐色 内:SVR6/6暗褐色	-
9	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・鉢突(斜交弦文) 内:ナードー・鉢突(斜交弦文)	外:2,SV5/1黒褐色 内:10VR3/2黒褐色	-
10	AG09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・鉢突(斜交弦文) 内:ナードー・鉢突(斜交弦文)	外:SVR5/6暗褐色 内:SVR5/6暗褐色	-
11	AG09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・鉢突 内:ナードー・鉢突	外:2,SV5/6暗褐色 内:7,SV6/6暗褐色	-
12	AH10 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・押引 内:ナードー・押引	外:SVR6/6暗褐色 内:SVR6/6暗褐色	-
13	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・押引 内:ナードー・押引	外:SVR6/6暗褐色 内:7,SV6/6暗褐色	-
14	AH10 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・押引 内:貝殻・押引	外:SVR4/3-5灰褐色 内:7,SV6/6暗褐色	-
15	AH10 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・押引 内:ナードー・押引	外:2,SV4/4-5灰褐色 内:SVR4/3-5灰褐色	-
16	AG09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・芯縫・押引 内:ナードー・芯縫	外:SVR4/3-5灰褐色 内:SVR6/6暗褐色	-
17	AG09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・芯縫 内:ナードー	外:2,SV4/2暗褐色 内:2,SV3/2暗褐色	-
18	AH10 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・鉢突 内:ナードー	外:10VR4/3-5灰褐色 内:10VR4/3-5灰褐色	-
19	AG09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・鉢突 内:ナードー	外:10VR2/2暗褐色 内:2,SV3/2暗褐色	-
20	AG09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・鉢突・押引 内:ナードー	外:2,SV3/2暗褐色 内:SVR6/6暗褐色	-
21	AG09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・押引 内:ナードー	外:10VR3/2暗褐色 内:10VR2/2暗褐色	-
22	AG09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・鉢突 内:ナードー	外:10VR5/4-5灰褐色 内:2,SV3/1暗褐色	-
23	AG09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・鉢突・押引 内:貝殻・ナードー・鉢突	外:2,SV5/2暗褐色 内:7,SV6/6暗褐色	41+42上同？
24	AG09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝殻・ナードー・鉢突 内:貝殻・ナードー	外:10VR3/1黒褐色 内:10VR4/4-5灰褐色	-
25	AG09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・押引 内:ナードー	外:2,SV3/1暗褐色 内:10VR6/6暗褐色	-
26	AH10 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・鉢突 内:ナードー	外:SVR6/6暗褐色 内:7,SV7/7暗褐色	-
27	AH10 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・芯縫・押引 内:ナードー	外:2,SV6/4-5灰褐色 内:2,SV7/7暗褐色	-
28	AH10 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・鉢突 内:ナードー	外:SV3/3オリエナリテ 内:10VR6/4-5灰褐色	-
29	AH10 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・押引 内:ナードー	外:2,SV4/2ナードー 内:10VR5/3-5灰褐色	-
30	AG09 VI層	圓文土器 深鉢	(18.3)	-	-	外:ナードー・縫縫・貝刺突 内:ナードー・押引	外:SVR3/2暗褐色 内:SVR4/4-5灰褐色	-
31	AH10 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・貝刺突 内:ナードー・芯縫	外:2,SV3/2暗褐色 内:7,SV4/4-5灰褐色	-
32	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・縫縫・貝刺突 内:ナードー・押引	外:10VR3/2暗褐色 内:10VR6/4-5灰褐色	-
33	AH09	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・縫縫 内:ナードー・鉢突	外:10VR2/1暗褐色 内:10VR3/1暗褐色	-
34	AG09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・縫縫・鉢突 内:ナードー	外:2,SV2/3暗褐色 内:SVR4/4-5灰褐色	-
35	AG09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・縫縫・鉢突 内:ナードー	外:2,SV5/2暗褐色 内:2,SV6/6暗褐色	-
36	AG09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・縫縫・鉢突 内:ナードー	外:10VR2/2黒褐色 内:2,SV5/3暗褐色	-
37	AH10 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー・縫縫・押引 内:ナードー	外:2,SV5/6暗褐色 内:2,SV6/6暗褐色	-

表 6 7 区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法(cm)			調整	色調	備考
			口径	底径	高さ			
38	AG09 I 層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→隆線→押引 内:ナード	外:3VRC/2暗赤褐色 内:3VRC/0赤褐色	-
39	AG09 I 層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→隆線→押引 内:ナード	外:2.5V2/1黒 内:2.5V3/0黒褐色	14C年代測定資料No.14 200929
40	AG09 VI 層	調文土器 深鉢	(24.0)	-	-	外:ナード→押引→具柄突 内:1.5条板→ナード	外:10VR3/2黒褐色 内:10VR4/2灰褐色	-
41	AG09 VI 層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→隆線→具柄突 内:ナード	外:3VRC/4に5v 黄褐色 内:3VRC/6灰褐色	42と同一個体、23と同?。
42	AG09 VI 層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→隆線→調文 内:ナード	外:2.5VR3/3暗褐色 内:2.5VR3/2黒褐色	41と同一個体、23と同?。
43	AH09 VI 層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→刻目隆線→押引 内:ナード	外:2.5V3/1黒褐色 内:10VR4/4に5v 黄褐色	-
44	AG09 VI 層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→隆線 内:ナード	外:10VR3/2黒褐色 内:2.5VR3/6明褐色	-
45	AG09 VI 層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→隆線 内:ナード	外:10VR3/4に5v 黄褐色 内:10VR4/6明黄色	-
46	AH09 VI 層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:1.5条板→周目隆線 内:1.5条板	外:2.5VR2/1黒 内:2.5VR4/1褐色	-
47	AH09 VI 層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→隆線 内:ナード	外:3VRC/4に5v 赤褐色 内:10VR4/3に5v 黄褐色	小片のみ頗る不規則
48	SE03-2	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→隆線 内:ナード	外:2.5VR3/1黒褐色 内:10VR3/3に5v 黄褐色	-
49	AH09 VI 层	調文土器 深鉢	(35.0)	-	-	外:ナード→沈線→具柄突 内:1.5条板→ナード	外:2.5V4/3オーバー褐色 内:2.5VR3/3黒褐色	14C年代測定資料No.1 200901
50	AH09 VI 层	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線→具柄突 内:ナード	外:10VR2/1黒 内:2.5VR3/6暗褐色	-
51	AH09 VI 层	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→隆線→具柄突 内:ナード	外:2.5VR2/2黒褐色 内:2.5VR4/1褐色	-
52	AH09 I 层	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→刻目隆筋 内:ナード	外:3VRC/4に5v 黄褐色 内:3VRC/0赤褐色	-
53	AH09 VI 层	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード	外:2.5VR3/1黒褐色 内:2.5VR3/4に5v 黑	-
54	AH09 VI 层	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→回線→具柄突 内:ナード	外:3VRC/6暗褐色 内:2.5VR3/8暗褐色	-
55	AH09 VI 层	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→回線 内:ナード	外:2.5VR3/3浅黃褐色 内:10VR3/1浅黃褐色	-
56	AG09 VI 层	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→回線→点凹 内:ナード	外:10VR3/3に5v 黄褐色 内:10VR4/2暗黃褐色	-
57	AH09 VI 层	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→回線 内:ナード	外:10VR3/1黒褐色 内:2.5VR4/1褐色	-
58	AH09 VI 层	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→刻目隆筋→刻突 内:ナード	外:10VR4/4に5v 黄褐色 内:10VR4/4に5v 黄褐色	-
59	AH09 VI 层	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→点凹・回線 内:1.5条板→ナード	外:10VR7/3に5v 黄褐色 内:2.5VR3/4灰黃褐色	-
60	AH09 VI 层	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→点凹・回線 内:ナード	外:2.5VR3/3に5v 黑 内:2.5VR7/6暗褐色	-
61	AH09 VI 层	調文土器 深鉢	(36.0)	-	-	外:ナード→回線→具柄突 内:ナード	外:3VRC/6暗褐色 内:3VRC/6暗褐色	-
62	AH09 VI 层	調文土器 深鉢	(15.0)	-	-	外:ナード→沈線→具柄突 内:1.5条板→ナード	外:2.5VR3/2黒褐色 内:2.5VR4/4に5v 黄褐色	-
63	AH09 VI 层	調文土器 深鉢	(20.0)	-	-	外:ナード→回線→具柄突 内:1.5条板→ナード	外:2.5VR3/2黒褐色 内:2.5VR4/4に5v 黄褐色	-
64	AH09 VI 层	調文土器 深鉢	(22.0)	-	-	外:ナード→回線→具柄突 内:ナード	外:2.5VR7/4黄 内:2.5VR3/3に5v 黄褐色	-
65	AH09 VI 层	調文土器 深鉢	(21.0)	-	-	外:ナード→回線→具柄突 内:ナード	外:10VR3/1黒褐色 内:10VR4/1褐色	-
66	AH09 I 层・VI 层	調文土器 深鉢	22.7	-	-	外:1.5条板→沈線→具柄突 内:ナード	外:2.5VR3/4に5v 黑 内:10VR3/2灰褐色	-
67	AH09 VI 层	調文土器 深鉢	(25.0)	-	-	外:ナード→沈線→具柄突 内:1.5条板→ナード	外:10VR3/1黒褐色 内:10VR4/4に5v 黄褐色	-
68	AH09 VI 层	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→回線→具柄突 内:ナード	外:2.5VR3/6暗褐色 内:2.5VR3/6暗褐色	-
69	AH09 VI 层	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→回線→具柄突 内:ナード	外:10VR3/6明黄色 内:3VRC/6暗褐色	-
70	AH09 VI 层	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→回線→具柄突 内:1.5条板	外:2.5VR3/2暗褐色 内:2.5VR3/2灰褐色	-
71	AH09 VI 层・I 层	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線→具柄突 内:1.5条板→ナード	外:2.5VR3/2灰褐色 内:2.5VR3/2灰褐色	-
72	AH09 VI 层	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→回線→具柄突 内:1.5条板→ナード	外:10VR4/3に5v 黄褐色 内:2.5VR3/2灰褐色	-
73	AH09 VI 层	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→具柄突 内:ナード	外:10VR4/4に5v 黄褐色 内:2.5VR3/2灰褐色	-
74	AH09 VI 层	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→具柄突 内:1.5条板→ナード	外:10VR4/4に5v 黄褐色 内:10VR4/4に5v 黄褐色	-

表6 7区出土遺物観察表(土器)

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法cm			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
75	AG09 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ→沈縁→貝刺突 内:ナガ	外:SYR5/6明赤褐色 内:SYR5/6赤褐色	-
76	AH10 VI層	調文土器 深鉢	(24.0)	-	-	外:ナガ→沈縁→貝刺突 内:ナガ	外:7.5V6/3黒褐色 内:7.5V6/3に5W1相	-
77	AH10 I層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ→凹縁→斜突 内:ナガ	外:7.5V6/3黒褐色 内:SYR5/4に5W1相	-
78	AH09 I層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ→沈縁→貝刺突 内:ナガ	外:SYR2/2黒褐色 内:SYR5/4に5W1相	-
79	AH10 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ→沈縁→斜突 内:ナガ	外:7.5V6/3黒褐色 内:10V6/4に5W1相	-
80	AH10 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ→沈縁→貝刺突 内:ナガ	外:7.5V6/3黒褐色 内:7.5V6/3に5W1相	-
81	AH09 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝刺突→沈縁→貝刺突 内:ナガ	外:7.5V6/3黒褐色 内:10V6/3に5W1相	-
82	AH10 VI層	調文土器 深鉢	(28.0)	-	-	外:貝刺突→ナガ→沈縁→貝刺突 内:ナガ	外:10V6/3に5W1相 内:7.5V6/3に5W1相	-
83	AH09 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ→凹縁→凹点 内:ナガ	外:10V6/2灰黒褐色 内:10V6/2灰黒褐色	-
84	AH10 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ→沈縁→貝刺突 内:貝刺突	外:10V6/1黒 内:2.5V6/2灰黒褐色	-
85	AH09 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝刺突→沈縁→貝刺突 内:貝刺突	外:10V6/3に5W1相 内:10V6/3に5W1相	-
86	AH10 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝刺突→ナガ→沈縁→貝刺突 内:ナガ	外:7.5V6/3黒褐色 内:7.5V6/3黒褐色	-
87	AH09 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ→沈縁→貝刺突 内:ナガ	外:10V6/4に5W1相 内:7.5V6/4に5W1相	-
88	AH09 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ→沈縁→貝刺突 内:ナガ	外:10V6/3に5W1相 内:10V6/3に5W1相	-
89	AH09 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ→凹縁→貝刺突 内:ナガ	外:7.5V6/4に5W1相 内:10V6/3に5W1相	-
90	AH09 VI層	調文土器 深鉢	25.6	-	-	外:ナガ→貝刺突 内:貝刺突	外:SYR6/6黒 内:SYR6/6黒	-
91	AH10 VI層	調文土器 深鉢	(27.1)	-	-	外:ナガ→沈縁 内:ナガ	外:2.5V6/4灰黒褐色 内:2.5V6/4に5W1相	-
92	AH09-AH10 VI層	調文土器 深鉢	(23.1)	-	-	外:ナガ→沈縁 内:ナガ	外:10V6/4に5W1相 内:10V6/4に5W1相	-
93	AH10 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ→沈縁 内:ナガ	外:2.5V6/2灰黒褐色 内:7.5V6/5に5W1相	-
94	AG09 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ→凹縁 内:ナガ	外:2.5V6/2灰黒褐色 内:10V6/4に5W1相	-
95	AH10 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ→凹縁 内:ナガ	外:2.5V6/1灰黒褐色 内:2.5V6/1灰黒褐色	-
96	AH09 VI層	調文土器 深鉢	(16.6)	-	-	外:ナガ→凹縁 内:ナガ	外:7.5V6/2黒褐色 内:10V6/1貝刺突	-
97	AH09 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ→凹縁 内:貝刺突	外:SYR5/4に5W1相 内:7.5V6/4に5W1相	-
98	AH09 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ→凹縁 内:貝刺突	外:2.5V7/4灰黒褐色 内:2.5V7/4灰黒褐色	-
99	AH09 VI層	調文土器 深鉢	(26.5)	-	-	外:ナガ→凹縁 内:貝刺突	外:7.5V6/3に5W1相 内:10V6/3に5W1相	-
100	AH09 I層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ→凹縁 内:ナガ	外:7.5V6/3黒褐色 内:7.5V6/3黒褐色	-
101	AH09 VI層	調文土器 深鉢	(27.0)	-	-	外:ナガ→凹縁 内:ナガ	外:7.5V6/5に5W1相 内:7.5V6/5に5W1相	-
102	AH10 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ→凹縁→點付→斜突 内:ナガ	外:10V6/4に5W1相 内:10V6/2灰黒褐色	-
103	AH09 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ→沈縁 内:ナガ	外:7.5V6/3に5W1相 内:7.5V6/3黒褐色	-
104	AG09 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ→沈縁→鋸割 内:貝刺突	外:10V6/3暗黒褐色 内:7.5V6/4暗黒褐色	幾何学模の鋸割
105	AG09 VI層	調文土器 深鉢	(40.2)	-	-	外:ナガ→凹縁→貝刺突 内:ナガ	外:SYR4/1灰黒褐色 内:SYR6/6黒	-
106	AH09 VI層	調文土器 深鉢	(24.2)	-	-	外:ナガ→凹縁 内:ナガ	外:10V6/1貝刺突 内:10V6/4に5W1相	-
107	AH09 VI層	調文土器 深鉢	(32.0)	-	-	外:ナガ→凹縁→貝刺突 内:ナガ	外:7.5V6/3に5W1相 内:10V6/4に5W1相	-
108	AH09 VI層 AG09 VI層	調文土器 深鉢	(27.5)	-	-	外:ナガ→凹縁 内:貝刺突	外:7.5V6/3に5W1相 内:7.5V6/3に5W1相	-
109	AG09 VI層	調文土器 深鉢	(24.6)	-	-	外:ナガ→凹縁→貝刺突 内:ナガ	外:10V6/4に5W1相 内:10V6/4に5W1相	-
110	AH10 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ→凹縁→貝刺突 内:ナガ	外:SYR6/3暗黒褐色 内:SYR6/3明赤褐色	突起両面に斜突有
111	AG09	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ→凹縁→斜突 内:ナガ	外:7.5V6/4赤褐色 内:7.5V6/4赤褐色	-

表 6 7 区出土遺物觀察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法(cm)			調整	色調	備考
			口径	底径	高さ			
112	AG69 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード	外:10VR4/1黒褐色 内:7,5VR4/1褐	-
113	AG69 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード	外:7,5VR4/1褐 内:7,5VR4/1褐	-
114	AH69 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹線 内:ナード	外:7,5VR4/1黒褐色 内:10VR3/2黒褐色	-
115	AH69 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:カギレ→凹線 内:ナード	外:2,5VR4/1黒褐色 内:2,5VR3/3黒褐色	-
116	AG69 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹線・斜底 内:ナード	外:7,5VR4/1褐 内:7,5VR4/1にじ・褐	-
117	AH69 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹線・直斜面 内:白系灰	外:7,5VR4/1褐 内:10VR4/2灰黒褐色	-
118	AH69 VI層	調文土器 深鉢	(25.0)	-	-	外:ナード→凹線・直斜面 内:白系灰	外:10VR4/1にじ・黄褐色 内:7,5VR4/1にじ・褐	-
119	AG10 VI層	調文土器 深鉢	139.5	-	-	外:ナード→凹線 内:ナード	外:7,5VR4/1褐 内:7,5VR4/1にじ・褐	口沿部一部アーチ
120	AH69 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹線 内:ナード	外:7,5VR4/1にじ・褐 内:10VR4/1にじ・黄褐色	-
121	AH69 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹線 内:ナード	外:10VR4/1にじ・黄褐色 内:10VR4/1にじ・黄褐色	-
122	AG69 I 層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹線 内:ナード	外:2,5VR4/1黒褐色 内:2,5VR4/1にじ・黄	-
123	AG69 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹線 内:ナード	外:7,5VR4/6黒褐色 内:7,5VR4/4にじ・褐	-
124	AH69 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹線・斜底 内:ナード	外:7,5VR4/3褐 内:7,5VR4/4にじ・褐	-
125	AG69 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹点・凹線 内:ナード	外:2,5VR4/2灰黒 内:10VR4/3にじ・黄褐色	-
126	AH69 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹線・斜面 内:ナード	外:2,5VR4/3黒褐色 内:3VR4/4にじ・赤褐色	漂石混入
127	AH69 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹線・凹点 内:ナード	外:3VR5/6黒赤褐色 内:3VR5/6黒赤褐色	-
128	AH69 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹点 内:ナード	外:7,5VR4/2黒褐色 内:7,5VR4/3褐	-
129	AH69 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹線・凹点 内:ナード	外:3VR5/14黒赤褐色 内:2,5VR5/6黒赤褐色	-
130	AH69 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→點付・斜底 内:ナード	外:10VR4/1にじ・黄褐色 内:10VR3/2にじ・黄褐色	-
131	AH69 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹点 内:ナード	外:10VR4/1にじ・黄褐色 内:7,5VR3/3褐	横状把手
132	AG69 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹線 内:ナード	外:7,5VR4/4にじ・褐 内:7,5VR4/4にじ・褐	-
133	AH69 VI層	調文土器 深鉢	32.6	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード	外:10VR4/6黒褐色 内:7,5VR4/6褐	横状把手
134	AH69 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹線 内:ナード	外:7,5VR4/4にじ・褐 内:7,5VR4/4にじ・褐	横状把手
135	AH69 I 層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹線 内:白系灰	外:2,5VR4/6黒褐色 内:7,5VR4/6黒褐色	-
136	AH69 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード	外:7,5VR4/1褐 内:3VR4/1にじ・赤褐色	-
137	SE03-1	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹点 内:ナード	外:2,5VR4/1褐 内:3VR4/1にじ・赤褐色	-
138	AH69 VI層	調文土器 深鉢	(29.0)	-	-	外:ナード→凹線 内:ナード	外:2,5VR4/3黒褐色 内:2,5VR4/4褐	-
139	AG69-AH69 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹線・凹点 内:ナード	外:2,5VR4/3褐 内:10VR4/3にじ・黄褐色	-
140	AG69 I 層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹線 内:ナード	外:3VR5/6黒赤褐色 内:7,5VR4/6褐	-
141	AG69 I 層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード	外:10VR3/2黒褐色 内:5VR3/2黒褐色	-
142	AH69 I 層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード	外:3VR2/2黒赤褐色 内:5VR4/4にじ・赤褐色	焼成後穿孔有
143	AH69 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード	外:3VR5/6黒赤褐色 内:2,5VR3/6黒褐色	-
144	AH69 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード	外:10VR4/3にじ・黄褐色 内:7,5VR4/2黒褐色	-
145	AH69 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:カギレ	外:3VR3/2黒赤褐色 内:3VR6/6褐	-
146	AH69 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード	外:2,5VR4/2黒褐色 内:7,5VR4/2黒褐色	-
147	AG69 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード	外:10VR4/2灰黒褐色 内:10VR4/1黒褐色	-
148	AG69 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード	外:10VR4/3にじ・黄褐色 内:10VR4/1黒褐色	-

表6 7区出土遺物観察表(土器)

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法cm			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
149	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー→沈縁 内:ナゲ	外:2.5VRS/6明赤褐色 内:2.5VRS/6明赤褐色	-
150	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー→沈縁・茎付 内:ナゲ	外:2.5VRS/6明赤褐色 内:5VRS/6赤褐色	-
151	AH10 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー→凹縁 内:ナゲ	外:10VR2/2黒褐色 内:10VR2/3暗褐色	-
152	AG09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー→圓文→沈縁 内:ナゲー→ガキ	外:10VR1/3/2/5/4/5、黃褐色 内:10VR1/1黑褐色	-
153	AH10 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー→沈縁→側突 内:ナゲ	外:2.5VRS/3/暗褐色 内:7.5VRS/4/暗褐色	-
154	AH10 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー→沈縁 内:ナゲ	外:10VR2/2黒褐色 内:2.5VRS/2暗灰黃	-
155	AH10 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー→沈縁→側突 内:ナゲ	外:5VRS/2/5/4/5、赤褐色 内:7.5VRS/2黒褐色	-
156	AG09 T	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー→沈縁→側突 内:ナゲ	外:3VR3/2暗赤褐色 内:10VR2/2黒褐色	-
157	AH09 I層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー→沈縁→側突 内:ナゲ	外:3VRS/4/2/5/4/5、赤褐色 内:5VRS/4/2/5/4/5、赤褐色	-
158	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー→沈縁→側突 内:ナゲ	外:2.5VRS/6明赤褐色 内:2.5VRS/6明赤褐色	-
159	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー→沈縁→側突 内:ナゲ	外:10VR2/1黒褐色 内:10VR2/1黒褐色	-
160	AG09 T	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー→側突 内:ナゲ	外:5VRS/6暗赤褐色 内:7.5VRS/4/暗褐色	-
161	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー→沈縁 内:ナゲ	外:10VR2/1黒褐色 内:5VRS/6暗赤褐色	-
162	AH10 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー→擬圓文・北縁 内:ナゲ	外:2.5VRS/4/5/4/5、黃褐色 内:2.5VRS/4/5/4/5、黃褐色	-
163	AH10 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:北縁・圓文・ナゲ	外:10VR6/4/2/5/4/5、黃褐色 内:7.5VRS/4/2/5/4/5	-
164	AH10 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:圓文・沈縁→ガキ 内:ガキ	外:2.5VRS/4/2/5/4/5、黃褐色 内:2.5VRS/4/2/5/4/5、赤褐色	-
165	AH10 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー→沈縁→圓文 内:ナゲ	外:2.5VRS/4/2/5/4/5、黃褐色 内:5VRS/6暗赤褐色	-
166	AG09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:圓文・沈縁→ガキ 内:ナゲ	外:2.5VRS/3/2/5/4/5、黃褐色 内:2.5VRS/3/2/5/4/5	-
167	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:沈縁→圓文→ガキ 内:ガキ	外:10VR5/3/2/5/4/5、黃褐色 内:5VRS/4/オーバーパテ	-
168	AH09 I層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー→沈縁→圓文 内:ナゲ	外:2.5VRS/6暗赤褐色 内:5VRS/6暗赤褐色	-
169	AH10 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:圓文・沈縁→ガキ 内:ガキ	外:10VR5/4/2/5/4/5、黃褐色 内:10VR5/2黒褐色	-
170	AH10 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:圓文・沈縁・ミガキ 内:ガキ	外:5VRS/2/5/4/5、赤褐色 内:5VRS/6暗赤褐色	-
171	AH10 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:卷線・擬圓文・沈縁→ナゲ	外:10VR2/1黒褐色 内:2.5VRS/3暗褐色	-
172	AH10 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:圓文・沈縁→ガキ 内:ナゲ	外:2.5VRS/2暗灰黃 内:7.5VRS/6暗褐色	-
173	AH10 I層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:北縁・圓文・ミガキ 内:ガキ	外:10VR5/4/2/5/4/5、黃褐色 内:10VR5/2暗灰黃	赤色顔料塗布
174	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:擬圓文・沈縁→ミガキ 内:ガキ	外:10VR2/1黒褐色 内:10VR5/3/2/5/4/5、黃褐色	-
175	AH09 I層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー→圓文→沈縁 内:ナゲ	外:2.5VRS/4/2/5/4/5、黃褐色 内:2.5VRS/4/2/5/4/5、暗褐色	-
176	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:沈縁・圓文→ガキ 内:ナゲ	外:10VR2/2黒褐色 内:10VR5/3/2/5/4/5、黃褐色	-
177	AH10 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:圓文・沈縁→ガキ 内:ガキ	外:5VRS/4/2/5/4/5、黃褐色 内:7.5VRS/5/8/9多色	-
178	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:圓文・沈縁→ガキ 内:ガキ	外:10VR2/2黒褐色 内:10VR5/2黒褐色	赤色顔料塗布
179	AH10 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:圓文・沈縁 内:ガキ	外:2.5VRS/4/2/5/4/5、黃褐色 内:2.5VRS/6暗褐色	-
180	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:擬圓文・沈縁→ガキ 内:ガキ	外:2.5VRS/2黒褐色 内:7.5VRS/4/暗褐色	-
181	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー→沈縁→圓文 内:ナゲ	外:2.5VRS/6明赤褐色 内:5VRS/4/2/5/4/5、赤褐色	-
182	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ミガキ→沈縁→圓文 内:ナゲ	外:2.5VRS/6暗褐色 内:7.5VRS/4/暗褐色	-
183	AH10 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー→沈縁→圓文 内:ナゲ	外:2.5VRS/4/2/5/4/5、黃褐色 内:2.5VRS/4/2/5/4/5、黃褐色	-
184	AG09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:圓文・沈縁→ガキ 内:ガキ	外:2.5VRS/4/2/5/4/5、黃褐色 内:7.5VRS/4/暗褐色	-
185	AH10 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:沈縁・圓文・ナゲ 内:ナゲ	外:2.5VRS/4/2/5/4/5、黃褐色 内:10VR6/4/2/5/4/5	-

表 6 7 区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法(cm)			調整	色調	備考
			口径	底径	高さ			
186	AH09 I 番	調文土器 深鉢	-	-	-	外:沈縁→調文→ナガキ 内:ナガキ	外:2.5VR1/4に5.5赤褐色 内:2.5VR1/6赤褐色	赤色顔料塗布
187	AH09 I 番	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガキ→沈縁・調文 内:ナガキ	外:3VR1/4に5.5赤褐色 内:3VR1/5赤褐色	赤色顔料塗布、墨田E式
188	AH10 I 番	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガキ→沈縁→刻突 内:ナガキ	外:2.5VR2/2黒褐色 内:2.5VR2/6明褐色	-
189	AH10 VI 番	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガキ→調縁 内:ナガキ	外:2.5VR2/2黒褐色 内:2.5VR2/4に5.5暗褐色	-
190	AH10 VI 番	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガキ→沈縁 内:ナガキ	外:2.5VR2/1黒褐色 内:2.5VR2/2灰黃	-
191	AH09 VI 番	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガキ→沈縁→貝刺突 内:ナガキ	外:3VR4/2灰褐色 内:3VR4/6暗褐色	-
192	AG09	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガキ→調縁 内:ナガキ	外:2.5VR2/2黒褐色 内:2.5VR2/3暗褐色	-
193	AH09 VI 番	調文土器 深鉢	(19.0)	-	-	外:ナガキ→沈縁 内:ナガキ	外:3VR5/6赤褐色 内:3VR5/6赤褐色	-
194	AG09	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガキ→沈縁 内:ナガキ→沈縁	外:3VR2/2黒褐色 内:3VR4/3に5.5黄褐色	-
195	AH09 VI 番	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガキ→沈縁 内:ナガキ	外:3VR5/6赤褐色 内:3VR5/6暗褐色	-
196	AG09 VI 番	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガキ→ナガキ→沈縁 内:ナガキ	外:3VR4/2黒褐色 内:3VR4/6赤褐色	-
197	AH10 VI 番	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガキ→沈縁 内:ナガキ	外:2.5VR2/4に5.5黄褐色 内:2.5VR2/4灰黃	-
198	AH09 VI 番	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガキ→沈縁・刻突 内:ナガキ	外:2.5VR3/3黒褐色 内:2.5VR4/4に5.5赤褐色	-
199	AH09 VI 番	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガキ→沈縁 内:ナガキ	外:2.5VR2/8黄褐色	-
200	AG09	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガキ→沈縁→貝刺突 内:ナガキ	外:3VR3/2暗赤褐色 内:2.5VR4/4に5.5赤褐色	-
201	AH09	調文土器 深鉢	(12.0)	-	-	外:ナガキ→沈縁 内:ナガキ	外:2.5VR2/2黒褐色 内:2.5VR3/2黒褐色	-
202	-	調文土器 深鉢	(15.0)	-	-	外:ナガキ→沈縁→貝刺突 内:ナガキ	外:2.5VR3/4に5.5暗褐色 内:2.5VR4/1灰褐色	14C年代測定資料No.5 200905
203	AH10 VI 番	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガキ→沈縁 内:ナガキ	外:2.5VR3/4に5.5暗褐色 内:2.5VR4/1に5.5暗褐色	-
204	AH10 VI 番	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガキ→沈縁→貝刺突 内:ナガキ	外:2.5VR3/6明褐色 内:3VR6/6暗褐色	口唇部に沈縁・貝刺突
205	AG09 VI 番	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガキ→沈縁→貝刺突 内:ナガキ	外:2.5VR3/6明褐色 内:2.5VR6/6暗褐色	-
206	AH09 VI 番	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガキ→沈縁→貝刺突 内:ナガキ	外:3VR4/2灰褐色 内:3VR4/4暗褐色	-
207	AH10 VI 番	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガキ→點付 内:ナガキ	外:2.5VR3/6明褐色 内:2.5VR6/6明褐色	-
208	AH10 VI 番	調文土器 深鉢	(37.0)	-	-	外:ナガキ→沈縁→調文 内:ナガキ	外:3VR5/6赤褐色 内:10VR6/6明褐色	-
209	AH09 VI 番	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガキ→貝刺突 内:ナガキ	外:2.5VR3/7/1黒 内:2.5VR6/6暗褐色	-
210	AG09 I 番	調文土器 深鉢	(10.0)	-	-	外:ナガキ→點付→沈縁→刻突 内:ナガキ	外:3VR5/6赤褐色 内:2.5VR6/6明褐色	-
211	AH10 VI 番	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガキ→沈縁・刻突 内:ナガキ	外:2.5VR2/1黒 内:3VR5/6赤褐色	-
212	AH09 VI 番	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガキ→沈縁・刻突 内:ナガキ	外:2.5VR3/2黒褐色 内:10VR6/4に5.5黄褐色	-
213	AH09 VI 番	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガキ→點付→貝刺突 内:ナガキ	外:3VR6/6暗褐色 内:3VR5/6赤褐色	-
214	AH09・AG09 VI 番	調文土器 深鉢	(28.0)	-	-	外:ナガキ→點付→貝刺突 内:ナガキ	外:2.5VR3/4に5.5暗褐色 内:10VR4/2灰褐色	-
215	AH09 VI 番	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガキ→貝刺突・沈縁 内:ナガキ	外:2.5VR3/3暗褐色 内:2.5VR4/1	様状把多欠損
216	AH10 VI 番	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガキ→貝刺突 内:ナガキ	外:2.5VR4/1暗褐色 内:10VR4/3に5.5黄褐色	-
217	AH09 VI 番	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガキ→沈縁 内:ナガキ	外:3VR4/2.5赤褐色 内:10VR3/1黒褐色	-
218	AG09	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガキ→沈縁 内:ナガキ	外:2.5VR3/6明褐色 内:3VR3/3暗褐色	-
219	AG09 VI 番	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガキ→沈縁 内:ナガキ	外:3VR4/2に5.5赤褐色 内:3VR4/2に5.5赤褐色	-
220	AG09	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガキ→沈縁・刻突 内:ナガキ	外:10VR7/4に5.5黄褐色 内:10VR4/2灰褐色	-
221	AG09 VI 番	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガキ→沈縁 内:ナガキ	外:10VR7/3に5.5黄褐色 内:10VR7/4に5.5暗褐色	-
222	SE03-2	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガキ→沈縁・刻突 内:ナガキ	外:3VR6/6暗褐色 内:3VR6/6	-

表6 7区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法cm			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
223	SFB3-2	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~沈線 内:ナガ	外:10VR3/1黒褐 内:10VR3/3にら~黄褐	-
224	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ミガキ~沈線~圓文 内:ミガキ	外:10VR4/2灰黄褐 内:10VR4/3にら~黄褐	赤色顔料塗布
225	AH10 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~縦帯~回線 内:ナガ	外:7.5VR3/1黒褐 内:5VR3/4にら~赤褐	-
226	AG09	圓文土器 深鉢	(13.8)	-	-	外:ナガ~沈線 内:ナガ	外:2.5VR2/1黒 内:2.5VR3/1黒褐	-
227	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~回線~斜突 内:貝条瓶~ナガ	外:5VR5/4C.5S.赤褐 内:5VR5/4C.5S.赤褐	-
228	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	(29.8)	-	-	外:ナガ~貝斜突 内:ナガ	外:7.5VR5/4C.5S.褐 内:7.5VR5/4C.5S.褐	-
229	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	16.9	6.4	-	外:ナガ~貝斜突 内:貝条瓶~貝斜突	外:2.5VR7/3浅黄 内:5VR7/3褐	-
230	AG09	圓文土器 深鉢	(21.8)	-	-	外:ナガ~斜突 内:ナガ	外:3VR3/4黒褐 内:5VR4/4C.5S.赤褐	-
231	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	(16.6)	-	-	外:ナガ~丸縫 内:ナガ	外:10VR5/4C.5S.赤褐 内:2.5VR6/6黒褐	内面保付着
232	AH10 VI層	圓文土器 深鉢	(12.1)	-	-	外:貝条瓶~ナガ~沈線 内:ナガ	外:7.5VR4/1黒褐 内:10VR4/3にら~黄褐	-
233	AG09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条瓶~ナガ~沈線 内:ナガ	外:7.5VR4/1黒褐 内:10VR3/3暗褐	-
234	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	(22.6)	-	-	外:貝条瓶~ナガ~沈線~斜突 内:貝条瓶~ナガ	外:10VR7/4C.5S.黄褐 内:7.5VR7/8褐	-
235	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	(36.1)	-	-	外:ナガ~沈線~貝斜突 内:貝条瓶~ナガ	外:7.5VR4/1褐色 内:5VR7/8褐	-
236	AG09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条瓶~凹縫~貝斜突 内:貝条瓶~ナガ	外:5VR5/4C.5S.赤褐 内:7.5VR5/6赤褐	-
237	AG09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~回線~貝斜突 内:ナガ	外:5VR5/6赤褐 内:5VR5/6赤褐	-
238	AG09	圓文土器 深鉢	(25.6)	-	-	外:貝条瓶~凹縫~貝斜突 内:ナガ	外:10VR2/1黒 内:2.5VR3/3黒褐	14C年代測定資料No.6 200906
239	AG09	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条瓶~ナガ~凹縫~貝斜突 内:貝条瓶~ナガ	外:7.5VR2/2黒褐 内:7.5VR2/2黒褐	-
240	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	(13.8)	-	-	外:ナガ~貝斜突~貝斜突 内:ナガ	外:10VR6/4C.5S.黄褐 内:7.5VR6/4浅黄褐	-
241	AH09 I層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~丸縫~斜突 内:ナガ	外:3VR6/6褐 内:5VR4/6褐	-
242	AH10 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~丸縫~斜突 内:ナガ	外:7.5VR5/8黒褐 内:10VR2/2黒褐	-
243	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条瓶~ナガ~沈線~斜突 内:貝条瓶~ナガ	外:10VR4/2灰黄褐 内:7.5VR5/4C.5S.褐	-
244	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~回線~貝斜突 内:ナガ	外:10VR4/2灰黄褐 内:10VR5/4C.5S.黄褐	-
245	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~回線~貝斜突 内:ナガ	外:7.5VR6/4C.5S.褐 内:7.5VR6/6褐	-
246	AH10	圓文土器 深鉢	(18.4)	-	-	外:ナガ~貝斜突 内:貝条瓶~ナガ	外:5VR5/6赤褐 内:7.5VR4/6褐	-
247	SC03	圓文土器 深鉢	(21.6)	-	-	外:ナガ~斜突 内:ナガ	外:10VR8/4浅黄褐 内:10VR8/2灰褐	内面保付着
248	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	(24.2)	-	-	外:ナガ~貝斜突 内:貝条瓶~ナガ	外:7.5VR7/4C.5S.褐 内:10VR7/4C.5S.黄褐	-
249	AG09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~貝斜突 内:ナガ	外:7.5VR7/4C.5S.褐 内:7.5VR7/4褐	-
250	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	(24.5)	-	-	外:貝条瓶~貝斜突 内:貝条瓶	外:10VR5/4C.5S.黄褐 内:7.5VR5/4C.5S.褐	-
251	AG09 T	圓文土器 深鉢	(22.3)	-	-	外:ナガ~貝斜突 内:ナガ	外:7.5VR3/3褐 内:7.5VR3/3褐	-
252	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~貝斜突 内:ナガ	外:7.5VR3/3褐 内:5VR3/4C.5S.赤褐	-
253	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~貝斜突 内:貝条瓶~ナガ	外:2.5VR3/2褐 内:10VR6/4C.5S.黄褐	-
254	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条瓶~ナガ~貝斜突 内:貝条瓶~ナガ	外:7.5VR4/4C.5S.赤褐 内:2.5VR4/6赤褐	-
255	AG09	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~貝斜突 内:貝条瓶~ナガ	外:10VR6/4C.5S.黄褐 内:10VR6/3C.5S.黄褐	-
256	-	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ミガキ~斜突 内:ミガキ	外:10VR4/2灰褐 内:10VR4/3C.5S.黄褐	-
257	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	(17.2)	-	-	外:ミガキ~斜突 内:ナガ	外:7.5VR4/3褐 内:7.5VR2/1黑	-
258	AG09 VI層	圓文土器 深鉢	(15.8)	-	-	外:ミガキ~斜突 内:ナガ	外:7.5VR5/4C.5S.褐 内:7.5VR7/6褐	-
259	AH09 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~斜突 内:貝条瓶~ナガ	外:7.5VR5/4C.5S.褐 内:7.5VR7/6褐	-

表 6 7 区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法(cm)			調整	色調	備考
			口径	底径	高さ			
260	AH09 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→底突 内:ナデ	外:7.5V6/2黒褐 内:7.5V6/2黒褐	-
261	AH09 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→底突 内:ナデ	外:7.5V6/41ニシイ・黄褐 内:7.5V6/6明赤褐	-
262	AG09 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板→ナデ→貝側突 内:貝条板→ナデ	外:5V5/42ニシイ・赤褐 内:5V6/6黒	-
263	AH09 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板→ナデ→貝側突 内:貝条板→ナデ	外:5V4/6赤褐 内:5V2/2黒褐	-
264	AH09 VI層	調文土器 把手	-	-	-	外:ナデ→貼付 内:ナデ	外:7.5V6/1褐 内:7.5V6/2暗褐	縦状把手
265	AH09 VI層	調文土器 注口	-	-	-	外:ナデ→切縫 内:ナデ	外:5V6/6褐 内:5V5/6赤褐	-
266	AH09 VI層	調文土器 深鉢	23.2	-	-	外:赤板	外:10V6/41ニシイ・黄褐 内:10V6/31ニシイ・黄褐	-
267	AG09 VI層	調文土器 深鉢	(16.7)	-	-	外:ナデ	外:2.5V5/2黒灰・黄 内:2.5V3/2黒褐	-
268	AH09 VI層	調文土器 深鉢	18.6	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10V6/41ニシイ・黄褐 内:10V6/2暗黒	-
269	AH09 VI層	調文土器 深鉢	(26.6)	-	-	外:ナデ 内:貝条板→ナデ	外:7.5V6/2暗褐 内:7.5V6/1暗褐	-
270	AH09 VI層	調文土器 深鉢	(22.4)	-	-	外:貝条板→ナデ 内:貝条板→ナデ	外:10V6/3暗褐 内:10V6/41ニシイ・黄褐	-
271	AH09 VI層	調文土器 深鉢	(26.9)	-	-	外:ナデ 内:貝側突	外:7.5V6/2黒褐 内:5V4/6赤褐・赤褐	-
272	AH09 VI層	調文土器 深鉢	(14.6)	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10V6/1黒褐 内:10V6/1黒	内外近縁付着
273	AG10 VI層	調文土器 深鉢	(17.2)	-	-	外:ナデ 内:貝条板→ナデ	外:7.5V6/41ニシイ・褐 内:7.5V6/2黒褐	-
274	AH09 VI層	調文土器 深鉢	(11.2)	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5V6/6褐 内:7.5V6/41ニシイ・褐	-
275	AH09 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板→ナデ 内:ナデ	外:10V6/41ニシイ・黄褐 内:7.5V6/6褐	-
276	AH09 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10V6/41黒褐 内:2.5V2/2黒	-
277	AH09 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:2.5V3/1黒褐 内:10V6/41ニシイ・黄褐	-
278	AH09 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5V6/41ニシイ・褐 内:7.5V6/6褐	-
279	AH09 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板→ナデ 内:ナデ	外:7.5V6/41ニシイ・褐 内:7.5V6/2暗褐	-
280	AH09 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:5V6/2暗赤褐 内:5V4/6赤褐	-
281	AG09 VI層	調文土器 深鉢	(22.5)	-	-	外:貝条板→ナデ 内:ナデ	外:5V6/2黒褐 内:5V4/2暗赤褐	-
282	AH09 VI層	調文土器 底部	-	11.4	-	外:ナデ 内:貝条板→ナデ	外:7.5V6/6褐 内:10V6/41ニシイ・黄褐	-
283	AH09 VI層	調文土器 底部	-	10.9	-	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5V6/41ニシイ・褐 内:7.5V6/41ニシイ・褐	-
284	AH09 VI層	調文土器 底部	-	(10.7)	-	外:貝条板 内:ナデ	外:7.5V6/41ニシイ・褐 内:5V6/6褐	-
285	AH10 VI層	調文土器 底部	-	(10.0)	-	外:貝条板→ナデ 内:ナデ	外:7.5V6/41ニシイ・褐 内:7.5V6/41ニシイ・褐	-
286	AH09 VI層	調文土器 底部	-	12.5	-	外:ナデ 内:貝条板→ナデ	外:7.5V6/6明赤褐 内:2.5V4/6赤褐	-
287	AH10 VI層	調文土器 底部	-	(5.0)	-	外:ナデ→切縫 内:ナデ	外:10V6/6黒褐 内:10V6/41ニシイ・黄褐	-
288	AH09	陶器 壺	(9.0)	-	-	-	外:5V5/3赤褐・赤褐 内:7.5V3/1オフ黒	-

表6 7区出土遺物観察表(石器)

報告 番号	出土地區	層位	器種	石材	寸法(mm)			重量(g)	備考
					長さ	幅	厚さ		
289	-	-	石鏟	チヤーべ	28.1	13.1	4.8	1.9	脚部欠損
290	-	-	石鏟	碧玉	25.0	15.0	4.3	0.9	先端部・脚部欠損
291	-	-	石鏟	無斑品質安山岩	22.7	15.1	3.1	0.6	-
292	-	-	石鏟	黒曜岩Ⅳ	17.8	13.3	3.1	0.4	-
293	AH89	-	石鏟	珪質頁岩	20.0	18.3	4.0	1.2	脚部欠損
294	-	-	石鏟	チヤーべ	17.9	15.0	3.0	0.4	-
295	-	-	石鏟	黒曜岩Ⅰd	20.5	15.8	4.1	1.0	-
296	-	-	石鏟	無斑品質安山岩	17.4	12.8	3.7	0.7	両面磨滅
297	-	-	石鏟	頁岩	15.0	12.2	4.0	0.6	両面磨滅
298	-	-	石鏟	チヤーべ	23.1	13.4	3.6	0.8	脚部欠損
299	-	-	石鏟	チヤーべ	19.5	16.5	3.7	0.9	-
300	-	-	石鏟	チヤーべ	17.9	14.1	3.0	0.7	-
301	-	-	石鏟	玉髓	14.0	14.7	2.3	0.3	-
302	-	-	石鏟	チヤーべ	14.9	14.8	2.5	0.4	-
303	-	-	石鏟	玉髓	13.5	14.8	3.3	0.4	-
304	-	-	石鏟	黒曜岩Ⅰa?	15.5	13.0	3.5	0.5	脚部欠損
305	-	-	石鏟	黒曜岩Ⅰc	14.2	13.8	3.4	0.5	-
306	-	-	石鏟	無斑品質安山岩	13.5	17.0	2.5	0.5	-
307	-	-	石鏟	玉髓	26.9	15.1	3.0	0.7	脚部欠損
308	-	-	石鏟	玉髓	23.7	15.9	3.5	0.8	-
309	-	-	石鏟	玉髓	21.4	15.5	2.8	0.7	-
310	-	-	石鏟	チヤーべ	20.9	16.4	2.8	0.6	-
311	-	-	石鏟	黒曜岩Ⅳ	19.2	14.4	2.6	0.6	脚部欠損
312	-	-	石鏟	玉髓	20.5	14.9	2.6	0.6	-
313	-	-	石鏟	チヤーべ	20.9	13.8	2.8	0.6	脚部欠損
314	-	-	石鏟	チヤーべ	18.9	16.1	3.5	0.7	脚部欠損
315	-	-	石鏟	黒曜岩Ⅰa?	18.1	14.6	2.8	0.5	-
316	-	-	石鏟	チヤーべ	17.1	14.2	2.6	0.4	-
317	-	-	石鏟	チヤーべ	17.9	13.1	3.0	0.5	脚部欠損
318	-	-	石鏟	黒曜岩Ⅰd	16.7	15.3	2.7	0.4	-
319	-	-	石鏟	玉髓	16.5	16.3	2.5	0.4	-
320	-	-	石鏟	頁岩	17.6	17.0	2.9	0.8	-
321	-	-	石鏟	黒曜岩Ⅰc	16.3	15.6	2.5	0.4	-
322	-	-	石鏟	玉髓	15.6	15.7	2.4	0.4	-
323	-	-	石鏟	碧玉	14.6	15.5	2.3	0.4	先端部欠損
324	-	-	石鏟	チヤーべ	13.2	13.0	2.4	0.3	脚部欠損
325	-	-	石鏟	黒曜岩Ⅰc	13.9	14.7	3.1	0.4	-

山中遺跡 7区の調査

表 6 7区出土遺物観察表（石器）

報告番号	出土地区	層位	器種	石材	寸法 (mm)			重量(g)	備考
					長さ	幅	厚さ		
326	—	—	石器	チャート	12.8	11.6	2.5	0.3	脚部欠損
327	—	—	石器	玉髓	14.0	12.6	3.2	0.4	先端部が磨滅
328	—	—	石器	チャート	53.7	18.4	8.2	6.3	—
329	—	—	石器	玉髓	45.8	19.2	8.1	6.5	—
330	—	V1層	石器	粘板岩	49.0	29.0	5.0	7.7	—
331	—	—	石器	玉髓	33.7	13.4	6.6	2.5	—
332	AG10	V1層	石器	チャート	42.8	22.6	6.5	4.9	—
333	—	—	石器	玉髓	39.4	19.6	4.8	2.6	—
334	—	—	石器	チャート	39.0	14.4	8.1	3.8	—
335	—	—	石器	チャート	34.7	28.3	9.8	6.2	—
336	AJ14	V1層	石器	チャート	35.6	61.5	8.8	16.7	—
337	—	—	石器	珪質頁岩	33.1	36.0	7.4	6.7	—
338	—	—	石器	チャート	31.2	43.6	7.9	8.5	—
339	AH09	—	石器	チャート	27.4	31.7	8.2	5.7	—
340	—	—	石器	玉髓	23.3	40.2	5.8	3.0	—
341	AH08	V1層	石器	無品質安山岩	33.0	45.0	6.0	7.2	—
342	—	—	石器	無品質安山岩	24.2	31.8	6.5	3.9	刃部欠損
343	AH10	V1層	削器	頁岩	98.0	41.3	14.2	55.5	—
344	AG09	V1層	削器	玉髓	88.0	31.0	11.0	36.9	—
345	—	—	削器	玉髓	68.5	31.7	14.0	18.6	—
346	AH09	V1層	削器	玉髓	42.0	47.0	8.0	20.8	—
347	AH10	V1層	削器	頁岩	35.0	49.0	7.0	8.3	—
348	—	—	削器	玉髓	51.8	42.8	15.7	35.0	—
349	AH09	I 層	削器	粘板岩	77.0	128.0	9.0	101.4	—
350	AG09	V1層	石器	頁岩	55.0	30.0	9.0	12.1	—
351	AH09	V1層	石器	無品質安山岩	52.0	21.0	9.0	10.4	—
352	SC04	—	石器	チャート	33.5	15.3	6.0	2.8	—
353	—	—	石器	チャート	36.8	14.8	9.8	5.4	—
354	AH09	V1層	石器	玉髓	109.0	69.0	45.0	232.8	—
355	AG09	V1層	石器	玉髓	50.0	50.0	38.0	89.5	—
356	AG09	V1層	石器	チャート	41.0	69.6	44.2	133.6	—
357	AH09	V1層	石器	チャート	22.3	45.7	16.0	214.0	—
358	AH09	V1層	石器	チャート	24.2	40.0	19.8	22.7	—
359	AH09	V1層	磨製石斧	ホルンフェルス	140.2	61.4	27.8	333.3	刃部欠損
360	AH10	V1層	磨製石斧	ホルンフェルス	191.0	64.0	38.0	440.5	—
361	AH09	V1層	磨製石斧	頁岩	96.8	54.0	28.5	99.6	—
362	AG09	V1層	磨製石斧	ホルンフェルス	100.5	55.7	33.5	306.6	磨製石斧として利用後 融石として使用

表6 7区出土遺物観察表(石器)

報告番号	出土地区	層位	器種	石材	寸法(mm)			重量(g)	備考
					長さ	幅	厚さ		
363	AG09	VI層	磨製石斧	蛇紋岩	90.8	39.1	12.3	71.5	刃部欠損
364	—	—	磨製石斧	頁岩	93.4	40.3	15.4	87.0	刃部欠損
365	AG09	VI層	磨製石斧	ホルシニアルス	70.0	40.0	17.0	70.9	—
366	SE3-2	—	磨製石斧	頁岩	44.0	74.0	18.0	71.1	—
367	—	VI層	磨製石斧	頁岩	72.0	26.0	14.0	37.0	—
368	AG09	VI層	打製石斧	安山岩	104.0	69.0	20.0	186.2	—
369	AH09	VI層	打製石斧	砂岩	121.0	54.0	11.0	122.7	—
370	AG10	VI層	打製石斧?	安山岩	131.0	79.0	21.0	294.5	—
371	AG09	—	磨石	安山岩	104.1	94.1	58.6	848.3	—
372	AH09	VI層	磨石	砂岩	109.1	109.7	46.8	848.6	—
373	AG09	VI層	磨石	石英風岩	109.2	92.5	48.8	875.4	—
374	AG09	VI層	磨石・凹石	安山岩	109.8	73.4	51.6	583.0	磨石として利用後凹石に
375	AG09	VI層	磨石・凹石	安山岩	103.8	93.0	38.3	498.7	磨石として利用後凹石に
376	AG10	VI層	敲石	多孔質安山岩	60.2	57.6	45.9	193.5	—
377	AH09	VI層	敲石	砂岩	44.4	47.8	35.0	108.3	—
378	AG10	VI層	磨石・敲石	安山岩	64.0	89.0	4.0	175.7	—
379	AG09	VI層	敲石・凹石	安山岩	104.2	87.9	58.6	648.7	表面に僅み痕有
380	AH09	VI層	石錐	砂岩	45.0	41.0	10.0	27.4	切目石錐
381	AH09	VI層	石錐	頁岩	47.0	44.0	11.0	33.4	切目石錐
382	AH09	VI層	石錐	砂岩	42.2	36.8	13.6	29.9	切目石錐
383	AH09	VI層	石錐	頁岩	28.0	37.0	7.0	11.9	切目石錐
384	AH09	VI層	石錐	砂岩	34.0	39.0	11.5	22.6	切目石錐
385	AH09	VI層	石錐	粘板岩	67.0	36.0	11.0	34.4	切目石錐
386	AH09	VI層	石錐	砂岩	65.1	27.1	13.5	35.4	切目石錐
387	AH09	VI層	石錐	砂岩	57.1	31.3	14.6	35.7	切目石錐
388	AH09	VI層	石錐	頁岩	51.5	33.8	9.2	25.1	切目石錐
389	AG10	VI層	石錐	頁岩	51.5	32.0	8.5	22.3	切目石錐
390	AH09	VI層	石錐	砂岩	44.5	33.4	11.2	26.1	切目石錐
391	AH09	VI層	石錐	砂岩	46.4	24.8	14.2	22.2	切目石錐
392	AH09	VI層	石錐	粘板岩	48.0	20.7	6.4	10.0	切目石錐
393	AH09	VI層	石錐	砂岩	47.5	31.0	14.4	30.0	切目石錐
394	AH09	VI層	石錐	砂岩	43.0	29.7	16.4	30.6	切目石錐
395	AH09	VI層	石錐	砂岩?	41.8	32.1	14.1	30.2	切目石錐
396	AH09	VI層	石錐	頁岩	42.0	27.6	11.8	19.8	切目石錐
397	AH09	VI層	石錐	砂岩	40.8	27.9	10.9	19.8	切目石錐
398	AG10	VI層	石錐	頁岩	54.5	35.8	10.1	21.9	切目石錐
399	AH09	VI層	石錐	粘板岩	46.5	32.9	13.2	22.6	切目石錐

山中遺跡7区の調査

表6 7区出土遺物観察表（石器）

報告 番号	出土地区	層位	器種	石材	寸法 (mm)			重量(g)	備考
					長さ	幅	厚さ		
400	AH10	VI層	石錐	粘板岩	37.0	56.0	8.0	21.8	打欠石錐
401	AG10	VI層	石錐	多孔質安山岩	56.0	49.0	14.0	37.1	打欠石錐
402	AG10	VI層	石錐	多孔質安山岩	63.0	63.0	19.0	84.6	打欠石錐
403	AH09	VI層	圭頭	頁岩	41.8	22.6	6.3	6.5	-

第3章

第8節 山中遺跡8区



第8節 山中遺跡 8区の調査

1 山中遺跡 8区の概要

山中遺跡 8区（以下8区）は、平成18年度に発掘調査を実施し、同時期に調査を行っていた7区の東側隣接地に位置する。調査区周辺は、西から東に向けて緩やかに傾斜しており、地形的に高い部分にあたる調査区西側は、水田面構築による掘削を受けており、小林軽石層が一部露出する状況であった。遺構は、基本土層IX層（アカホヤ火山灰層）ならびに基本土層X層（牛ノ脛火山灰層下部）で検出し、基本土層IX層（アカホヤ火山灰層）の大部分は消失し、一部が残存するのみであった。遺構検出面の上位には褐色土層が堆積し、縄文時代後期から古墳時代の遺物が認められるが、同質の褐色土層は8区など竪穴住居が検出された周辺でしか確認されていない。

遺構は竪穴住居25棟、土坑36基を検出した。この他に竪穴住居の周辺から小穴多数を確認しているが詳細は不明である。

遺物は縄文時代前期・中期の土器が少量出土しているが、多くは縄文時代後期前葉から後葉のもので、その他の時期のものとしては、弥生時代から古墳時代の遺物が出土しているほか、中世の陶磁器類も出土している。

2 遺構と遺物

竪穴住居

8区からは25棟の竪穴住居を検出した。調査区西側は水田構築時の掘削を受け、AH12区画周辺では小林軽石層が露出する状況であった。またAG15・16区画は、遺構を確認しておらず、遺物も他の区画に比べて出土量は少ない状況であった。また、いずれの竪穴住居からも屋内炉は検出されなかった。

以下の図版に掲載した土層図の一部について、竪穴住居のどの部分に対応するか判断が出来なかったものも存在する。

SA15（図106）

調査区中央部AI13区画に位置し、基本土層IX層（アカホヤ火山灰層）下面ならびに基本土層X層（牛ノ脛火山灰層下部）上面で検出した。径は3.00～3.28mの円形で、深さ0.42mを測る。北東部でSC33と重複し、SC33より古い。床面は平坦で、中央に浅い円形の土坑がある。柱穴と考えられる小穴が4基あり、小穴の深さは、床面から0.30～0.38mを測る。壁は直立気味に立ち上がる。遺物は、縄文時代後期前葉の岩崎式・指宿式・市来式、後期中葉の西平式などが出土した。

SA15出土遺物（図133）

1・2は岩崎式、3～5は出水式、6は肥厚する口縁部に貝刺突を行う。8は西平式の胸部である。9は安山岩製の器削。

SA16（図107）

調査区中央部AI14区画に位置し、基本土層IX層（アカホヤ火山灰層）下面で検出した。長軸4.10m、短軸3.42m、深さ0.78mを測り、西側は方形に東側は円形となる。SC28やその他の土坑と重複し、これらより古い。底面は階段状に掘り込まれ、上の段に小穴を2基検出した。埋土中より炭化材が多く出土し、樹種同定分析を行った結果、落葉広葉樹のケヤキと同定された。遺物は縄文時代後期前葉の岩崎式・指宿式・市来式などが出土した。

SA16出土遺物（図133・134）

10は凹線で施文する。11～13は沈線により施文する指宿式。14は出水式と考えられる。15は貝条痕を残し、逆L字状の文様を繰り返し施文する。16は沈線間に竹管状の工具で刺突を行う。17～19は口縁部を肥厚させる

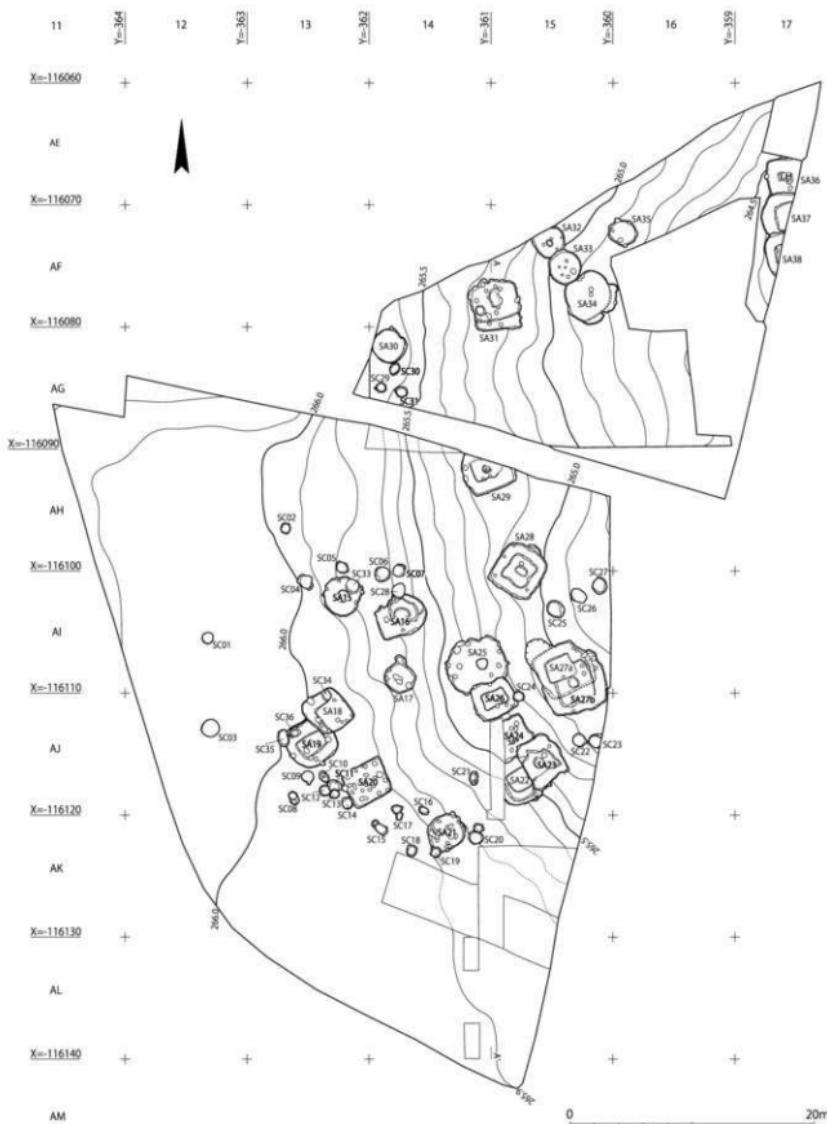


図 104 山中遺跡 8 区の遺構配置図 (1/400)

山中遺跡 8区の調査

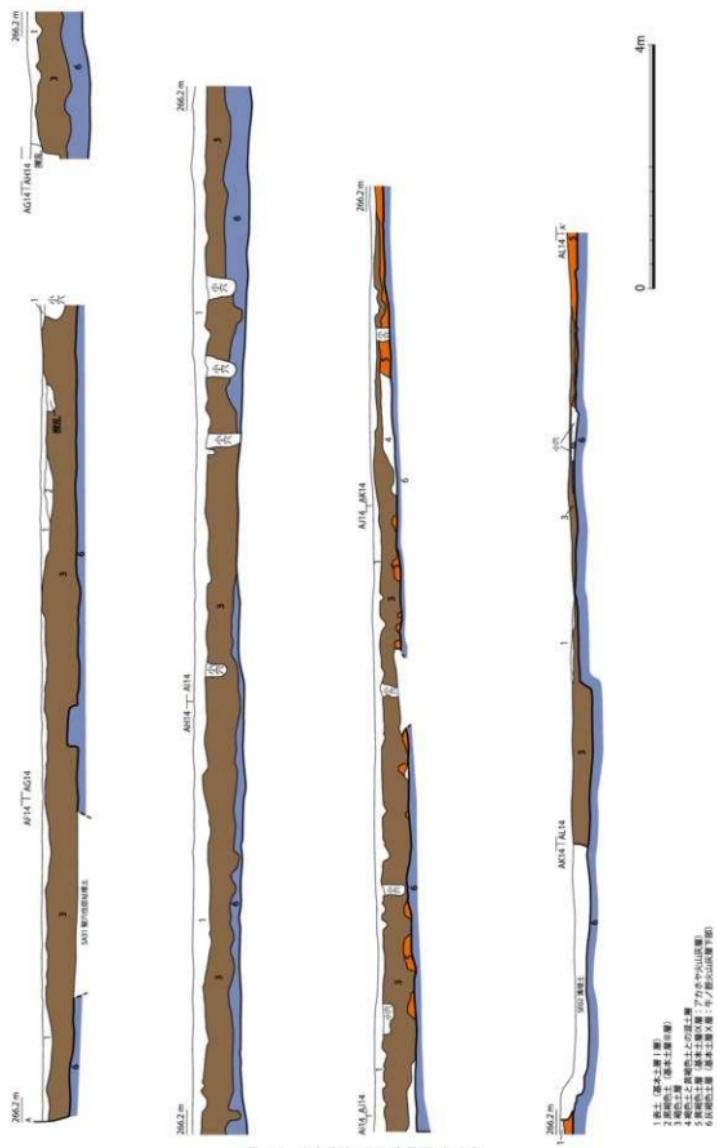


図 105 山中遺跡 8区の土層図 (1/80)

SA15

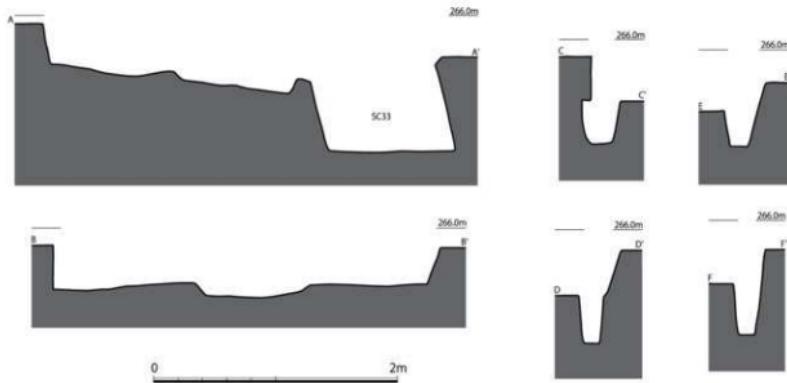
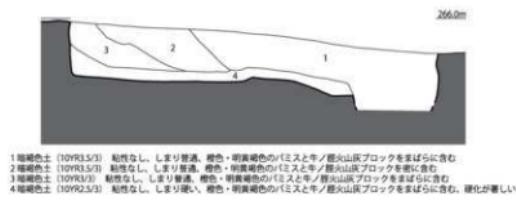
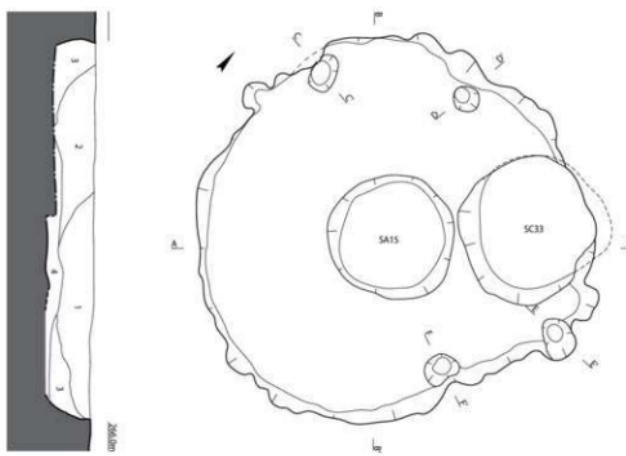


図 106 SA15 壁穴住居 (1/40)

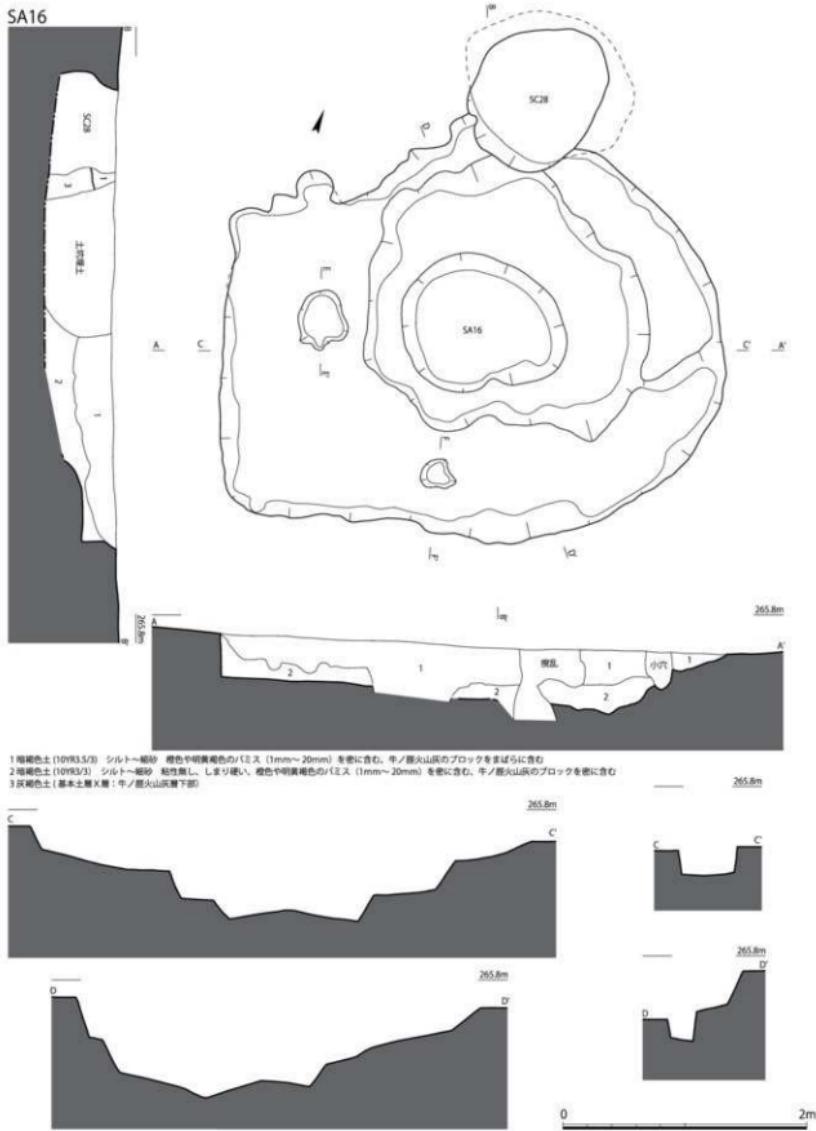


図 107 SA16 穫穴住居 (1/40)

市来式。20・21は無文土器であるが、20は波頂部内面に刻みを施す。22～24は底部で、23の底面には織維状の圧痕が認められる。25は安山岩製の円盤状石器、26は頁岩を用いた敲石で、縁辺に敲打痕が認められる。

SA17 (図 108)

調査区中央部 AJ14 区画に位置し、基本土層IX層（アカホヤ火山灰層）下位で検出した。平面形は長軸 2.48m、短軸 2.30m の隅丸方形で、北側に張出部を持つ。深さは 0.30m を測る。床面は平坦で中央部に浅い土坑があり、壁際に柱穴と考えられる小穴を 3 基確認している。遺物は、縄文時代後期前葉の指宿式・出水式などが出土した。

SA17 出土遺物 (図 134)

27・28は口縁部を沈線により施文を行い、円文もしくは縦位の単位文様間を横走沈線で結ぶものである。29は羽状文が認められる台付皿形土器。30・31は安山岩を用いた石皿である。

SA18 (図 109)

調査区南側 AJ13 区画に位置し、基本土層IX層（アカホヤ火山灰層）下位もしくは、基本土層X層（牛ノ脛火山灰層下部）上面で検出した。平面形は長軸 3.42m、短軸 3.38m の隅丸方形で、南側で SA19 と重複し、SA19 より新しい。検出面から床面までの深さは浅く、最深部でも 0.17m を測る程度である。内部には L 字状の段が認められるが、下段との比高差はほとんどない。床面には柱穴と考えられる小穴のほか、土坑（SC34）も認められるが、豊穴住居との関連は定かではない。遺物は縄文時代後期前葉の岩崎式・指宿式が出土した。

埋土中より出土した炭化物を含む土壤の種実同定分析を行った結果、イチイガシ以外のコナラ属の炭化種実が 20 点含まれていた。また、土坑内（SC34 の可能性も有）からは、炭化材が出土し、樹種同定分析を行った結果、クスノキ以外のクスノキ科の樹種のいずれかと同定された。

SA18 出土遺物 (図 135)

32 は口縁部から胴部にかけて 2 本単位による文様を施文する。33 は頁岩製の削器、34 は石核、35 は敲石、36 は磨石で側面に敲打痕が認められ、部分的に赤化が認められることから被熱を受けたものと考えられる。

SA19 (図 110)

調査区南側 AJ13 区画に位置し、基本土層IX層（アカホヤ火山灰層）下位もしくは基本土層X層（牛ノ脛火山灰層下部）上面で検出した。平面形は長軸 4.00m、短軸 3.63m の隅丸方形で、北側で SA18 と重複し、SA18 より古い。東側には土坑が 2 基（SC35・36）重複するが、新旧関係および豊穴住居との関係は定かではない。内部は中央に長方形の掘り込みがあり、この部分の深さは 0.36m を測る。遺物は縄文時代後期前葉の指宿式が出土した。

SA19 出土遺物 (図 135・136)

37 は沈線化した岩崎式と考えられ、口唇端部に刺突が認められる。38～41 は指宿式と考えられ、39 は文様が横方向に展開せず工字状の文様となる。口縁部から内面にかけて刻みを有する。40 は 2 本沈線間に貝刺突を行う。42・43 は無文土器で、43 の口唇端部には刺突を伴う。45～47 は土製円盤で側面には丁寧な磨滅痕が観察される。48 は磨石、49 は切目石錐、50 は磨製石斧、51 は安山岩を用いた石皿で使用により深く窪む。

SA20 (図 111)

調査区南側 AJ13・14 区画に位置し、基本土層IX層（アカホヤ火山灰層）下位で検出した。平面形は長軸 3.55m、短軸 3.06m の方形で、深さ 0.12m を測る。内部には小穴が 22 基あり、床面は平坦である。遺物は縄文時代後期前葉の岩崎式・指宿式などが出土した。

SA20 出土遺物 (図 136)

53 は沈線間に浅い凹線が認められる。54 は沈線で施文する指宿式。55 は外面にミガキ調整が認められる底部。56・57 は磨石で、56 は安山岩、57 は石英斑岩を用いている。

SA17

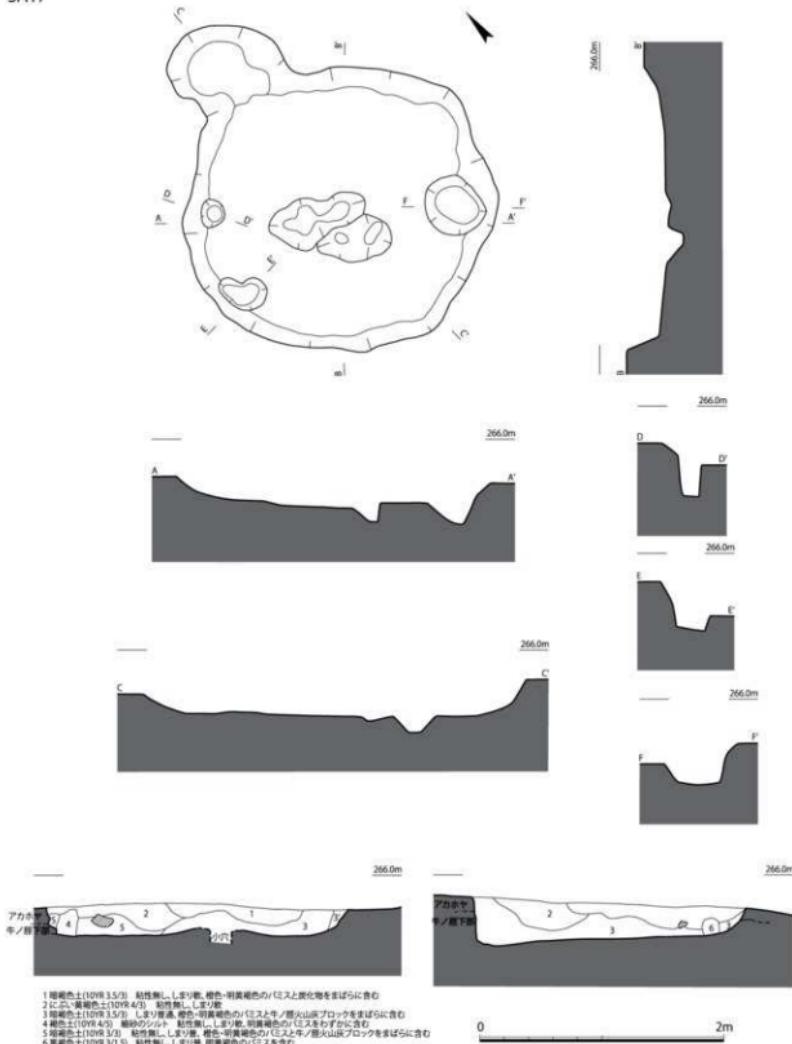


図 108 SA17 積穴住居 (1/40)

SA18

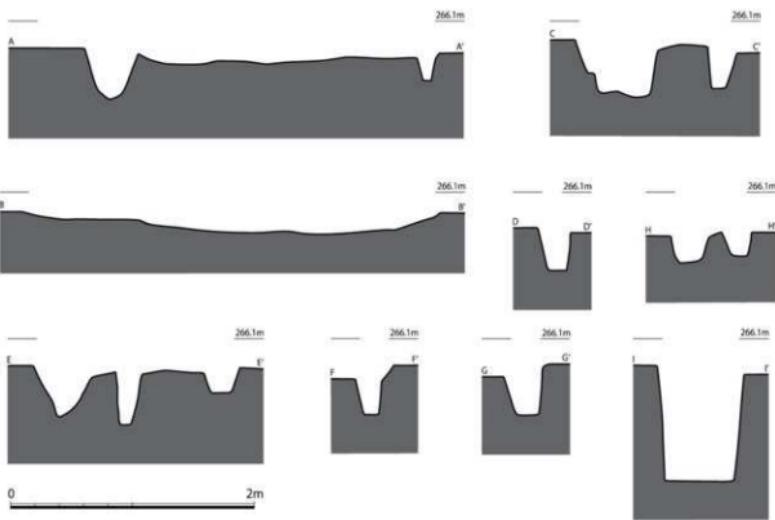
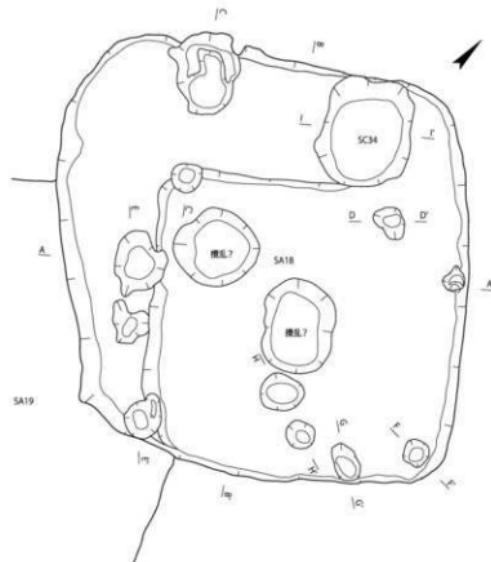


図 109 SA18 穴居 (1/40)

SA19

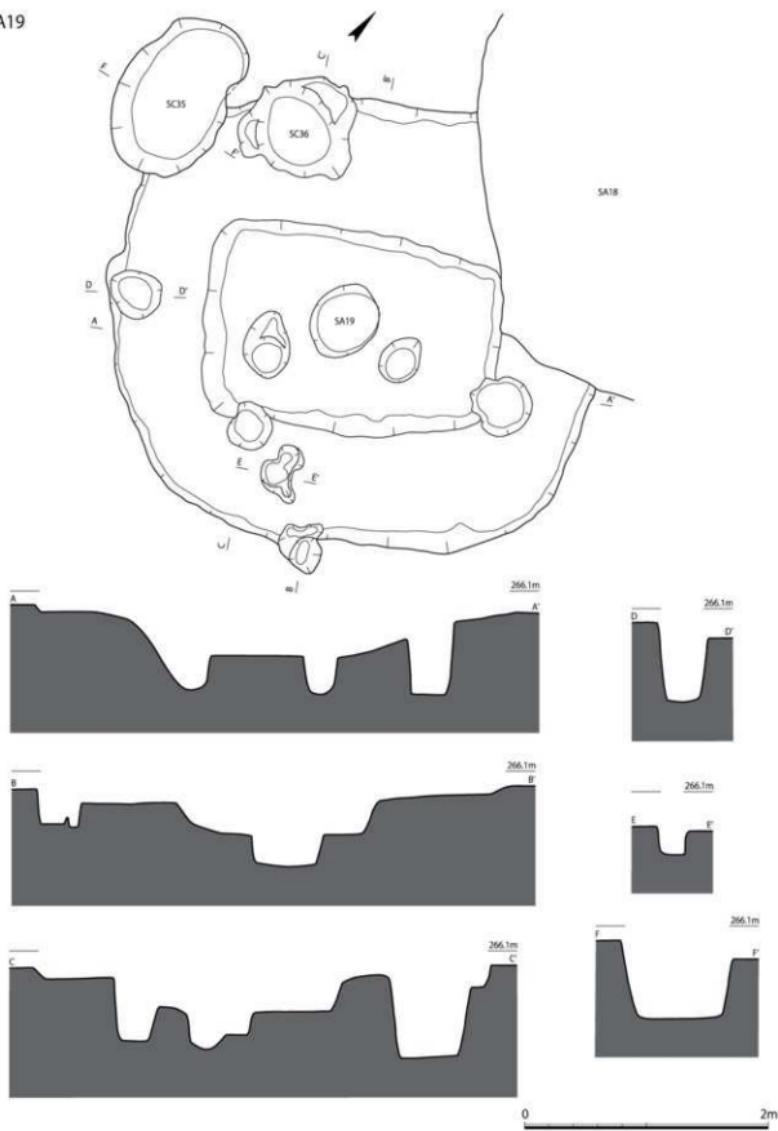


図 110 SA19 穂穴住居 (1/40)

SA20

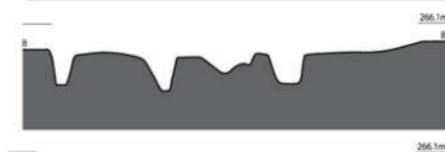
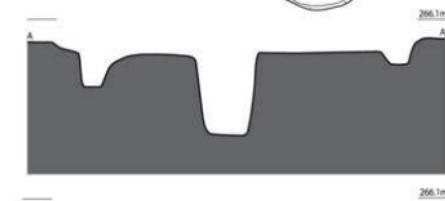
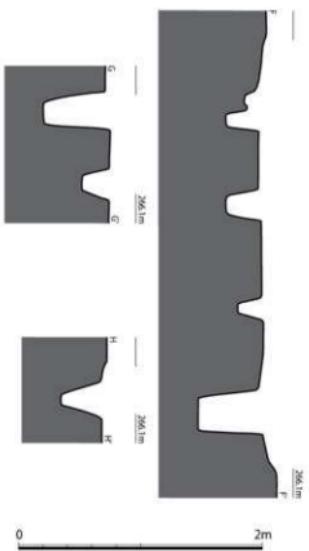
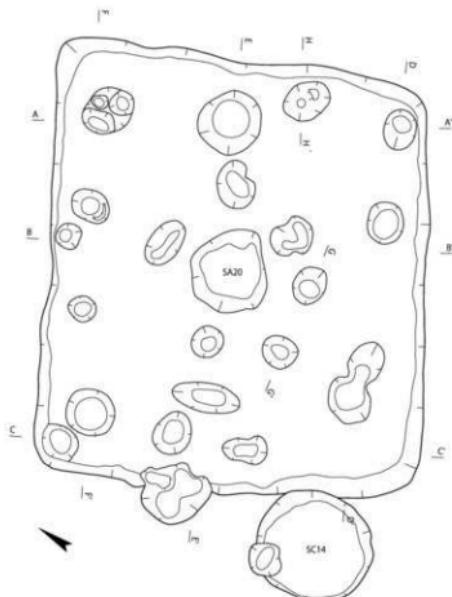
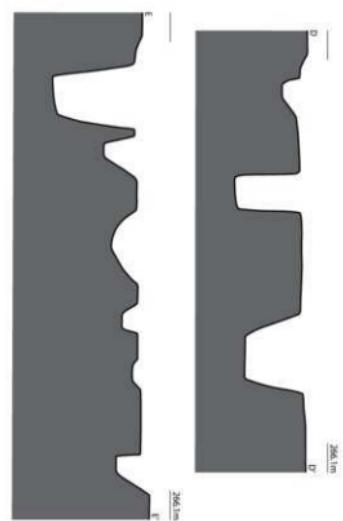


図 111 SA20 穴住居 (1/40)

SA21 (図 112)

調査区南側 AJ14 区画に位置し、基本土層 IX 層（アカホヤ火山灰層）下位で検出した。平面形は長軸 3.21m、短軸 2.79m の不整円形で、深さ 0.14m を測る。南側で SC19 と重複し、新旧関係は判然としないが、同時期の遺物が出土している。床面は平坦で、柱穴と考えられる小穴が多数確認されている。遺物は縄文時代後期前葉の指宿式や後期後葉の三万田式頃と考えられる浅鉢などが出土した。

SA21 出土遺物 (図 137)

58 は指宿式、59 は浅鉢の可能性もあるが底部として図示した。60 は内外面を丁寧にミガキ調整した浅鉢、61 も内外面を丁寧にミガキ調整した深鉢で、底部は上げ底になる。

SA22 (図 113)

調査区南側 AJ15 区画に位置し、基本土層 X 層（牛ノ脛火山灰層下部）上面で検出した。平面形は長軸 3.95m、短軸 2.65 m+ α の隅丸方形となるものと考えられる。SA23・24 と重複しており、SA23・24 より古い。床面中央には、方形の掘り込みが認められる。遺物は、縄文時代後期前葉の指宿式などが出土した。

SA22 出土遺物 (図 137)

62 は頸部屈曲部に 2 本単位の沈線を廻らす深鉢で、指宿式と考えられる。

SA23 (図 114)

調査区南側 AJ15 区画に位置し、基本土層 X 層（牛ノ脛火山灰層下部）上面で検出した。平面形は長軸 3.77m、短軸 3.34m の方形で、深さ 0.34m を測る。SA22・24 と重複し、SA22・24 より新しい。床面はコ字状に段を形成している。遺物は縄文時代後期前葉の指宿式、後葉の三万田式、弥生時代の刻目突帯文が出土した。

SA23 出土遺物 (図 137)

63 は口縁部を隆帯状に肥厚させた部分に刺突を行う。64・65 は無文土器である。

SA24 (図 115)

調査区南側 AJ15 区画に位置し、基本土層 X 層（牛ノ脛火山灰層下部）上面で検出した。平面形は長軸 2.78m+ α、短軸 2.44m+ α の方形で、深さ 0.11m を測る。床面は平坦で、柱穴と考えられる小穴を検出した。SA23 と重複し、SA23 より古い。遺物は縄文時代後期前葉頃の無文土器が出土しているが、小片であり図示しなかった。

SA25 (図 116)

調査区南側 AI14・15 区画に位置し、基本土層 X 層（牛ノ脛火山灰層下部）上面で検出した。平面形は長軸 4.98m、短軸 3.94m の円形で、深さ 0.20m を測る。南側で SA26 と重複し、SA26 より古い。床面は平坦で、中央に深い土坑を持つ。柱穴と考えられる小穴は、壁際に 10 基確認できる。遺物は縄文時代後期前葉の指宿式・出水式などが出土した。

SA25 出土遺物 (図 137)

66 は口縁部に沈線と刺突を施文する。69 は口縁部に刺突を巡らし、胴部には斜め方向の文様を施文する。70 は 2 本沈線間に縄文を充填する磨消縄文土器。71 は台付皿形土器の底部、72 は土製円盤で側面には一部磨滅痕が認められる。73 は切目石錘である。

SA26 (図 117)

調査区中央 AI14・15、AJ14・15 区画に位置し、基本土層 X 層（牛ノ脛火山灰層下部）上面で検出した。平面形は長軸 3.57m、短軸 2.80m の方形で、深さ 0.27m を測る。北側で SA25 と重複し、SA25 より新しい。床面中央部には方形の掘り込みが確認でき、この部分の深さは 0.44m を測る。遺物は縄文時代後期前葉頃と思われる無

SA21

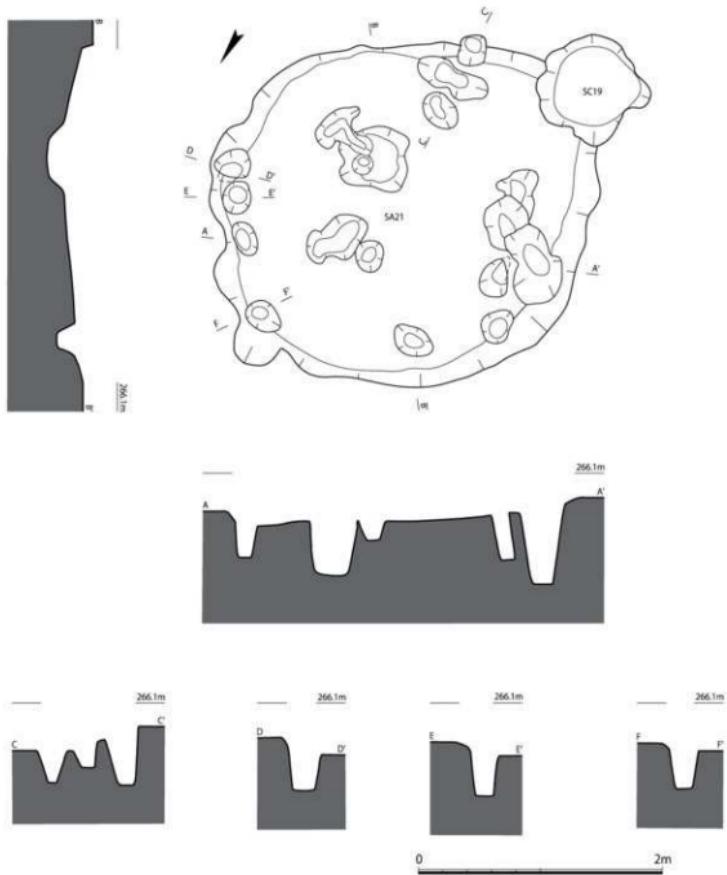


図 112 SA21 積穴住居 (1/40)

SA22

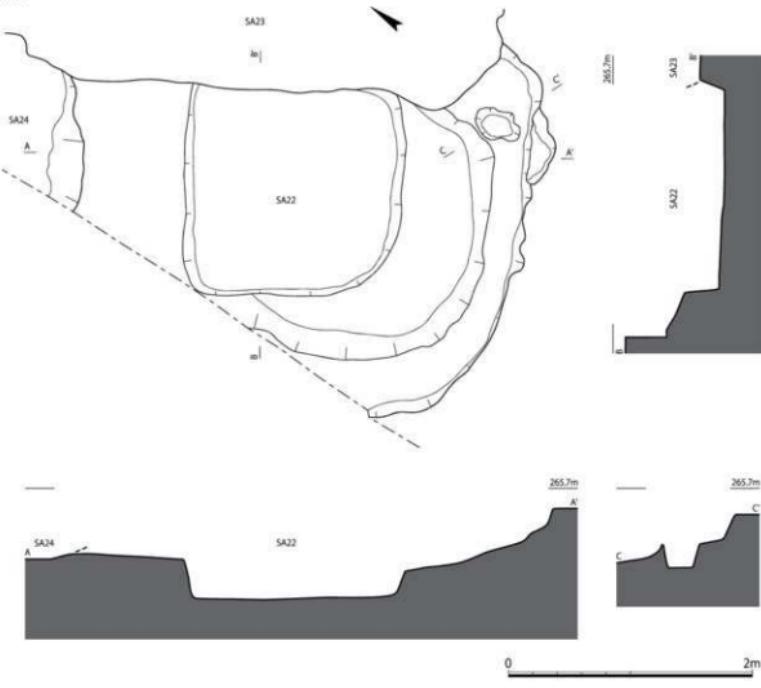


図 113 SA22 穂穴住居平面図 (1/40)・断面図 (1/80)

SA23

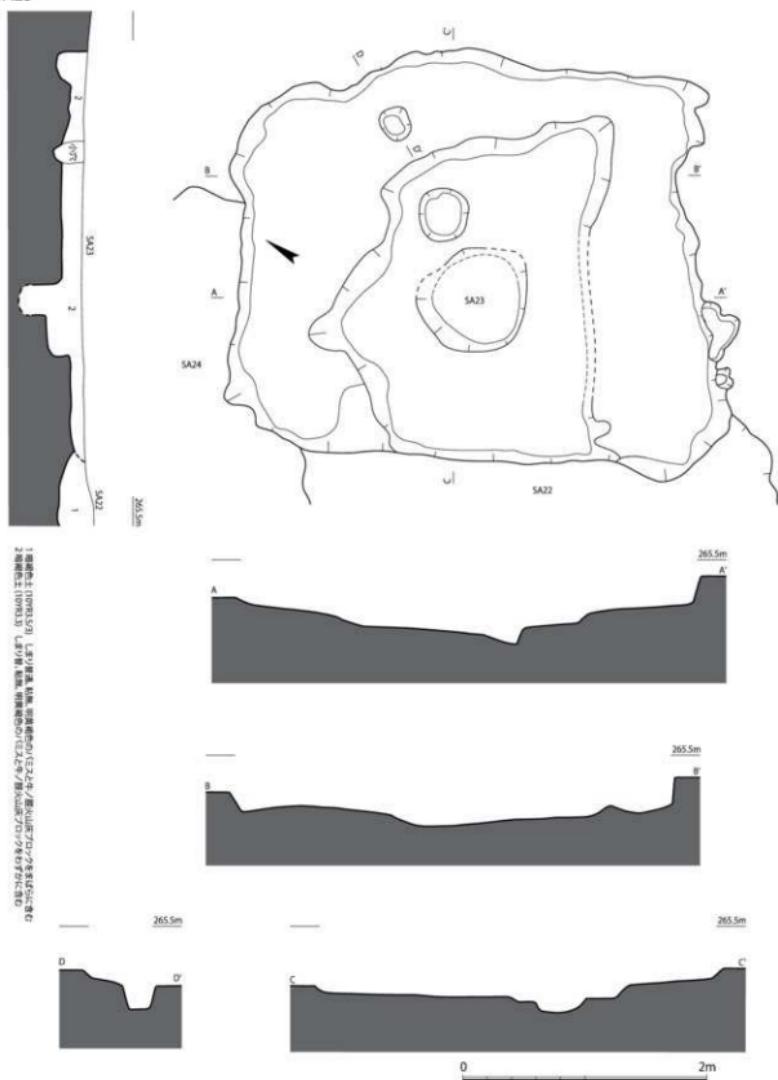


図 114 SA23 壁穴住居 (1/40)

SA24

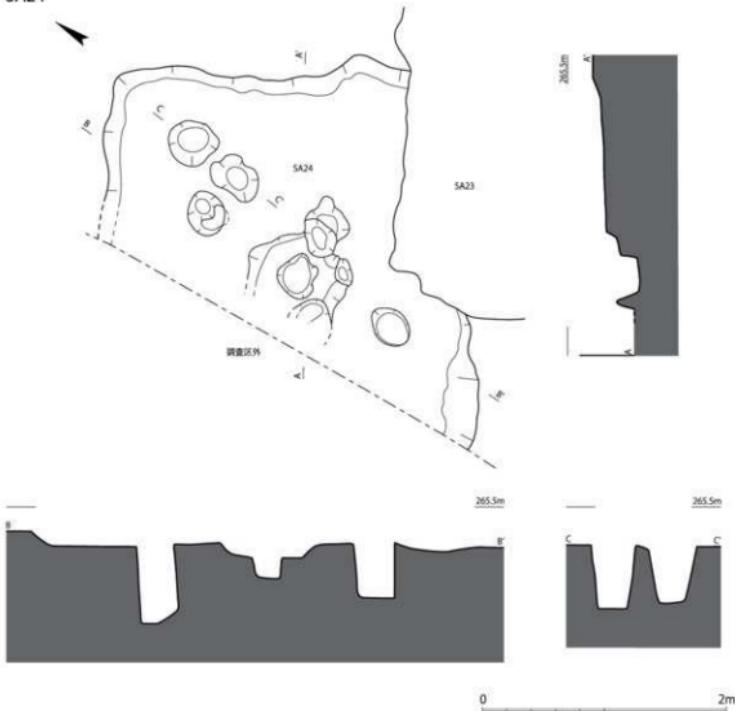


図 115 SA24 壁穴住居 (1/40)

文土器が少量出土したが、小片のため図示しなかった。

SA27a (図 118・119)

調査区東側 AJ15・AJ15 区画に位置し、基本土層 X 層(牛ノ脛火山灰層下部)上面で検出した。平面形は長軸 4.51m、短軸 4.05m の方形で、深さ 0.55m を測る。東側から南側で SA27b と重複し、SA27b より新しい。床面中央部に方形の掘り込みが確認できる。壁は直立気味に立ち上がる。遺物は SA27b と一緒に取り上げられており、縄文時代後期前葉の指宿式の他に、弥生時代早期～前期頃の刻目突帯文土器が出土した。

SA27b (図 118・119)

調査区東側 AJ15・AJ15 区画に位置し、基本土層 X 層(牛ノ脛火山灰層下部)上面で検出した。平面形は長軸 5.15m、短軸 4.50m の方形で、深さ 0.65m を測る。北側で SA27a と重複し、SA27a より古い。床面中央部に方形の掘り込みが確認できる。壁は直立気味に立ち上がる。遺物は SA27a と一緒に取り上げられており、縄文時代後期前葉

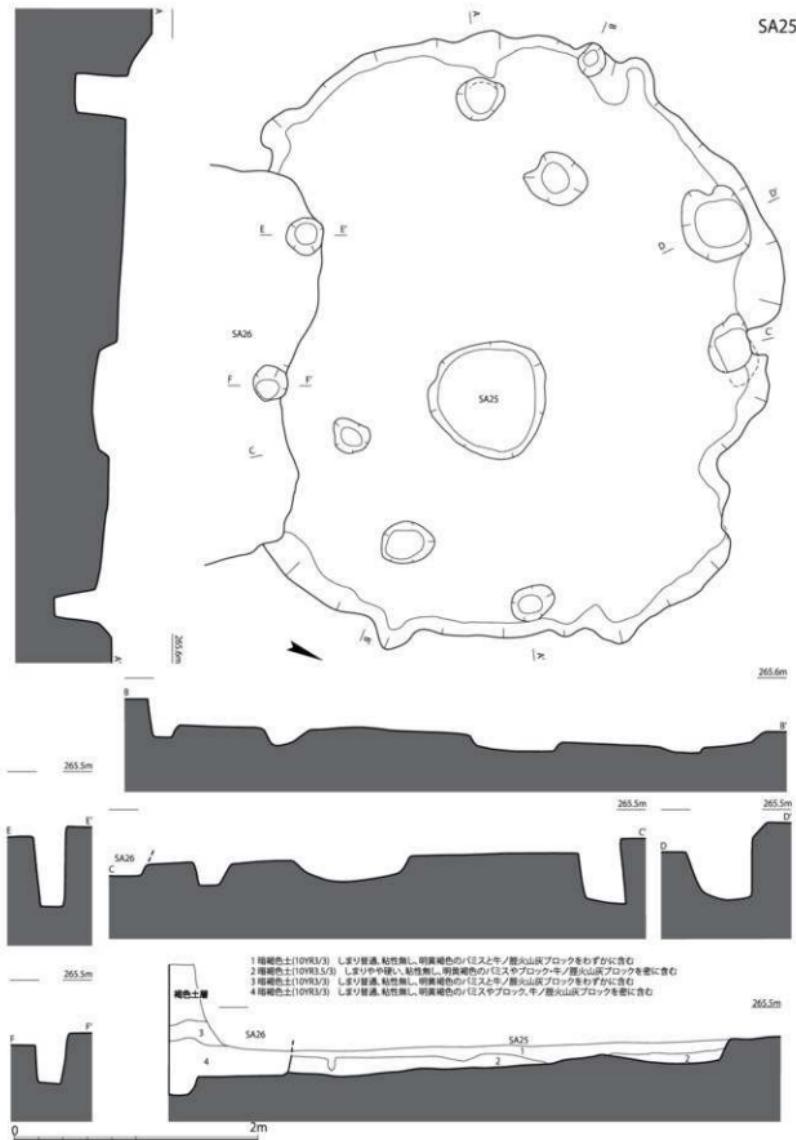


図 116 SA25 壁穴住居 (1/40)

SA26

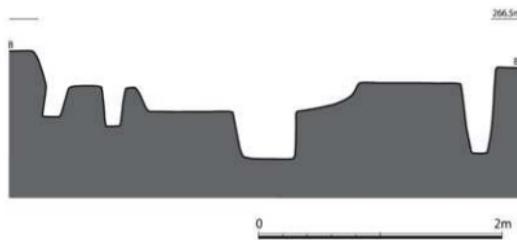
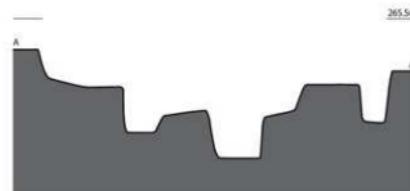
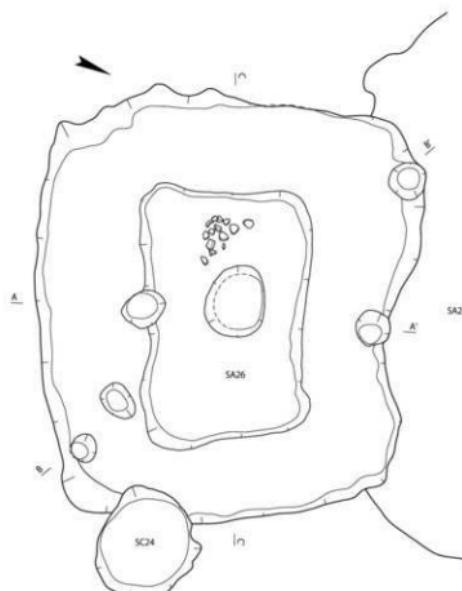
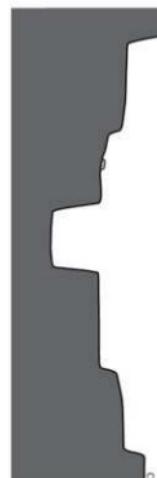


図 117 SA26 穂穴住居 (1/40)

の指宿式の他に、弥生時代早期～前期頃の刻目突帯文土器が出土した。

SA27 出土遺物（図 137・138）

74～77は沈線や刺突で施文する土器で、縄文時代後期前葉頃のものと考えられる。78は無文土器、79～81は底部である。82～84は弥生時代早期～前期の刻目突帯文土器である。85は土製円盤で一部磨滅痕が認められる。86は扁平な礫の縁辺に調整加工を行い、円盤状に加工したもので、石材は表面が薄桃色を呈し、都城市周辺の遺跡で出土する両輝石安山岩に類似する。87は安山岩を用いた磨石である。

SA28（図 120）

調査区中央部 AH14・15、AI14・15 区画に位置し、基本土層X層（牛ノ脛火山灰層下部）で検出した。平面形は長軸 4.52m、短軸 4.00m の隅丸方形で、深さ 0.63m を測る。床面の中央には方形の掘り込みを伴う。内部には柱穴と考えられる小穴を 5 基確認した。

SA28 出土遺物（図 138）

88～96は沈線により文様を施文するもので、指宿式に併行する後期前葉段階のものと考えられる。89・91は口縁端部に刺突を伴う。92は蘇手状の文様を展開する。95は口縁部に S 字状の文様を施文する。97は断面三角形の口縁部を持つ市来式。98・99は磨消縄文土器である。101は切目石錐である。

SA29（図 121）

調査区中央部 AH14・15 区画に位置し、基本土層X層（牛ノ脛火山灰層下部）上面で検出した。平面形は長軸 4.03m、短軸 2.65m+ a で、北側は調査区外へと延びるため不明瞭であるが隅丸方形になるものと考えられる。深さ 0.89 m を測る。床面は中央に方形の掘り込みがあり、中央の小穴 2 基はその他の小穴に比べ深い。遺物は縄文時代後期前葉の指宿式・市来式が出土した。

SA29 出土遺物（図 138）

102は口縁部に向って外反し、頭部以下に沈線により文様を施文する深鉢。103・104は内外面ナデ調整の無文土器。105は底部。106は安山岩を用いた石皿である。

SA30（図 122）

調査区北側 AG14 区画に位置し、基本土層X層（牛ノ脛火山灰層下部）上面で検出した。平面形は径 2.52～2.70m の円形で、深さ 0.46m を測る。周囲には、貯蔵穴と思われる SC29・30・31 がある。床面は平坦で、内部から小穴は確認することが出来なかった。遺物は、縄文時代後期初頭の岩崎式、後期前葉の指宿式・市来式などが出土した。

SA30 出土遺物（図 138）

107は波頂部下に垂下降帶を持ち、やや肥厚する口縁部には横方向の刺突を施文する。胴部には、やや太目の沈線により文様を施文する。108は口縁部に貝刺突が廻り、胴部には 2 本単位の沈線で施文し、端部を蘇手状に入り組ませる。口縁端部には刺突が観察され、口唇部には 1 条の沈線を廻らす。109～111は口縁部を肥厚させ、貝などで刺突を行う市来式。112・113は口縁部に斜め方向の短沈線を施文するものである。

SA31（図 123）

調査区北側 AF14・15 区画に位置し、基本土層X層（牛ノ脛火山灰層下部）上面で検出した。平面形は長軸 4.20m、短軸 3.90m の隅丸方形で、深さ 0.31m を測る。南側で 2 段掘り状となり、もう一つの竪穴住居と重複関係となる可能性もあるが、詳細は不明であり同一の竪穴住居として報告する。床面には柱穴と考えられる小穴が認められ、中央部や北側には不整長方形の掘り込みを確認することができる。遺物は出土していたが、整理作業時に確認することは出来なかった。

SA27

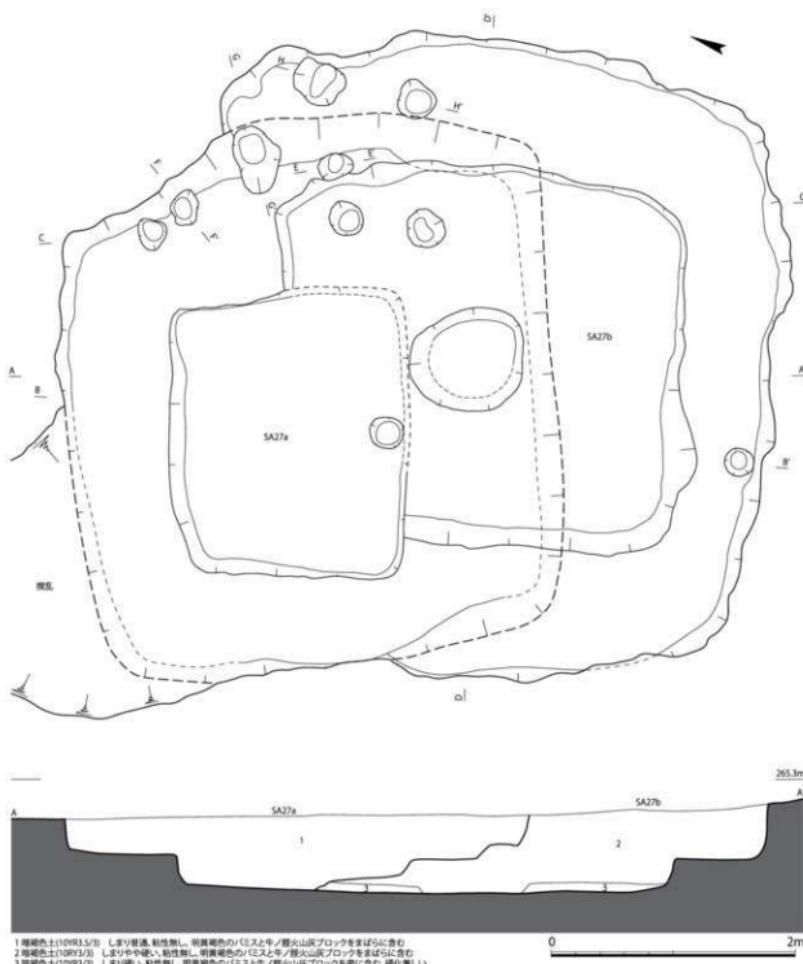


図 118 SA27 整穴住居 1 (1/40)

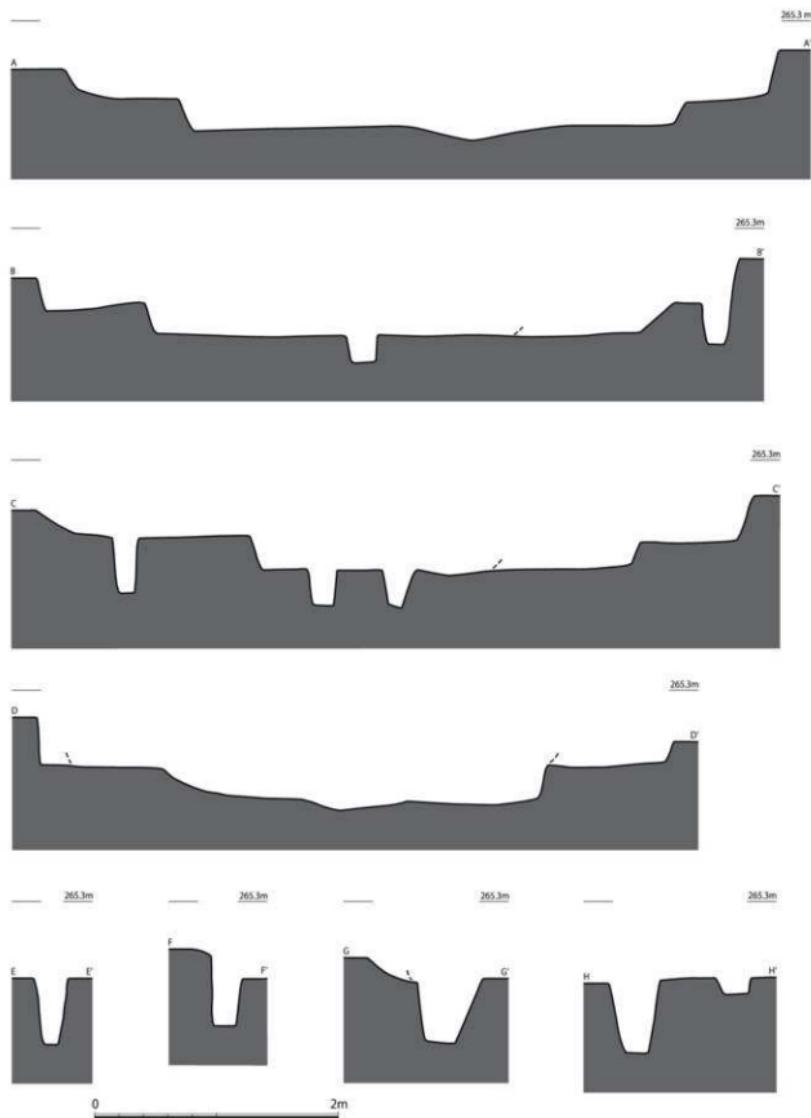


図 119 SA27 整穴住居 2 (1/40)

SA28

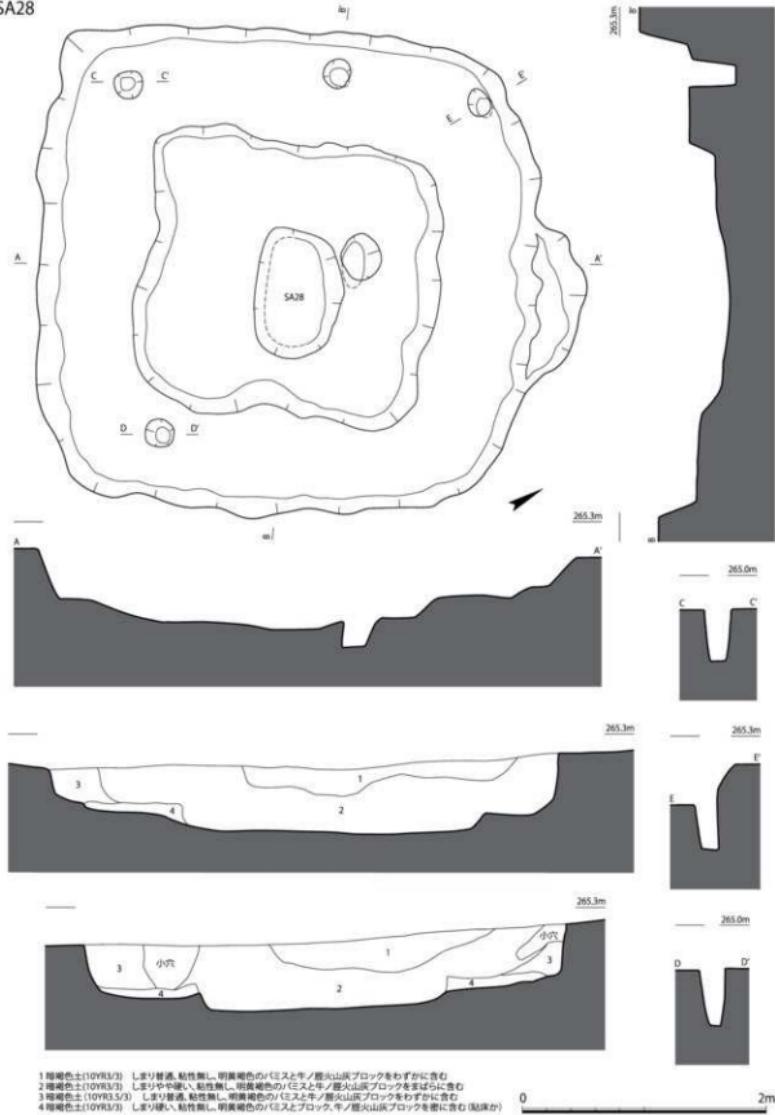
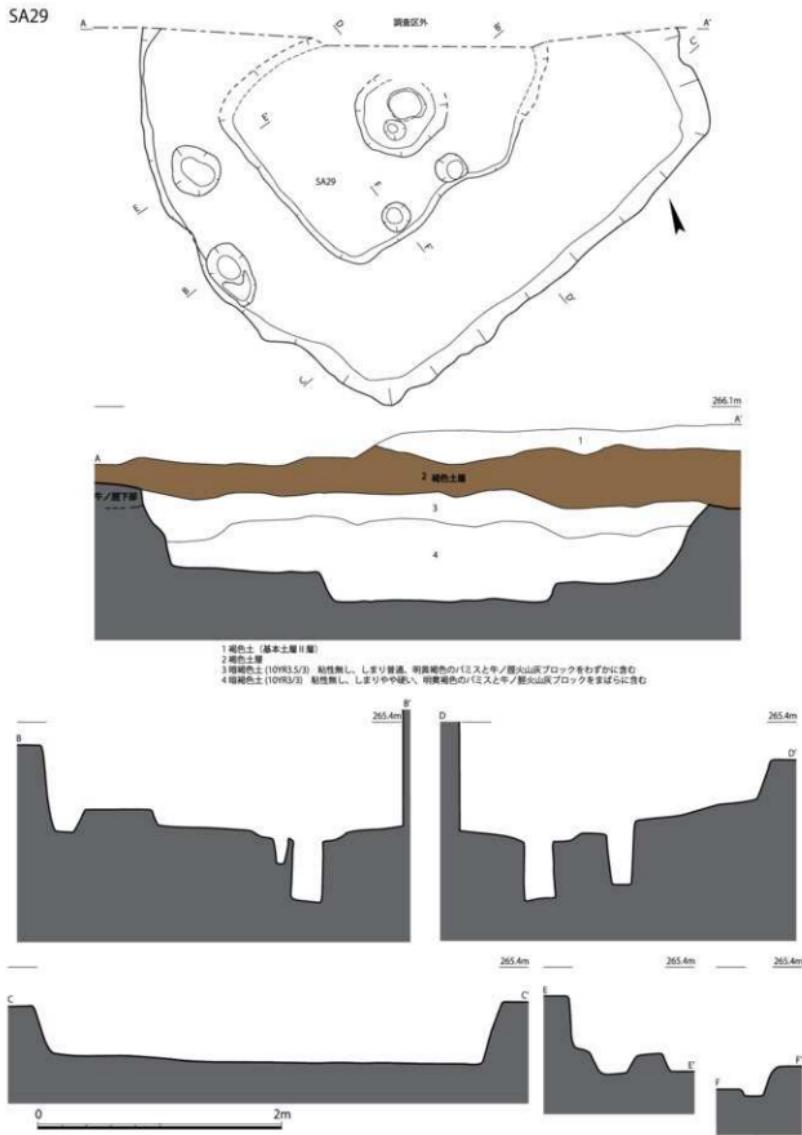


図 120 SA28 穴住居 (1/40)



SA30

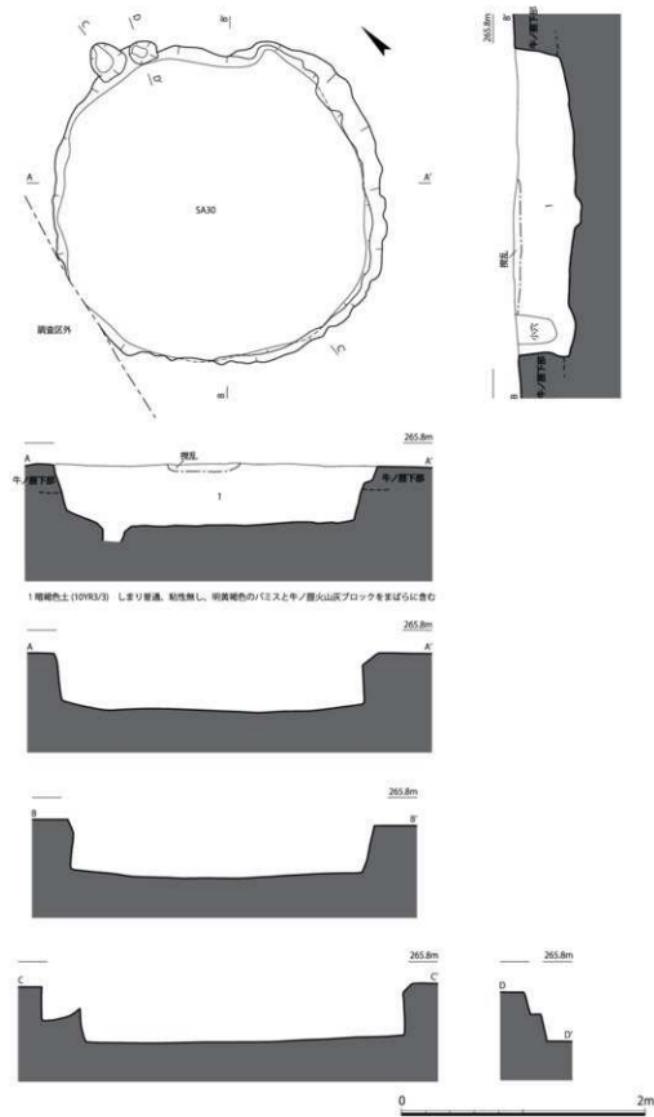


図 122 SA30 穂穴住居 (1/40)

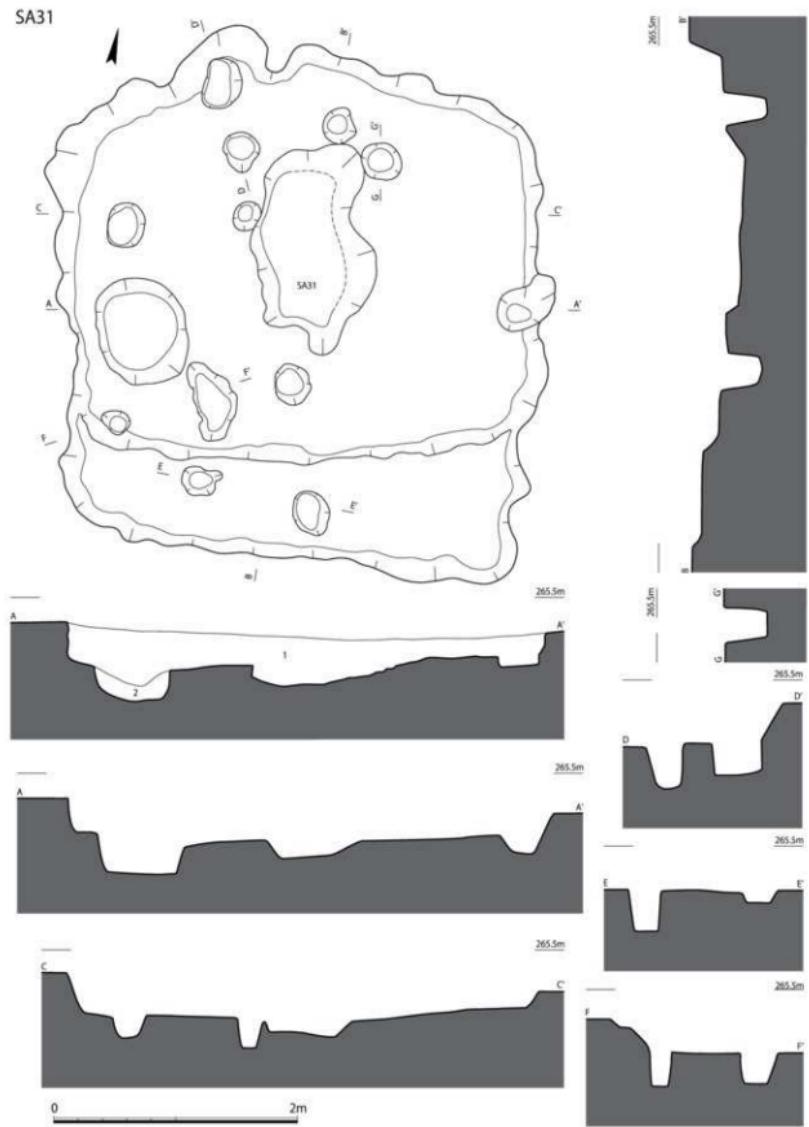


図 123 SA31 壁穴住居 (1/40)

SA32 (図 124)

調査区北側 AF15 区画に位置し、基本土層X層（牛ノ脛火山灰層下部）上面で検出した。平面形は長軸 2.58m、短軸 1.92m+ α の不整隅丸方形もしくは不整円形で、深さ 0.45m を測る。北側は調査区外へと延び、南側で SA33 と重複関係にあり、SA33 より古い。床面は平坦で、中央に不整円形の土坑と周囲に小穴が認められる。遺物は出土していたが、整理作業時に確認することは出来なかった。

SA33 (図 124)

調査区北側 AF15 区画に位置し、基本土層IX層（アカホヤ火山灰層）下位および基本土層X層（牛ノ脛火山灰層下部）上面で検出した。平面形は径 2.75m の円形で、深さ 0.23m を測る。北側で SA32 と南側で SA34 と重複関係にあり、SA32・SA34 より新しい。床面は平坦で、柱穴と考えられる小穴が認められる。埋土中より炭化材が出土し、樹種同定分析を行った結果、クスノキ以外のクスノキ科の樹種のいずれかと同定された。

遺物は出土していたが、整理作業時に確認することは出来なかった。

SA34 (図 125)

調査区北側 AF15 区画に位置し、基本土層IX層（アカホヤ火山灰層）下位で検出した。平面形は径 3.46 ~ 3.79m の不整円形で、深さ 0.15m を測る。北側で SA33 と重複関係にあり、SA33 より古い。床面は平坦で、中央部に小穴を検出した。また、中央部の一部に明褐色土と牛ノ脛火山灰層のブロックを密に含んだ、やや硬質の層を確認しており、貼床の可能性もある。遺物は出土していたが、整理作業時に確認することは出来なかった。

SA35 (図 126)

調査区北側 AF15・16 区画に位置し、基本土層IX層（アカホヤ火山灰層）下位で検出した。平面形は径 2.05 ~ 2.24m の不整円形で、深さ 0.15m を測る。床面は平坦で、壁際に小穴が数基認められる。遺物は弥生土器が出土した。

SA35 出土遺物 (図 138)

114 は口縁部に 1 条の突帯を持つ甕で、底部は厚く脚台状に仕上げる。

SA36 (図 127)

調査区北側 AE17 区画に位置し、基本土層IX層（アカホヤ火山灰層）下位および基本土層X層（牛ノ脛火山灰層下部）上面で検出した。平面形は長軸 2.80m+ α 、短軸 2.74m+ α の隅丸方形で、深さ 0.08m を測る。東側は調査区外へと延び、南側で SA37 と重複関係にあり、SA37 より古い。床面は平坦で、小穴を数基検出した。遺物は出土していたが、整理作業時に確認することは出来なかった。

SA37 (図 127)

調査区北側 AE17・AF17 区画に位置し、基本土層IX層（アカホヤ火山灰層）下位で検出した。平面形は長軸 3.20m+ α 、短軸 2.30m+ α の隅丸方形もしくは不整円形で、深さ 0.29m を測る。東側は調査区外へと延び、北側で SA36 と重複し、SA36 より新しく、南側で SA38 と重複関係にあり、SA38 より古い。床面は平坦で、中央部には方形の掘り込みを確認した。遺物は出土していたが、整理作業時に確認することは出来なかった。

SA38 (図 128)

調査区北側 AF17 区画に位置し、基本土層IX層（アカホヤ火山灰層）下位で検出した。平面形は長軸 1.70m+ α 、短軸 1.39m+ α の隅丸方形で、深さ 0.59m を測る。東側は調査区外へと延び、北側で SA37 と重複関係にあり、SA37 より新しい。床面は平坦で、中央部に方形の掘り込みを確認した。遺物は出土していたが、整理作業時に確認することは出来なかった。

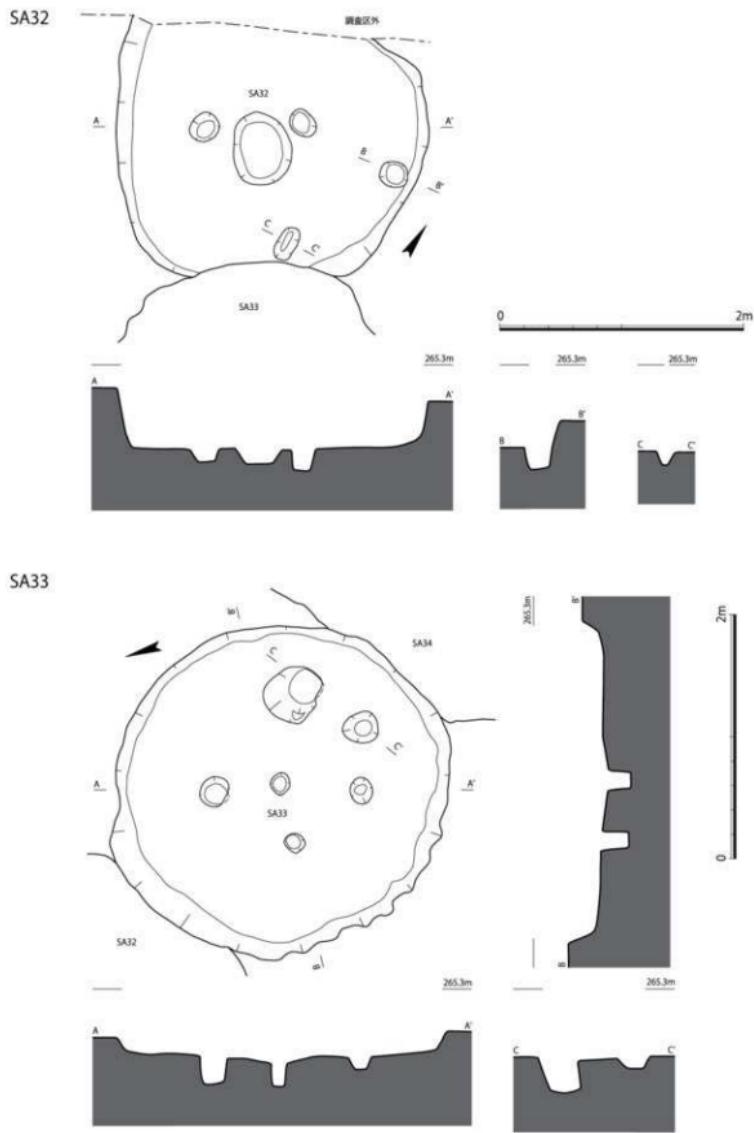


図 124 SA32・33 壁穴住居 (1/40)

SA34

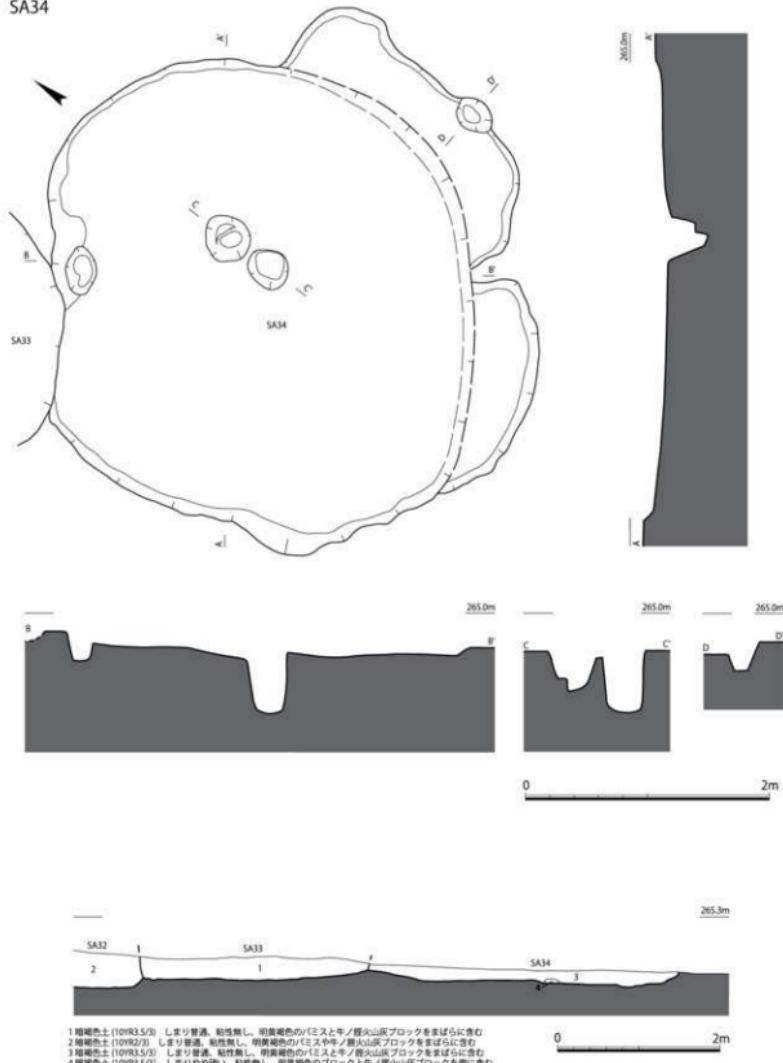
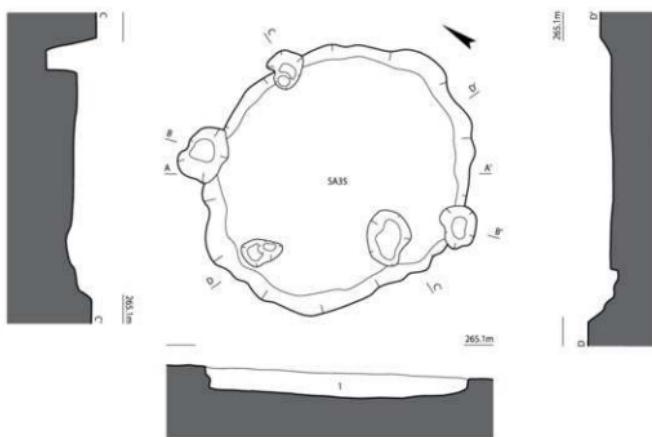


図125 SA34 竪穴住居平面図 (1/40)・断面図 (1/60)

SA35



↑ 暗褐色土 (10YR3/3) しまり普通。粘性無し、暗黄褐色のミミズと牛ノ径火山灰ブロックをまばらに含む。にぶい黄褐色土をまばらに含む

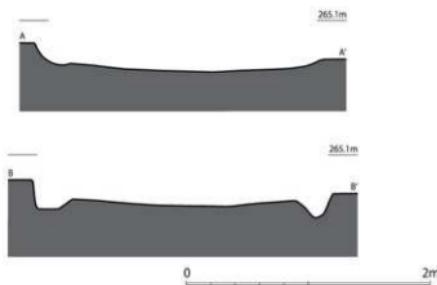
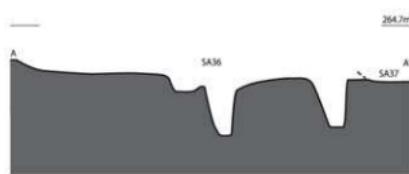
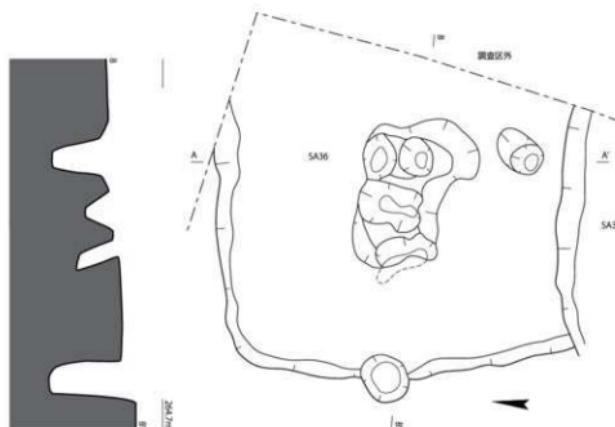


図 126 SA35 穂穴住居 (1/40)

SA36



SA37

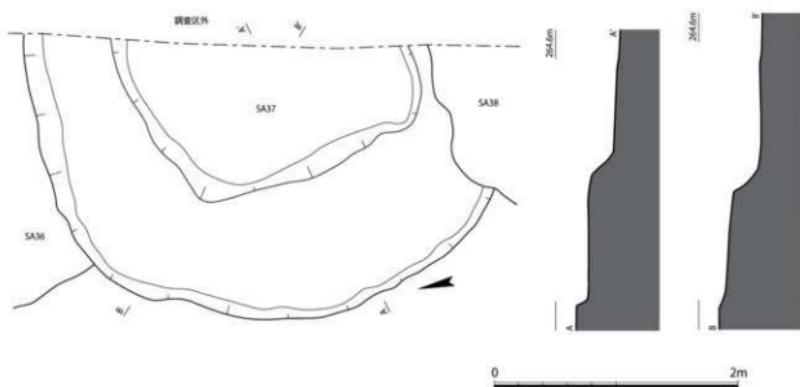


図 127 SA36・37 竪穴住居 (1/40)

SA38

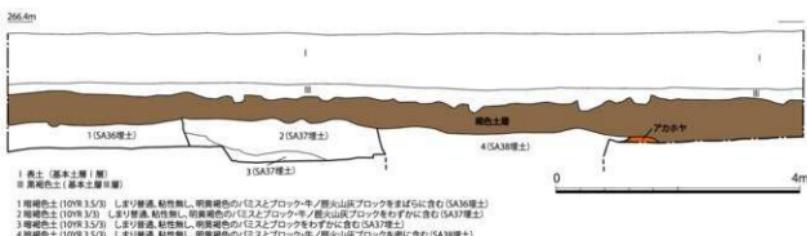
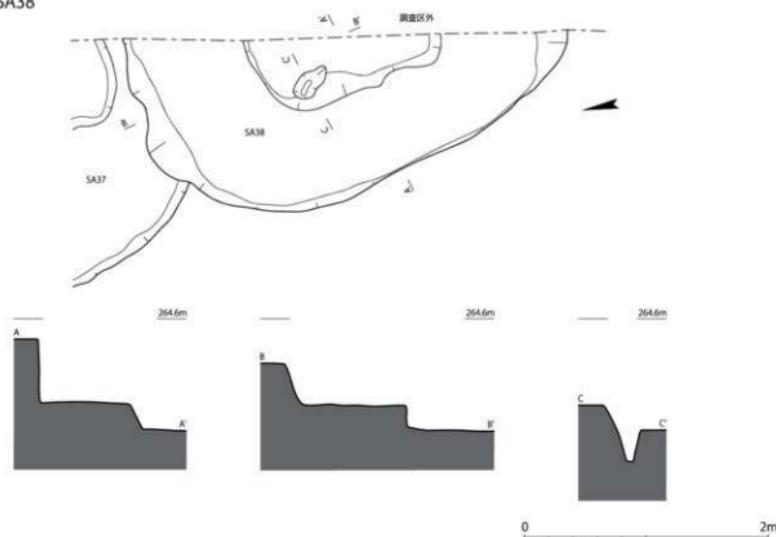


図 128 SA38 穂穴住居平面図 (1/40)・断面図 (1/80)

土坑

SC01 (図 129)

調査区西側 AI12 区画に位置し、基本土層 XI 層（黒褐色土層）で検出した。平面形は径 0.97m の円形である。深さは 0.34m を測るが、AI12 区画周辺は、水田構築の際に掘削を受けており、本来はこれより深かったものと考えられる。縦断面は平坦な底面から直立気味に立ち上がる。遺物は縄文時代後期前葉の指宿式が出土した。

SC01 出土遺物 (図 139)

115 は沈線による施文を行う土器である。116 は磨石で側面に敲打痕が認められる。

SC02 (図 129)

調査区西側 AH13 区画に位置し、基本土層 XI 層（黒褐色土層）で検出した。平面形は径 0.80 ~ 0.85m の円形である。深さは 0.20m を測るが、AH13 区画周辺は、水田構築の際に掘削を受けており、本来はこれより深かったものと考えられる。縦断面は平坦な底面から直立気味に立ち上がる。遺物は縄文時代後期前葉の指宿式が出土した。

SC02 出土遺物 (図 139)

117 ~ 119 は沈線により 2 本単位の文様を施文する。120 は底部。121 は多孔質安山岩を用いた磨石。

SC03 (図 129)

調査区西側 AJ12 区画に位置し、基本土層 XI 層（黒褐色土層）で検出した。平面形は径 1.43 ~ 1.51m の円形である。深さは 0.43m を測るが、AJ12 区画周辺は、水田構築の際に掘削を受けており、本来はこれより深かったものと考えられる。縦断面は平坦な底面から直立もしくは内湾気味に立ち上がる。遺物は縄文時代後期前葉の指宿式が出土した。

SC03 出土遺物 (図 139)

122 は口縁部周囲に刻目を伴う隆線を貼り付け、口縁部には縦長の刺突が観察される。123 ~ 125 は沈線もしくは刺突により施文する。126 は口縁部が強くすぼまる壺形の器形となる。

SC04 (図 129)

調査区中央部 AI13 区画に位置し、基本土層 X 層（牛ノ脛火山灰層下部）で検出した。平面形は径 1.08 ~ 1.43m の不整梢円形で、深さは 0.20m を測る。縦断面は平坦な底面から内湾気味に立ち上がり、中位から外反するフラスコ状の形態となる。埋土中より大量の炭化種子が出土し種実同定の結果、イチイガシ以外のコナラ属と同定された。遺物は縄文時代後期前葉の指宿式・市来式が出土し、底面からは小型の完形土器も出土した。

SC04 出土遺物 (図 139)

127 は底面付近から出土した小型の完形土器で、口唇部に刻みを有す。128 は 2 本沈線間に貝刺突が認められる、129 は肥厚する口縁部に刺突が認められる。131・132 は磨石で、131 は側面に敲打痕を作り、130 は磨製石斧で刃部を欠損する。

SC05 (図 129)

調査区中央部 AH13・AI13 区画に位置し、基本土層 X 層（牛ノ脛火山灰層下部）上面で検出した。平面形は径 0.81 ~ 1.15m の不整梢円形で、深さは 0.85m を測る。縦断面は平坦な底面から内湾気味に立ち上がる。埋土中より炭化種子が出土し種実同定の結果、イチイガシ以外のコナラ属と同定された。遺物は縄文時代後期前葉の市来式が出土した。

SC05 出土遺物 (図 139)

133・134 は肥厚する口縁部に刺突を行う土器である。

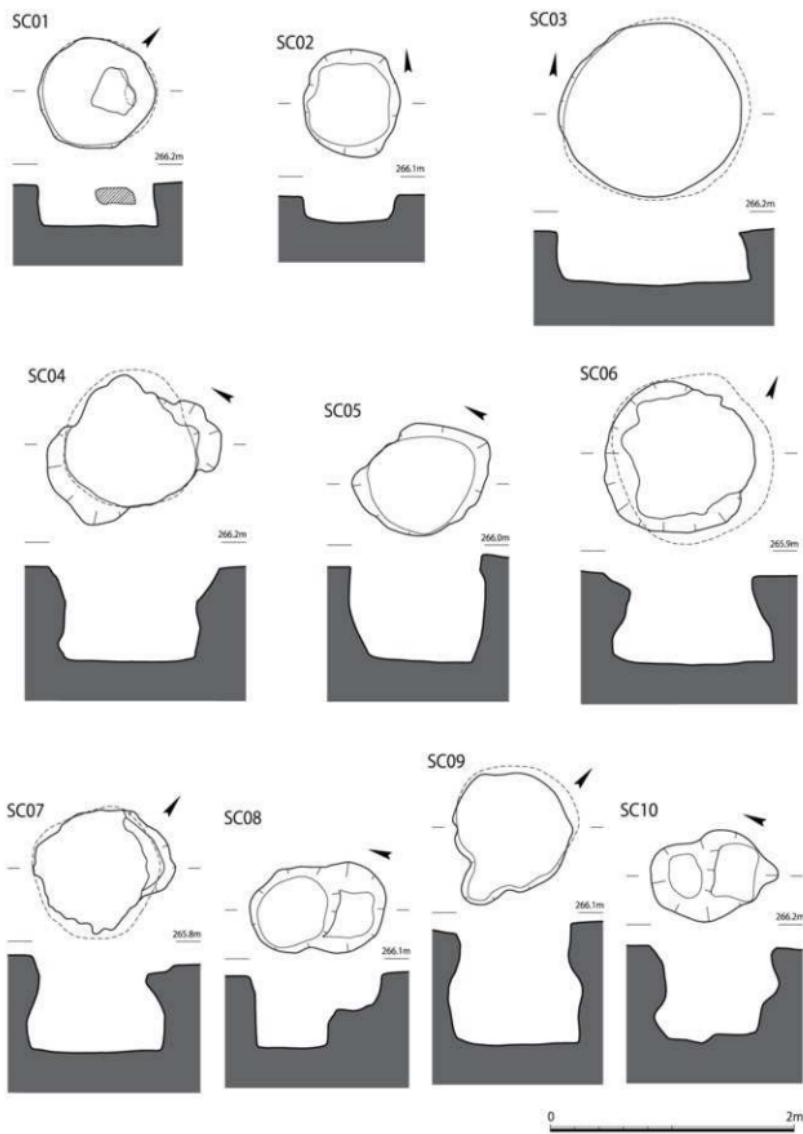


図 129 SC01 ~ 10 土坑 (1/40)

SC06 (図 129)

調査区中央部 AH14・AI14 区画に位置し、基本土層X層(牛ノ脛火山灰層下部)上面で検出した。平面形は径 1.25m の不整円形で、深さは 0.72m を測る。縦断面は平坦な底面から内湾気味に立ち上がり、東側は上位で外反するフ拉斯コ状となる。遺物は縄文時代後期前葉の出水式・指宿式・市来式が出土した。

SC06 出土遺物 (図 140)

135・136 は口縁部から頸部にかけて斜め方向の短沈線と刺突を伴うもので、両者共に暗赤褐色系の色調である。熊本県相良村野原遺跡 2号住居で纏まって出土したものに類似する。135 はほぼ完形となるもので、復元口径 30.4cm、底径 10.8cm、器高 28.2cm を測る。137・138 は肥厚する口縁部に刺突を行う土器である。139 は内外面ナデ調整の無文土器。140 は砂岩を用いた敲打痕のある敲石。

SC07 (図 129)

調査区中央部 AH14・AI14 区画に位置し、基本土層X層(牛ノ脛火山灰層下部)上面で検出した。平面形は径 1.01 ~ 1.16m の不整円形で、深さは 0.78m を測る。縦断面は平坦な底面から内湾気味に立ち上がり、上位で外反するフ拉斯コ状となる。遺物は縄文時代後期前葉の指宿式・市来式が出土した。

SC07 出土遺物 (図 140)

141 は波状する口縁部の外面に S 字状の蛇行文を施文する。142 は橋状把手を持つ。143 は口縁部を肥厚させ沈線と貝刺突を行う。

SC08 (図 129)

調査区南側 AJ13 区画に位置し、基本土層X層(牛ノ脛火山灰層下部)上面で検出した。平面形は径 0.65 ~ 1.14m の不整楕円形で、深さは 0.58m を測る。縦断面は平坦な底面から北側は直立気味に立ち上がり、南側は 2段掘り状になる。遺物は縄文時代後期前葉の出水式が出土した。

SC08 出土遺物 (図 140)

144 は石英斑岩を用いた磨石。

SC09 (図 129)

調査区南側 AJ13 区画に位置し、基本土層IX層(アカホヤ火山灰層)下位および基本土層X層(牛ノ脛火山灰層下部)上面で検出した。平面形は径 0.97 ~ 1.15m の不整円形で、深さは 0.96m を測る。縦断面は平坦な底面から内湾気味に立ち上がり、上位で外反するフ拉斯コ状となる。遺物は縄文時代後期前葉の指宿式・出水式が出土した。

SC09 出土遺物 (図 140)

145 は刻目隆帯を持つ。146 は波状口縁の口縁部から頸部にかけて沈線と刺突を施文し、外面には煤が付着する。147 は肥厚する口縁部に沈線と刺突を施文し、胴部にも同様の沈線を施す指宿式の深鉢。

SC10 (図 129)

調査区南側 AJ13 区画に位置し、基本土層X層(牛ノ脛火山灰層下部)上面で検出した。平面形は径 0.68 ~ 1.05m の不整楕円形で、深さは 0.80m を測る。縦断面は平坦な底面から内湾気味に立ち上がり、上位で外反する。遺物は縄文時代後期前葉の遺物が出土した。

SC10 出土遺物 (図 140)

148・149 は沈線により施文を行う縄文時代後期前葉頃のものである。

SC11 (図 130)

調査区南側 AJ13 区画に位置し、基本土層X層(牛ノ脛火山灰層下部)上面で検出した。平面形は径 0.73 m

$\alpha \sim 1.19\text{m}$ の不整円形で、深さは 0.35m を測る。縦断面は平坦な底面から直立気味に立ち上がる。SC12・13との重複の新旧関係は不明であり、遺物は縄文時代後期前葉の指宿式が出土した。

SC11 出土遺物（図 140）

150 は沈線により施文を行う、厚手の土器である。151・152 は無文土器。

SC12（図 130）

調査区南側 AJ13 区画に位置し、基本土層 X 層（牛ノ脛火山灰層下部）上面で検出した。平面形は径 0.81 m $\sim \alpha \sim 0.92\text{m}$ の円形で、深さは 0.24m を測る。縦断面は平坦な底面から直角気味に立ち上がる。SC11・13 との重複の新旧関係は不明であり、遺物は縄文時代後期前葉の指宿式が出土した。

SC12 出土遺物（図 140）

153～155 はナデ調整後に沈線施文が行われ、155 は鋸歯状の文様を施文する。

SC13（図 130）

調査区南側 AJ13 区画に位置し、基本土層 X 層（牛ノ脛火山灰層下部）上面で検出した。平面形は径 $0.73 \sim 0.85\text{m}$ の円形で、深さは 0.32m を測る。縦断面は平坦な底面から内湾気味に立ち上がる。SC11・12 との重複の新旧関係は不明であり、遺物は縄文時代後期前葉の指宿式が出土したが、小片のため図示しなかった。

SC14（図 130）

調査区南側 AJ13 区画に位置し、基本土層 X 層（牛ノ脛火山灰層下部）上面で検出した。平面形は径 $0.96 \sim 1.01\text{m}$ の円形で、深さは 0.25m を測る。縦断面は平坦な底面から直立気味に立ち上がる。遺物は縄文時代後期前葉の指宿式が出土した。

SC14 出土遺物（図 141）

156 は沈線により施文を行う土器である。157・158 は磨石。

SC15（図 130）

調査区南側 AK14 区画に位置し、基本土層 IX 層（アカホヤ火山灰層）下位で検出した。平面形は径 $0.65 \sim 1.48\text{m}$ の不整格円形で、深さは 0.91m を測る。縦断面は平坦な底面から直立気味に立ち上がるが、西側は 2 段掘り状になる。遺物は縄文時代後期前葉の指宿式や石皿が出土した。

SC15 出土遺物（図 141）

159 は安山岩を用いた石皿の破片で、使用による窪みが認められる。

SC16（図 130）

調査区南側 AJ14 区画に位置し、基本土層 IX 層（アカホヤ火山灰層）下位で検出した。平面形は径 $0.55 \sim 0.95\text{m}$ の楕円形で、深さは 0.45m を測る。縦断面は平坦な底面からやや直立気味に立ち上がる。遺物は出土しなかった。

SC17（図 130）

調査区南側 AJ14・AK14 区画に位置し、基本土層 IX 層（アカホヤ火山灰層）下位で検出した。平面形は径 $0.71 \sim 0.94\text{m}$ の不整円形で、深さは 0.26m を測る。縦断面は平坦な底面から直立気味に立ち上がる。遺物は縄文時代後期前葉の市来式が出土した。

SC17 出土遺物（図 141）

160 は肥厚する口縁部に沈線や貝刺突などを行う。

SC18 (図 130)

調査区南側 AJ14 区画に位置し、基本土層IX層（アカホヤ火山灰層）下位で検出した。平面形は径 0.80 ~ 0.94m の不整円形で、深さは 0.15m を測る。縦断面は平坦な底面から緩やかに立ち上がる。遺物は縄文時代後期前葉の指宿式が出土した。

SC18 出土遺物 (図 141)

161 は横走沈線と刻みを施す。162 は口縁部に縦方向の短沈線を廻らせ、内面頸部付近には稜線が認められる。163 は口唇部に刻みを持つ無文土器。164 は沈線により施文を行う。165・166 は無文土器、167 は底部、168 は土製円盤である。

SC19 (図 130)

調査区南側 AK14 区画に位置し、基本土層IX層（アカホヤ火山灰層）下位で検出した。平面形は径 0.78 ~ 0.94m の不整円形で、深さは 0.79m を測る。縦断面は平坦な底面から内湾気味に立ち上がる。埋土中より炭化種子が出土し種実同定の結果、イチイガシ以外のコナラ属と同定された。また、埋土中の炭化種子の放射性炭素年代測定を実施したところ、 3790 ± 40 年 BP (1 σ の曆年代で 2290 ~ 2190, 2180 ~ 2140 年) の年代値であった。遺物は縄文時代後期前葉の指宿式、後期前葉の三万田式が出土した。

SC19 出土遺物 (図 142)

169 ~ 171 は沈線により施文する指宿式、172 はミガキ調整を行う。

SC20 (図 130)

調査区南側 AK14 区画に位置し、基本土層IX層（アカホヤ火山灰層）下位および基本土層XI層（牛ノ脛火山灰層下部）上面で検出した。平面形は径 1.00 ~ 1.29m の円形で、深さは 0.93m を測る。縦断面は平坦な底面から直立気味に立ち上がる。遺物は縄文時代後期前葉の岩崎式・市来式が出土した。

SC20 出土遺物 (図 142)

173 は三角形状に肥厚する口縁部に沈線を施文するもので、沈線内刺突も観察される。

SC21 (図 130)

調査区南側 AJ14 区画に位置し、基本土層IX層（アカホヤ火山灰層）下位および基本土層XI層（牛ノ脛火山灰層下部）上面で検出した。平面形は径 0.69 ~ 1.13m の不整梢円形で、深さは 0.87m を測る。縦断面は平坦な底面から直立気味に立ち上がり、上位で 2段掘り状となる。遺物は縄文時代後期前葉頃の遺物が少量出土したが、小片のため図示しなかった。

SC22 (図 130)

調査区東側 AJ15 区画に位置し、基本土層X層（牛ノ脛火山灰層下部）上面で検出した。平面形は径 0.98 ~ 1.19m の円形で、深さは 0.52m を測る。縦断面は平坦な底面から直立気味もしくは内湾気味に立ち上がる。遺物は縄文時代後期前葉の市来式が出土した。

SC22 出土遺物 (図 142)

174 は肥厚する口縁部に沈線・刺突を行う市来式。

SC23 (図 131)

調査区東側 AJ15 区画に位置し、基本土層X層（牛ノ脛火山灰層下部）上面で検出した。平面形は径 1.08 m + α ~ 1.18m で、東側が調査区外へと延びるため不明であるが、不整梢円形となるものと考えられる。深さは 0.54m を測る。縦断面は平坦な底面から直立気味もしくは内湾気味に立ち上がる。遺物は縄文時代後期後葉の三万田式の

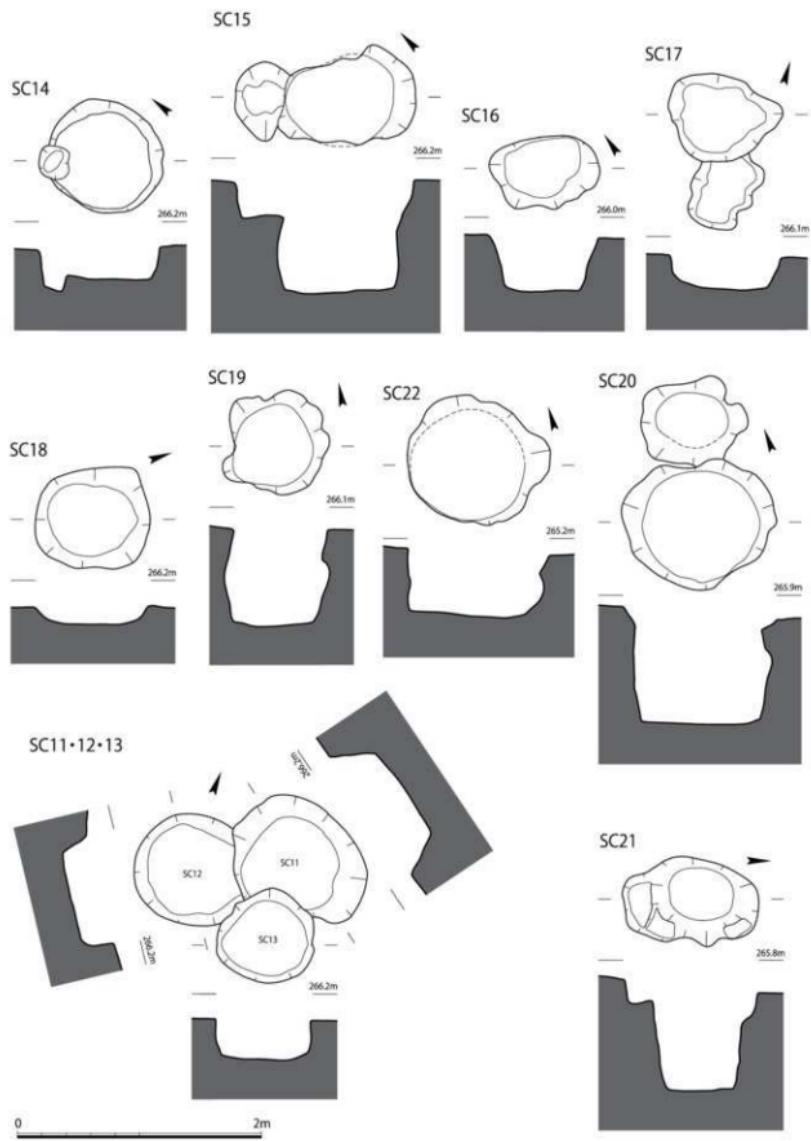


図 130 SC11～22 土坑 (1/40)

山中遺跡 8区の調査

小破片が1点出土したのみである。

SC23 出土遺物（図142）

176は内外面ミガキ調整である。

SC24（図131）

調査区東側 AJ15 区画に位置し、基本土層X層(牛ノ脛火山灰層下部)上面で検出した。平面形は径 0.79 ~ 0.93m の円形で、深さは 0.86m を測る。縦断面は平坦な底面から内湾気味に立ち上がる。遺物は縄文時代後期前葉頃の無文土器が少量出土したが、小破片のため図示しなかった。

SC25（図131）

調査区東側 AI15 区画に位置し、基本土層X層(牛ノ脛火山灰層下部)上面で検出した。平面形は径 1.22 ~ 1.55m の不整梢円形で、深さは 0.45m を測る。縦断面は平坦な底面から直立気味に立ち上がる。遺物は縄文時代後期中葉の西平式が出土した。

SC25 出土遺物（図142）

176 ~ 178は口縁部を屈曲させる西平式で、いずれも縄文を施文する。179は外反気味に立ち上がる口縁で、内外面に丁寧なミガキ調整が認められる。

SC26（図131）

調査区東側 AI15 区画に位置し、基本土層X層(牛ノ脛火山灰層下部)上面で検出した。平面形は径 0.99 ~ 1.35m の不整梢円形で、深さは 0.50m を測る。縦断面は平坦な底面から直立気味に立ち上がる。遺物は縄文時代後期後葉の三万田式が出土した。

SC26 出土遺物（図142）

180 ~ 182は三万田式の深鉢で、内外面を丁寧なミガキ調整で整える。182は口縁部から胴部最大径付近まで横方向のミガキ調整、胴部下半以下は縦方向のミガキ調整となる。183は玉髓製の石鏃で、先端部を欠損する。

SC27（図131）

調査区東側 AI15 区画に位置し、基本土層X層(牛ノ脛火山灰層下部)上面で検出した。平面形は径 1.15 ~ 1.44m の不整円形で、深さは 0.40m を測る。縦断面は平坦な底面から直立気味もしくは内湾気味に立ち上がる。遺物は縄文時代後期中葉の西平式、後期後葉の三万田式が出土した。

SC27 出土遺物（図142）

184は口縁部を屈曲させる西平式で、縄文は認められない。185・186はミガキ調整が観察される深鉢。

SC28（図131）

調査区東側 AI14 区画に位置し、基本土層IX層(アカホヤ火山灰層)下位および基本土層X層(牛ノ脛火山灰層下部)上面で検出した。平面形は径 1.06 ~ 1.28m の不整円形で、深さは 0.88m を測る。SA16と重複するが新旧関係は不明。縦断面は平坦な底面から内湾気味に立ち上がり、上位で外反するフラスコ状となる。遺物は縄文時代後期前葉の岩崎式・指宿式が出土した。

SC28 出土遺物（図142）

187は沈線により文様を施文する指宿式で、波頂部に刻みを持つ。

SC29（図131）

調査区東側 AG14 区画に位置し、基本土層X層(牛ノ脛火山灰層下部)上面で検出した。平面形は径 0.84 ~ 0.98m

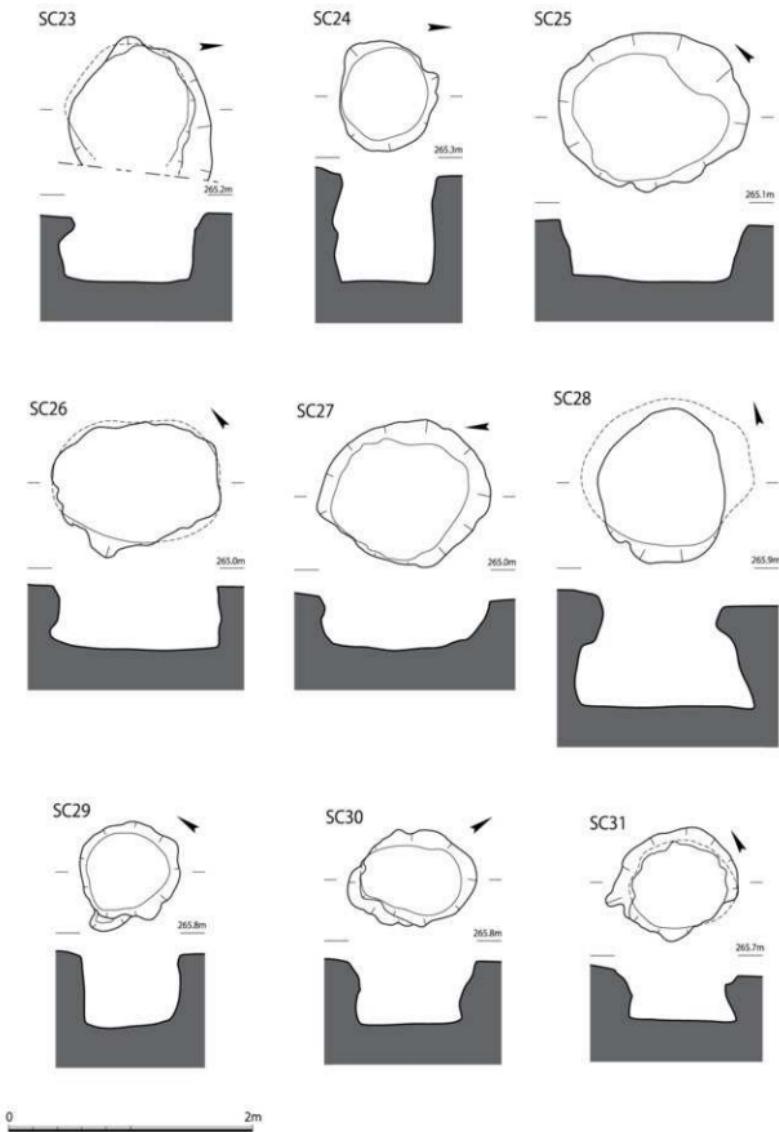


図 131 SC23 ~ 31 土坑 (1/40)

山中遺跡 8区の調査

の不整円形で、深さは 0.59m を測る。縦断面は平坦な底面から直立気味もしくは内湾気味に立ち上がる。埋土中より炭化材が出土し、樹種同定分析を行った結果、イヌガヤと同定された。

遺物は縄文時代後期頃の遺物が少量出土したのみである。

SC29 出土遺物（図 142）

188 は内外面ミガキ調整を行う無文深鉢。

SC30（図 131）

調査区東側 AG14 区画に位置し、基本土層 X 層（牛ノ脛火山灰層下部）上面で検出した。平面形は径 0.76 ~ 1.06m の不整円形で、深さは 0.50m を測る。縦断面は平坦な底面から内湾気味に立ち上がり中位で外反する。遺物は出土しなかった。

SC31（図 131）

調査区東側 AG14 区画に位置し、基本土層 X 層（牛ノ脛火山灰層下部）上面で検出した。平面形は径 0.80 ~ 1.08m の不整円形で、深さは 0.38m を測る。縦断面は平坦な底面から内湾気味に立ち上がり、中位で外反するフラスコ状になる。遺物は縄文時代後期初頭～前葉の岩崎式、後期前葉の指宿式が出土した。

SC31 出土遺物（図 142）

189 は口縁部波頂部下に渦文を施文する岩崎式。

SC32

詳細不明のため図示しなかった。整理作業の段階で認定した SC33 ~ 36 のどれかと同一の可能性もある。遺物は縄文時代後期前葉頃の遺物が少量出土しているほか、石皿が出土した。

SC32 出土遺物（図 143）

190 は安山岩を用いた石皿の破片で、使用により大きく窪んでいる。

SC33（図 132）

調査区中央部 AI13 区画に位置し、基本土層 X 層（牛ノ脛火山灰層下部）上面で検出した。径 1.15 ~ 1.23m の円形で、深さ 0.78m を測る。SA15 と重複し、SA15 より新しい。底面は平坦で、南側の壁は直立気味に立ち上がり、北側は内湾気味に立ち上がる。遺物は確認できていないが重複する SA15 からは、縄文時代後期前葉の岩崎式・指宿式・市来式、後期中葉の西平式などが出土している。

SC34（図 132）

調査区南側 AJ13 区画に位置し、基本土層 IX 層（アカホヤ火山灰層）下位もしくは基本土層 X 層（牛ノ脛火山灰層下部）上面で検出した。平面形は径 0.70 ~ 0.80m の不整円形で、深さ 0.93m を測る。SA18 と重複するが、新旧関係および竪穴住居との関連は定かではない。遺物は確認できていないが、重複する SA18 から、縄文時代後期前葉の岩崎式・指宿式が出土している。

SC35（図 132）

調査区南側 AJ13 区画に位置し、基本土層 X 層（牛ノ脛火山灰層下部）上面で検出した。平面形は径 0.90 ~ 1.38m の不整梢円形で、深さ 0.64m を測る。SA19 と重複するが、新旧関係および竪穴住居との関連は定かではない。遺物は確認できていないが重複する SA19 から、縄文時代後期前葉の指宿式が出土した。

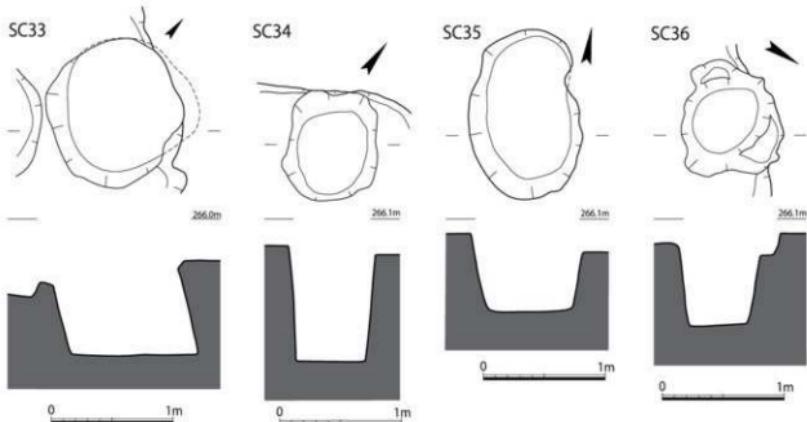


図132 SC33～36 土坑 (1/40)

SC36 (図132)

調査区南側AJ13区画に位置し、基本土層X層（牛ノ脛火山灰層下部）上面で検出した。平面形は径0.80m前後の不整円形で、深さ0.75mを測る。SA19と重複するが、新旧関係および竪穴住居との関連は定かではない。遺物は確認できていないが重複するSA19から、縄文時代後期前葉の指宿式が出土した。

3 遺構外出土遺物

縄文時代～弥生時代の土器 (図143～150)

191・192は同一個体で、2本単位の沈線を横走させ、文様は部分的に途切れる。内面はナデ調整である。

193は内外面に押引文を施し、口唇部にも2本単位の刺突を施す。

194は内外面に縄文施文を行い、刻みを持つ隆線を貼り付ける。口縁端部付近にも隆線を貼り付けた痕跡を残しているが、隆線は剥落している。口唇部にはやや太めの刺突を施す。

195は隆線による貼付を行なう施文している。

196は凹線により施文を行う阿高式で、外面には炭化物が多量に付着している。口唇部には阿高式特有の刻みが認められ、内面はナデ調整であるが外面文様の影響で内面には凹凸が認められる。放射線炭素年代測定の結果、 3920 ± 40 年BP (1σ の暦年代でBC2470～2340年) の年代値が得られている。

197は凹線により施文を行う岩崎式で、口唇部には貝刺突が認められるが、貝刺突を交差させる部分がある。

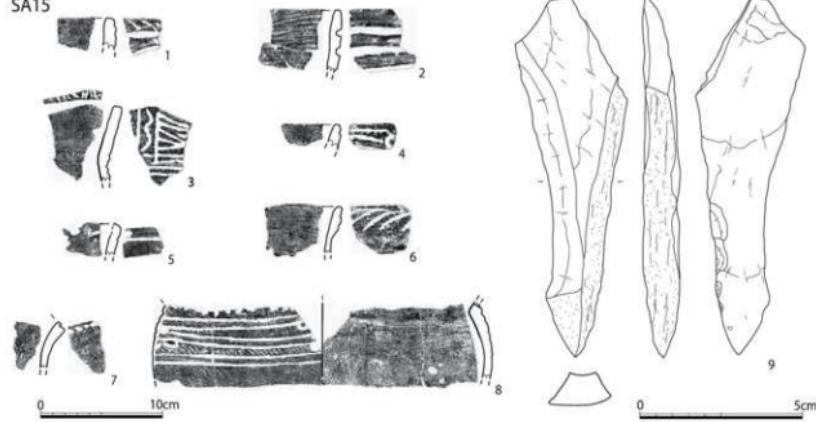
198・199は沈線による施文を行う岩崎式で、199は2本単位の文様を施文する。

200は肥厚する口縁に刺突を行い、胸部には格子状の文様を施文する。

201～209は沈線により施文するもの。202～205は斜方向の短沈線や刺突を行う文様構成で、SC06出土の135に類似する。

210～213は磨消縄文土器である。

SA15



SA16

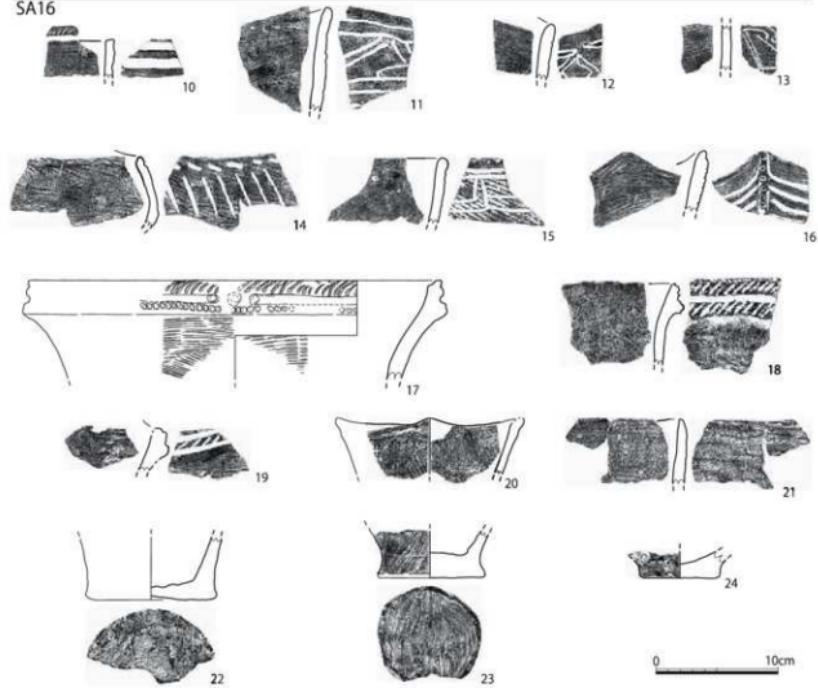
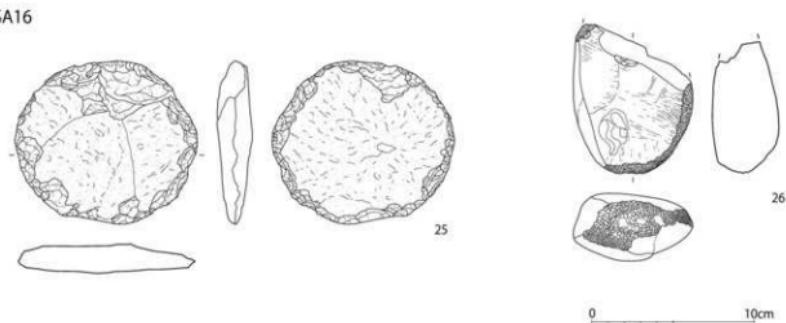


図 133 SA15・16 出土遺物 (9:2/3 その他:1/4)

SA16



SA17

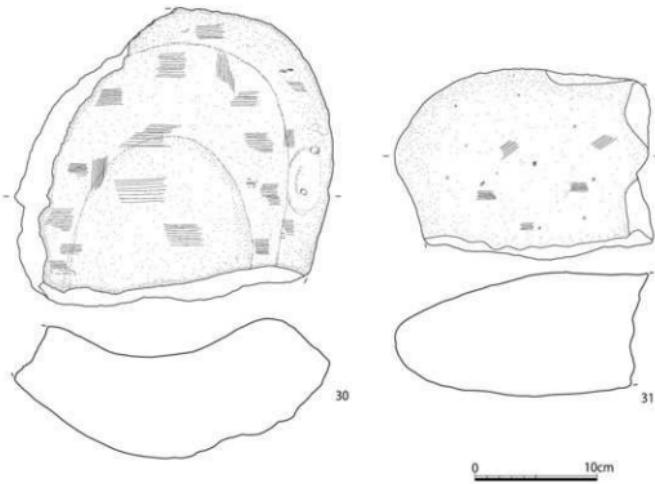
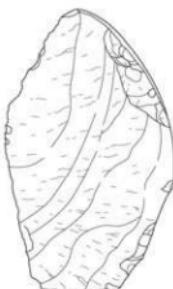
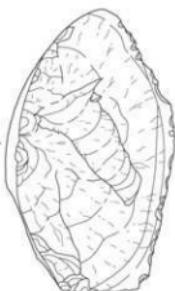


図134 SA16・17 出土遺物 (25・26:1/3 その他:1/4)

SA18



0 10cm



33



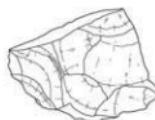
0 5cm



34



35



0 5cm



36

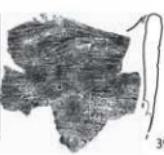
SA19



37



38



39



40



41



42



43



45



46



47



44

0 10cm

図 135 SA18・19 出土遺物 (33・34:2/3 35・36:1/3 その他:1/4)

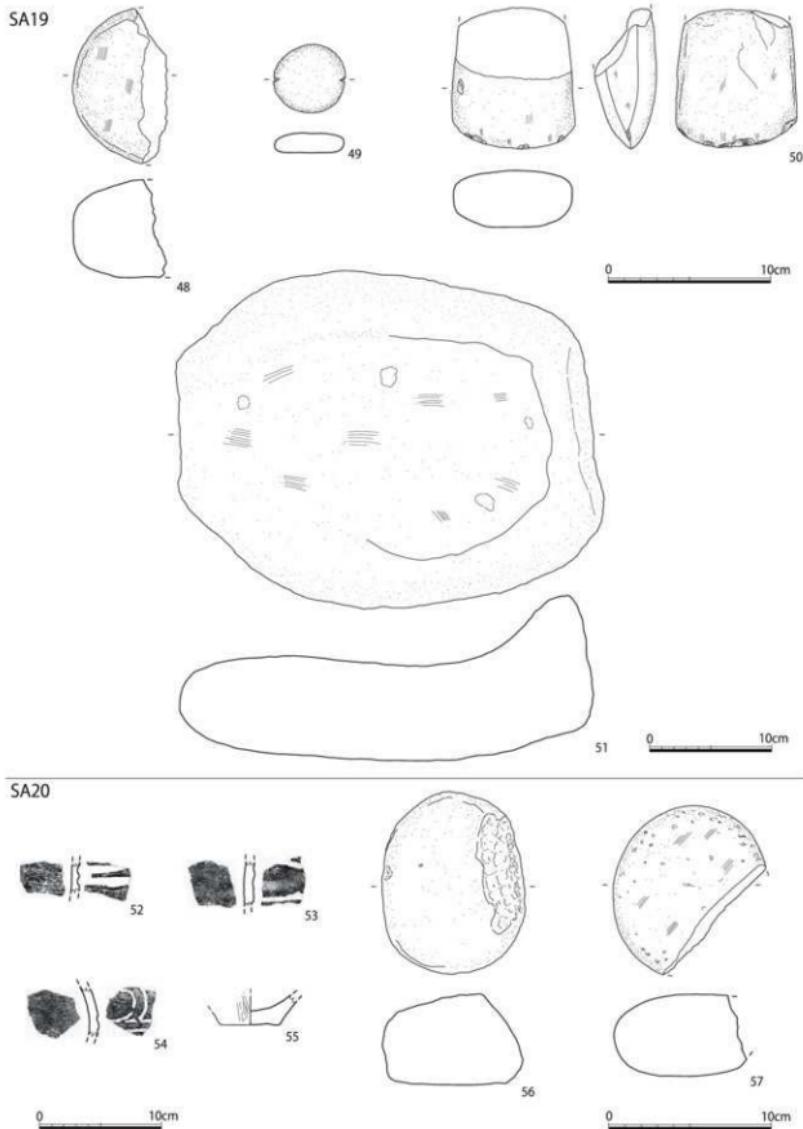


図136 SA19・20出土遺物 (48・49・50・56・57:1/3 その他:1/4)

SA21



58

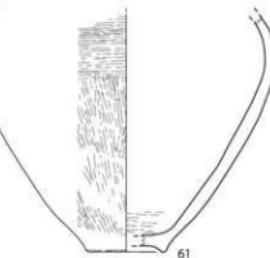


59

0 10cm



60



61

SA22



SA23



63



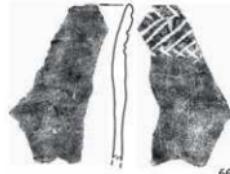
64



65

0 10cm

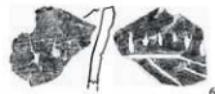
SA25



66



67



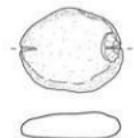
69



70



68



73

0 10cm



72

0 10cm

SA27



74



75



76



77



78



79



80



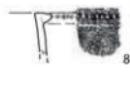
81



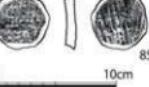
82



83



84

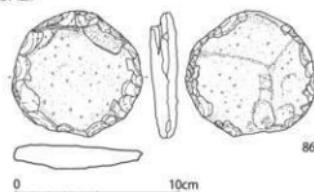


85

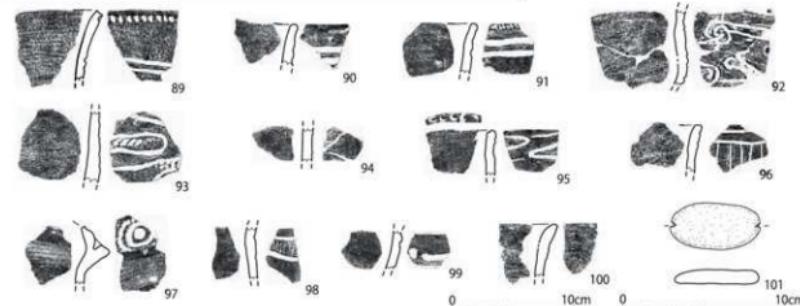
0 10cm

図 137 SA21・22・23・25・27 出土遺物 (73:1/3 その他:1/4)

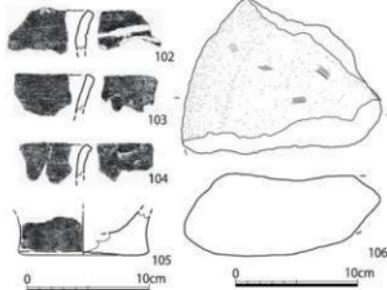
SA27



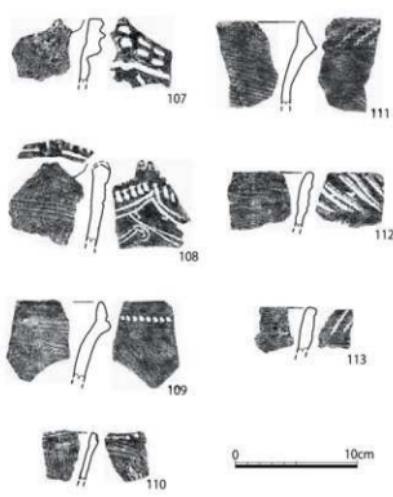
SA28



SA29



SA30



SA35

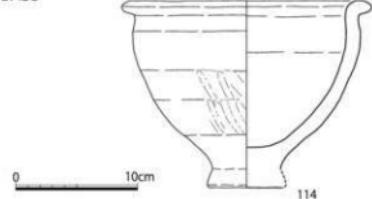


図 138 SA27・28・29・30・35 出土遺物 (86・87・101: 1/3 その他: 1/4)

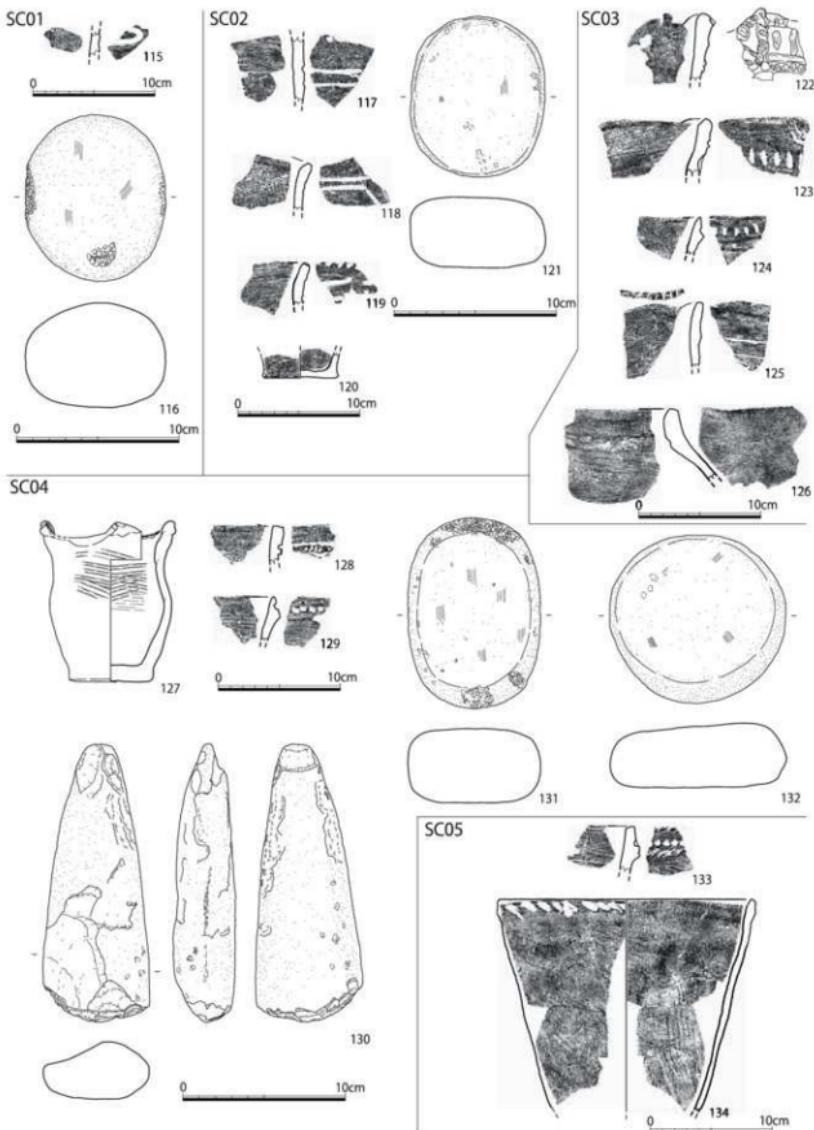


図 139 SC01 ~ 05 出土遺物 (116・121・130・131・132 : 1/3 その他 : 1/4)

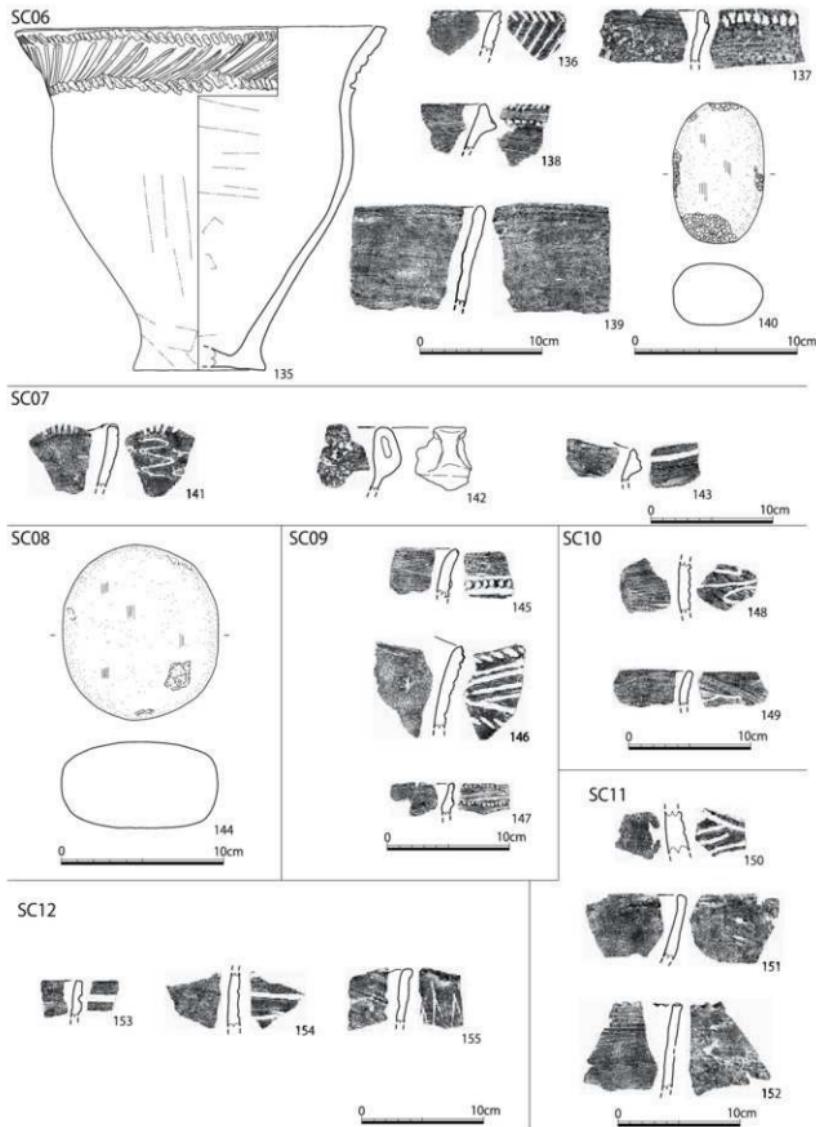
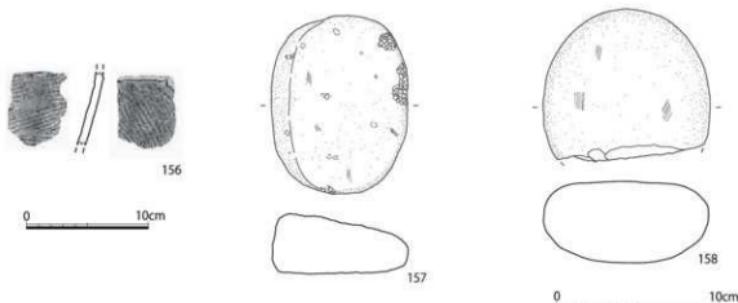


図 140 SC06 ~ 12 出土遺物 (140・144: 1/3 その他: 1/4)

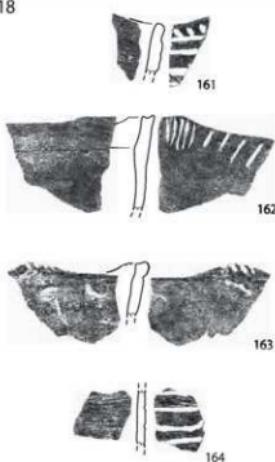
SC14



SC15



SC18



SC17

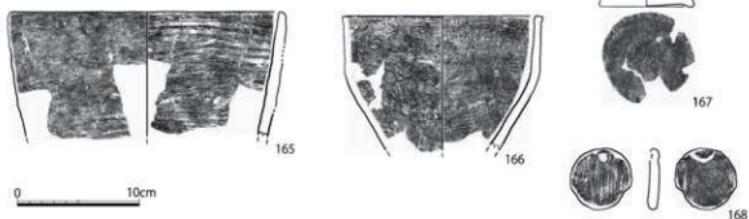
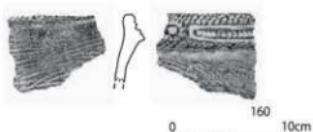


図 141 SC14・15・17・18 出土遺物 (157・158: 1/3 その他: 1/4)

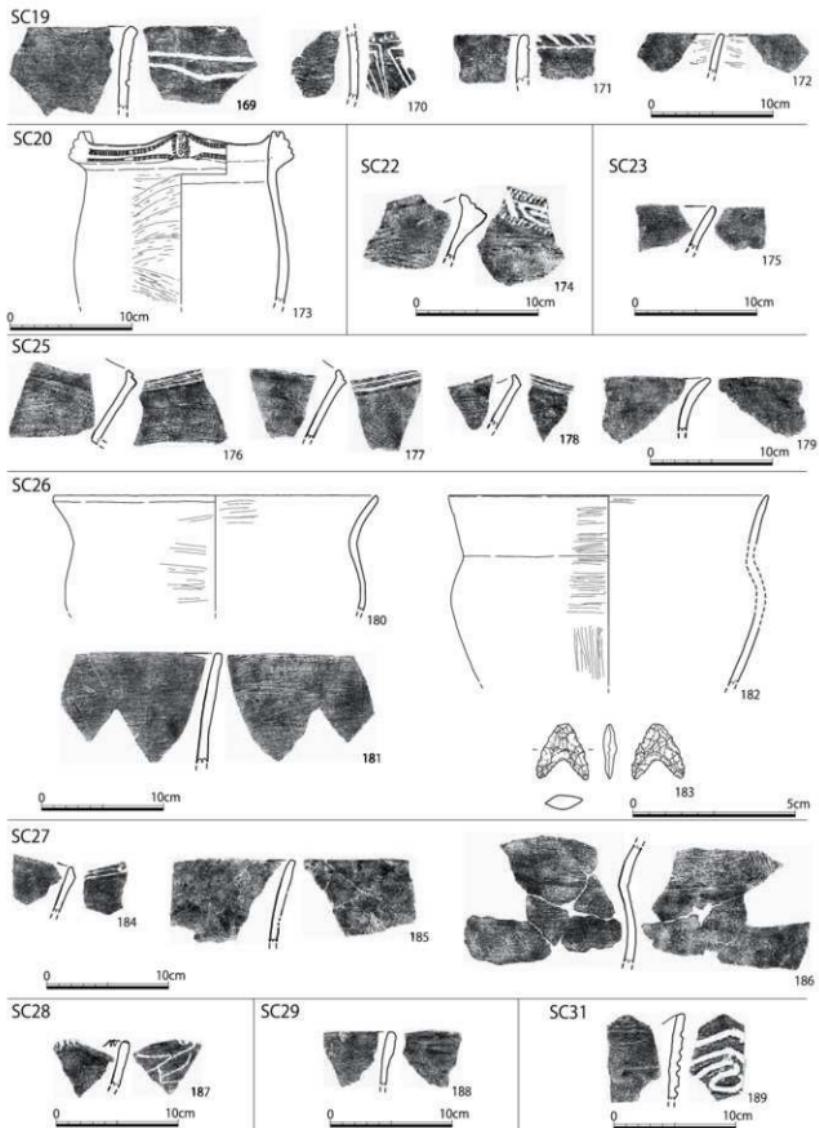


図142 SC19・20・22・23・25・26・27・28・29・31出土遺物（183：2/3 その他：1/4）

214 ~ 222 は縄文時代後期前葉の指宿式もしくは、これに併行する土器群である。217 は波頂部内面から派生する J 字文を外面に施文し、口唇部には 2 条の沈線が廻る。221 は口唇部に沈線を 1 条廻らせ、外面には 2 本單位で三角形状の文様を施文する。222 は肥厚する口縁部に数条の沈線を廻らせ、胸部には刺突と横走沈線を施文する。横走沈線の上端は途切れ、口縁部方向へ上昇する。

223 ~ 243 は肥厚する口縁部に沈線や刺突を施文する市来式である。

244 ~ 247 は口縁部内面に文様を施文する一群である。

248 は胸部が強く屈曲する土器で、屈曲部より上位に幾何学的な文様を施文する。

249 ~ 257・261 は口縁端部が屈曲する深鉢で、249 ~ 252 は縄文を施文する。254 は西平式に後続する太郎迫式である。255 ~ 257 は無文土器。

258 ~ 260・262 ~ 267 は内外面を丁寧なミガキにより調整が行われる一群である。

268 は口縁部と胸部で屈曲する器形の深鉢。

270 は胸部が丸くなる器形で隆線により文様を施文する。

272 は口縁部付近に沈線を 1 条施文し、やや内湾する器形の土器である。

273・274 は口縁部を僅かに肥厚させる土器である。

275 ~ 277・280 は刺突列を有する土器で、276 のみ貫通する。

277 は無刻の突帯下に刺突を行う。

279 は屈曲部を有する深鉢もしくは鉢で、屈曲部より上位の内外面にはミガキ調整が認められる。内面口縁部付近には赤色顔料が塗布される。278・280 ~ 283・285 ~ 294 は刻目突帯文土器で、278 はやや大きめの刻みを有する突帯下に細線で文様を施文する。280 は刻目突帯文下に刺突列を有する。281 ~ 283 は胸部が屈曲する器形で 2 条の刻目突帯を有する。281 は口縁端部からやや下がったところに突帯を貼り付け、大きめの刻みを行う。282・283 は口縁端部に突帯が接し、細めの刻みを行う。284 は同様の器形であるが刻みは認められない。278・280 ~ 283 は弥生時代早期の刻目突帯文土器で、285 ~ 294 は弥生時代前期~中期にかけてのものである。

295・296 は同様な器形で刻みを持たないものである。

297 の口縁部には台形状の突帯文を持つ。

298 は口縁部端部が丸くなるもので、胸部には 4 条の突帯を巡らす。

299 は胸部に 1 条の刻目突帯を巡らし、刻み内部には布痕を観察することができる。

300 ~ 302 は壺、303 は高杯、305 ~ 318、320 ~ 324 は底部を纏めた。320 は底面と側面に透かしを持つ。

321 ~ 324 は三万田式期の台付皿形土器の脚部。

325 ~ 330 は土製円盤で、325 は穿孔を持つ。

中世~近世の遺物（図 151）

331 ~ 334 は青磁碗で、331・333 は鍋蓮弁文を施す竜泉窯系青磁碗。333・334 は内面に印刻を有する。

335・336 は口禿の白磁皿、337 ~ 340 は土師器小皿で底部糸切が観察される。

341 は東播系とみられる須恵器系捏鉢。

342 ~ 344 は滑石製石鍋で、口縁部下に釣が廻るものである。

345 は近世陶器の碗、346 は中世常滑陶器の壺である。347 は縁釉の陶器で、小片のため傾きは不明である。

348 は円形の板に組状の突起が付く滑石製品で、石鍋破片の再加工品と思われる。

打製石器（図 152～154）

349～366 は石鎌で、349～356 は二等辺三角形の石鎌である。349～352・354・356 は抉りが比較的深い凹基で、354 には磨滅痕が観察できる。353・355 は抉りの浅い微凹基である。357～362 は五角形の石鎌で、361 は剥片の縁辺を加工した剥片鎌である。363～366 は正三角形で、363・364 は抉りが比較的深い凹基、365・366 は抉りが比較的浅い微凹基となる。363 は基部から先端部にかけての縁辺を弧状になるように調整加工を行う。

367 は両面に調整加工を持つもので、削器もしくは石匙となる可能性がある。

368～371 は削器と考えられ、368 は剥片の縁辺に調整加工を行い、刃部を弓状に形成している。369・370 は珪質頁岩製で縁辺に調整加工が観察される。371 は安山岩製で打製石斧の欠損部の可能性もあるが、縁辺に調整加工を行い刃部状に形成している。

372 は黒曜岩の石核で、不純物を多く含むことから大口日東産のものと思われる。

379 は薄く剥れた安山岩の縁辺を調整加工するもので打製石斧と考えられる。

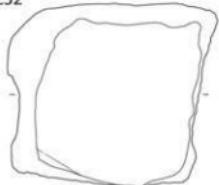
磨製石器・礫石器（図 154）

373～377 は磨製石斧で、全て蛇紋岩製である。381 は環状石斧で、穿孔部は丁寧に研磨されており、表面は欠損部が多いが一部研磨の痕跡が残存する。

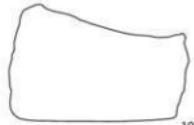
378 は磨石。380 は打欠石錘である。

382 は石皿、383 は流紋岩を用いた砥石で表土より出土している。

SC32



0 10cm



190

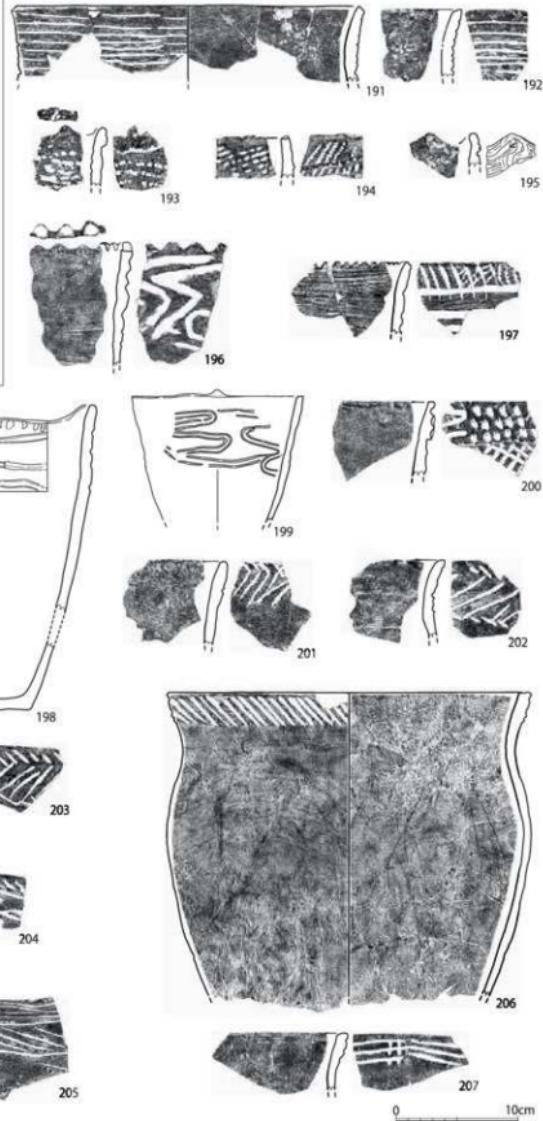


図 143 SC32 出土遺物及び 8 区遺構外出土遺物 1 (1/4)

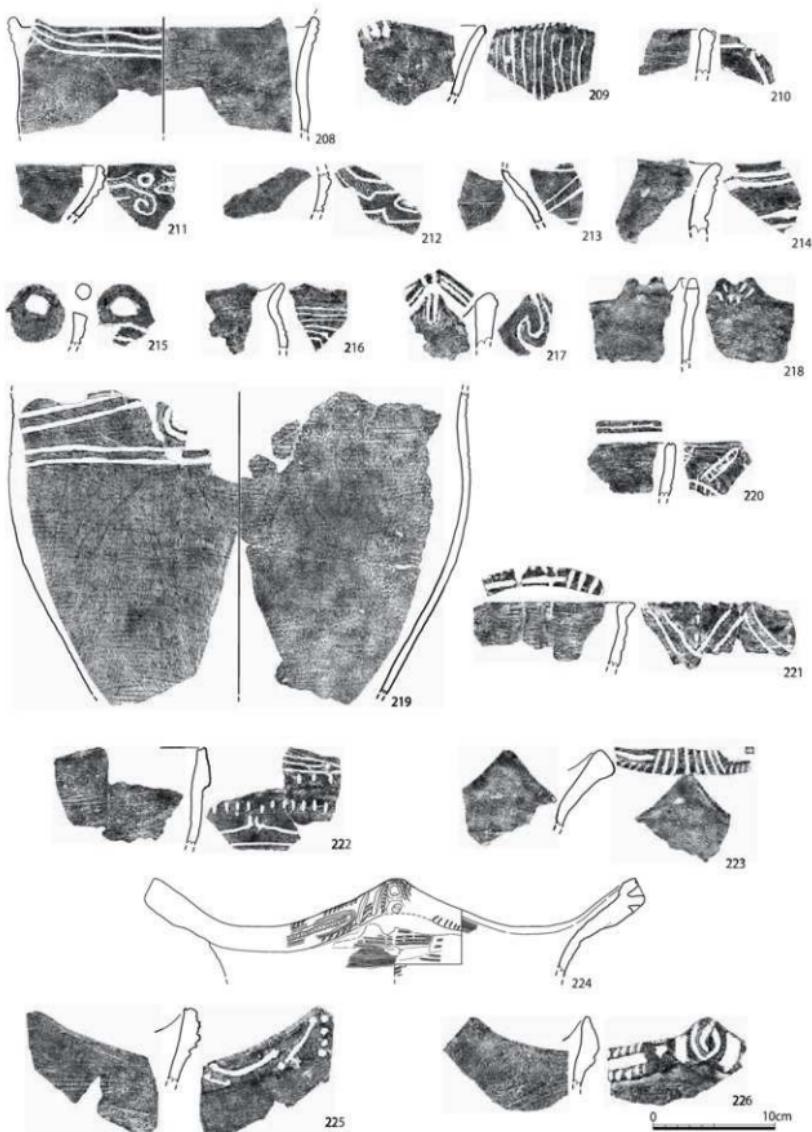


図 144 8区遺構外出土遺物 2 (1/4)

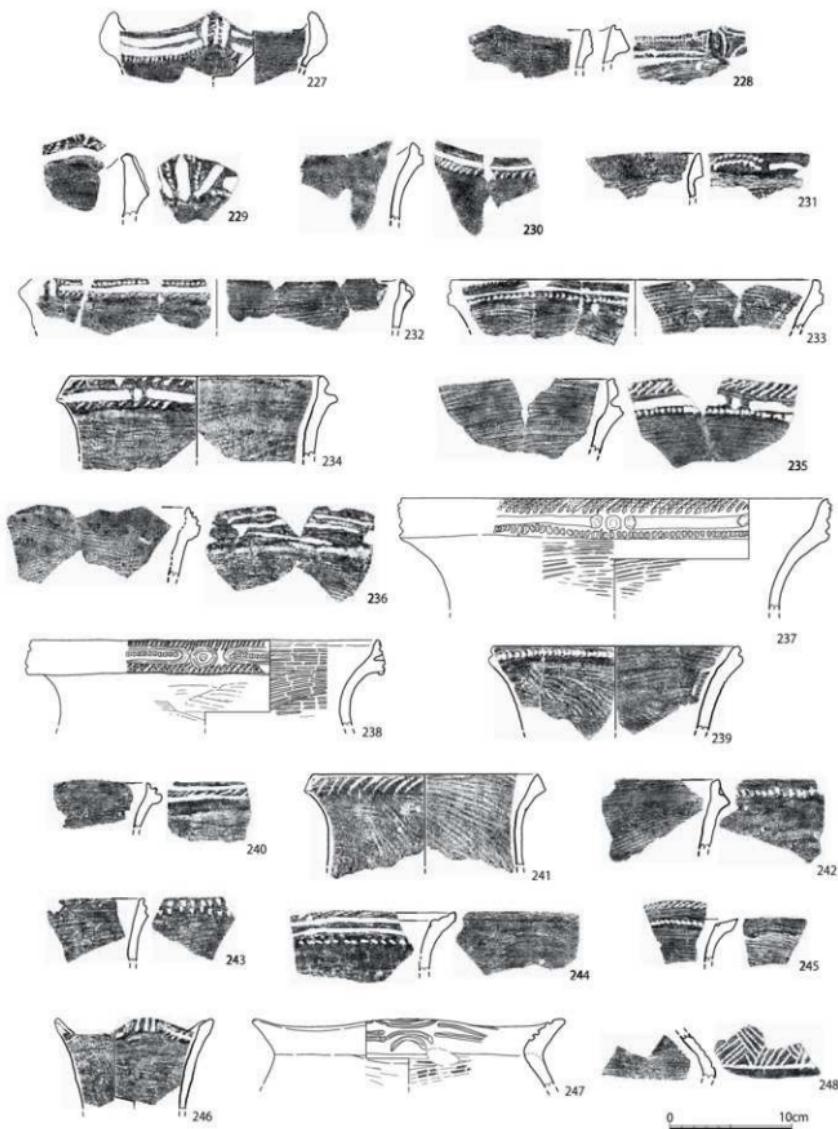


図 145 8区遺構外出土遺物 3 (1/4)

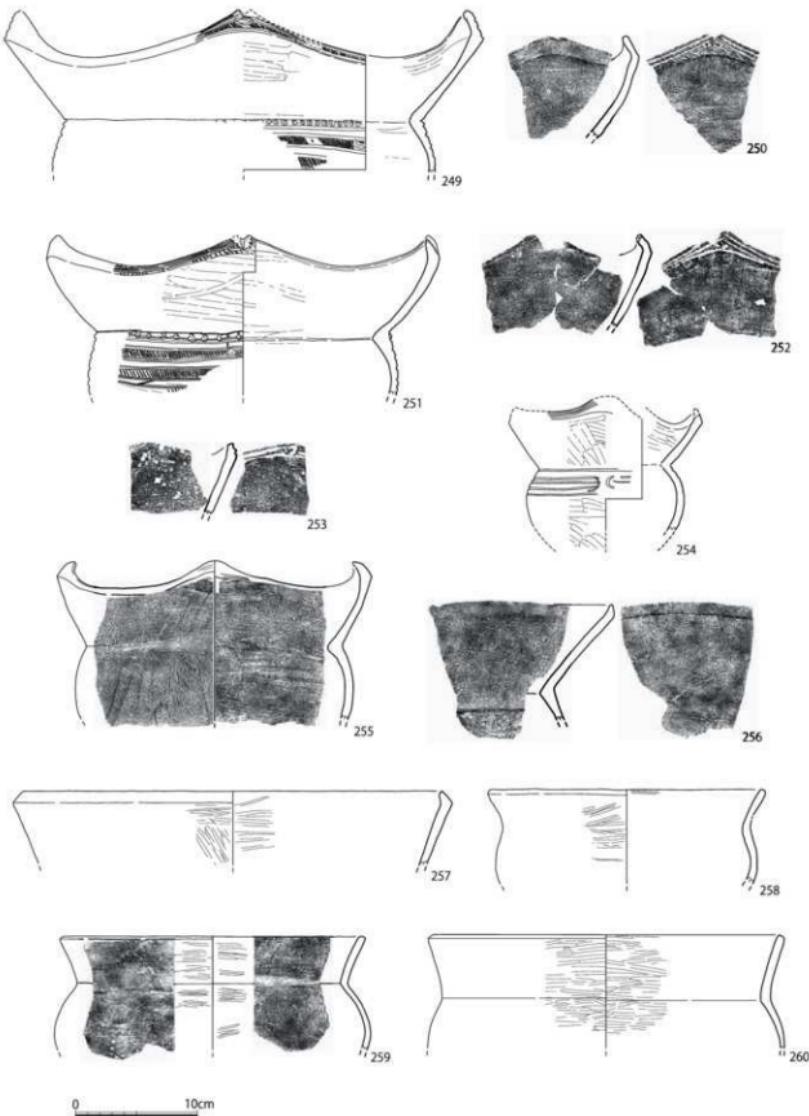


図 146 8 区遺構外出土遺物 4 (1/4)

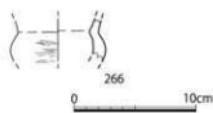
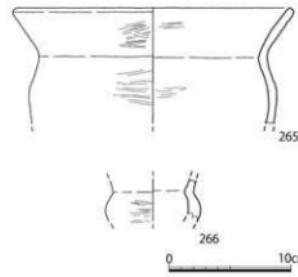
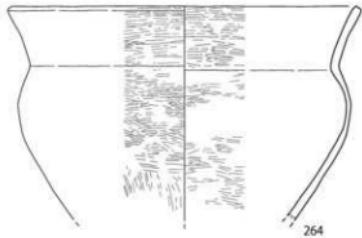
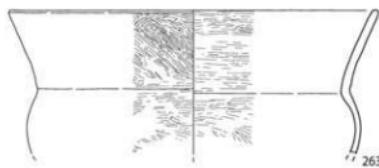
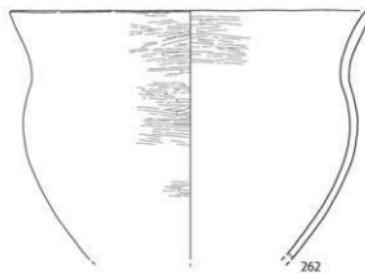
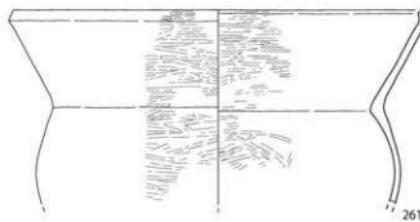


図 147 8区遺構外出土遺物 5 (1/4)

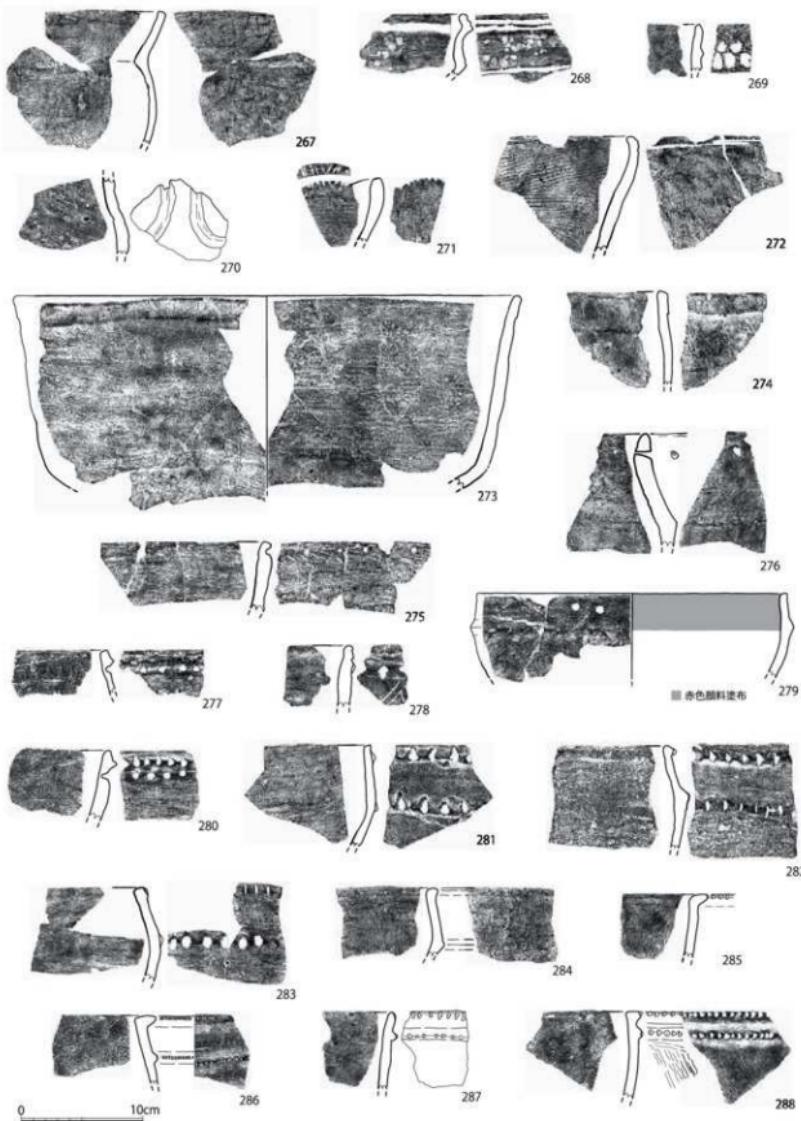


図 148 8 区遺構外出土遺物 6 (1/4)

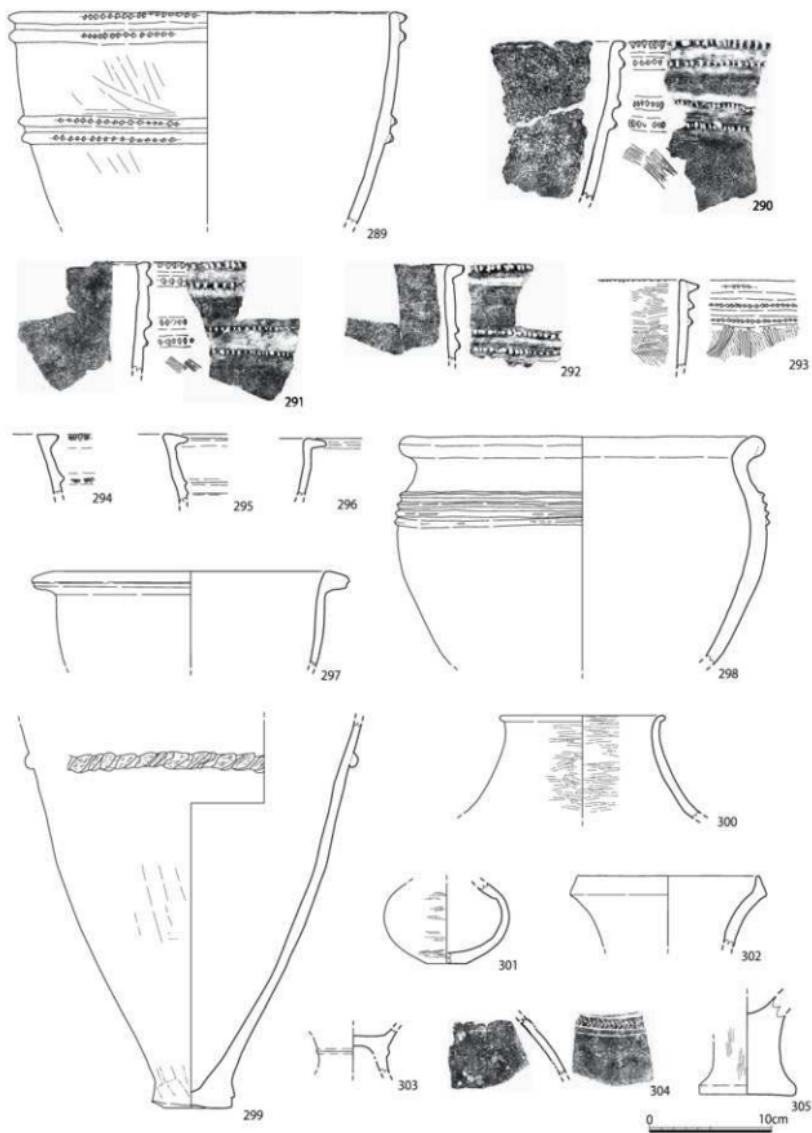


図 149 8区遺跡外出土物 7 (1/4)

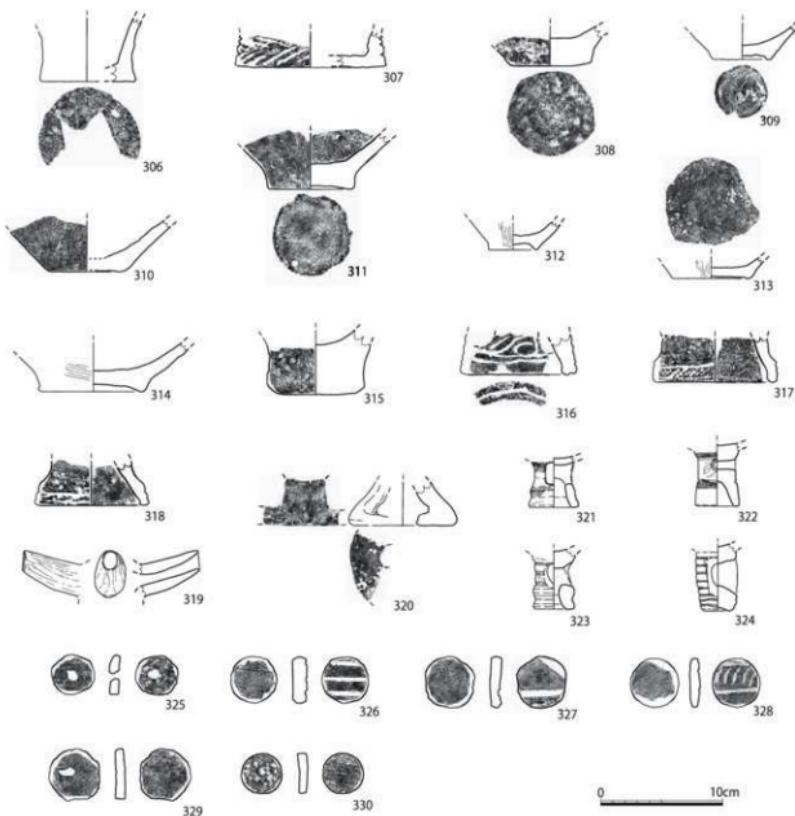


図 150 8区遺構外出土遺物8 (1/4)



図 151 8区遺構外出土遺物 9 (348 : 1/2 その他 : 1/3)

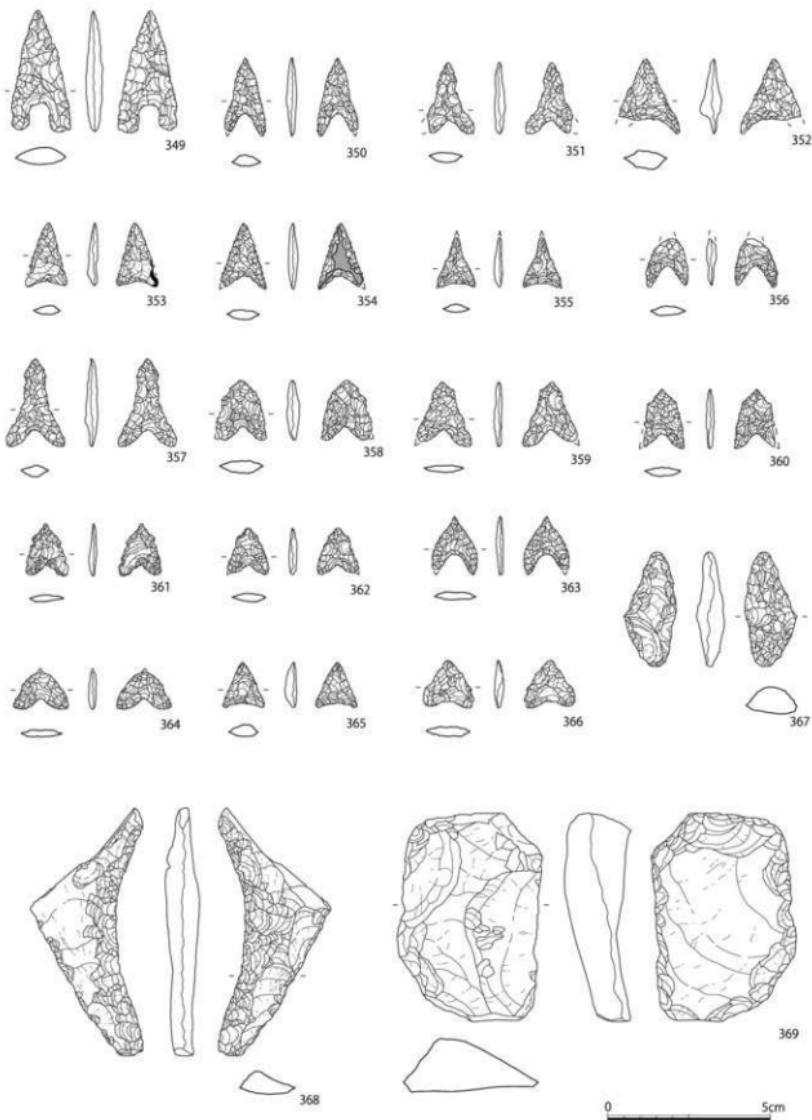
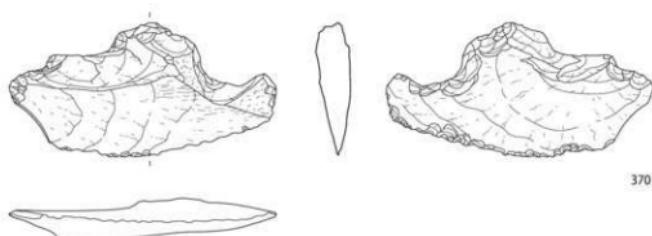
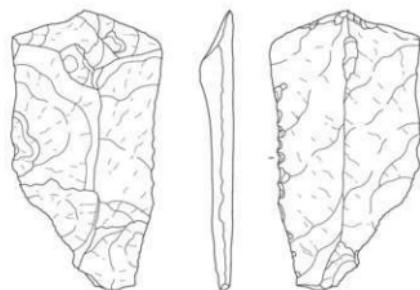


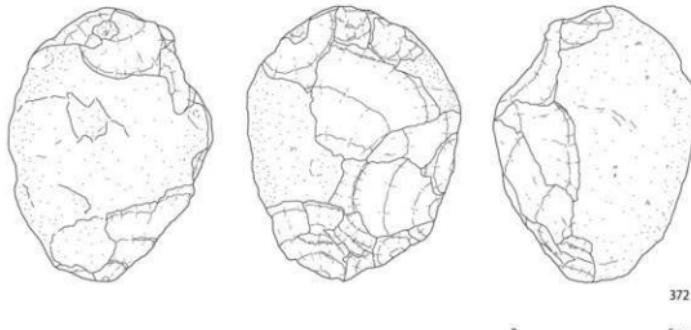
図 152 8区遺構外出土遺物 10 (2/3)



370



371



372

0 5cm

図 153 8区遺構外出土遺物 11 (2/3)

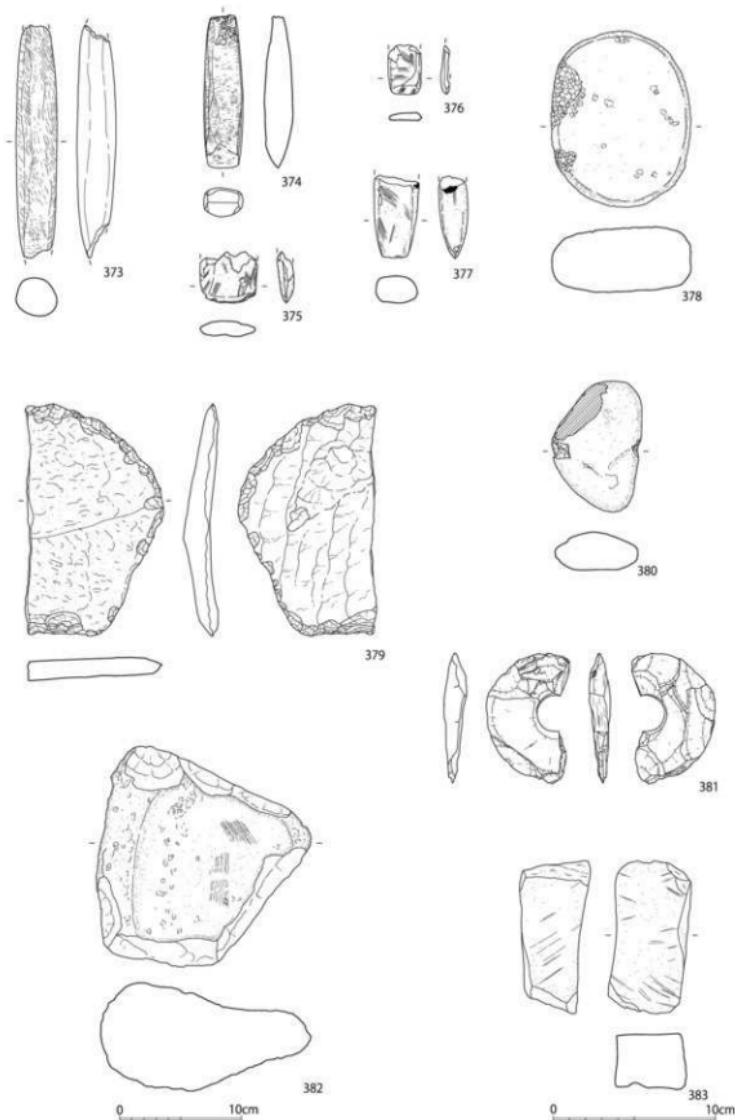


図 154 8区遺構外出土遺物 12 (382: 1/4 その他: 1/3)

表7 8区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法(cm)		調整	色調	備考
			口径	底径			
1	SA15	縄文土器 深林	-	-	外:ナデ→貝刺突・凹縫 内:ナデ	外:2.5V3/1黒褐 内:2.5V3/1黒褐	-
2	SA15	縄文土器 深林	-	-	外:ナデ→凹縫 内:貝条瓶	外:5V3/2明赤褐 内:5V3/2明赤褐	-
3	SA15	縄文土器 深林	-	-	外:ナデ→沈縫 内:ナデ	外:2.5V3/6黒褐 内:5V3/2純暗黒	-
4	SA15	縄文土器 深林	-	-	外:ミガキ→沈縫 内:ミガキ	外:5V3/4に2.5V3/6黒 内:10V3/2黒	-
5	SA15	縄文土器 深林	-	-	外:ナデ→沈縫 内:ナデ	外:5V3/6褐 内:2.5V3/4に5.5V3/4褐	-
6	SA15	縄文土器 深林	-	-	外:ナデ→貝刺突 内:ナデ	外:2.5V3/2黒褐 内:2.5V3/3褐	-
7	SA15	縄文土器 深林	-	-	外:ナデ→刺突 内:貝条瓶+ナデ	外:2.5V3/2黒褐 内:2.5V3/2黒褐	-
8	SA15	縄文土器 深林	-	-	外:ミガキ→縄文→沈縫→刺突 内:ミガキ	外:2.5V3/2黒褐 内:2.5V3/4に2.5V3/4褐	-
10	SA16	縄文土器 深林	-	-	外:ナデ→凹縫 内:ナデ	外:10V3/4に2.5V3/6黒 内:2.5V3/6褐	-
11	SA16	縄文土器 深林	-	-	外:ナデ→沈縫 内:ナデ	外:2.5V3/4に2.5V3/2暗灰黄 内:2.5V3/2暗灰黄	外面糊付着
12	SA16	縄文土器 深林	-	-	外:ナデ→沈縫 内:ナデ	外:5V3/6明赤褐 内:5V3/4に2.5V3/6黒	-
13	SA16	縄文土器 深林	-	-	外:ナデ→沈縫+ナデ 内:貝条瓶+ナデ	外:2.5V3/3黒褐 内:2.5V3/2黒褐	-
14	SA16	縄文土器 深林	-	-	外:ナデ→沈縫+刺突 内:ナデ	外:5V3/1黒褐 内:2.5V3/2暗赤褐	-
15	SA16	縄文土器 深林	-	-	外:貝条瓶+沈縫 内:ナデ	外:2.5V3/6明赤褐 内:2.5V3/6黒褐	-
16	SA16	縄文土器 深林	-	-	外:ナデ→沈縫+刺突 内:ナデ	外:2.5V3/6褐 内:2.5V3/6黒	-
17	SA15+SA16	縄文土器 深林	(33.0)	-	外:ナデ→凹縫+貝刺突 内:貝条瓶	外:2.5V3/4に2.5V3/6黒 内:2.5V3/6黒	-
18	SA16	縄文土器 深林	-	-	外:ナデ→沈縫+貝刺突 内:ナデ	外:10V3/6に2.5V3/6黒 内:2.5V3/4に2.5V3/6黒	-
19	SA16	縄文土器 深林	-	-	外:貝条瓶+ナデ→沈縫 内:ナデ	外:10V3/6に2.5V3/6黒 内:10V3/6に2.5V3/6黒	-
20	SA16	縄文土器 深林	(15.0)	-	外:ナデ→沈縫 内:ナデ→沈縫	外:2.5V3/3黒 内:2.5V3/2黒	-
21	SA16	縄文土器 底部	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:2.5V3/6明赤褐 内:10V3/2黒	-
22	SA16	縄文土器 底部	-	(10.0)	外:ナデ 内:ナデ	外:2.5V3/6明赤褐 内:2.5V3/6明赤褐	-
23	SA16	縄文土器 底部	-	8.8	外:ナデ 内:ナデ	外:2.5V3/6に2.5V3/6黒 内:2.5V3/6黒	底面に織物状の痕有
24	SA16	縄文土器 底部	-	(6.0)	外:ナデ 内:ナデ	外:10V3/6黒 内:2.5V3/1黒	-
27	SA17	縄文土器 深林	-	-	外:ナデ→沈縫 内:ナデ	外:2.5V3/4黒 内:2.5V3/3.5に2.5V3/4黒	-
28	SA17	縄文土器 深林	-	-	外:ナデ→沈縫 内:ナデ	外:10V3/3に2.5V3/6黒 内:10V3/2黒	-
29	SA17	縄文土器 底部	-	(10.0)	外:ナデ→沈縫 内:ナデ	外:10V3/6に2.5V3/6黒 内:2.5V3/4に2.5V3/6黒	-
32	SA18	縄文土器 深林	14.0	8.2	外:ナデ→沈縫 内:ナデ+ナデ	外:10V3/6黒 内:10V3/2黒	外面糊付着、網底
37	SA19	縄文土器 深林	-	-	外:ナデ→沈縫+刺突 内:ナデ	外:5V3/3暗赤褐 内:5V3/3暗赤褐	-
38	SA19	縄文土器 深林	-	-	外:ナデ→沈縫 内:ナデ	外:2.5V3/2暗赤褐 内:2.5V3/6黒	-
39	SA19	縄文土器 深林	(26.0)	-	外:ナデ→沈縫 内:貝条瓶	外:2.5V3/6黒褐 内:2.5V3/8黒褐	-
40	SA19	縄文土器 深林	-	-	外:ナデ→沈縫+貝刺突 内:ナデ	外:2.5V3/1黒褐 内:2.5V3/1黒褐	-
41	SA19	縄文土器 深林	-	-	外:ナデ→沈縫 内:ナデ	外:10V3/6に2.5V3/6黒 内:10V3/2黒	-
42	SA19	縄文土器 深林	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:2.5V3/1黒褐 内:2.5V3/4に2.5V3/6黒	-
43	SA19	縄文土器 底部	-	-	外:ナデ→刺突 内:ナデ	外:5V3/1ナーベル黒 内:2.5V3/6黒	-
44	SA19	縄文土器 底部	-	5.9	外:ナデ 内:ナデ	外:5V3/3暗赤褐 内:5V3/6明赤褐	-
45	SA19	土製品 土製円盤	幅2.9	横2.8	厚0.9 外:ナデ 内:ナデ	外:10V3/6黒 内:2.5V3/2黒	重量 8.7g、側面斜傾直(全面)
46	SA19	土製品 土製円盤	幅3.4	横3.1	厚1.0 外:ナデ 内:ナデ	外:2.5V3/4黒 内:2.5V3/4黒	重量 12.8g、側面斜傾直(全面)

表7 8区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 認種	寸法cm			調整	色調	備考
			口径	底径	高さ			
47	SA19	土製品 土製円盤	-	横4.5	厚1.0	外:ナデー沈綻 内:ナデ	外:7.5V36/6暗 内:7.5V37/6暗	重量 15.1g, 圓面磨滅有(全面)
52	SA20	陶文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデー凹綪 内:ナデ	外:10V36/4L2-5L5 黄褐 内:7.5V36/4L2-5L5 黄褐	-
53	SA20	陶文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデー沈綻・凹綪 内:ナデ	外:7.5V35/6明赤褐 内:7.5V35/6明赤褐	-
54	SA20	陶文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデー沈綻 内:ナデ	外:10V35/4L2-5L5 黄褐 内:10V34/3L2-5L5 黄褐	-
55	SA20	陶文土器 底部	-	5.0	-	外:ミガキ 内:ナデ	外:7.5V36/6暗 内:2.5V3/3 黄褐	-
58	SA21	陶文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデー沈綻 内:ナデ	外:10V37/3暗褐 内:2.5V3/3 黄褐	-
59	SA21	陶文土器 底部	-	01.2	-	外:ナデー沈綻 内:ナデ	外:7.5V37/6暗 内:7.5V35/6暗褐	-
60	SA21	陶文土器 浅鉢	(14.8)	4.2	6.1	外:ミガキ 内:ミガキ	外:7.5V37/2暗褐 内:7.5V37/3暗褐	-
61	SA21	陶文土器 深鉢	-	16.0	-	外:ミガキ 内:ナデ	外:7.5V35/4L2-5L5 明赤褐 内:5V36/6暗	-
62	SA22	陶文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデー沈綻 内:ナデ	外:10V37/1暗褐 内:7.5V38/4暗	-
63	SA23	陶文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデー斜突 内:ナデ	外:5V32/2暗赤褐 内:7.5V32/1暗	-
64	SA23	陶文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデー 内:ナデ	外:7.5V37/7 暗褐 内:7.5V38/7 暗褐	-
65	SA23	陶文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデー 内:貝殻底+ナデ	外:7.5V35/4L2-5L5 暗 内:7.5V35/2暗褐	-
66	SA25	陶文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデー沈綻・斜突 内:ナデ	外:2.5V3/3 黑褐 内:2.5V3/3 黑褐	-
67	SA25	陶文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデー貝刺突 内:ナデ	外:2.5V7/4浅黄 内:2.5V7/4浅黄	-
68	SA25	陶文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデー沈綻 内:ナデ	外:10V37/4暗褐 内:10V37/3暗褐	-
69	SA25	陶文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデー沈綻・斜突 内:ナデ	外:7.5V36/6暗 内:7.5V37/6暗	-
70	SA25	陶文土器 深鉢	-	-	-	外:ミガキ+沈綻+圓文 内:ナデ	外:7.5V37/6暗 内:7.5V37/6暗	-
71	SA25	陶文土器 底部	-	(13.9)	-	外:ナデー沈綻・貝刺突 内:ナデ	外:2.5V35/6暗赤褐 内:2.5V35/8暗赤褐	-
72	SA25	土製品 土製円盤	縦3.7	横3.8	厚0.9	外:ナデー沈綻 内:ナデ	外:7.5V35/4L2-5L5 明赤褐 内:7.5V35/2明赤褐	重量 15.1g, 圓面磨滅有(前面)
74	SA27	陶文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデー沈綻 内:ナデ	外:10V37/4L2-5L5 黄褐 内:2.5V2/1黑	-
75	SA27	陶文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデー沈綻・斜突 内:ナデ	外:10V37/2暗褐 内:10V35/3L2-5L5 黄褐	-
76	SA27	陶文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデー沈綻 内:ナデ	外:2.5V35/6暗赤褐 内:2.5V35/6暗赤褐	-
77	SA27	陶文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデー沈綻 内:ナデ	外:10V37/1暗褐 内:2.5V3/3 黑褐	-
78	SA27	陶文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデー 内:ナデ	外:7.5V37/1暗褐 内:7.5V37/3暗	-
79	SA27	陶文土器 底部	-	(10.8)	-	外:貝殻底+ナデ 内:ナデ	外:7.5V37/2暗褐 内:10V37/4L2-5L5 黄褐	-
80	SA27	陶文土器 底部	-	5.8	-	外:ナデー 内:ナデ	外:7.5V36/6暗 内:7.5V36/4L2-5L5 暗	-
81	SA27	陶文土器 底部	-	6.2	-	外:ナデー 内:ナデ	外:7.5V35/6明褐 内:2.5V3/3 黄褐	-
82	SA27	陶文土器 裏	-	-	-	外:ナデー貝刺突 内:ナデ	外:10V37/4L2-5L5 黄褐 内:10V38/4L2-5L5 黄褐	-
83	SA27	陶文土器 裏	-	-	-	外:ナデー貝刺突 内:ナデ	外:10V37/2暗褐 内:10V37/6暗褐	-
84	SA27	陶文土器 裏	-	-	-	外:ナデー貝刺突 内:ナデ	外:5V37/6暗 内:5V37/6暗	-
85	SA27	土製品 土製円盤	縦4.5	横4.6	厚0.8	外:ナデー 内:ナデ	外:7.5V35/4L2-5L5 明赤褐 内:2.5V3/6暗	重量 20.0g, 圓面磨滅有(部分)
88	SA28	陶文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデー凹綪 内:ナデ	外:5V32/2暗赤褐 内:5V36/6暗	-
89	SA28	陶文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデー沈綻・斜突 内:ナデ	外:7.5V35/4L2-5L5 暗 内:7.5V36/6暗	-
90	SA28	陶文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデー凹綪 内:ナデ	外:10V32/2暗褐 内:2.5V32/2暗褐	-
91	SA28	陶文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデー凹綪+貝刺突 内:ナデ	外:10V36/3L2-5L5 黄褐 内:10V36/3L2-5L5 黄褐	-
92	SA28	陶文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデー沈綻 内:ナデ	外:10V36/3L2-5L5 黄褐 内:2.5V3/1 黑褐	-

表7 8区出土遺物観察表(土器)

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法cm		調整	色調	備考	
			口径	底径				
93	SA28	縄文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・凹縁・貝刺突 内:ナデー	外:10VRC/1黒褐 内:2.5V3/3黒褐	-	
94	SA28	縄文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・沈縁	外:5VR6/6褐 内:7.5VR4/2黒褐	-	
95	SA28	縄文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・沈縁 内:ナデー	外:7.5VR3/1黒褐 内:7.5VR3/2黒褐	-	
96	SA28	縄文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・沈縁 内:ナデー	外:7.5VR2/2黒褐 内:2.5V3/3暗オーブ褐	-	
97	SA28	縄文土器 深鉢	-	-	外:貝条痕・ナデー・沈縁・貝刺突 内:貝条痕・ナデー	外:5VR5/6明赤褐 内:7.5VR5/4C・5A・褐	-	
98	SA28	縄文土器 深鉢	-	-	外:縄文・沈縁・エガキ	外:7.5VR7/4C・5A・褐 内:7.5VR5/3C・5A・褐	-	
99	SA28	縄文土器 深鉢	-	-	外:縄文・エガキ・沈縁	外:5VR2/6褐 内:5VR6/6褐	-	
100	SA28	縄文土器 深鉢	-	-	外:ナデー	外:5VR3/1暗赤褐 内:2.5VR4/4C・5A・黒褐	-	
102	SA29	縄文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・沈縁 内:ナデー	外:5VR5/4C・5A・褐 内:7.5VR6/4C・5A・褐	-	
103	SA29	縄文土器 深鉢	-	-	外:ナデー	外:7.5VR3/3黒褐 内:7.5VR6/4C・5A・褐	-	
104	SA29	縄文土器 深鉢	-	-	外:ナデー	外:2.5VR5/6赤褐 内:2.5VR6/8褐	-	
105	SA29	縄文土器 直鉢	-	(10.7)	外:ナデー	外:10VRC/2C・2黒褐 内:7.5VR7/4C・5A・褐	-	
107	SA30	縄文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・刺突・凹縁 内:ナデー	外:10VRC/4C・5A・黄褐 内:2.5V3/3C・5A・黄	-	
108	SA30	縄文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・沈縁 内:ナデー	外:7.5VR3/2黒褐 内:7.5VR6/6褐	-	
109	SA30	縄文土器 深鉢	-	-	外:貝条痕・ナデー・刺突 内:貝条痕・ナデー	外:10VR2/2黒褐 内:10VR2/2黒褐	-	
110	SA30	縄文土器 深鉢	-	-	外:貝条痕・刺突 内:ナデー	外:2.5V5/3暗紅黄 内:2.5V5/3黄褐	-	
111	SA30	縄文土器 深鉢	-	-	外:貝条痕・ナデー・貝刺突 内:貝条痕・ナデー	外:7.5VR3/1黒褐 内:10VRC/5C・5A・黄褐	-	
112	SA30	縄文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・沈縁 内:ナデー	外:5VR3/3暗赤褐 内:5VR3/3暗赤褐	-	
113	SA30	縄文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・貝刺突 内:ナデー	外:7.5VR4/1黒褐 内:2.5VR6/6褐	-	
114	SA35	野生土器 裏	(10.5)	6.4	15.3	外:エガキ 内:ナデー	外:7.5VR5/3C・5A・褐 内:7.5VR6/4C・5A・褐	-
115	SC01	縄文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・凹縁 内:ナデー	外:2.5VR2/3暗赤褐赤褐 内:2.5VR5/6赤褐	-	
117	SC02	縄文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・沈縁 内:ナデー	外:5VR2/2黒褐赤褐 内:5VR5/6明赤褐	-	
118	SC02	縄文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・沈縁 内:ナデー	外:2.5VR4/6褐 内:7.5VR3/3黒褐	-	
119	SC02	縄文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・沈縁 内:ナデー	外:5VR4/4C・5A・赤褐 内:5VR4/6赤褐	-	
120	SC02	縄文土器 直鉢	-	(6.2)	外:ナデー	外:2.5V3/3黒褐 内:10VR4/2C・2黒褐	-	
122	SC03	縄文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・割目縫・沈縁	外:10VRC/2黒褐 内:10VRC/3C・5A・黄褐	-	
123	SC03	縄文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・沈縁・刺突 内:ナデー	外:2.5V2/1黒 内:2.5V2/1黒	-	
124	SC03	縄文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・刺突 内:ナデー	外:5VR4/4C・5A・赤褐 内:5VR5/1黒褐	-	
125	SC03	縄文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・沈縁 内:ナデー	外:2.5VR2/2黒褐 内:7.5VR3/2黒褐	-	
126	SC03	縄文土器 直?	-	-	外:ナデー	外:7.5VR7/4C・5A・褐 内:2.5VR6/4C・5A・褐	-	
127	SC04	縄文土器 深鉢	(10.6)	6.8	13.2	外:ナデー 内:ナデー	外:7.5VR6/6褐 内:5VR6/6褐	口部剥落
128	SC04	縄文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・沈縁・貝刺突 内:ナデー	外:2.5V3/1黒褐 内:2.5V3/1黒褐	-	
129	SC04	縄文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・刺突 内:ナデー	外:2.5VR5/6明赤褐 内:2.5VR5/6赤褐	-	
133	SC05	縄文土器 深鉢	-	-	外:貝条痕・貝刺突・刺突 内:貝条痕	外:2.5VR5/8黒褐 内:7.5VR4/3黒	-	
134	SC05	縄文土器 深鉢	(21.2)	-	外:ナデー・刺突 内:貝条痕・ナデー	外:7.5VR6/4C・5A・褐 内:7.5VR3/3C・5A・褐	-	
135	SC06	縄文土器 深鉢	(30.0)	10.8	28.2	外:ナデー・沈縁・貝刺突 内:ナデー	外:2.5VR4/4C・5A・黒褐 内:2.5VR4/6赤褐	-
136	SC06	縄文土器 深鉢	-	-	外:ナデー・貝刺突・沈縁 内:ナデー	外:5VR3/2暗赤褐 内:5VR3/4暗赤褐	-	

表7 8区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 認種	寸法cm		調整	色調	備考
			口径	底径			
137	SC06	圓文土器 深鉢	-	-	外: 貝条痕・ナゲ→底突 内: 貝条痕・ナゲ	外: 7.5V86/41.5cm・橙 内: 7.5V86/41.5cm・褐	-
138	SC06	圓文土器 深鉢	-	-	外: ナゲ→貝刺突・斜突 内: 貝条痕・ナゲ	外: 7.5V86/41.5cm・褐 内: 7.5V86/6cm	-
139	SC06	圓文土器 深鉢	-	-	外: ナゲ 内: 貝条痕・ナゲ	外: 1.0V86/3cm・黄褐色 内: 2.5V5/1 黄褐色	-
141	SC07	圓文土器 深鉢	-	-	外: ナゲ→沈縫 内: ナゲ	外: 7.5V86/41.5cm・橙 内: 7.5V86/41.5cm・褐	-
142	SC07	圓文土器 深鉢	-	-	外: ナゲ 内: ナゲ	外: 2.5V84/41.5cm・赤褐色 内: 2.5V84/6cm	彫状把手
143	SC07	圓文土器 深鉢	-	-	外: 貝条痕・ナゲ→貝刺突・凹縫 内: 貝条痕・ナゲ	外: 7.5V82/1黑 内: 7.5V82/2黑褐	-
145	SC09	圓文土器 深鉢	-	-	外: ナゲ→刻目彌縫 内: ナゲ	外: 1.0V87/6cm 黄褐色 内: 1.0V87/6cm 黄褐色	-
146	SC09	圓文土器 深鉢	-	-	外: ナゲ→沈縫・斜突 内: ナゲ	外: 7.5V82/2黑褐 内: 7.5V82/3黑褐	-
147	SC09	圓文土器 深鉢	-	-	外: ナゲ→沈縫・斜突 内: ナゲ	外: 7.5V82/2黑褐 内: 7.5V82/2黑褐	-
148	SC10	圓文土器 深鉢	-	-	外: ナゲ→沈縫 内: 斜彌縫	外: 1.0V87/1黑 内: 2.5V2/1黑	-
149	SC10	圓文土器 深鉢	-	-	外: ナゲ→沈縫 内: ナゲ	外: 2.5V3/3cmオーリーブ褐 内: 2.5V3/3cm	-
150	SC11	圓文土器 深鉢	-	-	外: ナゲ→沈縫 内: ナゲ	外: 1.0V82/1黑 内: 7.5V82/2黑褐	-
151	SC11	圓文土器 深鉢	-	-	外: ナゲ 内: ナゲ	外: 7.5V84/3褐 内: 2.5V3/2黒	-
152	SC11	圓文土器 深鉢	-	-	外: ナゲ 内: ナゲ	外: 7.5V84/41.5cm・赤褐色 内: 7.5V84/3褐	-
153	SC12	圓文土器 深鉢	-	-	外: ナゲ→沈縫 内: ナゲ	外: 7.5V85/41.5cm・赤褐色 内: 7.5V85/41.5cm・赤褐色	-
154	SC12	圓文土器 深鉢	-	-	外: ナゲ→沈縫 内: ナゲ	外: 7.5V82/2黑褐 内: 7.5V82/3黑褐	-
155	SC12	圓文土器 深鉢	-	-	外: ナゲ→沈縫 内: ナゲ	外: 7.5V85/41.5cm・赤褐色 内: 7.5V85/41.5cm・赤褐色	-
156	SC14	圓文土器 深鉢	-	-	外: 貝条痕 内: 貝条痕	外: 7.5V85/6cm 内: 7.5V85/6cm	-
160	SC17	圓文土器 深鉢	-	-	外: 貝条痕・ナゲ→貝刺突・沈縫 内: 貝条痕・ナゲ	外: 7.5V82/2黑褐 内: 7.5V82/2黑褐	-
161	SC18	圓文土器 深鉢	-	-	外: ナゲ→沈縫・貝刺突 内: ナゲ	外: 7.5V85/41.5cm・褐 内: 1.0V86/6cm 黄褐色	-
162	SC18	圓文土器 深鉢	-	-	外: ナゲ→沈縫 内: ナゲ	外: 1.0V84/2cm 黄褐色 内: 1.0V84/2cm 黄褐色	-
163	SC18	圓文土器 深鉢	-	-	外: ナゲ 内: ナゲ	外: 7.5V85/6cm 黑褐色 内: 7.5V85/41.5cm・褐	-
164	SC18	圓文土器 深鉢	-	-	外: ナゲ→凹縫 内: ナゲ	外: 1.0V87/41.5cm・黄褐色 内: 1.0V87/41.5cm・黄褐色	-
165	SC18	圓文土器 深鉢	(22.8)	-	外: ナゲ 内: ナゲ	外: 2.5V3/1黒褐 内: 2.5V3/1黒褐	-
166	SC18	圓文土器 深鉢	(16.4)	-	外: ナゲ 内: ナゲ	外: 7.5V86/41.5cm・褐 内: 7.5V82/1黑褐	-
167	SC18	圓文土器 底部	-	7.8	外: ナゲ 内: ナゲ	外: 1.0V85/2cm 黄褐色 内: 7.5V85/3cm 黑褐色	-
168	SC18	圓文土器 土製内盤	幅4.9 横5.0	厚0.8	外: ナゲ→沈縫 内: ナゲ	外: 7.5V85/41.5cm・褐 内: 7.5V84/3褐	重量 24.2g
169	SC19	圓文土器 深鉢	-	-	外: ナゲ→沈縫 内: ナゲ	外: 2.5V85/6cm 黑褐色 内: 7.5V85/41.5cm・褐	-
170	SC19	圓文土器 深鉢	-	-	外: ナゲ→沈縫 内: ナゲ	外: 1.0V82/2黑褐 内: 7.5V82/1黑	-
171	SC19	圓文土器 深鉢	-	-	外: ナゲ→沈縫 内: ナゲ	外: 7.5V82/3暗黒褐色 内: 7.5V84/41.5cm・赤褐色	-
172	SC19	圓文土器 深鉢	-	-	外: ミガキ 内: ミガキ	外: 2.5V3/2暗黒褐色 内: 2.5V3/2暗黒褐色	-
173	SC20	圓文土器 深鉢	(16.4)	-	外: ナゲ→沈縫・斜突 内: ナゲ	外: 2.5V3/4暗黒 内: 1.0V86/6cm	-
174	SC22	圓文土器 深鉢	-	-	外: 貝条痕・貝刺突・沈縫 内: 貝条痕	外: 5V3/1ナゲ・黒 内: 7.5V85/41.5cm・褐	-
175	SC23	圓文土器 深鉢	-	-	外: ミガキ 内: ミガキ	外: 1.0V4/41.5cm・赤褐色 内: 7.5V85/41.5cm・褐	-
176	SC25	圓文土器 深鉢	-	-	外: ミガキ→圓文→沈縫 内: ミガキ	外: 7.5V82/1黑褐 内: 7.5V84/2cm	-
177	SC25	圓文土器 深鉢	-	-	外: ミガキ→沈縫 内: ミガキ	外: 2.5V2/1黑褐 内: 2.5V3/1黒褐	-
178	SC25	圓文土器 深鉢	-	-	外: ミガキ	外: 7.5V82/2黑褐 内: 7.5V84/2cm	-

表7 8区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法cm			調整	色調	備考
			口径	底径	高さ			
179	SC25	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:「ミガキ 内:「ミガキ	外:2.5VR4/4に近い赤褐色 内:2.5VR4/4に近い赤褐色	-
180	SC26	縄文土器 深鉢	(26.5)	-	-	外:「ミガキ 内:「ミガキ	外:7.5VR2/2黒褐色 内:7.5VR4/4赤	-
181	SC26-AII5	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:「ミガキ 内:「ミガキ	外:2.5VR5/6黒褐色 内:2.5VR5/6赤褐色	-
182	SC26	縄文土器 深鉢	(26.2)	-	-	外:「ミガキ 内:ナデ」口縁付逆マガキ	外:5VR4/4に近い赤褐色 内:10VR5/4に近い赤褐色	-
184	SC27	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:「ミガキ」-沈縁 内:「ミガキ	外:7.5VR4/2黒褐色 内:7.5VR3/1黒褐色	-
185	SC27	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:「ミガキ 内:「ミガキ	外:10VR2/1黒 内:10VR4/2黒褐色	-
186	SC27	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:「ミガキ 内:「ミガキ	外:7.5VR2/1黒 内:7.5VR3/3黒褐色	-
187	SC28	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ」-沈縁 内:ナデ	外:7.5VR4/3黒褐色 内:7.5VR5/4に近い黒	-
188	SC29	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5VR3/1黒褐色 内:7.5VR3/1黒褐色	-
189	SC31	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ」-凹縁 内:ナデ	外:5VR4/4に近い赤褐色 内:5VR2/2黒褐色	-
191	AII4 黄色土層	縄文土器 深鉢	(28.9)	-	-	外:ナデ」-沈縁 内:ナデ	外:10VR3/1黒褐色 内:7.5VR5/6黒褐色	-
192	AII4 黄色土層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ」-沈縁 内:ナデ	外:5VR6/6黒 内:5VR6/4に近い暗	-
193	AII5 黄色土層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ」-押引文 内:ナデ」-押引文	外:10VR3/2黒褐色 内:10VR3/3黒褐色	-
194	AII5 黄色土層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:圓文	外:7.5VR5/6黒褐色 内:7.5VR4/4黒	-
195	AII8 黄色土層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ」-凹縁+撲素? 内:ナデ」-撲素?	外:2.5VR2/1黒 内:10VR6/4に近い黄褐色	-
196	-	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ」-凹縁 内:ナデ	外:5VR4/3黒褐色 内:5VR4/4に近い赤褐色	外面彫付有 14C年代測定資料No.4 200994
197	AII4 黄色土層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ」-凹縁-貝刺突 内:貝刺突-ナデ	外:5VR6/6黒 内:2.5VR6/6黒	-
198	-	縄文土器 深鉢	(26.7) (16.0)	22.8	-	外:ナデ」-沈縁-貝刺突 内:ナデ	外:7.5VR6/4に近い暗 内:2.5V4/4暗灰黃	-
199	-	縄文土器 深鉢	(14.0)	-	-	外:ナデ」-沈縁 内:ナデ	外:10VR4/3に近い黄褐色 内:2.5V4/4暗灰黃	二次状工具
200	AII4 黄色土層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ」-沈縁-網突 内:ナデ	外:2.5VR2/3黒褐色	-
201	AII4 黄色土層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ」-沈縁 内:ナデ	外:5VR4/4に近い赤褐色 内:10VR4/3に近い黄褐色	-
202	AII4 黄色土層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ」-網突-沈縁? 内:ナデ」-沈縁?	外:2.5VR2/1黒 内:7.5VR6/4に近い暗	-
203	AII3 黄色土層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ」-沈縁 内:ナデ	外:2.5VR3/1黒褐色 内:7.5VR5/4に近い暗	-
204	AII5 1層 AI15 1層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ」-沈縁 内:ナデ	外:2.5VR3/2黒褐色 内:2.5VR3/6黒褐色	-
205	褐色土層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ」-沈縁 内:ナデ	外:10VR3/2黒褐色 内:2.5VR3/2黒褐色	-
206	AII4 1層	縄文土器 深鉢	(29.0)	-	-	外:ナデ」-沈縁 内:ナデ	外:5VR3/3暗黒褐色 内:5VR3/3に近い赤褐色	-
207	AII3 4層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ」-沈縁-網突 内:ナデ	外:2.5V3/1黒褐色 内:10VR5/4に近い黄褐色	-
208	AII4 黄色土層	縄文土器 深鉢	(25.0)	-	-	外:ナデ」-沈縁 内:ナデ	外:5VR2/1黒 内:7.5VR4/3暗	-
209	AII3 黄色土層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ」-沈縁 内:ナデ	外:5VR4/4に近い赤褐色 内:7.5VR6/4に近い暗	-
210	SE02	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ」-圓文-「伏縁 内:ナデ	外:10VR4/1黒褐色 内:10VR6/4に近い黄褐色	-
211	AII5 黄色土層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:沈縁-圓文-「ミガキ 内:「ミガキ	外:2.5VR4/4に近い黄褐色 内:2.5VR4/4黄褐色	-
212	-	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:「ミガキ-圓文-「沈縁 内:「ミガキ	外:10VR3/2黒褐色 内:10VR3/2黒褐色	小片の為補き不明、赤色顔料塗有
213	AG15 黄色土層 盤か?	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:沈縁-圓文-「ミガキ 内:「ミガキ	外:2.5VR6/6黒 内:2.5VR6/6赤褐色	-
214	SE02	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ」-沈縁 内:ナデ	外:7.5VR2/1黒 内:5VR6/6赤褐色	-
215	AII4 黄色土層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ」-沈縁 内:ナデ	外:5VR2/2黒褐色 内:5VR2/2黒褐色	-
216	AII3 黄色土層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ」-沈縁 内:ナデ	外:5VR6/6暗黒褐色 内:5VR2/1黒褐色	-
217	AII5 黄色土層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ」-沈縁 内:ナデ-沈縁	外:2.5VR3/2黒褐色 内:2.5VR3/2黒褐色	-

表7 8区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 認種	寸法cm		調整	色調	備考
			D径	底径			
218	AH14 棕色土器	圓文土器 深鉢	-	-	外:ナード→側突 内:ナード	外:10YR4/2赤黃褐 内:10YR2/1黒	-
219	-	圓文土器 深鉢	-	-	外:貝委瓶→ナード→沈縫 内:ナード	外:7.5YR2/3暗褐 内:7.5YR5/4C・D・E・F	-
220	AJ14 棕色土器	圓文土器 深鉢	-	-	外:ナード→沈縫→側突 内:ナード	外:10YR4/2赤黃褐 内:10YR3/2黒褐	-
221	AH14 棕色土器 AH14 棕色土器	圓文土器 深鉢	-	-	外:ナード→沈縫 内:ナード	外:7.5YR5/3明赤褐 内:10YR5/3C・D・E・F	-
222	AH14 棕色土器	圓文土器 深鉢	-	-	外:ナード→沈縫→側突 内:貝委瓶→ナード	外:7.5YR5/4C・D・E・F 内:7.5YR6/6暗	-
223	AJ15 棕色土器	圓文土器 深鉢	-	-	外:ナード→沈縫→貝側突 内:ナード	外:7.5YR5/4C・D・E・F 内:7.5YR2/2暗褐	-
224	AJ15 棕色土器	圓文土器 深鉢	(41.0)	-	外:貝委瓶→沈縫→貝側突 内:貝委瓶	外:10YR4/2赤 内:貝委瓶	-
225	AH14 棕色土器	圓文土器 深鉢	-	-	外:ナード→側突→沈縫 内:ナード→ナード	外:7.5YR5/4C・D・E・F 内:7.5YR6/6暗	-
226	AH14 棕色土器	圓文土器 深鉢	-	-	外:ナード→凹縫→貝側突 内:ナード	外:7.5YR5/4C・D・E・F 内:7.5YR6/4C・D・E・F	-
227	AH14 棕色土器	圓文土器 深鉢	(16.4)	-	外:ナード→凹縫→貝側突 内:貝委瓶→ナード	外:7.5YR2/3暗褐 内:10YR3/2暗褐	-
228	AJ15 棕色土器	圓文土器 深鉢	-	-	外:ナード→沈縫→貝側突 内:ナード	外:10YR5/3浅黃褐 内:10YR2/2暗褐	-
229	AJ15 棕色土器	圓文土器 深鉢	-	-	外:ナード→凹縫→側突 内:ナード	外:2.5YR4/6暗褐 内:2.5YR6/6暗	-
230	AJ15 棕色土器	圓文土器 深鉢	-	-	外:ナード→沈縫→貝側突 内:ナード	外:7.5YR4/4C・D・E・F 内:7.5YR3/3暗赤褐	-
231	AJ15 棕色土器	圓文土器 深鉢	-	-	外:ナード→貝側突→沈縫 内:貝委瓶→ナード	外:7.5YR5/3明赤褐 内:10YR3/3暗褐	-
232	AJ15 棕色土器	圓文土器 深鉢	(30.4)	-	外:ナード→貝側突→沈縫 内:貝委瓶→ナード	外:7.5YR5/4C・D・E・F 内:7.5YR2/2暗褐	-
233	AH14 棕色土器	圓文土器 深鉢	(30.6)	-	外:貝委瓶→沈縫→貝側突 内:貝委瓶→ナード	外:7.5YR4/4C・D・E・F 内:7.5YR6/6暗	-
234	AH14 棕色土器	圓文土器 深鉢	(29.7)	-	外:貝委瓶→ナード→凹縫→凹在 内:ナード	外:7.5YR5/3明赤褐 内:7.5YR6/3明赤褐	-
235	AG13 棕色土器	圓文土器 深鉢	-	-	外:貝委瓶→貝側突→凹縫 内:貝委瓶	外:7.5YR5/3明赤褐 内:7.5YR6/8暗	-
236	AJ15 棕色土器	圓文土器 深鉢	-	-	外:貝委瓶→ナード→沈縫 内:貝委瓶	外:7.5YR4/1黒褐 内:10YR5/4C・D・E・F	-
237	AH14 棕色土器	圓文土器 深鉢	(35.0)	-	外:貝委瓶→ナード→貝側突→凹縫 内:貝委瓶→ナード	外:7.5YR5/4明赤褐 内:7.5YR6/6暗	-
238	AJ15	圓文土器 深鉢	(28.4)	-	外:ナード→貝側突→沈縫 内:貝委瓶→ナード	外:10YR3/2暗褐 内:7.5YR6/6暗	-
239	AP14+AG14 棕色土器	圓文土器 深鉢	(20.3)	-	外:貝委瓶→貝側突 内:ナード	外:7.5YR4/4C・D・E・F 内:7.5YR2/2暗褐	-
240	AH15 棕色土器	圓文土器 深鉢	-	-	外:ナード→沈縫→貝側突 内:ナード	外:7.5YR6/6暗 内:2.5YR4/5黄褐	-
241	AJ14 棕色土器	圓文土器 深鉢	(18.5)	-	外:貝委瓶→貝側突 内:貝委瓶	外:7.5YR4/6赤褐 内:10YR2/1黒	-
242	AH15 棕色土器	圓文土器 深鉢	-	-	外:貝委瓶→ナード→貝側突 内:貝委瓶→ナード	外:10YR2/1黒 内:7.5YR5/4C・D・E・F	-
243	AH14 棕色土器	圓文土器 深鉢	-	-	外:貝委瓶→ナード→貝側突 内:貝委瓶→ナード	外:2.5YR4/3暗灰黃 内:10YR7/6暗黃褐	-
244	AJ14 棕色土器	圓文土器 深鉢	-	-	外:貝委瓶→ナード→沈縫→貝側突 内:ナード→沈縫→貝側突	外:7.5YR6/6暗 内:7.5YR5/4C・D・E・F	-
245	AH15 棕色土器	圓文土器 深鉢	-	-	外:ナード 内:貝委瓶→ナード→貝側突	外:7.5YR5/6暗褐 内:10YR3/2暗褐	-
246	AJ14 棕色土器	圓文土器 深鉢	(13.0)	-	外:ナード→沈縫→貝側突 内:ナード	外:2.5YR5/6明赤褐 内:7.5YR2/2暗褐	-
247	AH15 棕色土器	圓文土器 深鉢	(25.6)	-	外:ナード→沈縫 内:ナード→ナード	外:10YR3/1黒褐 内:7.5YR6/6暗	-
248	AK12 亂丸	圓文土器 深鉢	-	-	外:七ガヨー→沈縫 内:七ガヨー	外:7.5YR7/6暗 内:10YR6/6暗黃褐	赤色顔料跡有
249	-	圓文土器 深鉢	(36.5)	-	外:七ガヨー→凹縫→沈縫 内:七ガヨー	外:10YR3/2暗褐 内:2.5YR5/1黒灰	-
250	AG14 棕色土器	圓文土器 深鉢	-	-	外:圓文→七ガヨー→沈縫 内:七ガヨー	外:7.5YR5/3C・D・E・F 内:7.5YR6/4C・D・E・F	-
251	褐色土器	圓文土器 深鉢	(32.2)	-	外:ミガヨー→圓文→沈縫 内:ミガヨー	外:10YR3/2暗褐 内:10YR6/4C・D・E・F	-
252	AG15 棕色土器	圓文土器 深鉢	-	-	外:ミガヨー→沈縫 内:ミガヨー	外:10YR3/1黒褐 内:10YR4/1黒灰	-
253	褐色土器	圓文土器 深鉢	-	-	外:ミガヨー→沈縫 内:ミガヨー	外:7.5YR3/2暗褐 内:7.5YR3/2黒褐	-
254	-	圓文土器 深鉢	(14.0)	-	外:ミガヨー→沈縫 内:ミガヨー	外:7.5YR3/2暗褐 内:7.5YR3/2黒褐	-

表7 8区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法cm			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
255	-	縄文土器 深鉢	(23.1)	-	-	外:「ミガキ 内:「ミガキ	外:2.5V5/1黒褐色 内:5V3/1マグネット	-
256	褐色土層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:「ミガキ 内:「ミガキ	外:10V3/1黒褐色 内:10V3/3C-5A 黄褐色	-
257	AH15 褐色土層	縄文土器 深鉢	(36.0)	-	-	外:「ミガキ 内:「ミガキ	外:7.5V9/1黒褐色 内:7.5V9/1黒褐色	-
258	AG15 褐色土層	縄文土器 深鉢	(22.0)	-	-	外:「ミガキ 内:「ミガキ	外:5V8/6/明赤褐色 内:10V3/2黒褐色	-
259	AG16 褐色土層	縄文土器 深鉢	(25.0)	-	-	外:「ミガキ 内:「ミガキ	外:5V8/4/ニシ-5A 黑褐色 内:5V8/6/明赤褐色	-
260	AJ15 褐色土層	縄文土器 深鉢	(29.2)	-	-	外:「ミガキ 内:「ミガキ	外:7.5V8/3黒褐色 内:7.5V8/3黒褐色	-
261	AJ15 褐色土層	縄文土器 深鉢	(33.6)	-	-	外:「ミガキ 内:「ミガキ	外:7.5V8/4/25A 黄褐色 内:7.5V8/4/25A 黄褐色	-
262	AH15	縄文土器 深鉢	(29.0)	-	-	外:「ミガキ 内:「ミガキ	外:10V3/2.5A 黄褐色 内:5V8/6/明赤褐色	-
263	AJ15 褐色土層	縄文土器 深鉢	(30.0)	-	-	外:「ミガキ 内:「ミガキ	外:7.5V8/6/4C-5A 黄褐色 内:7.5V8/6/4C-5A 黄褐色	-
264	AJ15 褐色土層	縄文土器 深鉢	(29.0)	-	-	外:「ミガキ 内:「ミガキ	外:7.5V8/3C-5A 黄褐色 内:5V8/6 黑褐色	-
265	AH15 褐色土層	縄文土器 深鉢	(23.1)	-	-	外:「ミガキ 内:「ミガキ	外:5V8/4/4C-5A 黑褐色 内:5V8/6/明赤褐色	-
266	AH14 褐色土層 [ヒュニア?上部]	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:「ミガキ 内:ナデ	外:7.5V8/2/25A 黄褐色 内:10V3/1 黑褐色	-
267	褐色土層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:「ミガキ 内:「ミガキ	外:5V8/3/2黒褐色 内:5V8/2 黑褐色	-
268	褐色土層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:「ミガキ-側面 内:「ミガキ	外:5V8/3/2黒褐色 内:2.5V8/6 黑褐色	-
269	AG14 褐色土層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ-側面 内:ナデ	外:10V3/1/3C-5A 黄褐色 内:7.5V8/4/2C-5A 黄褐色	-
270	AG14 褐色土層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ-側面 内:ナデ	外:7.5V8/5/4C-5A 黄褐色 内:7.5V8/3 黑褐色	-
271	AH14 褐色土層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ 内:貝殻灰-ナデ	外:2.5V8/6/3C-5A 黄褐色 内:10V3/4/2C-5A 黄褐色	-
272	AH13 褐色土層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ-側面 内:貝殻灰	外:10V3/5/4C-5A 黄褐色 内:10V8/6/4C-5A 黄褐色	-
273	AH14 1層	縄文土器 深鉢	(41.0)	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5V8/6/4C-5A 黄褐色 内:7.5V8/7/4C-5A 黄褐色	-
274	AJ15 褐色土層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:5V8/3/2黒褐色 内:5V8/6/4C-5A 黑褐色	-
275	AH15 褐色土層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ-側面 内:ナデ	外:10V3/6/3C-5A 黄褐色 内:10V8/6/3C-5A 黄褐色	-
276	AJ14 1層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ-側面 内:ナデ	外:7.5V9/5/6H 創 内:5V8/5/6/明赤褐色	-
277	V1層	弥生土器 便	-	-	-	外:ナデ-側面 内:ナデ	外:10V3/1/2H 黄褐色 内:7.5V8/4 黑褐色	-
278	AH14 褐色土層	弥生土器 便	-	-	-	外:ナデ-側面突帯-沈縫 内:ナデ	外:7.5V8/6 黑褐色 内:7.5V8/6/4C-5A 黄褐色	-
279	AJ14 褐色土層	縄文土器 深鉢	(25.0)	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5V8/6 黑褐色 内:7.5V8/6 黑褐色	内面赤褐色斜面
280	AJ15 1層	弥生土器 便	-	-	-	外:ナデ-側面-側目突帯 内:ナデ	外:5V8/6 黑褐色 内:7.5V8/6 黑褐色	-
281	AH15 褐色土層	弥生土器 便	-	-	-	外:ナデ-側目突帯 内:ナデ	外:2.5V7/4 黄褐色 内:2.5V7/4 黄褐色	-
282	AJ15 1層	弥生土器 便	-	-	-	外:ナデ-側目突帯 内:ナデ	外:10V8/4/2H 黄褐色 内:7.5V8/6/4C-5A 黄褐色	-
283	AJ15 1層	弥生土器 便	-	-	-	外:ナデ-側目突帯 内:ナデ	外:10V8/2/2黒褐色 内:10V8/5/4C-5A 黄褐色	-
284	AH15 1層	弥生土器 便	-	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10V3/3 黑褐色 内:2.5V5/3 黄褐色	-
285	AH15 褐色土層	弥生土器 便	-	-	-	外:ナデ-側目突帯 内:ナデ	外:10V3/2 黑褐色 内:5V8/6 黑褐色	-
286	AH15 褐色土層	弥生土器 便	-	-	-	外:ナデ-側目突帯 内:ナデ	外:10V8/4/2H 黄褐色 内:10V8/6/4C-5A 黄褐色	-
287	AH15 褐色土層	弥生土器 便	-	-	-	外:ナデ-側目突帯 内:ナデ	外:2.5V3/2 黑褐色 内:10V8/6 黑褐色	-
288	AG15 褐色土層	弥生土器 便	-	-	-	外:ミガキ-側目突帯 内:ナデ	外:10V3/1/3C-5A 黄褐色 内:10V8/2 黑褐色	-
289	AH15 褐色土層	弥生土器 便	(32.7)	-	-	外:ミガキ 内:ミガキ	外:2.5V6/4C-5A 黄褐色 内:2.5V6/4C-5A 黄褐色	-
290	AG15 褐色土層	弥生土器 便	-	-	-	外:ハケ目-側目突帯 内:ナデ	外:10V8/4/2C-5A 黄褐色 内:10V8/4/2C-5A 黄褐色	-
291	AG15 褐色土層	弥生土器 便	-	-	-	外:ナデ-側目突帯 内:ナデ	外:10V8/4/2C-5A 黄褐色 内:10V8/4/2C-5A 黄褐色	-

表7 8区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 認種	寸法cm		調整	色調	備考	
			D径	底径				
292	AH15褐色土器	弥生土器 甕	-	-	-	外:ハケ目→斜口尖底 内:ナダ	外:7.5V3/3L2.5L3.5H 内:10V8/4L3.5L4.5H 黄褐色	-
293	AG16褐色土器	弥生土器 甕	-	-	-	外:斜口尖底・沈縁 内:ナダ	外:7.5V8/7.6H 内:7.5V8/7.6H	-
294	AG15褐色土器	弥生土器 甕	-	-	-	外:ナダ→斜口尖底 内:ナダ	外:10V8/7.4L3.5L4.5H 内:7.5V8/7.6H	-
295	褐色土器	弥生土器 甕	-	-	-	外:ナダ→尖底 内:ナダ	外:2.5V4/4周灰黃 内:2.5V4/4周灰黃	-
296	AG16褐色土器	弥生土器 甕	-	-	-	外:ナダ→尖底 内:ナダ	外:BY3/1サクーブ黒 内:BY2/1黒	-
297	褐色土器	弥生土器 甕	(26.0)	-	-	外:ナダ→尖底 内:ナダ	外:10V8/2.2周褐 内:10V8/3.2L3.5L4.5H 黄褐色	-
298	褐色土器	弥生土器 甕	(30.0)	-	-	外:ナダ→尖底 内:ナダ	外:10V8/1.5周褐 内:2.5V4/1.5周褐	-
299	褐色土器	弥生土器 甕	-	6.5	-	外:ナダ→斜口尖底 内:ナダ	外:2.5V3/8周赤褐 内:BY3/1サクーブ黒	-
300	AJ15上層	弥生土器 甕	(13.6)	-	-	外:ミガキ 内:ミガキ	外:2.5V3/4周灰黃 内:2.5V3/4周灰黃	-
301	AJ15上層	弥生土器 甕	-	0.20	-	外:ミガキ 内:ミガキ	外:10V8/4.1L2.5H 内:10V8/4.1L2.5H 黄褐色	-
302	AH16上層	弥生土器 甕	(15.0)	-	-	外:ナダ 内:ナダ	外:7.5V8/7.6H 内:10V8/7.6H 黄褐色	-
303	AH15褐色土器	弥生土器 高杯	-	-	-	外:ミガキ 内:ナダ	外:7.5V8/6.6H 内:BY3/1サクーブ黒	-
304	I層	弥生土器 甕	-	-	-	外:ナダ→沈縁 内:ナダ	外:2.5V3/2周灰黃 内:2.5V3/2周灰黃	-
305	AG16褐色土器	弥生土器 高杯?	-	7.9	-	外:ヨコナダ→ミガキ 内:ナダ	外:10V8/4.1L2.5H 内:10V8/4.1L2.5H 黄褐色	-
306	AJ15褐色土器	圓文土器 底部	-	7.99	-	外:ナダ 内:良桑底→ナダ	外:BY8/4.1L2.5H 内:10V8/4.1L2.5H 赤褐色	-
307	AH14褐色土器	圓文土器 底部	-	12.4	-	外:ナダ→沈縁 内:ナダ	外:7.5V8/6.6H 内:BY8/4.1L2.5H 赤褐色	-
308	褐色土器	圓文土器 底部	-	6.7	-	外:ナダ 内:ナダ	外:10V8/7.6H 内:BY4/1灰	-
309	褐色土器	圓文土器 底部	-	4.7	-	外:ナダ 内:ナダ	外:BY8/6.6H 内:7.5V8/6.6H	-
310	AG16褐色土器	圓文土器 底部	-	6.4	-	外:ナダ 内:ナダ	外:7.5V8/6.6H 内:2.5V3/8周	-
311	AG16褐色土器	圓文土器 底部	-	7.1	-	外:ミガキ 内:ナダ	外:10V8/4.1L2.5H 内:2.5V3/4L2.5H 黄褐色	-
312	AH15褐色土器	圓文土器 底部	-	4.0	-	外:ミガキ 内:ミガキ	外:10V8/4.1L2.5H 内:BY8/4.1L2.5H 赤褐色	-
313	AH15褐色土器	圓文土器 底部	-	6.6	-	外:ミガキ 内:ナダ	外:BY8/6.6H 内:7.5V8/6.6H	-
314	AH15褐色土器	圓文土器 底部	-	8.9	-	外:ミガキ 内:ナダ	外:BY8/6.6H 内:7.5V8/6.6H 赤褐色	-
315	褐色土器	圓文土器 底部	-	8.0	-	外:ナダ 内:ナダ	外:BY8/4.1L2.5H 内:7.5V8/4.1L2.5H 赤褐色	-
316	AG16褐色土器	圓文土器 台付瓶形	-	9.60	-	外:ナダ→沈縁 内:ナダ	外:BY8/6.6H 内:10V8/7.6H	-
317	AJ15褐色土器	圓文土器 台付瓶形	-	10.10	-	外:ナダ→沈縁→貝刺突 内:ナダ	外:2.5V8/6.6H 内:BY8/5.6H 赤褐色	-
318	AJ15褐色土器	圓文土器 台付瓶形	-	9.30	-	外:ナダ→沈縁→貝刺突 内:ミガキ	外:10V8/4.1L2.5H 内:10V8/4.1L2.5H 黄褐色	-
319	AH15褐色土器	圓文土器 注口	-	-	-	外:ミガキ 内:ナダ	外:BY8/6.6H 内:-	-
320	AH14褐色土器	圓文土器 台付瓶形	-	8.99	-	外:ナダ 内:ナダ	外:10V8/4.1L2.5H 内:10V8/4.1L2.5H 黄褐色	-
321	AJ15褐色土器	圓文土器 高杯	-	4.2	-	外:ミガキ→羽状沈縲 内:ミガキ	外:10V8/7.6H 内:10V8/2.5周	-
322	褐色土器	圓文土器 高杯	-	3.6	-	外:ミガキ→沈縲・羽状沈縲 内:ミガキ	外:2.5V8/1.6H 内:2.5V8/1.6H 灰	-
323	AH15褐色土器	圓文土器 高杯	-	3.3	-	外:ミガキ→沈縲 内:ミガキ	外:2.5V8/2.5H 内:2.5V8/2.5H 灰	-
324	AG15褐色土器	圓文土器 高杯	-	2.0	-	外:ミガキ→沈縲 内:ミガキ	外:7.5V8/1.6H 内:7.5V8/1.6H 灰	-
325	褐色土器	土製品 土製円盤	縦3.3	横3.5	厚0.8	外:ナダ 内:ナダ	外:7.5V8/4.3H 内:7.5V8/4.3H 灰	重量 9.5g, 側面磨滅痕有(全面) 後壁穿孔有
326	褐色土器	土製品 土製円盤	縦3.8	横3.8	厚1.2	外:ナダ→沈縲 内:ナダ	外:7.5V8/6.6H 内:7.5V8/6.6H 灰	重量 21.2g, 側面磨滅痕有(全面)
327	AH13上層	土製品 土製円盤	縦4.2	横4.1	厚0.9	外:ナダ→沈縲 内:ナダ	外:BY8/4.1L2.5H 内:BY8/4.1L2.5H 赤褐色	重量 20.2g, 側面磨滅痕有(全面)
328	AH13上層	土製品 土製円盤	縦4.0	横3.9	厚0.8	外:ナダ→沈縲・貝刺突 内:ナダ	外:BY8/3.2H 内:BY8/3.2H 赤褐色	重量 15.3g, 側面磨滅痕有(全面)

表7 8区出土遺物観察表(土器)

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法(cm)			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
329	褐色土層	縄文土器 土製円盤	縦4.3	横4.2	厚0.8	外:ナデ 内:ナデ	外:5YR7/1黒褐 内:2.5YR5/6黒赤褐	重量 18.5g, 側面磨滅痕有(全面)
330	褐色土層	土製品 土製円盤	縦3.3	横3.3	厚0.7	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5YR5/4C-3 内:5YR4/6赤褐	重量 10.1g, 側面磨滅痕有(全面)
331	AG15	青磁 罐	(17.0)	-	-	-	外:N8/灰白 内:10Y5/2オーブ灰	-
332	AG16	青磁 罐	-	-	-	-	外:N7/灰白 内:10Y6/2オーブ灰	-
333	AH15	青磁 罐	-	(5.0)	-	-	外:N7/灰白 内:5GY7/1明オーブ灰	-
334	-	青磁 罐	-	(5.0)	-	-	外:N6/灰 内:2.5GY6/1オーブ灰	-
335	AH15	白磁 里	(9.0)	(5.0)	2.7	-	外:7.5YR/1灰白 内:10Y8/1灰白	-
336	AG16	白磁 里	(9.0)	(5.0)	2.8	-	外:N8/灰白 内:2.5GY7/1明オーブ灰	-
337	AH15	土師器 小瓶	(8.0)	(6.0)	1.4	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5YR8/0赤黄褐 内:10Y8/4C-3C-1黄褐	底部糸切
338	AH15	土師器 小瓶	(8.0)	(7.1)	1.6	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5YR7/8赤褐 内:7.5YR8/6褐	底部糸切
339	AH15	土師器 小瓶	(8.0)	(6.0)	1.4	外:ナデ 内:ナデ	外:10YR7/3C-3C-1黄褐 内:10YR7/3C-3A-1黄褐	底部糸切
340	AH15	土師器 小瓶	(7.0)	(6.0)	1.1	外:ナデ 内:ナデ	外:10YR7/6B-6黄褐 内:10YR7/6B-6黄褐	-
341	AH15	陶器 捏ね	(31.0)	-	-	-	外:2.5Y7/6明黄褐 内:2.5Y8/3淡黄	東側系
342	-	石製品 罐	-	-	-	-	-	滑石製石器
343	AF15	石製品 罐	(19.0)	-	-	-	-	滑石製石器
344	AG16	石製品 罐	-	-	-	-	-	-
345	AH16	陶器 罐	-	-	-	-	外:7.5Y4/1灰 内:5Y3/1オーブ灰	-
346	AG16	陶器 罐	-	-	-	-	外:10YR5/3C-3C-1黄褐 内:10YR5/3C-3A-1黄褐	-
347	AH15	縄繩陶器 水差し?	-	-	-	-	外:7.5YR/1灰 内:3GV5/5.5モスグリーン	-

表7 8区出土遺物観察表(石器)

報告番号	出土地区	層位	器種	石材	寸法 (mm)			重量 (g)	備考
					長さ	幅	厚さ		
9	SA15	-	削器	安山岩	110.0	34.0	100.0	29.8	-
25	SA16	-	凹盤状石器	安山岩	106.4	112.4	21.7	244.5	-
26	SA16	-	磨石	頁岩	91.8	73.4	41.8	353.9	-
30	SA17	-	石皿	安山岩	245.0	261.0	115.0	7220.0	-
31	SA17	-	石皿	安山岩	157.0	207.0	102.0	5100.0	-
33	SA18	-	削器	頁岩	88.0	52.0	20.1	80.6	-
34	SA18	-	石錐	黒曜石Ⅱ	34.0	33.3	40.4	48.8	-
35	SA18	-	磨石	輝石	74.0	52.0	37.0	141.5	-
36	SA18	-	磨石	砂岩	99.8	63.0	47.0	408.5	-
48	SA19	-	磨石	流紋岩	95.0	57.0	60.0	381.3	-
49	SA19	-	石錐	砂岩	43.7	41.9	12.1	34.2	-
50	SA19	-	磨製石斧	ホルンフェルス	85.6	73.0	37.5	320.9	-
51	SA19	-	石皿	安山岩	277.0	351.0	136.0	12500.0	-
56	SA20	-	磨石	安山岩	112.0	87.0	56.0	752.4	-
57	SA20	-	磨石	石英斑岩	105.7	92.1	49.0	606.6	-
73	SA25	-	石錐	頁岩	63.0	52.0	17.5	77.8	切目石錐
86	SA27	-	凹盤状石器	安山岩	78.4	75.0	16.1	122.2	黒曜石安山岩類似
87	SA27	-	磨石	安山岩	93.1	82.1	36.8	405.3	-
101	SA28	-	石錐	頁岩	55.1	28.4	9.7	23.7	切目石錐
106	SA29	-	石皿	安山岩	161.2	126.0	68.4	1400.0	-
116	SC01	-	磨石	流紋岩	103.0	86.0	64.0	650.2	-
121	SC02	-	磨石	多孔質安山岩	98.7	83.0	44.2	470.6	-
130	SC04	-	磨製石斧	ホルンフェルス	178.5	65.5	37.0	560.1	-
131	SC04	-	磨石	花崗岩	118.0	82.0	46.0	772.0	-
132	SC04	-	磨石	多孔質安山岩	105.5	101.5	40.7	585.9	-
140	SC06	-	磨石・鉋石	砂岩	86.2	55.7	39.7	294.5	鏡照・敲打痕有
144	SC08	-	磨石	石英斑岩	107.0	95.4	52.0	896.2	-
157	SC14	-	磨石	安山岩	111.8	94.0	39.2	473.9	-
158	SC14	-	磨石	石英斑岩	91.3	101.9	56.2	861.1	-
159	SC15	-	石皿	安山岩	147.0	153.0	62.0	1700.0	-
183	SC26	-	石錐	玉髓	16.9	16.0	3.8	0.5	片端部欠損
190	SC32	-	石皿	安山岩	169.0	140.3	101.0	3700.0	-
348	AH15	I層	石製品	滑石	41.4	26.3	21.0	16.3	-
349	AH12	II層	石錐	チャート	36.7	18.4	4.6	2.5	-
350	-	-	石錐	チャート	24.1	12.5	3.3	0.6	脚部欠損
351	AH14	表土	石錐	チャート	21.9	14.5	3.4	0.7	脚部欠損
352	-	-	石錐	玉髓	22.9	18.7	6.6	1.3	脚部欠損
353	AH13	表土	石錐	頁岩	19.5	12.8	3.0	0.6	脚部新欠

表7 8区出土遺物観察表(石器)

報告番号	出土地区	層位	器種	石材	寸法 (mm)			重量 (g)	備考
					長さ	幅	厚さ		
354	AJ13	表土	石器	チャート	20.2	13.9	3.0	0.6	脚底欠損・両面削減有
355	AJ15	表土	石器	頁岩	15.1	11.6	2.7	0.3	先端部・脚底欠損
356	AH06	表土	石器	玉髓	14.9	12.9	3.0	0.4	両先端部欠損
357	AH14	表土	石器	玉髓	27.1	17.9	3.9	1.0	-
358	AH12	表土	石器	黒曜岩 I a& I d	18.4	15.4	3.8	0.9	脚底欠損
359	AH13	表土	石器	玉髓	19.8	16.8	2.5	0.6	脚底欠損
360	AJ14	表土	石器	チャート	18.2	12.4	2.5	0.5	脚底欠損
361	-	-	石器	チャート	16.1	13.0	2.4	0.4	-
362	AH12	表土	石器	チャート	14.2	12.7	2.4	0.4	脚底欠損
363	AH13	表土	石器	チャート	17.9	13.9	2.3	0.4	脚底欠損
364	AH12	表土	石器	玉髓	11.6	16.8	2.3	0.4	両先端部欠損
365	AJ14	表土	石器	頁岩	13.9	12.7	3.7	0.5	-
366	AH15	表土	石器	頁岩	14.6	15.5	2.7	0.6	-
367	AG13	表土	削器・石器	玉髓	35.1	16.1	8.5	4.0	-
368	-	-	削器	チャート	76.2	34.6	10.5	17.1	-
369	-	褐色土層	削器	珪質頁岩	64.1	44.6	20.4	42.7	-
370	-	-	削器	珪質頁岩	41.2	82.1	13.0	29.8	-
371	AJ05	褐色土層	削器	安山岩	96.9	46.4	10.4	29.6	-
372	AJ13	-	石核	黒曜石 II	63.5	84.5	65.5	369.2	-
373	AJ14	IV層	磨製石斧	蛇紋岩	143.3	25.0	24.1	134.4	基盤・刃部欠損
374	AH14	IV層	磨製石斧	蛇紋岩	93.8	24.0	17.8	61.1	-
375	-	I層	磨製石斧	蛇紋岩	31.6	34.7	9.4	13.0	-
376	AK13	I層	磨製石斧	蛇紋岩	30.5	20.8	4.7	4.7	-
377	AJ15	I層	磨製石斧	蛇紋岩	50.0	28.0	17.0	36.9	-
378	SE02	-	磨石	多孔質頁岩	105.5	84.4	40.5	517.3	-
379	-	-	打製石斧?削器?	安山岩	142.6	85.1	21.6	291.3	-
380	AH13	IV層	石器	粘板岩	54.4	81.0	23.7	121.0	打矢石錐
381	-	IV層	環状石斧	ホルンフェルス	80.0	51.0	14.0	44.4	-
382	SE02	-	石器	安山岩	189.0	176.0	89.0	2920.0	-
383	AG16	I層	砥石	泥質岩	94.0	51.0	34.0	265.0	-

第3章

第9節 山中遺跡9区



第9節 山中遺跡9区の調査

1 山中遺跡9区の概要

山中遺跡9区（以下9区）は、平成18年度に発掘調査を実施し、同時期に調査を行っていた10区の北側隣接地に位置する。調査区は水田面毎に分割して設定し、西側を9-1区、東側を9-2区として調査を行った。土層の堆積は、山中遺跡で認められる標準的な堆積状況を示しており、基本土層VI層（黒色土層）からは縄文時代中期後葉から後期前葉までの遺物が多量に出土した。遺構は小穴や土坑を確認した。遺物は縄文時代中期後葉の春日式・中尾田Ⅲ類・大平式、後期初頭の岩崎式・阿高式・南福寺式・中津式が出土しており、指宿式や市来式など後期前葉の土器は、小破片も含めて出土していない。

2 遺構外出土遺物

縄文時代中期～後期の土器（図157～161）

1は口縁部が内湾する春日式で、沈線内刺突を行っており、刺突は沈線内に納まる。2は口縁部を肥厚させるもので、滑石を多く混入する。3～6は肥厚する口縁部に貝刺突を行い、6は肥厚部下端にも刺突を行う。9は押引により文様を施文する。10は大平式の無文土器と思われ、隆筋状に肥厚させることにより口縁部を形成する。11は内湾気味に立ち上がる肥厚部を持ち、口縁部と胴部の境は、器壁を薄くすることにより形成された稜となる。口縁部には細線で文様を描き、口唇部には不明瞭ではあるが、小さな山形の突起を有するようである。13～16は肥厚させた口縁部に、凹点を施文する。18～30は口縁部に貝刺突もしくは、笠状の工具で縦長の刺突を行うもので、19は波頂部下に垂下降帶を有する。18・25・30～34・36は凹線あるいは沈線間に貝刺突を充填する。37～54は凹線あるいは沈線で文様を施文する岩崎式を纏めた。55～62・64・65は南福寺式で、64・65は笠削文で施文する南福寺特有の鉢である。63・66は沈線により施文するものである。9区から出土する中九州系の土器は南福寺式が主体である。67・68は中津式、70は肥厚する口縁部を刻み、波頂部には刺突により円形の文様を描出する。縄文時代中期の春日式の可能性もある。72～77は無文土器を纏めた。78～88は底部である。89～93は土製円盤である。

近世の遺物（図161）

94は薩摩系陶器碗で見込みに蛇目釉剥ぎ施し、砂粒の付着が認められる。

打製石器（図161）

95～98は二等辺三角形の石鏃で、95～97は抉りの深い凹基、98は抉りの浅い微凹基で、96は西北九州産黒曜岩、98は姫島産黒曜岩である。99は縁辺に調整剝離を持つ削器。100・101は日東産黒曜岩の石核である。102は薄く剥れた砂岩の縁辺の一部に剥離が認められるものである。

磨製石器・礫石器（図161・図162）

103～106は磨製石斧で、106は刃部欠損後に敲石利用されたと考えられる敲打痕が観察される。107～112は磨石で、109・111には被熱痕が認められる。113・114は粘板岩製の切目石錘である。

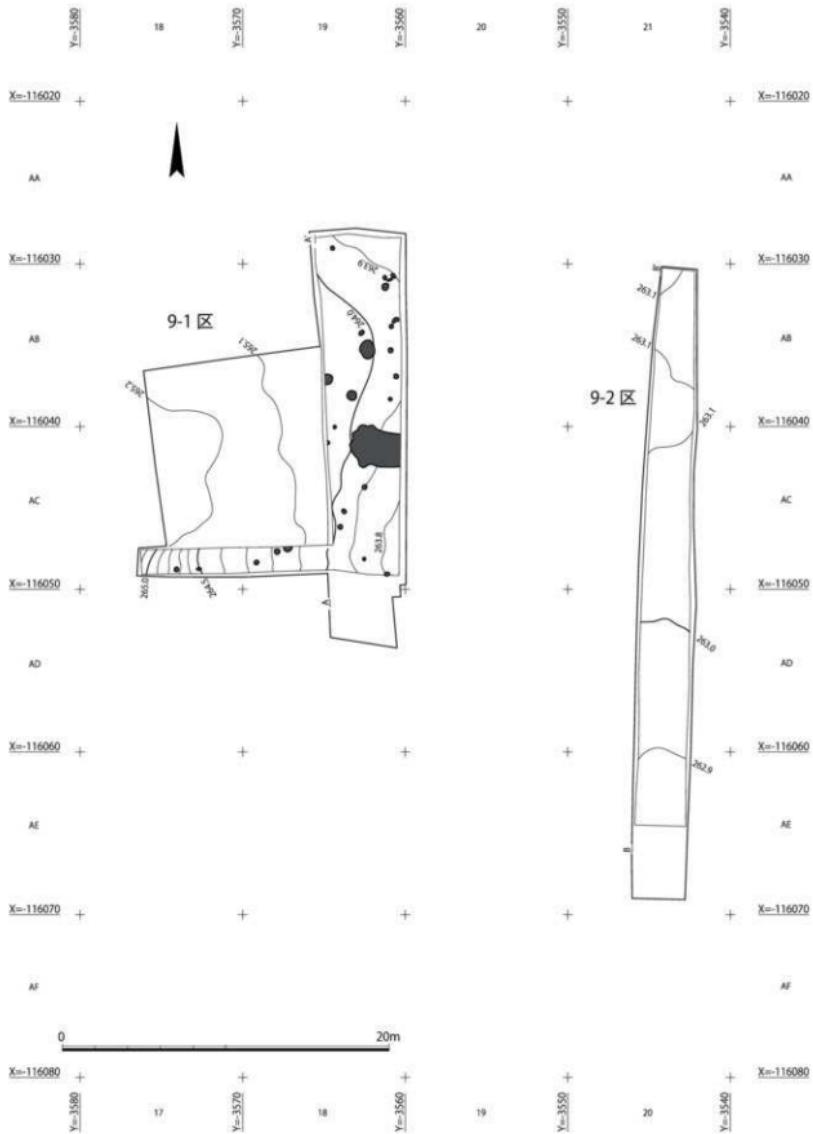


図 155 山中遺跡 9 区の遺構配置図 (1/300)

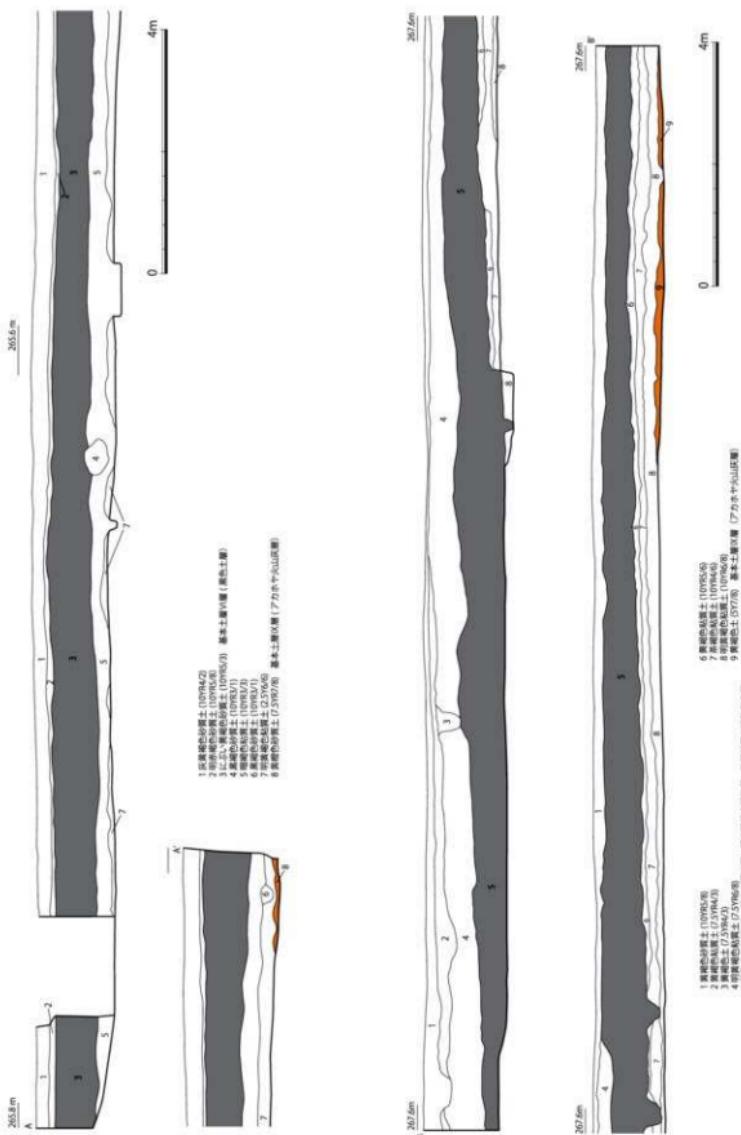


図 156 山中遺跡 9区の土層図 (1/80)

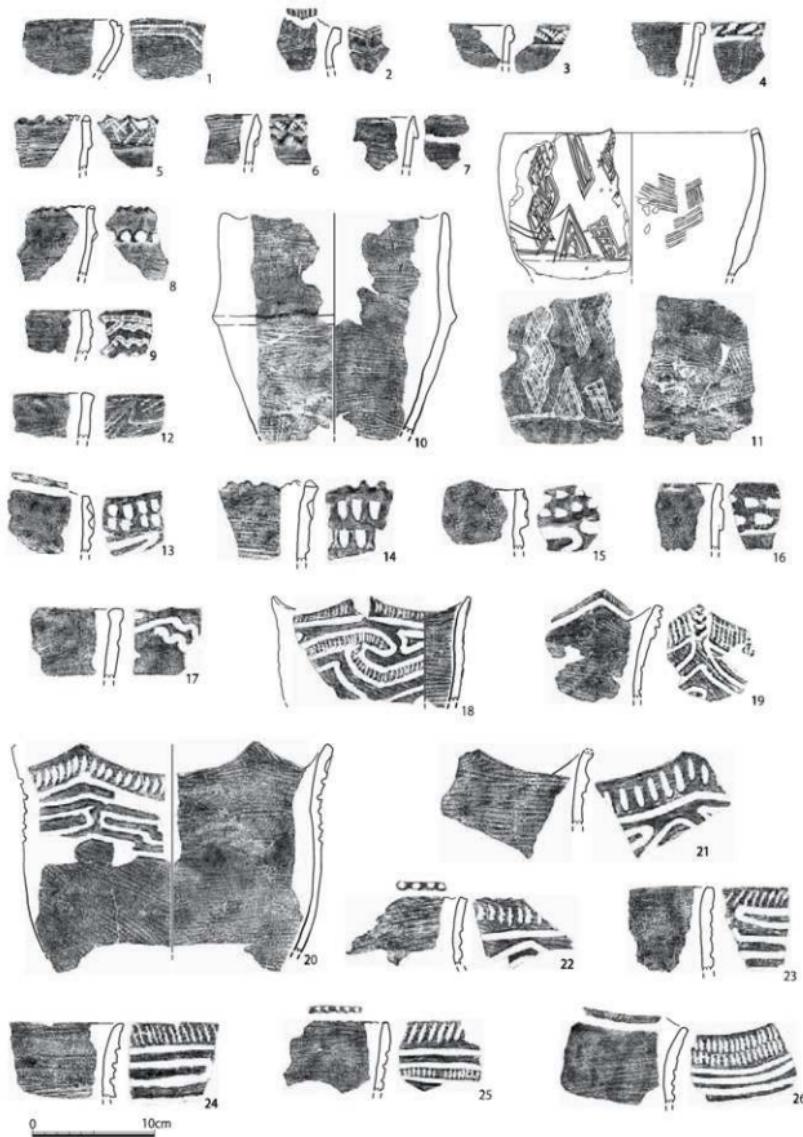


図 157 9区遺構外出土遺物 1 (1/4)

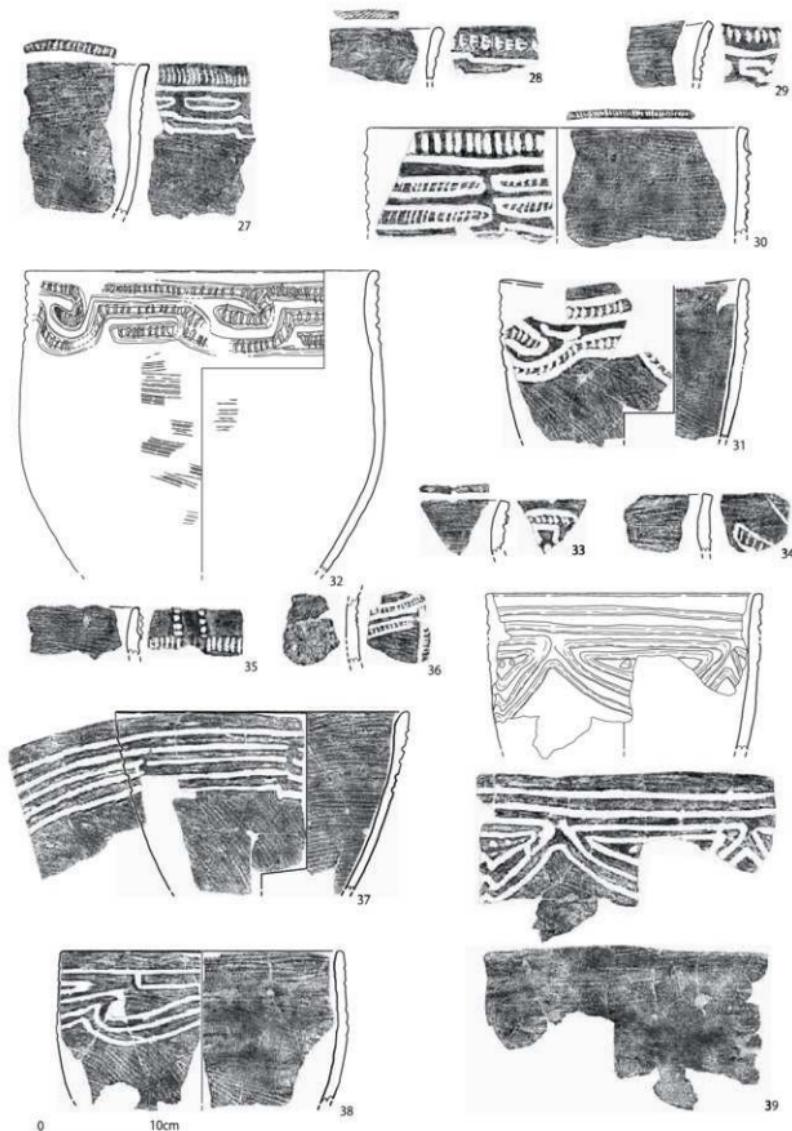


図 158 9区遺構外出土物 2 (1/4)

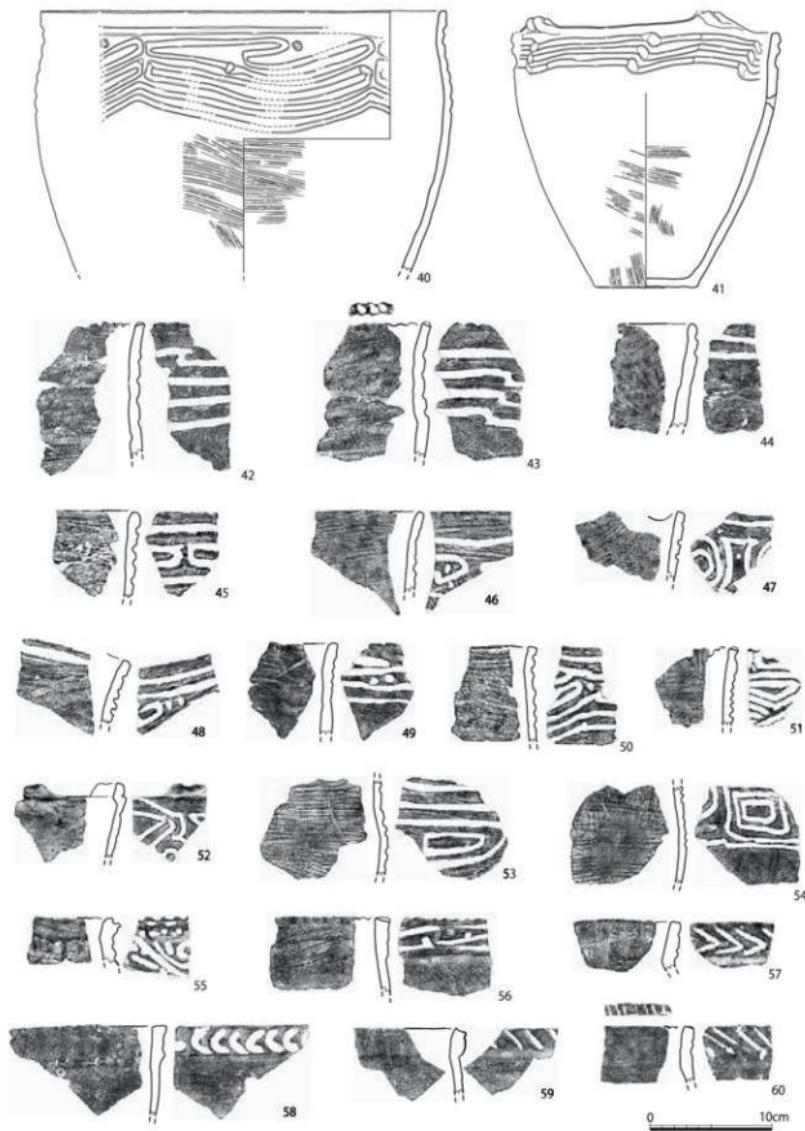


図 159 9区遺構外出土遺物 3 (1/4)

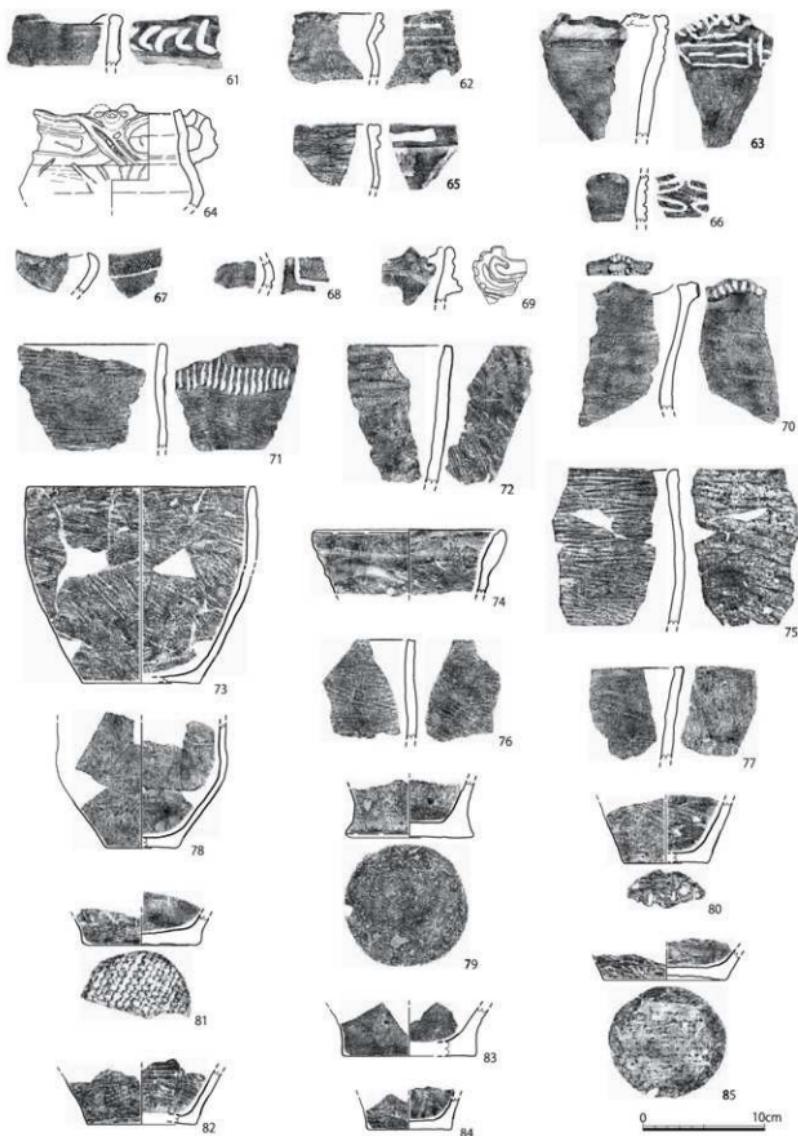


図 160 9区遺構外出土遺物 4 (1/4)

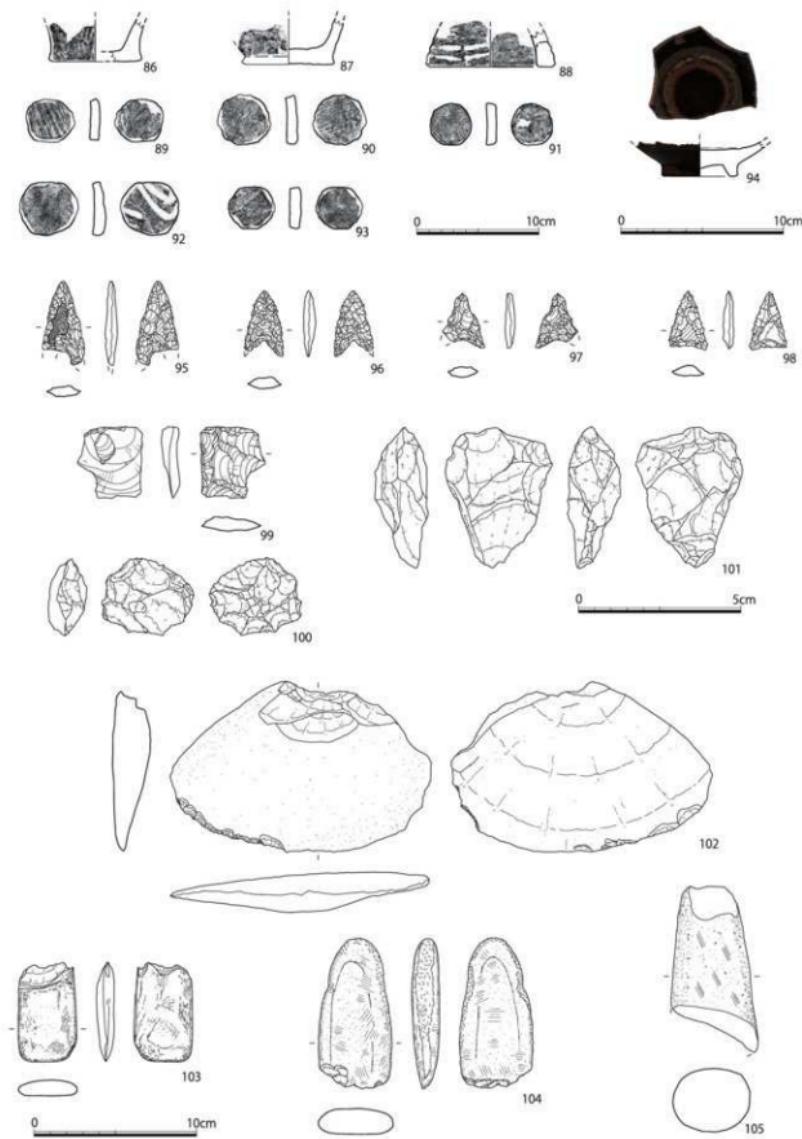


図 161 9区遺構外出土遺物 5 (94・102~105: 1/3 95~101: 2/3 その他: 1/4)

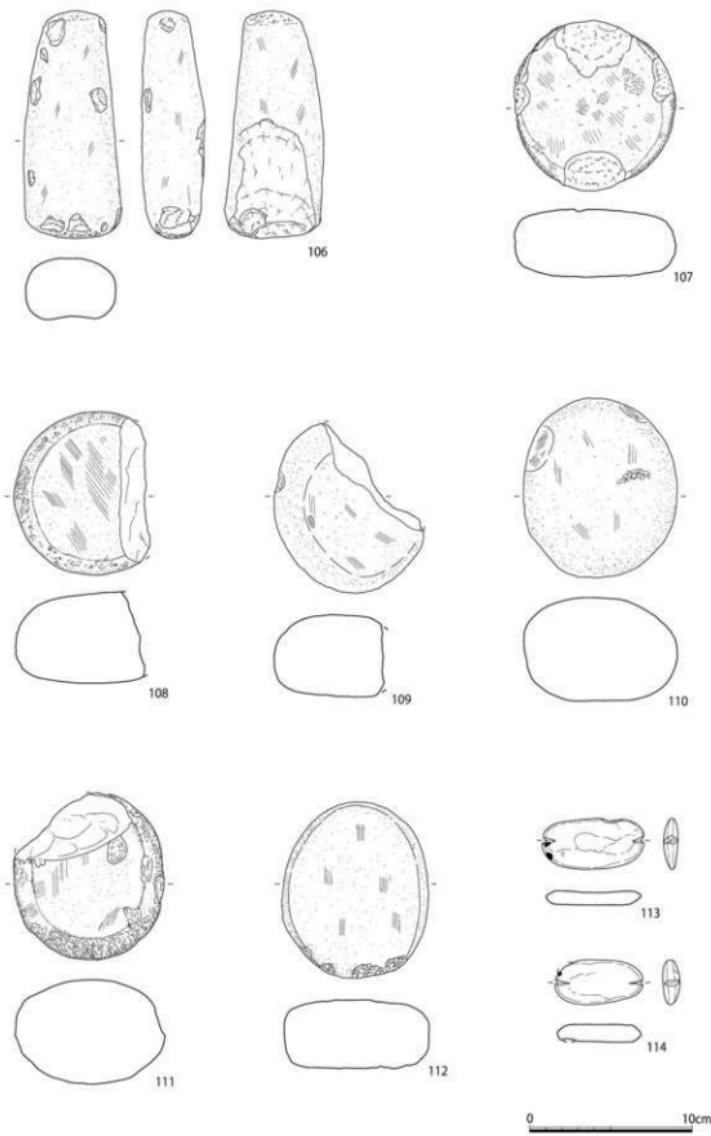


図 162 9区遺構外出土遺物 6 (1/3)

表8 9区出土遺物觀察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法(cm)			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
1	VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板→沈縫 内:貝条板→ナラ	外:7.5VRC/2黒褐 内:10VRC/2赤黄褐	沈縫内側突
2	VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナラ→沈縫 内:ナラ	外:7.5VRC/3黒 内:7.5VRC/2黒褐	滑石器人
3	-	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナラ→貝刺突 内:ナラ	外:7.5VRC/2黒褐 内:7.5VRC/3黒	-
4	VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナラ→貝刺突 内:貝条板→ナラ	外:10VRC/1黒褐 内:10VRC/2黒褐	外面僅付着
5	-	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナラ→貝刺突 内:貝条板→ナラ	外:7.5VRC/6黒 内:7.5VRC/6黒	-
6	-	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板→ナラ→切目縫帯 内:貝条板→ナラ	外:10VRC/3黒褐 内:10VRC/4.5(△)黄褐	-
7	VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板→ナラ 内:貝条板→ナラ	外:7.5VRC/3黒 内:10VRC/4.5(△)黄褐	-
8	VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナラ→貝刺突 内:ナラ	外:SYRC/4.5(△)赤褐 内:7.5VRC/4.5(△)白	口唇部貝刺突
9	I層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナラ→押印 内:貝条板→ナラ	外:7.5VRC/4(△)黒 内:7.5VRC/4(△)黒	-
10	VII層	圓文土器 深鉢	(18.7)	-	-	外:貝条板→ナラ 内:貝条板→ナラ	外:SYRC/4(△)△赤褐 内:7.5VRC	-
11	VII層	圓文土器 深鉢	(20.9)	-	-	外:ナラ→沈縫 内:貝条板→ナラ	外:SYRC/6明赤褐 内:7.5VRC/4黒	内部に稚実压痕有
12	VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナラ→沈縫→貝刺突 内:ナラ	外:SYRC/4(△)△赤褐 内:7.5VRC/4(△)△白	-
13	VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナラ→凹・回縫 内:ナラ	外:7.5VRC/2黒褐 内:10VRC/2赤黃褐	-
14	VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナラ→凹・回縫 内:貝条板→ナラ	外:7.5VRC/3(△)△白 内:10VRC/3(△)黄褐	-
15	VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナラ→凹・回縫 内:ナラ	外:10VRC/7(△)△黄褐 内:7.5VRC/4(△)△白	-
16	VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナラ→凹点・回縫 内:ナラ	外:10VRC/7(△)△黄褐 内:10VRC/7(△)△黄褐	-
17	VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナラ→凹縫 内:ナラ	外:10VRC/5(△)△黄褐 内:10VRC/5(△)△黄褐	-
18	VII層	圓文土器 深鉢	(16.3)	-	-	外:ナラ→凹縫→貝刺突 内:貝条板	外:10VRC/5(△)△黄褐 内:10VRC/5(△)△黄褐	-
19	VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝刺突→沈縫→貝刺突 内:貝条板→ナラ	外:10VRC/4(△)△白 内:10VRC/4(△)△白	-
20	VII層	圓文土器 深鉢	(26.3)	-	-	外:貝条板→ナラ→凹縫・貝刺突 内:貝条板	外:SYRC/3(△)△赤褐 内:SYRC/6明赤褐	-
21	VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナラ→凹縫・回縫 内:貝条板	外:10VRC/4灰黃褐 内:7.5VRC/4(△)△白	-
22	VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板→ナラ→貝刺突・凹縫 内:貝条板	外:5VRC/6白 内:SYRC/6明赤褐	-
23	VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナラ→凹縫→貝刺突 内:貝条板→ナラ	外:2.5VRC/2暗黄 内:2.5VRC/2暗黄	-
24	VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナラ→凹縫・貝刺突 内:貝条板→ナラ	外:7.5VRC/2黒褐 内:7.5VRC/4(△)△白	-
25	VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナラ→沈縫→貝刺突 内:ナラ	外:7.5VRC/4(△)△白 内:10VRC/5(△)△黄褐	-
26	VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナラ→沈縫・貝刺突 内:貝条板	外:10VRC/6黄褐 内:10VRC/6黄褐	-
27	VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナラ→沈縫→貝刺突 内:貝条板→ナラ	外:10VRC/2黒褐 内:10VRC/4(△)△黄褐	-
28	VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナラ→沈縫・貝刺突 内:ナラ	外:10VRC/2黒褐 内:10VRC/3黒褐	-
29	VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナラ→沈縫・貝刺突 内:貝条板→ナラ	外:10VRC/4(△)△白 内:5VRC/6黄褐	-
30	VII層	圓文土器 深鉢	(31.0)	-	-	外:ナラ→凹縫・貝刺突 内:貝条板→ナラ	外:10VRC/6明赤褐 内:10VRC/3黒褐	-
31	VII層	圓文土器 深鉢	(20.4)	-	-	外:ナラ→凹縫・貝刺突 内:貝条板→ナラ	外:2.5VRC/6(△)△白 内:2.5VRC/3暗赤白	-
32	VII層	圓文土器 深鉢	(29.0)	-	-	外:ナラ→凹縫・貝刺突 内:貝条板→ナラ	外:10VRC/9灰黃褐 内:10VRC/3(△)△白	-
33	VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナラ→凹縫・貝刺突 内:貝条板→ナラ	外:SYRC/6赤褐 内:SYRC/4(△)△白	-
34	VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナラ→沈縫・貝刺突 内:貝条板→ナラ	外:7.5VRC/2黒褐 内:7.5VRC/6明赤褐	-
35	VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナラ→凹縫・貝刺突 内:貝条板	外:7.5VRC/4(△)△白 内:7.5VRC/4(△)△白	-
36	VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナラ→沈縫・貝刺突 内:ナラ	外:2.5VRC/1白 内:2.5VRC/1白	-
37	VII層	圓文土器 深鉢	(24.1)	-	-	外:貝条板→ナラ→凹縫 内:貝条板	外:SYRC/6白 内:SYRC/4(△)△白	-

表8 9区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法cm			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
38	VII層	調文土器 深鉢	(23.2)	-	-	外:貝条板→ナデ→凹縁 内:貝条板	外:10YR6/3に△、黄褐色 内:SYR6/6赤褐色	-
39	VII層	調文土器 深鉢	(22.6)	-	-	外:ナデ→凹縁・網突 内:ナデ	外:7.5YR7/4黒 内:SYR5/4に△、赤褐色	-
40	VII層	調文土器 深鉢	(33.2)	-	-	外:貝条板→ナデ→凹縁 内:貝条板→ナデ	外:SYR5/4に△、赤褐色 内:SYR6/6黒	-
41	VII層	調文土器 深鉢	22.0	-	22.6	外:ナデ→凹縁 内:ナデ	外:7.5YR5/3黒 内:SYR5/4に△、赤褐色	補修孔有
42	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→凹縁 内:貝条板→ナデ	外:7.5YR7/4黒灰 内:2.5YR1/1黄灰	-
43	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→凹縁 内:ナデ	外:10YR6/3に△、黄褐色 内:10YR6/1黒褐色	-
44	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→凹縁 内:ナデ	外:2.5YR6/3黒褐色 内:2.5YR6/8黒	-
45	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→凹縁 内:ナデ	外:2.5YR6/6黒 内:2.5YR6/8黒	-
46	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→凹縁・凹点 内:貝条板→ナデ	外:7.5YR6/6黒 内:7.5YR6/4に△、黒	-
47	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈線・網突 内:ナデ	外:10YR7/4に△、黄褐色 内:2.5YR2/1黒	-
48	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→凹縁・網突 内:ナデ	外:7.5YR5/2黒褐色 内:10YR6/4に△、黄褐色	-
49	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→凹縁・網突 内:ナデ	外:SYR4/3に△、赤褐色 内:SYR5/6黒褐色	-
50	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→凹縁 内:貝条板・ナデ	外:SYR5/6黒褐色 内:7.5YR6/6黒	-
51	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈線 内:ナデ	外:10YR2/1黒褐色 内:10YR2/2黒褐色	-
52	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈線 内:ナデ	外:7.5YR4/4黒 内:7.5YR4/2黒	-
53	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→凹縁 内:貝条板→ナデ	外:7.5YR7/4黒 内:7.5YR6/6黒	-
54	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈線 内:貝条板・ナデ	外:7.5YR6/4に△、黒 内:SYR5/4に△、赤褐色	-
55	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈線・網突 内:ナデ	外:2.5YR4/6黒褐色 内:SYR4/6黒	-
56	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→凹縁 内:ナデ	外:7.5YR3/2黒褐色 内:7.5YR4/4黒	-
57	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈線 内:ナデ	外:SYR5/6黒褐色 内:2.5YR5/8黒褐色	-
58	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→凹点 内:ナデ	外:SYR5/8黒褐色 内:SYR1/6黒	-
59	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→凹点 内:ナデ	外:SYR5/6黒褐色 内:SYR6/6黒	-
60	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈線・網突 内:ナデ	外:SYR1/4黒褐色 内:SYR4/2に△、赤褐色	-
61	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→凹点 内:ナデ	外:SYR5/6黒褐色 内:2.5YR5/9黒褐色	-
62	灰黃27	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10YR2/1黒 内:10YR6/8明黄褐色	楕状把手剥離
63	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈線 内:ナデ	外:7.5YR5/4に△、黒 内:10YR6/2灰黃褐色	-
64	I層	調文土器 深鉢	(12.0)	-	-	外:ナデ→凹削文 内:ナデ	外:10R4/6赤 内:7.5YR6/6黒	赤色顔料塗布
65	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→凹削文 内:ナデ	外:2.5YR4/6黒褐色 内:SYR5/6黒褐色	-
66	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈線 内:ナデ	外:SYR5/6黒褐色 内:SYR5/6黒	-
67	I層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:波蘋→ガキ・調文 内:ガキ	外:10YR3/1黒褐色 内:10YR4/2灰黃褐色	-
68	-	調文土器 深鉢	-	-	-	外:波蘋→ガキ・調文 内:ナデ	外:10YR4/2灰黃褐色 内:10YR4/3に△、黄褐色	-
69	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→點付→沈線 内:ナデ	外:10YR3/1黒褐色 内:7.5YR4/3黒	C字狀貼付
70	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→貝刺突 内:ナデ	外:7.5YR2/2黒褐色 内:2.5YR3/6黒	口唇部にC字狀の貝刺突
71	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→貝刺突 内:貝条板→ナデ	外:7.5YR6/4に△、黒 内:7.5YR6/3に△、黒	-
72	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板→ナデ 内:ナデ	外:2.5YR2/2灰褐色 内:10YR4/2灰黃褐色	-
73	VII層	調文土器 深鉢	(18.0)	-	16.0	外:貝条板→ナデ 内:貝条板→ナデ	外:7.5YR6/6黒 内:10YR3/1黒褐色	-
74	VII層	調文土器 深鉢	(16.0)	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:2.5YR2/2灰褐色 内:10YR6/2灰黃褐色	-

表8 9区出土遺物觀察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法(cm)			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
75	VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ 内:貝条板→ナダ	外:2.5YR5/6明赤褐 内:2.5YR5/6暗	-
76	VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ 内:貝条板→ナダ	外:2.5YR5/4C-5C暗 内:2.5YR4/3暗	-
77	VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ 内:ナダ	外:2.5YR5/4C-5C暗 内:2.5YR2/1暗	-
78	VII層	圓文土器 底鉢	(5.8)	-	-	外:ナダ 内:ナダ	外:2.5YR6/6暗 内:2.5YR6/4C-5C暗	-
79	VII層	圓文土器 底鉢	-	10.5	-	外:ナダ 内:ナダ	外:2.5YR5/9明赤褐 内:2.5YR5/9明赤褐	横穴直道有
80	VII層	圓文土器 底鉢	-	(6.8)	-	外:貝条板→ナダ 内:貝条板→ナダ	外:2.5YR6/半褐 内:2.5/6暗	調代瓶
81	VII層	圓文土器 底鉢	-	(9.7)	-	外:ナダ 内:ナダ	外:10YR5/1褐色 内:10YR6/1褐色	調代瓶
82	VII層	圓文土器 底鉢	-	(9.0)	-	外:貝条板 内:貝条板	外:2.5Y7/2灰黃 内:2.5Y7/2灰黃	-
83	VII層	圓文土器 底鉢	-	(10.0)	-	外:ナガキ 内:ナガキ	外:2.5YR5/4C-5C半褐 内:2.5YR5/6明赤褐	-
84	VII層	圓文土器 底鉢	-	(6.9)	-	外:貝条板 内:ナダ	外:2.5YR4/2C暗 内:2.5YR4/褐色	-
85	VII層	圓文土器 底鉢	-	(10.1)	-	外:ナダ 内:ナダ	外:2.5YR7/6暗 内:2.5YR7/4C-5C暗	調代瓶
86	VII層	圓文土器 底鉢	-	(7.7)	-	外:ナダ 内:ナダ	外:2.5YR5/4C-5C暗 内:2.5YR5/2暗	-
87	VII層	圓文土器 底鉢	-	(7.6)	-	外:ナダ 内:ナダ	外:10YR7/2C-5C黃褐 内:10YR6/1褐色	-
88	VII層	圓文土器 合付直形	-	(10.6)	-	外:ナダ~ 内:ナダ	外:2.5YR6/6暗 内:2.5YR5/6暗赤褐	透かし孔有
89	VII層	土製品 土製円盤	底 3.4	横 3.9	厚 0.8	外:ナダ 内:貝条板	外:10YR6/6明黃褐 内:10YR4/1褐色	重量 12.0g,側面磨減有(部分)
90	VII層	土製品 土製円盤	底 5.1	横 4.4	厚 0.9	外:ナダ 内:ナダ	外:2.5YR5/6暗 内:2.5YR4/4暗	重量 19.3g
91	VII層	土製品 土製円盤	底 3.4	横 3.3	厚 0.8	外:ナダ 内:ナダ	外:2.5YR4/6暗 内:2.5YR4/6暗	重量 12.4g,側面磨減有(全面)
92	VII層	土製品 土製円盤	底 4.1	横 4.8	厚 1.0	外:ナダ~ 内:ナダ	外:10YR5/4C-5C暗 内:2.5Y5/2暗灰黃	重量 22.5g,側面磨減有(全面)
93	VII層	土製品 土製円盤	底 3.4	横 3.8	厚 1.0	外:ナダ 内:ナダ	外:2.5YR5/6暗 内:10YR6/4C-5C暗 内:2.5YR2/1暗	重量 13.9g,側面磨減有(部分)
94	灰黃セラ	陶器 鉢	-	4.7	-	-	外:2.5YR5/3C-5C暗 内:2.5YR2/1暗	-

表8 9区出土遺物観察表（石器）

報告番号	出土地区	層位	器種	石材	寸法 (mm)			重量 (g)	備考
					長さ	幅	厚さ		
95	9-11C	VI層	石器	黒曜岩Ⅷ	25.9	12.9	3.8	0.9	脚部欠損
96	9-11C	VI層	石器	黒曜岩V	20.2	11.9	3.7	0.7	脚部欠損
97	9-11C	VI層	石器	黒曜岩IV	16.8	12.9	3.1	0.4	—
98	—	VI層	石器	黒曜岩VI	17.9	11.4	2.9	0.5	—
99	9-11C	I層	削器	黒曜岩Ia	22.0	20.0	5.5	1.8	—
100	9-11C	VI層	石核	黒曜石II	23.3	27.0	11.1	7.2	—
101	9-11C	VI層	石核	黒曜石II	42.3	32.9	15.3	17.0	—
102	—	VI層	削器？	砂岩	104.0	160.0	23.0	369.7	—
103	9-11C	VI層	磨製石斧	頁岩	69.6	35.5	10.8	35.6	—
104	9-11C	VI層	磨製石斧	頁岩	92.8	45.5	16.8	112.7	敲打痕有
105	—	VI層	磨製石斧	ホルンブリス	101.1	50.0	40.3	260.1	—
106	—	VI層	磨製石斧	ホルンブリス	139.4	59.0	38.4	534.9	敲打痕有、鐵石として利用
107	9-11C	VI層	磨石	安山岩	105.0	99.0	42.0	610.4	—
108	9-11C	VI層	磨石	石英斑岩	99.5	79.2	56.3	710.9	—
109	—	VI層	磨石	安山岩	102.0	89.7	50.0	527.3	—
110	—	VI層	磨石	安山岩	109.9	95.2	63.8	1032.4	—
111	9-11C	VI層	磨石・鉋石	砂岩	106.5	91.0	64.6	748.9	被熱・鉋刃板有
112	—	VI層	磨石	安山岩	106.1	88.0	41.6	579.8	敲打痕有
113	9-11C	VI層	石鍬	粘板岩？	62.8	31.4	9.6	28.5	切目石鍬
114	9-11C	VI層	石鍬	粘板岩	54.0	27.5	11.1	24.6	切目石鍬

第3章

第10節 山中遺跡10区



第 10 節 山中遺跡 10 区の調査

1 山中遺跡 10 区の概要

山中遺跡 10 区（以下 10 区）は、平成 18 年度に発掘調査を実施し、同時期に調査を行っていた 9 区の南側隣接地に位置する。調査区は当初北東—南西方向に細長く設定していたが、調査区南側（AH・AI 区画付近）において、大量の遺物が出土したことから、一部拡張して調査を行った。

土層の堆積は、山中遺跡で認められる標準的な堆積状況を示しているが、調査区南側においては、基本土層 VI 層（黒色土層）断面に、大量的縄文土器が密集して堆積する状況が観察され、調査区北側（AE・AF 付近）に比べ基本土層 VI 層（黒色土層）は厚く堆積していた。調査区中央部（AG 区画付近）では、谷状に落ち込む旧地形を確認した。

調査の結果、調査区中央部から北側において、遺物の出土が少なかったのに対して、調査区南側では、完形に復元できるものも含めて、大量的縄文土器が出土した。このため調査区南側の一部を東西に拡張したところ、西側拡張部において、更に密な状況で遺物が出土した。遺構は集石遺構を 1 基確認しているが、その他は明確な遺構を確認できおらず、大量的縄文土器が出土した調査区南側一帯は、集落の遺物廃棄帯にかかるものと思われる。なお、完形に復元できた土器の多くは、縄文時代後期初頭の岩崎式であり、8 区において多数検出した竪穴住居の時期とは異なり、また東側に隣接する 13 区からは竪穴住居を検出できていないことなどを考慮すると、8 区と 10 区の間の未調査部分に縄文時代後期初頭段階の竪穴住居等が存在する可能性が高い。

遺物は縄文時代中期中葉の春日式・中期後葉の中尾田Ⅲ類・大平式、後期初頭の岩崎式・阿高式・南福寺式・中津式・福田 K2 式、後期前葉の指宿式・市来式、後期中葉の西平式、後期後葉の鳥井原式、晩期の古闕式、古墳時代の土師器、近世陶磁器等が出土した。

2 遺構

集石遺構

SI01（図 165）

調査区南側 AI20 区画に位置する集石遺構で、基本土層 VI 層（黒色土層）中より検出した。焼礫や炭などは検出されず、掘り込みも確認できなかった。所産時期については限定できないが、周囲からは縄文時代後期初頭の岩崎式が良好に出土した。

3 遺構外出土遺物

1 は蛇線で施文する曾畠式である。2 は縄文地に刻目を持つ隆線を貼り付ける船元式。3 は内湾気味の口縁部に貝刺突が観察される。4 は肥厚する口縁部に大きめの刺突を行うもので、滑石を多く混入し色調が銀色気味となる。5 は直線気味に立ち上がる口縁に W 字状の貼付を行う。6 は口縁部端部を内折気味形に形成し、口縁部上に W 字状の貼付を行う。

7 ～ 16 は口縁端部に隆線状の貼付を行い、隆帶上に貝刺突や W 字状の貼付を行うものである。7 は隆帶上に鋸歯状の刺突を行うほかに、隆帶下端にも刻みを行う。8 は滑石を多く混入し色調が銀色気味となる。11 は口縁端部に隆線を施文し、口唇部に W 字状の貼付を行う。12 も口唇部に貼付を行う。13 は口縁部の廻る貼付と W 字状の貼付が一体となったもので、W 字状の貼付を行う部分では口縁部は肥厚しない。

19 ～ 24 は口縁端部からやや下がったところに隆帶の貼付を行う。

17・18・30～32 はやや幅広くなった肥厚部に貝刺突・刺突・押引などを施文する。28・29 はやや幅広くなつた口縁部上に W 字状の貼付を行うもので口縁下端に刻みを有するもの。

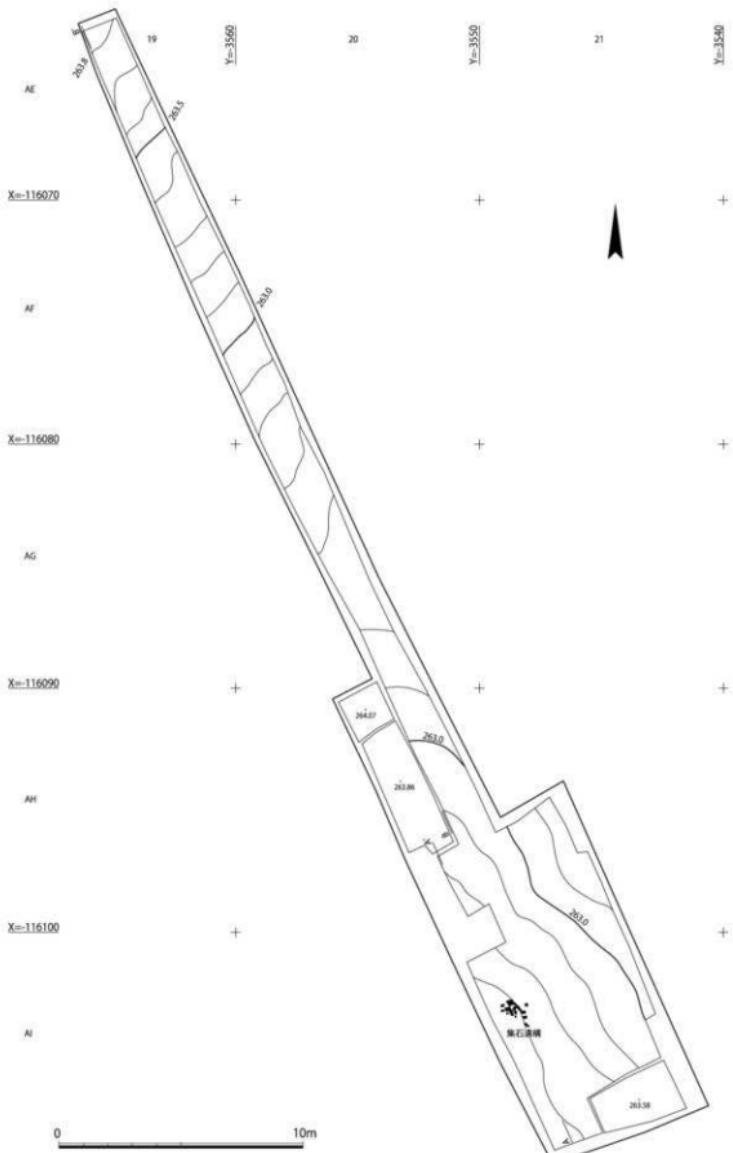


図 163 山中遺跡 10 区の遺構配置図 (1/200)

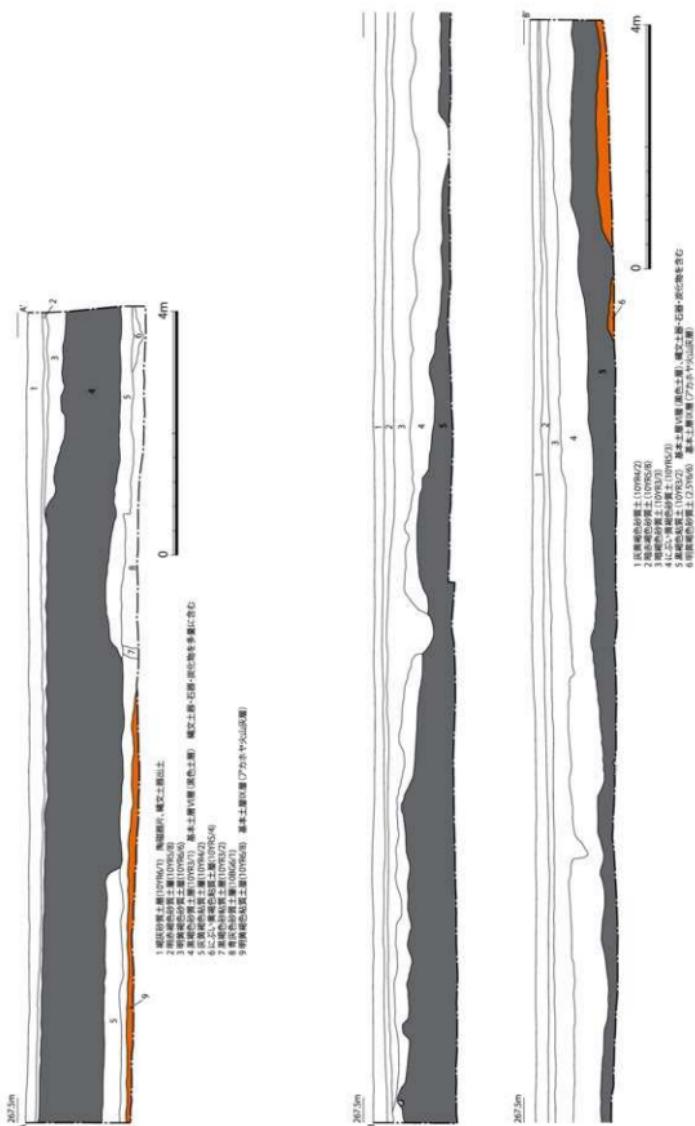


図 164 山中遺跡 10 区の土層図 (1/80)

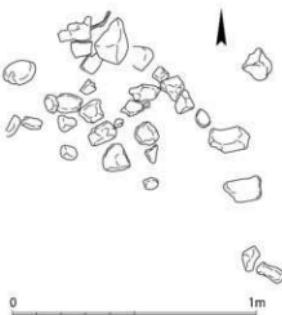


図165 SI01集石遺構 (1/20)

33～41はやや幅広くなった口縁部上にW字状の貼付を行うもので口縁下端の刻みのないもの。34はW字状の貼付に貝刺突を行う。

42・46は肥厚部が幅広くなるもの。

43～45・47～50は口縁部文様帯がさらに幅広くなり、47・48は文様帯下端の段が、42などに比べると不明瞭になっている。

51は浅い沈線で文様を施し、口唇部には貼付が観察できる。

52は文様帯下端付近の破片と思われ、ナデ調整を行った器壁に貼付を行い、その上に貝刺突を行う。

53は凹縫内に条線が認められるものである。

54～61は口縁部に隆帯を貼り付ける岩崎式で、隆帯上に凹点を刺突する。また、これらの土器は器壁が薄く、外面の文様が内面に凹凸として影響を与え、口唇部には細かな刻みを持つものもある。55は隆帯上に横方向の凹点を刺突する。56は口縁端部に隆帯を貼り付け、凹点を刺突する。57は肥厚気味になった口縁部に横方向の凹点を刺突し、胸部には三角形と菱形を組み合わせた文様構成を展開し、部分的に入組文とW字状の文様が観察される。

62～70は口縁部が肥厚気味になるもので、肥厚部に凹点を施すものである。この類も器壁が薄く外面文様が内面に凹凸として影響を与えるものである。また、口唇部に細かな刻みを持つものが多い。66は口縁部に2段の凹点を施すもので、放射性炭素年代測定の結果、 3880 ± 40 年BP (1σの曆年代でBC2460～2290年) の年代値が得られている。

71は口縁部に刻みを持たないもので、W字状の文様が観察される。

72～75は口縁部を肥厚もしくは肥厚気味とし、肥厚部には凹点を刺突するが、胸部には文様を施さないものを纏めた。

76～81・84～86は65などに比べると細い凹線で、口縁部に縱方向の刺突を行うもので、外面の文様が内面に影響を与えることはなくなる。84～86の描線は細く沈線化し、84の2本沈線間には円形の刺突を行う。

82・83・87～103は口縁部に貝刺突を行うもので、102・103は格子状に貝刺突を行う。

105～122は口縁部端を無文とするもので、胸部文様には2本凹線間に刺突を加える。

123～142は凹線もしくは沈線で施すものである。

150～153は凹線で入組や交差凹点などの文様を施す阿高式、154～169は南福寺式もしくは出水式に類似する土器である。

171～177 は磨消繩文土器で 172～174 は中津式、175・176 は福田 K2 式である。

187・188 は口縁部に沿って貝刺突を廻らすものである。

189～206・208～215・217 は無文土器である。

207・216 には刻目を持つ隆帯を廻らすものである。

219～233 は底部である。232～234 は土製円盤、253～257 は土器片鍤である。

中世～近世の陶磁器（図 180）

258 は染付碗、259 は陶磁器碗である。

石製品（図 180）

260 は軽石に穿孔を行った装飾品で、舌状に形成しており、部分的に欠損している可能性がある。調査区南側付近の岩崎式など後期初頭の土器が集中的に出土した地点より出土した。

打製石器（図 181）

261～269 は石鏃で、261～267 は二等辺三角形の石鏃である。261～265 は抉りの比較的深い凹基、266 は姫島産黒曜岩で微凹基、267 は平基となる。268・269 は正三角形の石鏃で、268 は微凹基、269 は縁辺部を丸く形成し、基部は深く抉られる凹基となる。

270・271 は石匙で、270 は玉髓製、271 はチャート製である。

272～275 は削器で、274 は頁岩製縱長剥片の縁辺を調整加工したものである。275 は粘板岩製のものである。

磨製石器・礫石器（図 187～図 184）

276～286 は磨製石斧で、278・281 の刃部付近は研磨が行われているものの、基部付近には敲打痕が残る。

287～297・300 は磨石で、296 には赤色顔料の付着と被熱を受けたと考えられる赤化現象が観察される。

298・299 は表裏両面の中央に窪みが観察される凹石。

301～309 は切目石鍤である。310 は安山岩を用いた石皿である。

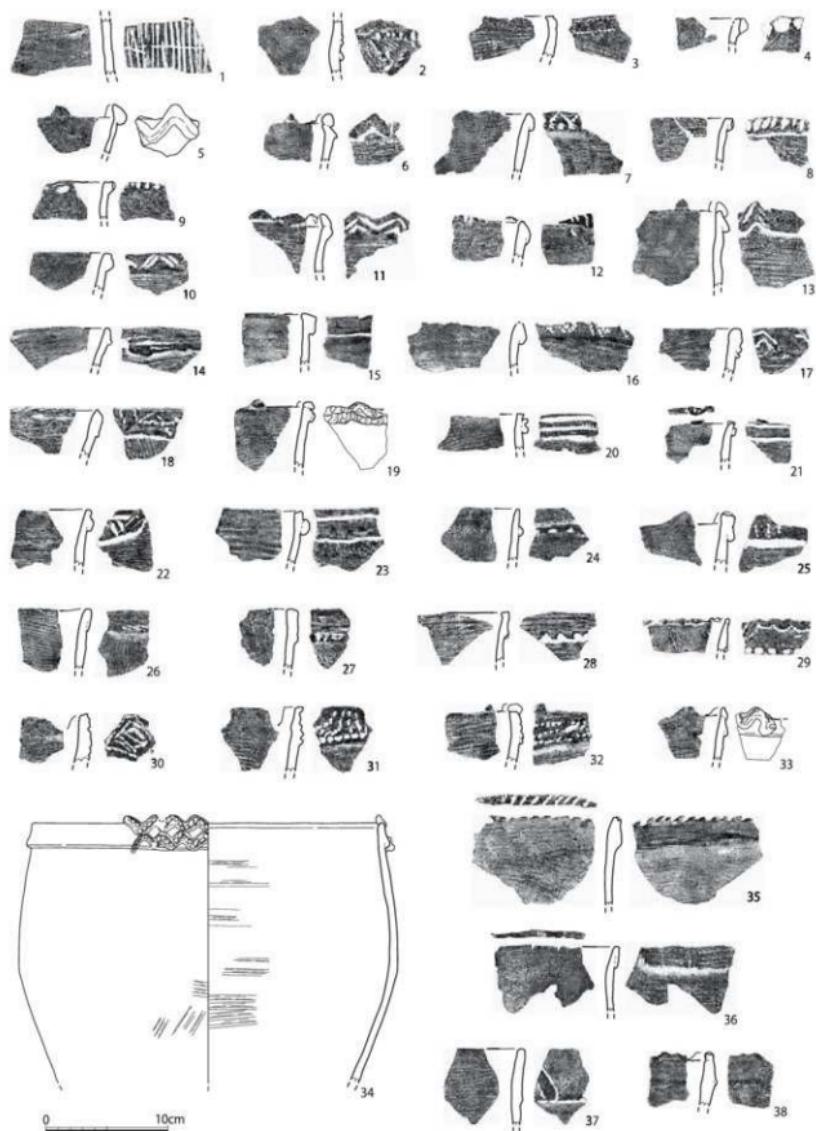


図 166 10 区遺構外出土遺物 1 (1/4)

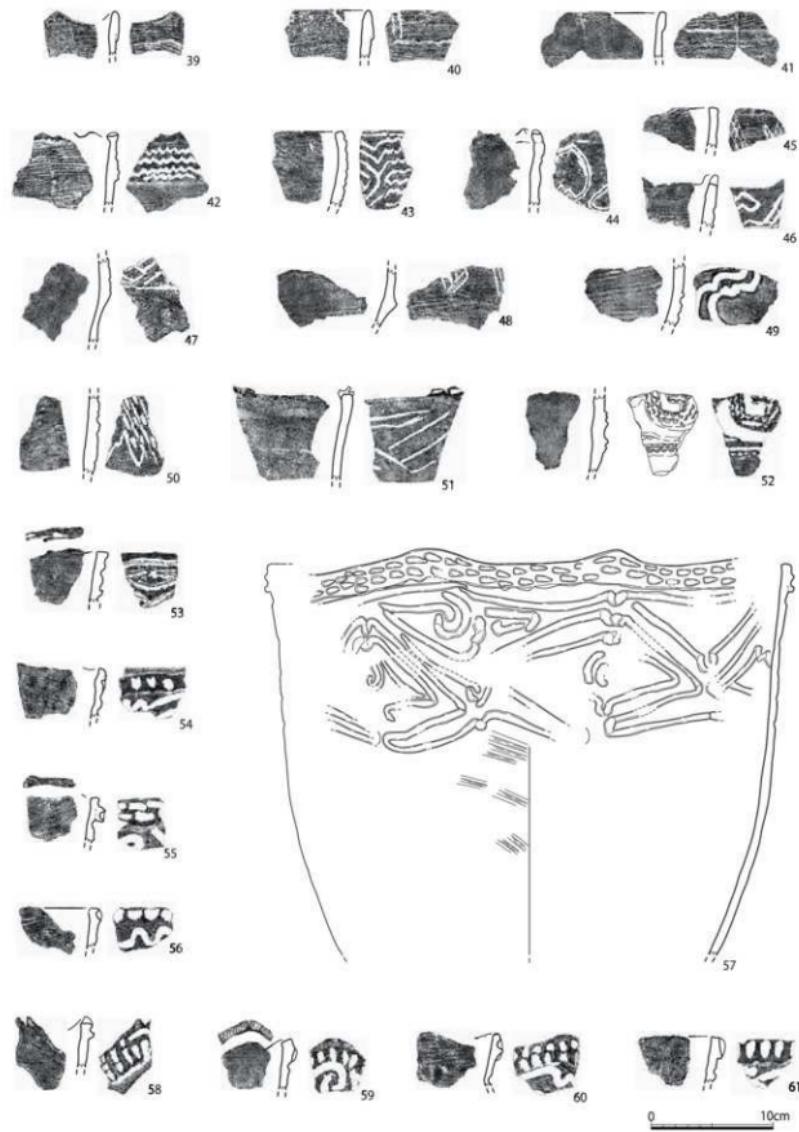


図 167 10 区遺構外出土遺物 2 (1/4)

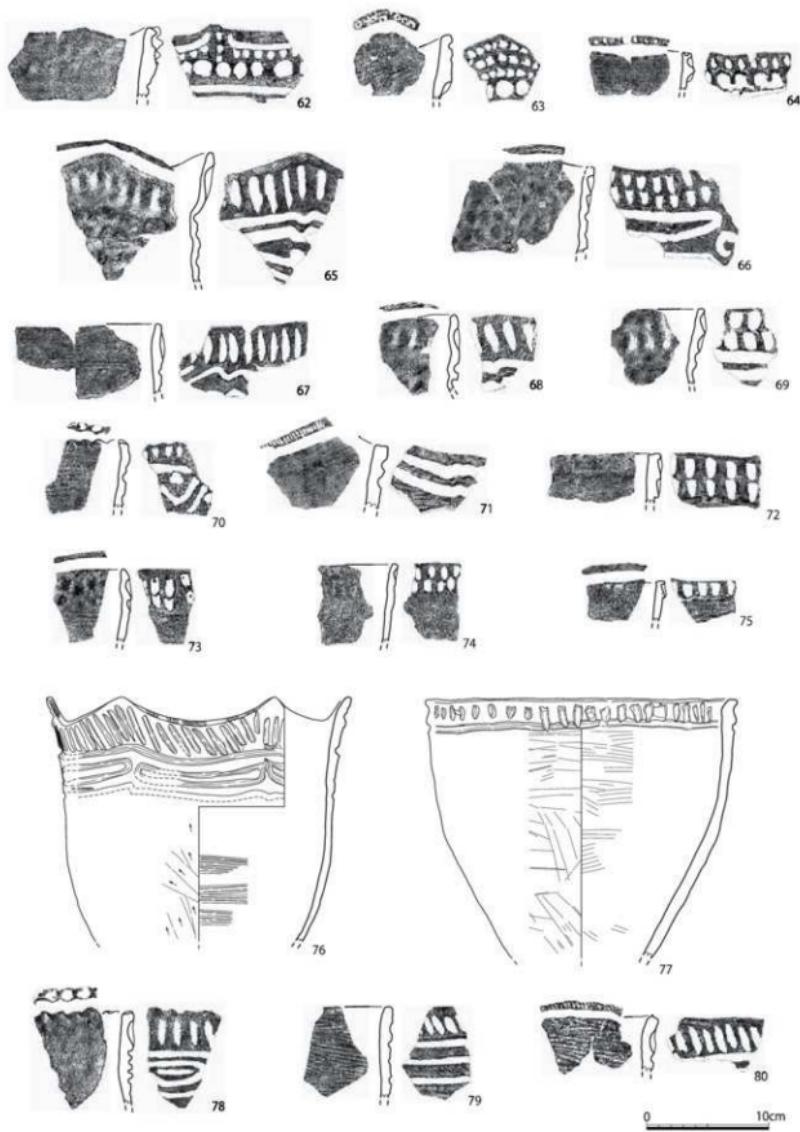


図 168 10 区遺構外出土遺物 3 (1/4)

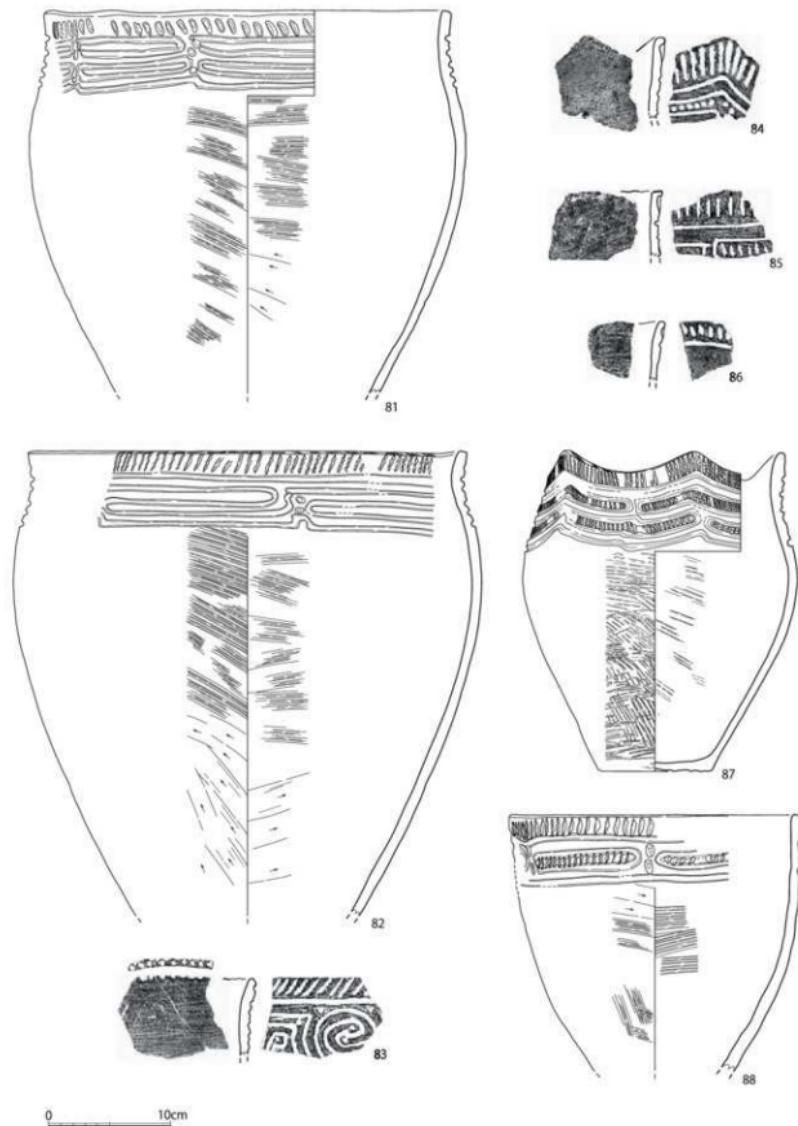


図 169 10 区遺構外出土遺物 4 (1/4)

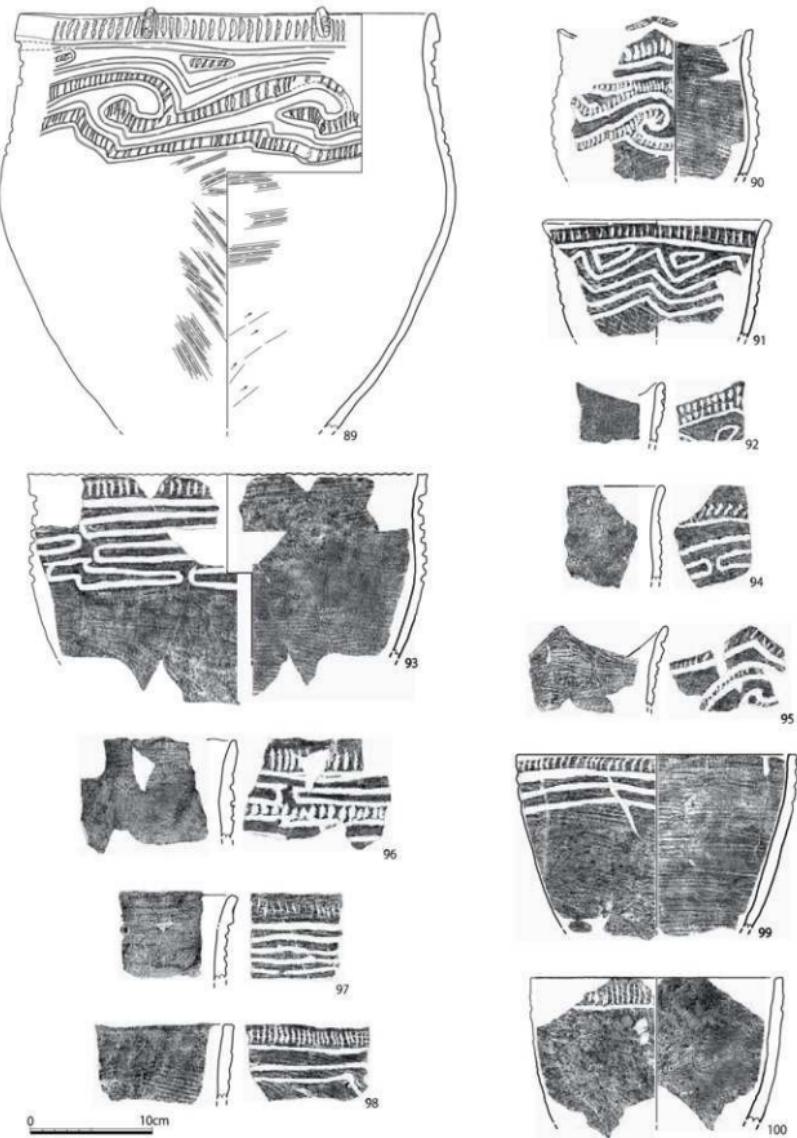


図 170 10 区遺構外出土遺物 5 (1/4)

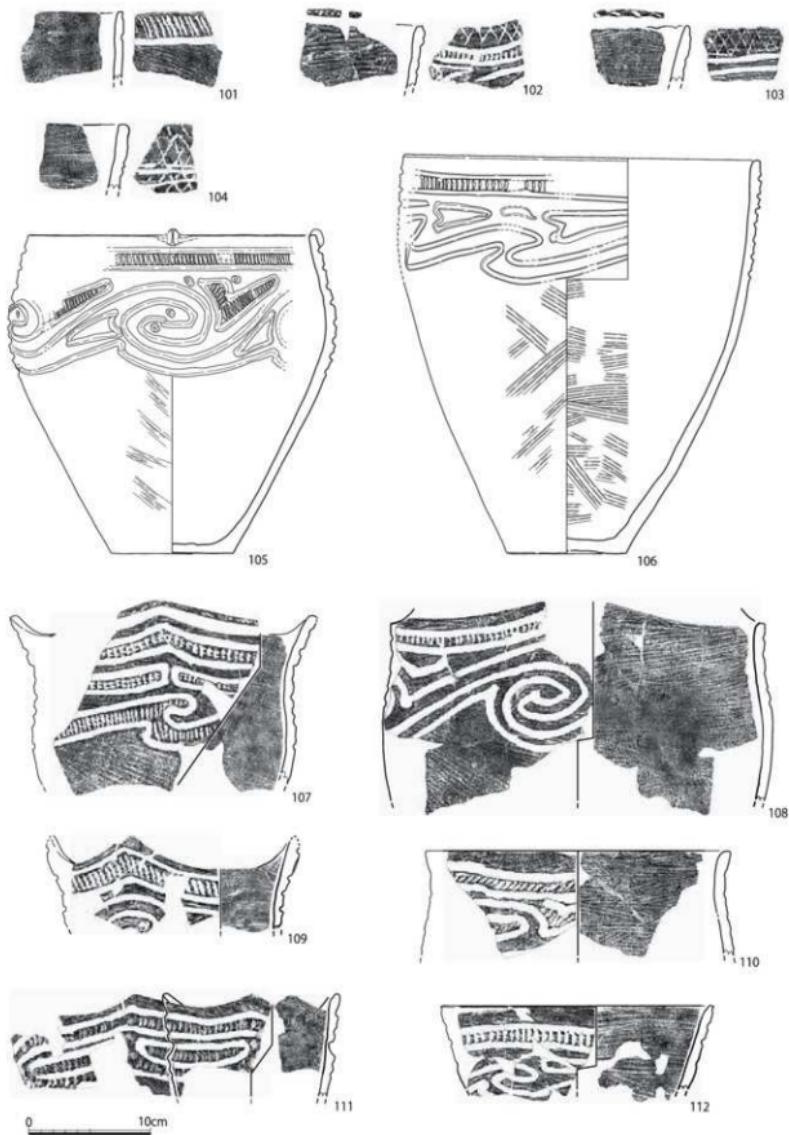


図 171 10 区遺構外出土遺物 6 (1/4)

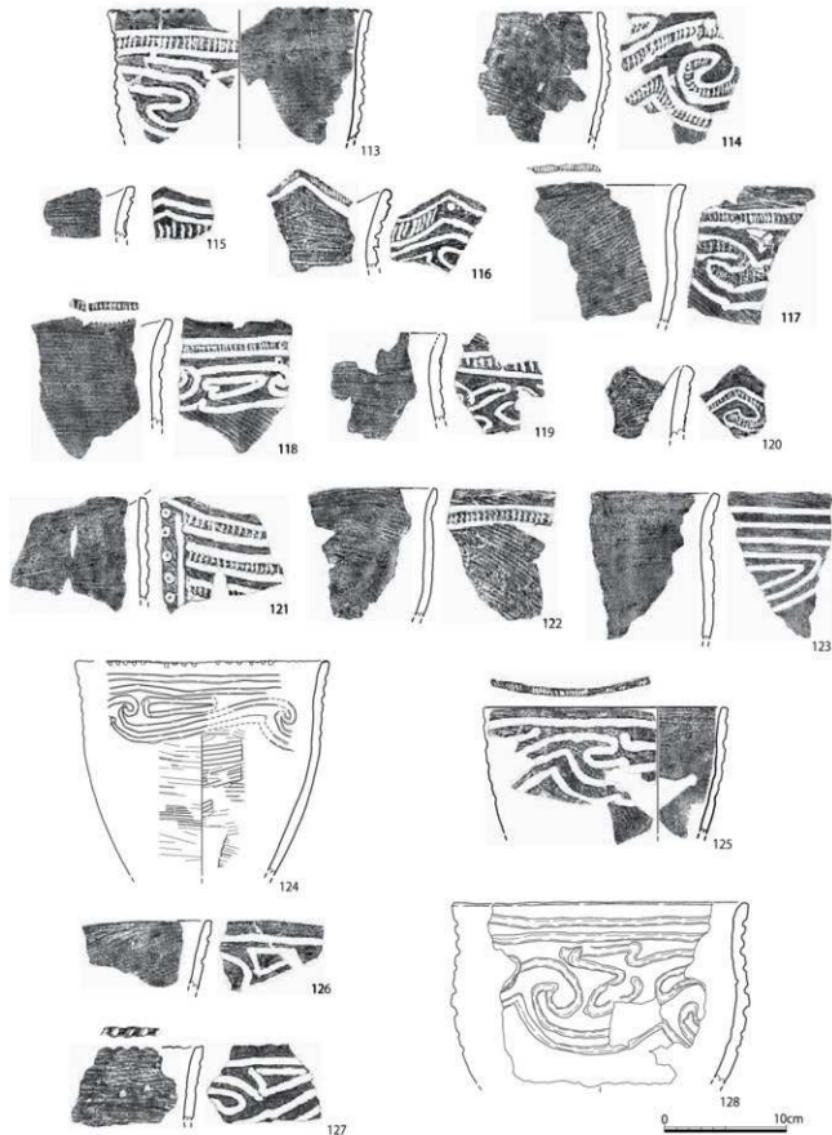


図 172 10 区遺構外出土遺物 7 (1/4)

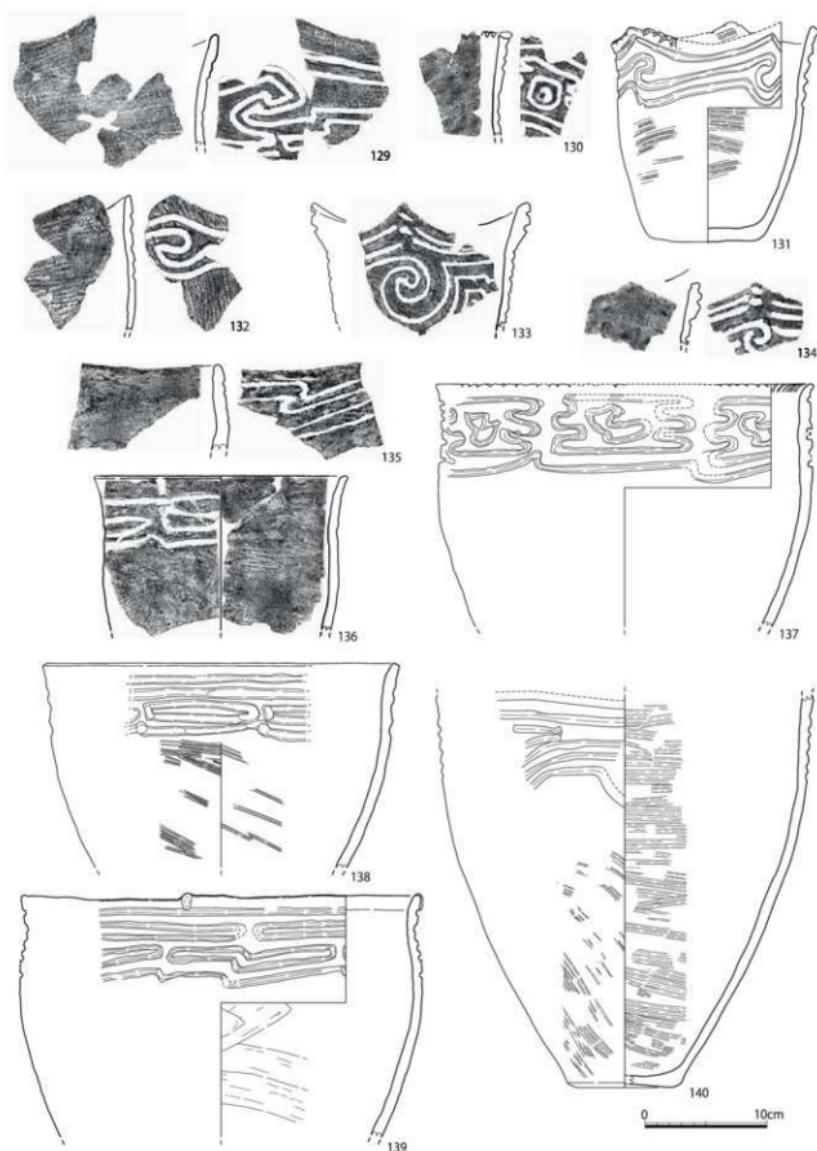


図 173 10 区遺構外出土遺物 8 (1/4)

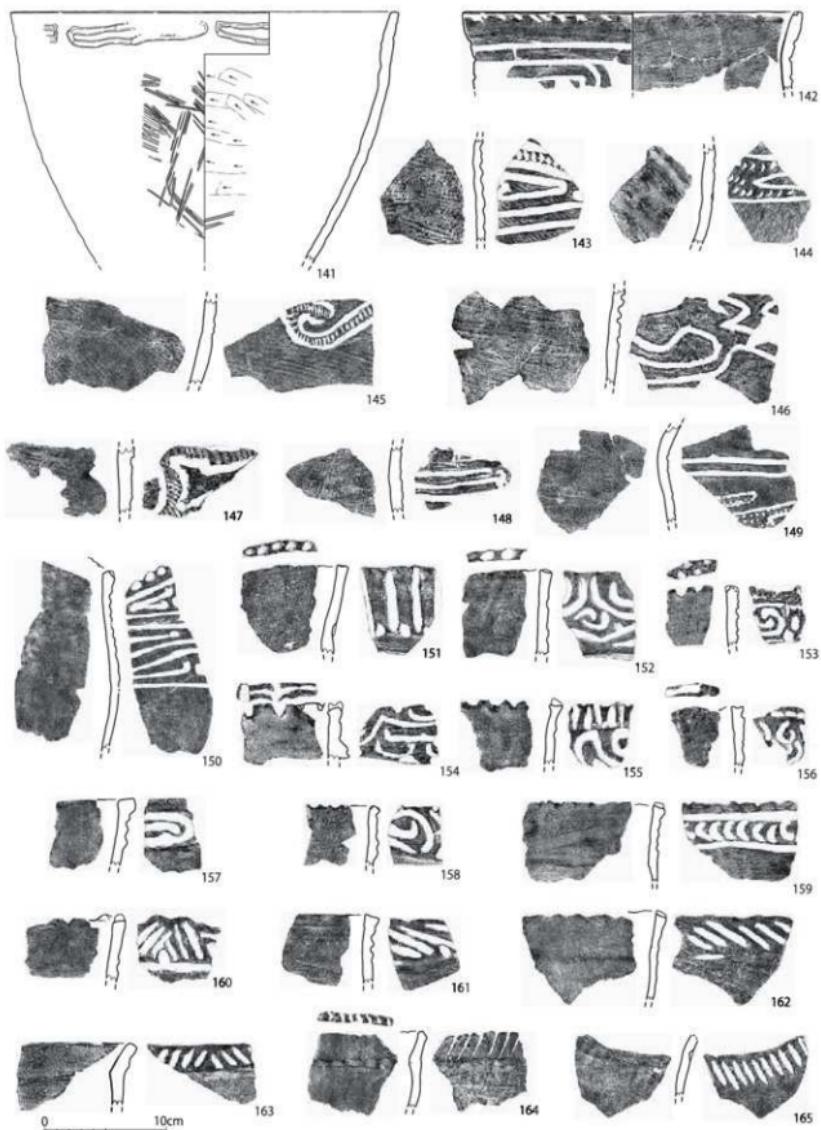


図 174 10 区遺構外出土遺物 9. (1/4)

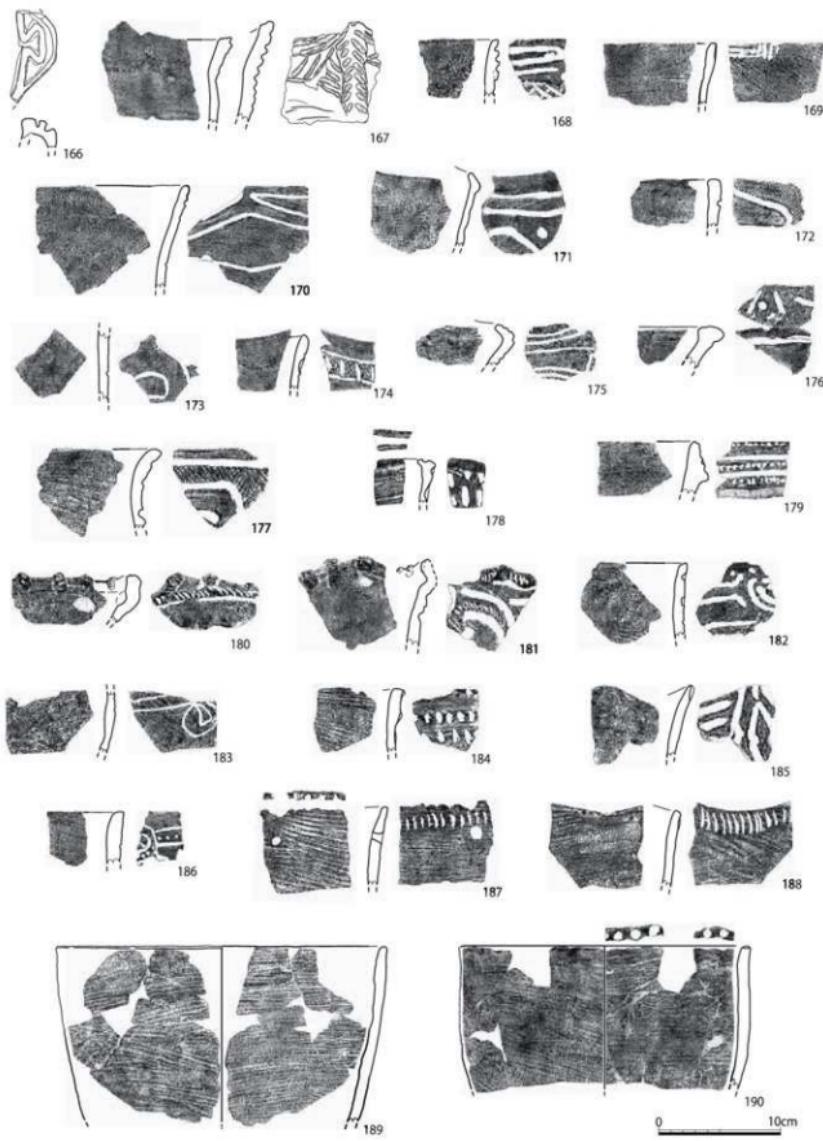


図 175 10 区遺構外出土物 10 (1/4)

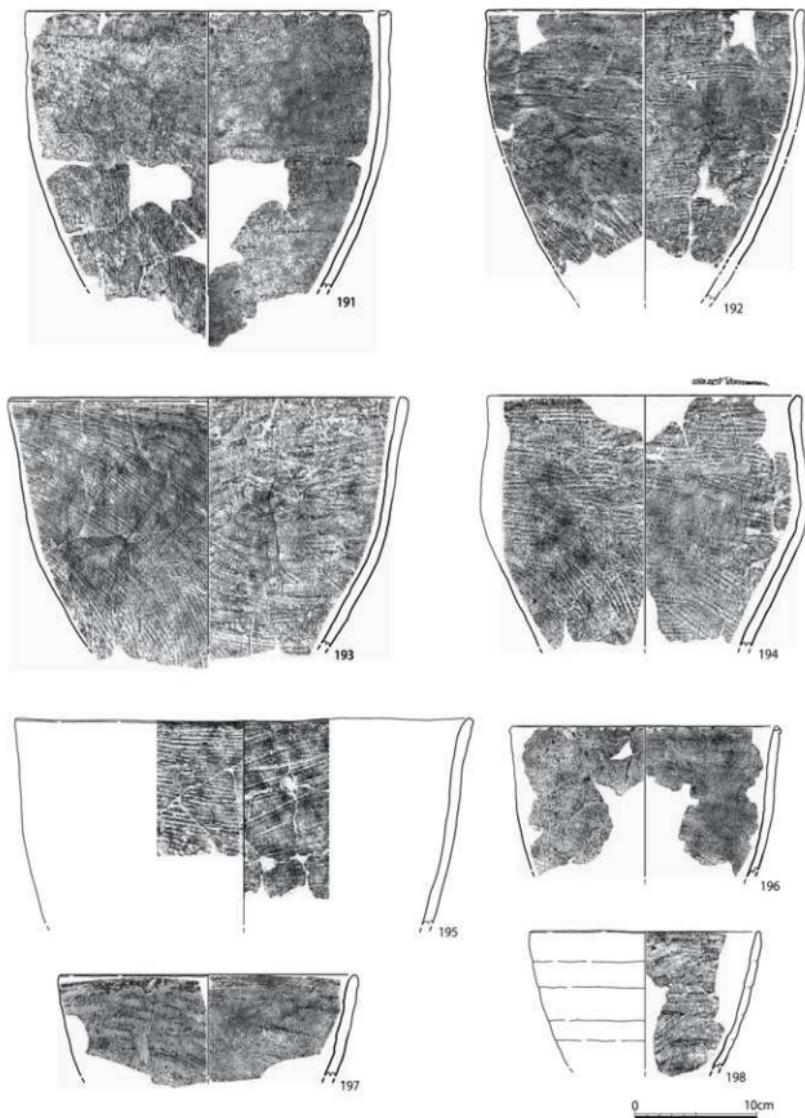


図 176 10 区遺構外出土遺物 11 (1/4)

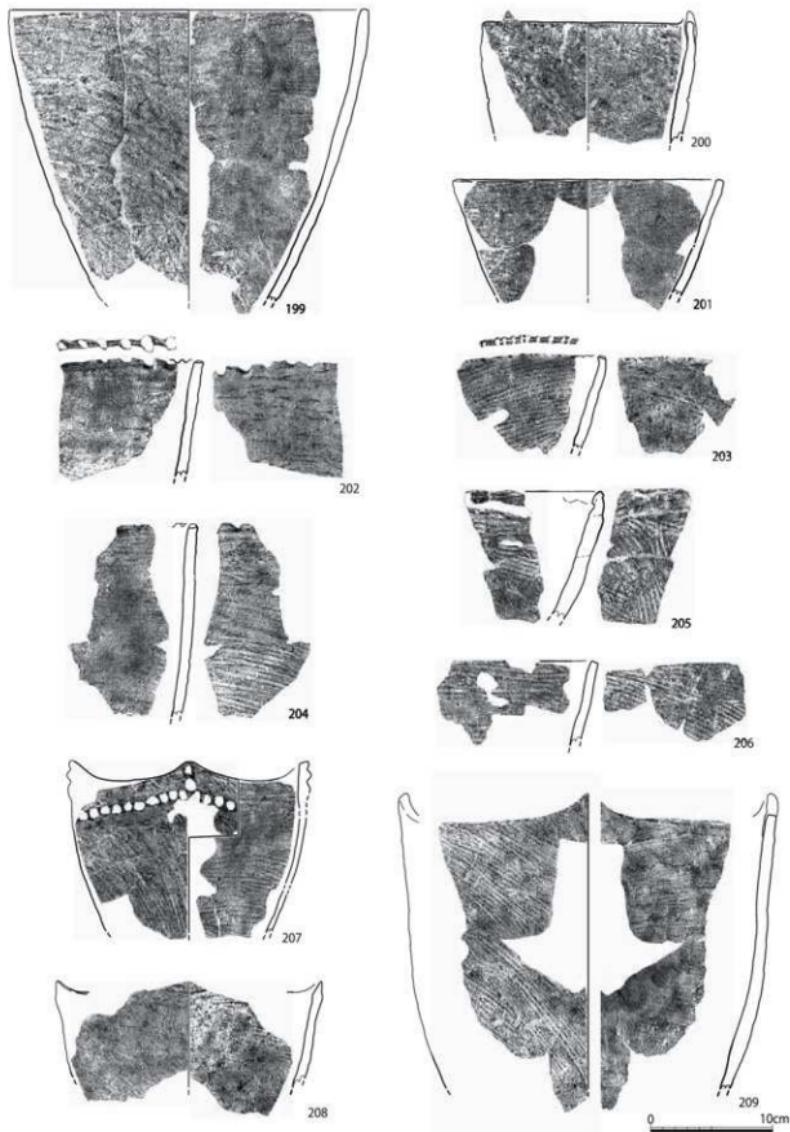


図 177 10 区遺構外出土物 12 (1/4)

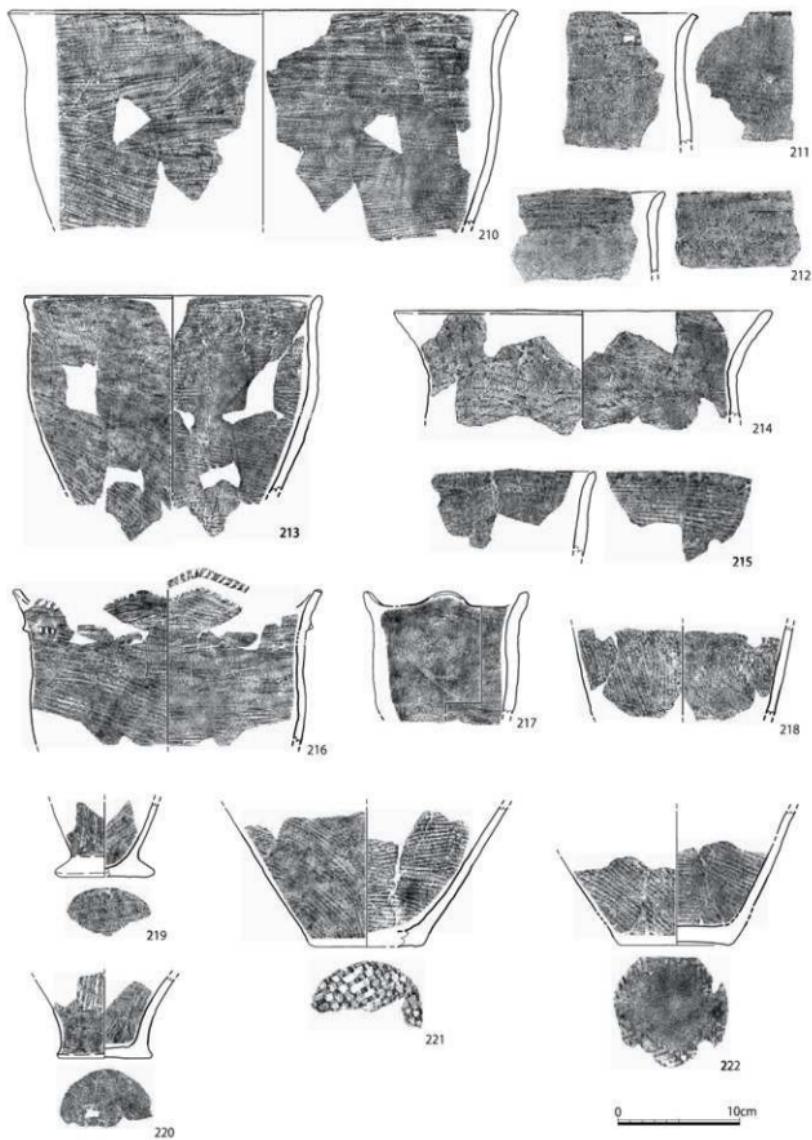


図 178 10区遺構外出土遺物 13 (1/4)

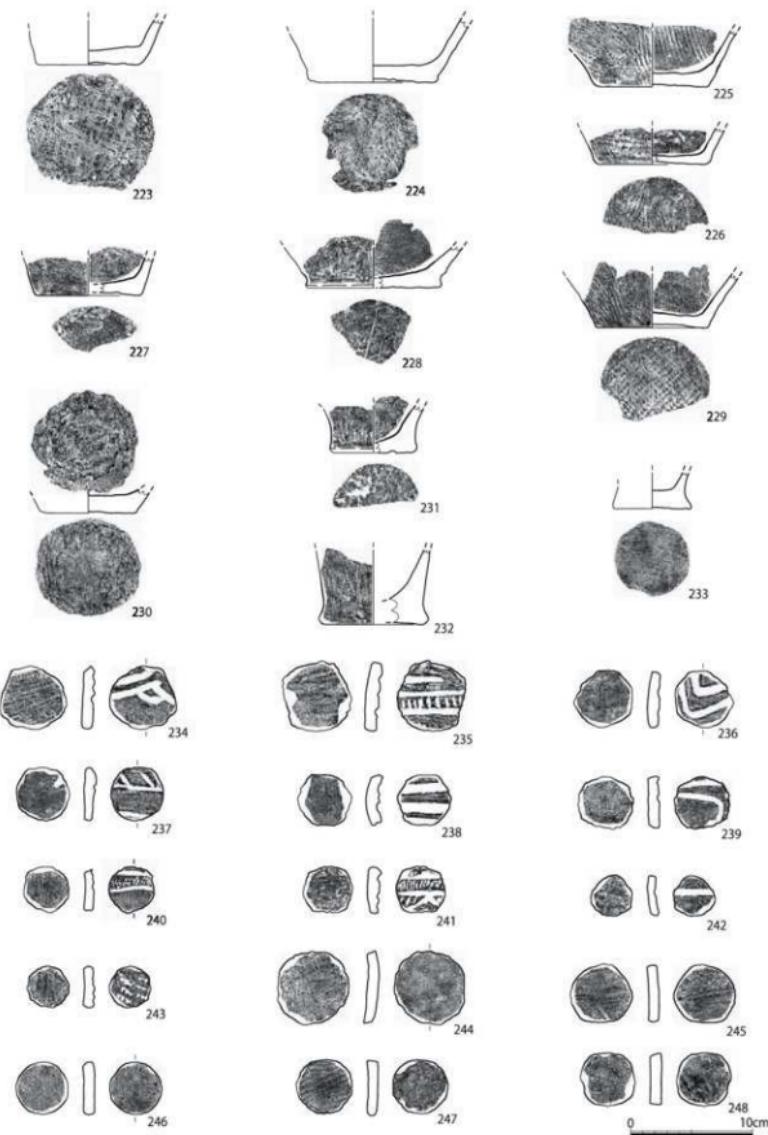


図 179 10 区遺構外出土遺物 14 (1/4)

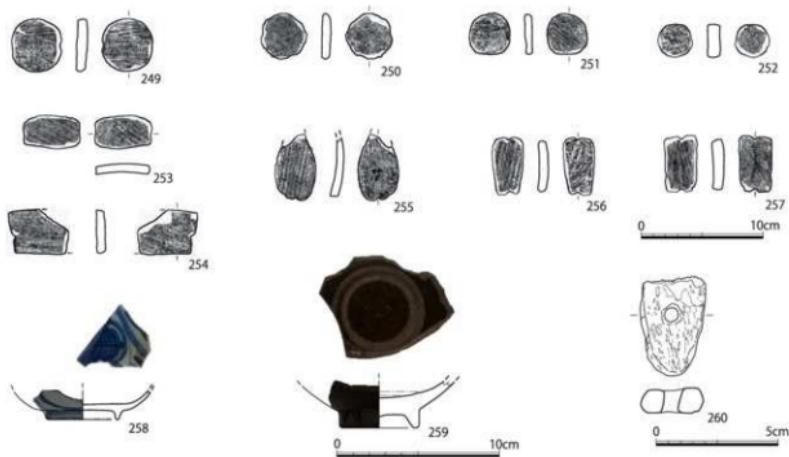


図 180 10区遺構外出土遺物 15 (258・259: 1/3 260: 1/2 その他: 1/4)

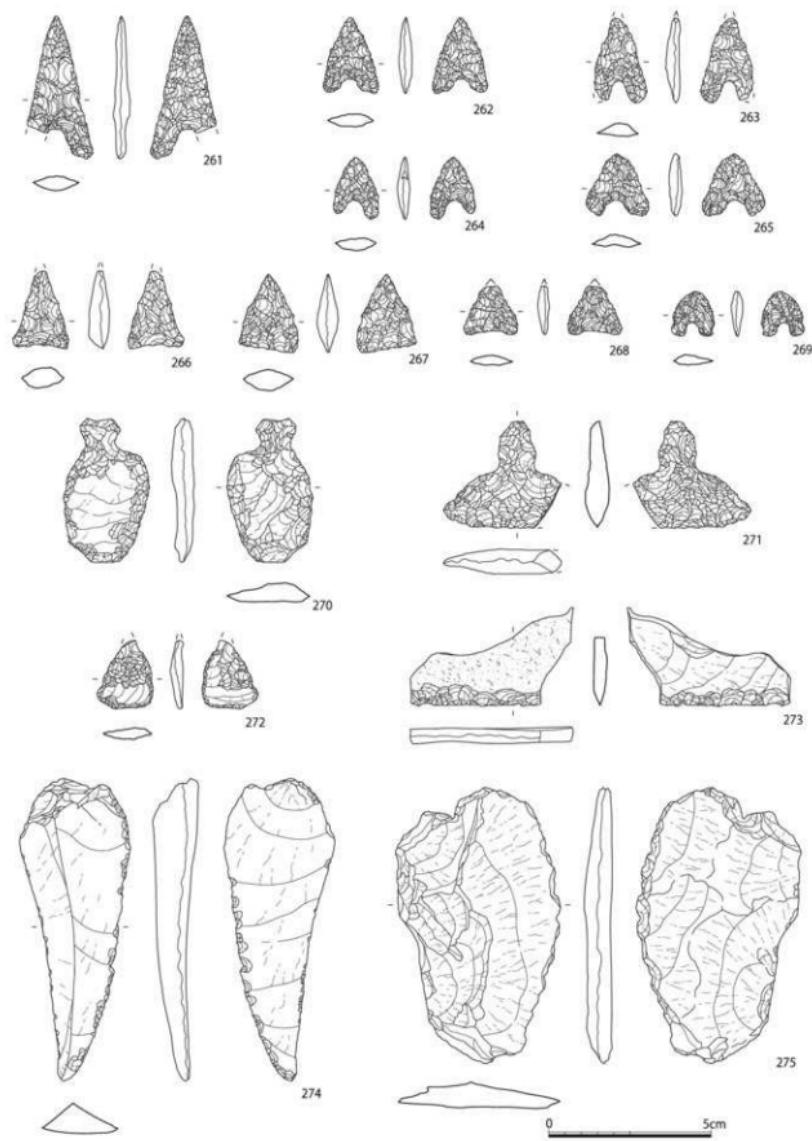


図 181 10 区遺構外出土物 16 (2/3)

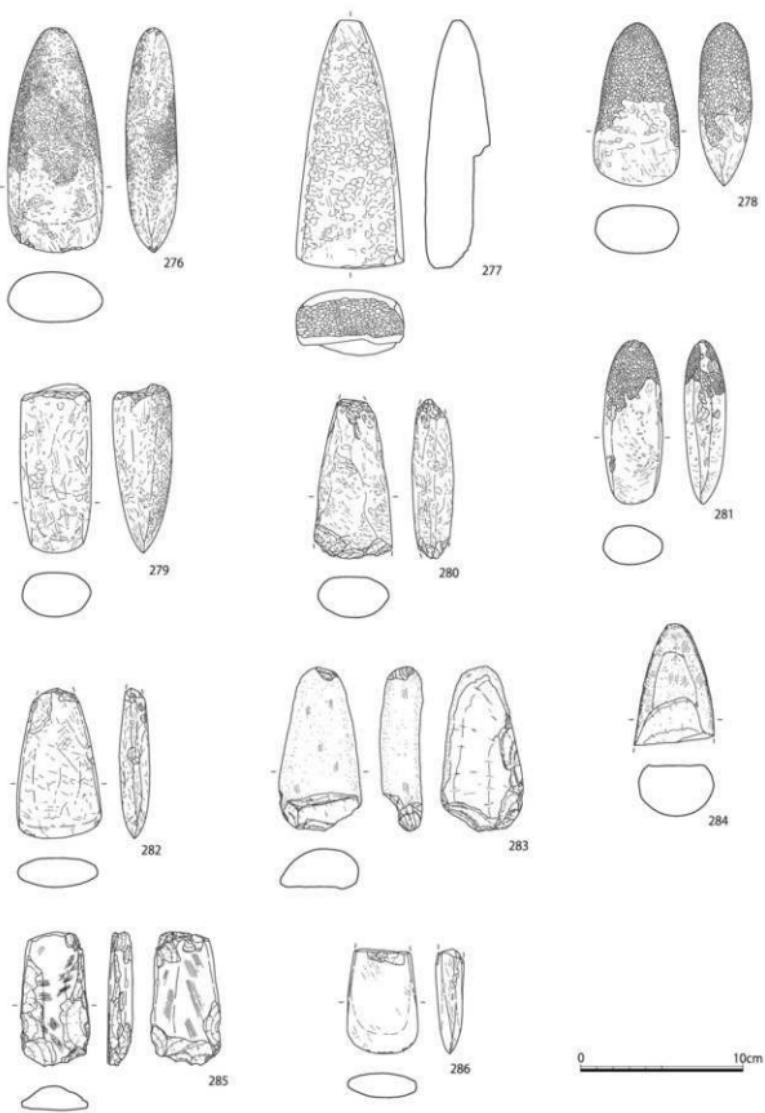


図 182 10区遺構外出土遺物 17 (1/3)

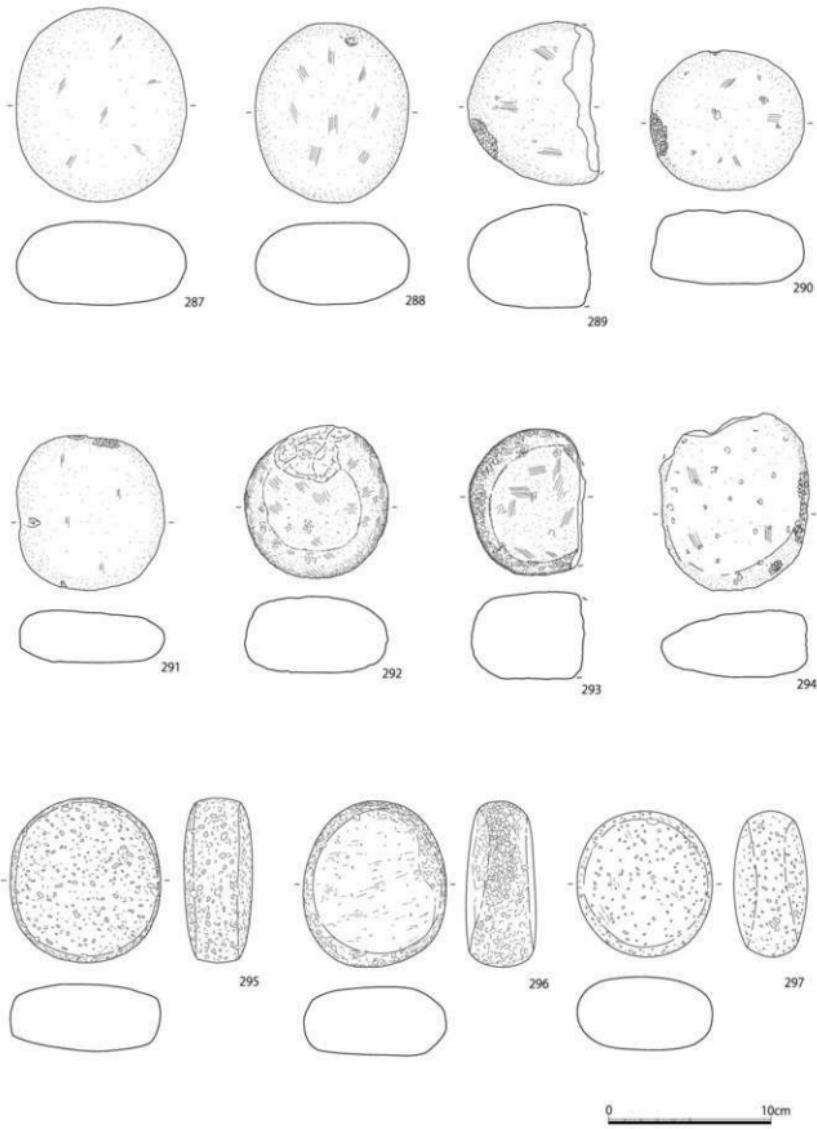


図 183 10 区遺構外出土物 18 (1/3)

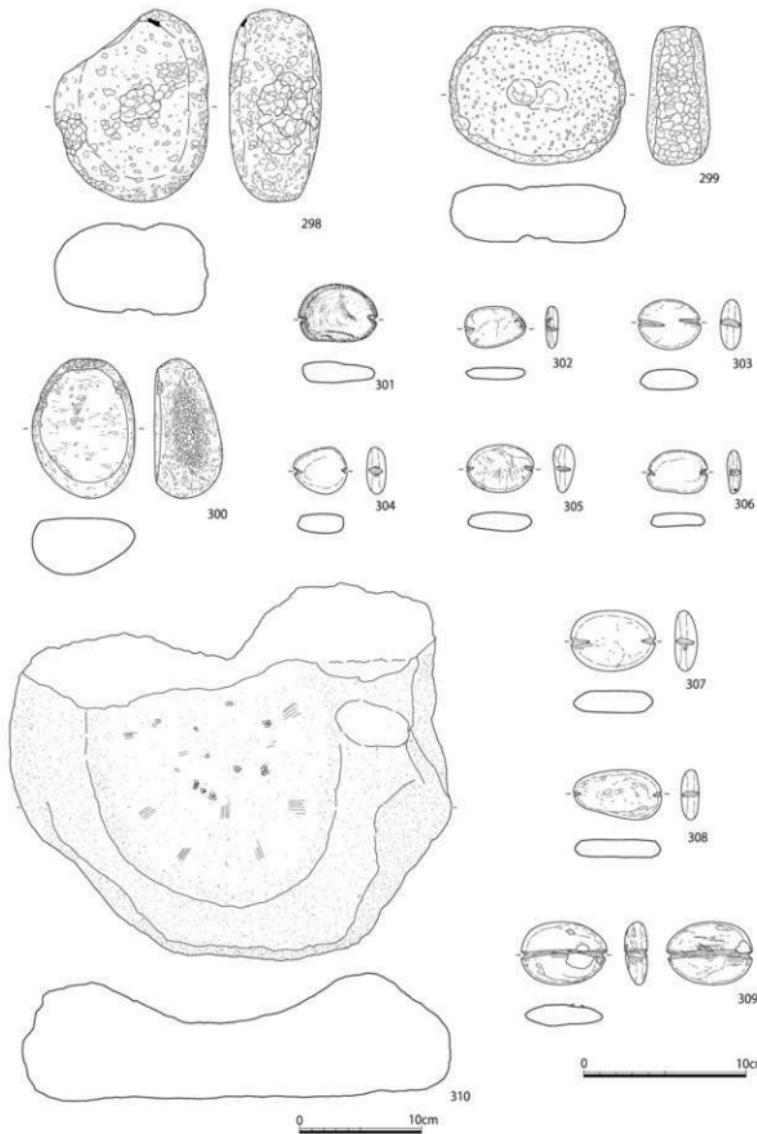


図 184 10区遺構外出土遺物 19 (310:1/4 その他:1/3)

表 9 10 区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法cm			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
1	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→北緯 内:ナード	外:2.5VRS/6明赤褐色 内:2.5VRS/8暗赤褐色	-
2	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:調文→側目縦縫 内:ナード	外:10YR4/4に近い赤褐色 内:SVRS/4に近い赤褐色	-
3	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条痕・ナード→貝刺突 内:貝条痕	外:10YR4/3に近い赤褐色 内:SVRS/6暗赤褐色	-
4	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→側目縦縫 内:ナード	外:SVRS/6暗赤褐色 内:SVRS/6に近い暗赤褐色	滑石混入
5	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貼付 内:ナード	外:7.5VR4/3褐色 内:7.5VR4/4に近い褐色	-
6	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貼付 内:ナード	外:7.5VR4/4に近い褐色 内:7.5VR4/4に近い褐色	-
7	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貼付→貝刺突 内:貝条痕	外:2.5VRS/6明赤褐色 内:2.5VRS/6暗赤褐色	-
8	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条痕・ナード→貼付→貝刺突 内:ナード	外:SVRS/2暗赤褐色 内:2.5VR4/6暗赤褐色	-
9	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貝刺突 内:ナード	外:7.5VR4/4に近い褐色 内:7.5VR4/6暗赤褐色	滑石混入
10	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条痕→貝刺突 内:ナード	外:2.5VRS/8暗赤褐色 内:2.5VRS/8暗褐色	-
11	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貼付→貝刺突 内:ナード	外:7.5VR4/6浅黃褐色 内:7.5VR4/4に近い褐色	-
12	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貼付 内:ナード	外:SVRS/6暗赤褐色 内:SVRS/4に近い赤褐色	-
13	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条痕・貼付→貝刺突 内:ナード	外:2.5VRS/8暗赤褐色 内:SVRS/3暗赤褐色	-
14	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード 内:ナード	外:2.5VRS/4に近い赤褐色	-
15	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード 内:ナード	外:SVRS/2黒褐色 内:SVRS/4に近い赤褐色	-
16	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貝刺突 内:ナード	外:SVRS/4に近い赤褐色 内:7.5VR4/3褐色	-
17	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貝刺突 内:ナード	外:2.5VR4/4に近い赤褐色 内:2.5VR4/6暗赤褐色	-
18	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条痕・ナード→貝刺突 内:貝条痕・ナード	外:SVRS/3暗赤褐色 内:SVRS/4に近い赤褐色	-
19	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貼付→貝刺突 内:ナード	外:7.5VR4/4に近い褐色 内:SVRS/6明赤褐色	-
20	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貝刺突 内:ナード	外:SVRS/3に近い赤褐色 内:SVRS/6暗赤褐色	-
21	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貼付 内:ナード	外:7.5VR4/2暗赤褐色 内:7.5VR4/3暗赤褐色	-
22	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貼付→貝刺突 内:貝条痕	外:7.5VR4/3褐色 内:7.5VR4/4に近い褐色	-
23	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貼付 内:ナード	外:7.5VR4/4褐色 内:SVRS/6明赤褐色	-
24	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貼付→貝刺突 内:ナード	外:SVRS/6明赤褐色 内:SVRS/6暗赤褐色	-
25	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貝刺突 内:ナード	外:2.5VR4/6暗赤褐色 内:2.5VR4/6暗赤褐色	-
26	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条痕・ナード 内:貝条痕	外:SVRS/6明赤褐色 内:SVRS/4に近い赤褐色	-
27	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貝刺突 内:ナード	外:2.5VRS/6明赤褐色 内:SVRS/6明赤褐色	-
28	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条痕→貝刺突 内:貝条痕	外:SVRS/2黒褐色 内:SVRS/4に近い赤褐色	-
29	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貼付→貝刺突 内:ナード	外:SVRS/6暗赤褐色 内:SVRS/4に近い暗赤褐色	-
30	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→押引 内:ナード	外:SVRS/2暗赤褐色 内:SVRS/4に近い赤褐色	-
31	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貝刺突・押引 内:ナード	外:7.5VR4/2暗赤褐色 内:10YR4/2暗赤褐色	-
32	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貝刺突 内:貝条痕・ナード	外:SVRS/1暗赤褐色 内:SVRS/2暗赤褐色	-
33	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→肥厚・貼付 内:ナード	外:SVRS/3暗赤褐色 内:SVRS/6赤褐色	-
34	VII層	調文土器 深鉢	(28.6)	-	-	外:貝条痕・ナード→貼付→貝刺突 内:貝条痕・ナード	外:10YR4/3に近い黄褐色 内:10YR4/4に近い黄褐色	貼付上に貝刺突
35	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード 内:ナード	外:10YR4/2暗赤褐色 内:10YR4/2暗赤褐色	-
36	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条痕 内:ナード	外:SVRS/4に近い赤褐色 内:SVRS/6明赤褐色	-
37	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貼付 内:ナード	外:7.5VR4/3暗赤褐色 内:10YR4/3に近い黄褐色	-

表9 10区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法cm			調査	色調	備考
			口径	底径	器高			
38	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:2.5V2/2黒暗赤褐色 内:2.5V4/6黒褐色	-
39	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条痕・ナデ 内:貝条痕・ナデ	外:10V5/2黒黃褐色 内:10V1/1黒褐色	-
40	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ・貝痕突 内:ナデ	外:5V5/4に黒い 内:5V5/6明赤褐色	-
41	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条痕 内:貝条痕・ナデ	外:7.5V4/3黒褐色 内:10V3/3黒褐色	-
42	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ・沈線 内:貝条痕	外:2.5V3/1黒褐色 内:2.5V3/2黒褐色	-
43	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ・沈線 内:ナデ	外:2.5V3/4に黒い 内:2.5V3/74に黒い	-
44	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:沈線・ナデ	外:5V3/2暗赤褐色 内:5V3/6明赤褐色	-
45	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ・沈線 内:貝条痕・ナデ	外:5V3/2暗赤褐色 内:10V3/3黒褐色	-
46	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ・沈線 内:ナデ	外:2.5V5/6黒褐色 内:5V5/6黒褐色	-
47	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ・沈線 内:ナデ	外:2.5V5/3に黒い 内:10V5/4に黒褐色	-
48	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ・押引 内:ナデ	外:2.5V2/3暗赤褐色 内:2.5V3/3黒褐色	-
49	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ・回線 内:貝条痕・ナデ	外:5V3/4に黒い 内:2.5V3/2黒褐色	-
50	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ・沈線・貝突 内:ナデ	外:2.5V5/4に黒い 内:5V3/3に黒い 外:2.5V5/3黒褐色	-
51	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ・沈線 内:ナデ	外:2.5V5/3暗赤褐色 内:2.5V3/3黒褐色	口唇部貼付、浅い沈線
52	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝取縫 内:ナデ	外:2.5V4/3に黒い 内:2.5V3/1黒褐色	-
53	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ・沈線 内:ナデ	外:5V4/4に黒い 内:5V4/3に黒い	-
54	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ・回点・回線 内:ナデ	外:2.5V3/6黒褐色 内:10V2/2に黒褐色	-
55	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ・回点・回線 内:ナデ	外:2.5V3/6黒褐色 内:2.5V3/4黒褐色	-
56	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ・回点・回線 内:ナデ	外:10V5/4に黒い 内:2.5V6/2灰褐色	-
57	VI層	調文土器 深鉢	(43.0)	-	-	外:ナデ・回点・回線 内:ナデ	外:10V7/4に黒い 内:2.5V7/4に黒褐色	-
58	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ・貝突 内:ナデ	外:2.5V8/3暗赤褐色 内:2.5V7/3に黒い	-
59	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ・回点・回線 内:貝条痕・ナデ	外:5V7/4に黒い 内:5V3/1黒褐色	-
60	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ・回点・回線 内:ナデ	外:5V7/6暗赤褐色 内:2.5V7/4に黒い	-
61	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ・回点・回線 内:ナデ	外:2.5V5/4に黒い 内:2.5V6/6黒褐色	-
62	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ・回点・回線 内:ナデ	外:2.5V6/3に黒い 内:10V3/3黒褐色	-
63	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ・回点 内:ナデ	外:2.5V7/4に黒い 内:2.5V7/6黒褐色	-
64	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ・回点 内:ナデ	外:10V5/3暗赤褐色 内:2.5V6/4に黒い	-
65	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ・回点・回線 内:ナデ	外:2.5V6/4に黒い 内:2.5V5/4に黒褐色	-
66	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝突・回線・ナデ 内:ナデ	外:10V6/4に黒い 内:10V6/4に黒褐色	14C年代測定No.10 200925
67	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ・回点・回線 内:ナデ	外:5V3/2暗赤褐色 内:5V3/5に黒い	-
68	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ・回線・回点 内:ナデ	外:5V7/6暗赤褐色 内:2.5V7/4に黒い	-
69	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ・回点・回線 内:ナデ	外:2.5V4/2黒褐色 内:2.5V3/1黒褐色	-
70	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ・回点・回線 内:貝条痕・ナデ	外:2.5V5/2黒褐色 内:10V4/2暗赤褐色	-
71	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ・回線 内:ナデ	外:2.5V6/4に黒い 内:2.5V6/4に黒褐色	-
72	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ・回点 内:ナデ	外:2.5V6/3に黒い 内:2.5V7/4に黒い	-
73	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ・回点 内:ナデ	外:2.5V5/3暗赤褐色 内:10V7/3に黒い	-
74	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ・回点 内:ナデ	外:2.5V5/2黒褐色 内:10V2/2黒褐色	-

表 9 10 区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法cm			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
75	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→凹点 内:ナデ	外:10YR6/3に5ない黄褐色 内:10YR6/4に8	-
76	VII層	調文土器 深鉢	(25.0)	-	-	外:ナデ→北縁・斜突 内:良条痕・ナデ	外:7.5YR4/2暗褐色 内:7.5YR2/4暗褐色	-
77	VII層	調文土器 深鉢	(25.6)	-	-	外:ナデ→凹縁・凹点 内:ナデ	外:10YR4/2暗黃褐色 内:10YR7/3に5ない黄褐色	-
78	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→凹点・沈縫 内:ナデ	外:7.5YR3/2暗褐色 内:10YR7/4に5ない黄褐色	-
79	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→凹点・凹縁 内:良条痕・ナデ	外:7.5YR3/3暗褐色 内:7.5YR4/3暗褐色	-
80	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→凹点・凹縁 内:良条痕	外:7.5YR3/4に5ない赤褐色 内:7.5YR5/6暗褐色	-
81	VII層	調文土器 深鉢	31.2	-	-	外:貝条痕・凹縁・斜突 内:良条痕	外:7.5YR3/4に5ない赤褐色 内:7.5YR5/4に5ない褐色	-
82	-	調文土器 深鉢	37.2	-	-	外:貝条痕・沈縫・貝刺突 内:良条痕・ナデ	外:7.5YR6/6暗褐色 内:7.5YR6/6明赤褐色	-
83	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縫・貝刺突	外:7.5YR6/4に5ない褐色 内:7.5YR6/6	-
84	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→斜突・沈縫	外:7.5YR6/8暗褐色 内:7.5YR7/9暗褐色	-
85	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→斜突・沈縫 内:ナデ	外:10YR7/3に5ない黄褐色 内:10YR6/3に5ない黄褐色	-
86	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→凹縁・沈縫 内:ナデ	外:7.5YR3/2暗褐色 内:10YR4/4に5ない赤褐色	-
87	VII層	調文土器 深鉢	(19.4)	9.3	26.6	外:良条痕・ナデ・沈縫・貝刺突 内:ナデ	外:7.5YR6/8暗褐色 内:7.5YR5/6明赤褐色	-
88	VII層	調文土器 深鉢	24.9	-	-	外:ナデ→凹縁・貝刺突 内:ナデ	外:10YR4/4に5ない赤褐色 内:10YR7/3に5ない黄褐色	-
89	VII層	調文土器 深鉢	(34.0)	-	-	外:貝条痕・凹縁・貝刺突 内:良条痕	外:7.5YR7/6暗褐色 内:7.5YR5/3に5ない黄褐色	-
90	VII層	調文土器 深鉢	(16.0)	-	-	外:ナデ→沈縫・貝刺突 内:良条痕・ナデ	外:7.5YR6/4に5ない褐色 内:2.5YR5/8明赤褐色	-
91	VII層	調文土器 深鉢	(18.0)	-	-	外:ナデ→斜突・沈縫 内:良条痕・ナデ	外:7.5YR6/6暗褐色 内:7.5YR3/2暗褐色	-
92	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→斜突・沈縫 内:ナデ	外:10YR6/6暗褐色 内:10YR8/4暗黃褐色	-
93	VII層	調文土器 深鉢	(32.0)	-	-	外:ナデ→貝刺突・凹縁 内:ナデ	外:7.5YR7/6暗褐色 内:7.5YR7/8暗褐色	-
94	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縫・貝刺突 内:ナデ	外:10YR2/2黒褐色 内:7.5YR2/2暗褐色	-
95	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→凹縁・貝刺突 内:良条痕・ナデ	外:7.5YR5/4に5ない褐色 内:10YR6/2暗褐色	-
96	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→凹縁・貝刺突 内:ナデ	外:7.5YR6/4に5ない褐色 内:7.5YR5/4に5ない褐色	-
97	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→貝刺突・沈縫 内:ナデ	外:10YR6/4に5ない黄褐色 内:10YR6/4に5ない黄褐色	-
98	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縫・貝刺突 内:良条痕・ナデ	外:7.5YR4/2暗褐色 内:7.5YR6/3に5ない褐色	-
99	VII層	調文土器 深鉢	(23.1)	-	-	外:良条痕・凹縁・貝刺突 内:良条痕	外:2.5YR4/暗赤褐色 内:7.5YR5/4に5ない褐色	-
100	VII層	調文土器 深鉢	(20.7)	-	-	外:ナデ→沈縫・貝刺突 内:ナデ	外:7.5YR8/4暗黃褐色 内:7.5YR7/4に5ない褐色	-
101	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縫・貝刺突 内:ナデ	外:10YR6/4に5ない黄褐色 内:7.5YR5/4に5ない褐色	-
102	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縫・貝刺突 内:良条痕・ナデ	外:7.5YR6/6暗褐色 内:7.5YR2/1黒褐色	-
103	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縫・貝刺突 内:良条痕	外:10YR5/3に5ない黄褐色 内:10YR6/3に5ない黄褐色	-
104	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縫 内:ナデ	外:10YR3/1暗褐色 内:7.5YR6/6暗褐色	-
105	VII層	調文土器 深鉢	29.9	(10.0)	33.1	外:ナデ→凹縁・貝刺突 内:良条痕・ナデ	外:7.5YR6/6明赤褐色 内:7.5YR5/6明赤褐色	調代泥
106	VII層	調文土器 深鉢	(29.2)	9.7	26.3	外:ナデ→凹縁・貝刺突 内:良条痕・ナデ	外:10YR6/6暗褐色 内:7.5YR6/6暗褐色	-
107	VII層	調文土器 深鉢	(25.2)	-	-	外:貝条痕・ナデ・凹縁・貝刺突 内:ナデ	外:7.5YR6/6暗褐色 内:7.5YR6/6暗褐色	-
108	VII層	調文土器 深鉢	(30.7)	-	-	外:貝条痕・ナデ・凹縁・貝刺突 内:良条痕・ナデ	外:7.5YR6/6暗褐色 内:7.5YR6/6暗褐色	-
109	VII層	調文土器 深鉢	(20.7)	-	-	外:ナデ→沈縫・貝刺突 内:ナデ	外:7.5YR4/3暗褐色 内:7.5YR3/4に5ない褐色	-
110	VII層	調文土器 深鉢	(25.0)	-	-	外:ナデ→凹縁・貝刺突 内:ナデ	外:10YR6/4に5ない黄褐色 内:10YR7/4に5ない黄褐色	-
111	VII層	調文土器 深鉢	(14.0)	-	-	外:ナデ→凹縁・貝刺突 内:ナデ	外:7.5YR6/4に5ない褐色 内:7.5YR4/3暗褐色	-

表9 10区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法cm			調査	色調	備考
			口径	底径	器高			
112	VI層	調文土器 深鉢	(22.3)	-	-	外:ナード→凹縁→貝網突 内:貝条痕・ナード	外:SVR5/4にぶい赤褐色 内:SVR2/2黒褐色	-
113	VI層	調文土器 深鉢	(21.7)	-	-	外:ナード→凹縁→貝網突 内:貝条痕・ナード	外:SVR6/6暗褐色 内:SVR5/4にぶい赤褐色	-
114	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縁→貝網突 内:ナード	外:SVR6/4にぶい赤褐色 内:SVR2/1黒	-
115	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線→貝網突 内:貝条痕・ナード	外:SVR5/6明赤褐色 内:SVR5/4にぶい赤褐色	-
116	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線→貝網突 内:貝条痕・ナード	外:SVR2/1黒褐色 内:SVR6/6暗褐色	-
117	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条痕・ナード→凹縁→貝網突 内:貝条痕・ナード	外:SVR6/4にぶい赤褐色 内:SVR6/6暗褐色	-
118	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縁→貝網突 内:貝条痕・ナード	外:10VR4/3にぶい黄褐色 内:SVR5/4にぶい赤褐色	口唇部貝網突
119	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線→刺突 内:貝条痕・ナード	外:SVR5/3にぶい褐色 内:SVR6/4にぶい暗褐色	-
120	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線→貝網突 内:貝条痕	外:10VR3/3黒褐色 内:10VR4/4暗褐色	-
121	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縁→貝網突 内:ナード	外:2.5VR6/8暗褐色 内:2.5VR6/6多褐色	-
122	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条痕・凹縁→貝網突 内:ナード	外:SVR6/6暗褐色 内:2.5VR6/8暗褐色	-
123	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縁 内:ナード	外:SVR6/6暗褐色 内:2.5VR6/8明赤褐色	-
124	VI層	調文土器 深鉢	(20.6)	-	-	外:ナード→凹縁 内:貝条痕	外:10VR6/4にぶい黄褐色 内:SVR6/4にぶい暗褐色	-
125	VI層	調文土器 深鉢	(20.0)	-	-	外:ナード→凹縁 内:貝条痕・ナード	外:SVR3/2黒褐色 内:SVR3/2暗褐色	-
126	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:凹縁・ナード 内:貝条痕	外:SVR4/3にぶい赤褐色 内:SVR4/3にぶい赤褐色	-
127	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縁 内:貝条痕・ナード	外:10VR4/2にぶい黄褐色 内:10VR4/2にぶい黄褐色	-
128	VI層	調文土器 深鉢	(24.2)	-	-	外:貝条痕・ナード→凹縁 内:貝条痕・ナード	外:SVR5/6明赤褐色 内:SVR5/8暗褐色	-
129	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縁 内:ナード	外:SVR4/4にぶい赤褐色 内:SVR6/4明赤褐色	-
130	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード	外:10VR2/2黒褐色 内:10VR6/2暗褐色	-
131	VI層	調文土器 深鉢	18.0	9.3	18.0	外:ナード→凹縁 内:貝条痕	外:SVR6/4にぶい暗褐色 内:SVR6/8暗褐色	-
132	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縁 内:貝条痕・ナード	外:SVR5/3にぶい暗褐色 内:SVR2/2黒褐色	-
133	VI層	調文土器 深鉢	(18.0)	-	-	外:ナード→沈線 内:貝条痕・ナード	外:SVR6/4にぶい暗褐色 内:SVR7/4にぶい暗褐色	-
134	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード	外:2.5VR3/1黒褐色 内:2.5VR3/2暗褐色	-
135	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード	外:10VR7/3にぶい黄褐色 内:2.5VR3/2暗褐色	-
136	VI層	調文土器 深鉢	(20.7)	-	-	外:ナード→凹縁 内:ナード	外:SVR6/6明赤褐色 内:SVR3/2暗褐色	-
137	VI層	調文土器 深鉢	31.2	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード	外:SVR3/2黒褐色 内:10VR3/1黒褐色	-
138	VI層	調文土器 深鉢	(29.2)	-	-	外:貝条痕→凹縁 内:貝条痕	外:SVR6/6暗褐色 内:SVR6/6暗褐色	-
139	VI層	調文土器 深鉢	(32.0)	-	-	外:ナード→凹縁 内:ナード	外:SVR5/4にぶい暗褐色 内:2.5VR6/6暗褐色	-
140	VI層	調文土器 深鉢	-	(9.4)	-	外:ナード→凹縁 内:貝条痕	外:SVR6/6明赤褐色 内:SVR3/4暗褐色	-
141	VI層	調文土器 深鉢	(31.0)	-	-	外:貝条痕→凹縁 内:ナード	外:2.5VR6/1灰褐色 内:SVR7/6暗褐色	-
142	VI層	調文土器 深鉢	(27.3)	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード	外:SVR6/6明赤褐色 内:SVR5/6明赤褐色	-
143	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条痕・ナード→凹縁→貝網突 内:貝条痕・ナード	外:SVR5/12にぶい赤褐色 内:2.5VR5/6明赤褐色	-
144	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線→貝網突 内:ナード	外:10VR3/2黒褐色 内:2.5VR4/3暗褐色	-
145	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条痕→凹縁→貝網突 内:ナード	外:2.5VR6/4にぶい暗褐色 内:10VR5/4にぶい黄褐色	-
146	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:貝条痕	外:10VR5/3にぶい黄褐色 内:10VR5/3にぶい黄褐色	-
147	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縁→貝網突 内:貝条痕・ナード	外:SVR6/6暗褐色 内:SVR5/8明赤褐色	-
148	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹縁 内:ナード	外:10VR3/1黒褐色 内:2.5VR4/3暗褐色	-

表 9 10 区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法cm			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
149	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縁→刻突 内:ナデ	外:10YR4/3に似る黄褐色 内:7.5YR4/3褐色	-
150	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→回線	外:7.5YR6/4に似る黄褐色 内:7.5YR6/4に似る黄褐色	-
151	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→回点	外:7.5YR5/4に似る赤褐色 内:ナデ	-
152	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→回線文 内:ナデ	外:7.5YR4/1黒褐色 内:7.5YR6/4に似る黄褐色	-
153	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→回線	外:7.5YR5/6明赤褐色 内:ナデ	-
154	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縁	外:7.5YR4/6赤褐色 内:ナデ	-
155	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→回線→回点	外:7.5YR4/3に似る赤褐色 内:ナデ	-
156	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縲	外:7.5YR2/2黒褐色 内:ナデ	-
157	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→回線	外:7.5YR4/9褐色 内:ナデ	-
158	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→回線	外:7.5YR4/4に似る赤褐色 内:ナデ	-
159	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→回線→回点	外:10YR4/2黒褐色 内:ナデ	-
160	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→回点	外:7.5YR5/6明赤褐色 内:ナデ	-
161	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→回点 内:ナデ	外:7.5YR4/4に似る赤褐色 内:ナデ	-
162	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→凹底	外:2.5YR4/6赤褐色 内:ナデ	-
163	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→回点	外:7.5YR3/2暗赤褐色 内:ナデ	-
164	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縲	外:7.5YR3/2暗赤褐色 内:ナデ	-
165	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→刻突 内:ナデ	外:7.5YR7/6褐色 内:10YR4/6明黄褐色	-
166	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ	外:7.5YR6/6褐色 内:10YR6/3に似る黄褐色	椭状把手
167	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→突端→沈縲	外:10YR4/1黒褐色 内:10YR4/2黒褐色	-
168	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縲	外:10YR5/4に似る黄褐色 内:ナデ	-
169	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条瓶→刻突→沈縲 内:ナデ	外:7.5YR5/3に似る褐色 内:7.5YR6/4に似る褐色	-
170	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縲	外:7.5YR5/3に似る褐色 内:ナデ	-
171	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縲→貝刻突	外:2.5YR3/3黃褐色 内:ナデ	-
172	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縲→回文 内:ナデ	外:7.5YR6/4に似る黄褐色 内:7.5YR6/6褐色	白色記符を多く含む
173	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縲→回文 内:ナデ	外:7.5YR5/4に似る褐色 内:2.5YR4/4暗赤褐色	-
174	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→回文→沈縲→刻突 内:ナデ	外:7.5YR3/2黒褐色 内:7.5YR3/4に似る褐色	-
175	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ミガキ→沈縲→回文 内:ミガキ	外:7.5YR5/6明赤褐色 内:7.5YR4/4に似る赤褐色	-
176	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縲→回文 内:ナデ	外:7.5YR6/4に似る褐色 内:7.5YR6/6褐色	-
177	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縲→回文 内:ナデ	外:7.5YR6/6褐色 内:10YR6/4明黄褐色	-
178	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→刻突 内:貝条瓶	外:7.5YR4/3に似る赤褐色 内:7.5YR2/2暗赤褐色	-
179	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縲→貝刻突 内:ナデ	外:7.5YR4/3に似る赤褐色 内:7.5YR4/4に似る赤褐色	-
180	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→貝付→刻突 内:ナデ	外:7.5YR3/6明赤褐色 内:7.5YR3/6明赤褐色	-
181	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→回線→貝刻突 内:ナデ	外:7.5YR4/3褐色 内:7.5YR3/6明赤褐色	-
182	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縲	外:10YR6/3に似る黄褐色 内:ナデ	-
183	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縲 内:ナデ	外:7.5YR6/6褐色 内:7.5YR2/2黒褐色	-
184	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→貝刻突 内:貝条瓶	外:7.5YR5/3に似る褐色 内:7.5YR6/4に似る褐色	-
185	VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→回線 内:ナデ	外:10YR4/2黒褐色 内:10YR3/2黒褐色	-

表9 10区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法cm			調査	色調	備考
			口径	底径	器高			
186	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈線・網突 内:ナデ	外:7.5VR3/3暗褐色 内:5VR4/6褐色	-
187	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板・貝網突 内:貝条板	外:7.5VR2/2暗褐色 内:7.5VR4/3褐色	-
188	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→貝網突 内:ナデ	外:5VR6/4に5V4相 内:7.5VR6/4に5V4相	-
189	VI層	調文土器 深鉢	(27.2)	-	-	外:貝条板→ナデ 内:貝条板	外:10VR5/3に5V4相・黄褐色 内:10VR4/3に5V4相・黄褐色	-
190	VI層	調文土器 深鉢	(23.9)	-	-	外:貝条板 内:貝条板→ナデ	外:7.5VR3/3褐色 内:7.2VR5/2暗褐色	-
191	VI層	調文土器 深鉢	(30.0)	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10VR4/3に5V4相・黄褐色 内:10VR5/4に5V4相・黄褐色	-
192	VI層	調文土器 深鉢	(26.2)	-	-	外:貝条板・ナデ 内:貝条板→ナデ	外:10VR4/2暗褐色 内:10VR5/3に5V4相・黄褐色	-
193	VI層	調文土器 深鉢	(32.0)	-	-	外:貝条板・ナデ 内:貝条板→ナデ	外:2.5VR5/6暗褐色 内:2.5VR6/8褐色	-
194	VI層	調文土器 深鉢	(25.9)	-	-	外:貝条板・ナデ 内:貝条板→ナデ	外:7.5VR5/6暗褐色 内:7.5VR6/4に5V4相	-
195	VI層	調文土器 深鉢	37.6	-	-	外:貝条板 内:貝条板	外:5VR5/2暗褐色 内:5VR6/6褐色	-
196	西蔵 VI層	調文土器 深鉢	(22.2)	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5VR3/3暗褐色 内:7.5VR4/2暗褐色	-
197	VI層	調文土器 深鉢	(24.7)	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10VR7/4に5V4相・黄褐色 内:10VR5/4に5V4相・黄褐色	-
198	VI層	調文土器 深鉢	19.0	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10VR6/4に5V4相・黄褐色 内:10VR4/1黒褐色	-
199	VI層	調文土器 深鉢	(29.4)	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10VR6/4に5V4相・黄褐色 内:5VR6/6明褐色	-
200	VI層	調文土器 深鉢	(17.5)	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10VR6/3に5V4相・黄褐色 内:7.5VR4/3褐色	-
201	VI層	調文土器 深鉢	(22.2)	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5VR7/4に5V4相 内:7.5VR7/6褐色	-
202	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5VR5/3に5V4相・褐色 内:10VR7/3に5V4相・黄褐色	-
203	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板・ナデ 内:貝条板→ナデ	外:5VR5/4に5V4相・赤褐色 内:2.5VR5/6に5V4赤褐色	-
204	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板・ナデ 内:貝条板→ナデ	外:2.5VT7/4浅黃 内:10VR6/4に5V4相・黄褐色	-
205	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板・ナデ 内:貝条板→ナデ	外:10VR6/4に5V4相・黄褐色 内:10VR6/4に5V4相・黄褐色	-
206	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板・ナデ 内:貝条板→ナデ	外:7.5VR7/4に5V4相 内:7.5VR6/1暗褐色	-
207	VI層	調文土器 深鉢	(19.7)	-	-	外:貝条板・貝口突帯 内:貝条板	外:7.5VR5/4に5V4相 内:10VR4/1黒褐色	-
208	VI層	調文土器 深鉢	(21.8)	-	-	外:ナデ 内:貝条板→ナデ	外:7.5VR6/4に5V4相 内:7.5VR5/4に5V4相	-
209	VI層	調文土器 深鉢	(31.2)	-	-	外:貝条板 内:貝条板→ナデ	外:10VR4/3に5V4相・黄褐色 内:10VR6/4に5V4相・黄褐色	-
210	VI層	調文土器 深鉢	(41.0)	-	-	外:貝条板 内:貝条板→ナデ	外:2.5VR7/2暗褐色 内:7.5VR3/3褐色	-
211	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5VR6/6褐色 内:7.5VR7/4に5V4相	-
212	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10VR6/3に5V4相・黄褐色 内:2.5VR6/3に5V4相・黄褐色	-
213	VI層	調文土器 深鉢	(24.4)	-	-	外:ナデ 内:貝条板→ナデ	外:10VR4/2黒褐色 内:10VR7/4に5V4相・黄褐色	-
214	VI層	調文土器 深鉢	(31.1)	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:5VR6/6明褐色 内:5VR6/6褐色	-
215	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板・ナデ 内:ナデ	外:10VR4/2黒褐色 内:10VR4/1黒褐色	-
216	VI層	調文土器 深鉢	(25.3)	-	-	外:貝条板・ナデ・貝口縦帶 内:貝条板→ナデ	外:7.5VR5/4に5V4相 内:7.5VR5/3に5V4相	-
217	VI層	調文土器 深鉢	(13.1)	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:5VR6/8暗褐色 内:7.5VR6/4褐色	-
218	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板→ナデ 内:ナデ	外:10VR6/4に5V4相・黄褐色 内:10VR5/4に5V4相・黄褐色	-
219	VI層	調文土器 深鉢	-	(8.1)	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10VR6/4に5V4相・黄褐色 内:2.5VR6/3に5V4相・黄褐色	-
220	VI層	調文土器 底部	-	(7.8)	-	外:ナデ 内:ナデ	外:5VR3/1暗褐色 内:2.5VR3/1暗褐色	-
221	VI層	調文土器 底部	-	(9.4)	-	外:貝条板→ナデ 内:貝条板→ナデ	外:5VR6/6褐色 内:5VR6/6褐色	時代底
222	SC	調文土器 底部	-	9.2	-	外:貝条板→ナデ 内:貝条板→ナデ	外:7.5VR4/4に5V4相 内:10VR5/4に5V4相・黄褐色	時代底

表 9 10 区出土遺物観察表 (土器)

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法cm			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
223	VI層	調文土器 底部	-	8.6	-	外:ナデ→貝条痕 内:貝条痕→ナデ	外:2.5V4/2暗黄 内:2.5V4/1淡黄	網代底
224	VI層	調文土器 底部	-	10.5	-	外:ナデ 内:ナデ	外:2.5V4/1黃灰 内:2.5V4/2淡黄	網代底
225	VI層	調文土器 底部	-	9.8	-	外:貝条痕→ナデ 内:貝条痕→ナデ	外:10YR6/4L5N・黄褐 内:10YR7/4L5N・黄褐	-
226	VI層	調文土器 底部	-	(9.2)	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10YR6/3L5N・黄褐 内:10YR7/4L5N・黄褐	-
227	VI層	調文土器 底部	-	(8.8)	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10YR6/4L5N・黄褐 内:10YR5/3L5N・黄褐	-
228	VI層	調文土器 底部	-	(11.1)	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10YR6/4L5N・黄褐 内:10YR6/4L5N・黄褐	網代底
229	VI層	調文土器 底部	-	(9.2)	-	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5V8/7L5N・褐 内:7.5V8/8L4N・黄褐	網代底
230	VI層	調文土器 底部	-	7.9	-	外:ナデ→貝条痕 内:ナデ	外:2.5V6/8褐 内:SV6/6褐	網代底
231	VI層	調文土器 底部	-	(7.1)	-	外:貝条痕→ナデ 内:ナデ	外:2.5V6/6褐 内:10YR3/1暗褐	-
232	VI層	調文土器 底部	-	(9.8)	-	外:ナデ 内:ナデ	外:2.5V6/6褐 内:7.5V8/7L5N・褐	-
233	VI層	調文土器 底部	-	6.3	-	外:ナデ 内:ナデ	外:2.5V6/6明褐 内:SV6/1暗褐	-
234	VI層	土製円盤	幅 5.7	横 5.5	厚 0.9	外:ナデ→凹線 内:貝条痕→ナデ	外:7.5V8/8L4N・褐 内:2.5V6/6明褐	重量 28.1g. 暗面磨滅痕有(部分)
235	VI層	土製円盤	幅 5.8	横 5.6	厚 1.1	外:ナデ→沈線→貝条痕 内:ナデ	外:2.5V6/8褐 内:SV6/6褐	重量 35.1g
236	VI層	土製品 土製円盤	幅 4.7	横 4.7	厚 1.0	外:ナデ→凹線 内:ナデ	外:SV6/4にこい・赤褐 内:7.5V8/8L4N・褐	重量 24.1g
237	VI層	土製品 土製円盤	幅 4.4	横 4.4	厚 0.9	外:ナデ→沈線 内:ナデ	外:7.5V8/8L4N・褐 内:7.5V8/6褐	重量 20.5g. 暗面磨滅痕有(部分)
238	VI層	土製品 土製円盤	幅 4.1	横 4.4	厚 1.1	外:ナデ→凹線 内:ナデ	外:TV8/2/暗褐 内:SV6/6明褐	重量 21.9g
239	VI層	土製品 土製円盤	幅 4.3	横 4.5	厚 0.9	外:ナデ→凹線 内:ナデ	外:7.5V6/4L5N・褐 内:7.5V6/4L5N・褐	重量 22.0g
240	VI層	土製品 土製円盤	幅 3.8	横 3.7	厚 0.7	外:シガリ→沈線→貝刺突 内:ナデ	外:SV6/1/暗褐 内:SV6/1にこい・赤褐	重量 13.5g
241	VI層	土製品 土製円盤	幅 3.8	横 4.0	厚 1.1	外:ナデ→凹線→貝刺突 内:ナデ	外:7.5V6/6褐 内:7.5V8/7L5N・褐	重量 17.5g. 暗面磨滅痕有(全面)
242	VI層	土製品 土製円盤	幅 3.3	横 3.4	厚 0.6	外:ナデ→凹線 内:ナデ	外:10YR6/4L5N・黄褐 内:10YR6/4L5N・黄褐	重量 8.4g
243	VI層	土製品 土製円盤	幅 3.4	横 3.4	厚 0.8	外:ナデ→貝刺突 内:ナデ	外:10YR6/4L5N・黄褐 内:10YR6/3L5N・黄褐	重量 12.7g
244	VI層	土製品 土製円盤	幅 6.0	横 5.8	厚 0.9	外:ナデ 内:ナデ	外:SV6/6褐 内:SV6/6褐	重量 40.4g
245	VI層	土製品 土製円盤	幅 4.8	横 5.1	厚 0.9	外:ナデ 内:ナデ	外:10YR6/4L5N・黄褐 内:7.5V6/4L5N・褐	重量 22.0g. 暗面磨滅痕有(全面)
246	VI層	土製品 土製円盤	幅 4.3	横 4.2	厚 0.9	外:ナデ 内:ナデ	外:SV6/6明褐 内:SV6/4にこい・赤褐	重量 23.7g. 暗面磨滅痕有(全面)
247	VI層	土製品 土製円盤	幅 4.4	横 4.6	厚 0.9	外:ナデ→ナデ 内:貝条痕→ナデ	外:2.5V3/1 黄灰 内:2.5V3/2暗灰	重量 22.0g. 暗面磨滅痕有(全面)
248	VI層	土製品 土製円盤	幅 4.4	横 4.4	厚 0.9	外:ナデ 内:ナデ	外:SV6/2/暗面磨 内:10YR6/3L5N・黄褐	重量 27.9g. 暗面磨滅痕有(部分)
249	VI層	土製品 土製円盤	幅 4.4	横 4.1	厚 0.9	外:ナデ→ナデ 内:ナデ	外:SV6/6にこい・褐 内:SV6/4にこい・赤褐	重量 19.6g. 暗面磨滅痕有(全面)
250	VI層	土製品 土製円盤	幅 3.8	横 3.8	厚 0.7	外:ナデ 内:ナデ	外:SV6/4/3褐 内:SV6/6褐	重量 11.4g
251	VI層	土製品 土製円盤	幅 3.4	横 3.3	厚 0.6	外:ナデ 内:ナデ	外:SV6/6褐 内:SV6/2/暗褐	重量 7.8g. 暗面磨滅痕有(全面)
252	VI層	土製品 土製円盤	幅 2.7	横 2.8	厚 1.0	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5V6/6褐 内:10YR5/4L5N・黄褐	重量 9.0g. 暗面磨滅痕有(全面)
253	VI層	土製品 土製片縫	長 4.6	幅 2.6	厚 0.7	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5V6/3/5N・褐 内:7.5V6/6褐	重量 11.1g
254	VI層	土製品 土製片縫	長 4.9	幅 3.6	厚 0.8	外:ナデ 内:ナデ	外:SV6/6褐 内:7.5V6/6褐	重量 15.9g
255	VI層	土製品 土製片縫	長 5.4	幅 3.3	厚 0.7	外:貝条痕→ナデ 内:ナデ	外:7.5V6/4L5N・褐 内:7.5V6/2/1黑	重量 13.6g
256	VI層	土製品 土製片縫	長 4.7	幅 2.5	厚 0.8	外:ナデ 内:ナデ	外:SV6/4にこい・褐 内:SV6/4にこい・赤褐	重量 11.8g
257	VI層	土製品 土製片縫	長 4.5	幅 2.6	厚 0.9	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5V6/4L5N・褐 内:7.5V6/7/4L5N・褐	重量 15.6g
258	IV層	染付 罐	-	(4.5)	-	-	動:N8/反白 級:透明 文:3F96/5/5.點付ねぐらびき	-
259	VI層	陶器 罐	-	4.9	-	-	動:10YR6/2/暗褐 文:10YR3/2黒褐	-

表9 10区出土遺物観察表(石器)

報告番号	出土地区	層位	器種	石材	寸法(mm)			重量(g)	備考
					長さ	幅	厚さ		
260	-	VI層	石製品	軽石	40.6	25.4	11.6	3.4	軽石
261	-	VI層	石器	黒曜岩IV	43.9	20.2	5.1	2.4	脚部欠損
262	-	VI層	石器	黒曜岩Ⅲ	23.3	17.0	4.1	1.2	-
263	-	VI層	石器	チャート	26.1	16.2	4.5	1.5	先端部・脚部欠損
264	-	VI層	石器	黒曜岩Ⅲ	19.1	13.9	3.9	0.7	-
265	-	VI層	石器	黒曜岩Ⅰd	19.0	19.3	3.8	1.1	-
266	-	VI層	石器	黒曜岩VI	23.9	17.1	6.3	2.1	先端部欠損
267	-	-	石器	チャート	24.0	18.2	6.5	2.2	-
268	-	VI層	石器	黒曜岩Ⅰd	15.0	16.6	3.3	0.7	先端部欠損
269	-	VI層	石器	黒曜岩Ⅲか	13.7	13.2	3.5	0.5	-
270	-	I層	石器	玉髓	44.2	26.4	6.9	8.1	-
271	-	VI層	石器	チャート	32.9	36.2	7.9	7.1	刃部欠損
272	-	VI層	削器・石斧?	黒曜岩Ic	21.0	17.2	4.0	1.2	先端部欠損
273	-	VI層	削器・石斧?	珪質頁岩	30.4	50.1	5.2	8.0	-
274	-	-	削器	頁岩	92.9	34.0	14.0	27.1	-
275	-	VI層	削器	粘板岩?頁岩?	84.8	56.7	8.6	37.5	-
276	-	-	磨製石斧	ホルンフェルス	136.0	58.2	31.9	381.2	-
277	-	灰黃褐色土層	磨製石斧	ホルンフェルス	152.7	66.2	40.2	531.2	-
278	-	-	磨製石斧	ホルンフェルス	100.1	52.8	32.5	236.4	-
279	-	VI層	磨製石斧	頁岩	103.8	43.8	36.0	257.9	-
280	-	VI層	磨製石斧	ホルンフェルス	98.0	48.0	25.7	167.3	刃部・基部欠損
281	-	VI層	磨製石斧	砂岩	100.6	36.6	25.7	138.3	-
282	-	VI層	磨製石斧	ホルンフェルス	92.2	51.9	18.7	132.4	基部欠損
283	-	VI層	磨製石斧	ホルンフェルス	101.0	49.8	23.6	172.2	-
284	-	VI層	磨製石斧	砂岩	76.8	48.6	32.5	168.9	-
285	-	VI層	磨製石斧	頁岩	80.6	42.3	14.8	77.5	-
286	-	VI層	磨製石斧	ホルンフェルス	64.3	43.4	17.2	74.5	上半部欠損
287	-	VI層	磨石	砂岩	118.8	104.5	50.7	964.0	-
288	-	VI層	磨石	石英斑岩	109.7	92.8	50.6	818.7	-
289	-	VI層	磨石	安山岩	102.5	75.1	64.9	709.5	-
290	-	VI層	磨石	安山岩	94.8	85.8	45.7	515.4	-
291	-	VI層	磨石	安山岩	94.7	89.4	32.2	371.5	-
292	-	VI層	磨石	安山岩	93.5	88.4	47.2	506.1	-
293	-	VI層	磨石	安山岩	88.8	69.7	53.8	492.8	-
294	-	VI層	磨石	安山岩	105.9	90.3	40.4	457.2	-
295	-	VI層	磨石	多孔質安山岩	101.2	92.5	42.2	604.1	-
296	-	VI層	磨石	砂岩	102.0	88.0	43.0	613.1	赤色顔料付着

山中遺跡 10 区の調査

表9 10区出土遺物観察表(石器)

報告番号	出土地区	層位	器種	石材	寸法 (mm)			重量 (g)	備考
					長さ	幅	厚さ		
297	-	V1層	磨石	石英岩	89.8	83.2	45.2	532.9	-
298	-	V1層	轆轤・臼石	安山岩	118.1	94.5	56.2	778.0	両面に底み有
299	-	V1層	轆轤・臼石	多孔質安山岩	85.0	108.3	38.7	408.6	両面に底み有
300	-	V1層	磨石	砂岩	85.9	63.1	41.9	294.9	-
301	-	V1層	石鍤	頁岩	47.2	34.9	13.1	29.4	切目石鍤
302	-	V1層	石鍤	頁岩	37.4	25.5	7.8	12.3	切目石鍤
303	-	V1層	石鍤	砂岩	30.6	38.2	12.7	21.9	切目石鍤
304	-	V1層	石鍤	頁岩	28.9	33.1	11.7	15.5	切目石鍤
305	-	V1層	石鍤	頁岩	29.4	40.8	13.1	21.1	切目石鍤
306	-	V1層	石鍤	頁岩	36.8	26.5	8.5	12.6	切目石鍤
307	-	V1層	石鍤	砂岩	37.2	52.1	13.7	39.6	切目石鍤
308	-	V1層	石鍤	砂岩	30.7	54.1	10.9	28.5	切目石鍤
309	-	V1層	石鍤	粘板岩	38.7	52.5	13.8	39.7	切目石鍤
310	-	V1層	石盤	安山岩	300.0	352.0	105.0	13500.0	-

第3章

第11節 山中遺跡 11・12区



第 11 節 山中遺 11・12 区の調査

1 山中遺跡 11・12 区の概要

山中遺跡 11 区・12 区（以下 11 区・12 区）は、平成 19 年度に発掘調査を実施した。11 区は 5 m × 68 m の調査区を設定し、一部東側に調査区を拡張した。12 区は 11 区の東側隣接地に 5 m × 20 ~ 30 m の調査区を 4箇所設定し調査を行った。調査の結果、遺構および遺物の拡がりが認められなかつたため、調査区の拡張は行わず調査を終了した。

11・12 区からは、縄文時代中期後葉の春日式、後期初頭の岩崎式、後期前葉の市来式、後期中葉の西平式などが出土したほか、縄文時代晚期の黒川式の浅鉢が出土している。今回の山中遺跡の発掘調査を通じて、縄文時代晚期の遺物はほとんど出土していないが、黒川式の浅鉢の出土により 11・12 区の周辺に、晚期の遺構が存在する可能性も考えられる。また、11・12 区では、他の調査区に比べ、現地表面から基本土層 IX 層（アカホヤ火山灰層）までが深く、現況ではうかがい知ることの出来ない、谷状に落ち込む旧地形を確認することが出来た。

2 出土遺物

縄文時代中期～晚期の土器（図 186・図 187）

1・2 は口縁部を幅狭く肥厚させもので、1 は貝刺突を鋸歯状に施し、2 はヘラ状工具もしくは二枚貝腹縁を用いて文様を施すもの。

6・7・10 は凹線で施文するもので、縄文時代後期初頭の岩崎式段階と考えられるが、7 に関しては胎土や文様構成は岩崎式のものとは異なっており、検討を要するものである。

8・9 は口縁部や凹線間に貝刺突を施すものである。

14 は斜方向に文様を展開させる指宿式の胴部で、入組文が観察される。

17・18 は口縁部を幅広く肥厚させ、貝刺突などを用いるもの。

21 は縄文時代晚期黒川式の浅鉢で、口縁部外面には沈線を 1 条施文し、内面にも段状となるが沈線を 1 条施文する。胴部には焼成後によるものと思われる穿孔を持つ。

23～26 は無文土器で、23 は口唇部に細かい刻みを持つ。

27～29 は底部で、28・29 は上げ底になる。

30～32 は土製円盤で、32 は側面全面に磨滅痕が認められる。

打製石器（図 187）

33～36 は石鎚で、33 は西北九州産黒曜岩製で基部の抉り深い凹基、34～36 は正三角形で基部は抉りの浅い微凹基となる。

37 はチャート製の削器で、縁辺に調整剥離を加工する。

38・39 はホルンフェルス製の磨製石斧で、いずれも刃部を欠損する。

40・41 は磨石で、41 には敲打痕が認められ敲石としても利用されたものと考えられる。

42 は多孔質安山岩を用いた敲石。

43～45 は切目石錐である。

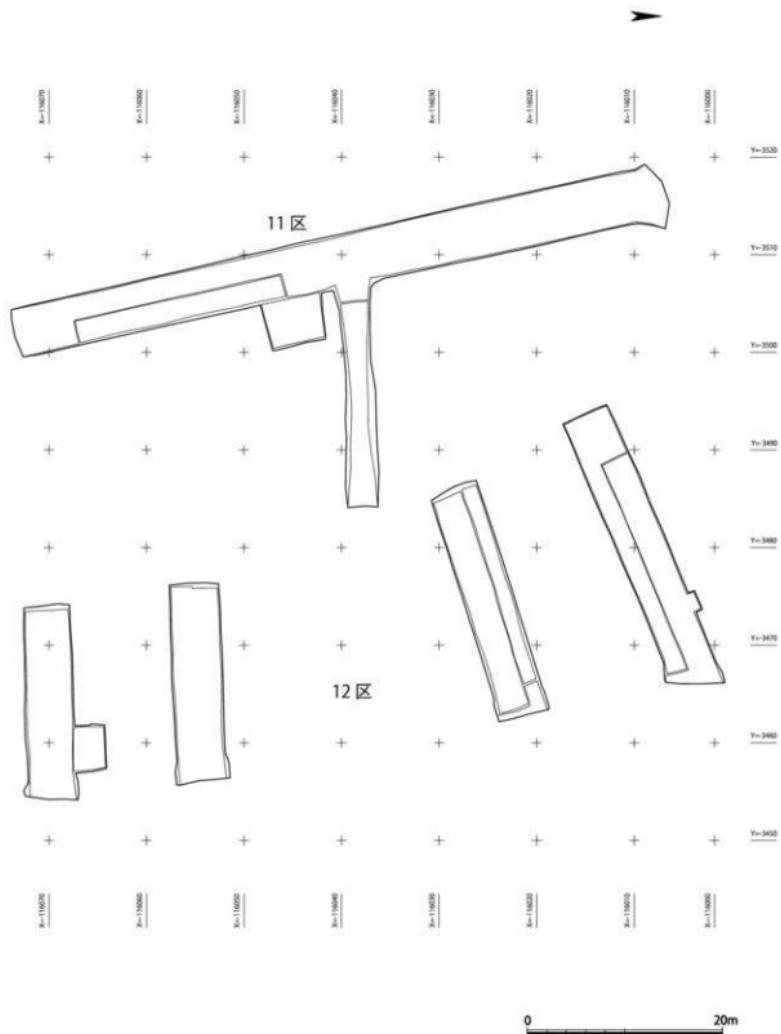


図 185 山中通路 11・12 区の調査区配置図 (1/500)

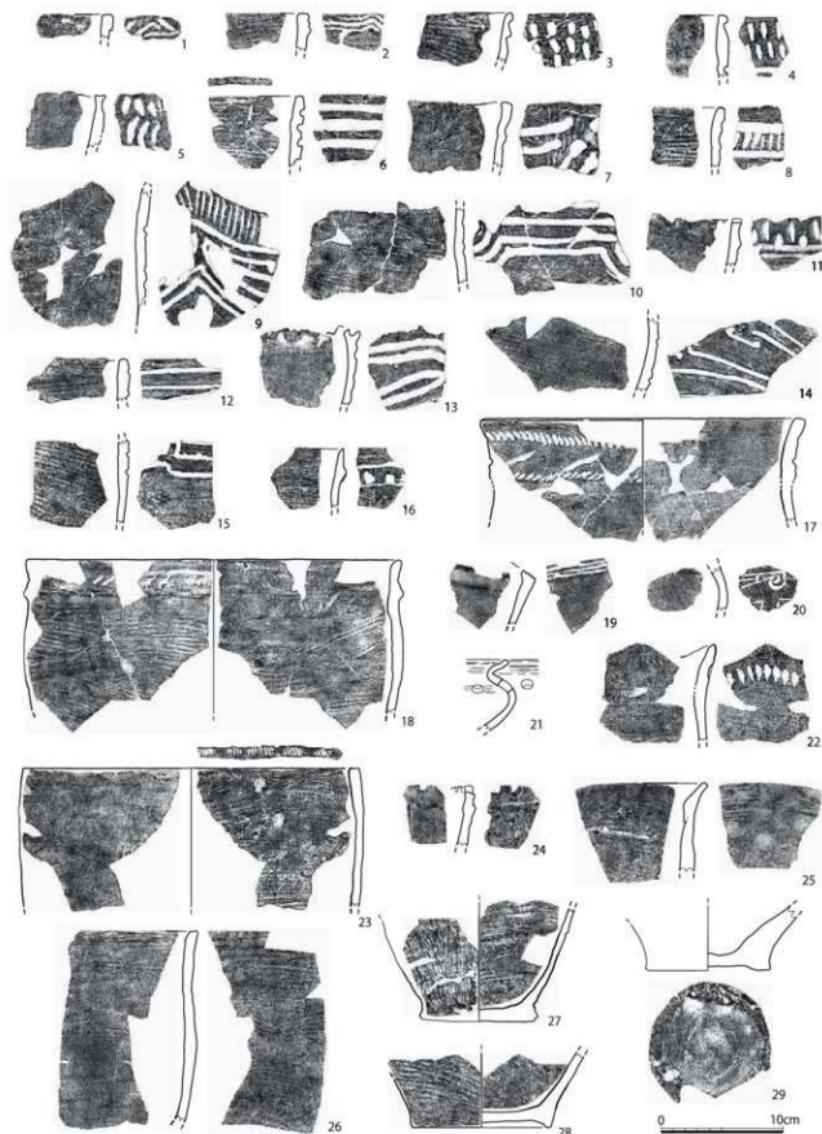


図 186 11・12 区遺構外出土遺物 1 (1/4)

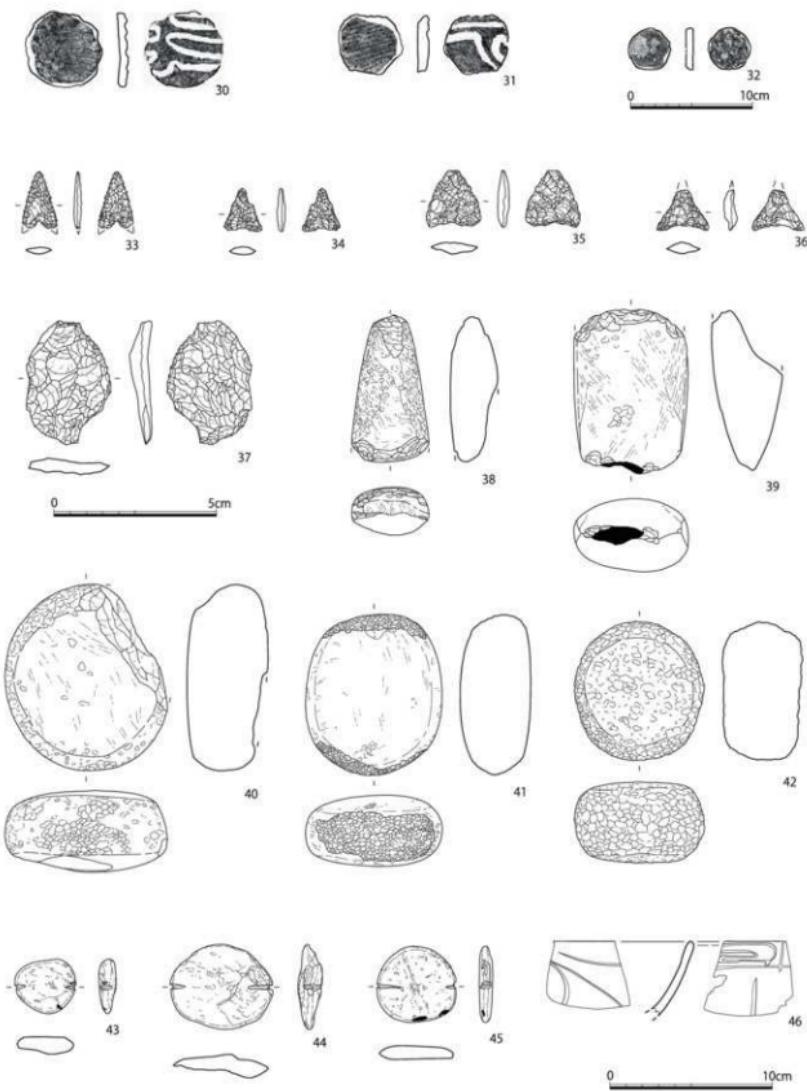


図 187 11・12区遺構外出土遺物2 (30～32:1/4 33～37:2/3 その他:1/3)

中世の遺物（図 187）

46 は青磁碗で、外面口縁部に雷文帯を有し、雷文帯下および内面にも文様を施文する。

表 10 11・12区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法(cm)			調整	色調	備考
			口径	底径	高さ			
1	11区	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貝網突 内:ナード	外:SVR4/4に黒、赤褐 内:2.5VR4/赤褐色	-
2	11区 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→赤線 内:ナード	外:SVR4/3に黒、赤褐 内:SVR6/6幅	-
3	12区 4T	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹点 内:貝網→ナード	外:SVR3/暗赤褐色 内:7.5VR5/4に黒、褐色	-
4	12区	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→斜突・沈線 内:ナード	外:10VR7/4に黒、黄褐色 内:10VR8/3に黒、黄褐色	-
5	11区 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹線 内:ナード	外:7.5VR5/4に黒、褐色 内:7.5VR5/4に黒、褐色	-
6	11区 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹線 内:貝網→ナード	外:7.5VR4/3に黒、褐色 内:10VR6/2暗褐色	-
7	11区 VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹線 内:ナード	外:7.5VR2/3暗褐色 内:7.5VR3/暗褐色	-
8	11区 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹線→貝網突 内:貝網→ナード	外:SVR4/3に黒、赤褐色 内:SVR5/6幅赤褐色	-
9	11区 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹線 内:ナード	外:7.5VR5/4に黒、褐色 内:7.5VR6/4浅黃褐色	-
10	11区 VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹線 内:貝網→ナード	外:SVR7/6幅 内:7.5VR7/6幅	-
11	12区 4T	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹線→凹点 内:ナード	外:SVR5/4に黒、赤褐色 内:SVR5/6幅赤褐色	-
12	12区 4T	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→赤線 内:貝網→ナード	外:10VR6/4に黒、黄褐色 内:10VR3/2暗褐色	-
13	11区 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→凹線 内:ナード	外:SVR7/6幅 内:10VR3/2暗褐色	-
14	11区 IV層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→赤線 内:ナード	外:SVR4/3暗褐色 内:SVR4/4に黒、赤褐色	-
15	12区 4T	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→赤線 内:貝網	外:7.5VR7/4に黒、褐色 内:10VR7/3に黒、黄褐色	-
16	11区	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→斜突 内:貝網	外:SVR4/6幅褐色 内:SVR3/2暗褐色	-
17	11区 IV層	圓文土器 深鉢	(26.0)	-	-	外:ナード→斜突 内:ナード	外:SVR3/暗赤褐色 内:7.5VR5/4に黒、褐色	-
18	11区 IV層	圓文土器 深鉢	(30.0)	-	-	外:貝網→ナード→貝網突 内:ナード	外:7.5VR5/4の明褐色 内:10VR5/4に黒、黄褐色	-
19	11区 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード	外:7.5VR6/6幅 内:7.5VR6/4に黒、褐色	-
20	12区	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:圓文→沈線→斜突 内:ナード	外:7.5VR6/3暗褐色 内:7.5VR6/1黒褐色	-
21	12区	圓文土器 浅鉢	-	-	-	外:ナード→沈線 内:ナード→沈線	外:2.5VR4/1黒褐色 内:5/2/1黒	-
22	11区	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード→貝網突 内:ナード	外:2.5VR3/2暗褐色 内:5VR5/8幅赤褐色	-
23	11区 IV層	圓文土器 深鉢	(27.7)	-	-	外:ナード 内:ナード	外:10VR5/4に黒、黄褐色 内:10VR5/4に黒、黄褐色	-
24	12区 4T	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード 内:ナード	外:SVR4/4に黒、赤褐色 内:SVR4/6幅褐色	-
25	12区 4T	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナード 内:ナード	外:SVR6/6幅 内:SVR5/4に黒、赤褐色	-
26	12区 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝網→ナード 内:貝網→ナード	外:2.5VR5/3明褐色 内:SVR5/4に黒、褐色	-
27	12区 T	圓文土器 深鉢	-	9.7	-	外:貝網→ナード 内:貝網→ナード	外:7.5VR5/4に黒、褐色 内:SVR3/暗赤褐色	-
28	11区 VI層	圓文土器 底鉢	-	11.4	-	外:貝網→ナード 内:ナード	外:10VR5/4に黒、黄褐色 内:SVR5/6幅赤褐色	-
29	12区 2T	圓文土器 底鉢	-	10.3	-	外:ナード 内:貝網→ナード	外:7.5VR6/6幅 内:SVR6/6幅	-
30	11区 IV層	土製品 土製円盤	盤 6.2	横 6.5	厚 0.7	外:ナード→赤線 内:ナード	外:SVR4/3に黒、赤褐色 内:2.5VR4/3に黒、赤褐色	重量 35.3g
31	11区 IV層	土製品 土製円盤	盤 4.8	横 5.3	厚 0.9	外:ナード→凹線 内:ナード	外:SVR6/6幅 内:SVR3/1黒褐色	重量 26.0g
32	11区 IV層	土製品 土製円盤	盤 3.4	横 3.5	厚 0.6	外:ナード 内:ナード	外:SVR5/4に黒、赤褐色 内:SVR4/3に黒、赤褐色	重量 9.5g, 開口酒漬瓶(全皿)
46	-	青磁 碗	-	-	-	-	外:N7/3白 内:5GY6/1オリガマ灰	-

山中遺跡 11・12 区の調査

表 10 11・12 区出土遺物観察表（石器）

報告番号	出土地区	層位	器種	石材	寸法 (mm)			重量 (g)	備考
					長さ	幅	厚さ		
33	12区	-	石器	黒曜岩 V	17.5	10.7	2.3	0.3	脚部欠損
34	11区	褐色土層	石器	黒曜岩 I a5+IV	13.2	11.6	2.5	0.3	-
35	12区	-	石器	黒曜岩 I a5+IV	17.5	16.7	3.6	1.0	-
36	12区	-	石器	黒曜岩 I a5+V	12.5	15.9	4.1	0.4	先端部欠損
37	12区	-	削器	チャート	38.0	25.9	6.9	5.2	-
38	12区	褐色土層～黑色土層 カ	磨製石斧	ホルシフエルス	90.5	47.5	29.0	159.0	刃部欠損
39	12区	-	磨製石斧	ホルシフエルス	101.1	70.4	45.0	392.3	上半部欠損・刃部欠損
40	12区	-	磨石	安山岩	114.7	99.9	50.2	820.9	一部欠損
41	11区	IV層	磨石・敲石	砂岩	99.1	83.9	43.8	552.9	-
42	11区	VI層	敲石	安山岩	85.5	80.0	49.8	419.7	-
43	11区	VI層	石錐	頁岩	37.4	33.5	10.7	16.7	切目石錐
44	11区	VI層	石錐	粘板岩	52.3	63.3	15.1	42.1	切目石錐
45	12区	VI層	石錐	粘板岩	46.8	48.6	8.5	29.7	切目石錐

第3章

第12節 山中遺跡13区



第 12 節 山中遺跡 13 区の調査

1 山中遺跡 13 区の概要

山中遺跡 13 区（以下 13 区）は、平成 19 年度に発掘調査を実施し、同時に調査を行っていた 11・12 区の南側隣接地に位置する。調査では 3m × 52 ~ 58m の調査区を 3 本設定し、遺構ならびに遺物の拡がりによって、調査区を拡張した。土層の堆積は、山中遺跡群周辺の標準的な堆積状況を示しており、基本土層 VI 層（黒色土層）からは縄文時代中期後葉から後期前葉までの遺物が出土した。遺構は調査区南西部分を中心に小穴を多数検出し、整理作業時に配列の検討を行ったが、掘立柱建物等の建物遺構を認定することは出来なかった。

遺物は縄文時代中期の春日式、中期後葉の中尾田Ⅲ類・大平式、後期初頭の岩崎式・阿高式・南福寺式、近世の陶器類が出土した。

2 遺構外出土遺物

縄文時代前期～後期の土器（図 189 ~ 192）

1 ~ 4 は沈線や刺突で内外面に文様を施す曾畠式。

5 ~ 18 は肥厚させた口縁部に貝刺突などを施す一群である。5・6 はヘラ状工具で鋸歯文を施すもので、5 については放射線炭素年代測定の結果、 4210 ± 40 年 BP (1 σ の曆年代で BC2890 ~ 2860, 2800 ~ 2760 年) の年代値が得られている。8 は肥厚する口縁部に横長の刺突を施す。10 ~ 12・14 は斜方向の貝刺突を行う。15 ~ 17 は貝刺突を横方向に展開する。17 はほぼ完形の深鉢で、口唇部の 3 ないし 4箇所に刻みを持つ。18 は胴部にも貝刺突と 3 本単位の文様を施す。

19・20 は貝刺突を伴う隆帯を貼り付け施す。

21 ~ 26 は凹線・沈線間に刺突や貝刺突などを充填するもので、21 は凹線施文後に、凹線間に貝刺突を施す。22 は浅い凹線を施文後に、凹線間に貝刺突を施す。欠損のため判然としないが、横方向に展開する凹線は部分的に V 字状のアクセントを持つようである。

23・27 ~ 32 は二叉状の工具で施すもので、23 は浅い凹線間に押引を充填し、口唇部には貝刺突を施す。27・28 は 2 単位の押引状の刺突を展開する。29 は内面口縁端部を張り出し気味に形成し、口縁部には竹管状の工具で浅い沈線を施す。32 は口縁部を幅広く肥厚させるもので、口縁端部付近に沈線を 1 条廻らせ、その下には 2 本単位の沈線で文様を展開する。

33 は口縁部を幅広く肥厚させるもので、肥厚部に三角形状の渦巻文を描出す。間隔を置いて逆三角形状の渦巻文を描出す可能性がある。胎土は長石を若干多く含むものの、大半の土器との差はない。

34 は幅広の口縁部文様帶に、三角形を組み合わせた文様構成をもつもので、口唇部には斜方向の刻みを持つ。34 は放射線炭素年代測定の結果、 3980 ± 40 年 BP (1 σ の曆年代で BC2560 ~ 2520, 2500 ~ 2470 年) の年代値が得られている。

35 は口縁部に扁平な突起を付け、口縁部には凹線で鋸歯状の文様を施す。

36・37 は肥厚する口縁部に沈線で鋸歯状の文様を施す。

38・39 は押引により文様を施すもので、38 の文様帶下端は段を形成することなく、肥厚気味に緩やかに屈曲させる。

40 ~ 47 は磨消縄文土器である。40・41 は同一個体で、沈線間に縄文を充填させる磨消縄文土器である。文様は上半が欠損しており不明瞭なもの、紡錘状に近い文様となる可能性がある。縄文部と無文部の幅は均等で、文様帶下端は蛇行する沈線で描出される。42 は 40・41 の底部と考えられる。43 は口縁端部に縄文帯を設けるもので、縄文の燃りは細かい。



図 188 山中遺跡 13 区の遺構配置図 (1/300)

48 ~ 57 は凹線もしくは沈線で施文するもの。

58 は口縁部に凹点・凹線を施文する南福寺式の深鉢。

60 ~ 65 は凹線間に貝刺突や刺突を行うもの。66 は口縁部の貝刺突を交差させる。

70 は指宿式段階の深鉢で、口縁部付近に 1 条の沈線を廻らせ、胴部には 2 本単位の沈線で上下の文様帶端を区画し、口縁部の垂下隆帯からは縱位の沈線が派生する。この縱位沈線間を結ぶように 3 本単位の沈線を横方向に蛇行させる。

71 は内外面にミガキ調整が認められる三万田式。

74 ~ 86 は無文土器、88・89 は底部である。

打製石器（図 193・194）

90 ~ 97 は石鎚で、90 ~ 94 は二等辺三角形の石鎚である。90 ~ 92 は抉りの比較的深い凹基、93・94 は抉りの浅い微凹基である。95 ~ 97 は正三角形の石鎚である。

98 は両面調整で形成するもので、石錐となる可能性がある。

99 ~ 103 は石匙で、101 ~ 103 の抉りは浅い。

104 ~ 108 は削器で、108 は比較的大きめの疊の縁辺を調整加工し刃部を形成している。

109 は黒曜岩製の石核である。

磨製石器・礫石器（図 195・196）

110 ~ 114 は磨製石斧で、112 は欠損後に刃部および基部を敲石として利用したと考えられる敲打痕が観察される。114 は蛇紋岩製の磨製石斧である。

115 ~ 120 は磨石で、115 の側面には敲打痕が認められる。118・119 は両面に窪みを有し、凹石としても利用されている。

121 ~ 125 は石錘で、いずれも切目石錘である。

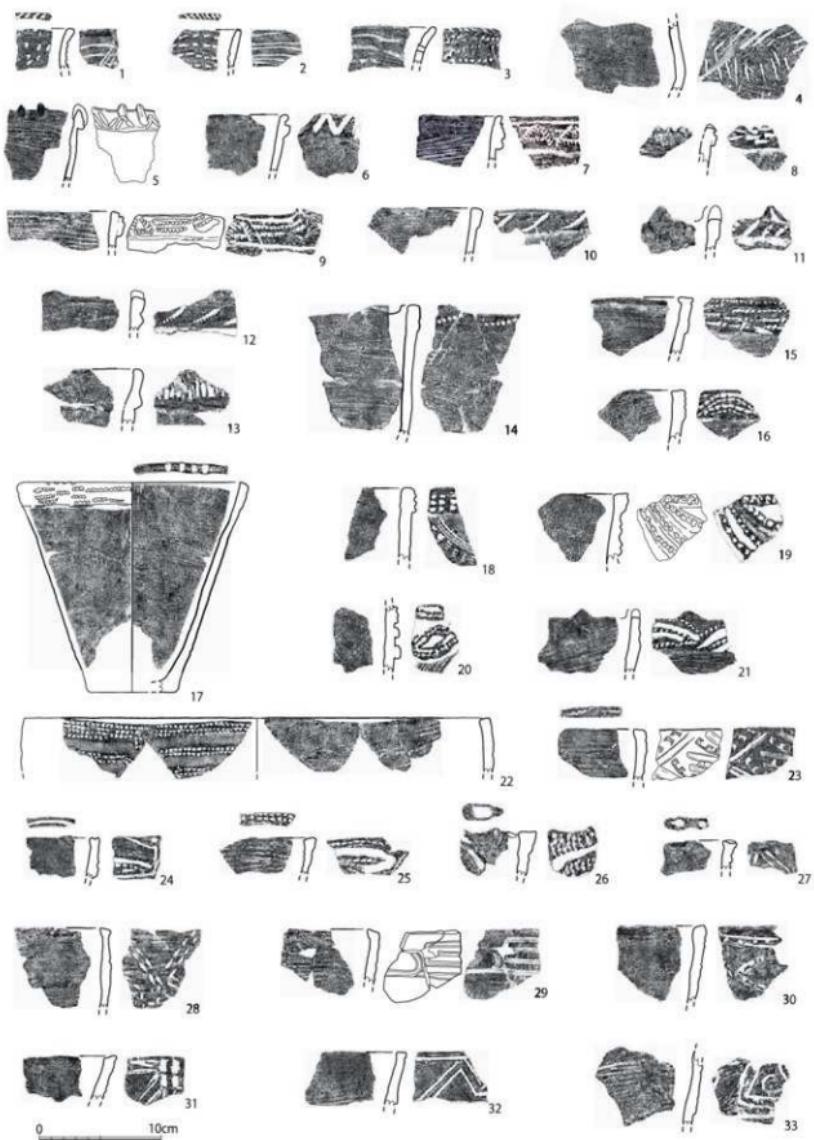


図 189 13 区遺構外出土遺物 1 (1/4)

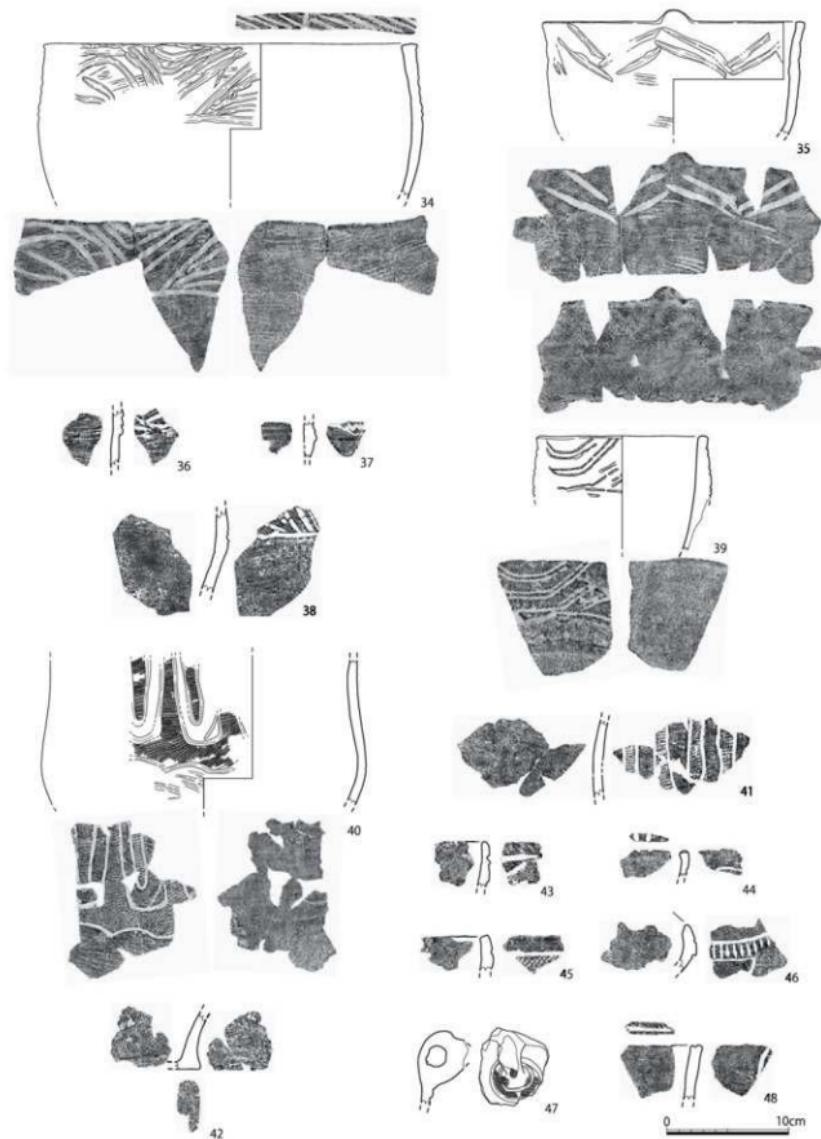


図 190 13 区遺構外出土遺物 2 (1/4)

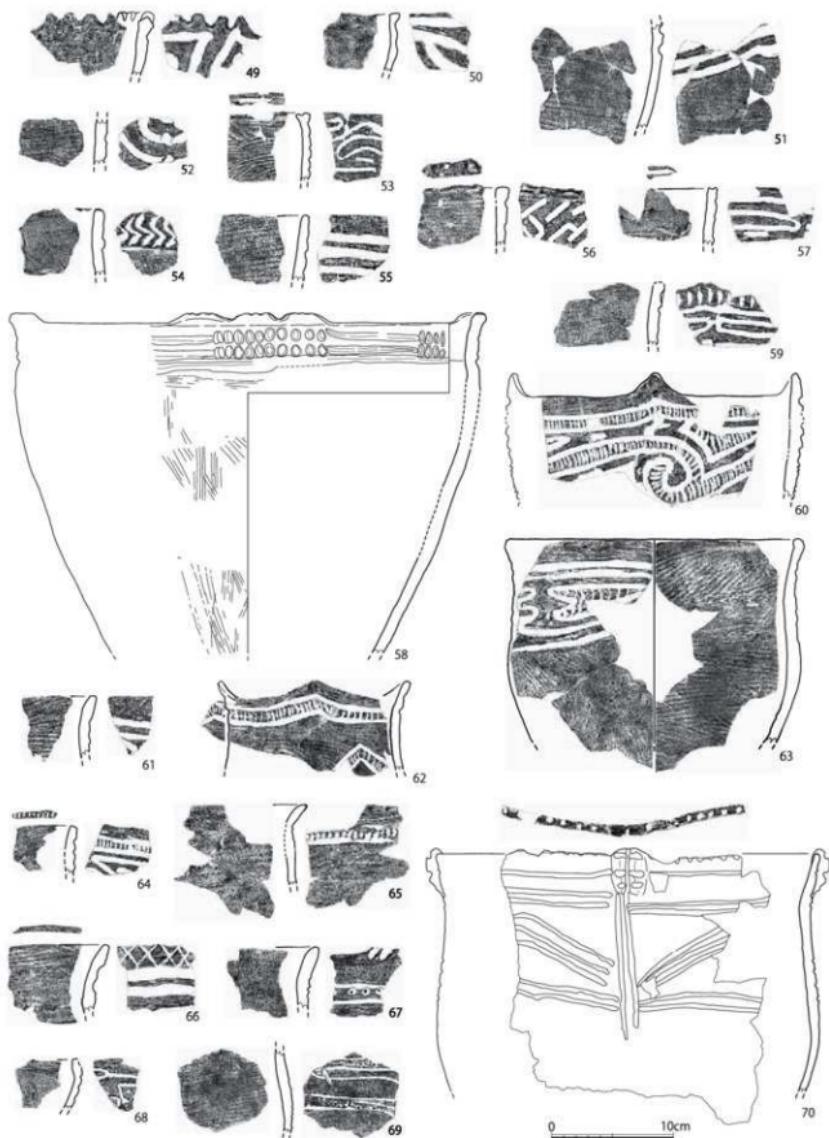


図191 13区遺構外出土遺物3 (1/4)

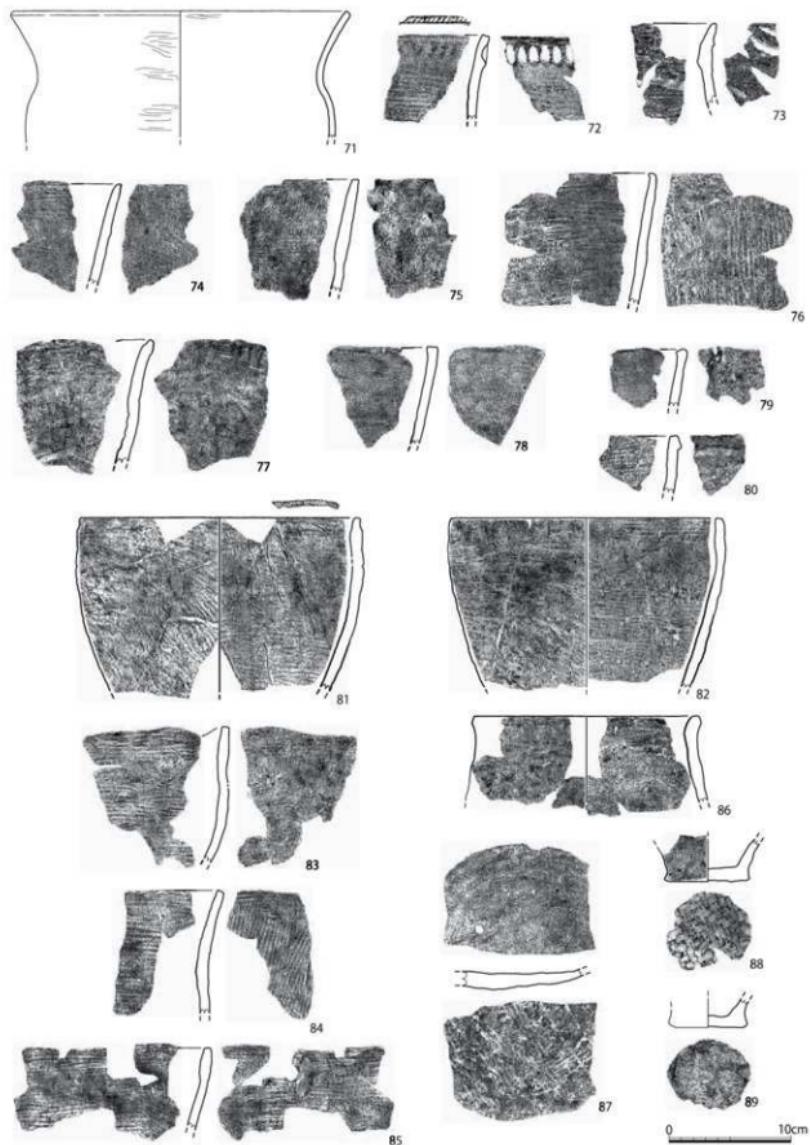


図 192 13 区遺構外出土遺物 4 (1/4)

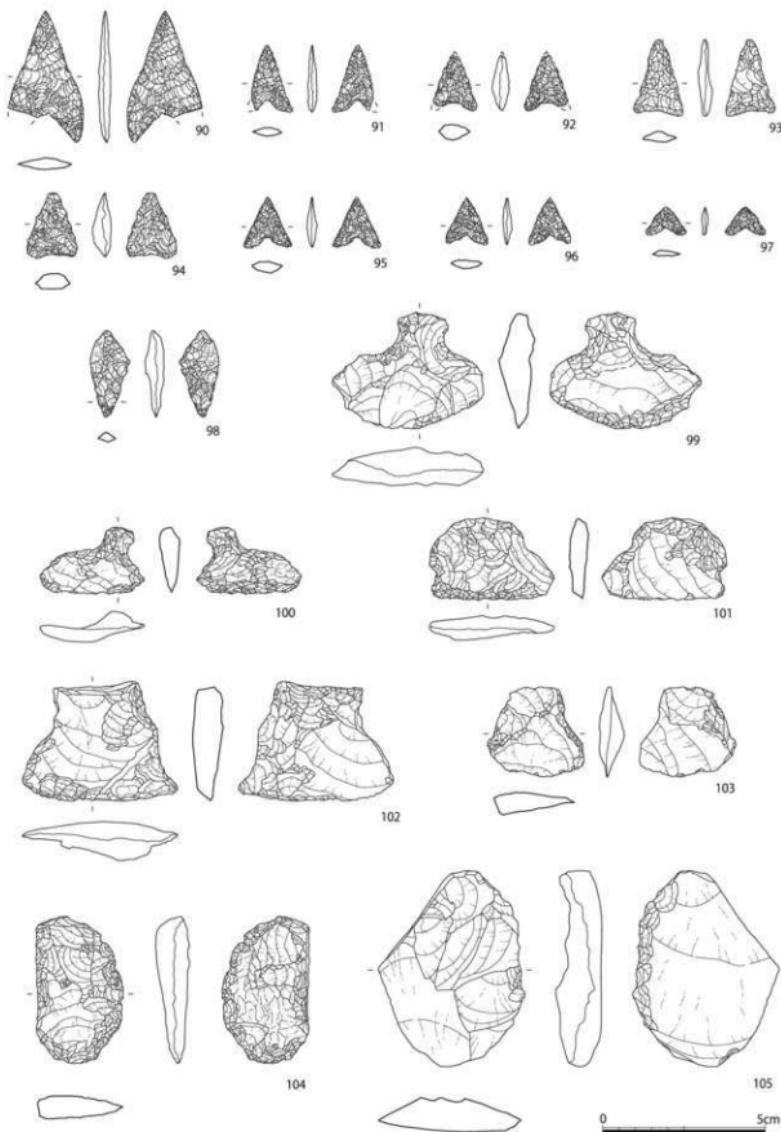
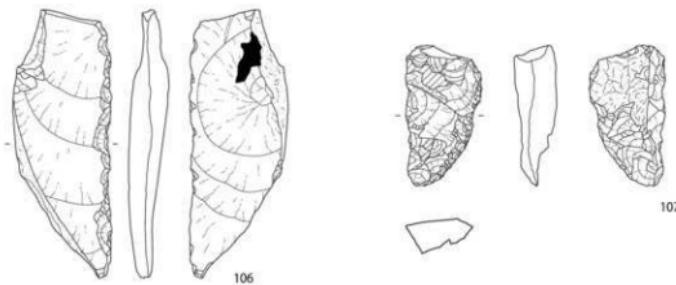
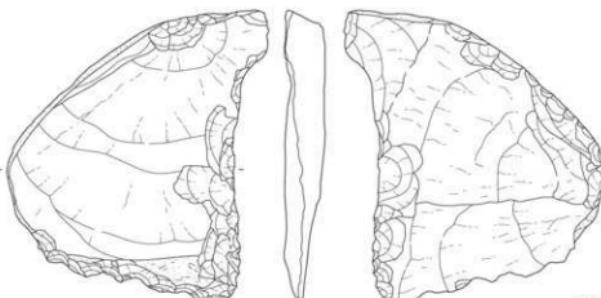


図 193 13 区遺構外出土遺物 5 (2/3)

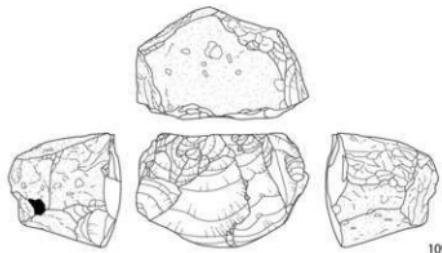


107

106



108



109

0 5cm

図 194 13 区遺構外出土遺物 6 (2/3)

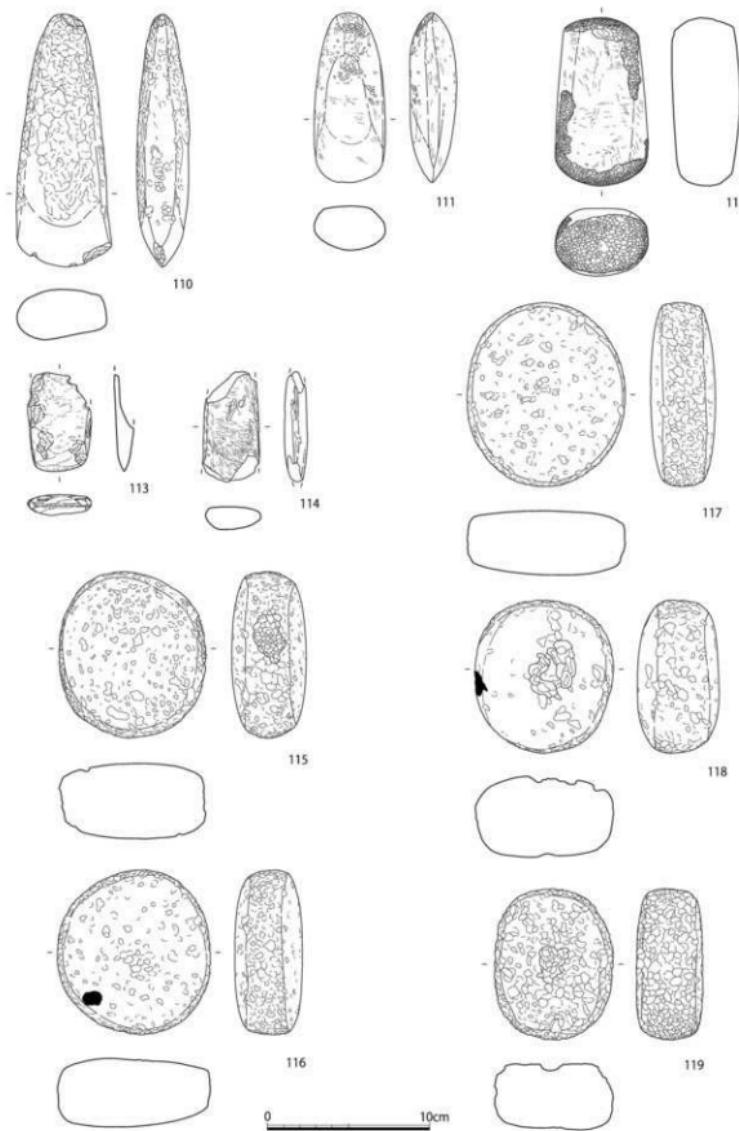


図195 13区遺構外出土遺物7 (1/3)

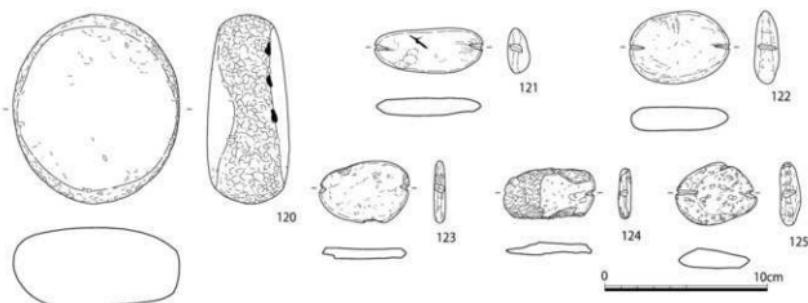


図 196 13 区遺構外出土遺物 8 (1/3)

表11 13区出土遺物觀察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法cm			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
1	南社 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガード・底縁 内:ナガード・脚突	外:10YR5/3に近い黄褐色 内:10YR5/3に近い黄褐色	-
2	南社 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガード・底縁 内:ナガード・脚突	外:2.5YR8/8褐 内:2.5YR8/6赤褐色	-
3	西社 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガード・脚突 内:ナガード・脚突	外:10YR8/4Cに近い黄褐色 内:10YR8/4Cに近い黄褐色	-
4	中T	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガード・底縁 内:ナガード	外:2.5Y6/4Cに近い黄 内:2.5Y7/4C黄	-
5	南T社 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガード・具刺突?	外:10YR2/2黒褐色 内:10YR2/3褐色	14C年代測定資料No.15 200900
6	西社	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガード・縫目 内:ナガード	外:2.5YR5/8明赤褐色 内:2.5YR2/2褐色赤褐色	-
7	西T社	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガード・貼付文→具刺突 内:具刺痕→ナガード	外:3YR4/1赤褐色 内:2.5YR5/6明赤褐色	-
8	-	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガード・脚突 内:ナガード	外:2.5YR8/6赤褐色 内:2.5YR8/4Cに近い黄褐色	-
9	-	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガード・具刺突 内:ナガード・ナガード	外:2.5YR8/4に近い相 内:2.5YR8/3褐	-
10	南社 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガード・具刺突 内:ナガード	外:2.5YR8/1黒褐色 内:2.5YR5/8明赤褐色	-
11	北社 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガード・具刺突 内:ナガード	外:2.5YR2/1黒褐色 内:10YR6/6暗褐色	-
12	中T	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガード・具刺突 内:ナガード	外:10YR2/2黒褐色 内:10YR2/1黒褐色	-
13	西社	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガード・底縁 内:ナガード	外:10YR6/6暗褐色 内:10YR5/4Cに近い黄褐色	-
14	南社 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガード・具刺突 内:ナガード	外:10YR3/3黒褐色 内:2.5YR4/3黒褐色	-
15	西社	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガード・具刺突 内:ナガード	外:2.5YR8/6明赤褐色 内:3YR4/2Cに近い赤褐色	-
16	-	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガード・押引 内:ナガード	外:10YR5/4Cに近い黄褐色 内:10YR5/4Cに近い黄褐色	-
17	南TP [*]	圓文土器 深鉢	(19.0)	-	17.0	外:ナガード・具刺突 内:具刺痕→ナガード	外:SYR3/2黒褐色 内:2.5YR2/2黒褐色	-
18	中~北T VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガード・底縁→具刺突 内:ナガード	外:10YR2/1黒 内:10YR5/4Cに近い黄褐色	-
19	南社 T	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガード・縫目→ナガード 内:ナガード	外:2.5YR2/2黒褐色 内:2.5YR4/3褐	-
20	南社 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガード・縫目→具刺突 内:ナガード	外:2.5YR4/6赤褐色 内:2.5YR5/8明赤褐色	-
21	南社 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガード・縫目→具刺突 内:ナガード・ナガード	外:2.5YR4/3褐 内:SYR5/6暗褐色	-
22	西社	圓文土器 深鉢	38.2	-	-	外:凹槽→具刺突 内:ナガード	外:SYR7/8暗褐色 内:SYR5/6暗褐色	-
23	南T VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガード・凹縫→押引 内:ナガード	外:SYR5/6暗褐色 内:SYR6/6暗褐色	-
24	北社 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガード・具刺突・底縫 内:ナガード	外:2.5YR4/4褐 内:2.5YR2/2黒褐色	-
25	南社 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:凹縫→具刺突 内:ナガード・ナガード	外:2.5YR5/6明赤褐色 内:SYR6/6暗褐色	-
26	-	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:凹縫→具刺突 内:ナガード	外:SYR5/6明赤褐色 内:SYR5/6明赤褐色	-
27	南T VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガード・脚突 内:ナガード	外:2.5YR5/6明赤褐色 内:SYR5/6明赤褐色	-
28	南T VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:日食痕→ナガード・脚突 内:ナガード	外:2.5YR5/8明赤褐色 内:SYR6/6暗褐色	-
29	中T	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガード・底縫 内:ナガード	外:2.5YR5/8明赤褐色 内:SYR5/6明赤褐色	-
30	-	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガード・底縫→脚突 内:ナガード	外:10YR4/3Cに近い黄褐色 内:10YR3/2黒褐色	-
31	-	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガード・底縫・脚突 内:ナガード	外:10YR2/1黒褐色 内:2.5YR5/4Cに近い相	-
32	中T	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガード・底縫 内:ナガード	外:SYR4/3Cに近い赤褐色 内:SYR5/6明赤褐色	-
33	北社 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガード・底縫 内:ナガード・ナガード	外:2.5YR2/2黒褐色 内:2.5YR4/3褐	-
34	南T VI層	圓文土器 深鉢	(30.6)	-	-	外:ナガード・凹縫 内:ナガード	外:2.5YR4/4褐 内:2.5YR5/4Cに近い相	14C年代測定資料No.8 200923
35	北社 VI層	圓文土器 深鉢	(21.5)	-	-	外:ナガード・凹縫 内:ナガード	外:2.5YR5/4Cに近い相 内:10YR4/3Cに近い黄褐色	-
36	北社 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条痕→ナガード・底縫 内:貝条痕→ナガード	外:SYR5/6明赤褐色 内:10YR4/2暗褐色	-
37	西社 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガード・底縫 内:ナガード	外:2.5YR2/2暗褐色 内:2.5YR5/6明赤褐色	-

表 11 13 区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法cm			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
38	西社	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲ→押引 内:ナゲ	外:7.5VR6/2/灰褐色 内:10YR1/1/赤褐色	-
39	中T	調文土器 深鉢	(14.0)	-	-	外:ナゲ→押引 内:ナゲ	外:10YR6/4/2-5の黄褐色 内:10YR1/1/赤褐色	-
40	南T VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:調文→沈縁→ナゲ 内:ナゲ	外:SVR4/6赤褐色 内:SVR4/6赤褐色	-
41	南T VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:沈縁→ナゲ・調文 内:ナゲ	外:2.5VR6/6明赤褐色 内:SVR5/6明赤褐色	-
42	南T VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲ 内:ナゲ	外:2.5VR6/6明赤褐色 内:7.5VR6/4/2-5の褐色	-
43	南T VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲ→沈縁→調文 内:ナゲ	外:2.5VR6/6明赤褐色 内:2.5VR6/8褐色	-
44	北社	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ニガキ→調文→沈縁 内:ニガキ	外:SVR5/6明赤褐色 内:2.5VR6/6明赤褐色	-
45	北社	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲ→沈縲 内:ナゲ	外:2.5VR6/6赤褐色 内:SVR4/6赤褐色	-
46	-	調文土器 深鉢	-	-	-	外:沈縲→ニガキ→調文 内:ニガキ	外:SVR6/6褐色 内:TVR6/6褐色	-
47	-	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲ→沈縲→調文 内:ナゲ	外:7.5VR6/6褐色 内:2.5VR6/4/2-5の褐色	棒状把手
48	北社 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲ→調文→沈縲 内:ナゲ	外:2.5VR6/3褐色 内:2.5VR6/3褐色	-
49	西社 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲ→凹縲 内:ナゲ	外:2.5VR6/6明赤褐色 内:SVR5/6明赤褐色	-
50	西社 VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲ→凹縲 内:ナゲ	外:2.5VR6/2/黒褐色 内:2.5VR6/3褐色	-
51	南T VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲ→凹縲 内:ナゲ	外:10YR7/6の黄褐色 内:10YR6/4/2-5の黄褐色	-
52	北社 VII層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲ→凹縲 内:貝条痕→ナゲ	外:2.5VR6/6褐色 内:SVR6/6褐色	-
53	中T	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲ→凹縲 内:貝条痕→ナゲ	外:SVR4/6/2-5の赤褐色 内:SVR6/6褐色	-
54	西社	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲ→凹縲 内:ナゲ	外:2.5VR6/6褐色 内:10YR6/6の黄褐色	-
55	北社 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲ→凹縲 内:貝条痕→ナゲ	外:10YR4/3/2-5の黄褐色 内:10YR2/3黒褐色	-
56	-	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲ→凹縲 内:ナゲ	外:2.5VR6/4/4の褐色 内:2.5VR6/6明赤褐色	-
57	西社	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲ→凹縲 内:ナゲ	外:SVR5/6明赤褐色 内:SVR5/4/2-5の赤褐色	-
58	中～北T VI層	調文土器 深鉢	(39.0)	-	-	外:ナゲ→凹縲→凹点 内:ナゲ	外:2.5VR6/1/灰褐色 内:2.5VR6/4/2-5の赤褐色	-
59	中T	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲ→沈縲・貝刺突 内:ナゲ	外:SVR6/2/暗赤褐色 内:SVR6/6褐色	-
60	西社 VI層	調文土器 深鉢	(23.4)	-	-	外:ナゲ→沈縲→貝刺突 内:ナゲ	外:SVR6/6褐色 内:SVR6/6褐色	-
61	北社 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲ→凹縲 内:貝条痕→ナゲ	外:2.5VR6/6褐色 内:10YR1/2/黒褐色	-
62	西社 VI層	調文土器 深鉢	(15.0)	-	-	外:貝条痕→ナゲ→凹縲→貝刺突 内:貝条痕→ナゲ	外:2.5VR6/2/黒褐色 内:2.5VR6/1/黒褐色	-
63	西社	調文土器 深鉢	(24.0)	-	-	外:ナゲ→凹縲→貝刺突 内:貝条痕	外:2.5VR6/2/黒褐色 内:SVR5/6明赤褐色	-
64	西社	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲ→凹縲→貝刺突 内:ナゲ	外:2.5VR6/2/黒褐色 内:2.5VR6/6褐色	-
65	西社 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲ→沈縲→貝刺突 内:ナゲ	外:2.5VR6/2/灰褐色 内:2.5VR6/6明赤褐色	-
66	西社	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲ→凹縲→貝刺突 内:貝条痕→ナゲ	外:2.5VR6/4/2-5の褐色 内:10YR6/6の黄褐色	-
67	西社	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲ→沈縲→貝刺突 内:ナゲ	外:10YR4/2/2の黄褐色 内:10YR6/4/2-5の黄褐色	-
68	北社 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲ→沈縲 内:ナゲ	外:SVR4/4/2-5の赤褐色 内:2.5VR2/2黒褐色	-
69	-	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲ→沈縲・貝刺突 内:貝条痕→ナゲ	外:10YR6/6の黄褐色 内:10YR4/3/2-5の黄褐色	-
70	西社 VI層	調文土器 深鉢	(31.0)	-	-	外:ナゲ→沈縲 内:ナゲ	外:2.5VR6/3褐色 内:10YR6/3/2-5の黄褐色	-
71	南T VI層	調文土器 深鉢	27.8	-	-	外:ニガキ 内:ニガキ	外:SVR4/3/2-5の赤褐色 内:SVR5/4/2-5の赤褐色	-
72	西社	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条痕→ナゲ→凹点 内:貝条痕→ナゲ	外:10YR6/4/2-5の黄褐色 内:2.5VR6/4/2-5の褐色	口唇部にキズ
73	北社 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条痕→ナゲ 内:貝条痕	外:SVR6/2/灰褐色 内:2.5VR6/2/灰褐色	-
74	西社	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条痕→ナゲ 内:貝条痕	外:2.5VR6/4/2-5の褐色 内:2.5VR5/6明赤褐色	-

表11 13区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法(cm)			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
75	-	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ 内:貝条板→ナデ	外:7.5VR3/2黒褐色 内:SYR5/42-53-6青褐色	-
76	西社	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ 内:貝条板→ナデ	外:2.5VR3/6明赤褐色 内:SYR6/6褐色	-
77	西社	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5VR2/2黒褐色 内:7.5VR2	-
78	-	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5VR2/2黒褐色 内:7.5VR3/4暗褐色	-
79	西社	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→輪目縦帶 内:ナデ	外:2.5VR2/1黒 内:2.5VR3/1黒褐色	-
80	-	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:2.5VR3/8明赤褐色 内:2.5VR6/8褐色	-
81	西社	圓文土器 深鉢	(23.0)	-	-	外:貝条板→ナデ 内:貝条板→ナデ	外:7.5VR4/4黒 内:7.5VR3/2黒褐色	-
82	北社 VI層	圓文土器 深鉢	(22.2)	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10VR7/4C-53-5-黄褐色 内:10VR6/4C-53-5-黄褐色	-
83	南社 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ 内:貝条板→ナデ	外:10VR4/1黒褐色 内:10VR3/1黒褐色	-
84	中T	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板 内:貝条板	外:10VR5/3C-53-5-黄褐色 内:10VR5/3C-53-5-黄褐色	外面口縁部分のみナデ
85	北社 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝条板 内:貝条板	外:SYR4/2黒褐色 内:SYR7/4褐色	-
86	西社	圓文土器 深鉢	(18.4)	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:2.5VR3/6明赤褐色 内:2.5VR2/3暗赤褐色	-
87	-	圓文土器 底部	-	-	-	外:組織板 内:ナデ	外:7.5VR2/8黄褐色 内:7.5VR2/6浅黄褐色	-
88	北社 VI層	圓文土器 底部	-	6.9	-	外:ナデ 内:ナデ	外:2.5VR6/8褐色 内:2.5VR5/8明赤褐色	調代底
89	南社 VI層	圓文土器 底部	-	6.4	-	外:ナデ 内:ナデ	外:2.5VR6/8褐色 内:SYR4/6赤褐色	-

表 11 13 区出土遺物観察表 (石器)

報告番号	出土地区	層位	器種	石材	寸法 (mm)			重量 (g)	備考
					長さ	幅	厚さ		
99	-	-	石鏃	黒曜岩IV	40.3	23.1	3.6	2.3	脚部欠損
91	-	-	石鏃	黒曜岩Ia?	20.6	12.6	2.8	0.5	脚部欠損
92	西社	-	石鏃	黒曜岩II	17.0	13.5	5.3	0.8	先端部・脚部欠損
93	西社	-	石鏃	黒曜岩VI	23.5	15.3	4.3	0.9	-
94	南TE	VI層	石鏃	加羅岩Ic	30.1	15.5	5.7	1.4	-
95	南TE	VI層	石鏃	加羅岩Ic	15.6	14.7	3.2	0.3	-
96	南TE	VI層	石鏃	加羅岩Ia	14.5	12.8	2.6	0.3	-
97	南TE	VI層	石鏃	加羅岩Ia	8.5	12.4	1.9	0.1	-
98	南社	VI層	石鏃	加羅岩Ic	26.6	12.9	5.8	1.2	-
99	南T	VI層	石鏃	チヤート	35.7	46.5	11.7	14.9	-
100	-	-	石鏃	チヤート	20.4	32.1	9.5	3.1	-
101	南T	VI層	石鏃	チヤート	25.3	38.3	7.6	7.4	-
102	北社	VI層	石器・削器	チヤート	36.5	47.5	12.9	17.3	-
103	南T	VI層	石器・削器	チヤート	27.7	29.7	7.6	4.5	-
104	南社	-	削器	チヤート	45.1	26.8	10.4	12.9	-
105	南TE	VI層	削器	チヤート	60.1	45.0	14.1	34.0	-
106	南社	VI層	削器	頁岩	82.4	30.4	10.4	24.1	-
107	南社	-	削器	チヤート	43.1	23.3	13.1	11.4	-
108	南TP	-	削器	頁岩? ホルンフェルス?	89.3	80.5	12.7	91.6	-
109	南T	VI層	石核	黒曜岩Ic+IV	35.1	53.1	34.6	72.8	-
110	-	-	磨製石斧	ホルンフェルス	155.2	58.4	32.3	394.6	-
111	西社	-	磨製石斧	頁岩	104.2	44.0	29.9	200.5	-
112	北社	VI層	磨製石斧	綠色岩	103.4	57.2	41.5	453.3	範打痕有
113	-	-	磨製石斧	ホルンフェルス	60.8	39.1	12.7	26.7	-
114	北～中T社	VI層	磨製石斧	蛇紋岩	67.9	35.1	14.1	48.2	基部・刃部欠損
115	西社	-	磨石	多孔質安山岩	102.3	90.5	45.8	568.2	-
116	北～中T社	VI層	磨石	安山岩	101.2	94.2	41.6	551.1	-
117	南T	VI層	磨石	多孔質安山岩	113.0	97.3	39.8	590.7	-
118	中T	-	磨石・圓石	安山岩	94.1	85.5	50.3	575.2	両面に凹み有
119	南T	VI層	磨石・圓石	安山岩	93.1	73.0	40.9	349.3	両面に凹み有
120	南T	-	磨石	砂岩	116.3	102.3	50.6	897.1	-
121	-	-	石鏃	頁岩	67.1	28.0	13.5	33.4	切目石鏃
122	南社	VI層	石鏃	砂岩	44.7	61.3	15.2	60.3	切目石鏃
123	西社	-	石鏃	砂岩	38.1	55.2	6.9	20.6	切目石鏃・被熱痕有
124	-	-	石鏃	粘板岩	31.2	56.1	8.0	18.5	切目石鏃
125	中T	-	石鏃	多孔質安山岩	38.8	50.0	12.8	13.2	切目石鏃

第3章

第13節 山中遺跡14区



第 13 節 山中遺跡 14 区の調査

1 山中遺跡 14 区調査の概要

山中遺跡 14 区（以下 14 区）は、平成 19 年度に発掘調査を実施し、同時期に調査を行っていた 15 区の西側隣接地に位置する。遺構検出は基本土層 IX 層（アカホヤ火山灰層）上面で行ったが、遺構を確認することはできなかった。調査区南東部分の基本土層 VI 層（黒色土層）より欠損の少ない磨製石斧が、整然と並ぶように 3 本出土した。掘り込みは確認されていないが、廃棄とは考えがたく埋納遺構の可能性もある。

遺物は基本土層 VI 層（黒色土層）から縄文時代後期中葉の土器や石器が多量に出土した。

2 出土遺物

縄文時代後期初頭～中葉の土器（図 198～205）

1・2 は四線で文様を施文する縄文時代後期初頭の岩崎式で、1 の口唇部には細かな刻みを有する。

3 は沈線により文様を施文するもの。

4・5・7 は口縁部を肥厚させ沈線や貝刺突などを行う。

6 は沈線と縄文で施文する。

8・9 には橋状把手が付き、9 は内面にも刺突が観察される。

10～27 は肥厚する口縁部に貝刺突や縄文・刺突などをを行うものである。10 は口縁部を肥厚させ、口縁部下端と口唇部に縄文を施文する。緩やかに波状する口縁部には W 字状の貼付と橋状把手の痕跡が認められる。11 は肥厚する口縁部下端に刻みを施し、波頂部には縱方向の組線状の貼付文が観察される。12 は口縁部に瘤状の貼付けを行い、外面上には貝刺突を施文する。16 は肥厚する口縁部に 8 字状の貼付けを有する。26 は外反気味に立ち上がる口縁部で、口縁端部を肥厚させる。

28～31 は口縁部に綾杉状の文様を施文する。

32～44 は口縁部を内湾気味に形成する納曾式である。

45 は口縁部文様帯に縄文を廻らせる。

46～59 は口縁部を屈曲させ、口縁部や胴部に沈線・刺突を施文するもので、縄文が観察されるものもある。57 は屈曲する口縁部に弧状の文様を連続させ縄文を付す。胴部屈曲部には貝刺突を行い、胴部には圧縮気味の山形文を展開させる。57 は放射線炭素年代測定の結果、 3410 ± 40 年 BP (1σ の曆年代で BC1750～1670 年) の年代値が得られている。

60 は口縁部文様帯に刺突を廻らせる。

61～78 は口縁部形態が「く」の字になるもので、61 は貝刺突と沈線を施文するもの。62～78 は 2 列の貝刺突を、屈曲部を挟んで施文する。

79～90 は口縁部形態が外反するもので、1 列もしくは 2 列の貝刺突を行う。84 は胴部から口縁部へ緩やかに外反するもので、頸部に 2 列の貝刺突を施文する。84 は放射性炭素年代測定の結果、 3440 ± 40 年 BP (1σ の曆年代で BC1860～1850、1770～1690 年) の年代値が得られている。

91～98 は無文深鉢である。97 は胴部下半まで残存するもので、口径に比べて器高が長い。内外面ナデ調整である。

99～110 は台付皿形土器で、100～105・109・110 は浮文を貼り付けるもので、103・106 は縄文を施文する。

111・112 は土製円盤で、111 は全面に、112 は部分的に摩滅痕が観察される。

113 は台付皿形土器の底部で、弧状の文様を施文する。

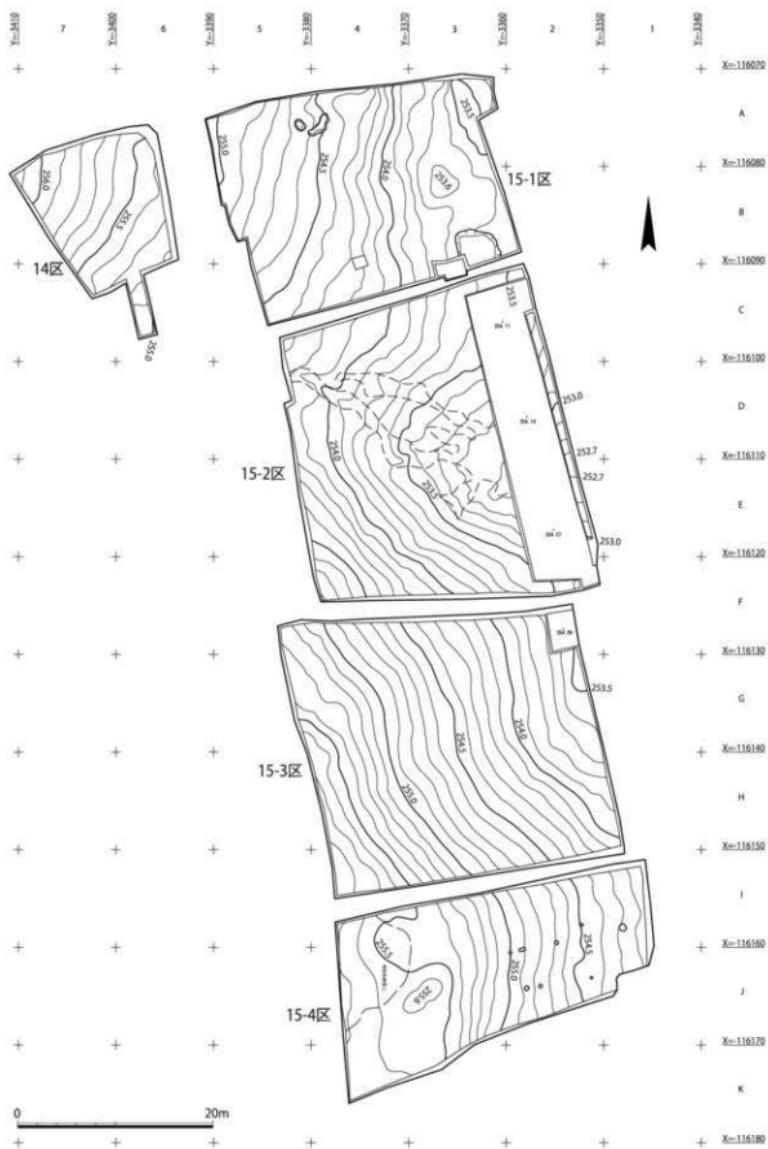


図197 山中通路14区の調査区配置図(1/500)

打製石器（図 205）

114 は先端部と基部の一部を欠損する石鎌。115 は縁辺に調整加工を行う削器である。

磨製石器（図 205）

116～118 はホルンフェルス製の磨製石斧で、刃部を僅かに欠損するがほぼ完存する。この 3 点は並ぶようにして出土した。

119 は石錘で、両端に抉りを入れる打欠石錘である。

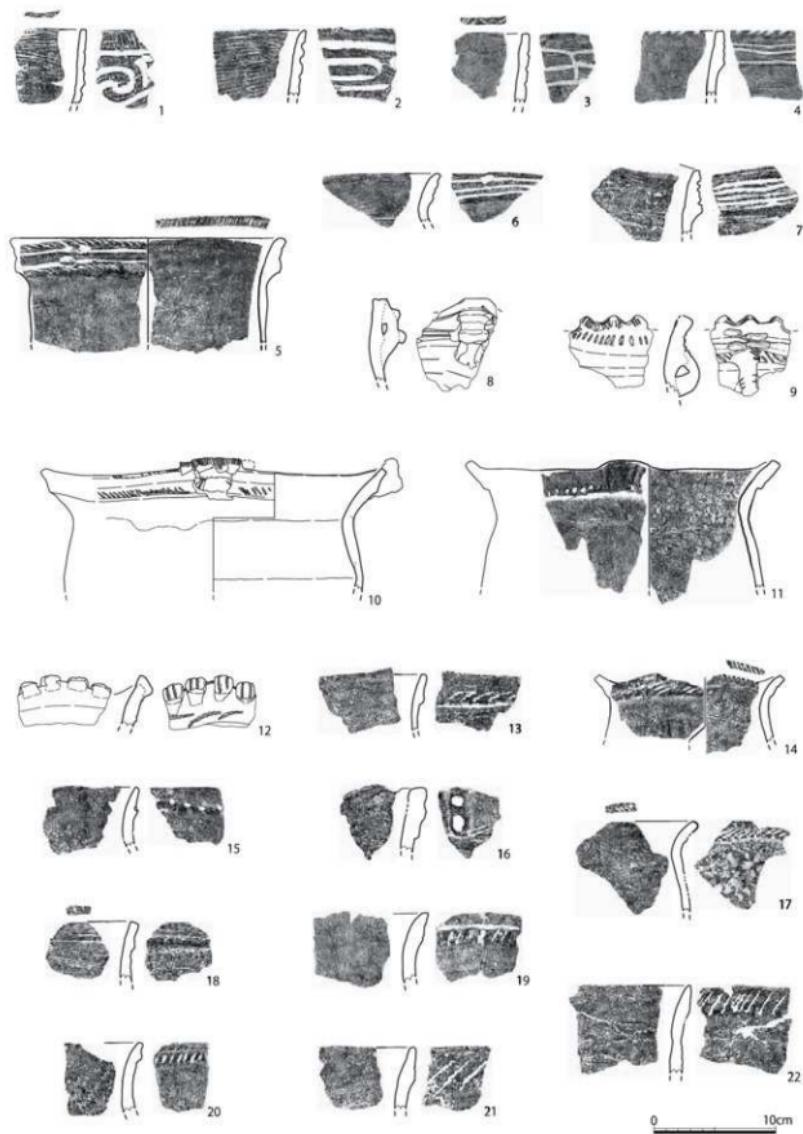


図 198 14 区遺構外出土遺物 1 (1/4)

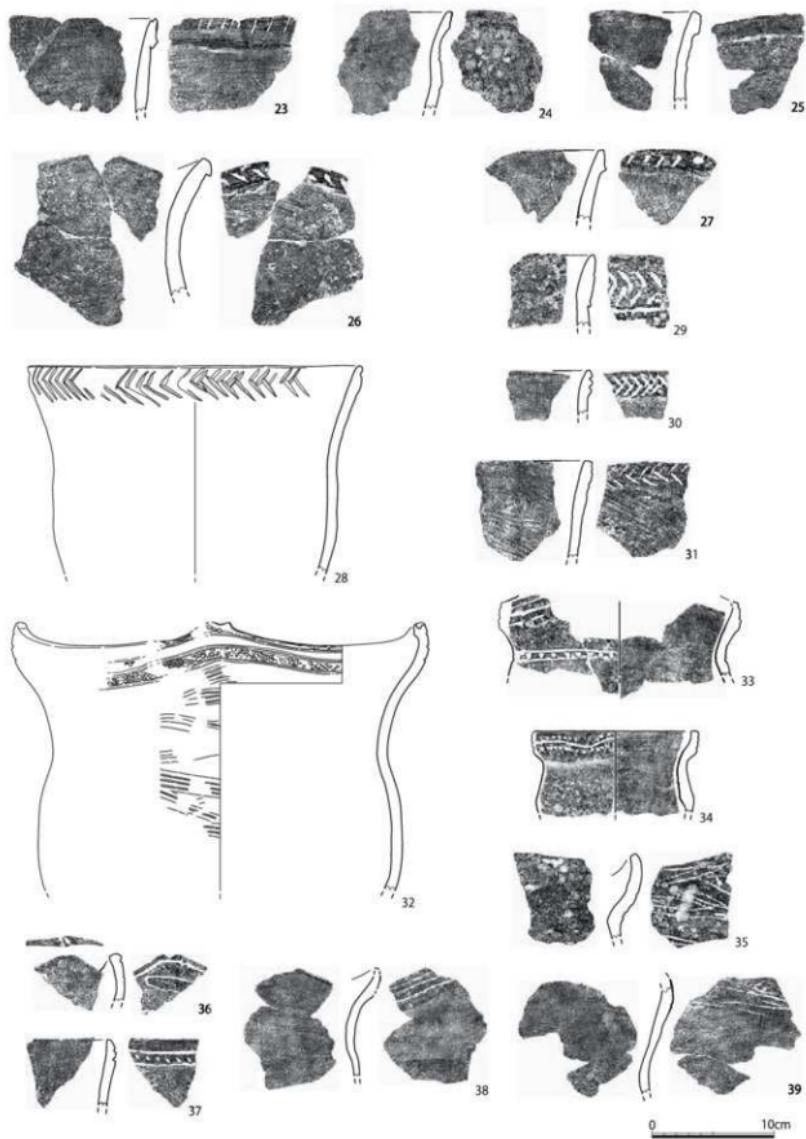


図 199 14 区遺構外出土物 2 (1/4)

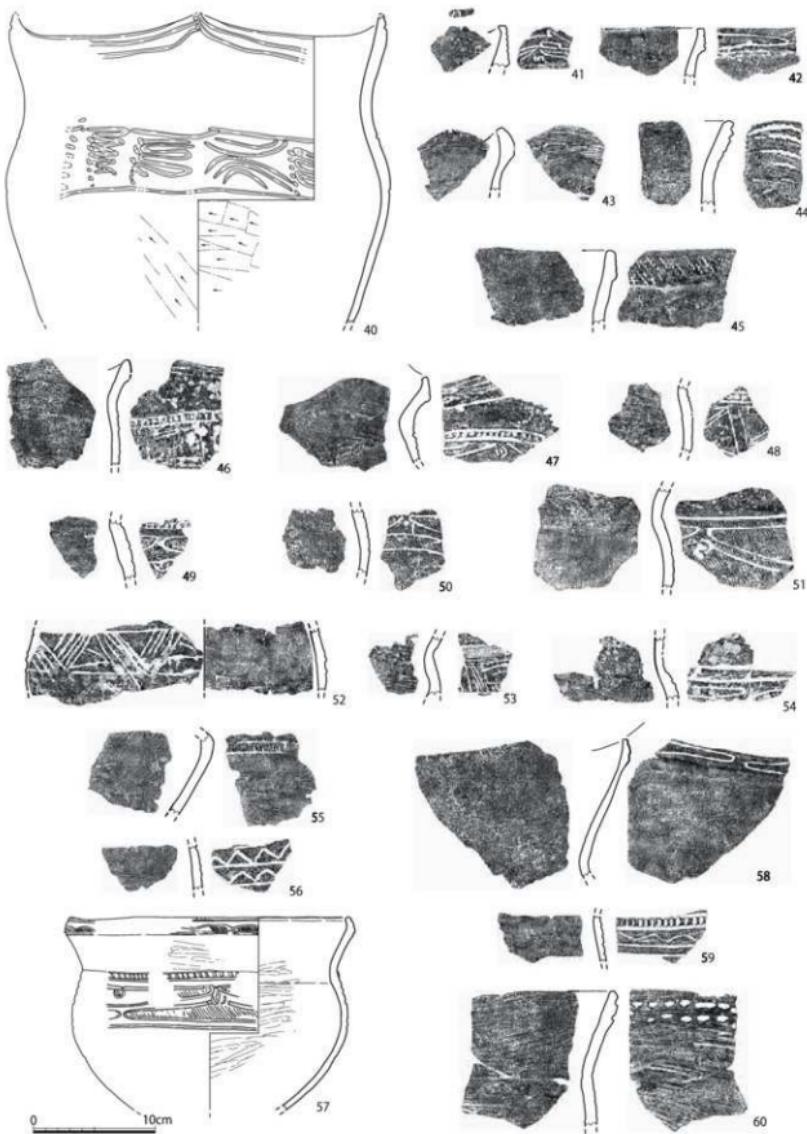


図 200 14 区遺構外出土遺物 3 (1/4)

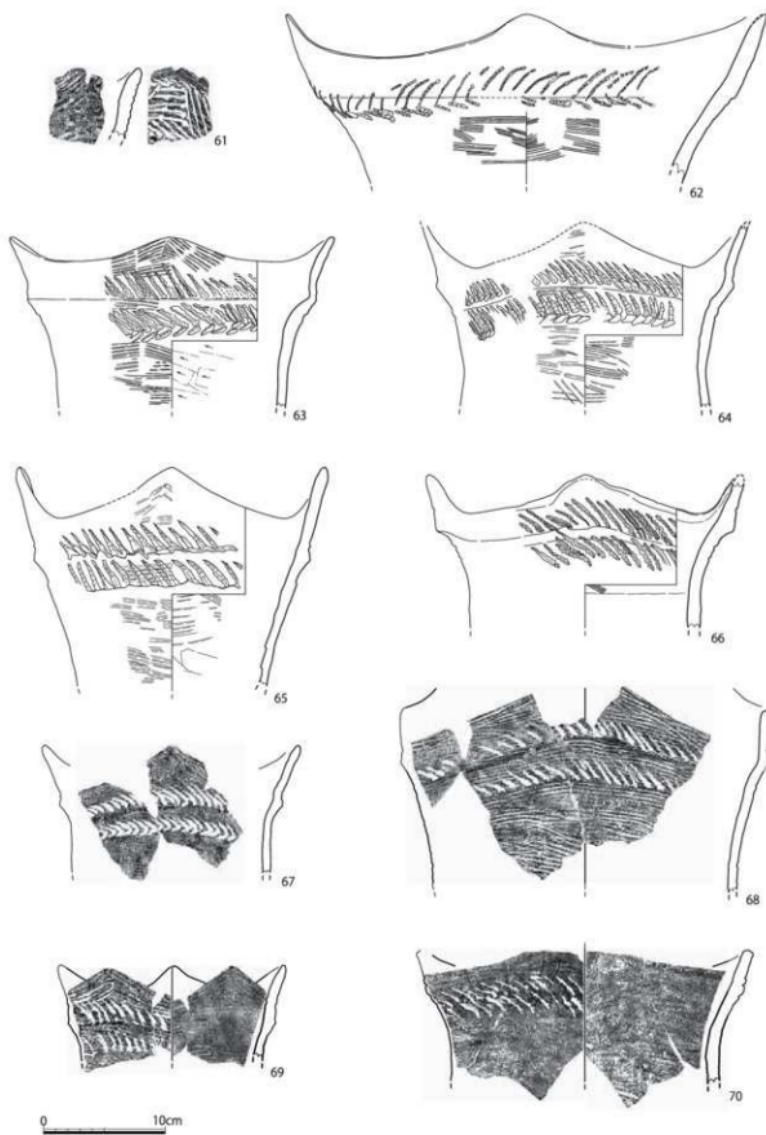


図 201 14 区遺跡外出土遺物 4 (1/4)

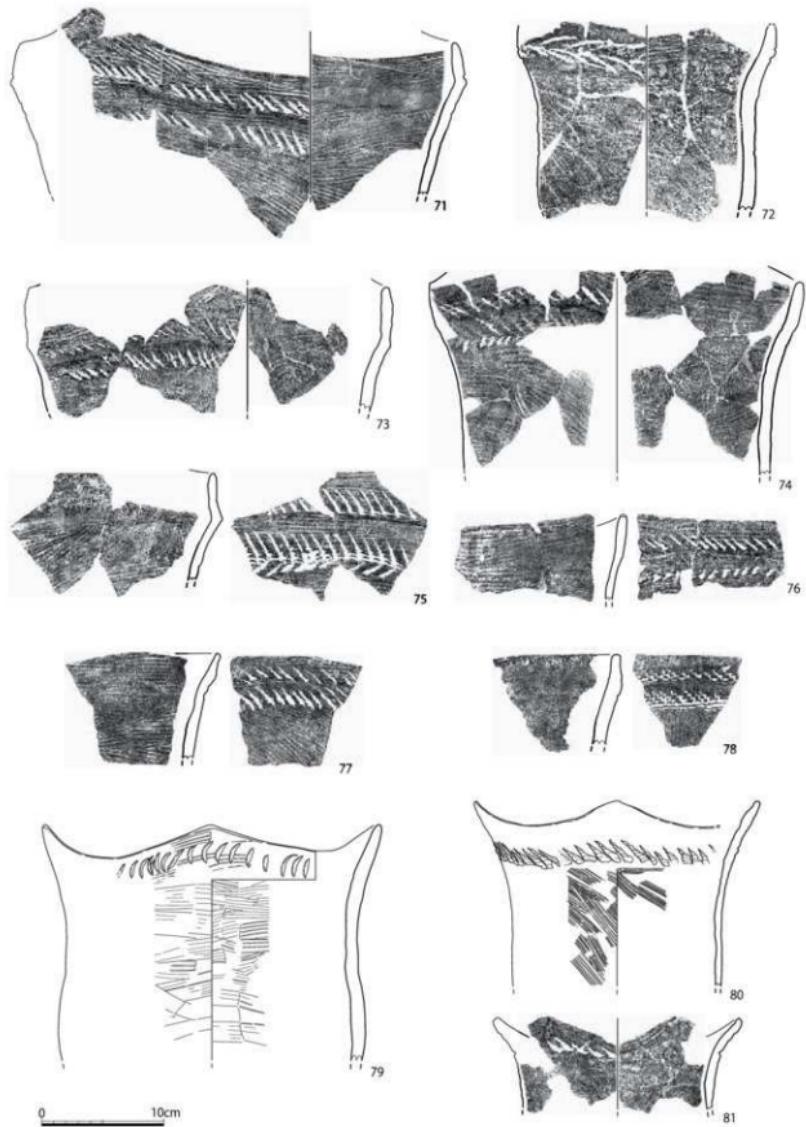


図 202 14 区遺構外出土遺物 5 (1/4)

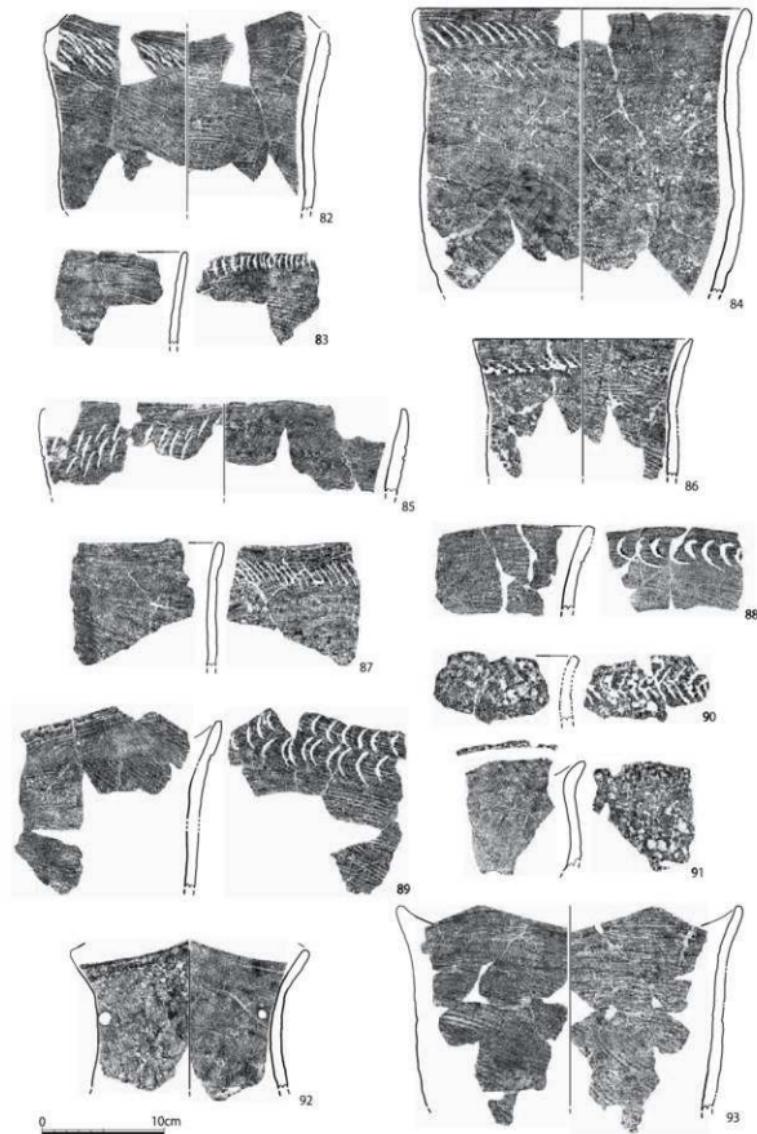


図 203 14 区遺構外出土遺物 6 (1/4)

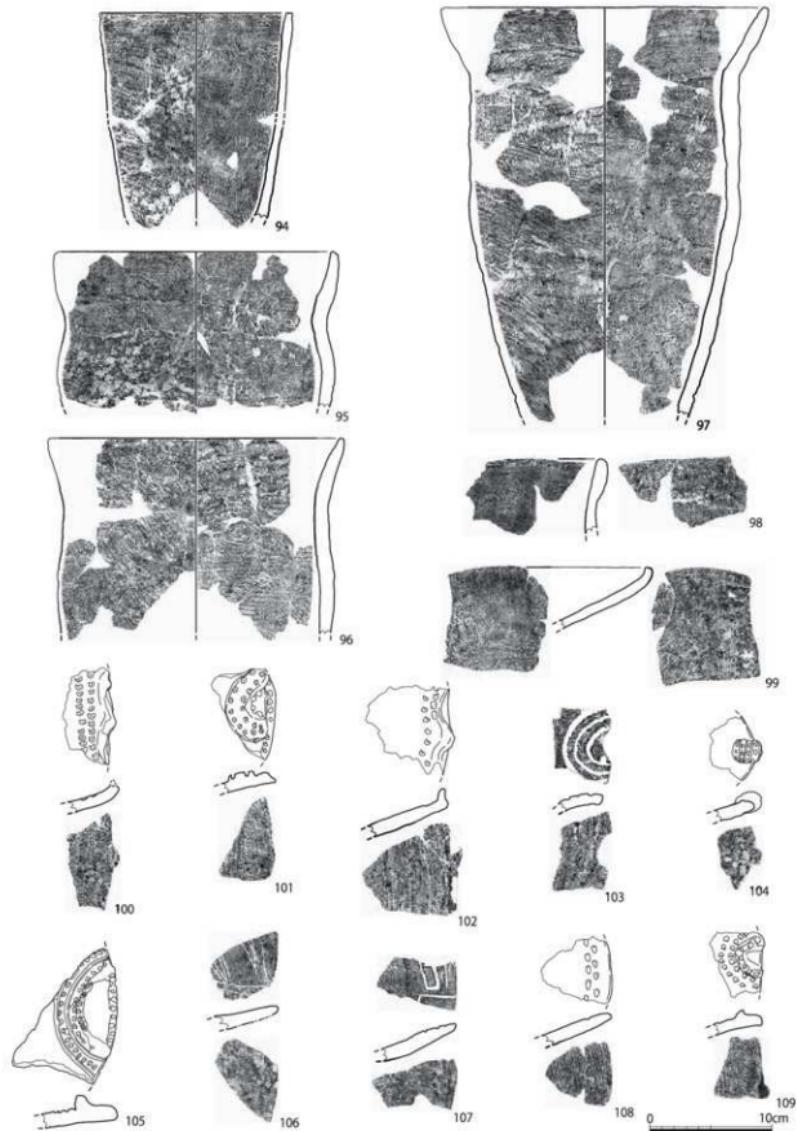


図 204 14 区遺構外出土遺物 7 (1/4)

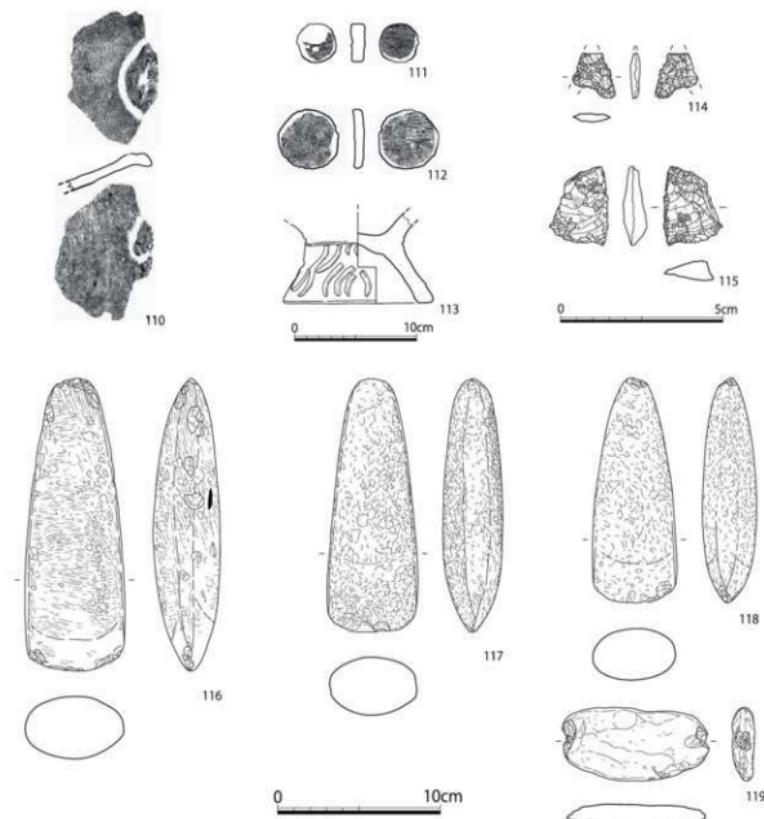


図 205 14 区遺構外出土遺物 8 (115・116: 2/3 117~119: 1/3 その他: 1/4)

表12 14区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法cm			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
1	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~凹縁 内:貝形無→ナダ	外:7.5VR7/6暗 内:7.5VR7/6暗	-
2	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~凹縁 内:貝形無→ナダ	外:SVR7/6暗 内:SVR8/6暗	-
3	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~沈縁 内:ナダ	外:7.5VR5/4に凹らむ 内:7.5VR4/4	-
4	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~沈縁 内:ナダ	外:SVR3/3暗赤褐色 内:2.5VR5/6明赤褐色	-
5	VI層	圓文土器 深鉢	(22.0)	-	-	外:ナガ~沈縁・貝刺突 内:ナダ	外:7.5VR3/2黒褐色 内:7.5VR3/2黒褐色	-
6	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~圓文~沈縁 内:ナダ	外:7.5VR3/2黒褐色 内:7.5VR3/2黒褐色	-
7	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~沈縁 内:ナダ	外:7.5VR4/4暗 内:7.5VR3/2黒褐色	-
8	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~沈縁 内:ナダ	外:SVR6/6暗 内:7.5VR5/4に凹らむ、根 部	横状把手
9	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~沈縁・斜突 内:ナガ~刺突	外:10VR4/2灰褐色 内:10VR4/4に凹らむ、黃褐色	横状把手
10	-	圓文土器 深鉢	(28.3)	-	-	外:ナガ~刺突 内:ナダ	外:SVR3/2暗赤褐色 内:SVR6/6暗	口縁部下落の例又は圓文押?
11	VI層	圓文土器 深鉢	(25.8)	-	-	外:ニガキ~斜突 内:ナダ	外:SVR3/2暗赤褐色 内:2.5VR5/6赤褐色	-
12	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~貝刺突 内:ナダ	外:10VR4/1暗赤褐色 内:10VR4/1暗赤褐色	-
13	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~貝刺突 内:ナダ	外:SVR5/4に凹らむ赤褐色 内:SVR3/3暗赤褐色	-
14	VI層	圓文土器 深鉢	(15.5)	-	-	外:ナガ~貝刺突 内:ナダ	外:10VR2/1暗 内:2.5VR3/1暗褐色	-
15	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~貝刺突 内:ナダ	外:10VR2/1暗 内:2.5VR3/1暗褐色	-
16	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~沈縁 内:ナダ	外:2.5VR3/2暗赤褐色 内:7.5VR5/6明褐色	-
17	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~斜沈縁 内:ナダ	外:7.5VR3/2黒褐色 内:10VR3/1黒褐色	-
18	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~刺突 内:ナダ	外:2.5VR3/2暗赤褐色 内:2.5VR5/6明褐色	-
19	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~刺突~沈縁 内:ナダ	外:7.5VR4/1沈縁 内:2.5VR3/1暗褐色	-
20	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~斜日彫帶 内:ナダ	外:7.5VR3/2黒褐色 内:7.5VR2/6暗	-
21	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~刺突 内:ナダ	外:7.5VR3/3黒褐色 内:7.5VR3/3黒褐色	-
22	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~沈縁 内:ナダ	外:SVR3/3暗赤褐色 内:SVR4/6暗褐色	-
23	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~刺突 内:ナダ	外:10VR3/3に凹らむ黃褐色 内:10VR4/1暗赤褐色	-
24	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~ 内:ナダ	外:7.5VR5/6明褐色 内:10VR2/1暗	-
25	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~ 内:ナダ	外:SVR3/2暗赤褐色 内:SVR4/4に凹らむ暗	-
26	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~貝刺突 内:ナダ	外:7.5VR7/6暗 内:7.5VR5/4に凹らむ、根	-
27	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~貝刺突 内:ナダ	外:7.5VR5/2黒褐色 内:SVR3/2暗赤褐色	-
28	VI層	圓文土器 深鉢	(27.4)	-	-	外:ナガ~沈縁 内:ナダ	外:10VR7/4に凹らむ、黃褐色 内:10VR7/3に凹らむ、黃褐色	-
29	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~圓文 内:ナダ	外:7.5VR3/2黒褐色 内:10VR4/2灰黃褐色	-
30	-	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~沈縁 内:ナダ	外:7.5VR4/4暗褐色 内:SVR4/2暗褐色	-
31	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~貝刺突 内:ナダ	外:SVR7/6暗 内:SVR4/2暗褐色	-
32	VI層	圓文土器 深鉢	(33.6)	-	-	外:ナガ~沈縁・貝刺突? 内:ナダ	外:10.5VR2/2灰黃 内:2.5VR5/2暗褐色	貝刺突?口唇部直面部にズ字状突起
33	VI層	圓文土器 深鉢	(19.4)	-	-	外:ナガ~沈縁・貝刺突 内:ニガキ	外:2.5VR5/6明赤褐色 内:2.5VR5/6暗赤褐色	-
34	VI層	圓文土器 深鉢	(13.5)	-	-	外:ナガ~貝刺突~沈縁 内:ナダ	外:SVR5/6暗赤褐色 内:SVR3/2暗赤褐色	-
35	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~沈縁・貝刺突 内:ナダ	外:SVR3/4に凹らむ赤褐色 内:7.5VR3/2黒褐色	-
36	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~沈縁・貝刺突 内:ナダ	外:10VR5/4に凹らむ黃褐色 内:10VR5/3に凹らむ、黃褐色	-
37	-	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナガ~沈縁・貝刺突 内:ナダ	外:10VR2/1暗 内:10VR2/1暗	-

表 12 14 区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法cm			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
38	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ニギキ→沈縁 内:ニギキ	外:10VR2/1黒 内:10VR2/1黒	-
39	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縁 内:ナデ	外:7,5VR2/1黒 内:7,5VR2/1黒	-
40	VI層	調文土器 深鉢	(30.20)	-	-	外:ナデ→沈縁・刺突 内:ナデ	外:7,5VR4/4黒 内:7,5VR6/6黒	-
41	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縁 内:ナデ	外:SVR4/4に5~6赤 内:SVR3/3暗赤褐色	-
42	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縁 内:ナデ	外:SVR3/黒褐色 内:7,5VR3/黒褐色	-
43	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→貝刺突 内:ナデ	外:7,5VR4/3黒 内:7,5VR4/1黒褐色	-
44	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→貝刺突 内:ナデ	外:10VR2/1黒 内:7,5VR4/1黒	-
45	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→調文 内:ナデ	外:7,5VR4/3黒 内:10VR3/3暗黒	-
46	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ニギキ→調文・沈縁・刺突 内:ナデ	外:2,5VR6/9黒褐色 内:2,5VR2/7黒褐色	-
47	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ニギキ→沈縁・刺突 内:ニギキ	外:7,5VR4/3黒 内:7,5VR3/1黒褐色	-
48	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ニギキ→調文→沈縁 内:ナデ	外:10VR3/1黒褐色 内:2,5VR2/1黒	-
49	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:調文→沈縁→ニギキ 内:ナデ	外:7,5VR5/4に5~6黒 内:10VR3/1黒褐色	-
50	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→調文→沈縁 内:ナデ	外:7,5VR5/4に5~6黒 内:10VR5/4に5~6黒褐色	-
51	-	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ニギキ→調文→沈縁 内:ナデ	外:2,5VR7/4黒 内:2,5VR2/2暗黒	-
52	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ニギキ→沈縁 内:ナデ	外:7,5VR3/2黒褐色 内:7,5VR3/2黒褐色	-
53	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:沈縁→ナデ→貝刺突 内:ナデ	外:10VR6/4に5~6黄褐色 内:10VR6/1黒褐色	-
54	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ニギキ→沈縁 内:ナデ	外:10VR6/4に5~6黄褐色 内:10VR3/1黒褐色	-
55	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ニギキ→沈縁→調文 内:ニギキ	外:7,5VR3/2黒褐色 内:7,5VR3/2黒褐色	-
56	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縁 内:ナデ	外:7,5VR5/4に5~6黒 内:7,5VR5/4に5~6黒	-
57	VI層	調文土器 深鉢	(23.80)	-	-	外:調文→尼刺・ニギキ 内:ニギキ	外:7,5VR6/1黒褐色 内:7,5VR6/1黒褐色	14C年代測定資料No.12 20997
58	-	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ニギキ→尼刺 内:ナデ	外:SVR4/3に5~6黒褐色 内:7,5VR5/3に5~6黒	-
59	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ニギキ→沈縁→調文 内:ナデ	外:7,5VR6/4に5~6黒 内:10VR4/2灰黒褐色	-
60	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→刺突 内:ナデ	外:5VR6/6黒 内:5VR6/6黒	-
61	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→沈縁→貝刺突 内:ナデ	外:2,5VR4/6赤褐色 内:2,5VR4/6赤褐色	-
62	VI層	調文土器 深鉢	(20.40)	-	-	外:貝刺突→貝刺突 内:貝刺突	外:10VR4/2灰黒褐色 内:10VR4/2灰黒褐色	-
63	VI層	調文土器 深鉢	(26.60)	-	-	外:貝刺突→貝刺突 内:ナデ	外:2,5VR7/8黒 内:2,5VR7/8黒	-
64	VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:貝刺突→ナデ→貝刺突 内:貝刺突→ナデ	外:SVR5/4に5~6赤褐色 内:SVR5/6赤褐色	-
65	VI層	調文土器 深鉢	(25.00)	-	-	外:ナデ→貝刺突 内:貝刺突→ナデ	外:10VR2/2黒褐色 内:SVR4/6赤褐色	-
66	-	調文土器 深鉢	(26.1)	-	-	外:ナデ→貝刺突 内:ナデ	外:7,5VR3/1黒褐色 内:7,5VR3/1黒褐色	-
67	VI層	調文土器 深鉢	(21.2)	-	-	外:ナデ→貝刺突 内:貝刺突→ナデ	外:7,5VR3/3黒褐色 内:7,5VR2/2黒褐色	-
68	VI層	調文土器 深鉢	(30.3)	-	-	外:貝刺突→貝刺突 内:貝刺突	外:7,5VR2/2黒褐色 内:SVR4/6赤褐色	-
69	VI層	調文土器 深鉢	(18.7)	-	-	外:ナデ→貝刺突 内:ナデ	外:5VR2/2黒褐色 内:SVR4/3に5~6赤褐色	-
70	VI層	調文土器 深鉢	(27.6)	-	-	外:ナデ→貝刺突 内:ナデ	外:5VR2/2黒褐色 内:SVR4/6赤褐色	-
71	VI層	調文土器 深鉢	(36.0)	-	-	外:貝刺突→貝刺突 内:貝刺突→ナデ	外:7,5VR2/2黒褐色 内:SVR4/6赤褐色	-
72	VI層	調文土器 深鉢	(21.6)	-	-	外:ナデ→貝刺突 内:貝刺突→ナデ	外:7,5VR4/1黒 内:7,5VR4/1黒	-
73	VI層	調文土器 深鉢	(29.5)	-	-	外:ナデ→貝刺突 内:ナデ	外:10VR2/1黒 内:7,5VR5/6明褐色	-
74	VI層	調文土器 深鉢	(30.6)	-	-	外:貝刺突→ナデ→貝刺突 内:ナデ	外:SVR4/4に5~6赤褐色 内:SVR5/6暗赤褐色	-

表12 14区出土遺物觀察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法(cm)			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
75	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝多板→ナデ→貝網突 内:ナデ	外:7.5VR3/3暗褐色 内:5VR3/4暗赤褐色	-
76	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝多板→貝網突 内:貝多板→ナデ	外:2.5VR3/3暗赤褐色 内:2.5VR3/3暗赤褐色	-
77	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→貝網突 内:貝多板→ナデ	外:5VR3/2暗赤褐色 内:5VR3/4/5.5暗赤褐色	-
78	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→貝網突 内:ナデ	外:5VR3/2暗赤褐色 内:5VR3/3暗赤褐色	-
79	VI層	圓文土器 深鉢	(27.8)	-	-	外:貝多板→貝網突 内:貝多板	外:10VR3/4/5.5/5.5黃褐色 内:7.5VR3/3暗赤褐色	-
80	VI層	圓文土器 深鉢	(23.4)	-	-	外:貝多板→貝網突 内:貝多板	外:7.5VR3/3黑褐色 内:7.5VR3/3黑褐色	-
81	VI層	圓文土器 深鉢	(20.4)	-	-	外:ナデ→貝網突 内:ナデ	外:2.5VR3/4/5.5/5.5暗赤褐色 内:2.5VR3/6赤褐色	-
82	VI層	圓文土器 深鉢	(23.1)	-	-	外:貝多板→貝網突 内:貝多板→ナデ	外:10VR3/1黑褐色 内:7.5VR3/4/5.5暗赤褐色	-
83	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝多板→ナデ→貝網突 内:ナデ	外:7.5VR3/4/5.5/5.5暗赤褐色 内:5VR3/3暗赤褐色	-
84	VI層	圓文土器 深鉢	(27.7)	-	-	外:ナデ→貝網突 内:ナデ	外:5VR3/3暗赤褐色 内:5VR3/6暗赤褐色	14C年代測定資料No.11 2009年
85	VI層	圓文土器 深鉢	(29.9)	-	-	外:貝多板→ナデ→貝網突 内:ナデ	外:7.5VR3/4/5.5/5.5黃褐色 内:10VR3/4/5.5/5.5黃褐色	-
86	VI層	圓文土器 深鉢	(18.1)	-	-	外:ナデ→貝網突 内:ナデ	外:2.5VR3/4/5.5/5.5暗赤褐色 内:2.5VR3/6暗赤褐色	-
87	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→貝網突 内:ナデ	外:7.5VR3/3黑褐色 内:7.5VR3/2黑褐色	-
88	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→貝網突 内:ナデ	外:7.5VR3/4/5.5/5.5黃褐色 内:10VR3/4/5.5/5.5黃褐色	-
89	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝多板→ナデ→貝網突 内:ナデ	外:2.5VR3/4/5.5/5.5暗赤褐色 内:7.5VR3/4/5.5/5.5	-
90	-	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ→貝網突 内:ナデ	外:2.5VR3/6赤褐色 内:5VR3/6暗赤褐色	-
91	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:5VR3/8暗褐色 内:5VR3/4/5.5/5.5赤褐色	-
92	VI層	圓文土器 深鉢	(19.6)	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5VR3/3黑褐色 内:10VR3/2黑褐色	-
93	-	圓文土器 深鉢	(29.3)	-	-	外:貝多板→ナデ 内:貝多板→ナデ	外:10VR3/2黑褐色 内:2.5V1/1灰黑色	-
94	VI層	圓文土器 深鉢	(15.8)	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:10VR3/4/5.5/5.5黃褐色 内:7.5VR3/4/5.5/5.5	-
95	VI層	圓文土器 深鉢	(23.3)	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:5VR3/2暗赤褐色 内:5VR3/3/5.5/5.5赤褐色	-
96	-	圓文土器 深鉢	(24.2)	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5VR3/2黑褐色 内:7.5VR3/4/5.5/5.5暗赤褐色	-
97	VI層	圓文土器 深鉢	(26.9)	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:7.5VR3/4/5.5/5.5暗赤褐色 内:5VR3/6暗赤褐色	-
98	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:5VR3/2暗赤褐色 内:5VR3/3/5.5/5.5赤褐色	-
99	VI層	圓文土器 台付盆形	-	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:5VR3/3/5.5/5.5赤褐色 内:5VR3/6暗赤褐色	-
100	VI層	圓文土器 台付盆形	-	-	-	外:ナデ 内:ナデ→貝網突	外:10VR3/4/5.5/5.5黃褐色 内:10VR3/4/5.5/5.5黃褐色	-
101	VI層	圓文土器 台付盆形	-	-	-	外:ナデ 内:貼付→貝網突	外:7.5VR3/4/5.5/5.5暗赤褐色 内:7.5VR3/6暗赤褐色	-
102	VI層	圓文土器 台付盆形	-	-	-	外:ナデ 内:ナデ→貝網突	外:7.5VR3/4/5.5/5.5暗赤褐色 内:7.5VR3/4/5.5/5.5	-
103	VI層	圓文土器 台付盆形	-	-	-	外:ナデ 内:ナデ→圓文	外:10VR3/2灰黃褐色 内:10VR3/1灰黃褐色	-
104	VI層	圓文土器 台付盆形	-	-	-	外:ナデ→貝網突 内:ナデ	外:7.5VR3/3/5.5/5.5暗赤褐色 内:7.5VR3/4/5.5/5.5	-
105	VI層	圓文土器 台付盆形	-	-	-	外:ナデ 内:ナデ→沈縫	外:5VR3/4/5.5/5.5暗赤褐色 内:5VR3/4/5.5/5.5赤褐色	-
106	VI層	圓文土器 台付盆形	-	-	-	外:ナデ 内:ナデ→圓文→沈縫	外:7.5VR3/6暗赤褐色 内:10VR3/1黑褐色	-
107	VI層	圓文土器 台付盆形	-	-	-	外:ナデ 内:ナデ→沈縫	外:5VR3/6暗赤褐色 内:7.5VR3/4/5.5/5.5	-
108	VI層	圓文土器 台付盆形	-	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:5VR3/4/5.5/5.5赤褐色 内:5VR3/6暗赤褐色	-
109	VI層	圓文土器 台付盆形	-	-	-	外:ナデ 内:粘付→押引	外:5VR3/6暗赤褐色 内:7.5VR3/4/5.5/5.5	-
110	VI層	圓文土器 台付盆形	-	-	-	外:ナデ 内:ナデ	外:5VR3/6赤褐色 内:7.5VR3/4/5.5/5.5	-
111	-	土製品 土製円盤	幅 3.2	横 3.2	厚 1.1	外:ナデ 内:ナデ	外:5VR2/3暗赤褐色 内:5VR3/6暗赤褐色	重量 13.4g、側面唐瓶底有(底)

山中遺跡 14 区の調査

表 12 14 区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法(cm)			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
112	-	土製品 土製円盤	縦 4.8	横 4.9	厚 0.8	外:貝条板→ナゲ 内:ナゲ	外:SVR3/2暗赤褐色 内:SVR4/6茶褐色	重量 25.7g、側面磨滅有(部分)
113	V1層	陶文土器 台付盆形	-	12.3	-	外:ナゲ→沈緑 内:ナゲ	外:10YR8/2灰黃褐色 内:10YR8/312.5%・黄褐色	-

表 12 14 区出土遺物観察表（石器）

報告番号	出土地区	層位	器種	石材	寸法(cm)			重量(g)	備考
					長さ	幅	厚さ		
114	-	V1層	打製石器	黒曜岩 Ic	13.9	13.1	2.9	0.4	先端部・脚部欠損
115	-	V1層	削器	黒曜岩 II	24.3	18.0	7.2	2.3	-
116	-	V1層	磨製石斧	ホルシフエルス	179.9	61.7	41.0	634.5	刃部破打痕有
117	-	V1層	磨製石斧	ホルシフエルス	155.7	56.0	36.8	449.1	-
118	-	V1層	磨製石斧	ホルシフエルス	138.3	51.9	33.4	329.4	-
119	-	V1層	石錐	精板岩	90.3	45.3	13.8	77.7	打欠石錐

第3章

第14節 山中遺跡15区



第 14 節 山中遺跡 15 区の調査

1 山中遺跡 15 区調査の概要

山中遺跡 15 区（以下 15 区）は、平成 19 年度に発掘調査を実施し、同時期に調査を行っていた 14 区の東側隣接地に位置する。調査区は水田の区画毎に 4 箇所設定し、北から 15-1 区・15-2 区・15-3 区・15-4 区と調査区名を付け調査を行った。遺構は 15-1 区から竪穴状の不明遺構や集石遺構を検出したほか、焼土や小穴を多数検出した。

土層は山中遺跡周辺の基本的な堆積を示すが、15-2 区北壁土層（A-A'）の東側部分および 15-2 区東壁土層（B-B'）の北側部分では、縄文時代の遺物を包含する基本土層 VI 層（黒色土層）の土色は、黒色から褐色状に薄くなっている様子がうかがえる。

基本土層 IX 層（アカホヤ火山灰層）上面での旧地形は、15-2 区の東壁中央部分に向けて谷状に落ち込む形状となっており、底部分に沿って灰褐色の硬化面が観察されたが、人為的なものではないようである。検出した遺構の分布は、調査区北端の 15-1 区で多く、南に行くに従い遺構密度は低くなる。遺物は縄文時代後期中葉の丸尾式・納曾式期のものが多く、その他の時期では、古墳時代～古代の土師器等が出土した。

2 遺構

不明遺構

SX01（図 208）

調査区北側 B3 区画に位置する。長軸 4.12m、短軸 3.65m+ α、深さ 0.35m を測り、円形もしくは不整方形となる。底面は平坦で、柱穴と想定されるような小穴を確認することは出来なかった。壁は東側および北側でしっかりと立ち上がり、西側ではなだらかな立ち上がりとなる。形状から竪穴住居の可能性もあるが、出土遺物が確認できておらず時期等の詳細は不明である。

集石遺構

SI01（図 208）

調査区北側 B3 区画に位置する。礫は熱により赤化したものと赤化していないものがあり、両者には比高差はなく混在する状況であった。所産時期については不明である。

焼土（図 206）

調査区北側 15-1 区および南側 15-4 区で認められ、特に 15-1 区において多数検出した。赤化した焼土が厚く堆積し、熱によって硬化したものも認められた。縄文時代の遺物包含層より上位で検出されており、周囲の遺物出土状況から古墳時代頃のものと想定される。

3 出土遺物

縄文時代後期の土器（図 209～212）

1 は 2 本単位の沈線で施文する深鉢で、縄文時代後期前葉の指宿式と思われる。15 区では後期前葉の遺物は小破片も含めて極めて少ない状況であった。

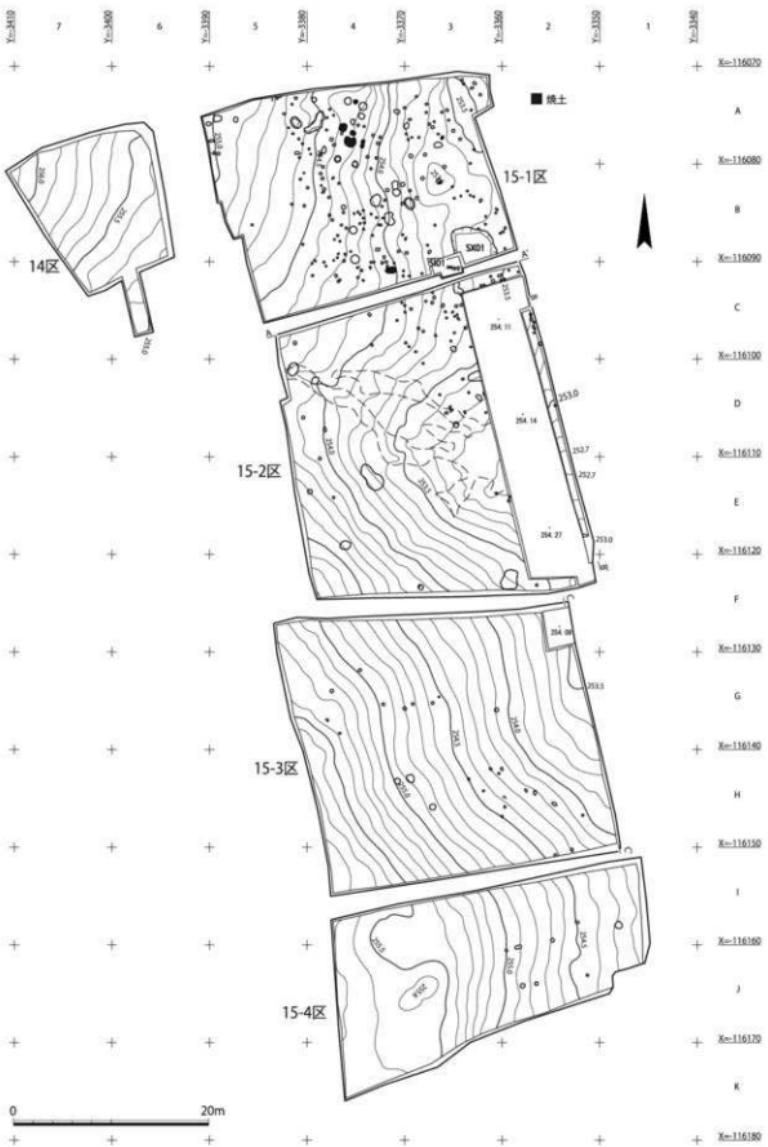


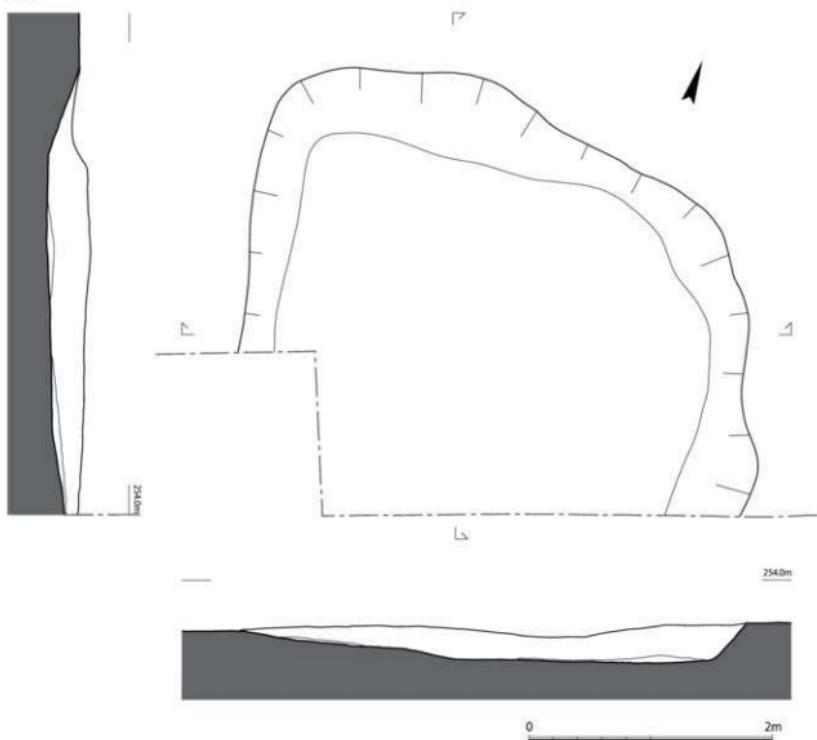
図206 山中遺跡15区の遺構配置図(1/500)

山中遺跡 15 区の調査



図 207 山中遺跡 15 区の土層図 (1/120)

SX01



SI01

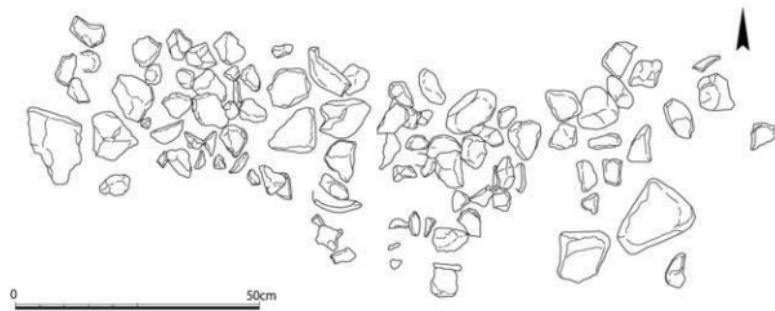


図208 SX01 不明遺構 (1/40)・SI01 集石遺構 (1/10)

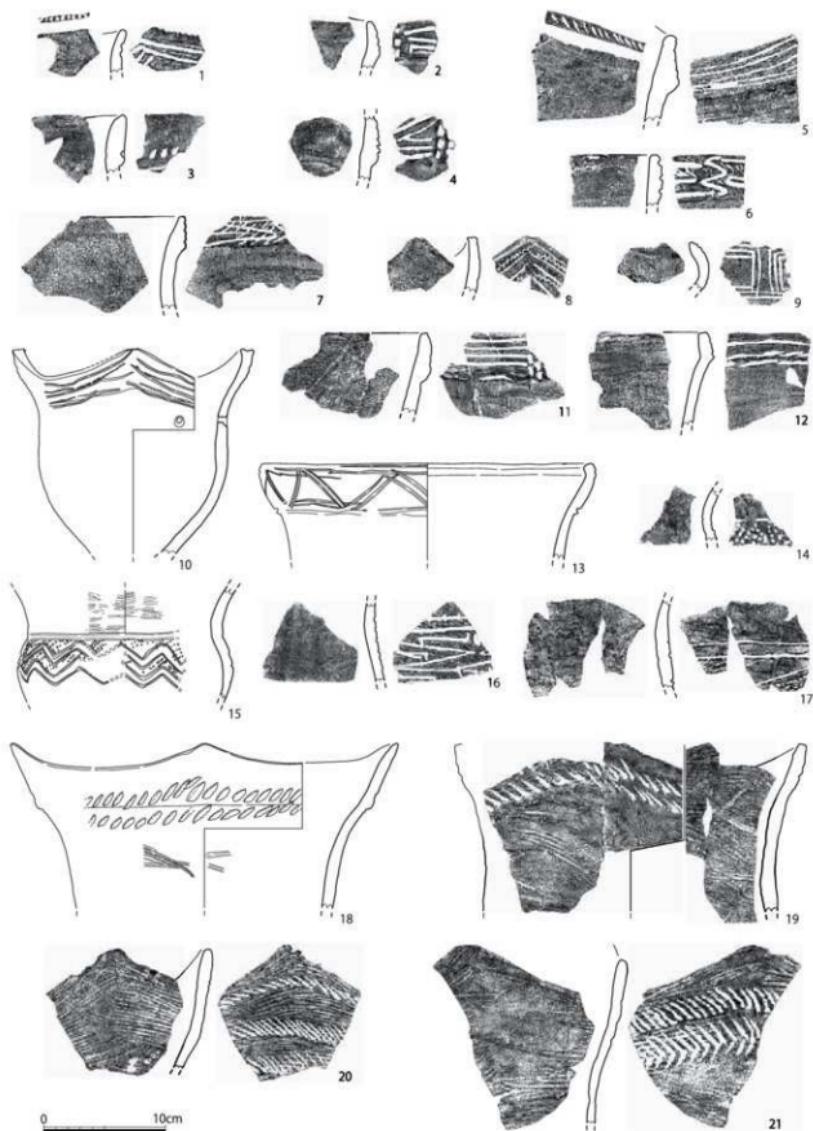


図 209 15 区遺構外出土遺物 1 (1/4)

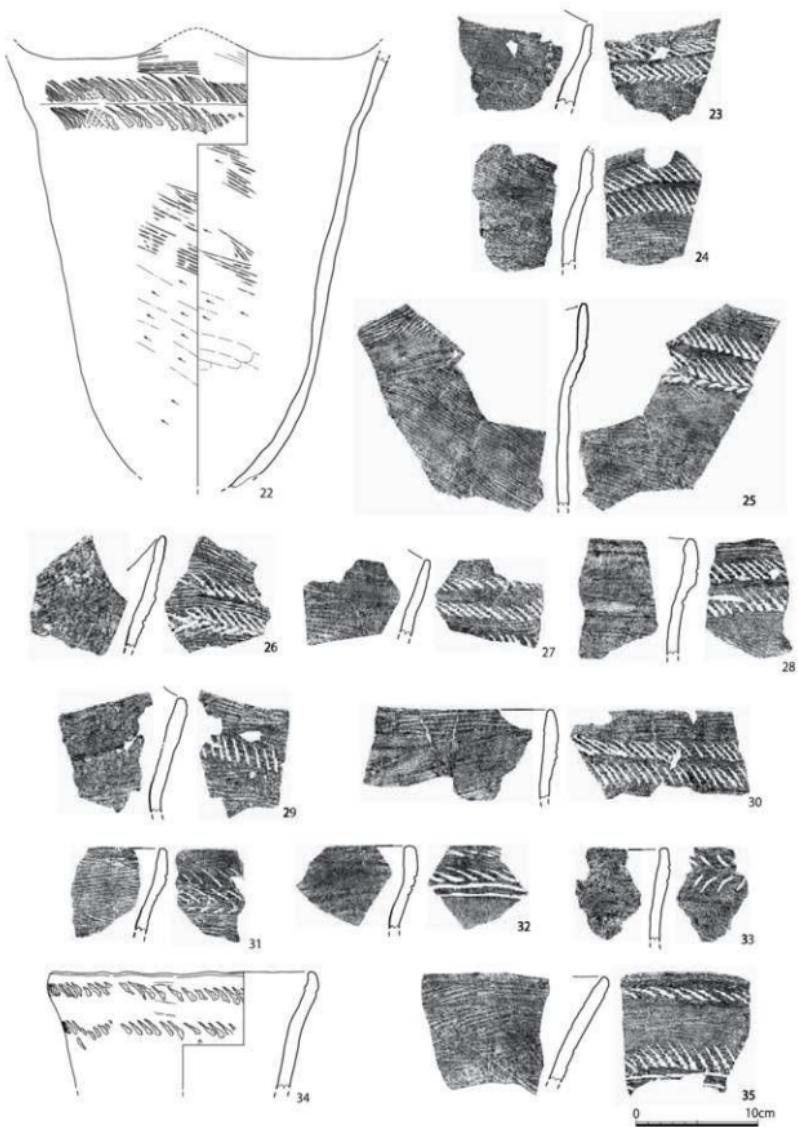


図 210 15区遺構外出土遺物 2 (1/4)

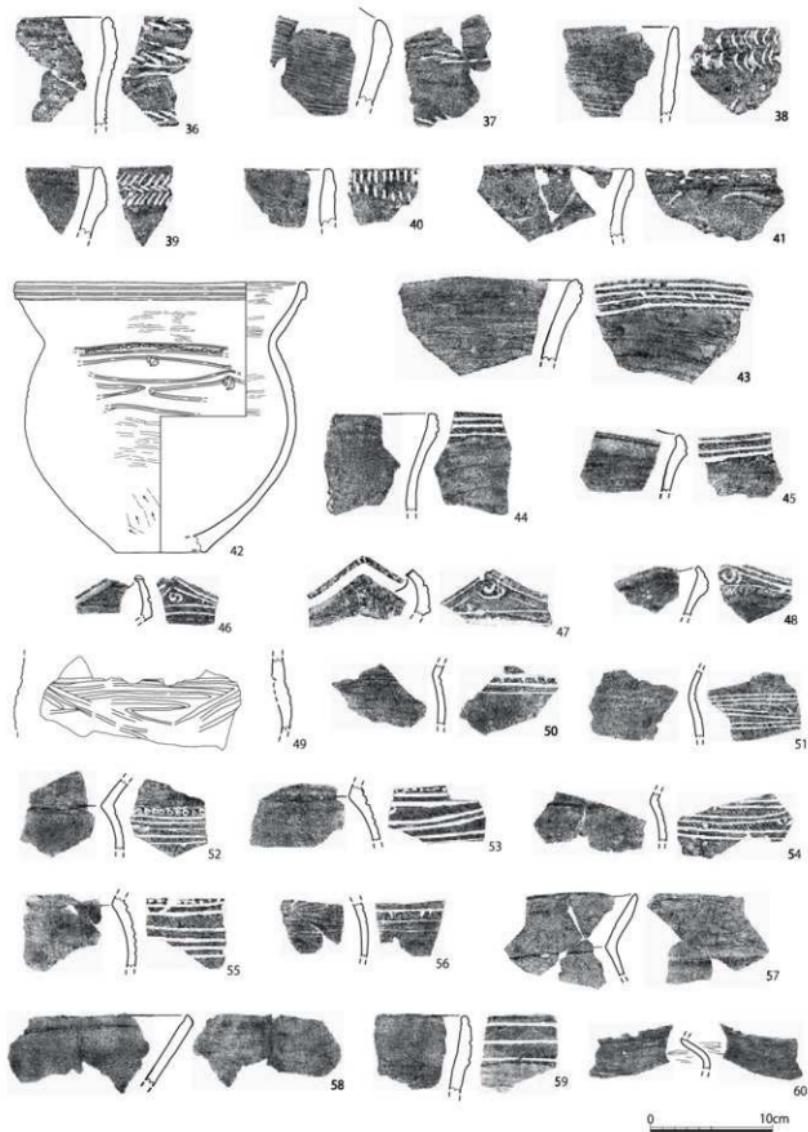


図 211 15 区遺構外出土遺物 3 (1/4)

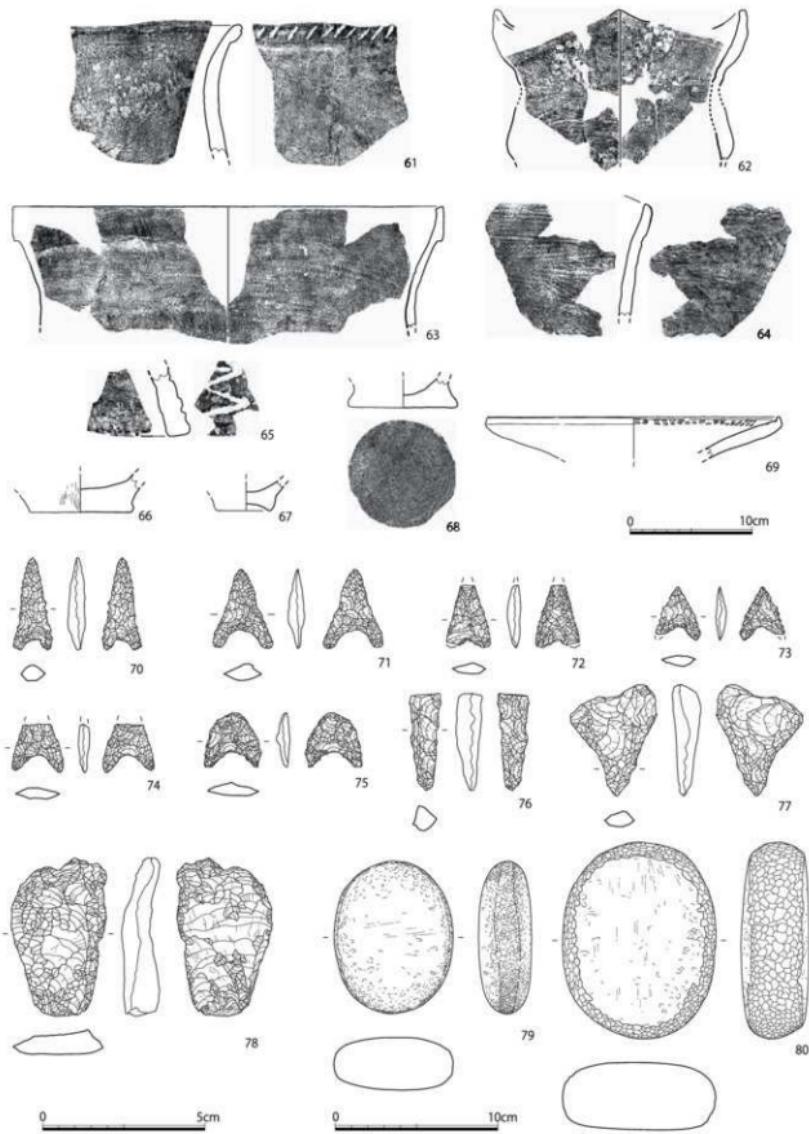


図212 15区遺構外出土遺物4 (70~78:2/3 79・80:1/3 その他:1/4)

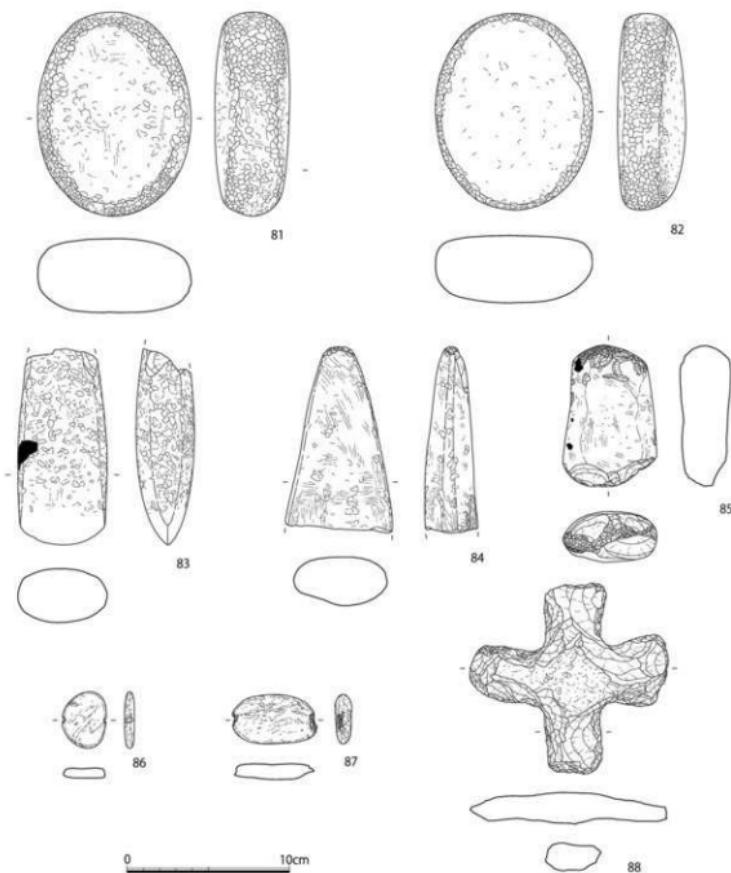


図 213 15 区遺構外出土遺物 5 (1/3)

5・6・7は三角形状に肥厚させる口縁部に沈線により文様を施文するものである。

2・4・8～17は内済する口縁部を持つものとその胴部である。

18～28・31・32は口縁部を「く」の字状に形成し、貝刺突を施文するもので、31は放射線炭素年代測定の結果、 3400 ± 40 年 BP (1σ の曆年代で BC1740～1650 年) の年代値が得られている。

29・30・33～36は直立気味に立ち上がるるものである。

42～56は口縁部と胴部に文様帯を持つもので、42～45は口縁部の屈曲が肥厚状になり鈍いのに対して、46～48の屈曲は明瞭になる。42・49に比べ、50～56は胴部文様帯の幅が狭くなる。

57・58は内外面に丁寧なミガキ調整が観察される。

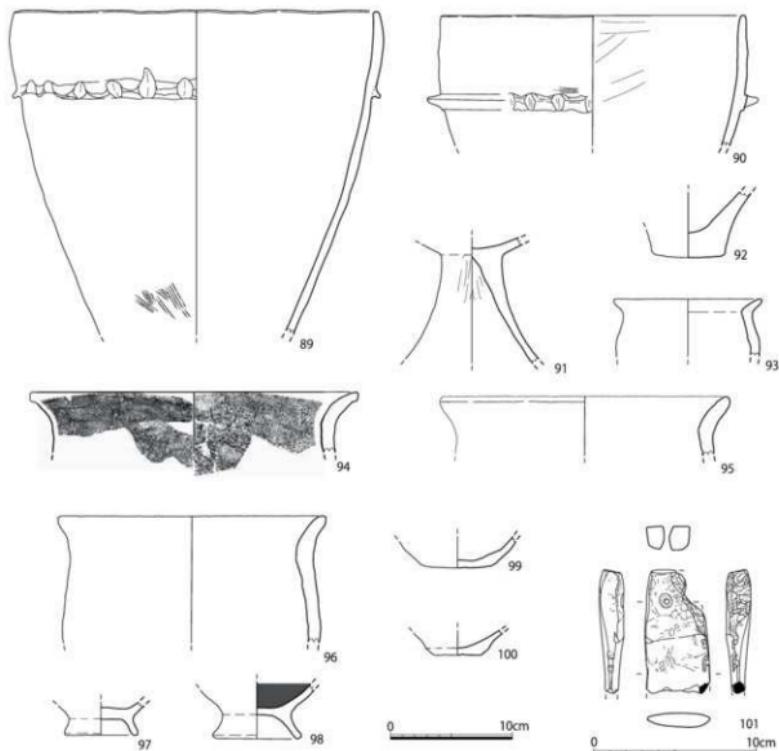


図 214 15 区遺構外出土遺物 6 (101:1/3 その他:1/4)

60は縄文時代晩期黒川式の浅鉢である。

61は肥厚する口縁部に斜方向の刺突を加えるもので、62～64は無文土器である。65～68は底部で、65は台付皿形土器の底部。69は台付皿形土器である。

打製石器（図 212）

70～75は石鏃である。70～74は二等辺三角形の石鏃で、いずれも抉りが比較的深い凹基。75は正方形の石鏃で、抉りは比較的深い凹基となる。

76・77は石錐。78は縁辺を調整加工により刃部を形成する削器である。

88は粘板岩製の十字形石器である。

磨製石器・礫石器（図 212～213）

79～82 は磨石、83～85 は磨製石斧である。86・87 は石錘で、86 が切目石錘、87 が打欠石錘である。

弥生時代遺構の遺物（図 214）

89・90 は脣部に刻目突帯を持つ古墳時代の甕。91 は高杯の脚部、92 は底部である。93 は口縁部が強く屈曲する甕。94～96 は頸部から緩やかに外反する古代の甕。97 は土師器の高台付碗、98 は黒色土器の高台付碗で、内面にはヘラミガキが観察される。99・100 は土師器杯で、いずれも底部ヘラ切りである。101 は砂岩製の砥石で、4 面全てを砥石として利用している。

表 13 15 区出土遺物觀察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法cm			調査	色調	備考
			口径	底径	器高			
1	15-21K VI層	圓文土器 深鉢	-	-	内:ナード→沈縁 外:ナード	外:DVRC/6縁 内:DVRC/6縁	-	-
2	15-21K VI層	圓文土器 深鉢	-	-	内:ナード→沈縁 外:ナード	外:DVRC/6明赤褐色 内:7.5VR4/3縁	-	-
3	15-21K VI層	圓文土器 深鉢	-	-	内:ナード→軋突 外:ナード	外:DVRC/3縁 内:7.5VR4/6明褐色	-	-
4	15-21K VII層	圓文土器 深鉢	-	-	内:ナード→點付→軋突→沈縁 外:ナード	外:DVRC/1黒褐色 内:DVRC/6明赤褐色	-	-
5	15K	圓文土器 深鉢	-	-	内:ナード→沈縁 外:ナード	外:DVRC/6明赤褐色 内:DVRC/6明褐色	-	-
6	15-11K VI層	圓文土器 深鉢	-	-	内:ナード→圓文→沈縲 外:ナード	外:7.5VR4/1黒褐色 内:7.5VR4/3縁	-	-
7	15-11K	圓文土器 深鉢	-	-	内:ナード→圓文→→沈縲 外:ナード	外:7.5VR2/2黒褐色 内:7.5VR2/2黒褐色	-	-
8	15-21K VI層	圓文土器 深鉢	-	-	内:ナード→沈縲→具病変 外:ナード	外:10VRC/4/25~35(黄褐色) 内:2.5V3/1 黑褐色	-	-
9	15-21K	圓文土器 深鉢	-	-	内:ナード→沈縲 外:ナード	外:10VRC/2/25 黄褐色 内:10VRC/3/25~35(黄褐色)	-	-
10	VI層	圓文土器 深鉢	(19.8)	-	内:ナード→沈縲 外:ナード	外:DVRC/6縁 内:10VRC/3/25~35(黄褐色)	-	-
11	15K	圓文土器 深鉢	-	-	内:ナード→沈縲→軋突 外:ナード	外:7.5VR2/1黒 内:7.5VR2/2黒褐色	-	-
12	15-11K VII層	圓文土器 深鉢	-	-	内:ナード→軋突 外:ナード	外:10VRC/1黒褐色 内:7.5VR4/4縁	-	-
13	15-21K VII層	圓文土器 深鉢	(27.2)	-	内:ナード→沈縲 外:ナード	外:7.5VR4/6縁 内:2.5V3/5 黄褐色	-	-
14	15-21K VI層	圓文土器 深鉢	-	-	内:ナード→軋突 外:ナード	外:7.5VR4/4縁 内:7.5VR4/3縁	-	-
15	15-21K VI層	圓文土器 深鉢	-	-	内:ナード→沈縲→具病変 外:ナード	外:10VRC/2/2黒褐色 内:10VRC/1 黑褐色	-	-
16	15-11K VII層	圓文土器 深鉢	-	-	内:ナード→沈縲→軋突 外:ナード	外:DVRC/1/1黒 内:SV3/1/1黒褐色	-	-
17	15-21K	圓文土器 深鉢	-	-	内:ナード→沈縲→具病変 外:ナード	外:7.5VR5/4/25~35(黄褐色) 内:7.5VR6/6縁	-	-
18	15-21K	圓文土器 深鉢	(31.8)	-	内:ナード→具病変 外:ナード	外:10VRC/2/1黒 内:DVRC/4/1~2(黄褐色)	-	-
19	15-21K VI層	圓文土器 深鉢	(28.8)	-	内:ナード→具病変 外:ナード	外:2.5VR3/3黒褐色 内:2.5VR4/6明褐色	-	-
20	15-21K VII層	圓文土器 深鉢	-	-	内:ナード→具病変 外:ナード	外:DVRC/2/2黒褐色 内:7.5VR5/3/25~35(黄褐色)	-	-
21	15-21K VI層	圓文土器 深鉢	-	-	内:ナード→具病変 外:ナード	外:2.5VR2/3黒褐色 内:2.5VR4/6明褐色	-	-
22	-	圓文土器 深鉢	(31.8)	-	内:ナード→具病変 外:ナード	外:10VRC/2/2黒褐色 内:7.5VR5/4/25~35(黄褐色)	-	-
23	15-21K VII層	圓文土器 深鉢	-	-	内:ナード→具病変 外:ナード	外:DVRC/8/8縁 内:DVRC/6縁	-	-
24	15-21K VI層	圓文土器 深鉢	-	-	内:ナード→具病変 外:ナード	外:10VRC/2/1黒 内:7.5VR4/6縁	-	-
25	15-21K VI層	圓文土器 深鉢	-	-	内:ナード→具病変 外:ナード	外:7.5VR3/1黒褐色 内:DVRC/4/1~2(黄褐色)	-	-
26	15K	圓文土器 深鉢	-	-	内:ナード→具病変 外:ナード	外:DVRC/2/2黒褐色 内:DVRC/6明褐色	-	-
27	15-21K VI層	圓文土器 深鉢	-	-	内:ナード→具病変 外:ナード	外:DVRC/2/2黒褐色 内:DVRC/8縁	-	-
28	15-21K VI層	圓文土器 深鉢	-	-	内:ナード→具病変 外:ナード	外:DVRC/2/2黒褐色 内:2.5VR4/4/25~35(黄褐色)	-	-
29	15-21K VI層	圓文土器 深鉢	-	-	内:ナード→具病変 外:ナード	外:DVRC/2/2黒褐色 内:DVRC/8縁	-	-
30	15-21K VI層	圓文土器 深鉢	-	-	内:ナード→具病変 外:ナード	外:DVRC/2/2黒褐色 内:DVRC/4/1~2(黄褐色)	-	-

表13 15区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法(cm)			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
31	15-2IK	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:貝余板→ナダ→貝網突 内:貝余板→ナダ	外:5V63/2暗赤褐色 内:5V63/6明赤褐色	14C年代測定資料No.7 209907
32	15-2IK VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→戊線→貝網突 内:ナダ	外:2.5V62/2暗赤褐色 内:2.5V62/8暗赤褐色	-
33	15-2IK VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→貝網突 内:ナダ	外:10V66/41-55・黃褐色 内:10V66/41-55・黃褐色	-
34	15-2IK VII層	圓文土器 深鉢	(21.30)	-	-	外:ナダ→貝網突 内:ナダ	外:7.5V66/6暗褐色 内:10V65/41-55・黃褐色	-
35	15-1IK	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→貝網突・北縫 内:貝余板→ナダ	外:7.5V63/2暗褐色 内:7.5V63/4-55・褐色	-
36	15-2IK VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→貝網突 内:ナダ	外:5V62/3暗赤褐色 内:5V62/4暗褐色	-
37	15-2IK VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→貝網突 内:貝余板→ナダ	外:5V62/3暗赤褐色 内:2.5V64/6暗褐色	-
38	15-2IK VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→貝網突 内:貝余板→ナダ	外:10V67/41-55・黃褐色 内:10V67/41-55・黃褐色	-
39	15-2IK VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→貝網突 内:ナダ	外:5V64/2灰褐色 内:5V65/6明赤褐色	-
40	15-1IK VIII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→網突 内:ナダ	外:7.5V64/3褐色 内:7.5V66/6褐色	-
41	15-2IK VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→網突 内:ナダ	外:10V62/2暗褐色 内:10V62/2暗褐色	-
42	残片	圓文土器 深鉢	(24.0)	(7.4)	22.1	外:ナダ→戊線 内:ナダ	外:10V67/31-55・黃褐色 内:10V66/41-55・黃褐色	-
43	15-2IK VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→沈縫→網突 内:ナダ	外:5V63/2暗赤褐色 内:5V64/3-55・赤褐色	-
44	15-2IK VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→圓文→沈縫 内:ナダ	外:5V62/2黑褐色 内:5V62/2暗赤褐色	-
45	15-2IK	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→沈縫→網突 内:ナダ	外:7.5V66/6褐色 内:7.5V64/2暗褐色	-
46	15-1IK VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:圓文→ナダ→沈縫 内:ナダ	外:2.5V62/2暗赤褐色 内:5V62/2黑褐色	-
47	15-2IK	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→網突 内:ナダ	外:10V67/6暗黃褐色 内:10V67/6暗黃褐色	-
48	15-1IK VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:圓文→ナダ→沈縫→網突 内:ナダ	外:7.5V62/1黑褐色 内:7.5V62/2暗褐色	-
49	15-2IK VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→沈縫 内:ナダ	外:5V63/3暗赤褐色 内:2.5V65/8暗褐色	-
50	15-2IK VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→沈縫→網突 内:ナダ	外:10V63/2暗褐色 内:10V63/2暗褐色	-
51	15-1IK VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→沈縫→網突 内:ナダ	外:7.5V63/2暗褐色 内:7.5V63/2暗褐色	-
52	15-1IK VIII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→沈縫→網突 内:ナダ	外:10V66/41-55・黃褐色 内:2.5V66/41-55・黃褐色	-
53	15-1IK	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:圓文→沈縫→ニギキ 内:ナダ	外:2.5V63/2暗褐色 内:2.5V4/1黃褐色	-
54	15-1IK VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:圓文→沈縫→ニギキ 内:ナダ	外:7.5V63/2暗褐色 内:7.5V62/2暗褐色	-
55	15-1IK VIII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:圓文→沈縫→ニギキ 内:ナダ	外:7.5V63/1暗褐色 内:7.5V64/2暗褐色	-
56	15-1IK VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:圓文→沈縫→ニギキ 内:ナダ	外:10V63/1黑褐色 内:2.5V4/1黃褐色	-
57	15-1IK	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→ニギキ 内:ナダ	外:5V64/3-55・赤褐色 内:7.5V64/2暗褐色	-
58	15-1IK	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→ニギキ 内:ナダ→沈縫	外:5V62/2黑褐色 内:5V62/2暗赤褐色	-
59	15-2IK VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→沈縫 内:ナダ	外:5V66/6褐色 内:5V66/2灰褐色	-
60	15-1IK	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ 内:ナダ	外:7.5V66/41-55・棕褐色 内:10V63/2暗褐色	-
61	15-2IK VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→網突 内:ナダ	外:10V63/1黑褐色 内:10V66/41-55・黃褐色	-
62	15-2IK VI層	圓文土器 深鉢	20.6	-	-	外:ナダ 内:ナダ	外:7.5V64/3褐色 内:10V64/31-55・黃褐色	-
63	15-2IK	圓文土器 深鉢	(35.3)	-	-	外:ナダ 内:ナダ	外:10V62/1黑褐色 内:10V64/2暗黃褐色	-
64	15-2IK VIII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナダ→貝網突 内:貝余板→ナダ	外:10V62/1黑褐色 内:10V63/3暗褐色	-
65	15-2IK VI層	圓文土器 台付直形	-	-	-	外:ナダ→戊線 内:ナダ	外:5V65/6褐色 内:5V65/6明赤褐色	-
66	15-1IK VII層	圓文土器 直底	-	8.3	-	外:ナダ 内:ナダ	外:7.5V65/31-55・褐色 内:7.5V66/6褐色	-
67	15-1IK VIII層	圓文土器 直底	-	4.6	-	外:ナダ 内:ナダ	外:10V66/31-55・黃褐色 内:10V62/1黑褐色	-
68	15-2IK VI層	圓文土器 直底	-	9.0	-	外:ナダ 内:ナダ	外:7.5V65/6褐色 内:7.5V62/2黑褐色	-

表 13 15 区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法(cm)			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
69	縫層	調文土器 皿	(24.3)	-	-	外:ナード 内:ナード・斜突	外:7.5V86/6暗 内:10V86/4C.5A・黒褐色	-
89	15-1区 VI層	土師器 盤	(29.9)	-	-	外:ナード・斜目突唇 内:ナード	外:10V87/8暗 内:5V85/6明赤褐色	-
90	15-1区 VI層	土師器 盤	(25.0)	-	-	外:ナード・斜目突唇 内:ナード	外:7.5V86/2暗褐 内:5V85/6明赤褐色	-
91	15-1区 VI層	陶生土器 高杯	-	-	-	外:ナガキ 内:ナード	外:10V86/6暗 内:5V86/6暗	-
92	15-2区	陶生土器 高杯	-	6.0	-	外:ナード 内:ナード	外:7.5V86/6暗 内:7.5V86/6暗	-
93	15-1区 VI層	土師器 盤	(12.1)	-	-	外:ナード 内:ナード	外:10V86/2黒褐色 内:2.5V3/2黒褐色	-
94	15-1区 VI層	土師器 盤	(26.9)	-	-	外:ナード 内:ナード	外:10V86/3C.5A・黒褐色 内:10V86/2C.5A・黒褐色	-
95	15-1区 VI層	土師器 盤	(23.8)	-	-	外:ナード 内:ナード	外:10V86/4浅黒褐色 内:10V86/4浅黒褐色	-
96	15-1区 VI層	土師器 盤	(22.0)	-	-	外:ナード 内:ナード	外:5V83/2暗赤褐色 内:7.5V86/4C.5A・赤褐色	-
97	15-1区 VI層	土師器 碗	-	-	-	外:ナガナデ 内:ナード	外:10V87/6暗黒褐色 内:10V87/6暗黒褐色	-
98	15-1区 VI層	土師器 碗	-	-	-	外:ナラケズリ 内:ナガキ	外:10V87/4明黒褐色 内:2.5V4/1 黑色	-
99	15-1区 VI層	土師器 碗	-	6.0	-	外:ナラケズリ 内:ナード	外:10V87/4C.5A・黒褐色 内:10V87/4C.5A・黒褐色	底部ヘラケズリ
100	15-1区 VI層	土師器 小瓶	-	3.8	-	外:ナラケズリ 内:ナード	外:10V87/4C.5A・黒褐色 内:10V87/4C.5A・黒褐色	底部ヘラケズリ

表 13 15 区出土遺物観察表（石器）

報告番号	出土地区	層位	器種	石材	寸法 (mm)			重量(g)	備考
					長さ	幅	厚さ		
70	15-1区	黄褐色砂質土上層	石鏟	頁岩	28.4	12.1	5.3	1.4	-
71	15-2区	黑色土層	石鏟	玉髓	24.3	18.6	4.9	1.2	-
72	15-3区	黑褐色土層	石鏟	チャート	19.2	13.4	4.1	0.9	先端部・脚部欠損
73	15-2区	黑褐色土層	石鏟	チャート	16.4	13.8	3.2	0.5	脚部欠損
74	15-1区	黄褐色砂質土上層	石鏟	玉髓	15.0	15.7	3.5	0.7	先端部欠損
75	15-1区	黄褐色砂質土	石鏟	黑曜岩 I c	16.7	17.5	4.1	0.8	-
76	15-1区	黄褐色砂質土	石鏟	チャート	29.9	9.7	8.0	2.2	-
77	15-1区	黄褐色砂質土上層	石鏟	チャート	34.8	26.4	8.7	6.1	-
78	15-1区	黑色砂質土	削器	黑曜岩 II	48.6	29.3	11.5	10.6	-
79	15-1区	黄褐色土最上層	磨石	砂岩	93.8	73.3	32.6	339.8	-
80	15-2区	-	磨石	砂岩	129.9	94.3	42.0	801.7	-
81	15-1区	黄褐色砂質土	磨石	砂岩	125.3	94.5	46.0	881.2	-
82	15-1区	黄褐色砂質土下層	磨石	砂岩	129.8	96.7	42.0	755.1	-
83	15-2区	黑色土層	磨製石斧	ホルンフェルス	120.6	55.0	35.8	371.9	-
84	15-2区	茶褐色土層	磨製石斧	ホルンフェルス	114.5	65.8	32.7	280.9	先端部欠損
85	15-2区	黑色土層	磨製石斧	ホルンフェルス	87.0	57.7	31.1	240.9	-
86	15-2区	茶褐色土層	石錐	粘板岩	27.2	34.8	6.2	9.6	-
87	15-2区	茶褐色土層	石錐	粘板岩	52.1	30.5	10.4	25.1	-
88	15-1区	黄褐色砂質土上層	十字形石器	粘板岩	117.3	122.2	20.8	193.6	-
101	15-1区	黄褐色砂質土	砾石	砂岩	7.5	3.8	1.4	60.0	-

第3章

第15節 山中遺跡16区



第 15 節 山中遺跡 16 区の調査

1 山中遺跡 16 区調査の概要

山中遺跡 16 区(以下 16 区)は、平成 20 年度に発掘調査を実施し、平成 19 年度に調査を行った 14 区の南側隣接地、15 区の西側隣接地に位置する。調査は基本土層 IV 層(褐色土層)上面まで重機による掘削を行い、基本土層 IV 層(褐色土層)からは、人力による掘削に切替えて調査を行った。

調査の結果、基本土層 IV 層(褐色土層)からは、弥生時代後期～古墳時代前期の遺物が出土し、この包含層を掘り下げた基本土層 VI 層(黒色土層)上面で遺構検出を行ったところ、弥生時代後期～古墳時代前期の土坑や焼土、中世の土坑、近世の溝などを検出したことから、この面を 1 面目(上層)として調査を行った。1 面目の調査終了後、基本土層 VI 層(黒色土層)の掘削を行い、この層より縄文時代前期の曾畠式や後期前葉～中葉の市来式・鐘崎式・北久山根式・丸尾式などが出土した。基本土層 VI 層(黒色土層)掘削後、基本土層 VII 層(暗褐色土層)上面を 2 面目(下層)として遺構検出を行ったところ、土坑や小穴を多数検出した。

2 2 面目(下層)の遺構と遺物

土坑

SC14 (図 217)

調査区中央 H7 区画に位置する。平面形は長軸 1.67m、短軸 1.32m の不整橢円形で、深さ 0.45m を測る。底面は平坦で、壁は直角気味に立ち上がる。遺物は縄文時代後期前葉～中葉頃の台付皿形土器が 1 層より出土した。

SC14 出出土器 (図 217)

1 は台付皿形土器の底部および皿の基部で、接合はしないが同一個体と考えられる。文様は底部外面に沈線および刺突が観察される。

遺構外出土遺物

縄文時代前期～後期の土器 (図 218～219)

1～16 は沈線および刺突により文様を施すもので、2～4 は口縁部付近で僅かに外反し、内外面に三角形状の区画が観察される。5 は口縁部内外面に刺突を施すもので、放射線炭素年代測定の結果、 5080 ± 40 年 BP (1 σ の曆年代で BC3960～3900、3880～3800 年) の年代値が得られている。11～15 は 2 本単位の沈線により文様を施す。

17～31 は口縁部を肥厚気味に形成し、沈線・刺突・貝刺突などの文様を施すもの。18 は内面にも流水文状の文様を施す。21 は肥厚する口縁部に沈線と刺突を施すもので、放射線炭素年代測定の結果、 3490 ± 40 年 BP (1 σ の曆年代で BC1880～1750 年) の年代値が得られている。25・26 は肥厚部下端に刻みを持つ。31 は肥厚気味に口縁部を形成し、口唇部には W 字状の貼付を行う。

32～35 は北部九州に分布の中心がある鐘崎式の鉢である。35 は口縁部を肥厚気味に形成し、口縁部には 2 本沈線と 8 字状の突起が認められる。突起下には S 字文を配し、強く屈曲する脛部には縄文を伴う渦巻文と鐘崎式通有の横長の J 字状の文様を施す。

36～41 は口縁部を「く」の字に屈曲させ、貝刺突を行うものである。44 は上げ底の底部。

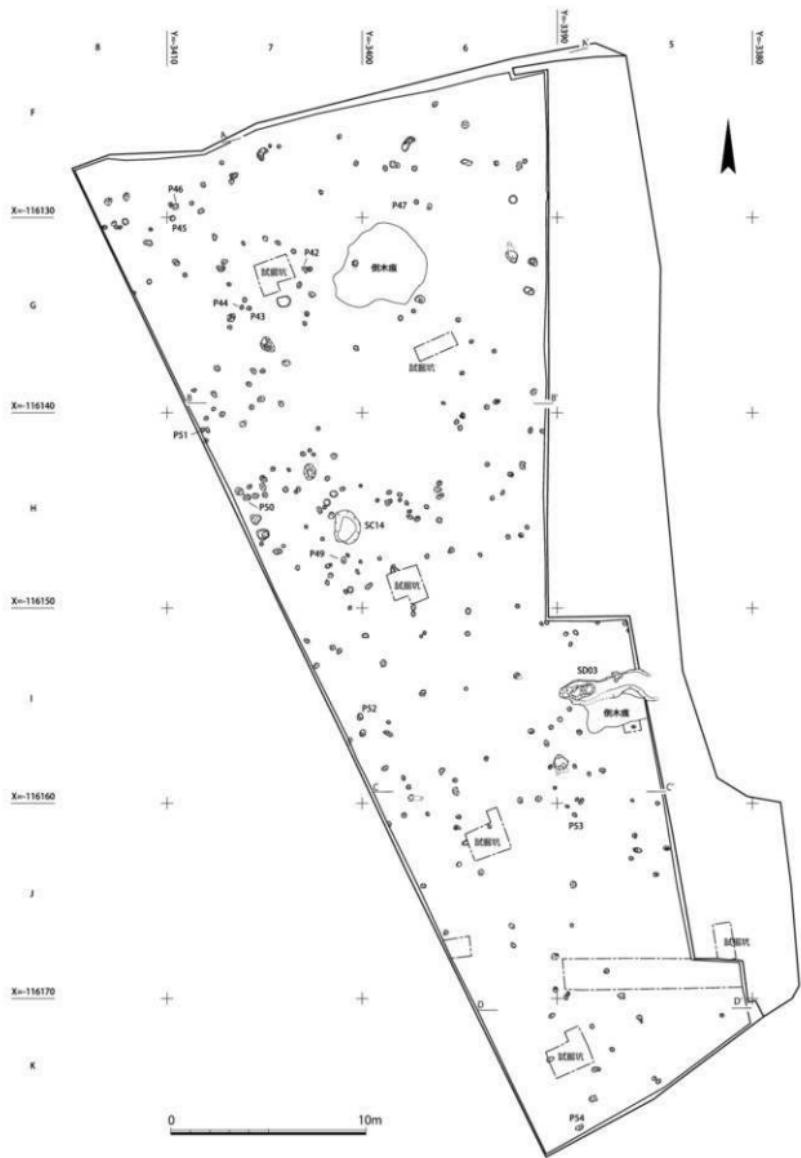


図 215 山中通跡 16 区 2 面目（下層）の遺構配置図（1/250）

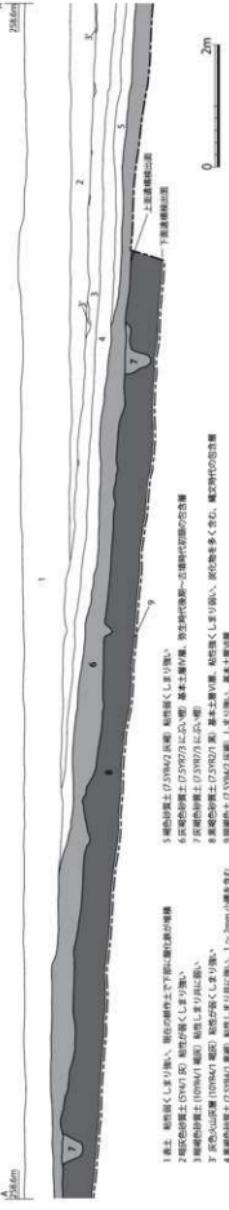


図 216 山中道跡 16 区の土層図 (1/80)

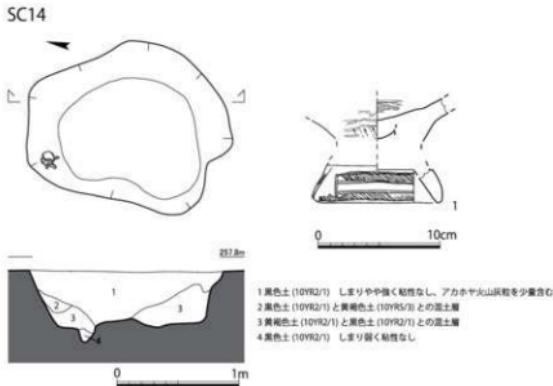


図 217 SC14 土坑 (1/40)・出土遺物 (1/4)

打製石器 (図 220)

45 ~ 48 は二等辺三角形の石鏃で、抉りの深い凹基である。

49 は横長剥片の縁辺を調整加工した削器、50 は両面剥離調整を行うものである。51 ~ 53 は縦長の石匙で縁辺に調整加工が認められる。

砾石器 (図 220)

54 ~ 56 は安山岩を用いた磨石である。

3 1 面目（上層）の遺構と遺物**不明遺構****SX04 (図 222)**

調査区中央部 H6 区画に位置する。平面形は長軸 3.13m、短軸 2.83m の方形で、深さ 0.09m を測る。底面は平坦で、壁はしっかりと立ち上がる。竪穴住居の可能性も含めて調査を行っていたが、明確な柱穴を検出できなかつたため不明遺構として報告する。埋土は基本土層IV層（褐色土層）で、遺物は古墳時代前期の土師器表が出土した。

SX04 出土遺物 (図 225)

57 は頭部に刻目突帯を廻らす土師器表で、口縁部から頭部にかけてハケ目調整が顕著に観察される。

焼土遺構**SX11 (図 223)**

調査区北西隅 G8 区画に位置する。浅い掘り込みに硬化した焼土が堆積し、範囲は長軸 1.35m+α、短軸 0.86m で、深さ 0.09m を測る。東側で SC01 と重複関係にあり、SC01 より古い。遺物は古墳時代前期の土師器表が出土した。

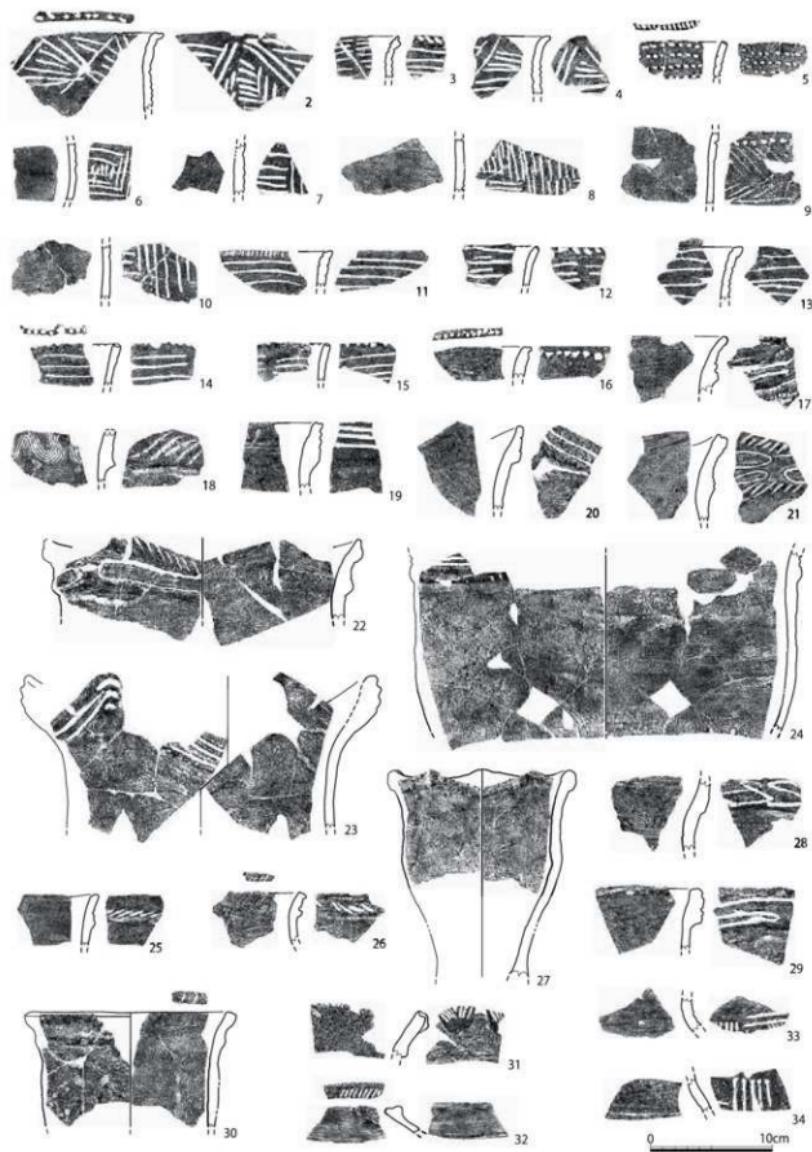


図 218 16 区遺構外出土遺物 1 (1/4)

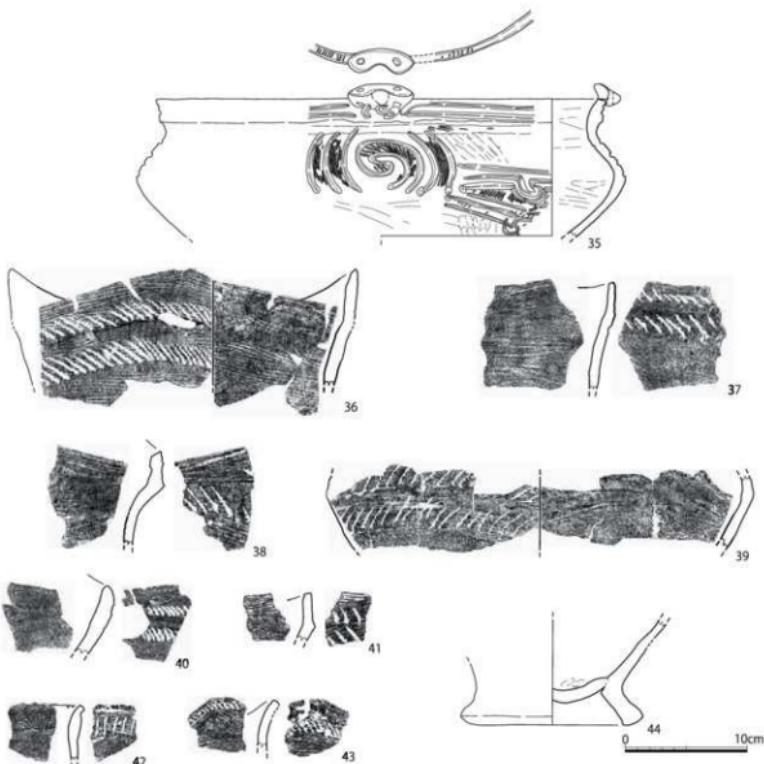


図 219 16 区遺構外出土遺物 2 (1/4)

SX11 出土遺物 (図 225)

59 は胸部から口縁部にかけて緩やかに外反する土師器甕である。

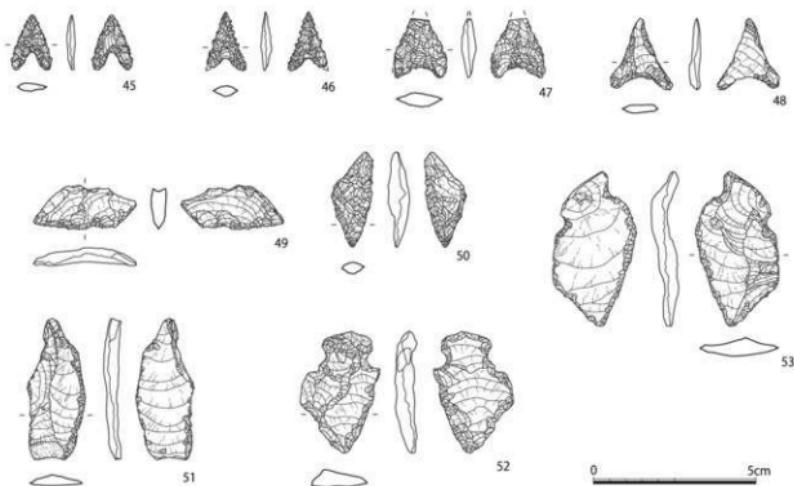
土坑

SC09 (図 223)

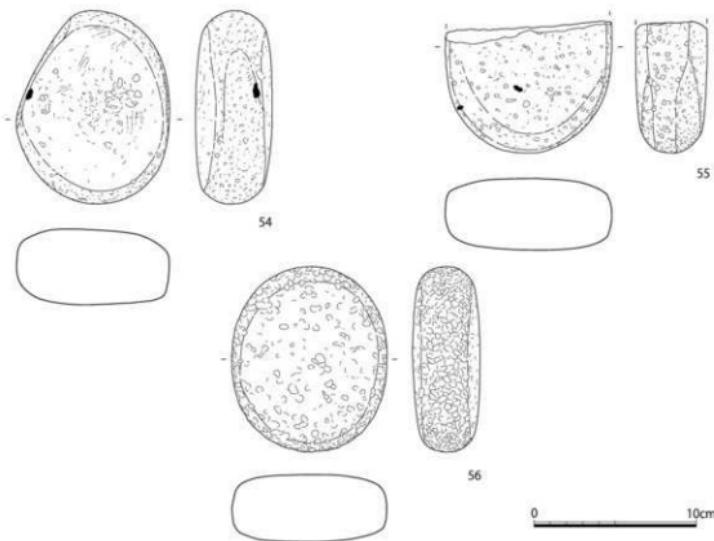
調査区中央部 H7 区画に位置する。平面形は長軸 1.64m、短軸 1.20m の不整橢円形で、深さ 0.70m を測る。縦断面は 2 段掘り状をなし、底面は平坦である。遺物は出土しなかつたため時期不詳であるが、基本土層IV 層（褐色土層）に類似する埋土であり、弥生時代後期から古墳時代前期頃の可能性もある。

SC01 (図 223)

調査区北東隅 G8 区画に位置する。平面形は長軸 2.35m、短軸 0.67m の不整長方形で、深さ 0.22m を測る。底面は平坦で、壁は直角気味に立ち上がる。埋土は暗褐色で、5 ~ 10mm 程度の火山灰起源と思われる灰色の砂粒が多く含まれていた。遺物は中世の白磁皿が出土した。



0 5cm



0 10cm

図 220 16 区遺構外出土遺物 3 (45 ~ 52 : 2/3 54 ~ 56 : 1/3)

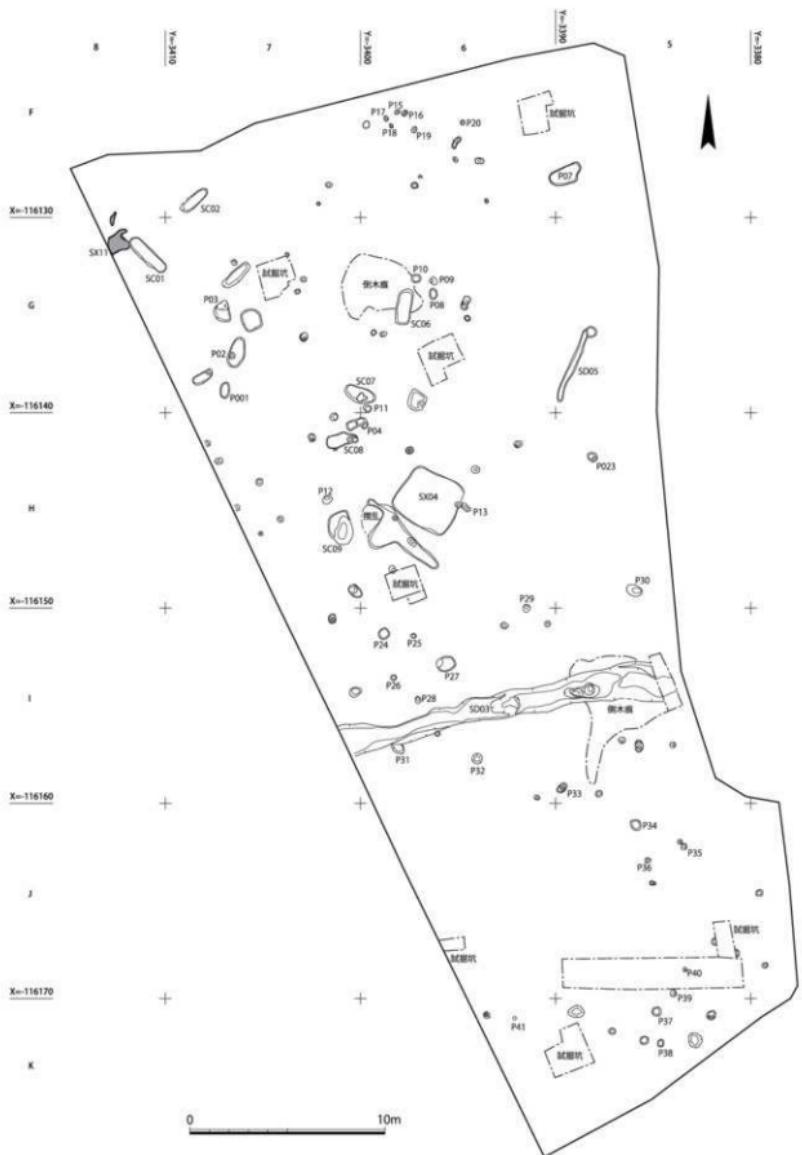


図 221 山中通跡 16 区 1 面目（上層）の遺構配置図（1/250）

SC01 (図 225)

白磁皿で復元口径は 11.6cm を測る。

SC06 (図 223)

調査区北東隅 G6 区画に位置する。平面形は長軸 1.83m、短軸 0.76m の不整長方形で、深さ 0.15m を測る。底面は平坦で、壁はしっかりと立ち上がる。埋土は SC01 と同質である。遺物が出土しなかったため時期不詳であるが、SC01 に近い時期と想定される。

SC07 (図 223)

調査区北側 G6・7 区画に位置する。平面形は長軸 1.65m、短軸 0.76m の不整橢円形で、深さ 0.22m を測る。底面は平坦で、壁はしっかりと立ち上がる。埋土は、基本土層IV層（褐色土層）に類似するもので、東側には焼土を確認した。遺物が出土しなかったため時期不詳である。

SC08 (図 223)

調査区北側 H7 区画に位置する。平面形は長軸 1.64m、短軸 0.63m の不整橢円形で、深さ 0.10m を測る。底面は平坦で、壁はしっかりと立ち上がる。埋土は、基本土層IV層（褐色土層）に類似するものであったが、遺物が出土しなかったため時期不詳である。

溝

SD03 (図 224)

調査区中央部南寄りの I5・6 区画に位置する流路で、西から東へ直線的に流れる。長さ 17.2m+α、幅 0.8 ~ 2.0m、深さ 0.2 ~ 0.7m を測る。西側は上部が掘削を受けており、西側土層断面（A-A'）では、数度にわたる田圃の掘り返しが確認できた。埋土の下層部分には、礫・砂・砂質シルトが認められ流水があったものと考えられる。遺物は

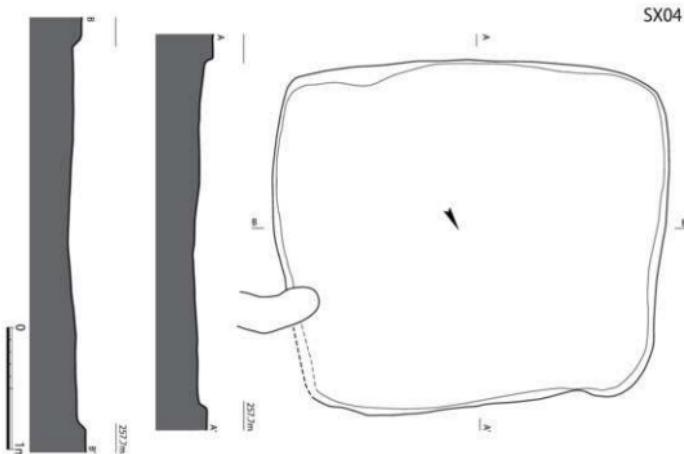


図 222 SX04 不明遺構 (1/60)

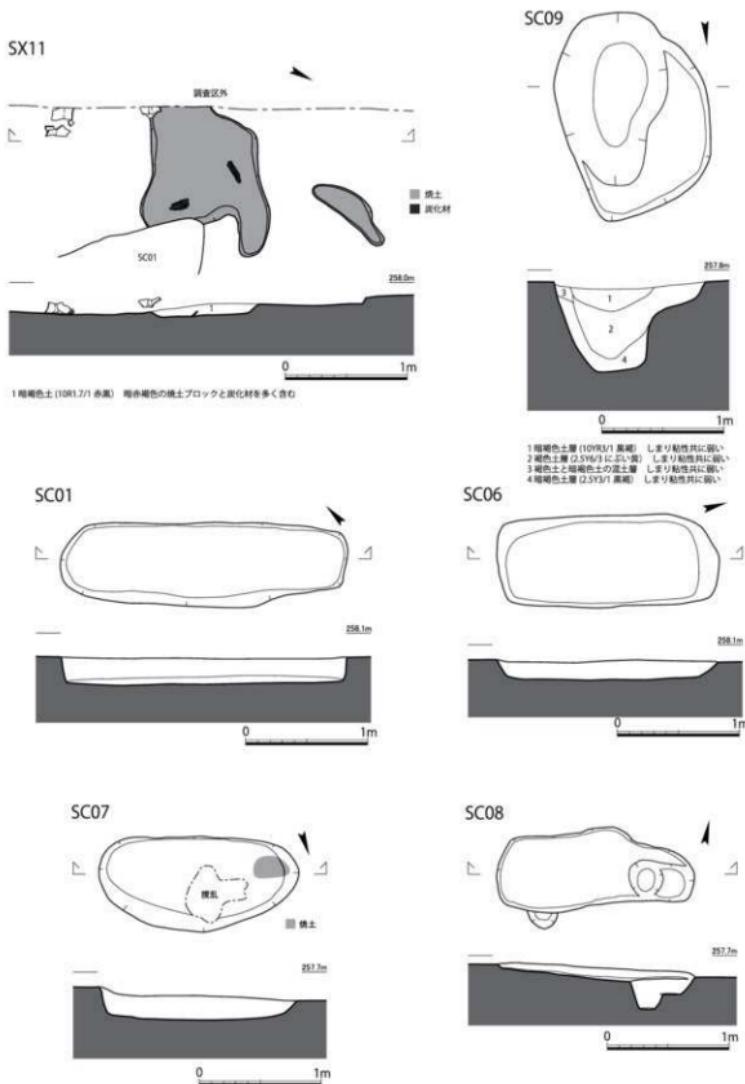


図 223 SX11 焼土 SC01・06・07・08・09 土坑 (1/40)

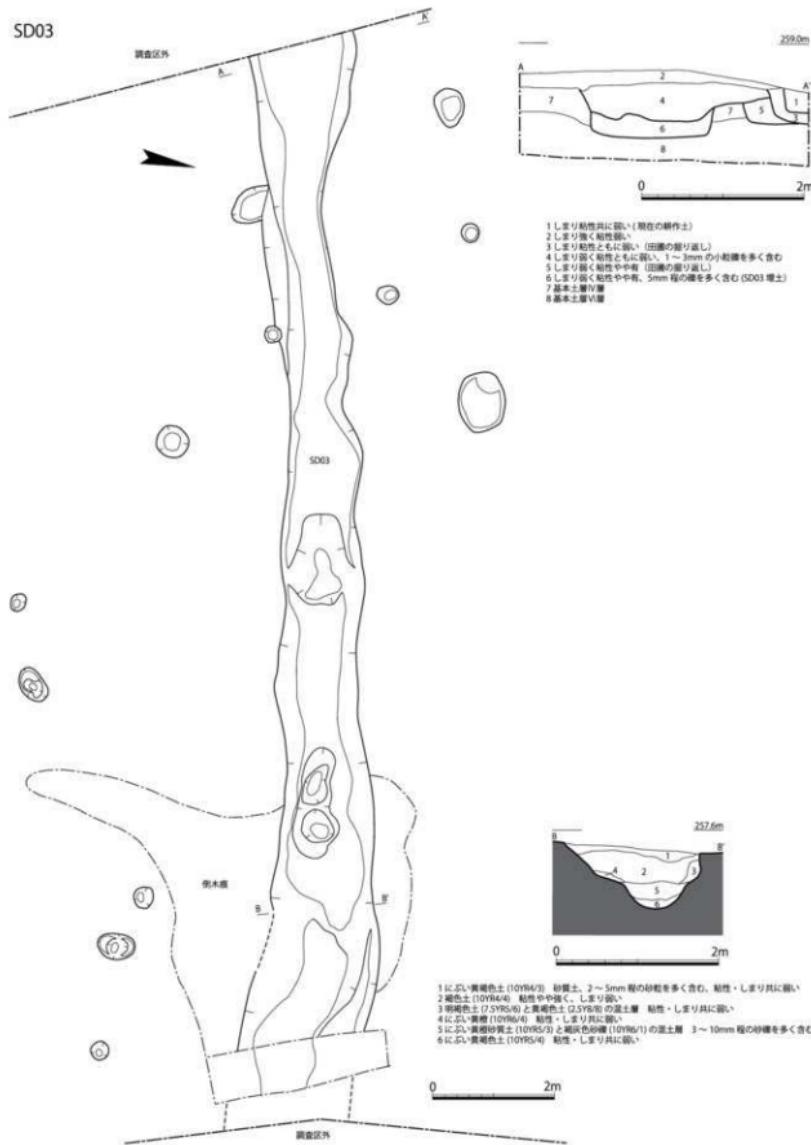
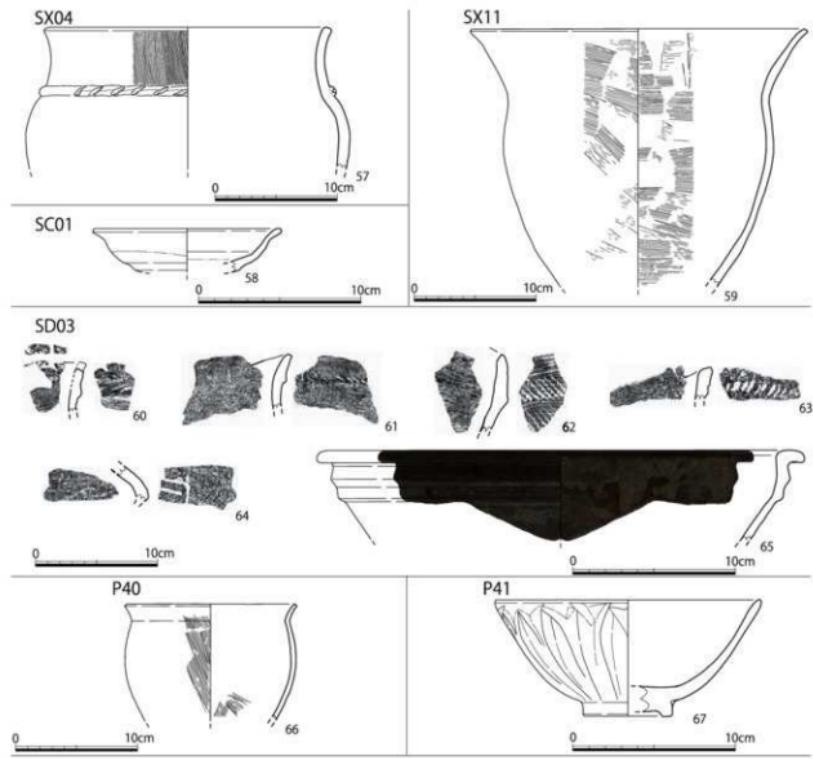


図 224 SD03 溝平面図 (1/80)・断面図 (1/60)



遺構外出土遺物

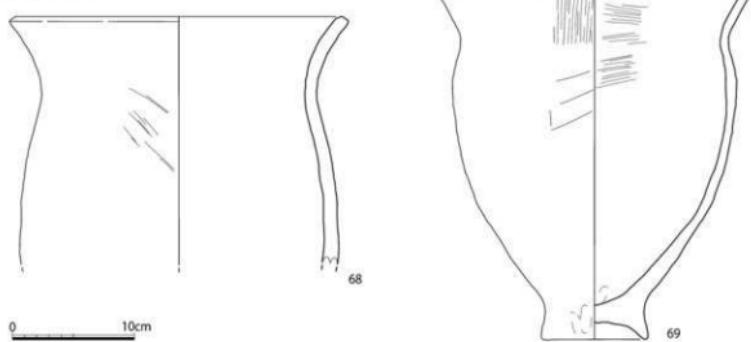


図 225 SX04・11 SC01 SD03 P40・41 1面（上層）遺構外出土遺物（58・65・67：1/3 その他：1/4）

近世の陶磁器が出土した。

SD03 出土遺物（図 224）

60 ~ 64 は撻文時代後期中葉の土器で、60・61・64 は北久根山式併行期、62・63 は丸尾式。64 は近世薩摩焼の擂鉢。

小穴（図 221）

1 面目（上層）からは、小穴が多数検出しており、調査時ならびに整理作業時に掘立柱建物などの建物遺構の検討を行ったが、組み合わせを抽出することは出来なかった。検出した小穴の多くは、基本土層IV層（褐色土層）に類似する埋土であったが、中世の青磁碗を出土した P41 は暗褐色土層で火山灰起源と考えられる灰色の砂粒を含んでいた。

小穴出土遺物（図 224）

66 は P40 より出土したもので、口縁部を「く」の字状に外反させる弥生時代後期後半から古墳時代初頭頃の甕。内外面にハケ目調整が認められる。67 は P41 から出土した、錦蓮弁文の竜泉窯系青磁碗である。

遺構外出土遺物（図 225）

68 は胴部から緩やかに外反する土師器甕、69 はほぼ完形の弥生時代後期後半から古墳時代初頭頃の甕。

表 14 16 区出土遺物観察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法(cm)			調整	色調	備考
			口径	底径	高さ			
1	SK14	調文土器 台付盆形	-	10.6	-	外:ナードー沈縁→斜み 内:ナード	外:SVR5/6明赤褐 内:SVR5/6明赤褐	-
2	G7	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー沈縁 内:ナードー沈縲	外:10VR3/1黒褐 内:10VR3/6明黄褐	-
3	16-17 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー削突・沈縲 内:ナードー沈縲	外:SVR1/4C・5A・5B 内:SVR5/6明赤褐	-
4	P28	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー沈縲 内:ナードー沈縲	外:SVR3/3暗赤褐 内:SVR1/6赤褐	-
5	F8 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー削突 内:ナードー削突	外:2.5VR3/7暗赤褐 内:2.5VR5/8明赤褐	14C年代測定資料No.13 209928
6	16-17 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー沈縲→削突 内:ナード	外:SVR5/6明赤褐 内:SVR5/6明赤褐	-
7	H7 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー沈縲 内:ナード	外:10VR3/4C・5A・5B 内:10VR4/2K黄褐	-
8	16-17 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー沈縲 内:ナード	外:10VR6/4C・5A・5B 内:10VR6/4C・5A・5B	-
9	G7 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー沈縲→削突 内:ナード	外:2.5VR1/6赤褐 内:SVR1/8赤褐	-
10	H6 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー沈縲 内:ナード	外:10VR6/6明赤褐 内:10VR5/4C・5A・5B	-
11	J5-6 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー沈縲 内:ナードー沈縲	外:10VR3/2黒褐 内:10VR4/2K黄褐	-
12	16-17 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー沈縲 内:ナードー沈縲	外:7.5VR6/6明 内:10VR6/4C・5A・5B	-
13	16-17 VI層	調文土器 深鉢	-	-	-	外:ナードー沈縲 内:ナードー沈縲	外:7.5VR5/7暗 内:7.5VR4/7暗	-

表14 16区出土遺物觀察表（土器）

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法(cm)			調査	色調	備考
			口径	底径	器高			
14	16-17 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー沈縫 内:ナゲー沈縫	外:10VR6/4L5.5-黄褐 内:10VR6/3L5.5-黄褐	-
15	J5-J6 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー沈縫 内:ナゲー沈縫	外:10VR6/4L5.5-黄褐 内:10VR4/2L5 黄褐	-
16	H7 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー貝刺突 内:ナゲ	外:7.SV6/3黒褐 内:7.SV6/2黒	-
17	E6 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー沈縫→貝刺突 内:ナゲ	外:7.SV6/4黒褐 内:7.SV6/3黒褐	-
18	G6 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー貝刺突 内:ナゲー沈縫	外:SVR6/6黒 内:7.SV6/6黒	-
19	16-17 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー沈縫 内:ナゲ	外:7.SV6/3黒褐 内:SVR6/6黒褐	-
20	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー沈縫 内:ナゲ	外:SVR5/6黒赤褐 内:SVR2/3黒赤褐	-
21	F37	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー沈縫→朝突 内:ナゲ	外:7.SV6/2黒褐 内:SVR2/2黒褐	14C年代測定資料No.9 200924
22	J5-J6 VI層	圓文土器 深鉢	(26.0)	-	-	外:ナゲー沈縫 内:ナゲ	外:10VR6/2黒褐 内:10VR3/2黒褐	-
23	G6 VII層	圓文土器 深鉢	(29.0)	-	-	外:ナゲー沈縫 内:ナゲ	外:SVR2/2黒褐 内:SVR4/4L5.5-赤褐	-
24	E5 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー沈縫 内:ナゲ	外:2.SV6/2黒褐赤褐 内:2.SV6/5黒褐	-
25	E5 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー朝突 内:ナゲ	外:10VR3/2黒褐 内:SVR5/6黒褐	-
26	G7 VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー朝突 内:ナゲ	外:SVR2/2黒褐 内:SVR1/6黒褐	-
27	E5 VI層	圓文土器 深鉢	(15.4)	-	-	外:ナゲ 内:ナゲ	外:SVR2/6黒 内:SVR3/2黒褐	-
28	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー沈縫 内:ナゲ	外:10VR3/2黒褐 内:10VR3/3黒褐	-
29	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー沈縫 内:ナゲ	外:7.SV6/5L4.5-赤 内:7.SV6/5L4.5-赤	-
30	SD03	圓文土器 深鉢	(17.0)	-	-	外:ナゲ 内:ナゲ	外:7.SV6/3黒褐 内:10VR3/1黒褐	-
31	J6 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー貼村→貝刺突 内:ナゲ	外:7.SV6/3黒褐 内:SVR5/6黒褐	-
32	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:エキモー沈縫 内:エキモー	外:SVR4/2黒褐 内:7.SV6/6黒	-
33	G6 VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:エキモー沈縫→闊太 内:エキモー	外:7.SV6/3黒褐 内:7.SV6/4黒	-
34	K5-K6 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:エキモー尤羅→闊文 内:エキモー	外:2.SV6/4黒褐 内:7.SV6/4黒褐	-
35	I5 GLO20	圓文土器 深鉢	(36.5)	-	-	外:ニガモー沈縫→闊文 内:ニガモー	外:10VR4/2黒褐 内:10VR3/2黒褐	-
36	J5-J6 VI層	圓文土器 深鉢	(29.3)	-	-	外:貝条縫→貝刺突 内:貝条縫→ナゲ	外:SVR3/2黒褐 内:SVR5/6黒褐	-
37	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー貝刺突 内:貝条縫→ナゲ	外:7.SV6/2黒褐 内:7.SV6/2黒褐	-
38	J5-J6 VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー凹縫→貝刺突 内:ナゲ	外:SVR5/6黒赤褐 内:SVR5/7黒赤褐	-
39	G6 VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー貝刺突 内:ナゲ	外:2.SV6/4黒赤褐 内:SVR5/6黒赤褐	-
40	F7	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー貝刺突 内:ナゲ	外:SVR3/2黒赤褐 内:SVR1/6黒赤褐	-
41	SD03	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー貝刺突 内:貝条縫→ナゲ	外:2.SV6/5黒赤褐 内:SVR5/6黒赤褐	-
42	VI層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー沈縫 内:ナゲ	外:10VR3/2黒褐 内:10VR3/3黒褐	-
43	G7 VII層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー貝刺突 内:ナゲ	外:SVR5/8黒赤褐 内:SVR2/1黒褐	-
44	G6 VII層	圓文土器 底盤	-	-	14.9	外:ナゲ 内:ナゲ	外:7.SV6/6黒 内:SVR5/6黒赤褐	-
57	SX04	土師器 盤	(23.6)	-	-	外:ハクモ→朝日突帯 内:ナゲ	外:10VR6/2赤黄褐 内:10VR6/3浅黄褐	-
58	SC01	白磁 盤	(11.6)	-	-	-	白:SV7/1灰白 白:SV6/1灰	-
59	SX11-2	土師器 盤	27.6	-	-	外:ナゲ 内:ナゲ	外:10VR6/2浅黄褐 内:10VR6/3浅黄褐	-
60	SD03 F層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー貝刺突 内:ナゲ	外:SVR6/8 内:SVR1/1黒	-
61	SD03	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー貝刺突 内:ナゲ	外:7.SV6/2黒褐 内:7.SV4/2黒	-
62	SD03 上層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲー貝刺突 内:貝条縫→ナゲ	外:SVR5/6黒赤褐 内:SVR6/8黒	-

山中遺跡 16 区の調査

表 14 16 区出土遺物観察表 (土器)

遺物番号	出土位置	種別 器種	寸法(cm)			調整	色調	備考
			口径	底径	器高			
63	SD03	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:ナゲ→病突 内:ナゲ	外:7.5VR4/3黒 内:10VR2/1黒	-
64	SD03 上層	圓文土器 深鉢	-	-	-	外:沈線・圓文・ナゲ 内:ナゲ	外:10VR/41.55・黄褐 内:2.5V5/3黒褐	-
65	SD03 下層	陶器 盆鉢	(30.0)	-	-	-	外:7.5VR4/2褐灰 内:10VR2/2黒粉	-
66	P40	土器器 甕	(14.1)	-	-	外:ハケ目・口縁付近ヨコナゲ 内:ヨコナゲ・ハケ目	外:10VR3/31.55・黄褐 内:10VR3/31.55・黄褐	-
67	P941	青磁 碗	(16.0)	5.5	-	-	外:N7/灰白 内:10GY7/1明緑灰	-
68	G8 VI層	土器器 甕	(27.7)	-	-	外:ナゲ 内:ナゲ	外:SVR2/2黒褐 内:SVR1/41.55・赤褐	-
69	H6 IV層	土器器 深鉢	25.9	8.8	28.8	外:ハケ目 内:ハケ目	外:7.5VR7/41.55・黒 内:7.5VR5/41.55・褐	-

表 14 16 区出土遺物観察表 (石器)

報告番号	出土地区	層位	器種	石材	寸法 (mm)			重量 (g)	備考
					長さ	幅	厚さ		
45	-	VI層	石器	黒曜岩IV	17.0	12.6	2.6	0.4	-
46	H7	VI層	石器	黒曜岩V	18.2	12.0	3.2	0.3	脚部欠損
47	G6	VI層	石器	黒曜岩Ic	18.2	16.6	4.4	1.0	先端部・脚部欠損
48	H6	VI層	石器	黒曜岩Ic	22.1	19.2	3.5	0.7	-
49	G7	VI層	削詰? 石器?	チャード	13.6	31.8	5.6	2.2	-
50	-	VI層	石器	チャード	29.6	12.9	6.7	2.0	-
51	I6・I7	VI層	石器	チャード	43.9	18.0	5.3	3.3	-
52	SD03	-	石器	チャード	37.7	24.0	6.8	5.3	-
53	I6	VI層	石器	チャード	47.9	26.0	8.5	5.8	-
54	-	VI層	磨石	砂岩	118.9	94.4	47.0	796.6	-
55	G6	VI層	磨石	安山岩	81.0	102.6	44.0	593.9	上半圓欠損
56	-	VI層	磨石	砂岩	114.0	95.5	41.6	760.9	-

第4章 山中遺跡発掘調査に伴う自然科学分析

株式会社 古環境研究所

第1節 放射性炭素年代測定

1 はじめに

放射性炭素年代測定は、光合成や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素 (^{14}C) の濃度が、放射性崩壊により時間とともに減少することを利用して年代測定法である。樹木や種実などの植物遺体、骨、貝殻、土壤、土器付着炭化物などが測定対象となり、約5万年前までの年代測定が可能である。

2 試料と方法

表 15 測定試料及び処理

試料名	試料・層準	種類	前処理・調整	測定法
No 1	200901, 7区	炭化物(土器付着)	acid/alkali/acid	AMS
No 2	200902, 3区, Z20	炭化物(土器付着)	acid/alkali/acid	AMS
No 3	200903a, 3区, AA18, VI層	炭化物(土器付着)	acid/alkali/acid	AMS
No 4	200904, 8区	炭化物(土器付着)	acid/alkali/acid	AMS
No 5	200905, 7区	炭化物(土器付着)	acid/alkali/acid	AMS
No 6	200906, 7区, AG09	炭化物(土器付着)	acid/alkali/acid	AMS
No 7	200907, 15-2区	炭化物(土器付着)	acid/alkali/acid	AMS
No 8	200923	炭化物(土器付着)	acid washes	AMS
No 9	200924	炭化物(土器付着)	acid/alkali/acid	AMS
No 10	200925	炭化物(土器付着)	acid washes	AMS
No 11	200926	炭化物(土器付着)	acid/alkali/acid	AMS
No 12	200927	炭化物(土器付着)	acid/alkali/acid	AMS
No 13	200928 16区, F08, VI層	炭化物(土器付着)	acid/alkali/acid	AMS
No 14	200929 7区, AG08, I層	炭化物(土器付着)	acid/alkali/acid	AMS
No 15	200930 13区, VI層	炭化物(土器付着)	acid/alkali/acid	AMS
No 16	200931 8区, SC19	炭化物(炭化種実)	acid/alkali/acid	AMS

acid/alkali/acid : 酸 - アルカリ - 酸洗浄, AMS : 加速器質量分析法 (Accelerator Mass Spectrometry)

3 測定結果

(1) 未補正 ^{14}C 年代

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在 (AD1950年) から何年前かを計算した値。 ^{14}C の半減期は5,730年であるが、国際的慣例により Libby の5,568年を用いている。

(2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表す。試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を -25(‰) に標準化することで同位体分別効果を補正する。

(3) ^{14}C 年代

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値により同位体分別効果を補正して算出した年代。曆年代較正にはこの年代値を使用する。

表 16 放射性炭素年代測定及び歴年較正の結果

試料名	測定No. (Betn-)	未補正 ^{14}C 年代 (年 BP)	$\delta^{14}\text{C}$ (‰)	^{14}C 年代 (年 BP)	曆年代(較正年代) (2σ : 95%確率, 1σ : 68%確率)
No. 1	254160	4220 ± 40	-24.8	4220 ± 40	交点: Cal BC 2880 2σ : Cal BC 2900-2850, 2810-2740 2730-2690 1σ : Cal BC 2890-2870, 2800-2780
No. 2	254161	4110 ± 40	-25.5	4100 ± 40	交点: Cal BC 2630 2σ : Cal BC 2870-2800, 2780-2560 2520-2500 1σ : Cal BC 2850-2810, 2740-2730 2690-2580
No. 3	254162	4170 ± 40	-25.6	4160 ± 40	交点: Cal BC 2860, 2800, 2750, 2710 2σ : Cal BC 2880-2610, 2600-2590 1σ : Cal BC 2870-2840, 2820-2670
No. 4	254163	3930 ± 40	-25.6	3920 ± 40	交点: Cal BC 2460 2σ : Cal BC 2550-2540, 2490-2290 1σ : Cal BC 2470-2390, 2390-2340
No. 5	254164	3830 ± 40	-25.5	3820 ± 40	交点: Cal BC 2280, 2240 2σ : Cal BC 2450-2140 1σ : Cal BC 2300-2200
No. 6	254165	3720 ± 40	-25.6	3710 ± 40	交点: Cal BC 2130, 2080, 2060 2σ : Cal BC 2200-2010, 2000-1980 1σ : Cal BC 2190-2180, 2140-2030
No. 7	254166	3410 ± 40	-25.4	3400 ± 40	交点: Cal BC 1690 2σ : Cal BC 1860-1850, 1770-1610 1σ : Cal BC 1740-1650
No. 8	255866	—	*	3980 ± 40	交点: Cal BC 2480 2σ : Cal BC 2580-2450 1σ : Cal BC 2560-2520, 2500-2470
No. 9	255867	3510 ± 40	-26.0	3490 ± 40	交点: Cal BC 1870, 1850, 1780 2σ : Cal BC 1920-1730, 1720-1690 1σ : Cal BC 1880-1750
No. 10	254168	—	*	3880 ± 40	交点: Cal BC 2390, 2340 2σ : Cal BC 2470-2210 1σ : Cal BC 2460-2290
No. 11	255869	3450 ± 40	-25.8	3440 ± 40	交点: Cal BC 1740 2σ : Cal BC 1880-1650 1σ : Cal BC 1860-1850, 1770-1690
No. 12	255870	3430 ± 40	-26.0	3410 ± 40	交点: Cal BC 1730, 1720, 1690 2σ : Cal BC 1870-1850, 1780-1620 1σ : Cal BC 1750-1670
No. 13	264424	5150 ± 40	-29.1	5080 ± 40	交点: Cal BC 3940, 3850, 3820 2σ : Cal BC 3970-3780 1σ : Cal BC 3960-3900, 3880-3800
No. 14	264425	4770 ± 40	-25.7	4760 ± 40	交点: Cal BC 3630, 3580, 3530 2σ : Cal BC 3640-3500, 3430-3380 1σ : Cal BC 3630-3520
No. 15	264426	4220 ± 40	-25.7	4210 ± 40	交点: Cal BC 2880 2σ : Cal BC 2900-2840, 2810-2670 1σ : Cal BC 2890-2860, 2800-2760
No. 16	264427	3780 ± 40	-24.3	3790 ± 40	交点: Cal BC 2200 2σ : Cal BC 2340-2130, 2080-2060 1σ : Cal BC 2290-2190, 2180-2140

BP: Before Physics (Present), Cal: Calibrated, BC: 紀元前, AD: 紀元後

*: 炭素量不足のため $\delta^{14}\text{C}$ の測定不能

(4) 历年代 (Calendar Age)

過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中¹⁴C濃度の変動および¹⁴Cの半減期の違いを較正することで、より実際の年代値に近づけることができる。曆年較正には、年代既知の樹木年輪の詳細な¹⁴C測定値およびサンゴのU/Th（ウラン／トリウム）年代と¹⁴C年代の比較により作成された較正曲線（IntCal04）を使用した。

曆年代の交点は、¹⁴C年代値と較正曲線との交点の曆年代値を示し、 ${}^{\sigma}$ (68%確率) と ${}^{2\sigma}$ (95%確率) は、¹⁴C年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した曆年代の幅を示す。したがって、複数の交点や複数の ${}^{\sigma}$ ・ ${}^{2\sigma}$ 値が表記される場合もある。

4 所見

加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定の結果、№1では 4220 ± 40 年BP（ ${}^{\sigma}$ の曆年代でBC2890～2870, 2800～2780年）、№2では 4100 ± 40 年BP（BC2850～2810, 2740～2730, 2690～2580年）、№3では 4160 ± 40 年BP（BC2870～2840, 2820～2670年）、№4では 3920 ± 40 年BP（BC2470～2340年）、№5では 3820 ± 40 年BP（BC2300～2200年）、№6では 3710 ± 40 年BP（BC2190～2180, 2140～2030年）、№7では 3400 ± 40 年BP（BC1740～1650年）、№8では 3980 ± 40 年BP（BC2560～2520, 2500～2470年）、№9では 3490 ± 40 年BP（BC1880～1750年）、№10では 3880 ± 40 年BP（BC2460～2290年）、№11では 3440 ± 40 年BP（BC1860～1850, 1770～1690年）、№12では 3410 ± 40 年BP（BC1750～1670年）、№13では 5080 ± 40 年BP（ ${}^{\sigma}$ の曆年代でBC3970～3780年）、№14では 4760 ± 40 年BP（BC3640～3500, 3430～3380年）、№15では 4210 ± 40 年BP（BC2900～2840, 2810～2670年）、№16では 3790 ± 40 年BP（BC2340～2130, 2080～2060年）の年代値が得られた。

文献

Paula J Reimer et al. (2004) IntCal04 Terrestrial radiocarbon age calibration, 26-0 ka BP. Radiocarbon 46, 1029-1058.

尾崎大真（2005）INTCAL98からIntCal04へ。学術側成研究費 弥生農耕の起源と東アジア№3－炭素年代測定による高精度編年体系の構築－。p.14-15。

中村俊夫（1999）放射性炭素法。考古学のための年代測定学入門。古今書院。p.1-36。

第2節 樹種同定

1 はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から樹種の同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が小さいことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

2 試料

試料は、各遺構から採取された炭化材 5 点である。試料の詳細を表 17 に示す。

3 方法

試料を割折して新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柾目）、接線断面（板目）の基本三断面の切片を作製し、落射顕微鏡によって 50 ~ 1000 倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

4 結果

表 17 に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

イヌガヤ *Cephalotaxus harringtonia* K. Koch イヌガヤ科 図 226-1

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。横断面：早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材の幅は非常に狭く、樹脂細胞が散在する。放射断面：放射柔細胞の分野壁孔はトウヒ型で 1 分野に 1 ~ 2 個存在する。仮道管の内壁にらせん肥厚が存在する。樹脂細胞が散在する。接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で 1 ~ 10 細胞高ぐらいである。仮道管の内壁にらせん肥厚が存在する。樹脂細胞が多く見られる。

以上の形質よりイヌガヤに同定される。イヌガヤは、岩手県以南の本州、四国、九州に分布する。常緑の低木または小高木で、高さ 10 ~ 15 m、径 20 ~ 30 cm である。材は、やや堅硬で木理は緻密であるが不整でしばしば波状を呈する。建築、器具、土木、ろくろ細工、薪炭などに用いられる。

ケヤキ *Zelkova serrata* Makino ニレ科 図 226-2

横断面：年輪のはじめに大型の道管が 1 ~ 2 列配列する環孔材である。孔圈部外の小道管は多数複合して円形、接線状ないし斜線状に配列する。放射断面：道管の穿孔は單穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞であるが、上下の縁辺部のものは方形細胞でしばしば大きくふくらんでいるものがある。接線断面：放射組織は異性放射組織型で、上下の縁辺部の細胞のなかには大きくふくらんでいるものがある。幅は 1 ~ 7 細胞幅である。

以上の形質よりケヤキに同定される。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ 20 ~ 25 m、径 60 ~ 70 cm ぐらいであるが、大きいものは高さ 50 m、径 3 m に達する。材は強韌で従曲性に富み、建築、家具、器具、船、土木などに用いられる。

ヤマガワ *Morus australis* Poiret クワ科 図 226-3

横断面：年輪のはじめに中型から大型の丸い道管が単独あるいは 2 ~ 3 個複合して配列する環孔材である。孔圈部外の小道管は複合して円形の小塊をなす。道管の径は徐々に減少する。放射断面：道管の穿孔は單穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞であるが、上下の縁辺部の 1 ~ 3 細胞ぐらいは直立細胞である。接線断面：放射組織は上下の縁辺部が直立細胞からなる異性放射組織型で、1 ~ 6 細胞幅であ

る。小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。

以上の形質よりヤマグワに同定される。ヤマグワは北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉高木で、通常高さ 10 ~ 15m、径 30 ~ 40cm である。材は堅硬、韌性に富み、建築などに用いられる。

クスノキ科 Lauraceae 図 227-4

横断面：中型から小型の道管が単独および 2 ~ 数個放射方向に複合して散在する散孔材である。道管の周囲を鞘状に軸方向柔細胞が取り囲んでいる。放射断面：道管の穿孔は単穿孔のものが存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞で上下の縁辺部が直立細胞からなる。接線断面：放射組織は異性放射組織型で 1 ~ 3 細胞幅である。上下の縁辺部のみ直立細胞である。

以上の形質よりクスノキ科に同定される。クスノキ科には、クスノキ、ヤブニッケイ、タブノキ、カゴノキ、シロダモ属などがあり、道管径の大きさ、多孔穿孔および道管内壁のらせん肥厚の有無などで細分できる。本試料は道管径以外の点が不明瞭なためクスノキ科の同定にとどめたが、道管径の大きさからクスノキ以外のクスノキ科の樹種のいずれかである。

5 所見

樹種同定の結果、イヌガヤ 1 点、ケヤキ 1 点、ヤマグワ 1 点、クスノキ科 2 点が同定された。イヌガヤは、温帯に分布する針葉樹で、森林下の谷側などに生育し、適潤性の土壤に生育する。ケヤキは、温帯に分布する落葉広葉樹で、谷沿いなどの適潤な肥沃地に生育する。ヤマグワは温帯に広く分布する落葉広葉樹で、低山地の林内などに生育する。クスノキ科は温帯下部の温暖な暖温帯に分布し、照葉樹林の主要構成要素を含む常緑高木である。いずれも当時の遺跡周辺もしくは近隣の地域で採取可能な樹種であったと考えられる。

文献

島地謙・佐伯浩・原田浩・塩倉高義・石田茂雄・重松頼生・須藤彰司（1985）木材の構造、文永堂出版、290p.

島地謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧、雄山閣、296p.

山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成—用材から見た人間・植物関係史、植生史研究特別1号、植生史研究会、242p.

表 17 山中遺跡における樹種同定結果

試料番号	調査区	遺構	備考	結果 (学名/和名)
200918	2 区	SA 5	埋土一括	<i>Morus australis</i> Poiret ヤマグワ
200919	8 区	SA16		<i>Zelkova serrata</i> Makino ケヤキ
200920	8 区	SA18	土坑内	Lauraceae クスノキ科
200921	8 区	SA33		Lauraceae クスノキ科
200922	8 区	SC29		<i>Cephalotaxus harringtonia</i> K. Koch イヌガヤ

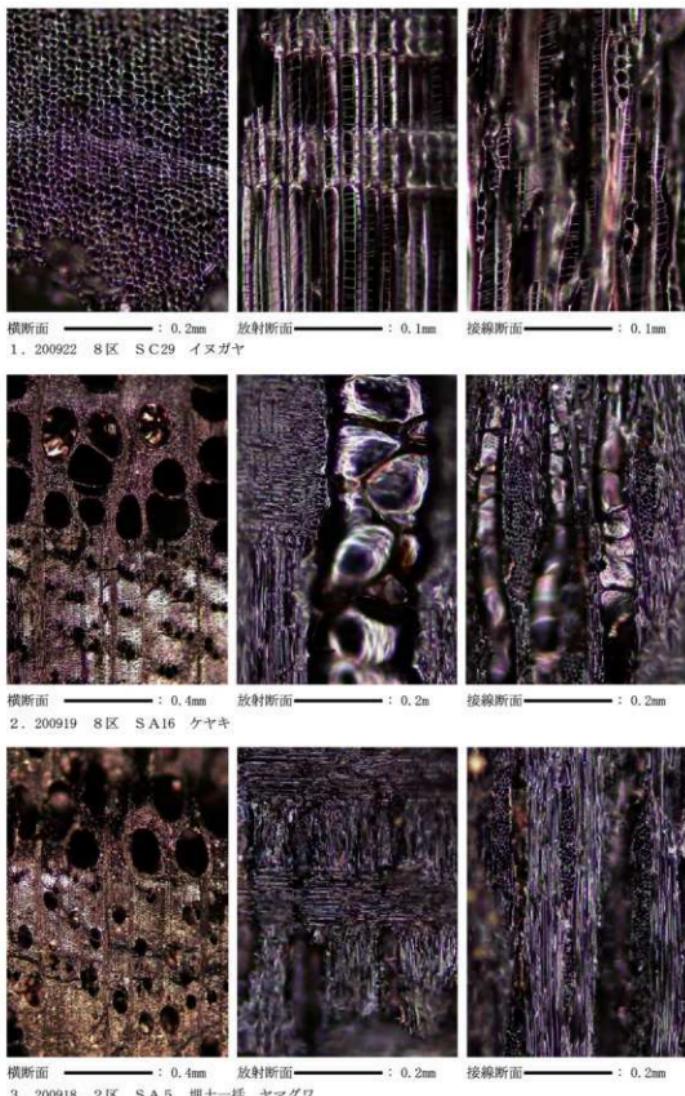


図 226 山中遺跡における樹種同定顕微鏡写真 1

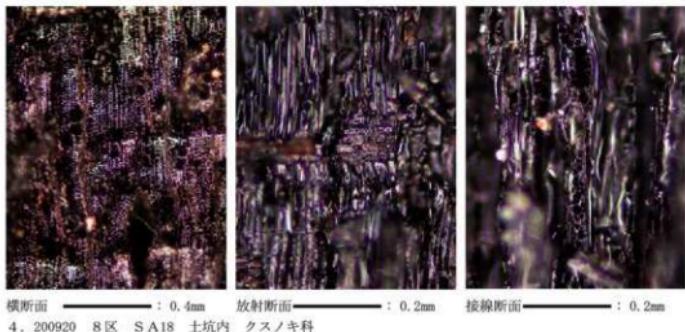


図 227 山中道路における樹種同定顕微鏡写真 2

第3節 種実同定

1 はじめに

植物の種子や果実は比較的強靭なものが多く、堆積物や遺構内に残存している場合がある。堆積物などから種実を検出し、その種類や構成を調べることで、過去の植生や栽培植物を明らかにすることができる。

2 試料

試料は、8区SA18、SA33、SC04、SC05、SC19、SC28から採取された6点の土壤試料、および7区AG09、AG10、8区SA16、SA17、SA19から採取された種実類である。

3 方法

土壤試料については、以下の手順で種実の抽出を行った。

1) 試料に水を加えて泥化

2) 搅拌した後、0.25mmの篩で水洗選別

同定は、肉眼および双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって行った。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示した。

4 結果

(1) 分類群

樹木1分類群が同定された。学名、和名および粒数を表18に示し、主要な分類群を写真に示す。以下に同定根拠となる形態的特徴を記載する。

(樹木)

コナラ属 *Quercus* 子葉(完形・半形・破片) ブナ科

黒褐色で楕円形を呈し、一端につき部が残る。果実の中の種子の子葉が炭化して残ったものである。殻斗、表面模様の欠落があるため属レベルの同定であり、イチイガシ *Quercus gilva* Bl. 以外のコナラ属である。やや細長く、コナラ *Quercus serrata* Murray に類似するが、確実な同定には至らなかった。

不明種実

種実ではあるが、炭化の度合いが著しく同定ができないもの。

5 所見

種実同定の結果、各遺構から採取された種実類は、すべて炭化したコナラ属と同定された。コナラ属(カシ・ナラ類)には、照葉樹林の主要構成要素であるカシ類、落葉広葉樹林構成要素のナラ類、コナラを主とする二次林種があるが、本遺跡で検出されたのは、このうちのイチイガシ以外の種類である。イチイガシを除くコナラ属のドングリはアカがあり、とくにクヌギやコナラはアカが強く食用になりにくい。

文献

南木睦彦(1993)葉・果実・種子.日本第四紀学会編,第四紀試料分析法,東京大学出版会,p.276-283.
渡辺誠(1975)繩文時代の植物食.雄山閣,187p.



図 228 山中遺跡発掘調査の炭化種実

表 18 山中遺跡発掘調査の種実同定結果

分類群	学名	和名	部位	200947 200948 200949 200950 200951 200952						200953				
				SA18	SA33	SC04	SC05	SC19	SC28	AG69	AG10	SA16	SA17	SA19
Arbor	硬木													
<i>Quercus</i>	コナラ属	子葉(壳殻)												
		(半殻)		1		15		1		9	15	3	2	
		(殻片)		19		70	4	3		11	41	7	30	9
Total	合計			20	0	85	4	1	3	29	56	11	32	10
Unknown seeds	不明種実													2
土壤														
備考				(cm ³ 中0.25mm箇)	*100	200	*50	*20	200	*100				

*全量本年度別

第4節 植物珪酸体分析（土器胎土）

1 はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸 (SiO_2) が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壤や土器胎土などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山, 2000）。

2 試料

分析試料は、山中遺跡から出土した5点の土器片である。試料の詳細を分析結果図に示す。

3 分析法

土器片については、グラインダーなどでコア（中心部分）を抽出し、超音波で十分に洗浄してから7日間水浸の後に、メノウ乳鉢を用いて細粒化したものを分析試料として用いた。植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスピーズ法（藤原, 1976）を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を 105°C で 24 時間乾燥（絶乾）
- 2) 試料約 1 g に対し直徑約 $40 \mu\text{m}$ のガラスピーズを約 0.02 g 添加（0.1 mg の精度で秤量）
- 3) 電気炉灰化法 ($550^{\circ}\text{C} \cdot 6$ 時間) による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射 ($300\text{W} \cdot 42\text{kHz} \cdot 10$ 分間) による分散
- 5) 沈底法による $20 \mu\text{m}$ 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスピーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1 gあたりのガラスピーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスピーズ個数の比率をかけて、試料1 g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重（1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位： $10 - 5\text{g}$ ）をかけて、単位面積で層厚1 cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる（杉山, 2000）。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

4 分析結果

（1）分類群

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表19および図229に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

〔イネ科〕

ヨシ属、キビ族型、ススキ属型（おもにススキ属）、ウシクサ族A（チガヤ属など）

〔イネ科—タケ亜科〕

ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など）、ミヤコザサ節型（ササ属ミヤコザサ節など）、未分類等

〔イネ科—その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、未分類等

〔シダ類〕

〔樹木〕

ブナ科（シイ属）、クスノキ科、マンサク科（イスノキ属）、その他

（2）植物珪酸体の検出状況

1) 200942：岩崎式

ヨシ属、スキ属型、ウシクサ族A、ミヤコザサ節型などが検出されたが、いずれも少量である。

2) 200943：丸尾式

樹木起源のマンサク科（イスノキ属）が多く検出され、ブナ科（シイ属）、クスノキ科なども認められた。樹木は一般に植物珪酸体の生産量が低いことから、少量が検出された場合でもかなり過大に評価する必要がある（杉山, 1999）。なお、すべての樹種で植物珪酸体が形成されるわけではなく、落葉樹では形成されないものも多い（近藤・佐瀬, 1986）。イネ科ではウシクサ族A、ミヤコザサ節型などが検出されたが、いずれも少量である。

3) 200944：三万田式

スキ属型、ウシクサ族A、ミヤコザサ節型、樹木（その他）などが検出されたが、いずれも少量である。

4) 200945：弥生早期（突堤文）

ヨシ属、キビ族型、スキ属型、ウシクサ族A、ミヤコザサ節型などが検出されたが、いずれも少量である。おもな分類群の推定生産量によると、ヨシ属が優勢となっている。

5) 200946：弥生早期（突堤文）

樹木起源のマンサク科（イスノキ属）が比較的多く検出され、ブナ科（シイ属）、クスノキ科なども認められた。イネ科ではヨシ属、キビ族型、スキ属型、ネザサ節型、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型などが検出されたが、いずれも少量である。おもな分類群の推定生産量によると、ヨシ属が優勢となっている。

5 考察

弥生早期（突堤文）の土器片（200945、200946）については、ヨシ属が生育するような湿地的なところで堆積した土壤が主な素材となっていると考えられる。

丸尾式の土器片（200943）については、イスノキ属、シイ属、クスノキ科などの樹木（照葉樹）が生育する森林もしくはその周辺の土壤が主な素材となっていると考えられる。また、弥生早期の土器片（200946）についても、森林周辺の土壤が混在している可能性が考えられる。

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネをはじめムギ類、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、キビ属型（キビが含まれる）、ジュズダマ属（ハトムギが含まれる）、オヒシバ属（シコクヒエが含まれる）、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがあるが、これらの分類群はいずれの試料からも検出されなかった。

文献

近藤鍊三・佐瀬隆（1986）植物珪酸体、その特性と応用。第四紀研究、25, p.31-63.

杉山真二・藤原宏志（1986）機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定—古環境推定の基礎資料として—。

考古学と自然科学, 19, p.69-84.

杉山真二 (1999) 植物珪酸体分析からみた九州南部の照葉樹林発達史. 第四紀研究, 38(2), p.109-123.

杉山真二 (2000) 植物珪酸体 (プラント・オパール). 考古学と植物学, 同成社, p.189-213.

藤原宏志 (1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究 (1) -数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法-. 考古学と自然科学, 9, p.15-29.

藤原宏志 (1982) プラント・オパール分析法の基礎的研究 (4) -熊本地方における繩文土器胎土に含まれるプラント・オパールの検出-. 考古学と自然科学, 14, p.55-65.

表 19 山中遺跡発掘調査における植物珪酸体結果

分類群	学名	地点・試料		土器 (胎土)			
		42	43	44	45	46	
イネ科	Gramineae						
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	7		36	22		
キビ族型	Panicoid type			22	15		
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	7		7	14	7	
ウシクサ族A	<i>Andropogoneae A</i> type	27	15	50	29	7	
タケ亜科	Bambusoideae						
ネザサ節型	<i>Pleoblastus</i> sect. Nezasa					7	
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.					7	
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	27	46	22	22	7	
未分類等	Others	7	23	22	29	7	
その他のイネ科	Others						
表皮毛起源	Husk hair origin	34		36	14	7	
棒状珪酸体	Rod-shaped	68	23	29	36	52	
未分類等	Others	95	68	115	122	96	
シダ類	Fern	7				7	
樹木起源	ArboREAL						
ブナ科(シイ属)	<i>Castanopsis</i>	8				30	
クヌキ科	Lauraceae	8				15	
マンサク科(イスノキ属)	<i>Distylium</i>			114		59	
その他	Others	30		7		37	
(海綿骨針)	Sponge spicules					7	
植物珪酸体総数	Total	278	335	287	324	377	
おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m²·cm) : 試料の仮比重を1.0と仮定して算出							
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	0.43		2.27	1.40		
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.08		0.09	0.18	0.09	
ネザサ節型	<i>Pleoblastus</i> sect. Nezasa					0.04	
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.					0.06	
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	0.08	0.14	0.06	0.06	0.02	
タケ亜科の比率 (%)							
ネザサ節型	<i>Pleoblastus</i> sect. Nezasa					31	
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.					49	
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	100	100	100	100	20	
メダケ率	Medake ratio	0	0	0	0	31	

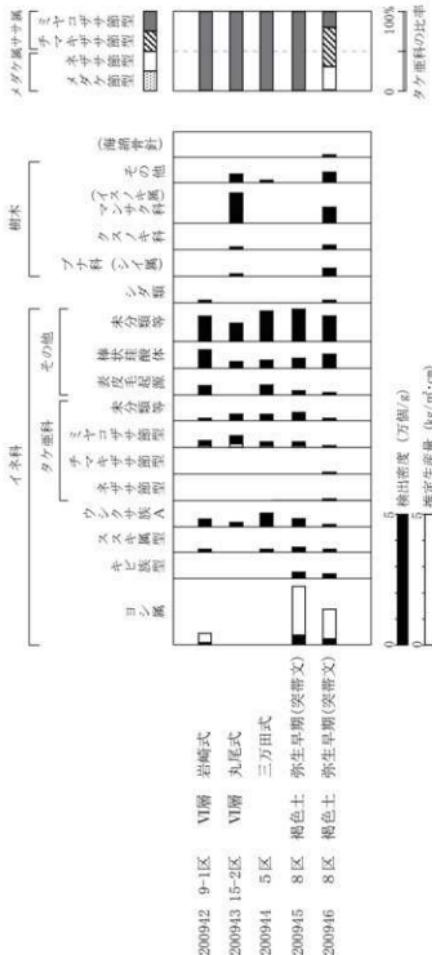


図 229 山中道路から出土した土器（埴土）の植物遺骸分析結果

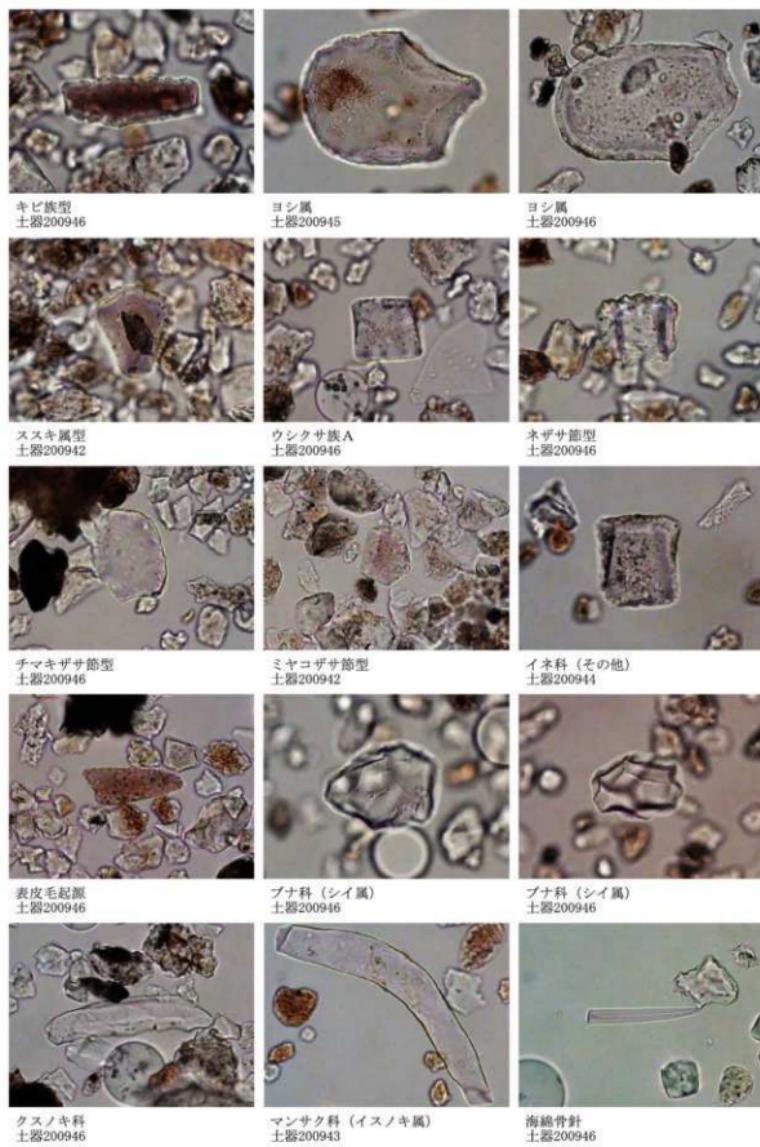


図 230 山中遺跡発掘調査における植物珪酸体（プランツ・オバール）

50 μ m

第5節 蛍光X線分析（黒曜石の産地推定）

1 はじめに

物質にX線を照射すると、その物質を構成している元素に固有のエネルギー（蛍光X線）が放出され、この蛍光X線を分光して波長と強度を測定することで、物質に含まれる元素の種類と量を調べることができる。この方法を用いて、指標となる特定の元素の検出パターンの比較から石器（黒曜石など）の産地推定や土器（須恵器など）の生産地推定が行われている。この方法は、石器や土器などの貴重な考古遺物を非破壊で分析することができるが、表面が汚れたものや風化したものは正確な測定ができない。

2 試料

試料は、山中遺跡から出土した19点の黒曜石（200908～200916, 200932～200941）である。試料の詳細を表20に示す。

3 分析方法

（1）測定法

試料を超音波洗浄器で洗浄した後、エネルギー分散型蛍光X線分析装置（EDX, セイコーアンスツルメンツ卓上型蛍光X線分析計、SEA-2110L）を用いて測定を行った。測定の条件は、マイラーフィルム使用、測定時間240秒、照射径10mm、管電圧50kV、試料室内真空、管電流自動設定、Si(Li)半導体検出器である。測定は、国立沼津工業高等専門学校物質工学科の望月研究室で行った。

測定元素は、Al（アルミニウム）、Si（ケイ素）、K（カリウム）、Ca（カルシウム）、Ti（チタン）、Mn（マンガン）、Fe（鉄）、Rb（ルビジウム）、Sr（ストロンチウム）、Y（イットリウム）、Zr（ジルコニウム）の11元素である。

（2）産地推定法

1) 判別図法

蛍光X線強度から算出した産地推定の指標を二次元プロットし、原石と試料の領域を比較することにより産地推定を行う方法で、視覚的に確認できてわかりやすい方法である。図231・233は横軸にRb分率（Rb強度×100/A）、縦軸にMn強度×100/Fe強度、図232・234は横軸にSr分率（Sr強度×100/A）、縦軸にlog(Fe強度/K強度)をプロットしたものである。なお、A=Rb強度+Sr強度+Y強度+Zr強度である。

2) 判別分析

判別図法による産地推定結果を確実にするため、多変量解析の判別分析を行った。これは、原石の各産地群の中と個々の試料の類似度をマハラノビス距離として算出し、各産地に属する確率を計算する方法である。既知の産地のどれに類似しているかを判別する方法であり、未知の産地の判別はできない。

表20の第1候補産地と第2候補産地は、判別分析により推定された産地の第1候補と第2候補である。判別群は候補産地記号（判別図法による産地と通常は一致）、距離は試料から候補産地までのマハラノビス距離（値が小さいほど候補産地と類似性が高い）、確率は試料が候補産地に属する確率（1に近いほど類似性が高い）である。

4. 結果および考察

山中遺跡から出土した黒曜石19点について蛍光X線分析による産地推定を行った。その結果、200909、200911、200912、200913、200914、200915の6点については、それぞれ人吉桑ノ木津留群、樋脇上牛鼻群、鹿児島竜ヶ水群、佐世保塙姫1群、伊万里腰岳群、姫島観音崎群と推定された。200935、200937、200939、

200940、200941の5点は大口エリアの日東群(OGNT)、200932は球磨白浜群(KMSH)、200933は佐世保淀姫1群(SSYH1)と推定された。200908、200910、200916、200934、200936、200938の6点は、産地不明の一群であるが、ひとつの群としてまとまっており、元の産地はひとつに限定されると考えられる。この一群は、宮崎県都農町の尾立第2遺跡(岸田, 2008)で認められた産地不明の一群(尾立第2OX群)と同一である。霧島系とされる未発見の産地の可能性も考えられることから、新たな原石産地の発見が期待される。

文献

岸田裕一(2008)尾立第2遺跡、東九州自動車道(都農～西都間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書57、宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第169集。

望月明彦(1999)蛍光X線分析による綾瀬市報恩寺遺跡出土の黒曜石製石器の産地推定、綾瀬市史研究、6、p.1-12.

望月明彦(2002)黒曜石分析科学の現状と展望、黒曜石文化研究創刊号、明治大学人文科学研究所、p.95-102.

編者注：表・図にある推定産地AX群は、推定産地OX群と同意。

表 20 山中通路発掘調査における出土黒曜石の産地推定結果

No.	調査区	層位	分析番号	研究室 牛闘通番	判別図 判別群	判別分析			推定量地	
						第1候補地				
						判別群	異端	確率		
200908	3区	—	MK08-10355	AX	AX	4.29	1.0000	KGM	118.07	0
200909	3区	—	MK08-10363	HYK	HYK	5.19	1.0000	AX	137.02	0
200910	3区	—	MK08-10364	AX	AX	19.62	1.0000	HYK	120.41	0
200911	3区	—	MK08-10365	HOKU	HOKU	0.90	1.0000	1KH	584.84	0
200912	3区	—	MK08-10366	KGM	KGM	1.88	1.0000	OQO	28.36	0
200913	3区	V1層	MK08-10367	SSYH1	SSYH1	6.70	1.0000	SSH12	24.49	0
200914	3区	V1層	MK08-10368	IMD	IMD	2.40	0.9989	SSH11	11.95	0.0011
200915	3区	V1層	MK08-10369	HSK	HSK	5.73	1.0000	SSH7	377.93	0
200916	3区	—	MK08-10370	AX	AX	14.56	1.0000	HYK	135.28	0
200932	YN12-1		MK09-06487	KASH	KASH	0.35	1	MUT1	30.17	0
200933	YN12-2		MK09-06488	SSYH1	SSYH1	5.03	1	SSH11	25.46	0
200934	YN12-3		MK09-06489	OK	OK	3.49	1	SSH11	118.23	0
200935	YN12-4		MK09-06490	0ENT	0ENT	23.21	1	KASH	67.02	0
200936	YN12-5		MK09-06491	OK	OK	2.84	1	SSH1M	85.68	0
200937	YN12-6		MK09-06492	0ENT	0ENT	6.9	1	SSH1D	38.84	0
200938	YN12-7		MK09-06493	OK	OK	19.52	1	HYK	73.93	0
200939	YN12-8		MK09-06494	0ENT	0ENT	2.02	1	SSH1D	50.65	0
200940	YN12-9		MK09-06495	0ENT	0ENT	5.08	1	KASH	43.44	0
200941	YN12-10		MK09-06496	0ENT	0ENT	6.26	1	KASH	44.9	0

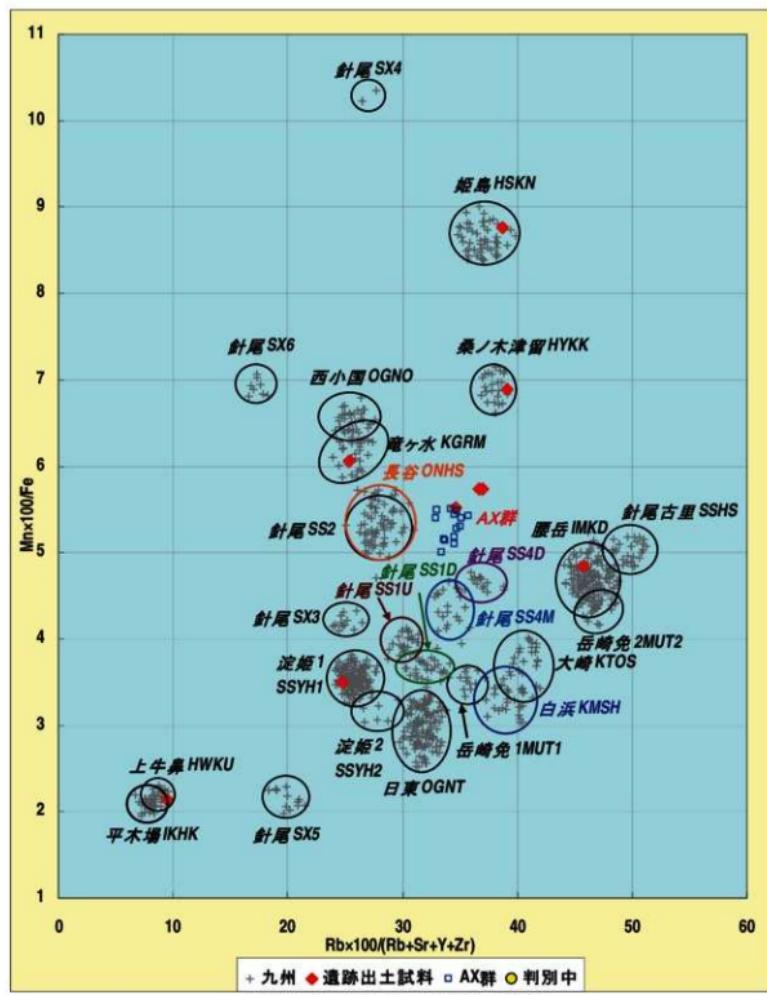


図 231 黒曜石产地判別図 1 (200908 ~ 200916)

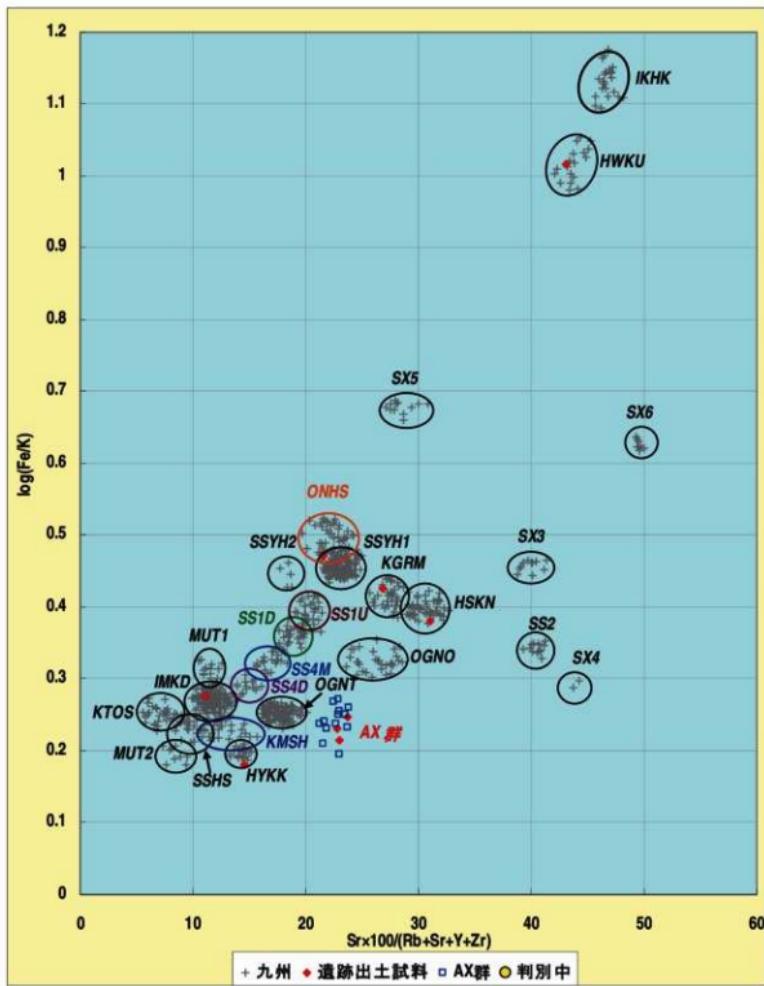


図 232 黒曜石産地判別図 2 (200908 ~ 200916)

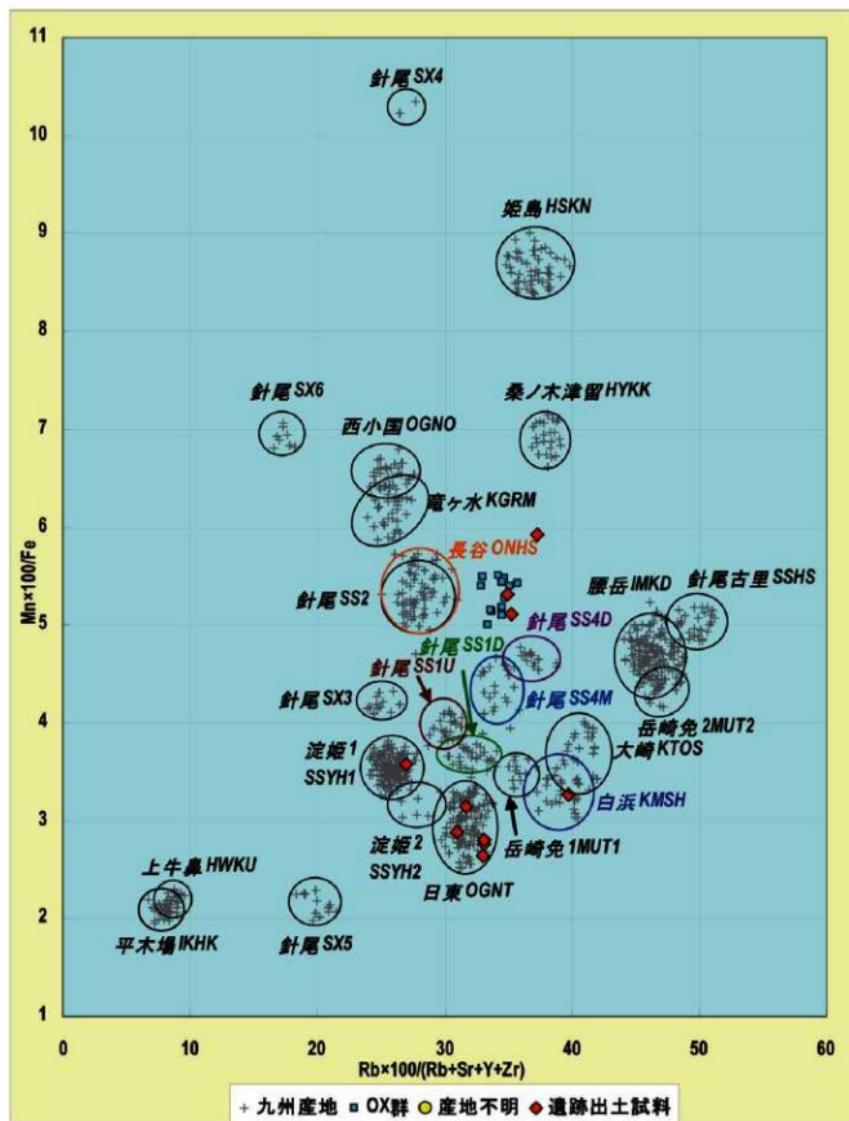


図 233 黒曜石产地判別図 3 (200932 ~ 200941)

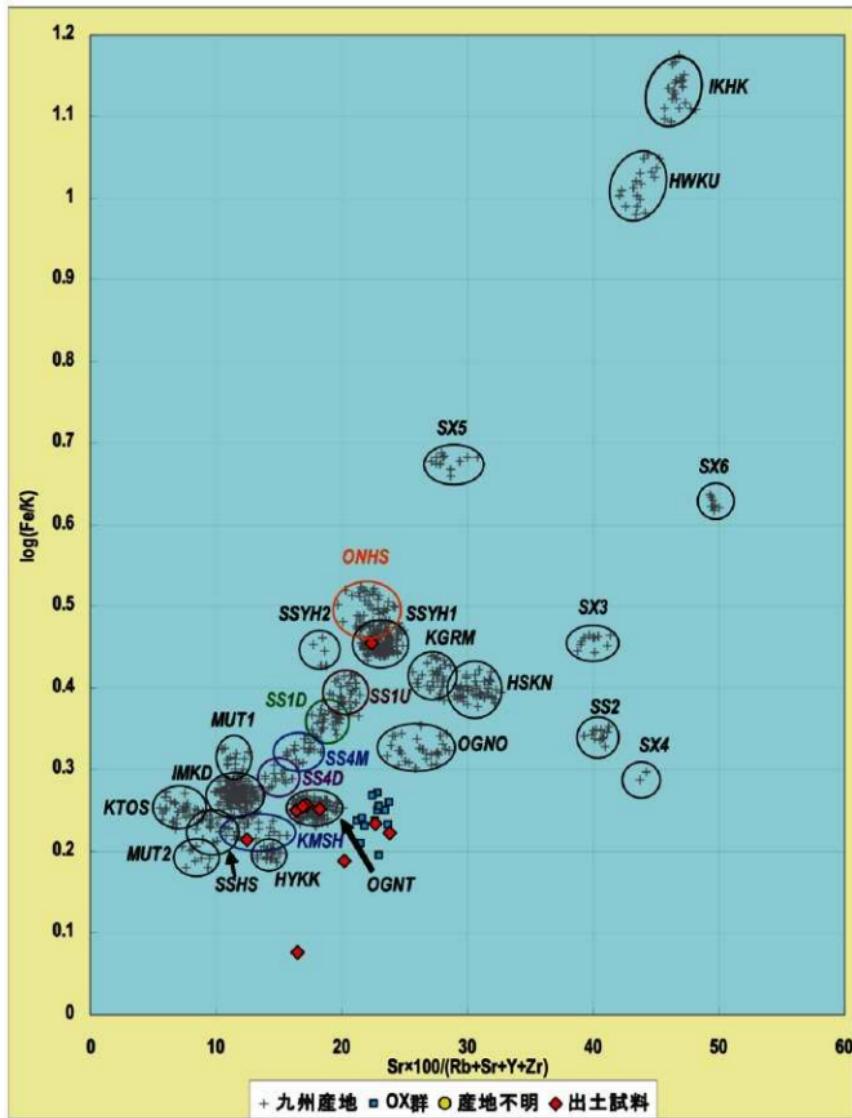


図 234 黒曜石产地判別図 4 (200932 ~ 200941)

第6節 萤光X線分析（サヌカイトの産地推定）

1 試料

試料は、山中地区遺跡12区から出土した1点のサヌカイト（200917）である。

2 方法

試料は風化層に覆われていたため、サンドブラストを用いて一部新鮮面を表出させて測定箇所とした。分析装置は、(株)セイコーワンスツルメンツ社製のエネルギー分散型螢光X線分析計SEA-2001Lを使用した。装置の仕様は、X線管はRhターゲット、X線検出器はSi(Li)半導体検出器である。測定条件は、測定時間300秒、照射径10mm、電流 $1 \sim 63 \mu\text{A}$ （デッドタイムが20%未満になるよう設定）、電圧50kV、試料室内真空である。

産地推定法は、黒曜石の産地推定に用いられる判別図法（望月、2004など）について、分析対象をサヌカイトに置き換えて適用した。

3 分析結果

図235に、サヌカイト原石の判別図を示す。なお、視覚的にわかりやすくするため、各判別群を楕円で囲んで示した。判別図では、讃岐エリアの原石は、雄山・雌山以外は非常に近接して重複部分が多く、明確な区別は難しい。しかし、二上山エリアの原石と讃岐エリアの原石は、プロットされる位置が明確に異なり、十分に区別可能である。山中遺跡12区から出土したサヌカイト（200917）は、プロット位置（黒丸）に一致する判別群が存在しないことから、現時点では産地が不明であるが、少なくとも二上山や讃岐地方産のサヌカイトとは異なっていると考えられる。

文献

望月明彦（2004）用田大河内遺跡出土黒曜石の産地推定。用田大河内遺跡。かながわ考古学財団調査報告、167、p.511-517.

表21 原石採取地と判別群名称

エリア	判別群	原石採取地（試料点数）
二上山	春日山	春日山みかん畑内（10）
讃岐	国分台1	自衛隊演習場付近（5）、神谷神社前（13）、高産塗神社谷（12）、国分台下みかん畑（5）、蓬光寺（10）
	国分台2	赤子谷第1地点（5）、赤子谷第2地点（5）、法印谷（10）
	金山	北峰道路脇（10）、金山南麓（10）
	城山	城山南側（5）、城山北側（5）
	雄山・雌山	雄山（5）、雌山（5）
	双子山	双子山南嶺（10）

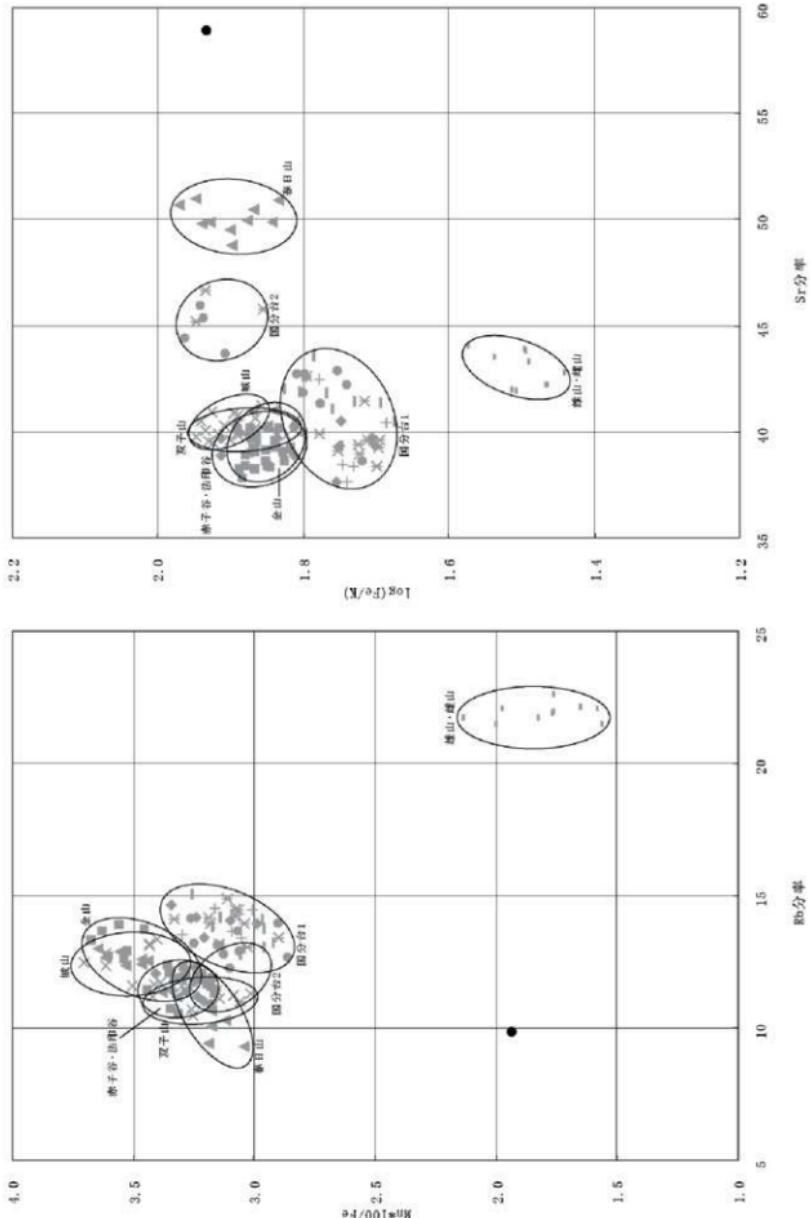


図235 サヌカイト産地判定図

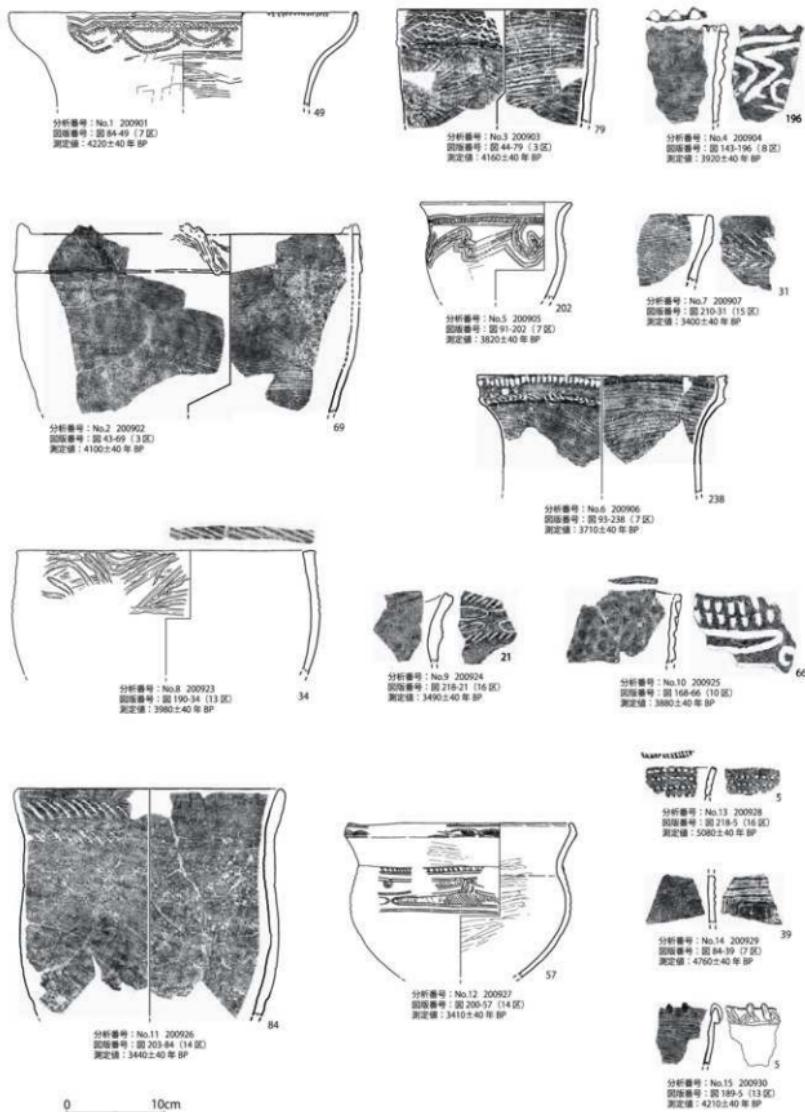


图 236 付：山中遺跡放射線炭素年代測定試料

螢光 X 線分析試料（黒曜岩の産地）



植物珪酸体分析試料（土器胎土）



図 237 付：螢光 X 線分析試料（黒曜岩の産地）及び植物珪酸体分析試料（土器胎土）

第5章　まとめ

第1節　縄文時代中期後葉から後期前葉の土器について

山中遺跡の発掘調査では、20万点を超える遺物が出土しているが、その大多数は縄文時代中期後葉～後期前葉の土器及びそれに伴う石器であった。ここでは多量の遺物が出土した縄文時代中期後葉～後期前葉の土器を分類し、山中遺跡における出土状況を概観していきたい。

1　縄文時代中期後葉の土器について

1類は内湾口縁の土器である。文様は口縁部に集約され、横走沈線と連弧文が組み合わされるもので、沈線内刺突が認められる。器形や文様構成から春日式前谷段階のものと考えられるが、図238-1（以下、図238・239の図版番号は省略）の沈線内刺突は、刺突が沈線の外側にはみ出るものも存在する。1類のような内湾口縁を持つ土器の出土は、7区や9区で数個体確認される程度である。2類は直行する口縁に鋸歯状の文様を施文するものであるが出土量は少ない。3類は直立する口縁にW字状の突帯を貼り付けるものであり、突帯上に貝刺突が観察されるものもある。4類は口縁端部を肥厚させ、太目の刺突を行うもので、5は滑石を多く含む。5類は口唇部または内面に文様を施文するものを纏めた。6類は太目の突帯を貼り付け、突帯上に貝刺突を行うものである。10は外面に格子状の突帯を貼り付けるもので、口縁部形態は若干異なるが、宮崎市天神河内第一遺跡（宮崎県教1991）で類似する資料が認められる。7類は口縁端部に細めの突帯を貼り付け、突帯上に貝刺突を行うものである。15・16は口唇部上にW字状の貼付文が観察される。8類は口縁部を折り返し気味に肥厚させるものであり、W字状の貼付は口唇部上から口縁上端部にかけて貼り付けられている。2類から8類は、春日式後半の轟木ヶ迫段階及び南宮島段階に含まれるものと思われ、1区・3区・7区・9区・10区・13区から出土している。9類は8類に比べて、口縁の肥厚部が広がり、貝刺突や沈線により文様を施文するものである。10類は肥厚する口縁部にW字状の貼付文が認められるもので、7類・8類の貼付文が口唇部上ないしは口縁部上端に貼り付けられるのに対して、10類は肥厚幅が広がった口縁部外面に貼り付けられる。11類は10類と同様のものであるが、肥厚する口縁下端に刺突を行うものである。12類は幅広に肥厚する口縁下端を刻むもので、口唇部に小さな貼付文を持ち、二叉状の工具で横方向の蛇行文を施文する。12類の出土は少ないが、都城市岩立遺跡（柴畑2006）に類似する資料が認められる。13類は突起部下の周辺のみに沈線を施文するもので、文様は口縁部を全て廻ることなく途中で途切れている。小林市梅木原遺跡（小林市2000）からやや纏まって出土しており（図240-3）、10類のW字状の貼付文が、口唇部では突起化、口縁部外面では沈線化することにより成立した可能性もある。14類は肥厚する口縁部に円文・渦巻文を施文するものである。40は三角形状の渦文である。15類は浮文上に貝刺突を行い、浮文と浮文の間は指ナデが顕著に認められる。16類は二叉状の工具で施文するもので、押引文なども認められる。9類から16類までが春日式に後続する中尾田Ⅲ類に分類されるものと考えられ、3・4区・7区・9区・10区・13区から出土している。17類は肥厚する口縁部に鋸歯文を横位に展開するものあり、同様の文様構成を持つものは、えびの市上田代遺跡（えびの市1997）で認められる。18類は肥厚する口縁部に、台形や菱形などの文様を組合せるものである。50に關しては、中尾田遺跡（鹿児島県1981）出土の中尾田Ⅲ類に同様のものが認められ（図240-1・2）、13類→18類への変化の過渡的な一群の可能性もある。51は菱形と台形を交互に組合せた構成であり、宮崎市本野遺跡（田野町1999）などで類例がある（図240-5・6）。本野遺跡例とは、文様構成が近似しており18類と同時期のものと考えられるが、本野遺跡例は口縁部を「く」の字に屈曲させ形成するもので、肥厚せることにより口縁部を形成する山中遺跡のものとは、口縁部の形成が異なっており興味深い。また、刺突文の充填や鋸歯文を行

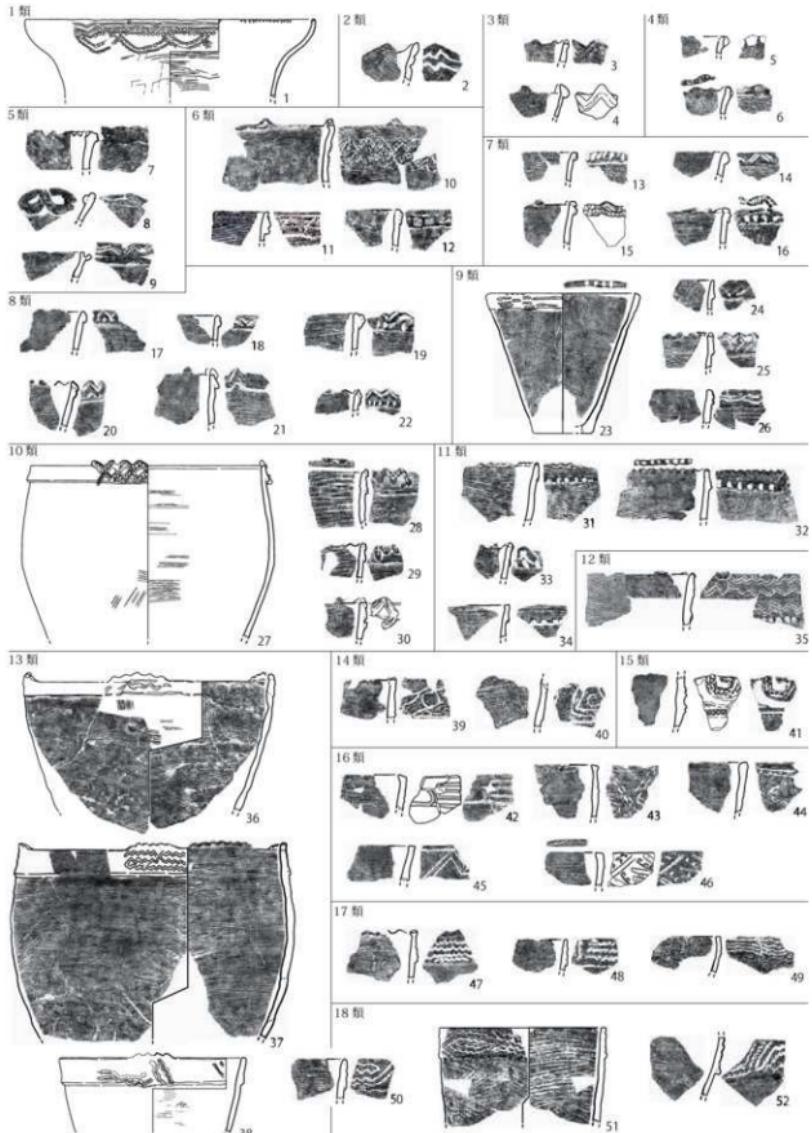


図238 山中遺跡出土縄文時代中期後葉～後期前葉の土器分類1

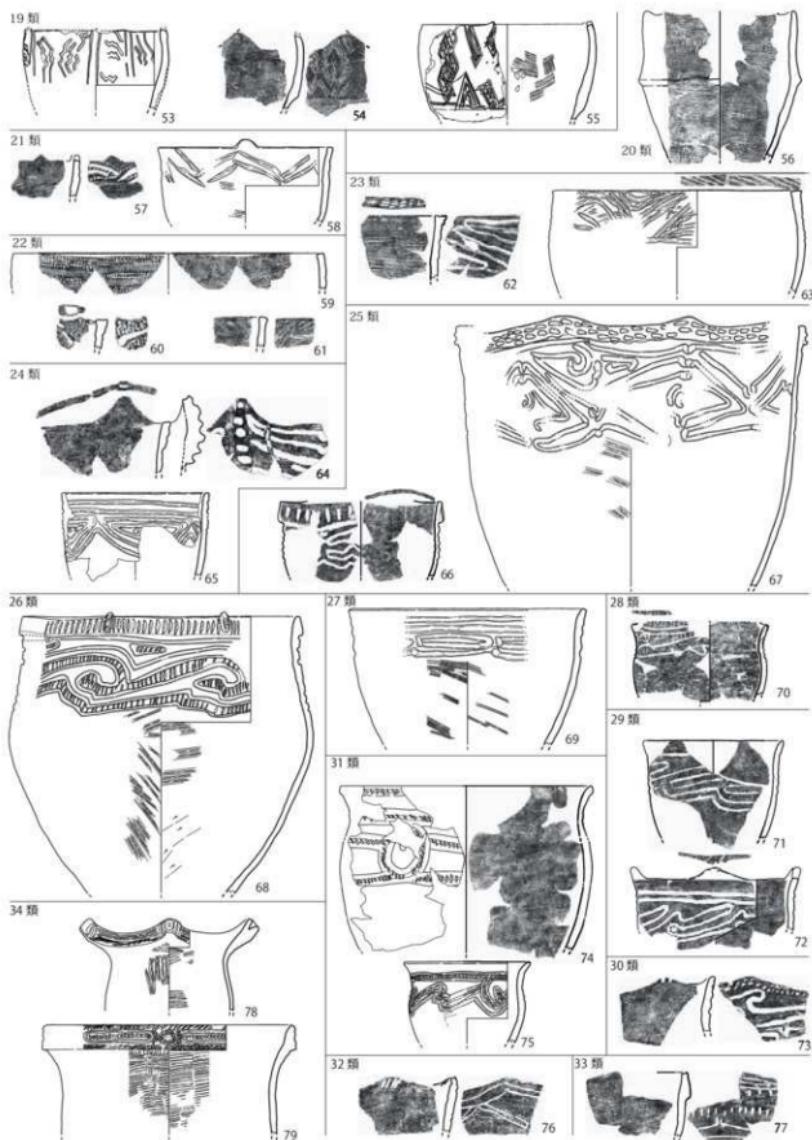
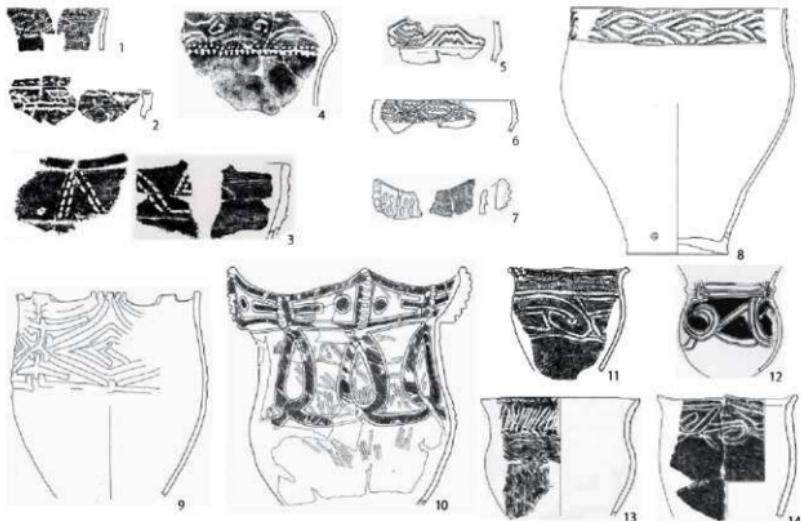


図 239 山中遺跡出土縄文時代中期後葉～後期前葉の土器分類 2

わないので相違点はあるが、佐賀県鳥栖市平原遺跡（佐賀県 1993）出土の並木式の文様構成も三角形と菱形を交互に組合せるものであり（図 240-8）、水ノ江和同氏が並木式の古段階とした資料も、入組文・三角形・菱形の区画を組合せるものであり、18 類と共通する特徴を持つ。19 類は 18 類の口縁部文様帯が幅広くなることにより成立したものと考えられ、肥厚部下端の段差がなくなり、稜もししくは突帶状に作り出し口縁部と胸部を区画する。文様は縱方向の鋸歯文（53）や細線で描かれたもの（54・55）が認められ、口唇部上の突起は小さくなる。54 は口縁部を山形に大きく波状させるもので、同様の形態のものは宮崎市本野遺跡に類例がある（図 240-5）。20 類は 19 類と同時期の無文土器と思われる。19・20 類は大平式と分類されるもので、3 区・9 区・10 区・13 区から出土している。21 類は口縁部に鋸歯状の文様を展開するものあり、57 は文様間に刺突が観察される。22 類は凹線・沈線文間に貝刺突や押引を行うもので並木式に類似する。23 類は浅い凹線で三角形状の文様を施文するもので、62 は口唇部に押引文、63 は口唇部に短沈線を配し、都城市王子原遺跡（宮崎県埋 2001）に類似例が存在する。21～23 類は 13 区で、比較的多く認められる。

2 繩文時代後期初頭から前葉の土器について

24 類は幅広の四線文で施文するもので、文様帯は胸部中位まで広がり、口縁部に肥厚帯を持たないもの。64 には波頂部から縱方向の垂下降帯が観察され、この垂下降帯は、岩崎式でも古段階とされる時期のものは縱方向に長く貼り付けられ（図 240-7）、新しい段階になると 68 のように縮小傾向にある。この垂下降帯は、阿高式や大平式・中尾田Ⅲ類では認められず、類似例としては中津式の古い段階（図 240-10）に縱長の垂下降帯が認められる。25



1・2 中尾田遺跡（鹿児島県霧島市） 3 梅木原遺跡（宮崎県小林市） 4 長崎手遺跡（同山県） 5・6 本野遺跡（宮崎県宮崎市） 7 白ヶ野第2遺跡（宮崎県清武町）
8 平原遺跡（佐賀県鳥栖市） 9 中尾田遺跡（鹿児島県霧島市） 10 矢野遺跡（徳島県） 11 中原遺跡（鹿児島県志布志市） 12 なすな原遺跡（東京都） 13 野原遺跡（熊
本県相良村） 14 上水流遺跡（鹿児島県南さつま市）

図 240 関連資料

類は口縁部に肥厚帯を持ち、縦方向もしくは横方向の凹点を施文する。胴部には凹線文で胴部中位まで文様を施文し、器壁は薄く外面文様が内面に影響を与えるものが多い。67は口縁肥厚部に横長の凹点を2列配し、胴部文様は菱形区画と三角形区画を組み合わせたものであり、阿高式に通有の入組文も観察される。文様構成は中尾田遺跡出土の阿高式の古い段階のもの(図240-9)に類似する。24・25類は金丸武司氏が設定した宮之迫1式に該当し(金丸2006)、胴部文様には大平式に特徴的な鋸歯状の文様が部分的に観察される(真退2009)。26類は口縁部に貝刺突もしくは縦方向の短沈線を施文するもので、24・25類に比べ胴部文様帶が縮小傾向にある。27類は凹線による文様が口縁部から頸部にかけて施文され、刺突文を伴わないもの。28類は描線が沈線化したもので文様帶はさらに狭まり、文様も粗雑化する。29類は頸部に横走沈線を施文し、胴部には波状文様を繰り返す。30類は口縁部外面端部に刻みが認められるものである。24～30類は、岩崎下層式・岩崎上層式・綾式・宮ノ前式と呼称されてきた土器群であり、近年ではこれらの諸型式を包括した宮之迫式が設定されている(金丸2006)。山中遺跡では各調査区で24～30類の出土傾向が異なっており、1区・3区・7区では各類が出土しているが、8区では24・25類は出土せず、26・27類も出土量は少ない。9区では28～30類は出土していない。10区もほぼ同様である。14区では26・27類が出土している。このような調査区毎の偏在性は、時間差によるものと考えられる。31類は頸部に施文される横走沈線からJ字文が垂下し、このJ字文間を斜方向もしくは横方向の沈線で結ぶものであり、2本沈線間に貝刺突を行う。同様な文様構成は、志布志市中原遺跡(志布志町1985)などでも認められるが(図240-11)、東京都なすな原遺跡(図240-12)などでも類似資料が認められ、東北地方南部の綱取式にも存在するなど広域的に認められる文様構成である。関東地方では縄文時代後期前葉の堀ノ内1式の古い段階に位置づけられるものあり、石井寛氏は堀ノ内1式古段階(CI群)の特徴として「渦巻文と斜行文とが単純な構成」のものと指摘し、なすな原遺跡例を称名寺式末～堀ノ内1式古段階に位置づけている(石井1993)。31類は1区・3区・7区などから出土し、その出土傾向は29・30類と同様である。志布志市中原遺跡など九州南東部の指宿式は、概ね31類の文様の複雑化という変化の方向性が認められるが、山中遺跡では32類のように、薩摩半島の指宿市橋牟礼川遺跡や金峰町上水流遺跡(鹿児島県理2007)などで出土したものに類似し(図240-14)、熊本県相良村野原遺跡2号住居で出土するような出水式の系譜を持つ土器群(図240-13)も多く出土するようになるなど、後期初頭段階(24～27類)では宮崎平野・大隈半島の土器群と類似性が強かったものが、後期前葉段階になると、薩摩半島～人吉盆地周辺の土器群との類似性が強くなる傾向をうかがい知ることが出来た。33類は肥厚する口縁部と胴部に文様帶を持つもので、九州南東部に多く認められるが、山中遺跡における出土量は少ない。34類は肥厚する口縁部のみに文様帶を持つ松山式・市来式とされるものである。32～34類は8区において纏まって出土する。

第2節 縄文集落の検討

1 縄文集落の変遷について

山中遺跡の発掘調査では、1区・2区・3区・8区において、重複関係にあるものも含めて38棟の竪穴住居を検査している。この内の1棟(SA35)については、完全な形に近い弥生時代中期の甕が出土しており、弥生時代の竪穴住居の可能性がある。7棟(SA31・32・33・34・36・37・38)については、整理作業の段階で遺物を確認できおらず時期不詳であり、これらを除いた30棟が縄文時代の竪穴住居となる可能性が高い。遺物を確認できていないSA36・37・38に関しては、住居の形態は他の縄文時代の竪穴住居に類似しており、その数はさらに増える可能性がある。以下では、山中遺跡で確認した縄文時代集落を4期に分けて説明する。

I期は縄文時代後期初頭の岩崎式併行期(前節24類～27類に相当)のもので、1区・2区・3区・8区より可能性があるものも含めて7棟検査している。平面形は円形および隅丸方形が混在するが、この時期の可能性が高

いSA01・11に関しては隅丸方形となる。

II期は縄文時代後期前葉の岩崎式の一部・指宿式・市来式併行期(前節28類～34類に相当)のもので、2区・3区・8区より可能性があるものも含めて23棟検出している。竪穴住居を多数検出した8区は、I期の遺物は少量出土するのみであり、II期(後期前葉)段階において居住地としての利用が始まる。平面形は円形と隅丸方形が混在する状態で、隅丸方形の竪穴住居には、床面を二段掘り状にするものが一定量確認できる。柱穴配列は不明確なものが多く、床面より小穴を確認できないものも存在し、屋内炉も確認できていない。この時期の集落の特徴としては、竪穴住居に近接し、平面径及び深さが1m前後の土坑が多数検出されたことで、中には上部の径より下部の径のほうが広い、フラスコ状を呈するものも存在する。SC04では、埋土中より84片の炭化種実が出土しており、同じ形態の土坑の多くは貯蔵穴としての利用が想定できる。竪穴住居や貯蔵穴と考えられる土坑から出土した炭化種実を分析した結果、食用にするにはアク抜きが必要ないイチイガシ以外のコナラ属と同定された。また、竪穴住居に近接する形で検出される貯蔵穴は、東日本の縄文集落では一般的な形態であるが、九州では谷部に設置する低湿地型の貯蔵穴が大部分を占め、丘陵上において集落に近接する形で貯蔵穴が確認できる事例は少なく(林2006)、貯蔵穴の認定の問題も含めて今後の検討課題である。

III期(後期前葉～中葉：市来式の後半階・鐘崎式～納曾式)では、II期で多数の竪穴住居を検出した8区において、小破片も含めて遺物の出土は極めて少なくなり、集落を形成した状況はうかがえない。遺跡群全体でみると、

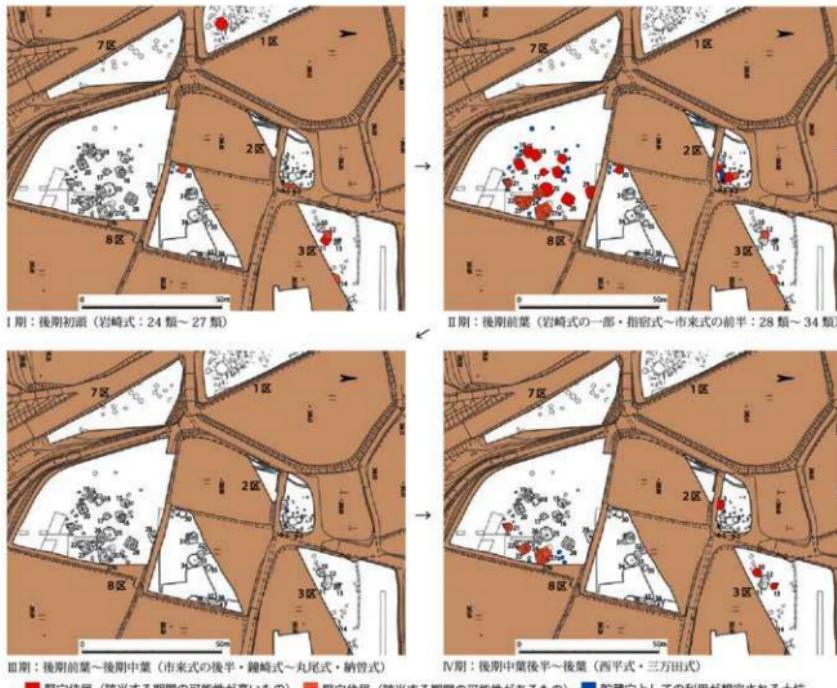


図241 山中遺跡における縄文集落の変遷

この時期の遺物は、14・15区で纏まって出土しており、竪穴住居などの遺構は検出されていないが、周辺に竪穴住居などの遺構が存在する可能性が高い。

IV期（後期中葉後半～後葉：西平式・三万田式）には、3区・8区で再び集落を形成し始めるようであるが、II期に比べると規模が小さくなる。しかしながら、ここで認められる規模の違いは、集落の形成期間の違いであると思われ、三万田式以降に再び調査区外へ集落を移動させる。

以上のように、今回の発掘調査では、I期（後期初頭）において少數の竪穴住居が認められ始め、II期（後期前葉）で貯蔵穴と考えられる土坑を伴い群集化し、III・IV期（後期前葉～後葉）では集落地の移動を観察することが出来た。また、7区の北側や10区の南側では、狭い範囲に縄文時代中期後葉～後期初頭の遺物が大量に出土しており、集落の廃棄帯の一部を調査したものと考えられ、調査対象外となった近接部分に、これらの時期の集落が存在する可能性が高いものと思われる。

【引用・参考文献】

- 石井寛 1993「1. 堀之内1式期土器群に関する問題」「牛ヶ谷遺跡 草藏谷南遺跡」港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 XIV
えびの市教育委員会 1997『田代地区遺跡群 上田代遺跡・松山遺跡・竹之内遺跡・妙見原遺跡』
えびの市埋蔵文化財調査報告書第20集
- 鹿児島県教育委員会 1981『中尾田遺跡』
金丸武史 2006『第1節 岩崎式・綾式土器を巡る諸問題』『本野原遺跡三』
宮崎市文化財調査報告書（田野町文化財調査報告書第53集）宮崎市教育委員会
- 幸泉満夫 2009「西からの視点—中国・四国地方の様相—」「関西の縄文中期末土器」第9回関西縄文文化研究会
- 小林市教育委員会 2000『梅木原遺跡発掘調査報告書』小林市埋蔵文化財調査報告書第11集
- 佐賀県教育委員会 1993『平原遺跡』佐賀県埋蔵文化財調査報告書第20集
- 志布志町教育委員会 1985『中原遺跡』志布志町埋蔵文化財調査報告（9）
新東晃一 1988『縄文土器—九州地方・南九州一』『考古学ジャーナル』296
- 田野町教育委員会 1999『本野遺跡（縄文時代遺物編）』田野町文化財調査報告書第32集
- 徳永貞紹「並木式土器の成立とその前夜」「牟田裕二君追悼論集」牟田裕二君追悼論集刊行会
- 富井眞 2008「感懐：北白川C式と「矢部奥田式」の一側面」「関西の縄文中期末土器」第9回関西縄文文化研究会
- 林潤也 2006「九州地方の縄文時代後晚期住居」「第55回埋蔵文化財研究会 弥生集落の成立と展開 発表要旨集」
埋蔵文化財研究会
- 東和幸 1991「鹿児島県における縄文中期の様相」「南九州縄文通信5」南九州縄文研究会
- 東和幸 1999「九州地方 中期（春日式）」「縄文時代 10」縄文時代文化研究会
- 真道彩 2009「並木式土器・阿高式土器」「南九州縄文通信」第20号刊行記念研究会資料集 南九州縄文通信
- 桑畠光博 2006「岩立遺跡」「都城市史 資料編考古」都城市史編さん委員会
- 水ノ江和同 1999「九州地方 中期」「縄文時代 10」縄文時代文化研究会
- 宮崎県教育委員会 1991「天神河内第1遺跡」大淀川右岸農業水利事業国営天神ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2001『王子原遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第45集



1区全景（左が北）



1区南側拡大（左が北）



1区 SA01周辺（西から）



1区 SA01（西から）



1区南側東壁土層（西から）

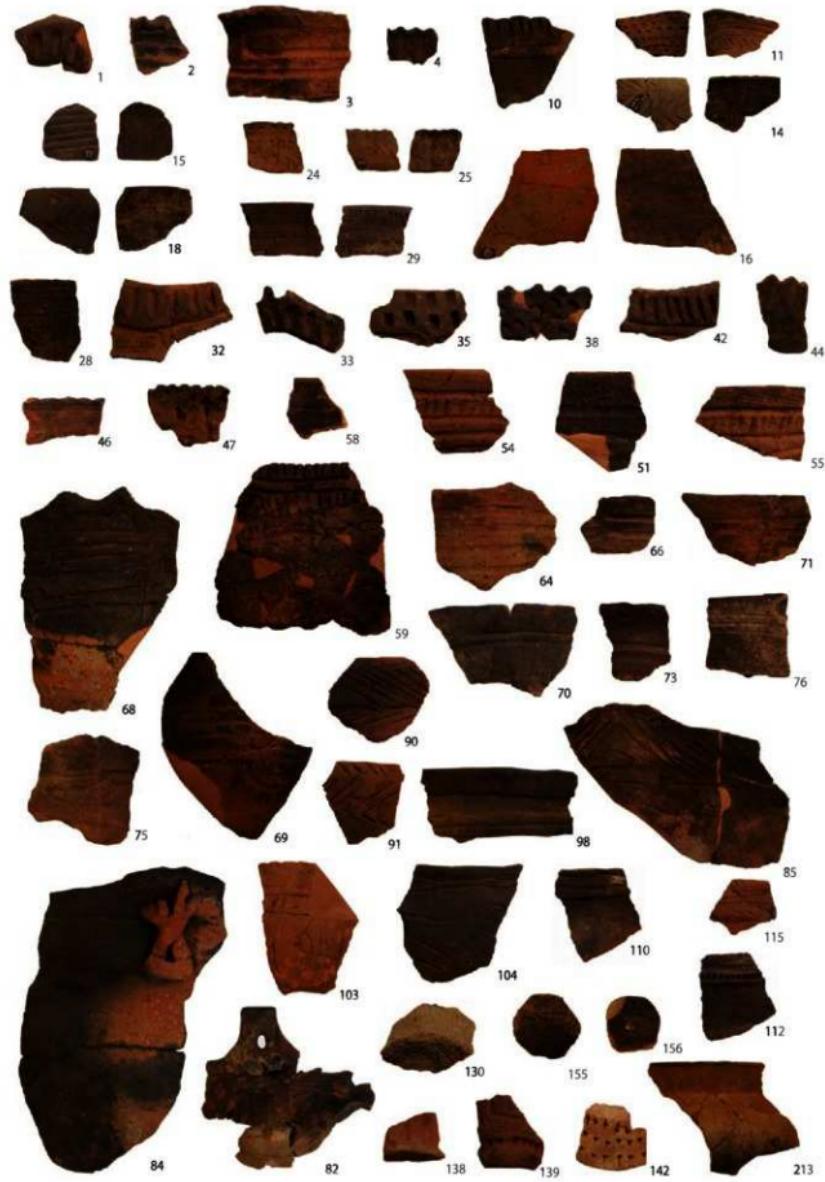


1区 SC05（南から）



1区作業風景

写真図版3 (1区遺物)



写真図版4 (1区遺物)





2区全景（上が北）



2区 SA06・07・08 SC04（南から）



2区 SA03・04 检出状況（東から）



2区 SA06・07・08 检出状況（南から）



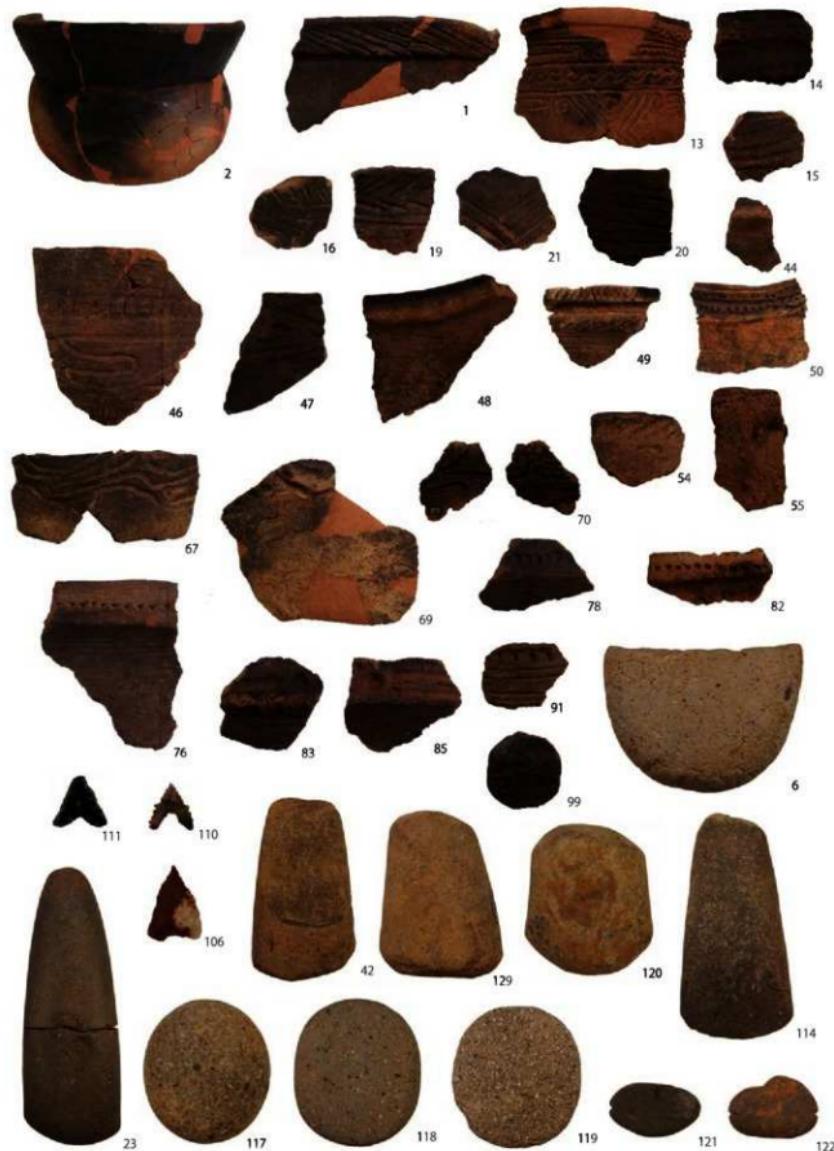
2区 SA06・07・08（西から）



2区 SA06・07・08（南から）



2区 SA09-1・09-2（東から）





3区全景 (上が北)



3区 SA10・11・12 棲出時 (西から)



3区 SA10 (南から)



3区 SA10・11・12 (西から)



3区 SA11・12 (南から)



3区 SA13(南から)



3区 SA11・12・13(北から)



3区 SB02 梢出時(北から)



3区 SB02 梢出時(東から)



3区 SB02(北から)



3区 SB02(東から)



3区 SB02PA(北から)



3区 SB02PC(西から)

写真図版 10 (3区遺構)



3区 SB02PD (東から)



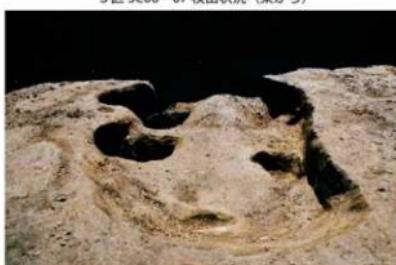
3区 SC05



3区 SC06・07 検出状況 (東から)



3区 SC06



3区 SC07 (北から)



3区 墓化物出土状況



3区 遺物出土状況

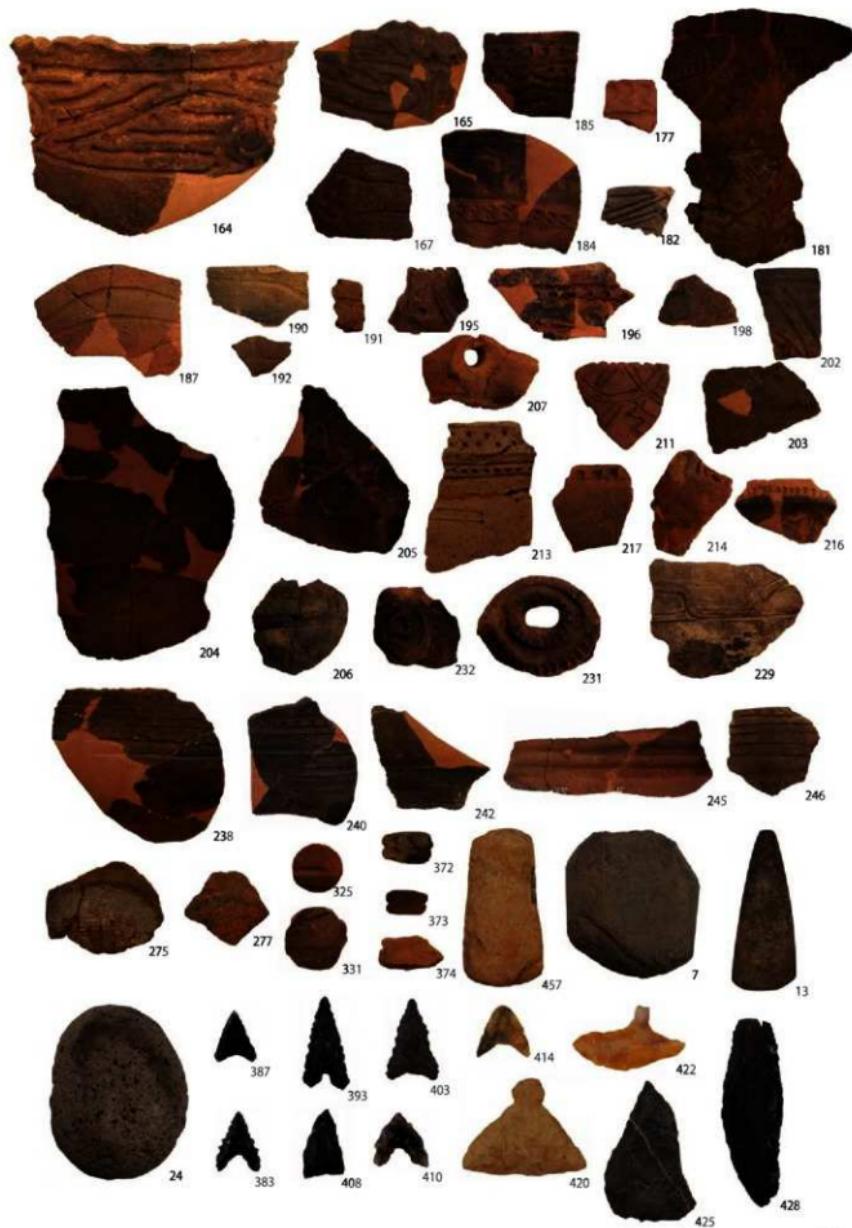


3区 SB01 (西から)

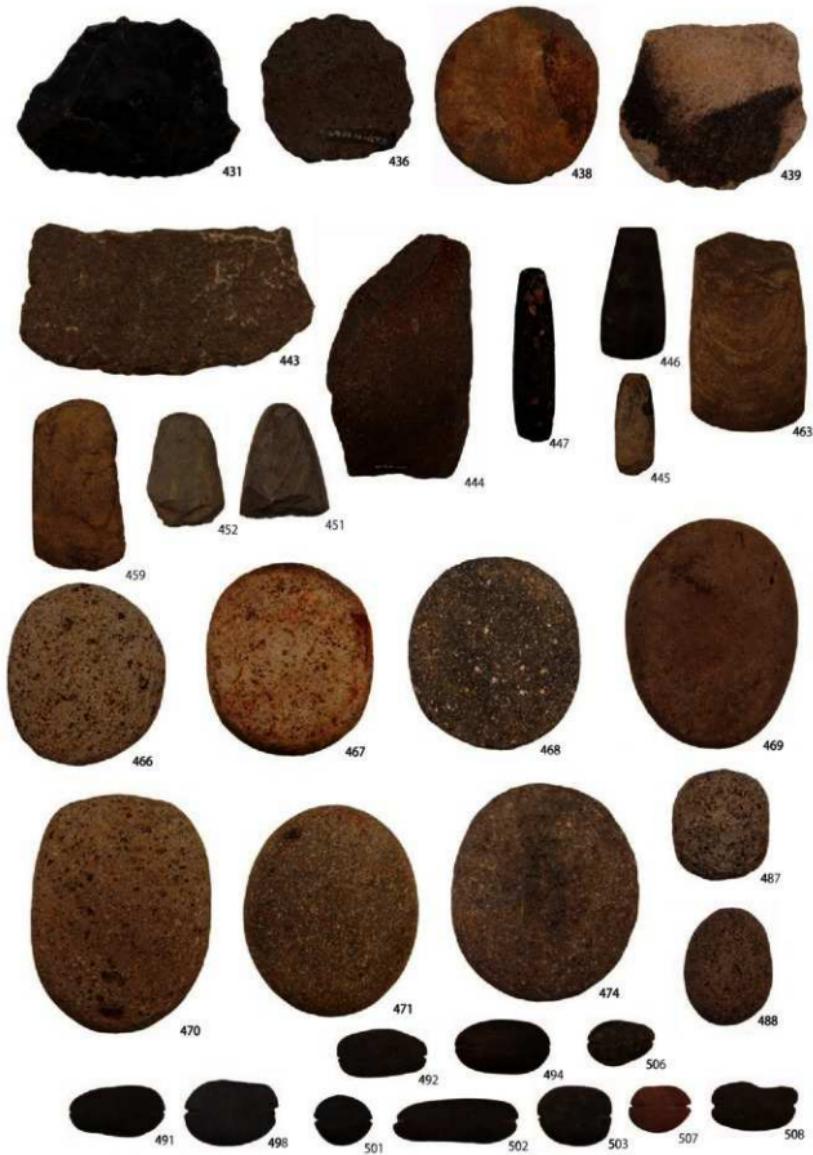


写真図版 12 (3・4区遺物)





写真図版 14 (3・4区遺物)





5区遺物出土状況



5区遺物出土状況



6区空撮(右が北)



6区SC04(北から)



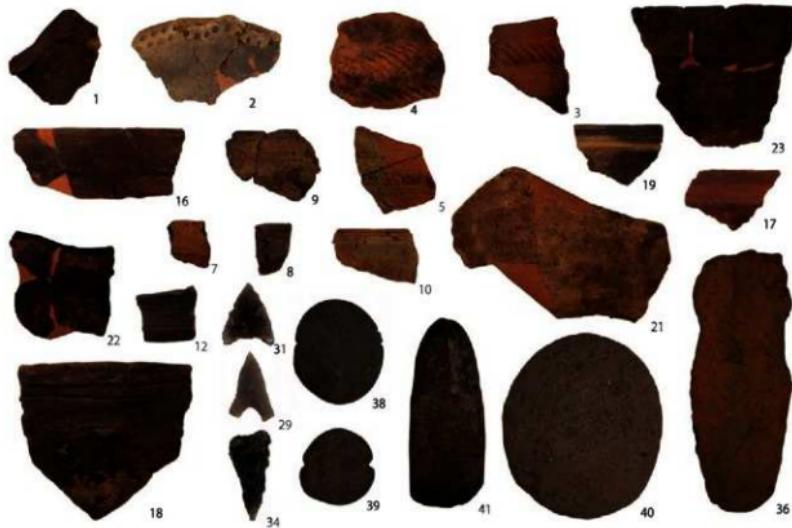
6区SB01(西から)

写真図版 16 (5・6区遺物)

5区



6区





7区南側空撮（右が北）



7区北側全景（南から）

写真図版 18 (7区遺構)



7区北側（南から）



7区土層堆積状況



7区遺構検出状況



7区遺構検出状況



7区土坑



7区土坑



7区土坑



7区石睡出土状況



写真図版 20 (7区遺物)





写真図版 22 (7区遺物)

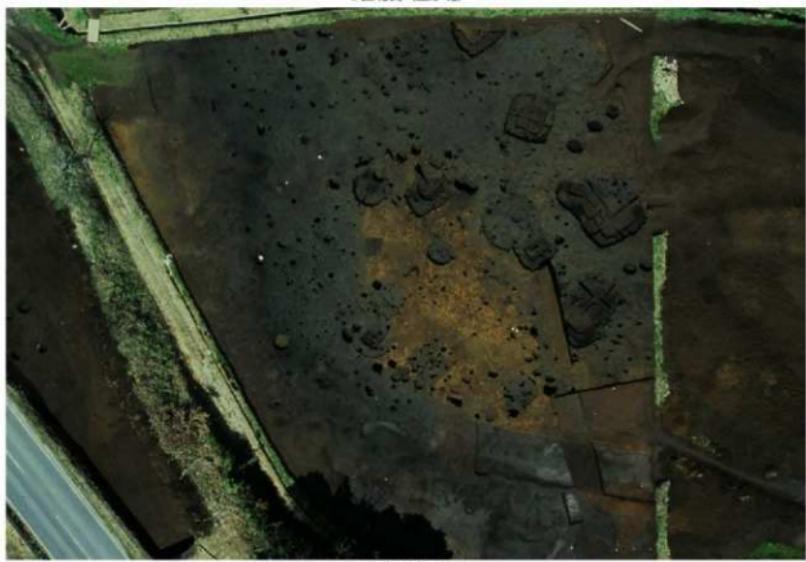




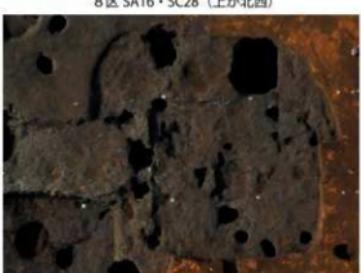
8区全景（上が北東）



8区北側（上が北）



8区南側（上が北）



写真図版 26 (8区遺構)



8区 SA20 (北から)



8区 SA20・SC14 (上が北西)



8区 SA21 (上が北西)



8区 SA22・23・24 (上が西)



8区 SA25・26 (上が西)



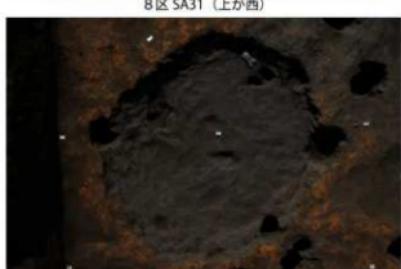
8区 SA27 (上が西)



8区 SA28 土層堆積状況



8区 SA28 (上が北西)



写真図版 28 (8区遺構)



8区 SC01 (南から)



8区 SC01 (南から)



8区 SC03



8区 SC04 (西から)



8区 SC05 (上が南東)



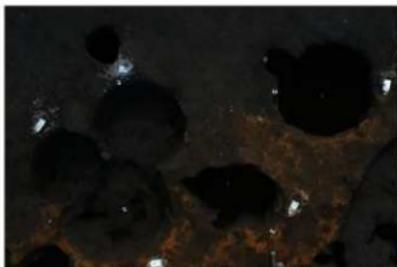
8区 SC06



8区 SC07



8区 SC09 (南から)



8区 SC09・10・11・12・13 (上が南)



8区 SC11・12・13 (西から)



8区 SC15 (南東から)



8区 SC16 (上が南)



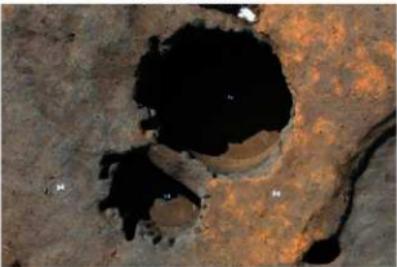
8区 SC17 (上が西)



8区 SC18 (上が西)



8区 SC19 (上が南)



8区 SC20 (上が南)

写真図版 30 (8区遺構)



8区SC21 (上が東)



8区SC22・23 (上が南)



8区SC24 (上が西)



8区SC25・26 (上が北)



8区SC27 (上が北)



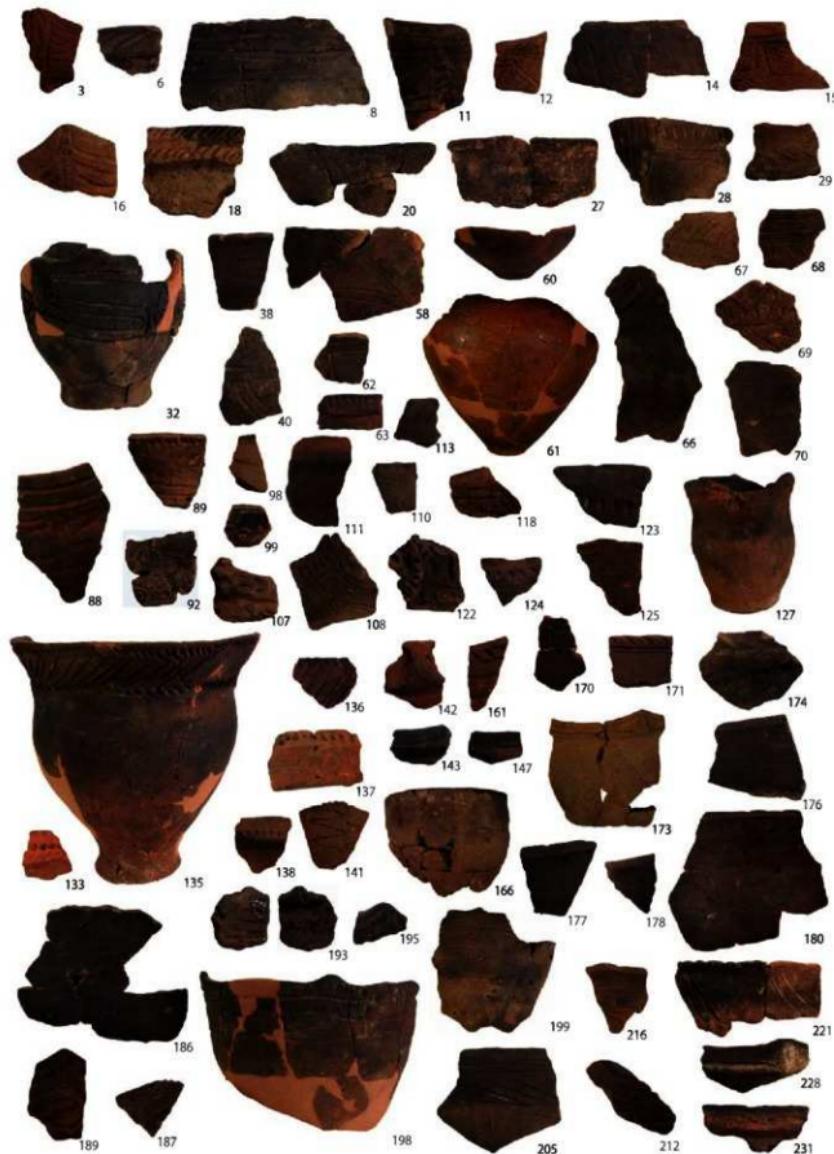
8区SC28 (上が南)



8区SC29・31 (上が南)



8区SC30 (上が南)



写真図版 32 (8区遺物)





9区空撮 (右が北)



9-1区空撮 (右が北)



9-1区 (南から)



9-1区西側 (西から)



9-1区小穴 (北から)



9-2区 (北から)



9-2区 (南から)



写真図版 36 (10 区遺構)



10 区空撮 (右が北)



10 区全景 (南から)



10区土層堆積状況



10区遺物出土状況



10区遺物出土状況



10区遺物出土状況



10区遺物出土状況



10区遺物出土状況



10区遺物出土状況



10区遺物出土状況

写真図版 38 (10区遺物)







11・12・13 区全景 (右が北)



12 区遺物出土状況



12 区遺物出土状況

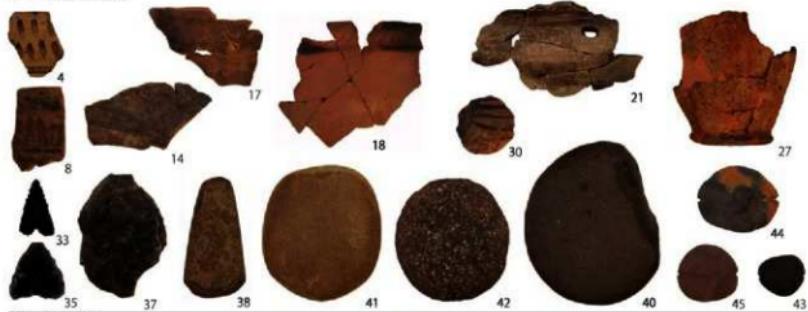


13 区遺物出土状況

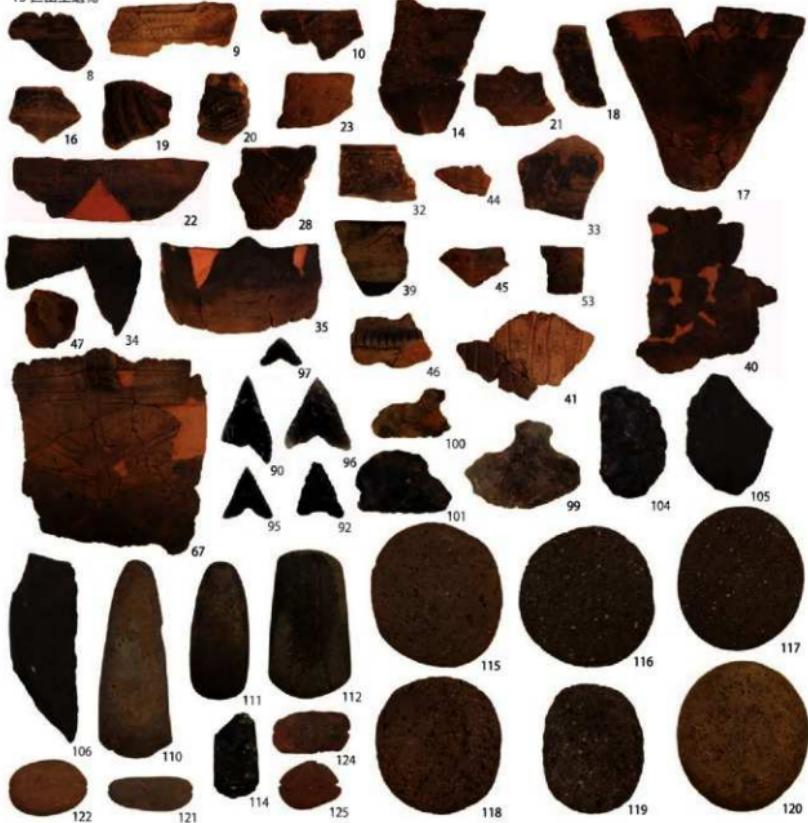


13 区遺物出土状況

11・12 区出土遺物



13 区出土遺物





14 区全景 (右が北:合成写真)



14 区遺物出土状況



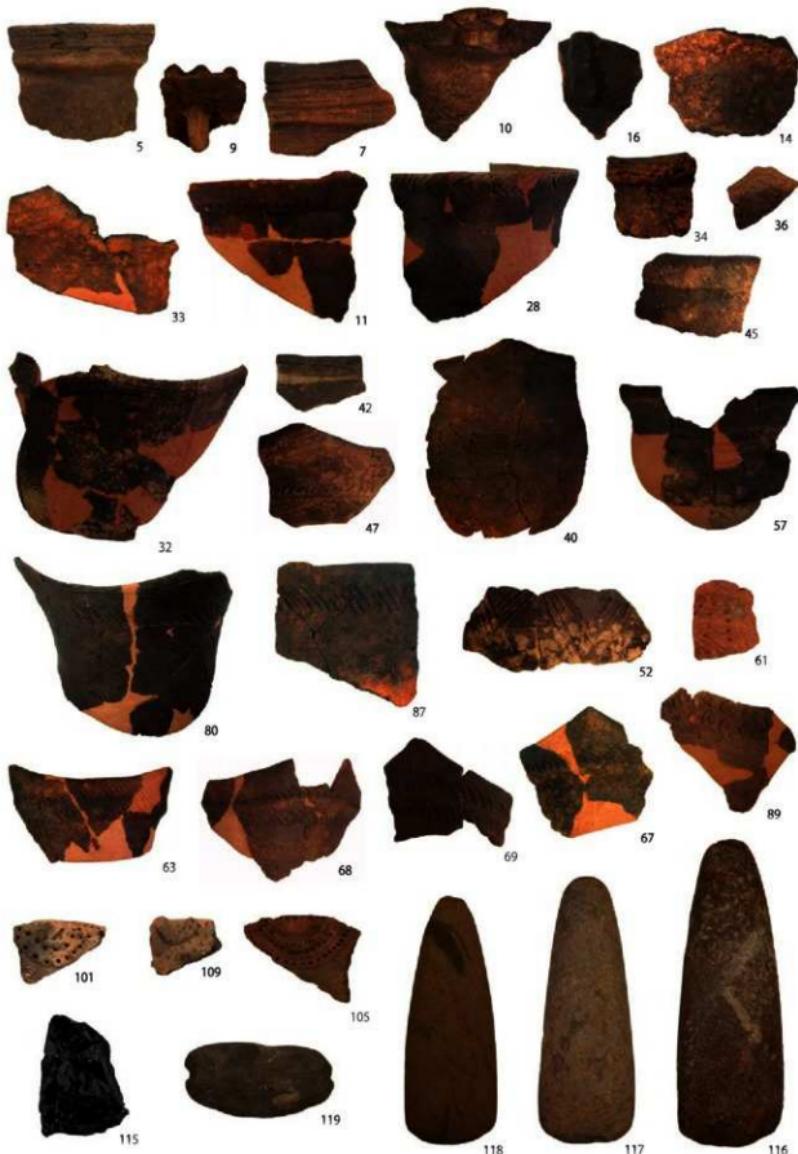
14 区遺物出土状況



14 区磨製石斧出土状況



14 区磨製石斧出土状況





14 + 15 区全景 (右が北: 合成写真)



15-2 区土層堆積状況 (東壁)



15-3 区土層堆積状況 (北壁)



15-3 区土層堆積状況 (南壁)



15-4 区土層堆積状況 (南壁)



15-1 区 SI01 (北から)



15-1 区 SI01 周辺 (東から: 中学生の体験発掘時)



15 区土坑完掘状況



15-1 区焼土模出状況



15-1 区焼土群



15-1 区焼土断面



15-1 区焼土断面



15-1 区作業風景

写真図版 46 (15区遺物)





16 区全景（北から）



16 区全景（右が北）



16 区 1 面目全景 (北から)



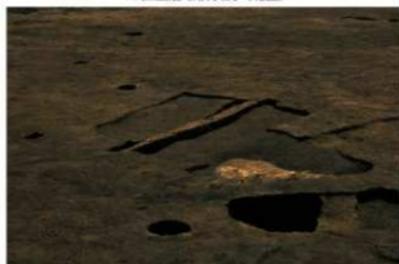
16 区 2 面目全景 (北から)



16 区土層堆積状況（北壁）



16 区 SC14（東から）



16 区 SX04 周辺（西から）



16 区 SX11（東から）



16 区 SC09（東から）



16 区 SC01（南西から）



16 区 SC06（東から）



16 区 SD03（西から）

写真図版 50 (16 区遺物)





中学生の体験発掘



発掘調査現地説明会



発掘調査現地説明会



山中地区での遺物展示



小学校での遺物展示



小学校での遺物展示



中央公民館での遺物展示



中央公民館での遺物展示

写真図版 52 (作業風景)



発掘作業



出土遺物の水洗い



接合作業



遺物の復元作業



拓本作業



実測作業



製図 (トレース) 作業



中学生の職場体験

ふりがな	やまなかいせき							
書名	山中遺跡							
副書名	県営経営体育成基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	小林市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第4集							
編著者	秦 広之 増谷理絵							
発行機関	小林市教育委員会							
住所	宮崎県小林市大字細野 300 番地							
発行年月日	平成 22 (西暦 2010) 年 3 月 31 日							
所取遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡					
山中遺跡	宮崎県 小林市 大字細野 字今坊 字山中	45205	5013	31°57'11"	130°57'43"	平成16年 12月 ～ 平成20年 7月	23,200	県営経営体育 成基盤事業に 伴う事前調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
山中遺跡	集落跡	縄文時代 前期～後期 弥生時代 古墳時代 鎌倉～江戸	竪穴住居 掘立柱遺構 掘立柱建物 土坑 溝状遺構	縄文土器 縄文時代の石器群 弥生土器 土師器 貿易陶磁器 近世陶磁器	縄文時代後期 の集落			

小林市文化財調査報告書第4集
山中遺跡

平成22(2010)年3月31日

編集・発行 宮崎県小林市教育委員会
宮崎県小林市大字細野300番地
印 刷 こぞの印刷

